１．既存カリキュラム・教材等の事例調査

調査結果

既存カリキュラム・教材等の事例調査結果

目次

(1)　国家試験対策に関する事例.....1
No.01　外国人介護職員向け 介護福祉士国家試験対策講座・交流会.....1
No.02　外国人ケアワーカーのための介護福祉士国家試験対策講座（鈴鹿市）.....4
No.03　外国人のための介護福祉士国家試験対策講座.....8
No.04　２０２５年度 介護福祉士国家試験受験対策講座.....11
No.05　令和７年度介護福祉士国家試験受験対策講座（茨城県）.....13
No.06　介護福祉士国家試験対策講座(筆記).....15
No.07　介護福祉士国家試験対策 ITO 式受験対策セミナー・模擬試験.....17
No.08　介護の日本語講座.....19
No.09　令和４年度介護福祉士受験対策講座.....21
No.10　介護福祉士国家試験対策講座.....23
No.11　2025 年度介護福祉士受験直前対策講座.....25
No.12　介護福祉士国家試験 受験対策講座、模擬試験、受験対策一夜漬け講座.....27
No.13　介護福祉士受験対策講座、対面式受験対策講座.....30
No.14　外国人介護人材のための介護福祉士国家資格取得支援講座）.....32
No.15　介護福祉士国家試験　模擬試験＆対策講座.....36
No.16　国家試験対策講座.....39
No.17　介護福祉士国家試験受験対策講座（T コース）.....41
No.18　介護福祉士国家試験直前対策講座.....44
(2)　文化理解支援に関する事例.....46
No.01　外国人介護職員 異文化理解・対応力向上セミナー.....46
No.02　外国人実習生が職場に溶け込む日本文化学習法.....48
No.03　異文化コミュニケーション研修.....50
No.04　高齢者介護施設職員向け多文化対応力向上講座.....53
No.05　多文化理解新発見講座.....55
No.06　はじめての日本語クラス 日本語で話そうベラベラ水曜日.....57
No.07　多文化理解新発見講座.....59
No.08　やさしい日本語×多文化共生.....62
No.09　聞かせて！外国人の日本生活.....64
No.10　多文化共生を考える２つの講座.....66
No.11　多文化共生マネージャー養成研修.....68

(1) 国家試験対策に関する事例

No.01　外国人介護職員向け 介護福祉士国家試験対策講座・交流会

授業等の名称	外国人介護職員向け 介護福祉士国家試験対策講座・交流会
実施主体	学校法人慈誠会学園　光が丘福祉専門学校
対象者	① 練馬区内の介護サービス、障害福祉サービス事業所または病院に勤めている方 ② 令和７年度の介護福祉士国家試験を受験する資格、意思のある方 ③ 全日程に参加し、試験結果を報告できる方 日本人職員の応募も可能
実施期間・回数・時間	■試験対策講座（全 16 回） ・期間：令和７年 10 月５日(日)から令和８年１月４日(日)までの毎週日曜日 ・講義：全 16 回 ■交流会（全２回） ・期間：①10 月５日(日)講座終了後　1 時間程度 ②　２月１日(日)午後６時から　2 時間程度
実施時間	午前９時 10 分から午後４時 30 分まで
会場／学習形態	光が丘福祉専門学校（練馬区光が丘２-11-１）
学習概要	・介護職員として働く外国人向けに、介護福祉士の資格取得に向けた試験対策講座および地域で孤立 せず働き続けられるよう親睦を図るための交流会を開催する。 ・全１６回の試験対策講座を通して、介護福祉士国家試験の合格を目指していく。 また、交流会では不安や悩みなどを自由に話せる機会を設けることで、学習のことだけではなく、介護福祉士となってからも同じ資格を持つ仲間として連携を築けるようになることを期待する。
学習内容／項目	■ 特徴 介護職員として働く外国人および日本人職員を対象に、介護福祉士国家試験の合格を目指す全 16 回の試験対策講座と、地域で孤立せず働き続けられるよう交流を深める交流会を組み合わせたプログラム。試験対策だけでなく、学習仲間づくりや将来のネットワーク形成にも重点を置いている ■ 主な科目構成・概要 試験対策講座では「介護の基本」「人間の尊厳と自立」「生活支援技術」「社会の理解」「認知症の理解」「障害の理解」「医療的ケア」など国家試験に直結する主要分野を網羅。中央法規による模擬試験（2 回）とそ

No.12　やさしい日本語研修.....70
No.13　私たちが身近にできること―「やさしい日本語」を学ぼう―.....72
No.14　市民のための「やさしい日本語」講座―.....74
No.16　多文化共生コーディネーター研修.....76
No.17　多文化共生講座.....82
No.18　日本語日本文化サマープログラム.....84
No.19　外国人留学生のための「キャリア日本語講座」.....87
(3)　地域定着支援に関する事例.....89
No.01　外国人介護人材キャリアアップセミナー.....89
No.02　日本語ボランティア入門 in 栄.....91
No.03　初めての特定技能外国人介護人材受け入れセミナー.....93
No.04　明日からの仕事が楽しくなる「介護の仕事の魅力発見！」研修.....95
No.05　外国人介護人材のためのオンライン日本語教室.....97
No.06　カスタマーハラスメント・クレーム対策セミナー.....99
No.07　失敗しない特定技能外国人の採用・定着支援セミナー.....101
No.08　外国人介護人材受入れ支援セミナー、外国人介護人材定着支援セミナー.....103
No.09　奈良県外国人介護人材受入セミナー.....105
No.10　外国人介護人材受入セミナー.....107
No.11　特定技能外国人定着セミナー.....109
No.12　外国人介護職員の円滑な受け入れのためのセミナー、外国人介護職員就労定着のためのセミナー.....111
No.13　外国人介護職員介護技能等向上研修.....113
No.14　外国人介護人材受入セミナー.....115
No.15　受入施設のための外国人介護職員活躍支援セミナー.....117
No.16　外国人材活用セミナー.....119
No.17　外国人介護職員が活躍できる職場づくり研修.....121
No.18　外国人介護人材受入れのための採用・定着セミナー.....123
No.19　若手社員職場定着率向上研修.....125
No.20　第２回早期離職防止セミナー〔育成担当者向け〕.....127

	の解説を交えながら、全 16 回を通じて体系的に知識を定着させる。交流会は講座初回と終了後の計 2 回開催し、学習内容にとどまらず、受験や職場での悩みを共有し仲間づくりを促進する ■ 学習環境 ・試験対策講座は練馬区の光が丘福祉専門学校で対面形式にて実施 ・毎週日曜日（原則）午前 9 時 10 分から午後 4 時 30 分まで、約 4 か月にわたり集中的に学ぶ ・交流会は光が丘福祉専門学校および区民・産業プラザ Coconeri ホールを会場に開催され、受講者同士の親睦を深める機会を提供 ■ 講師・連携機関 主催は光が丘福祉専門学校（申込窓口も同校）。練馬区内の介護サービス事業所や病院を通じて参加者を募集し、地域の介護事業所とのネットワークを活用した運営体制を構築

回数	日程	講義名
1 回	10 月 5 日(日)	介護の基本
2 回	10 月 12 日(日)	人間の尊厳と自立
3 回	10 月 13 日(祝)	中央法規模擬試験①(11 月 6 日以降返却)
4 回	10 月 19 日(日)	生活支援技術①
5 回	10 月 26 日(日)	生活支援技術②
6 回	11 月 2 日(日)	社会の理解
7 回	11 月 9 日(日)	中央法規模擬試験① 解説
8 回	11 月 16 日(日)	こころとからだのしくみ
9 回	11 月 23 日(日)	発達と老化の理解
10 回	11 月 24 日(祝)	認知症の理解
11 回	11 月 30 日(日)	障害の理解
12 回	12 月 7 日(日)	中央法規模擬試験②(12 月 19 日以降返却)
13 回	12 月 14 日(日)	人間関係とコミュニケーション・コミュニケーション技術
14 回	12 月 21 日(日)	総合問題・介護過程
15 回	12 月 26 日(金)	中央法規模擬試験② 解説
16 回	1 月 4 日(日)	医療的ケア

ICT 活用・日本語支援	
評価方法・成果指標	

特徴・備考	・全国的に外国人合格者を多数輩出 ・日本語支援を強化した独自教材 ・再受験者向けクラスも設置 
参考 URL	https://hikarigaoka-fukushi.jp/2025/07/29/kokkashikentaisakukouza/

	の理解、こころとからだのしくみ 等（6 回） ・総合問題対策：模擬試験およびその解説を通じて横断的な理解を促進 ■ 学習環境 ・受講者数：23 名 ・延べ出席回数：296 回／全体 414 回（出席率 71.5%）。全出席の受講者が 2 名 ・宿題（練習問題）の全体提出率は 42.1%。コンスタントに提出した受講者は 5 名に限られ、学習ペースの維持が課題となった ■ 講師・連携機関 ・講師：社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、看護師など計 10 名が担当領域ごとに講義 ・連携：鈴鹿市社会福祉協議会と「鈴とも」が共同で企画・運営 ・日本語教育専門家が「やさしい日本語」で講義するためのガイドを作成し、講師に共有 ・各回 2 名以上の講師補助スタッフが入り、教室後方で受講者の理解状況を確認しながら個別フォローや宿題採点を担当

回数	日程	講義名
1 回	4 月 13 日(土)	人間と社会 1
2 回	4 月 27 日(土)	介護 1
3 回	5 月 11 日(土)	こころとからだのしくみ 1
4 回	5 月 25 日(土)	介護 2
5 回	6 月 8 日(土)	こころとからだのしくみ 2
6 回	6 月 22 日(土)	介護 3
7 回	7 月 13 日(土)	人間と社会 2
8 回	7 月 27 日(土)	介護 4
9 回	8 月 10 日(土)	こころとからだのしくみ 3
10 回	8 月 24 日(土)	介護 5
11 回	9 月 14 日(土)	こころとからだのしくみ 4
12 回	9 月 28 日(日)	介護 6）
13 回	10 月 12 日(土)	人間と社会 3
14 回	10 月 26 日(土)	介護 7
15 回	11 月 9 日(土)	こころとからだのしくみ 5
16 回	11 月 23 日(祝)	介護 8
17 回	12 月 14 日(土)	こころとからだのしくみ 6
18 回	12 月 21 日(土)	介護 9

No.02　外国人ケアワーカーのための介護福祉士国家試験対策講座（鈴鹿市）

授業等の名称	外国人ケアワーカーのための介護福祉士国家試験対策講座（鈴鹿市）
実施主体	社会福祉法人 鈴鹿市社会福祉協議会 多文化共生市民活動団体「鈴とも」
対象者	① 鈴鹿市および近隣地域に在住し、介護現場で働く外国人ケアワーカー ② 平成 26 年 1 月に介護福祉士国家試験を受験する者 ③ 将来、介護福祉士国家試験を受験予定の者
実施期間・回数・時間	・期間：平成 25 年 4 月～平成 26 年 1 月 ・実施曜日：第 2・第 4 土曜日 ・講義：全 18 回 ・模擬試験：2 回（11 月 3 日・12 月 1 日）
実施時間	・通常回：13 時 00 分～16 時 00 分（1 回 3 時間） ・模擬試験回：9 時 00 分～12 時 50 分（筆記試験）＋ 13 時 40 分～16 時 00 分（解説）
会場／学習形態	・会場：鈴鹿市社会福祉センター内 会議室 ・学習形態：対面形式のみ
学習概要	・地域在住の外国人ケアワーカーを対象に、介護福祉士国家試験の筆記試験合格を目指す ・試験科目の講義や模擬試験を通じて、国家資格取得を支援し、処遇改善・正規職員化・専門職としての社会的地位向上につなげる ・日本語（特に漢字・専門用語）の理解に困難を抱える学習者に対し、わかりやすい日本語で解説し、学習基盤・ペースメーカーとして機能する場を提供する
学習内容／項目	■ 特徴 ・国家試験の 3 領域「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」をカバーし、出題基準・出題予定数に応じて講義回数を配分 ・テキストに沿った講義に加え、過去問や予想問題を用いた練習問題・模擬試験により、出題形式への慣れと知識定着を図る ・練習問題では全ての漢字にふりがなを付与し、日本語読解の負担軽減を図っている ■ 主な科目構成・概要 ・「人間と社会」：人間の尊厳と自立、社会の理解など（3 回） ・「介護」：介護の基本、生活支援技術、介護過程、介護の歴史・制度など（9 回） ・「こころとからだのしくみ」：発達と老化の理解、認知症の理解、障害

ICT 活用・日本語支援	・主教材：『外国人のための介護福祉士国家試験対策』（全 4 巻、一般財団法人 国際交流＆日本語支援 Y 編著 ・副教材：国家試験過去問や市販予想問題集から抜粋した練習問題を作成し、全ての漢字にふりがなを付与
評価方法・成果指標	・練習問題（宿題）を毎回回収・採点し、個人別の得点を記録 ・模擬試験を 2 回実施し、その場で採点・解説を行うことで理解度を確認するとともに、マークシート形式や受験番号記入など日本式試験への慣れを促した ・第 26 回介護福祉士国家試験（平成 26 年 1 月実施）受験者 18 名のうち合格者 1 名。日本語が母語でない受験者であることを踏まえ、初年度としては意義のある結果と評価されている
特徴・備考	・定員：20 名程度／受講者：23 名 ・受講料：20,000 円（テキスト代 10,000 円を含む） ・模擬試験 2 回は無料で実施 ・受講者の多くは日系ブラジル人を中心とする南米出身者で、長期在住ながら体系的な日本語学習経験が乏しく、自然習得に依存している点が特徴 ・講座は受講者にとって「自宅では確保しにくい学習時間」を保障する場であり、学習基盤として重要な役割を果たしている ・継続受講者への聞き取り調査から、漢字・語彙理解やいかに自律して学習が可能かの支援が今後の課題として抽出されている
参考 URL	https://suzuka.repo.nii.ac.jp/records/1515

No.03　外国人のための介護福祉士国家試験対策講座

授業等の名称	外国人のための介護福祉士国家試験対策講座
実施主体	一般財団法人 海外産業人材育成協会（AOTS） 日本語教育センター
対象者	外国人介護人材（EPA・特定技能・技能実習等）で、介護福祉士国家試験の受験を予定する方（コース別） A：基礎固めコース（2027 年 1 月受験想定） B：合格指導コース（2026 年 1 月受験想定／再受験含む）
実施期間・回数・時間	・期間：令和 7 年 2 月～令和 8 年 1 月 ・実施曜日：木曜日（週 1 回想定） ・講義：全 48 回（予定））
実施時間	・A 基礎固めコース：13 時 00 分～15 時 00 分 ・B 合格指導コース：15 時 30 分～17 時 30 分 
会場／学習形態	・会場：オンライン（Zoom） ・学習形態：ライブ授業
学習概要	・外国人介護人材の介護福祉士国家試験合格支援するオンライン講座 ・専門講師が分かりやすい日本語で教え、受講者の理解を確認しながら進める双方向（対話型）授業を行う

学習内容／項目	■ 特徴 ・外国人介護人材への指導実績が豊富な専門講師が担当し、受講者の理解を前提にした説明を行う ・分かりやすい日本語で専門内容を解説し、日本語読解の負担軽減を図っている ・Zoom によるオンラインのライブ授業として実施し、移動負担を抑えながら受講機会の確保を図っている ■ 主な科目構成・概要 ・基礎～専門領域（人体・老化・障害・認知症・医療的ケア等）：国家試験の主要出題領域の知識定着と得点力向上を図る ・介護実践の中核領域（介護の基本、生活支援技術、介護過程等）：現場実践と試験知識を接続できる理解の形成を図る ・対人支援・制度・総仕上げ領域（コミュニケーション、人間の尊厳と自立、社会の理解、総合問題・弱点強化等）：直前期の総復習と弱点を補強して、合格の可能性を上げる ■ 学習環境 ・Zoom を用いたオンライン形式（オンラインライブ授業）で実施し、地域を問わず受講できる学習環境の確保を行う ・木曜日の固定枠で継続的に実施し、学習リズムの形成と継続受講のしやすさを図っている ・受講者にも回答を促し、理解を確認しながら進める対話型授業として設計し、理解の定着と取りこぼし防止を図っている ■ 講師・連携機関 外国人への指導実績が豊富な専門講師陣が担当し、受講者が理解しやすい日本語での指導を行っている。

日程	講義名
令和 7 年 2 月	介護の基本
3 月	こころとからだのしくみ
4 月	発達と老化の理解、認知症の理解
5 月	障害の理解
6 月	医療的ケア、こころとからだのしくみ
7 月	人間関係とコミュニケーション、コミュニケーション技術、生活支援技術
8 月	生活支援技術
9 月	生活支援技術、介護過程
10 月	社会の理解、人間の尊厳と自立

	11 月　人間の尊厳と自立、総合問題・弱点強化 12 月　総合問題・弱点強化、まとめ 令和 8 年 1 月　総合問題・弱点強化、まとめ
ICT 活用・日本語支援	・ICT：Zoom（オンライン） ・日本語支援：わかりやすい日本語での指導、対話型で理解確認を行いながら進行
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・定員：各コース 30 名／最少催行人数：各コース 8 名 ・受講料：税込 184,800 円（15,400 円／月） ・別途教材費：市販教材購入費（1 名あたり 6,000 円程度、コースにより必要） ・現場での疑問をオンライン講義で解消し、実践に落とし込む ・受講者のレベル・受験時期に応じて 2 コースから選択できる設計とし、学習到達度に応じた学習支援を行う 
参考 URL	https://www.aots.jp/jp-learning/nursing-care/ https://www.aots.jp/application/files/5917/2861/2948/25schedule.pdf https://www.aots.jp/application/files/9217/2846/2107/2025_leaflet.pdf

No.04　２０２５年度 介護福祉士国家試験受験対策講座

授業等の名称	どこからでも参加できる オンライン型講座 ２０２５年度 介護福祉士国家試験受験対策講座
実施主体	特定非営利活動法人 日本介護支援協会
対象者	外国人介護福祉士候補者(日本人も受講可能)
実施期間・回数・時間	・期間： 令和７年８月 22 日～12 月下旬（動画配信予定含む） ・講義：伊東先生 3 回、植村先生 2 回、動画配信 1 本（予定） ・単回参加：第 1 回のみ／第 2 回のみ／第 3 回のみの参加も受付
実施時間	・伊東先生（各回）：9:00～12:00（講義、途中休憩含む）／12:00～13:00（昼食）／13:00～17:00（講義、途中休憩含む） ・植村先生（各回）：10:00～11:00（講義＋問題演習） ・動画配信：6 時間前後（全領域の重要ポイントの直前総まとめ）
会場／学習形態	・学習形態：オンライン型講座・講座で使用する教材（講座資料）が郵送で送付される
学習概要	・外国人介護福祉士候補者向けに、介護福祉士試験対策教材の開発と受験対策講座の開催を継続している ・日常業務と並行して学習を進める受験者を想定し、残り期間の学習方法の獲得を重視する
学習内容／項目	■ 特徴 ・国家試験の 3 領域（人間と社会／介護／こころとからだのしくみ）を軸に、全体像→領域別確認→総点検＋直前演習へ段階化した構成となっている ・問題・選択肢・事例の「読み方」に焦点を当てた短時間枠（講義＋問題演習）を別に配置している ・動画配信で「試験直前にまとめておくべき重要ポイント」を集約する設計が示されている ■ 主な科目構成・概要 ・伊東先生 第 1 回：3 領域の全体像把握、人間と社会を中心に詳細確認を行う ・伊東先生 第 2 回：介護／こころとからだのしくみの詳細確認を行う ・伊東先生 第 3 回：3 領域の総点検、直前予想問題演習） ・植村先生 ：問題・選択肢・事例の読み方（講義＋問題演習） ■ 学習環境 ・使用テキスト：「見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2026」 ・テキスト申込み：申込書で「する／しない」を選択し、価格は 2,574 円（税込）

No.05　令和７年度介護福祉士国家試験受験対策講座（茨城県）

授業等の名称	外国人ケアワーカーのための介護福祉士国家試験対策講座（鈴鹿市）
実施主体	茨城県 社会福祉法人茨城県社会福祉協議会
対象者	①～④をすべて満たす者 ①茨城県内の高齢者福祉施設・事業所等に勤務している者 ②令和７年度（第 38 回）介護福祉士国家試験の受験を申込（予定）しており、介護福祉士国家試験受験申込手続後、社会福祉振興・試験センターから送付される受験番号を茨城県社会福祉協議会に報告することに同意する者 ③勤務先施設・事業所等から本講座受講の承諾を得られ、全日程に参加可能な者 ④令和５年度及び令和６年度の本講座受講者においては、本講座受講年度の介護福祉士国家試験の受験番号を茨城県社会福祉協議会に報告した者
実施期間・回数・時間	・期間：令和７年９月５日～令和８年１月 10 日 ・講義：全 9 回
実施時間	・第 1 回：受付 8:45～9:00、オリエンテーション 9:00～9:05、講義 9:05～16:30 ・第 2 回～第 9 回：受付 9:10～9:25、オリエンテーション 9:25～9:30、講義 9:30～16:30
会場／学習形態	・会場：セキショウ・ウェルビーイング福祉会館 3 階 多目的ホール
学習概要	・介護福祉士国家試験合格に向けた受験対策講座を実施し、資格取得の促進と現任介護職員のキャリアアップ・資質向上に資することを目的としている
学習内容／項目	■ 特徴 ・県内就労者を対象に、全 9 回で主要領域と直前対策、模擬試験解説を行う構成になっている ・受講者は各回の事前課題に解答したうえで受講を行う ■ 主な科目構成・概要 ・介護過程、医療的ケア、生活支援技術、発達と老化の理解、こころとからだのしくみ（1、2 回） ・人間の尊厳と自立、介護の基本、人間関係とコミュニケーション、コミュニケーション技術（3 回） ・障害の理解、認知症の理解、社会の理解①②、模擬試験解説（4～7 回）

	■ 講師・連携機関 ・伊東利洋氏：福祉・介護領域の実務経験、コンサルティング、受験対策講座の実施 ・植村康生氏：介護職・介護支援業務・教育業務等の経歴、EPA 候補者の教育支援、国際厚生事業団での研修業務 回数 / 日程 / 講義名 1 回 / 8 月 22 日(金) / ・３つの領域　「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」の「全体像」をつかむ ・「人間と社会」の領域を中心に詳細を確認 2 回 / 10 月 17 日(金) / 「介護」「こころとからだのしくみ」の詳細を確認 3 回 / 12 月 12 日(金) / ・３つの領域　「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」の「総点検」を行う ・直前予想問題演習
ICT 活用・日本語支援	・ICT 活用：オンライン講座および動画配信の実施 ・日本語支援：申込書に日本語能力（N5～N1）の申告欄があり、受講者属性の把握に用いる ・学習状況把握：申込書に「候補者の学習状況を具体的に記入」する欄があり
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・受講費：法人会員無料／事業会員・個人会員 3,000 円／非会員 6,000 円
参考 URL	https://www.kaigo-shien-kyokai.or.jp/contents/course/77a28c3ebb1470cdadf7d5795f73f09dfcad6a67.pdf

	■ 学習環境 ・使用テキスト：「見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2026」 ・申込・課題配布等は茨城県社会福祉協議会の研修システムを用いる ■ 講師・連携機関 ・講師：茨城県介護福祉士会会員ほか 回数 / 日程 / 講義名 1 回 / 9 月 5 日(金) / オリエンテーション・試験概要、介護過程・医療的ケア、生活支援技術 2 回 / 9 月 29 日(月) / 発達と老化の理解、こころとからだのしくみ 3 回 / 10 月 14 日(火) / 人間の尊厳と自立、介護の基本、人間関係とコミュニケーション、コミュニケーション技術 4 回 / 10 月 30 日(木) / 障害の理解 5 回 / 11 月 13 日(木) / 認知症の理解、社会の理解① 6 回 / 11 月 27 日(木) / 社会の理解② 7 回 / 12 月 11 日(木) / 模擬試験解説 8 回 / 12 月 25 日(木) / 直前対策講座①（旧：人間の社会領域、旧：介護領域） 9 回 / 1 月 10 日(土) / 直前対策講座②（旧：こころとからだのしくみ領域、旧：医療的ケア領域）
ICT 活用・日本語支援	・ICT 活用：研修システムを用いて、申込や事前課題のダウンロードを行う
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・定員：55 名（先着順） ・受講料：無料（テキスト費用 3,014 円は実費負担） ・研修の変更・中止時は研修システムページに掲載する運用
参考 URL	https://www.ibaraki-welfare.or.jp/home/wp-content/uploads/2025/06/70d5fa3ee1f0e8f814da9e6bfa2405c7.pdf

No.06　介護福祉士国家試験対策講座（筆記）

授業等の名称	介護福祉士国家試験対策講座（筆記）
実施主体	専門学校 健祥会学園
対象者	第 38 回介護福祉士国家試験（令和 8 年 1 月 25 日実施）受験予定者
実施期間・回数・時間	・期間：令和 7 年 9 月～令和 8 年 1 月 ・学習会：全 16 回 ・模擬試験：2 回（11 月 1 日・12 月 6 日） 
実施時間	・学習会：各回 18:30～20:00 ・模擬試験：午前 9:50～11:30（100 分）、午後 12:30～14:30（120 分）
会場／学習形態	・会場：専門学校 健祥会学園 1 号館 ・学習形態：会場型（対面）／リモート型（Zoom）を選択可能
学習概要	・第 38 回介護福祉士国家試験に向け、重要項目の解説（学習会）と模擬試験を組み合わせた試験対策プログラムとなっている ・学習会は無料、模擬試験は実費負担
学習内容／項目	■ 特徴 ・全 1 6 回会場参加と Zoom 配信双方で提供し参加地域を限定しない ・模擬試験は全国順位・偏差値や分野別得点等が個人成績表に記載される ■ 主な科目構成・概要 ・試験概要、問題の解き方、人間の尊厳と自立（1 回） ・介護の基本、こころとからだのしくみ、認知症の理解、人間関係とコミュニケーション、生活支援技術、介護過程（2～7 回） ・障害の理解、発達と老化の理解、医療的ケア、社会の理解、成年後見制度、介護保険法（8～16 回）

	■ 学習環境 ・使用テキスト：「見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2026」 ■ 講師・連携機関 ・講師：健祥会学園介護福祉学科教員が担当

回数	日程	講義名
1 回	9 月 24 日(水)	試験概要、問題の解き方、人間の尊厳と自立
2 回	9 月 30 日(火)	介護の基本(介護福祉士、虐待防止、介護休暇・育児休暇、労働災害にかかわる法律・制度)
3 回	10 月 7 日(火)	こころとからだのしくみ
4 回	10 月 14 日(火)	認知症の理解①
5 回	10 月 21 日(火)	人間関係とコミュニケーション コミュニケーション技術
6 回	10 月 28 日(火)	生活支援技術①
7 回	11 月 4 日(火)	介護過程
8 回	11 月 11 日(火)	障害の理解(疾患)
9 回	11 月 18 日(火)	障害の理解(障害者基本法、障害者関連施策)
10 回	11 月 25 日(火)	発達と老化の理解
11 回	12 月 2 日(火)	医療的ケア
12 回	12 月 9 日(火)	生活支援技術②
13 回	12 月 16 日(火)	認知症の理解②
14 回	12 月 23 日(火)	社会の理解(生活保護・困窮、年金、医療等社会保障に関する分野)
15 回	1 月 6 日(火)	社会の理解(生活保護・困窮、年金、医療等社会保障に関する分野)
16 回	1 月 13 日(火)	介護保険法

ICT 活用・日本語支援	・ICT 活用：Zoom によるリモート受講を取り入れる構成
評価方法・成果指標	模擬試験は光学式読取による採点を用い、全国順位・偏差値等を個人成績表で返却する
特徴・備考	・定員：会場型、リモート型それぞれ、各回 50 名（合計 100 名） ・受講料：無料
参考 URL	https://www.kenshokai.ac.jp/seminar/kaigohukushishi_kokushitaisaku/

No.07　介護福祉士国家試験対策 ITO 式受験対策セミナー・模擬試験

授業等の名称	介護福祉士国家試験対策 ITO 式受験対策セミナー・模擬試験
実施主体	株式会社ＴＢＣ福祉教育センター（学校法人 TBC 学院グループ）
対象者	介護福祉士国家試験の合格を目指す受験者
実施期間・回数・時間	・期間：令和 7 年 9 月～令和 7 年 12 月 ・受験対策セミナー：9 月 27 日 ・全国統一模擬試験：2 回（10 月 18 日・11 月 15 日） ・受験対策直前セミナー：12 月 10 日
実施時間	・10:00～16:30（セミナー／直前セミナー） ・10:00～15:00 予定（全国統一模擬試験）
会場／学習形態	・会場：ＴＢＣ福祉教育センター会場または自宅等（オンライン受講） ・学習形態：対面形式または Zoom によるオンライン受講
学習概要	・介護福祉士国家試験の出題範囲を、科目別の暗記に偏らせず横断的に整理する学習法（ITO 式：Image Training and Organization）を用いている ・用語・概念を絵や場面として捉えることで、記憶に残りやすい形で学習する ・合格率 94%、学習法の成果指標として提示されている 
学習内容／項目	■ 特徴 ・イメージを活用して、記憶の定着を促す構成になっている ・全体像を把握してから、各論へ展開する流れを採用している ・出題のされ方を踏まえ、解答の優先順位づけや判断の型などの受験テクニックを扱う

	■ 主な科目構成・概要 ・全国統一模擬試験により、弱点と全国レベルの把握を行う ■ 学習環境 ・使用テキスト：「見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2026」 ・Zoom によるオンライン受講（自宅・職場等で受講可能） ・会場受講も併用可能 ■ 講師・連携機関 ・講師：伊東 利洋 氏（いとう総研 取締役）

日程	講義名
9 月 27 日(土)	受験対策セミナー
10 月 18 日(土)	全国統一模擬試験（第 1 回）
11 月 15 日(土)	全国統一模擬試験（第 2 回）
12 月 10 日(水)	受験対策直前セミナー

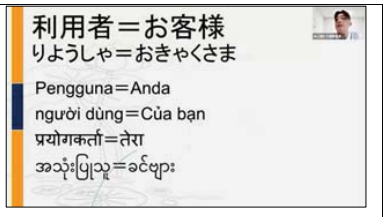
ICT 活用・日本語支援	・ICT 活用：Zoom を使用したオンライン講座を取り入れる
評価方法・成果指標	・全国統一模擬試験により、弱点および全国レベルの把握を行う ・「ITO 式」学習で学んだ受講生の合格率 94%
特徴・備考	・定員：各講座 100 名（先着順） ・受講料：受験対策セミナー 8,800 円（税込）、直前セミナー 11,000 円（税込）、全国統一模擬試験：1 回 5,500 円（税込）／1・2 回 9,900 円（税込） ・ITO 式（Image Training and Organization）を中核に据え、イメージ化で記憶定着を促す学習法を採用 ・科目別理解よりも横断的に整理することを重視し、知識の体系化を狙う設計になっている ・出題のされ方の理解と受験テクニックの習得を扱う
参考 URL	https://fkc-fukusi.info/education/kaigogfukushi_seminar.php

No.08　介護の日本語講座

授業等の名称	介護の日本語講座
実施主体	ヒューマンライフケア株式会社
対象者	①　初級編：日本国内で介護士・看護師として働く在籍 1 年目の方 ②　中級編：日本国内で介護士・看護師として働く在籍 2 年目の方
実施期間・回数・時間	・期間： ・回数：全 24 回 ・月 2 回（固定曜日／1 回 90 分）から
実施時間	・1 回 90 分
会場／学習形態	・会場：Zoom 使用 ・学習形態：オンライン LIVE 講座（Zoom 使用）
学習概要	①初級編：介護に関連した例文を多く用いながら、介護現場でよく使われる語彙や疾病名、表現を習得する ②中級編：介護福祉士国家試験の過去問から事例問題を中心に学ぶ
学習内容／項目	■ 特徴 ・介護現場で必要な語彙・表現を国家試験（事例問題）につなげて整理する設計になっている ・受講した外国人の日本語力が向上することで、他のスタッフも「細かい指示」が出せるなど、意思疎通がスムーズになることを目的としている ■ 主な科目構成・概要 ・人間関係とコミュニケーションの基礎 ・介護を必要とする人の生活を支える仕組みを理解する ・社会の理解と諸制度について ・介護福祉士国家試験対策を本格的に始めるための準備として、介護の専門用語の解釈や、JLPT では必要とされない介護日本語の言い回しを学ぶ ■ 学習環境 ・使用テキスト： ・オンライン（Zoom）で受講し、業務と並行しやすい形として「オンライン講座＋自宅学習」を組み合わせる ■スケジュール ①初級編、②中級編ともに月 2 回（固定曜日）　全 24 回

No.09　令和 4 年度介護福祉士受験対策講座

授業等の名称	令和 4 年度介護福祉士受験対策講座
実施主体	株式会社ハートスイッチ
対象者	介護福祉士国家試験を受験予定の方
実施期間・回数・時間	・期間：令和 4 年 10 月～令和 5 年 1 月 ・講義：全 4 回（e ラーニング）　・模擬試験：1 回（12 月 11 日） ・直前対策講座：2 回（1 月 13 日、1 月 19 日） 
実施時間	・オリエンテーション、受験対策のポイント：10 時 00 分～12 時 00 分 ・講義は e ラーニング ・全国統一模擬試験：9 時 50 分～15 時 00 分 ・直前対策講座：10 時 00 分～12 時 00 分
会場／学習形態	・オリエンテーション・模擬試験・直前対策講座会場：株式会社創心會 リハケアタウン東館 2F 研修室 ・学習形態：e ラーニング（動画視聴）、オリエンテーション・模擬試験・直前対策講座のみ対面形式
学習概要	・介護福祉士国家試験の合格を目標に、e ラーニング講義・全国統一模擬試験・直前対策講座を組み合わせた学習プログラムになっている ・全課程コースでは、教材を含めた支援と、LINE による質問対応・毎日の一問一答配信を取り入れる
学習内容／項目	■ 特徴

	
ICT 活用・日本語支援	・ICT 活用：Zoom を用いたオンライン LIVE 形式 ・日本語支援：介護分野特有の日本語（専門用語の解釈、介護現場の言い回し）を扱う
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・受講料：1 施設あたり、月額 10,000 円（税抜） ・1 施設あたり、何名受講しても同額 ・地域により、自治体からの補助金も活用可能
参考 URL	https://human-lifecare.jp/services/content/program/

	・生活スタイルに合わせスマホ／タブレット等で学習できる点が中心 ・講師へ LINE で質問できる仕組みを用意し、理解の補完を促す ・模擬試験は本番同様の形式で実施し、個人成績表を送付する ■ 主な科目構成・概要 ・人間と社会：4 回×60 分 高齢化の現状や人権、社会保障 ・こころとからだのしくみ：6 回×60 分　高齢者の疾病や心の働き ・医療的ケア：1 回×60 分　喀痰吸引や経管栄養の医療的ケア ・介護論：6 回×60 分　障害の状態に応じた介護の実践課程 ■ 学習環境 ・使用テキスト：見て覚える！介護福祉士 国試ナビ 2023 ・e ラーニング：動画を何度でも繰り返し視聴できる

日程	講義名
10 月 1 日(土)	オリエンテーション受験対策のポイント
e ラーニング 60 分×4 回	人間と社会：高齢化の現状、人権、社会保障
e ラーニング 60 分×6 回	こころとからだのしくみ：高齢者の方が陥りやすい疾病、心の動き
e ラーニング 60 分×1 回	医療的ケア：喀痰吸引や経管栄養の医療的ケア
e ラーニング 60 分×6 回	介護論：障害の状態に応じた、介護の実践課程
12 月 11 日(日)	全国統一模擬試験
1 月 13 日(金)	直前対策講座①
1 月 19 日(木)	直前対策講座②

ICT 活用・日本語支援	・ICT 活用：e ラーニング（PC／スマホ視聴）を採用、LINE での質問対応、全課程受講者向けの毎日一問一答配信を行う ・日本語支援：模擬試験でルビ版の選択が可能
評価方法・成果指標	全国統一模擬試験の受験結果（個人成績表）で到達度を確認する
特徴・備考	・受講料：全課程コース 35,000 円（税込・教材費込）、模試のみ 8,000 円（税込）、直前対策講座のみ 5,000 円（税込） ・LINE を使った質問対応や全課程受講者向けの毎日一問一答配信を行っている
参考 URL	https://heart-switch.com/tag/%E5%8F%97%E9%A8%93%E5%AF%BE%E7%AD%96/

No.10　介護福祉士国家試験対策講座

授業等の名称	介護福祉士国家試験対策講座
実施主体	専門学校アリス学園
対象者	令和 7 年度（令和 8 年 1 月）の介護福祉士国家試験を受験予定の方
実施期間・回数・時間	・期間：令和 7 年 7 月～令和 8 年 1 月 ・講義：全 5 回　模擬試験：2 回（11 月 3 日・12 月 1 日）
実施時間	
会場／学習形態	・会場：専門学校アリス学園 ・学習形態：対面形式、授業終了後に授業動画を YouTube にて配信
学習概要	・模擬試験（解説付き）2 回とセミナー4 回、試験直前の対策授業を組み合わせ、出題傾向の把握や解答のこつを扱う ・定期的な実施により、理解度の把握と弱点補強を繰り返しながら段階的に実力を高める
学習内容／項目	■ 特徴 ・模擬試験で得意・苦手領域を把握し、以後の学習に反映する ・直前対策セミナーで最終チェック（「最後に 10 点アップ」を意図した予想問題型の授業）を行う ■ 主な科目構成・概要 ・セミナー①～④ ・模擬試験＋解答解説（計 2 回） ・直前対策セミナー（1 回） ■ 学習環境 ・使用テキスト： ・過去 10 年分の練習問題、練習モードで反復練習可能なオンライン模試を用意している ・動画配信（授業後配信、YouTube 視聴）を併用可能

回数	日程	講義名
1 回	7 月 15 日(火)	セミナー①
2 回	8 月 19 日(火)	第 1 回模擬試験＋解答解説
3 回	9 月 16 日(火)	セミナー②
4 回	10 月 14 日(火)	セミナー③
5 回	11 月 11 日(火)	セミナー④
6 回	12 月 16 日(火)	第 2 回模擬試験＋解答解説
7 回	1 月 13 日(火)	直前対策セミナー

ICT 活用・日本語支援	・ICT 活用：オンライン練習問題（過去 10 年分）、授業後の動画配信（YouTube 視聴）
評価方法・成果指標	成果指標：合格率 86%（令和 5 年度）
特徴・備考	・定員 40 名(最低開講人数 5 名) ・受講料：61,600 円（消費税込、テキスト代込み） ・各科目の対策に加え、選択肢の選び方など、問題の解き方の技を学ぶ ・オンラインで実施できる過去 10 年分の練習問題を用意し、練習モードで反復学習できる点が特徴
参考 URL	・https://gakuen.alice-japan.net/posts/shikentaisaku2024 ・https://drive.google.com/file/d/149ECpIYP3nYrDA95nLGDYePgYRIeIkX9/view ・https://gakuen.alice-japan.net/skill-up/nursing-care/national-exam-training

No.11　2025 年度介護福祉士受験直前対策講座

授業等の名称	2025 年度介護福祉士受験直前対策講座
実施主体	株式会社エクセレントケアシステム
対象者	令和 7 年度の介護福祉士国家試験を受験予定の方
実施期間・回数・時間	・期間：令和 7 年 10 月～12 月 ・講義：全 3 回（各回 90 分）
実施時間	18:00～19:30（全日程共通）
会場／学習形態	会場、学習形態：オンライン（Zoom）
学習概要	・全 3 回・計 4 時間 30 分の短期集中講座であり、合格圏への到達を後押しできるように要点を絞って解説するもの ・試験範囲の効果的な覚え方、試験問題の解き方など具体的な攻略方法も扱う
学習内容／項目	■ 特徴 ・短期集中（全 3 回）で頻出・要点に集中する設計になっている ・欠席時も研修資料をメール送付し、自己学習に活用できる ・ライブ配信のみで、録画配信は行わない ■ 主な科目構成・概要 ・社会の理解（受験対策講座①） ・発達と老化の理解／障害の理解（受験対策講座②） ・事例問題の解き方（受験対策講座③） ・試験範囲の覚え方、問題の解き方等の攻略方法を含む ■ 学習環境 ・使用テキスト： ・Zoom によるオンライン授業を実施 ■ 講師・連携機関 ・講師：遠山 光一 氏（株式会社エクセレントケアシステム 人材開発部）

回数	日程	講義名
1 回	10 月 23 日(木)	介護福祉士受験対策講座① 社会の理解
2 回	11 月 20 日(木)	介護福祉士受験対策講座② 発達と老化の理解／障害の理解
3 回	12 月 18 日(木)	介護福祉士受験対策講座③ 事例問題の解き方

ICT 活用・日本語支援	・ICT 活用：Zoom によるリモート受講
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・受講料：無料（要事前申込み） ・全 3 回・計 4 時間 30 分の短期集中として、限られた時間で必要知識を集中的に扱う ・合格圏到達を後押しする狙いで、要点を絞って解説する運用 ・同時参加端末数に限りがあるため、複数場所・複数端末で参加する場合は場所・端末ごとの申込みを求めている ・1 か所に集まり TV／プロジェクター等で 1 端末から複数人受講する場合は、1 名分の申込みで可としている 
参考 URL	https://www.excare.co.jp/news/article/2082?utm_source=chatgpt.com

No.12　介護福祉士国家試験 受験対策講座、模擬試験、受験対策一夜漬け講座

授業等の名称	2025 年度介護福祉士国家試験 受験対策講座
実施主体	関東福祉専門学校
対象者	介護福祉士国家試験を受験される方
実施期間・回数・時間	・期間：令和 7 年 11 月～令和 8 年 1 月 ・講義：11 月開講コース、12 月開講コース それぞれ全 4 回 ・11 月開講コースと 12 月開講コースの内容は同一 ・模擬試験：2 回（10 月 30 日・12 月 18 日） ・受験対策一夜漬け講座：1 回（1 月 6 日） 
実施時間	・受験対策講座：9:00～12:50（50 分×4 コマ） ・模擬試験：9:00～16:30 ・一夜漬け講座：9:30～16:10
会場／学習形態	・受験対策講座／一夜漬け講座：関東福祉専門学校本館での来校、または Zoom ライブ配信でのオンライン受講を選択可能（オンデマンド配信なし） ・模擬試験：関東福祉専門学校 本館での実施（オンライン受験なし）
学習概要	・介護福祉士国家試験（筆記）の全科目の要点整理を中心に、全 4 日間（各半日）で集中的に学ぶ講座として構成 ・一夜漬け講座では、苦手になりやすい「人間と社会」「こころとからだのしくみ」を中心に予想問題と解説を行い、「介護過程」等の難問領域も扱う

			解関連領域））・解説
	2 回	1 月 6 日(火)	予想問題（こころとからだのしくみ（医学関連領域））・解説
	3 回	1 月 6 日(火)	予想問題（こころとからだのしくみ（心理学関連領域））・解説
	4 回	1 月 6 日(火)	予想問題（介護・介護過程等）・解説
ICT 活用・日本語支援	・ICT 活用：オンライン受講は Zoom ライブ配信を使用し、オンデマンド配信は行わない		
評価方法・成果指標			
特徴・備考	・定員：20 名 ・受験対策講座 受講料：20,000 円（各コース単位、テキスト代は含まない） ・模擬試験 受検料：各 10,000 円、2 回セット 16,000 円 ・受験対策一夜漬け講座 受講料：6,000 円 ・全 4 日間（各半日）で、筆記試験の全科目を整理する集中型の構成 ・試験直前の「受験対策一夜漬け講座」は「人間と社会」「こころとからだのしくみ」を重点化し、「介護過程」等の難問ポイントも扱う ・模擬試験は中央法規出版の全国統一模擬試験（第 1 回・第 2 回）を用い、両回で問題が異なる運用となっている		
参考 URL	・ https://kantofukushi.ac.jp/courceguide/ ・ https://kantofukushi.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/a63510bbdc68f6ba1d1dab6f68e4ee08-1.pdf		

学習内容／項目	■ 特徴 ・来校とオンライン（Zoom ライブ）を選択でき、受講者の都合に合わせた受講形態を選ぶことができる ・模擬試験は中央法規出版の全国統一模擬試験を用い、解答・解説を専任講師が担当する ■ 主な科目構成・概要 ・受験対策講座（1 日目）：人間の尊厳と自立、コミュニケーション技術、社会の理解、介護の基本 ・受験対策講座（2 日目）：生活支援技術①～③、介護過程 ・受験対策講座（3 日目）：発達と老化の理解Ⅰ、障害の理解Ⅰ、こころのしくみ、認知症の理解 ・受験対策講座（4 日目）：発達と老化の理解Ⅱ、こころとからだ、障害の理解Ⅱ、医療的ケア ・一夜漬け講座：社会の理解関連、人間と社会、こころとからだ（医学・心理学関連）、介護・介護過程等の予想問題演習と解説 ■ 学習環境 ・使用テキスト：「介護福祉士国家試験受験ワークブック 2026 上・下」 ■ 講師・連携機関 ・講師：関東福祉専門学校の専任講師が担当

受験対策講座 11 月開講コース

回数	日程	講義名
1 回	11 月 5 日(水)	人間と社会
2 回	11 月 12 日(水)	介護
3 回	11 月 19 日(水)	こころとからだのしくみ①
4 回	11 月 26 日(水)	こころとからだのしくみ②

受験対策講座 12 月開講コース

回数	日程	講義名
1 回	12 月 3 日(水)	人間と社会
2 回	12 月 10 日(水)	介護
3 回	12 月 17 日(水)	こころとからだのしくみ①
4 回	12 月 24 日(水)	こころとからだのしくみ②

受験対策一夜漬け講座

回数	日程	講義名
1 回	1 月 6 日(火)	予想問題（人間と社会の理解（社会の理

No.13　介護福祉士受験対策講座、対面式受験対策講座

授業等の名称	介護福祉士受験対策講座（国試合格パック）、対面式受験対策講座
実施主体	サンビレッジ国際医療福祉専門学校
対象者	
実施期間・回数・時間	・期間：令和 7 年 8 月～令和 8 年 1 月 ・講義：国試合格パック全 4 回、対面式受験対策講座 全 3 回 ・国試合格パック模擬試験：2 回（8 月下旬・１２月上旬） 
実施時間	・国試合格パック：（オンライン学習を前提） ・対面式受験対策講座： 1 回目 9:00～16:10、2 回目 9:00～12:10／13:00～16:10、3 回目 9:00～16:10
会場／学習形態	・国試合格パック：オンライン講座 ・対面式受験対策講座：サンビレッジ国際医療福祉専門学校 南館
学習概要	・国試合格パック：教材一式とオンライン学習、模擬試験、セミナー、直前対策講座を組み合わせ、筆記試験合格に向けた支援を行う ・対面式受験対策講座：専門学校の教員による対面講座で、3 日間で集中して学ぶ
学習内容／項目	■ 特徴 ・国試合格パック：授業動画を用いる、練習問題・模擬試験問題の反復演習を取り入れる、問題／テスト形式のものは自動採点機能がついている

	・対面式受験対策講座：分野別に 3 日間で集中的に学ぶ設計が中心 ■ 主な科目構成・概要 ・国試合格パック ・対面式受験対策講座：人間と社会、こころとからだのしくみ、介護 ■ 学習環境 ・国試合格パック：オンラインで過去問題・模擬問題を繰り返し解ける学習環境、不明点を学校教員へ直接質問できる ・対面式受験対策講座：会場での対面形式での受講 ■ 講師・連携機関 ・講師：専門学校の教員（対面式受験対策講座） 国試合格パック 日程 / 講義名 8 月下旬、12 月上旬 / 模擬試験 9 月下旬、10 月中旬、11 月中旬 / セミナー 1 月上旬 / 直前対策講座 対面式受験対策講座 回数 / 日程 / 講義名 1 回 / 10 月 20 日(月) / 人間と社会 2 回 / 11 月 17 日（月） / こころとからだのしくみ 3 回 / 11 月 17 日（月） / 介護 4 回 / 12 月 26 日（金） / こころとからだのしくみ
ICT 活用・日本語支援	・ICT 活用：オンライン演習・自動採点機能付きテスト（国試合格パック）、
評価方法・成果指標	・国試合格パック：模擬試験：個人成績表により実力と苦手分野を把握できる
特徴・備考	・定員： 40 名（対面式受験対策講座） ・国試合格パック 受講料：44,000 円（税込） ・対面式受験対策講座受講料：25,000 円（税込、テキスト代は別途） ・家庭学習を支援しながら進めるプログラムとして提示（国試合格パック） ・専門学校教員による対面講義を用い、要点整理をその場で行う学習が中心（対面式受験対策講座）
参考 URL	・https://jitsumusyakensyu.com/kokka/ ・https://jitsumusyakensyu.com/wp-content/uploads/2025/07/2026kokushigokakupack.pdf

No.14　外国人介護人材のための介護福祉士国家資格取得支援講座）

授業等の名称	令和 7 年度 外国人介護人材のための介護福祉士国家資格取得支援講座
実施主体	主催：公益社団法人 日本介護福祉士会 実施：一般社団法人 埼玉県介護福祉士会
対象者	下記、全てに該当する方 ① 令和 7 年度または令和 8 年度の介護福祉士国家試験を受験予定の外国人介護人材 ② 日本語能力試験 N3 程度以上の者 ③ 全 5 回の講座を受講できる者
実施期間・回数・時間	・実施期間：令和 7 年 9 月 21 日（日）～令和 7 年 11 月 24 日（月） ・講義：全 4 回 ・模擬試験：1 回（11 月 23 日） 
実施時間	・1 回目：9 時 30 分～16 時 50 分 ・2 回目、4 回目（模試）：9 時 30 分～16 時 45 分 ・3 回目：9 時 30 分～16 時 30 分 ・5 回目：9 時 30 分～16 時 20 分
会場／学習形態	・会場：秋草学園福祉教育専門学校 ・学習形態：対面実施（全 5 日間）
学習概要	・実務経験ルートで介護福祉士を目指す外国人介護職員を対象に、国家試験合格に必要な知識・技能を集中的に扱う ・在留資格「介護」への移行を見据え、資格取得支援として位置づけられている

学習内容／項目	■ 特徴 ・1 回目に簡易模試（30 問）と解説があり、その後、学習計画づくりのグループワークを組み合わせた設計になっている ・2 日目と 3 日目は埼玉県介護福祉士会の講師による授業を行う ・全体模試（午前・午後）と翌日の解説回を配置し、本番形式への慣れと弱点把握を行う ■ 主な科目構成・概要 ・国試に向けた勉強方法、国試で使用される日本語の講義（放映講義）を行う ・ A パート（2 日目）：人間の尊厳と自立、介護の基本、社会の理解 人間関係とコミュニケーション、コミュニケーション技術、生活支援技術 ・B パート（3 日目）：こころとからだのしくみ、発達と老化のしくみ、認知症の理解、障害の理解、医療的ケア ・C パート：介護過程、総合問題 ・模試：第 4 回に実施（午前・午後）、第 5 回で解説と振り返りを実施 ■ 講師・連携機関 ・講師・ファシリテーター：埼玉県介護福祉士会、国際交流＆日本語支援 Y 代表理事が担当 1 日目　9 月 21 日 時間 / 講義名 15 分 / オリエンテーション 45 分 / 国試に向けての勉強方法 10 分 / 簡易模試のルール説明 45 分 / 簡易模試 70 分 / 国試で使用される日本語（放映講義） 120 分 / 簡易模試解説 45 分 / グループワーク 2 日目　10 月 12 日 時間 / 講義名 5 分 / オリエンテーション 30 分 / A パートの学習ポイント① 45 分 / A パートの学習ポイント② 100 分 / A パートの学習ポイント③ 50 分 / A パートの学習ポイント④

	45 分 / A パートの学習ポイント⑤ 60 分 / A パートの学習ポイント⑥ 3 日目　10 月 19 日 時間 / 講義名 5 分 / オリエンテーション 30 分 / B パートの学習ポイント① 45 分 / B パートの学習ポイント② 60 分 / B パートの学習ポイント③ 45 分 / B パートの学習ポイント④ 45 分 / B パートの学習ポイント⑤ 30 分 / C パートの学習ポイント① 50 分 / C パートの学習ポイント② 4 日目　11 月 23 日 時間 / 講義名 30 分 / オリエンテーション 160 分 / 模試（午前） 175 分 / 模試（午後） 5 日目　11 月 24 日 時間 / 講義名 5 分 / オリエンテーション 120 分 / 模試解説 150 分 / 模試解説 45 分 / グループワーク
ICT 活用・日本語支援	・日本語支援：国家試験で使用される日本語を扱う講義（放映講義）と実践パートが設定されている
評価方法・成果指標	・簡易模試（30 問）と全体模試の実施により、理解度確認につながる構成になっている ・アンケート（5 日目）を実施し、受講後の振り返りを行う
特徴・備考	・定員：20 名 ・受講料：無料 ・グループワークで、模試・講義を踏まえ「国家試験までどのように勉強に取り組むか」を言語化する点が特徴 ・在留資格「介護」への移行を見据えた位置づけで、技能実習・特定技能等で就労する外国人介護人材の継続就労と国家資格取得を

	目的としている ・講師は埼玉県介護福祉士会の講師に加え、日本語パートで国際交流＆日本語支援Ｙ担当者が登壇し、試験用語・読解を扱う枠が明確化されている
参考 URL	・https://saitama-kaigo.org/archives/3401 ・https:// saitama-kaigo.org/wp-content/uploads/2025/08/埼玉県会別紙プログラム.pdf

No.15　介護福祉士国家試験　模擬試験＆対策講座

授業等の名称	介護福祉士国家試験　模擬試験＆対策講座
実施主体	株式会社グレート
対象者	令和元年度（2020 年 1 月 26 日実施）の介護福祉士国家試験を受験される方
実施期間･回数･時間	・期間：令和元年 12 月 16 日（月）、令和 2 年 1 月 10 日（金） ・講義：1 回 ・模擬試験：1 回（12 月 16 日） 
実施時間	・模擬試験：9 時 30 分～14 時 30 分 ・対策講座：9 時 30 分～16 時 30 分
会場／学習形態	・会場：株式会社グレート鯖江教室 ・学習形態：対面形式のみ
学習概要	・受験申込後、独学の不安や学習効率の課題を抱える受験者に対し、限られた時間で効率よく学び、本番形式に慣れることを目的とした短期集中型の構成となっている ・模擬試験の成績表返却後、苦手分野・重要項目を中心に講師が指導し、質疑応答を受け付ける
学習内容／項目	■ 特徴 ・模擬試験（1 回）と、成績表を踏まえた対策講座（1 日）を組み合わせた短期集中型 ・成績表（全国順位・偏差値・科目別得点・正誤等）を活用し、弱点補強につなげる

	■ 主な科目構成・概要 ・対策講座（午前）：人間の尊厳と自立、人間関係とコミュニケーション、社会の理解、介護の基本、コミュニケーション技術、生活支援技術、介護過程 ・対策講座（午後）：発達と老化の理解、認知症の理解、障害の理解、こころとからだのしくみ、医療的ケア、総合問題 ■ 学習環境 ・模擬試験では「中央法規出版」作成の試験問題を使用 ・模擬試験は午前 110 分・午後 110 分で実施、当日に解答解説集を配布 ■ 講師・連携機関 ・講師：上田順子（介護福祉士・介護支援専門員） 12 月 16 日（模擬試験） 時間 / 当日の内容 ９：３０～９：４５ / オリエンテーション ９：４５～１１：３５ / 模擬試験 前半 １４：２０～１４：３０ / 模擬試験 後半 １２：３０～１４：２０ / Ｂパートの学習ポイント③ １４：２０～１４：３０ / Ｂパートの学習ポイント④ 1 月 10 日（対策講座） 時間 / 当日の内容 ９：３０～１２：３０ / 講義、質疑応答 ・人間の尊厳と自立 ・人間関係とコミュニケーション ・社会の理解 ・介護の基本 ・コミュニケーション技術 ・生活支援技術 ・介護過程 １３：３０～１６：３０ / 講義、質疑応答 ・発達と老化の理解 ・認知症の理解 ・障害の理解 ・こころとからだのしくみ ・医療的ケア ・総合問題
ICT 活用・日本	

語支援	
評価方法・成果指標	・模擬試験の実施により、得点・正誤等を可視化し、成績表（全国順位・偏差値・科目別得点等）で理解度を確認する ・対策講座では、正答率の低い領域や重要項目を中心に扱い、質疑応答で理解確認を行う
特徴・備考	・定員：15 名 ・受講料：10,000 円（税別、模擬試験料＋対策講座受講料を含む） ・受験直前期に「模擬試験→成績表→弱点補強講義」を短期間で行う ・対策講座は講師が事前に成績表を確認した上で、ポイントを押さえた講義と詳しい解説、重要事項の整理・解説を行う
参考 URL	・https://www.great-kabu.co.jp/event/3016/ ・https://www.great-kabu.co.jp/grtsrc/wp-content/uploads/2019/10/20191031.pdf

No.16　国家試験対策講座

授業等の名称	国家試験対策講座
実施主体	株式会社 JMTC
対象者	
実施期間・回数・時間	・期間：令和 3 年 9 月 25 日、11 月 20 日、令和 4 年 1 月 8 日 ・講義：全 3 回 ・模擬試験：2 回（9 月 25 日・1 月 8 日） 
実施時間	・模擬試験+講座：10 時 00 分～15 時 35 分 ・直前対策講座：9 時 00 分～16 時 00 分
会場／学習形態	・会場：JMTC 各教室（弘前・青森・仙台教室） ・学習形態：教室受験を基本とし自宅受験も可能、模擬試験後の解説・試験直前講座は各教室で受講する
学習概要	・本番と同時間帯の模擬試験を実施し、その後解説と直前対策講座を行う ・模擬試験結果から弱点を把握し、以後の自己学習の方向性を明確にする ・専門講師の要点解説により、受験者に多く見られる弱点や出題傾向を扱う
学習内容／項目	■ 特徴 ・本番と同時間帯の模擬試験により、当日の時間配分や試験進行の体験を想定した設計になっている ・模擬試験（全国統一）と解説講座を段階的に組み合わせ、弱点把握→要点整理→直前対策につなげる ・模擬試験後に個人成績表を返却し、実力確認に用いる

No.17　介護福祉士国家試験受験対策講座（T コース）

授業等の名称	介護福祉士国家試験受験対策講座（T コース）
実施主体	社会福祉法人 鈴鹿市社会福祉協議会
対象者	実務者研修修了、または修了見込の方
実施期間・回数・時間	・期間：令和 7 年 10 月～令和 8 年 1 月 ・講義：選択コースにより異なる（1 日間コースは 1 回、3 日間コースは 3 回、模擬試験は 1 回、直前対策は 1 回の組合せによる） ・模擬試験：2 回（11 月 26 日・12 月 20 日） 
実施時間	10 時 00 分～17 時 00 分（1 回 3 時間）
会場／学習形態	・会場：まなぶところ御はつ ・学習形態：対面形式のみ
学習概要	複数コース（事前対策、3 日間、1 日間、模擬試験、直前対策、セットコース）を用意し、ニーズに応じて選択できる
学習内容／項目	■ 特徴 ・模擬試験（A・B）で実力診断を行い、試験後の解説を行う ・不合格時に次年度以降の同コース無料受講（合格保証）を示す（ただしテキスト代・模試代は自己負担） ■ 主な科目構成・概要 ・総合（テキスト学習・練習問題）

	■ 主な科目構成・概要 ・模擬試験：全国統一模擬試験（中央法規出版社）2 回 ・解説：要点解説講座 2 回 ・直前：試験直前対策講座 1 回（要点と今年度の傾向） ■ 学習環境 ・模擬試験は全国統一模擬試験（中央法規出版社）を使用

回数	日程	講義名
1 回	9 月 25 日(土)	模擬試験①+講座
2 回	11 月 20 日(土)	模擬試験②+講座
3 回	1 月 8 日(土)	直前対策講座

ICT 活用・日本語支援	・ICT 活用：解説・直前対策講座では、教室間をネット接続するリモート講座で行う
評価方法・成果指標	・模擬試験の得点・成績表により弱点把握と実力確認を行う ・「講座受講者の合格率 100%」
特徴・備考	・定員：20 名 ・受講料：20,000 円（税込） ・模擬試験を本番前の力試しとしての位置づけ、本番と同時間帯での実施を行う ・解説講座・直前対策講座は、教室間をネットでつなぐリモート方式を用いる
参考 URL	https://japan-mtc.com/2021/05/26/post-3837/

	・「人間と社会」領域（テキスト及び練習問題） ・「こころとからだのしくみ」「介護」領域（テキスト及び練習問題） ■ 学習環境 ・使用テキスト：「見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2026」 ■ 講師・連携機関

コース 1　事前対策講座

日程	講義名
10 月 18 日(土)	事前対策講座

コース 2　3 日間コース

回数	日程	講義名
1 回	11 月 15 日(土)	総合
2 回	11 月 22 日(土)	人間と社会」領域
3 回	11 月 29 日(土)	こころとからだのしくみ」「介護」領域

コース 3　1 日間コース

日程	講義名
11 月 15 日(土)	総合

コース 4　模擬試験

回数	日程	講義名
1 回	11 月 26 日(水)	模擬試験 A
2 回	12 月 20 日(土)	模擬試験 B

コース 5　事前対策

日程	講義名
1 月 10 日(土)	事前対策

ICT 活用・日本語支援	
評価方法・成果指標	合格保証（不合格時の次年度以降無料受講）を成果担保の仕組みとして位置づけている
特徴・備考	・定員：各 10～15 名（開催日により異なる、先着順） ・受講料：事前対策講座 25,000 円、3 日間コース 39,000 円、1 日間コース 25,000 円、模擬試験 AB ともに 9,000 円、直前対策 20,000 円

	・受講の組合せを前提に、単科受講とセットコース（合格約束／合格安心）を併置する構成 ・受講者の多くは日系ブラジル人を中心とする南米出身者で、長期在住ながら体系的な日本語学習経験が乏しく、自然習得に依存している点が特徴 ・講座は受講者にとって「自宅では確保しにくい学習時間」を保障する場であり、学習基盤として重要な役割を果たしている ・継続受講者への聞き取り調査から、漢字・語彙理解やいかに自律して学習が可能かの支援が今後の課題として抽出されている
参考 URL	・https://manabu.ohatsu.jp/kaigohukushishi-t/ ・https:// wp-content/uploads/2025/04/147ef34e73239f9ddc8daa148f96255c.pdf

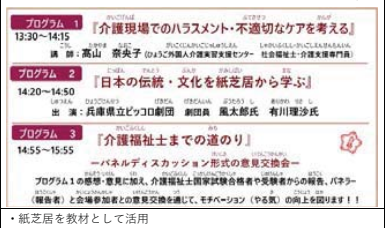
No.18　介護福祉士国家試験直前対策講座

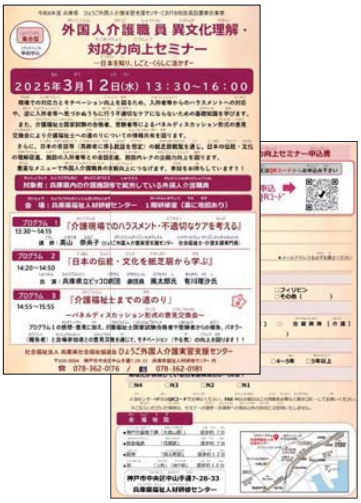
授業等の名称	介護福祉士国家試験直前対策講座
実施主体	社会福祉法人川崎市社会福祉協議会　総合研修センター
対象者	今年度、介護福祉士国家試験を受験予定の川崎市内在住または在勤の福祉施設、事業所にお勤めの方で、２日間参加出来る方
実施期間・回数・時間	・期間：令和７年 11 月 8 日（土）・11 月 29 日（土） ・講義：全 1 回 ・模擬試験：1 回（11 月 8 日） 
実施時間	・模擬試験：9 時 10 分～16 時 10 分 ・直前対策講座：9 時 00 分～16 時 30 分
会場／学習形態	・会場：川崎市複合福祉センター「ふくふく」2 階（総合研修センター） ・学習形態：対面形式のみ
学習概要	・受験直前に模擬試験で当日の流れを体験し、続く講義で得点アップのポイントを扱う ・模擬試験は中央法規出版の第 2 回を使用
学習内容／項目	■ 特徴 ・模擬試験＋直前対策講座の 2 日間で構成 ・全文ふりがな対応により、外国人受験者等の受講を想定した設計と

	なっている ■ 主な科目構成・概要 ・1 日目：模擬試験 ・2 日目：得点アップのポイント等の試験直前対策講座 ■ 学習環境 ・模擬試験は中央法規出版の第 2 回を使用 ■ 講師・連携機関 ・講師：竹田 幸司氏（田園調布学園大学教授、国試対策講座講師） 模擬試験 11 月 8 日 時間 / 講義名 １０：００～ / 事務連絡・配布物確認 １０：１０～ / 模擬試験・午前の部（100分） １３：００～ / 事務連絡・配布物確認 １３：１０～ / 模擬試験・午後の部（120 分） 模擬試験 11 月 8 日（全文ふりがな模試） 時間 / 講義名 ９：１０～ / 事務連絡・配布物確認 ９：２０～ / 模擬試験・午前の部（１５０分） １３：００～ / 事務連絡・配布物確認 １３：１０～ / 模擬試験・午後の部（１８０分） 模擬試験 11 月 8 日 時間 / 講義名 ９：００～ / 直前対策講座（講義）
ICT 活用・日本語支援	・日本語支援：全文ふりがな模試を実施
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・定員：28 名 ・受講料：6,000 円（税込、別途テキスト代 2,200 円(税込)が必要） ・全文ふりがな模試を実施している
参考 URL	・https://www.kensyu-c.jp/

(2)　文化理解支援に関する事例

No.01　外国人介護職員 異文化理解・対応力向上セミナー

授業等の名称	外国人介護職員 異文化理解・対応力向上セミナー
実施主体	社会福祉法人兵庫県社会福祉協議会 ひょうご外国人介護実習支援センター
対象者	兵庫県内の介護施設等で就労している外国人介護職員
実施期間・回数・時間	令和 7 年 3 月実施、1 日開催 （例：13:30～15:55、プログラム 3 部構成）
実施時間	13:30～15:55、プログラム 3 部構成
会場／学習形態	兵庫県福祉人材研修センター1 階研修室 対面形式
学習概要	・外国人介護職員に対し、介護現場でのハラスメントや不適切ケアへの対応方法を学び、現場対応力を向上させる ・介護福祉士国家試験合格者や受験者の体験共有を通じて、資格取得意欲を高める ・日本の伝統・文化（民話・紙芝居）を学ぶことで、地域文化理解や入所者とのコミュニケーションを促進する
学習内容／項目	■ プログラム 1：「介護現場でのハラスメント・不適切なケアを考える」（基礎知識習得、対応力強化） ■ プログラム 2：パネルディスカッション形式の意見交換会（介護福祉士国家試験合格者・受験者による報告、参加者との意見交換、モチベーション向上） ■ プログラム 3：「日本の伝統・文化を紙芝居から学ぶ」（高齢者関連の民話を題材に、日本文化理解、レクリエーション企画力向上） 
教材・支援方法	・紙芝居を教材として活用 ・ディスカッション形式の交流を通じた実践的学習

評価方法・効果測定	「感想・意見交換」を通じた振り返りの場
特徴・備考	・文化理解と現場対応力を組み合わせたプログラム ・資格取得意欲の向上と職場定着を目的とする ・日本文化（紙芝居）を取り入れたユニークなカリキュラム ・多国籍（ベトナム、中国、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、モンゴル、ネパール等）の参加を想定 
参考 URL	https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf05/documents/ibunnkarikai.pdf

	
評価方法・効果測定	
特徴・備考	・学習リソースとして YouTube やポッドキャスト等の活用を挙げ、隙間時間での継続学習を前提に構成している ・職場面（挨拶、時間厳守、報連相、敬語・上下関係）と生活面（公共の場、ゴミ分別、食事、入浴、交通機関）を同時に扱い、具体的な適用場面を示している ・文化的な誤解によるトラブル例（「はい」の受け止め方等）を用い、誤解の発生する要因と対応（確認・質問）を学習ポイントとしてあげている ・最新動向として AI・VR・ゲーム等の活用の可能性を紹介し、個別化学習や没入体験を通じた理解促進を想定している
参考 URL	https://oshima-kaigo.jp/japanese-cultural-study/

No.02　外国人実習生が職場に溶け込む日本文化学習法

授業等の名称	外国人実習生が職場に溶け込む日本文化学習法
実施主体	渡島介護事業協同組合
対象者	① 外国人技能実習生（介護職種） ② 介護現場で働く外国人スタッフ（特定技能・留学生含む）
実施期間・回数・時間	
実施時間	
会場／学習形態	動画（YouTube）やポッドキャスト等の活用
学習概要	・文化差による戸惑い・誤解の軽減を狙い、職場・地域社会への適応を後押しする ・安心して就労・生活できる状態につなげ、生活満足度や職場定着の向上を目的とする
学習内容／項目	■ プログラム 1 ・職場の日本文化（挨拶、時間厳守、報告・連絡・相談、敬語・上下関係）を紹介する ・「はい」の受け止め方等、文化的誤解が起点となるトラブル事例 ■ プログラム 2 ・日常生活の習慣・マナー（公共空間での振る舞い、ゴミ分別、食事、入浴、交通機関） ・年中行事・食文化の体験（例：夏祭り、正月行事）を想定し、地域とのつながり強化につなげる ■ プログラム 3 ・地域主催の異文化交流プログラム（例：料理教室）への参加を取り入れ、関係形成を促す ・シミュレーション（役割演技）型の文化理解ワークショップにより、相互理解を深める ・ゲームや VR 技術により没入感のある体験により文化理解を深める
教材・支援方法	・動画（YouTube）・ポッドキャスト等の ICT 活用 ・異文化の役割を演じるロールプレイ／シミュレーション型研修

No.03　異文化コミュニケーション研修

授業等の名称	異文化コミュニケーション研修
実施主体	株式会社早稲田大学アカデミックソリューション
対象者	企業、大学で以下にあるもので 1 つ以上当てはまる場合 ①組織内の多様性が増しているが、異文化への理解不足により、意思疎通がうまくいかない場面がある ②組織内のコミュニケーションを活性化させたいが、具体的な手法が分からない ③異文化理解や多様性を学ぶ機会を提供したいが、一方的な講義形式ではなく、参加者が主体的に学べる研修を探している ④合意形成や意思決定を行う際のプロセスに課題を感じている ⑤相互理解を深め、組織としてのチームワークを向上させたい ⑥多様な人材が活躍できる組織文化を醸成したい
実施期間・回数・時間	令和 7 年 4 月 18 日（金）実施、1 日開催
実施時間	10:00～18:00（計 8 時間）
会場／学習形態	・学習形態：対面実施（オンライン実施も可）
学習概要	・多様な価値観・文化的背景を持つ相手との円滑なコミュニケーションの実現を目的とする ・組織としてのパフォーマンス最大化につながる、マインド・スキルの獲得 ・参加者間の相互理解を深め、チームワーク向上が期待される
学習内容／項目	■ プログラム 1：ウォーミングアップとチェックイン ・目的・ゴール確認を行い、身体エクササイズや即興ワークを通じて表現力と異文化理解への導入を進める ■ プログラム 2：異文化疑似体験シミュレーション：バルーンパ文化を探れ ・異なる文化集団を疑似体験し、遭遇時の感情や対応を振り返りつつ固定観念への気づきを深める ■ プログラム 3：異文化・多様性の理解を深める ・文化の可視／不可視要素や言語・非言語の違い、価値観の多様性について整理する ■ プログラム 4：エコトノス①：新しい文化の学習 ・グループ別の文化を学び、交渉やコミュニケーションの練習を通じて、新しい文化への適応プロセスを体験する ■ プログラム 5：エコトノス②：国際会議の体験

	・異なる文化同士で国際会議を行い、合意形成・意思決定で起こる齟齬や調整を実感する ■ プログラム 6：3 段階の振り返り活動 ・出来事と感情の言語化、経験共有、気づきの整理とアクションプラン作成までを行い、学びを定着させる 研修の内容：

回数	講義名
1 回	●ウォーミングアップとチェックイン お互いの今を共有し、目的・ゴールを確認します。また、ウォーミングアップのために、身体エクササイズ、インプロ（即興演劇）ワークなどのグループワークを通じて表現力、発想力、異文化理解の導入を行います。
2 回	●異文化疑似体験シミュレーション：バルーンバ文化を探れ 参加者を異なる文化（異文化調査団とバルーンバ人）の 2 つのグループに分け、異文化状況を疑似体験します。私たちが自分の文化や価値観と「違う」人々に出会ったときにどのように心が動き、どのような対応をとるのかを体感します。また、文化背景の異なる人々を受け入れる側の固定概念などについての気づきを深めます。
3 回	●異文化・多様性の理解を深める 異文化理解の基礎知識を学びます。例えば、「文化の島」モデルを用いた文化の可視・不可視部分を考察し、言語・非言語コミュニケーションの違い、価値観の多様性について自己診断をしながら考えます
4 回	●エコトノス①：新しい文化の学習 参加者を X,Y,Z の 3 つのグループに分け、それぞれの習慣や価値観などの文化を、各グループのファシリテーターから学んでいきます。参加者は、各グループの「文化」について、常識やルールのほか、非言語コミュニケーションまで徹底的に体得し、次の「国際会議」に向けて準備します。このプロセスでは新しい文化に適応していくプロセスを体験できます。
5 回	●エコトノス①：新しい文化の学習 参加者を X,Y,Z の 3 つのグループに分け、それぞれの習慣や価値観などの文化を、各グループのファシリテーターから学んでいきます。参加者は、各グループの「文化」について、常識やルールのほか、非言語コミュニケーションま

	で徹底的に体得し、次の「国際会議」に向けて準備します。このプロセスでは新しい文化に適応していくプロセスを体験できます。
6 回	●3 段階の振り返り活動 研修の最終段階として 3 段階の振り返り活動を実施します。①国際会議での出来事とその時々の感情をグループごとに言語化して共有し、1 枚のポスターを共同で作成していく活動、②全員で新しい文化・習慣を学ぶプロセスと異文化の人々との合意形成のプロセスでの経験を共有する活動、③体験から得た気づきを共有して、アクションプランをグループで作っていく活動です。異文化シミュレーション体験と丁寧な振り返り活動を経ていくことで、参加者の新しい行動獲得の前提となるマインドセットを醸成していきます。
	※ エコトノスの実施には、15 名以上の参加者が必要。また、講師に加えファシリテーターが 2 名必要。
教材・支援方法	・体験型教材：異文化シミュレーション「エコトノス」、ミニ異文化疑似体験「バルーンバ文化を探れ」 ・支援方法：グループディスカッション中心のワークショップ型、講師＋ファシリテーター2 名体制
評価方法・効果測定	・振り返り活動（ポスター作成、経験共有、アクションプラン作成）による内省と定着を行う
特徴・備考	・講義中心ではなく、参加者の体験と対話を核にしたワークショップ型として構成 ・対象は企業・大学で、組織内多様性の増加、コミュニケーション活性化、合意形成プロセス等の課題を持つ場面を想定している ・異なる文化の人々が集まり、国際会議の席で意思決定を行う「エコトノス」という疑似体験を通して、異文化理解を学ぶ ・「バルーンバ文化体験」を通じ、異文化に遭遇した際の感情変化と対応の癖を可視化する
参考 URL	https://www.w-as.jp/case/interculaturalcommunications/

No.04　高齢者介護施設職員向け多文化対応力向上講座

授業等の名称	高齢者介護施設職員向け多文化対応力向上講座
実施主体	公益財団法人かながわ国際交流財団（多文化共生グループ）
対象者	高齢者介護施設職員
実施期間・回数・時間	令和 7 年 7 月 16 日（水）実施、1 回開催、120 分 
実施時間	13:30～15:30
会場／学習形態	会場・学習形態：オンライン（Zoom）
学習概要	・介護現場における多文化対応の観点から、「やさしい日本語」を中心とした指示・伝達の精度向上につなげる ・外国人介護職員の受入環境・体制に関する理解を深め、受入側の実務上の配慮点整理を促す
学習内容／項目	■ プログラム 1 ・外国人介護職員の受入状況の変化、受入環境・体制の整備 ■ プログラム 2 ・外国人介護職員の採用と雇用に関するポイント ■ プログラム 3 ・海外の介護施設の様子、外国人介護職員のインタビュー

	■ プログラム 4 ・「やさしい日本語」による職場でのコミュニケーション方法（ワーク）
教材・支援方法	・Zoom 等の ICT 活用が見られる ・「やさしい日本語」の言い換えを扱うワークを取り入れている
評価方法・効果測定	
特徴・備考	・「外国人の同僚とのコミュニケーションに難しさを感じている方」「外国人介護職員を受け入れたいと思っている方」「外国人介護職員がどんなことを思っているのか知りたい方」「海外の介護施設について興味がある方」等を主な参加想定としている ・講師：堀 永乃氏（一般社団法人グローバル人財サポート浜松代表理事） ・「多文化対応力向上講座（職種別研修）」の一環として位置づけられる構成になっている ・扱う内容は、受入環境・体制の整備、採用・雇用のポイント、「やさしい日本語」による職場コミュニケーション（ワークあり）が中心
参考 URL	・https://www.kifjp.org/2025koureikaigo ・https://www.kifjp.org/wp-new/wp-content/uploads/2025/06/koureikaigo2025_20250613.pdf

No.05　多文化理解新発見講座

授業等の名称	多文化理解新発見講座
実施主体	日進市国際交流協会
対象者	身近な外国の人とのコミュニケーションや交流に興味がある方 （どなたでも）
実施期間・回数・時間	令和 5 年 7 月 8 日（土）実施、1 回開催、2 時間
実施時間	10:30～12:30（2 時間、3 部構成）
会場／学習形態	・会場：日進市立図書館 1 階 視聴覚ホール ・学習形態：対面中心＋一部オンライン参加を取り入れる
学習概要	・外国人の視点を手がかりに、日本語・日本文化を相対化して理解することを目的とする ・身近な外国人との日本語コミュニケーションにおける言語・文化・習慣差への理解を促進する ・相互理解に向けた対話機会を設け地域での共生に必要な認識を育む
学習内容／項目	■ プログラム 1 ・外国人から見た日本語の特徴、方言差（例：愛知編）。外国人の驚き・違和感を入口に言語理解へつなげる ■ プログラム 2 ・対人距離感、日本人の思想・宗教観、日本文化理解の難しさなどを題材に、文化の背景にある考え方を学び、異文化理解の重要性を考察 ■ プログラム 3 ・まとめ、質問＆ディスカッションタイム 
教材・支援方法	・質疑とディスカッションを用いる ・ICT 活用：一部オンライン参加（配信方法・使用ツールは記載なし）

No.06　はじめての日本語クラス 日本語で話そうペラペラ水曜日

授業等の名称	はじめての日本語クラス 日本語で話そうペラペラ水曜日
実施主体	公益財団法人札幌国際プラザ多文化交流部
対象者	・札幌市内で生活・通学・勤務している 16 歳以上の外国人 （はじめてのにほんごくらす） ・日本語で話したい外国人（にほんごで はなそう！ぺらぺらすいようび）
実施期間・回数・時間	・はじめてのにほんごくらす： 令和 6 年 2 月 3 日(火) ～2 月 19 日(木)の火曜日と木曜日 ・にほんごで はなそう！ぺらぺらすいようび： 令和 6 年 1 月 7 日(水) ～2 月 4 日(水)の毎週水曜日 
実施時間	・はじめてのにほんごくらす：19:00～20:30 ・にほんごで はなそう！ぺらぺらすいようび：14：00～15：30
会場／学習形態	・会場：オンライン（はじめてのにほんごくらす） 札幌国際プラザ（にほんごではなそう！ぺらぺらすいようび） ・学習形態：オンライン、対面実施
学習概要	・札幌での生活に必要とされる初歩的な日本語の習得を行う ・ボランティアとの会話を通じ、日本語でのコミュニケーション経験の蓄積を促す ・地域での安全で自立した生活に必要な言語環境の整備を行う目的として位置づけられる

評価方法・効果測定	・参加者コメント（感想）の収集
特徴・備考	・講師：磯野英治氏（名古屋商科大学 国際学部長／教授） ・一部オンライン参加や外国人を含む約 60 名が参加 ・参加者コメントでは「ディスカッションタイムが多い」「参加者同士の経験・考え方の多様さが分かった」「日本で暮らす外国人の生の声を聞けた」等が挙げられ、対話重視の設計となっている ・「にほんご教室ボランティア養成講座」開催予定の記載があり、本講座を関連施策につなげる運用が確認できる
参考 URL	・https://www.me.ccnw.ne.jp/nia-nisshin/ ・https://www.me.ccnw.ne.jp/nia-nisshin/pdf/tabunkarikai-sinhakken2023.7.8_houkoku.pdf ・https://www.youtube.com/watch?v=EnczXwAulpM

学習内容／項目	■ はじめてのにほんごくらす ・ひらがな、基本的なあいさつ等の初歩の日本語を学ぶ ■ にほんごで はなそう！ぺらぺらすいようび ・ボランティアと自由会話を行う
教材・支援方法	・はじめてのにほんごくらす： ひらがな練習、あいさつ等の基礎学習を取り入れる ・にほんごで はなそう！ぺらぺらすいようび： 大学生ボランティア中心の運営、自由会話による支援 ・多言語資料の有無：記載なし ・ICT 活用：「はじめてのにほんごくらす」はオンラインで行う （配信方法・使用ツールは記載なし）
評価方法・効果測定	記載なし
特徴・備考	・「はじめてのにほんごくらす」は、はじめて日本語を学ぶ人向けの入門枠として位置づけられ、全 6 回のコースを年 4 回実施する運用となっている ・「にほんごで はなそう！ぺらぺらすいようび」は、ボランティアと自由会話を行う交流型として運営され、市内の大学生ボランティアが中心とされる ・ぺらぺらすいようびは無料・申込不要・日本語レベル不問とされ、参加のハードルを下げている ・「日本語学習支援者になるための講座」を併設し、修了者が同事業や市内活動へ参加する流れを想定している
参考 URL	・https://www.plaza-sapporo.or.jp/citizen_j/article/?cat=5&scat=62 ・https://www.sapporolife.info/article/?id=13

No.07　多文化理解新発見講座

授業等の名称	多文化共生パートナー育成講座
実施主体	独立行政法人国際協力機構 中部センター（JICA 中部）／名古屋 NGO センター／東海市民社会ネットワーク（共催）
対象者	多文化共生に関心のあるユース（高校生、大学生、若手社会人）
実施期間・回数・時間	令和 6 年 11 月～12 月、全 3 回（別途：事前オンラインオリエンテーション 1 回）
実施時間	・第 1 回：令和 6 年 11 月 2 日(土) 11:00～17:00 ・事前オリエンテーション：令和 6 年 11 月 9 日(土) 16:00～17:10（オンライン） ・第 2 回：令和 6 年 11 月 16 日(土) 10:00～17:00 ・第 3 回：令和 6 年 12 月 7 日(土) 10:00～17:00
会場／学習形態	・第 1 回・第 3 回：JICA 中部、対面・交流型（ワークショップ／講演を含む） ・第 2 回：豊田市保見団地、現場訪問・交流型 ・事前オリエンテーション：オンライン
学習概要	・ピロンギング（誰もが居場所を感じ活躍できる社会）の実現に向けた視点形成を目的とする ・多文化共生社会の推進について考え、ユースが「自分にできるアクション」を具体化するきっかけを作る ・異なる背景をもつ人々との対話・現場理解を通じた相互理解の促進につながる
学習内容／項目	■ プログラム 1（第 1 回：交流会＋ワークショップ＋講演） ・南米の言語・文化を扱う交流会 ・無意識の差別／偏見（マイクロアグレッション）を扱うワークショップ ・特別講演「日本社会と南米日系人」（講師：松宮朝氏）を実施 ■ プログラム 2（第 2 回：現場訪問＋交流） ・豊田市保見団地を訪問し、海外ルーツの人びとの生活の場を知る ・学習支援教室（JUNTOS）訪問等を通じ、海外ルーツの子ども支援の現場に触れる ・地域で活動する関係者（支援者、日系ブラジル人の若者、教育活動団体、介護事業者等）との交流 ■ プログラム 3（第 3 回：まとめ＋アクションづくり） ・第 2 回の振り返りを行い、ピロンギングの理解を深める ・学びと気づきを踏まえた発表を行う

	等）を収集 ・講座終了後、希望者を募って活動継続を予定
特徴・備考	・定員 40 名（先着順・要予約）、参加費無料（交通費・昼食代は自己負担） ・全 3 回を通して「ピロンギング（誰もが居場所を感じ活躍できる社会）」を中核テーマとしている ・過年度参加者が企画段階からコアメンバーとして参画し、当日も司会・ファシリテーターを担う点が特徴となっている ・現地訪問を行い、海外ルーツの子どもやユースとの交流によって、当事者の経験・視点を直接聞く学習機会を設けている
参考 URL	・https://nangoc.org/2024/09/03/jica-tabunka2024/ ・https://www.jica.go.jp/domestic/chubu/information/topics/2024/1562762_52346.html ・https://www.youtube.com/watch?v=EnczXwAulpM

	・条件が違うところからボールを箱に向かって投げるという、特権を考えるアクティビティを通じて、マジョリティ側が苦労することなく得ている権利を考える  
教材・支援方法	・体験型（南米文化の学習／現場訪問）と対話型（交流会）を組み合わせた設計 ・ワークショップ（偏見・マイクロアグレッション、特権を扱う活動）を取り入れる ・ICT 活用：事前オリエンテーションをオンラインで実施 ・過年度参加者が企画段階から参画し、当日は司会・ファシリテーターとして支援する運用となっている
評価方法・効果測定	・全 3 回参加者に修了証を交付する ・第 3 回に発表を行い、学びの整理と共有の機会としている ・参加者からの感想（現地で見て体で感じた、他者の意見が得られた

No.08　やさしい日本語×多文化共生

授業等の名称	やさしい日本語×多文化共生
実施主体	埼玉県
対象者	・県内在住・在勤・在学の方を中心に、県内で外国人住民支援に関心のある方 ・日本語での研修理解が可能であれば、国内在住の外国人も参加可能
実施期間・回数・時間	令和 7 年 8 月 16 日（土）・10 月 25 日（土）・12 月 12 日（土）・令和 8 年 2 月 11 日（水・祝日）の全 4 回
実施時間	4 回ともに 13:30～16:00
会場／学習形態	・第 1 回・第 3 回：オンライン（Zoom） ・第 2 回：越谷市中央市民会館 5 階・第 4～6 会議室 ・第 4 回：ソニックシティ 市民ホール
学習概要	・日本人住民と外国人住民が互いの立場を理解し、安心して暮らせる地域づくりにつなげる ・身近な外国人とのコミュニケーションにおける「やさしく伝える力」を高め、地域での関わりを後押しする ・多文化共生に係るボランティア人材の育成（受講後の認定を前提）
学習内容／項目	■ プログラム 1 ・やさしい日本語：「やさしい日本語」の基礎と今日から使える話し方のコツ ・多文化共生理解：日本人とのコミュニケーションとよくある勘違い ・ボランティア活動紹介 ■ プログラム 2 ・やさしい日本語：コミュニケーションにおけるやさしい日本語の効果 ・多文化共生理解：在住外国人パネルディスカッション ・ボランティア活動紹介 ■ プログラム 3 ・やさしい日本語：やさしい日本語の活用による効果 ・多文化共生理解：多様なルーツを持つ人々と共に生きる社会 ・ボランティア活動紹介 ■ プログラム 4 ・やさしい日本語 ・多文化共生理解 ・ボランティア活動紹介

	
教材・支援方法	ICT 活用：Zoom ウェビナー形式を採用（回によって会場開催もあり）
評価方法・効果測定	
特徴・備考	・定員 150 名（オンライン）、参加費無料 ・専門家・大学教員等の講義に加え、外国ルーツの講師や在住外国人のパネルディスカッションを取り入れ、生活者視点の理解を補強する ・「埼玉県多文化共生ボランティア登録システム」により、研修受講者等を登録対象とし、募集情報や研修会等の情報をメール配信する仕組みを設けている ・地域でボランティアを募集する団体の活動紹介を含め、学習と地域活動の接点を示す内容が中心
参考 URL	・https://www.pref.saitama.lg.jp/a0306/tabunkakyousei/shienvol.html ・https:// www.pref.saitama.lg.jp/workinsaitama/company/event/022.html?utm_source=chatgpt.com ・https:// www.pref.saitama.lg.jp/documents/221514/20251213tirashi_v04.pdf?utm_source=chatgpt.com

評価方法・効果測定	
特徴・備考	・定員 70 名、参加費無料 ・第 1 部は「やさしい日本語」を軸に、ハンドブック等の資料を用いて、身近な課題や伝わりやすい表現を扱う ・第 2 部は区内在住の外国人 3 名（中国、インドネシア、台湾）が登壇し、当事者の経験にもとづく語りを共有する ・パネルディスカッションでは「品川区に住もうと思った理由」「災害に関する不安」「文化差への対応」「日本人との間の壁を減らすために必要なこと」等の論点が扱われている
参考 URL	https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/PC/kuseizyoho/kuseizyoho-siryo/kuseizyoho-siryo-denshi/kuseizyoho-siryo-denshi-procedure/kuseizyoho-siryo-denshi-procedure-event/20220921100641.html

No.09　聞かせて！外国人の日本生活

授業等の名称	聞かせて！外国人の日本生活
実施主体	東京都品川区
対象者	品川区内在住・在勤・在学の中学生以上の方
実施期間・回数・時間	令和 5 年 12 月 3 日（日）、1 回開催、90 分構成
実施時間	10:00～11:30
会場／学習形態	品川区役所 第三庁舎 6 階 講堂（対面、講義＋パネルディスカッション）
学習概要	・品川区に暮らす外国人住民の状況や生活上の視点に触れ、多文化共生への理解を深める ・外国人とのコミュニケーションにおける「やさしい日本語」等の考え方を踏まえ、地域での相互理解につながる視点の獲得を行う
学習内容／項目	■ プログラム 1 専門家による多文化共生に関する講義（品川区の外国人住民の状況、多文化共生、「やさしい日本語」の活用等） ■ プログラム 2 パネルディスカッション「聞かせて！外国人の日本生活」（言語のわかりやすさ、ごみ出し、子育て、自国との違い、品川区で暮らす魅力等の共有） 
教材・支援方法	

No.10　多文化共生を考える 2 つの講座

授業等の名称	多文化共生を考える 2 つの講座
実施主体	軽井沢町（総合政策課 共生社会推進係）
対象者	多文化共生に関心のある方
実施期間・回数・時間	令和 7 年 9 月 11 日（木）～令和 7 年 12 月 2 日（火）、全 2 回
実施時間	13:30～16:30
会場／学習形態	中央公民館
学習概要	・日本人・外国人を地域住民として捉え、相互理解と尊重に基づく安心した地域生活につながる視点を整理する ・地域行事参加や災害時の共助等、地域における共生社会の実現のための基盤形成が期待される
学習内容／項目	■ プログラム 1 やさしい日本語講座（近所・職場・学校・病院、避難所等で「伝わる」表現を学ぶ） ■ プログラム 2 多文化共生ワークショップ（「多様だとゆたかになるとは」等の問いを手がかりに、外国人住民との共生を考える） 
教材・支援方法	

評価方法・効果測定	
特徴・備考	・定員 30 名、参加費無料 ・全 2 回を「やさしい日本語講座」と「多文化共生ワークショップ」に分け、テーマ別に学ぶ構成になっている ・やさしい日本語講座は、避難所・近所の店・職場・学校・病院等の具体場面で「伝わる」表現を扱う ・多文化共生ワークショップは、「多様だとゆたかになる」といった問いを手がかりに、外国人住民との共生を考えるワークショップを行う
参考 URL	https://www.town.karuizawa.lg.jp/uploaded/attachment/6554.pdf

No.11　多文化共生マネージャー養成研修

授業等の名称	多文化共生マネージャー養成研修
実施主体	一般財団法人自治体国際化協会
対象者	・地方公共団体職員、地域国際化協会・市区町村国際交流協会の職員で、多文化共生施策を担当している者（実務経験 1 年以上） ・多文化共生に関連して地方公共団体や地域国際化協会と協働実績のある NPO または NGO 職員で、地方公共団体や地域国際化協会から受講推薦を受けた者（実務経験 1 年以上）
実施期間・回数・時間	・第 1 部：令和 7 年 7 月 30 日（水）～8 月 1 日（金）の 3 日間 ・第 2 部：令和 7 年 9 月 10 日（水）～9 月 12 日（金）の 3 日間 ・全 2 部（計 6 日）＋課題研究を修了要件として設定
実施時間	・7 月 30 日：12:00～17:30 ・7 月 31 日、9 月 10 日、9 月 11 日：9:00～17:30 ・8 月 1 日、9 月 12 日：9:00～16:20
会場／学習形態	・第 1 部：AP 横浜会議室（神奈川県横浜市）での対面形式 ・第 2 部：Zoom でのオンライン形式
学習概要	・多文化共生社会の進展に対応するための専門的知識の習得を目的としている ・地域の関係機関・部局等との連携能力の獲得につなげる ・外国人住民と共に地域活性化を行う、施策・事業の企画立案能力の向上
学習内容／項目	■ プログラム 1 在留資格制度と外国人受入環境整備、地域における多文化共生施策、日本語教育の推進等の講義 ■ プログラム 2 現状の課題整理・共有、ふりかえり・討論等のグループワークを通じて地域課題の可視化を促す ■ プログラム 3 多文化防災、子育て支援、多言語相談対応、海外ルーツの子どもの教育支援、推進プラン策定と運用、コミュニティづくり、難民等支援、意識啓発等の事例紹介と、事業計画策定手法の講義

	 
教材・支援方法	・配布資料を用い、講義・事例紹介・グループワークで学習を進める ・第 2 部で Zoom を活用し、オンライン環境での参加を前提に構成
評価方法・効果測定	・両部すべての講義受講が修了条件であり、片方のみの参加は不可としている ・全 2 部および課題研究の修了者を「多文化共生マネージャー（タブマネ）」として認定する
特徴・備考	・定員 40 名、参加費無料(交通費・宿泊費・食費等は各自負担) ・第 1 部で希望者のみ、多文化共生関連機関の視察を実施 ・「多文化共生マネージャー（タブマネ）」は、施策の立案・実践や関係者間のコーディネートを担う人材として位置づけられる ・本研修（全 2 部）と課題研究の修了を認定要件とし、要件を満たした者に認定証書を交付する ・課題研究は「事前課題」「事業計画書」「映像課題」の 3 点で構成し、提出が認定要件に含まれる ・映像課題は 10～15 分程度のプレゼン動画（MP4 等）提出を求め、受講者間で共有したうえで相互のフィードバック提出を求める
参考 URL	・https://www.clair.or.jp/j/multiculture/jiam/tabumane_yousei.html ・https://www.clair.or.jp/j/multiculture/docs/01_youryou.pdf

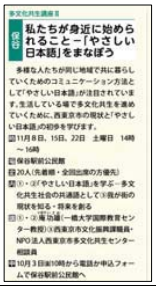
No.12　やさしい日本語研修

授業等の名称	やさしい日本語研修
実施主体	静岡県浜松市
対象者	日本人社員（主に日本語を母語とする社員を想定）
実施期間・回数・時間	令和 7 年、1 回
実施時間	2 時間
会場／学習形態	・講師を派遣 ・ワークショップ主体の座学
学習概要	・外国人社員にも伝わる指示・やりとりを成立させ、誤解や行き違いの低減につなげる ・「伝えたいことを明確に伝える」スキルを磨き、社内コミュニケーションの活性化を促す
学習内容／項目	■ プログラム 1 ・浜松市における多文化共生社会に向けた取組（背景理解） ・政府による「やさしい日本語」普及推進（位置づけ整理） ■ プログラム 2 ・やさしい日本語とは（概念整理） ・やさしい日本語と異文化理解（コミュニケーション上の論点整理） ■ プログラム 3 ・実践：やさしい日本語への変換（業務指示等の言い換え演習を想定） ・まとめ

	 
教材・支援方法	・教材：やさしい日本語研修ワークブック（入門編） ・オリジナルテキストを用いた学習（日本語の調整のコツの習得が中心） ・方法：ワークショップ主体（座学＋演習の構成を想定）
評価方法・効果測定	
特徴・備考	・受講者目安：20 人程度、5 人以上で講師派遣 ・「方言」「敬語」等の学習上の前提を踏まえ、外国人の立場に立った説明・変換練習を取り入れる構成になっている ・「多文化共生マネージャー（タブマネ）」は、施策の立案・実践や関係者間のコーディネートを担う人材として位置づけられる ・本研修（全 2 部）と課題研究の修了を認定要件とし、要件を満たした者に認定証書を交付する ・課題研究は「事前課題」「事業計画書」「映像課題」の 3 点で構成し、提出が認定要件に含まれる ・映像課題は 10〜15 分程度のプレゼン動画（MP4 等）提出を求め、受講者間で共有したうえで相互のフィードバック提出を求める
参考 URL	・https://www.hi-hice.jp/ja/job/fixation-support/easy-japanese-training ・https://www.hi-hice.jp/uploads/86b9abc254614e8d12d9fc984d98a406.pdf

測定	
特徴・備考	・定員：20 人 ・言い換えや文書作成のワークショップを取り入れる ・「やさしい日本語」を、同じ地域で共に暮らすためのコミュニケーション方法として位置付け、初歩の理解を主題としている ・西東京市の現状理解と結び付けて学ぶ構成であり、言語知識のみで完結しない設計が見られる ・全 3 回のうち、「やさしい日本語」は大学教員、「我が街の現状を知る・将来を創る」は市職員と NPO 相談員が担う体制で、専門知と地域実務の双方を扱う形式となっている
参考 URL	・https://www.city.nishitokyo.lg.jp/kosodate/kyoiku/kyoiku_kouhou/kouminkan/2025_r7/dayori_No293.html ・https://www.city.nishitokyo.lg.jp/kosodate/kyoiku/kyoiku_kouhou/kouminkan/2025_r7/dayori_No293.files/dayori_293_3.pdf ・https://www.city.nishitokyo.lg.jp/kosodate/kyoiku/kyoiku_kouhou/kouminkan/2025_r7/dayori_No293.files/dayori_293_all.pdf

No.13　私たちが身近にできること―「やさしい日本語」を学ぼう―

授業等の名称	私たちが身近にできること―「やさしい日本語」を学ぼう―
実施主体	東京都西東京市
対象者	市内在住、在勤、在学者優先
実施期間・回数・時間	令和 7 年 11 月 8 日(土)・11 月 15 日(土)・11 月 22 日(土)の全 3 回
実施時間	各回 14:00〜16:00
会場／学習形態	保谷駅前公民館
学習概要	・地域で多様な人々が共に暮らす前提のもと、「やさしい日本語」をコミュニケーション方法として理解する ・西東京市の現状理解を踏まえて、参加者が地域で取り組める行動を検討するきっかけにする
学習内容／項目	■ プログラム 1 「やさしい日本語」を学ぶ（多文化共生社会の共通語として位置付け、初歩を扱う内容が中心） ■ プログラム 2 「やさしい日本語」を学ぶ（言い換えや文書作成等のワークショップ） ■ プログラム 3 我が街の現状を知る・将来を創る（市の施策・相談支援の実例に触れる） 
教材・支援方法	
評価方法・効果	

No.14　市民のための「やさしい日本語」講座―

授業等の名称	市民のための「やさしい日本語」講座
実施主体	公益社団法人さいたま観光国際協会
対象者	さいたま市内在住・在勤・在学の方
実施期間・回数・時間	令和 7 年 7 月 10 日（木）の全 1 回
実施時間	13:30〜16:00
会場／学習形態	浦和コミュニティーセンター 第 15 集会室
学習概要	・「やさしい日本語」を学び、外国人に伝わる言葉での意思疎通を促す ・日本人と外国人が生活の場でスムーズにコミュニケーションすることを目指す
学習内容／項目	■ プログラム 1 「やさしい日本語」の理解（講義中心） ■ プログラム 2 ワークショップ：外国人市民との会話体験 
教材・支援方法	会話体験を中心とする体験型学習を取り入れる
評価方法・効果測定	・受講者アンケート（回答数 26：日本人 20 名、外国人 6 名） ・理解度（「とてもよくわかった」65%、「わかった」23%、「まあまあわかった」12%） ・講師説明の評価（「とても良かった」85%、「良かった」15%）

	・ワークショップ評価（「とても良かった」88%、「良かった」12%）
特徴・備考	・定員 60 名、参加費無料 ・講師：有田玲子氏 ・講義（やさしい日本語の考え方）と、外国人市民との会話体験（会話コーナー）を組み合わせた、実践付きの構成になっている ・アンケートの自由記述では「もっと外国の方と話したい」「ワークショップが有意義」等の反応が確認でき、交流要素への関心が高い傾向が見られる ・市内の外国人住民増加を背景に、職場・学校・地域での接点が増えたことを前提とした市民向け講座として構成されている
参考 URL	・https://stib.jp/international/lecture/4655/ ・https://stib.jp/international/wp-content/uploads/yasashii-nihongo_compressed.pdf

No.16　多文化共生コーディネーター研修

授業等の名称	多文化共生コーディネーター研修
実施主体	公益財団法人東京都つながり創生財団
対象者	・都内区市町村、地域国際交流協会、社会福祉協議会の職員 等 ・都内の多文化共生に関わる市民団体関係者等 ・現にコーディネーター役割の担当者、または将来担当予定者を想定
実施期間・回数・時間	令和 5 年 6 月 15 日（木）～令和 5 年 7 月 13 日（木）の全 4 回
実施時間	各回 9:00～17:00
会場／学習形態	・外国人在留支援センターFRESC 大会議室 ・研修前に「多文化共生基礎研修」の録画視聴を求める
学習概要	・東京都内で暮らす外国人住民の多様なニーズに対応し、多文化共生社会を支える専門人材（多文化共生コーディネーター）の育成を目的としている ・関係部署・団体間の連携や協働を進め、企画を立案して取り組む担い手を育成する
学習内容／項目	■ プログラム 1　6 月 15 日（木） ・多文化共生の概論（行政の取組の歴史・現状・課題）と、都の多言語相談ナビの紹介等の基礎情報を扱う ・外国人の法律相談や多言語・多文化に配慮した情報提供を学び、振返りと「コーディネーターの意義と役割」グループワークにつなげる ■ プログラム 2　6 月 22 日（木） ・外国にルーツがある児童・生徒の学習支援と、日本語教育の考え方を中心に取り上げる ・外国人の就労・労働相談やテーマ別の振り返り（日本語教育／就労・労働）を行う ■ プログラム 3　7 月 6 日（木） ・多文化共生と防災の課題、地域における包括的外国人支援、ボランティア制度と外国人支援 ・福祉分野の演習とフィールドワークを実施し、現場理解と支援連携の視点を深める ■ プログラム 4　7 月 13 日（木） ・外国人住民の社会参画をテーマにしたパネルと、医療・保健現場の多言語対応等の課題 ・多文化共生の意識づくり（多様性・人権尊重等）を取り上げ、フィールドワーク報告～発表～講評・閉講式を行う

■6 月 15 日（木）

時限	時間	当日の内容
1 時限目	9:00～10:20	・開講式 ・イントロダクション ・「多文化共生のこれまでとこれから」 多文化共生に係る行政の取り組みの歴史と現状および今後の課題 講師：山脇啓造 氏（明治大学教授）
2 時限目	10:30～11:50	「外国人相談」 ・東京都多言語相談ナビ 講師：野村雅美 氏（公益財団法人東京都つながり創生財団 多文化共生課 課長代理） ・外国人の法律相談 講師：冨田さとこ氏（法テラス本部 国際室）
3 時限目	13:00～14:20	「情報提供」 多言語・多文化に配慮した外国人住民への情報提供 講師：中村暁晶 氏（公益財団法人横浜市国際交流協会 多文化共生推進課担当課長）
4 時限目	14:30～16:30	「コーディネーターについて考えるグループワーク」 多文化共生コーディネーターの意義と役割 講師：山脇啓造 氏／長倉美紀 氏／新居みどり 氏／平野智子 氏
5 時限目	16:30～17:00	振り返り

■6 月 22 日（木）

時限	時間	当日の内容
1 時限目	9:00～10:20	「日本語教育」 地域日本語教育とは 講師：神吉宇一 氏（武蔵野大学教授、東京の地域日本語教育に係る調整会議座長）
2 時限目	10:30～11:50	「子どもの教育」 外国につながる児童・生徒の学習支援

		講師：佐藤郡衛 氏（明治大学国際日本学部特任教授、国際交流基金日本語国際センター所長）
3 時限目	13:00～14:20	「就労・労働」 ・外国人の就労（東京都産業労働局 雇用就業部東京外国人材採用ナビセンター） ・労働相談 講師：藤園光 氏（東京労働局 外国人特別相談・支援室）
4 時限目	14:30～16:30	「災害対応」 多文化共生社会における防災の課題とコーディネーターに求められる視点 講師：羽賀友信 氏
5 時限目	16:30～17:00	振り返り

■7 月 6 日（木）

	時限	時間	当日の内容
	1 時限目	9:00～10:20	「医療・福祉」 多言語対応、医療通訳、通訳ボランティアなど医療・保健現場における課題 講師：西村明夫 氏（一般社団法人日本公共通訳支援協会 代表理事）
	2 時限目	10:30～11:50	「福祉」 ・地域における包括的外国人支援 講師：宮坂誠 氏社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会 CSW 担当チーフ） ・ボランティア制度と外国人支援 講師：永松誠 氏（社会福祉法人千代田区社会福祉協議会 ちよだボランティアセンター長）
	3 時限目	13:00～13:50	演習ワーク／演習準備
	4 時限目	14:00～17:00	フィールドワーク ※以下から 1 か所選択する ・特定非営利活動法人 IWC 交際市民の会（外国人につながる子どもたちへの学習支援等） ・東京外国人雇用サービスセンター、新宿外国人雇用支援・指導センター ・しんじゅく多文化共生プラザ、大久保図書館（外国人に係る活動など）

■7 月 13 日（木）

時限	時間	当日の内容
1 時限目	9:00～10:20	「意識啓発」 多様性や人権尊重等／多文化共生の意識づくり 講師：星野ルネ 氏（漫画家・タレント）
2 時限目	10:30～11:50	「社会参画」 外国人住民による社会参画（地域活性化やグローバル化への貢献等） パネリスト：大城スサーナ 氏（神奈川県立相模向陽館高等学校 非常勤講師）／李承珉 氏（新大久保語学院長・DEKIRU 株式会社代表）／星野ルネ 氏（漫画家・タレント） 進行：山脇啓造 氏

	・修了者に受講 1 年後の活動報告書提出を求める
特徴・備考	・定員 30 名、参加費無料 ・講義→演習（準備）→フィールドワーク→報告・発表の順で、知識理解と実践検討を往復させる流れが見られる ・訪問先の候補が「子どもの学習支援」「外国人雇用支援」「多文化共生プラザ／図書館」に分かれており、教育・就労・地域拠点という異なる接点で理解を深めるねらいが見られる ・フィールドワークは訪問先を複数提示し「いずれか 1 か所」としており、関心領域や担当業務に応じた選択型学習を取り入れる運用になっている
参考 URL	・https://tabunka.tokyo-tsunagari.or.jp/info/2023/04/26.html ・https://tabunka.tokyo-tsunagari.or.jp/info/files/57cd492e24d5349f17c237c85a873b32_1.pdf

	3 時限目	13:00～13:30	フィールドワーク報告
	4 時限目	13:30～14:30	発表準備
	4 時限目	14:40～16:40	発表





教材・支援方法	・録画教材（事前の「多文化共生基礎研修」）の視聴を求める ・フィールドワーク等の体験型要素を取り入れる
評価方法・効果測定	・出席：全科目の 8 割以上を要件としている ・グループワーク、振り返り、フィールドワーク、発表が必須 ・発表原稿の提出を求め、要件を満たした者に修了証書を発行

No.17　多文化共生講座

授業等の名称	多文化共生講座
実施主体	熊本県 長洲町役場 まちづくり課（企画調整係）
対象者	誰でも可
実施期間・回数・時間	令和 7 年 12 月 14 日（日）、令和 8 年 1 月 25 日（日）の全 2 回
実施時間	全日 13:30～16:30
会場／学習形態	多世代交流施設 にじいろはうす
学習概要	・日本や地域で生活する外国人住民の状況・感じていることへの理解を促す ・多文化共生に必要な視点の獲得や、場面に応じた伝わりやすい伝達方法の習得につなげる
学習内容／項目	■ プログラム 1 ・講義「多文化共生とは」 講師：八木浩光氏（熊本市国際交流振興事業団 常務理事） ・「熊本の外国人」熊本在住の外国人が熊本での体験を話す ■ プログラム 2 ・「やさしい日本語を学ぼう！」外国人にも伝わりやすい表現を学ぶ 講師：道本ゆう子（日本語教師、地域日本語教室コーディネーター） ・「やさしい日本語で話そう！」長洲町在住の外国人住民等との対話
教材・支援方法	・会講義（専門家）と、外国人住民の体験談共有を組み合わせる ・対話活動（やさしい日本語で話す交流）を取り入れる
評価方法・効果	



測定	
特徴・備考	・定員 40 名、参加費無料 ・全 2 回で、第 1 回は講義＋体験談、第 2 回はコミュニケーション実践（やさしい日本語＋対話）という構成になっている ・第 1 回の体験談では、熊本在住のベトナム・ネパール出身者が出身国や来日後に感じたことを語った ・実施報告では、参加者が言語の特徴（例：ベトナム語の発音）に触れて驚く場面が記載されている
参考 URL	・https://www.town.nagasu.lg.jp/soshiki/machizukuri/kikaku/1762914154241 75/ ・

	■ プログラム 5　7 月 11 日（金） ・日本語「発表会準備」 ・祇園まつり見学 ■ プログラム 6　7 月 12 日（土） ・発表会、閉講式  

No.18　日本語日本文化サマープログラム

授業等の名称	日本語日本文化サマープログラム
実施主体	公益財団法人ひろしま国際センター
対象者	・日本国外のインターナショナルスクールや現地校に通う生徒 ・１２歳～15 歳（中学生）で、生徒の国籍は問わないが、両親のいずれか、または両方が日本国籍を有する方 ・初級レベル（JLPTN4 または CEFRA2）以上の日本語能力を有する方 ・日本文化や日本語など、日本とのつながりを維持または深めていきたい方
実施期間・回数・時間	・令和 7 年 7 月 7 日（月）～令和 7 年 7 月 12 日（土） ・宿泊：5 泊 6 日
実施時間	全日 9:30～16:20
会場／学習形態	ひろしま国際プラザ
学習概要	・共通の背景を持つ青少年同士が各々の価値観や想いを共有することで視野を広げる ・同世代が一定期間ともに生活することで、日本語を自然に話す機会を増やす ・幅広い年齢層の日本人との交流や日本文化体験を通して、日本に対する興味と理解を深める ・学校文化や授業内容に慣れる時間がなく、居心地が悪い想いをする子供たちに対して、各々の日本語能力に応じたサポートを受けながら、日本語および日本文化に向き合うきっかけをつくる
学習内容／項目	■ プログラム 1　7 月 7 日（月） ・開講式、ID 撮影、館内案内、生活オリエンテーション ・アイスブレーキング、研修オリエンテーション ・日本語「仲間と話そう」、折り鶴アート体験 ■ プログラム 2　7 月 8 日（火） ・平和記念資料館・平和記念公園の見学 ・宮島散策 ■ プログラム 3　7 月 9 日（水） ・日本語「広島の中学生と話してみよう」、学校訪問 ・茶道体験 ■ プログラム 4　7 月 10 日（木） ・日本語「地元の人と話してみよう」 ・郷土料理作り体験 ・日本語「研修の振り返り」

	
教材・支援方法	・日本語専任講師が研修をデザイン・運営し、日本語能力に応じたサポートを提供する ・文化体験（折り鶴アート、茶道、料理等）や同世代・地域住民との交流を体験型教材として用いる
評価方法・効果測定	体験記録、成果物等のポートフォリオを評価対象とし、講師が確認のうえフィードバックして返却する
特徴・備考	・定員 12 名程度 ・参加費：88,000 円（宿泊・食事・日本語活動・訪問時の交通費・入場料を含む）、付き添い：37,000 円（5 泊 6 日、朝食込み） ・対象を 12～15 歳の海外在住層に絞り、宿泊を伴った日本語学習と「ルーツ／多文化背景」の再確認を主題にしている ・学校訪問を含み、同世代交流を学習要素として取り入れる点が特徴 ・平和学習（平和記念資料館・平和記念公園見学）と宮島散策での現地学習を連動させ、地域理解を促す流れが確認できる
参考 URL	・https://hiroshima-hip.or.jp/en/new/2025-japanese-language-culture-summer-program/ ・https://hiroshima-hip.or.jp/wp-content/uploads/2025/04/2025SP-Program-Outline.pdf

No.19　外国人留学生のための「キャリア日本語講座」

授業等の名称	外国人留学生のための「キャリア日本語講座」
実施主体	東北大学キャリア・社会連携支援センター キャリア支援室
対象者	・東北大学の外国人留学生向け ・日本語能力 N3 以上、または同程度の日本語理解が推奨される
実施期間・回数・時間	令和 7 年 10 月 20 日（月）～令和 8 年 1 月 16 日（金）、全 6 回
実施時間	・第 1～3 回、第 5 回：18:30～19:30 ・第 4 回：上級者向け 12:00～／初級者向け 18:30～ ・特別講座：午前・午後の 2 回
会場／学習形態	・対面会場：川内北キャンパス 教育・学生総合支援センター 東棟 4 階 ・対面／オンラインの選択制
学習概要	・日本での就職活動に必要な、場面別の実践的な日本語の習得につなげる ・日本のビジネスマナー理解を通じた、就職活動での不安軽減をねらう
学習内容／項目	■プログラム 1　第 1 回：10 月 20 日（月） 自己分析・志望動機・ＥＳ作成 ■プログラム 2　第 2 回：10 月 28 日（火） 日本でのキャリア構築・ビジネスメールの書き方 ■プログラム 3　第 3 回：11 月 10 日（月） エントリーシート作成 ■プログラム 4　第 4 回：11 月 17 日（月） ＳＰＩ対策講座 ■プログラム 5　第 5 回：12 月 1 日（月） ビジネスマナー・面接練習 ■プログラム 6　特別講座：1 月 16 日（金） 面接実践講座

(3) 地域定着支援に関する事例

No.01　外国人介護人材キャリアアップセミナー

授業等の名称	外国人介護人材キャリアアップセミナー
実施主体	福井県、ふくい外国人介護職員支援センター
対象者	・福井県内で就労する外国人介護人材（主に技能実習生、今回はタイ国籍 14 名対象） ・受入介護事業所職員（オンラインセミナー）
実施期間・回数・時間	・第 1 回：令和 6 年 2 月 27 日（火）13:30～16:30（対面） ・第 2 回：令和 6 年 3 月 6 日（水）14:00～16:00（オンライン）
実施時間	・第 1 回：13:30～16:30（3 時間） ・第 2 回：14:00～16:00（2 時間）
会場／学習形態	・第 1 回：福井県社会福祉センター 3 階 視聴覚室、対面ワークショップ形式 ・第 2 回：Zoom 等を用いたオンラインセミナー（受入事業所向け）
学習概要	・外国人介護人材が将来のキャリアビジョンを描くことを通じて、就労意欲や日本での定着につなげる ・受入事業所側がキャリア支援の重要性を再認識し、具体的な支援策や工夫を共有する
学習内容／項目	■プログラム 1（第 1 回：導入・コミュニケーション） 介護現場でも使えるジェスチャーゲーム等をアイスブレイクとして取り入れる ■プログラム 2（第 1 回：個人ワーク） ・来日当初の気持ち、来日理由、仕事・生活開始時の状況等を振り返る ・キャリアプランをワークシートに整理し、発表する ■プログラム 3（第 1 回：グループワーク・発表） ・「何年後どこで何をしているか」「夢・目指したいこと」等をテーマに意見をまとめ、グループで共有する ・日本に残る場合／帰国する場合の事例の提示、在留期間の見通しの確認、資格取得や在留資格変更に向けた準備時期の確認 ■プログラム 4（第 2 回：受入事業所向けオンライン講義） ・「外国人職員と働くということ」をテーマに、キャリアアップの仕組みや事業所の取り組み事例を紹介する ・本人のキャリアを尊重しつつ早期から面談を行い、中長期の計画提示につなげる ■プログラム 5（第 2 回：意見交換） グループに分かれ、定着に向けた課題やキャリア支援上の工夫を参加

	
教材・支援方法	・使用言語：日本語、英語（中国語のサポートあり） ・キャリア支援室教員がメンターとして就職活動をサポートする構成 ・オンラインも可
評価方法・効果測定	6 回すべて参加者への特典（モバイルバッテリー提供）
特徴・備考	・各回定員 50 名程度 ・就職活動で用いる日本語（メール・面接等）とビジネスマナーが中心 ・学習ニーズとして「就職活動の進め方が不明」「メールや電話対応が不安」「日本のビジネスマナー理解」等を想定して内容が組まれている ・第 4 回は上級者向け（令和 7 年 11 月 17 日（月）12:00～）と初級者向け（同日 18:30～）に分け、レベル差に配慮している
参考 URL	https://www.career.ihe.tohoku.ac.jp/event/event-10020/

	者間で共有する   
ICT 活用・日本語支援	・ワークシートを用いたキャリア整理（個人検討→共有）を取り入れる ・オンライン回は Zoom を活用し、グループ討議を実施している
評価方法・成果指標	受講後の参加者コメント（気づき・意識変容）を記録し、振り返りを行っている
特徴・備考	・タイ国技能実習生 14 名が参加 ・技能実習生本人のキャリア可視化と、受入側の支援体制の点検を同一セミナー枠で扱う点が特徴 ・日本残留／帰国のキャリア事例提示、在留期間・資格取得の見通し確認などの情報提供を行う ・オンライン回では質疑や意見交換で各事業所の支援体制・取り組みを共有し、学びの確認につなげている
参考 URL	・https://www.jica.go.jp/domestic/hokuriku/information/topics/2023/1534696_14632.html ・https://www.jica.go.jp/domestic/hokuriku/information/topics/2023/1534696_14632.html

No.02　日本語ボランティア入門 in 栄

授業等の名称	日本語ボランティア入門 in 栄
実施主体	神奈川県横浜市栄区役所
対象者	主に栄区・戸塚区で日本語ボランティアとして活動したい方、多文化共生に興味・関心がある方
実施期間・回数・時間	令和 7 年 11 月 26 日（水）～令和 7 年 12 月 10 日（水）、全 3 回開催
実施時間	各回 10:00～12:00
会場／学習形態	・会場：栄区役所 本館 4 階 2 号会議室 ・学習形態：対面中心（地域日本語教室の方との交流が含まれる）
学習概要	・外国につながる住民が暮らす地域の支援環境を背景に、地域における日本語支援の意義等を学ぶ ・日本語学習支援を通じて、地域に暮らす外国につながる人々と共に学び・支えあう場をつくる ・多文化共生社会における「日本語学習」と「やさしい日本語」を扱う
学習内容／項目	■第一回　11 月 26 日(水) ・栄区の多文化共生 ・地域日本語ボランティアとは？ ・日本語支援の現状と意義について学ぼう ■第二回　12 月 3 日(水) ・日本語っておもしろい！ ・日本語の特徴と日本語支援の実態を知る ■第三回　12 月 10 日(水) ・人・社会とつながる日本語とは？ ・多様な日本語学習支援について考える ・地域日本語教室の方と交流





ICT 活用・日本語支援	地域日本語教室の関係者との交流機会を組み込む
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・定員：25 名、参加費：無料 ・支援者側の不安（活動内容が分からない、参加に迷いがある等）を入口とし、地域日本語教室との接点・交流まで導く設計が特徴 ・「日本語学習」と「やさしい日本語」を扱い、学習支援をコミュニケーションと地域参加の基盤とする
参考 URL	・https://www.city.yokohama.lg.jp/sakae/kurashi/kyodo_manabi/manabi/shogaigakushu/omotenashi.html ・https://www.city.yokohama.lg.jp/sakae/kurashi/kyodo_manabi/manabi/shogaigakushu/omotenashi.files/0054_20251003.pdf

No.03　初めての特定技能外国人介護人材受け入れセミナー

授業等の名称	初めての特定技能外国人介護人材受け入れセミナー
実施主体	ジョイスリー株式会社
対象者	特定技能（介護分野）の外国人介護人材受け入れを初めて検討する介護事業者（日本国内事業者向け）
実施期間・回数・時間	令和 7 年 7 月 17 日（木）
実施時間	講演：13:30～15:10（計 100 分）、個別相談会：15:20～
会場／学習形態	Zoom ウェビナー
学習概要	制度概要、受け入れ準備、注意点、現場事例の提示を通じて、受け入れに伴う不安・疑問の軽減につなげる
学習内容／項目	■第 1 部 特定技能(介護)制度の基礎知識 ■第 2 部 初めての受け入れ準備～これだけは押さえておきたいポイント～ ■第 3 部 ・日の出医療福祉グループ　インドネシア労働省連携・特定技能介護人材育成紹介事業のご紹介 ・個別相談会（希望者のみ） 
ICT 活用・日本語支援	Zoom ウェビナーにて、講演・チャットでの質疑応答・個別相談会を行う
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・講師：社会福祉法人 日の出福祉会　高齢者総合ケア福祉施設 ふたばの里　宮本 忠臣施設長 ・参加費：無料 ・制度の理解→受け入れ準備→受け入れモデル紹介の順に、初学者が

	段階的に学べる流れになっている ・講演後に希望者向け個別相談会を行い、特定技能外国人介護人材を導入検討する際の個別課題に配慮している
参考 URL	https://joy3.co.jp/news/seminar2025/

No.04　明日からの仕事が楽しくなる「介護の仕事の魅力発見！」研修

授業等の名称	明日からの仕事が楽しくなる「介護の仕事の魅力発見！」研修
実施主体	福島県いわき市
対象者	市内の介護事業所等で勤務する在職 5 年未満の介護関係職員
実施期間・回数・時間	令和 7 年 2 月 15 日（土）
実施時間	10:00～17:00
会場／学習形態	・会場：いわき市産業創造館 企画展示ホール ・対面型のワークショップ（グループ共有、意見交換）
学習概要	・早期離職防止、定着促進、介護サービスの質向上を目的とする ・参加者が悩みや不安を言語化し、他者との交流を通じて課題の整理と次の行動につなげる
学習内容／項目	■プログラム 1 悩みの吐き出しと全体共有（現状の可視化、課題の把握） ■プログラム 2 ゲストトーク（介護の魅力、壁の乗り越え方等の体験共有） ■プログラム 3 話題提供「好循環と悪循環」等を用いた振り返り（やりがいのある職場／ない職場の観点で整理） ■プログラム 4 ワールドカフェ方式の対話とグループ発表（「楽しく働くために必要なもの」をテーマに深掘り）） ■プログラム 5 アクションプラン作成 

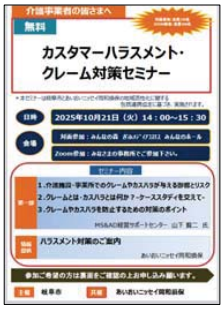
No.05　外国人介護人材のためのオンライン日本語教室

授業等の名称	外国人介護人材のためのオンライン日本語教室
実施主体	宮城県仙台市（健康福祉局 介護保険課）
対象者	仙台市内の介護サービス事業所で就労する外国人職員（在留資格不問）
実施期間・回数・時間	令和 7 年 9 月～令和 8 年 2 月（第 1 日程：9～10 月、第 2 日程：11～12 月、第 3 日程：1～2 月）、全 15 回、毎週月・木曜日
実施時間	18:00～20:00
会場／学習形態	オンライン（Zoom）
学習概要	・外国人介護人材の定着促進と人材育成が中心 ・介護業務に必要な日本語の語学力向上につなげる
学習内容／項目	■プログラム 1 介護の仕事で使う日本語を学ぶ（会話中心） ■プログラム 2 介護の言葉・漢字の学習 ■プログラム 3 介護記録の書き方（記録の書き方／言葉の使い方） 
ICT 活用・日本語支援	Zoom によるオンライン受講
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・定員：10 名、参加費：無料 ・「就労中の外国人介護職員」を主な対象とし、会話・用語・漢字・記

	 
ICT 活用・日本語支援	・事例提供・課題整理・アクションプラン作成を軸に、対話と協働を中心とした体験型学習を採用 ・グラフィックレコーディングを記録として取り入れている
評価方法・成果指標	・Google フォームによるアンケートを実施 ・アンケート調査期間：令和 7 年 2 月 15 日（土）～2 月 22 日（金） ・回収件数：94 件 ・満足度（回答数）：満足 53、やや満足 31、普通 7、不満 3
特徴・備考	・参加規模：85 事業所・101 名 ・参加者の心理的安全性を意識した「ここだけの話」前提の共有が見られる（満足理由の自由記述に複数言及） ・「悩みの言語化→他者との比較・共感→専門/経験談の共有→課題の再整理→アクションプラン作成」と段階的に行う流れが特徴 ・大人数（約 100 名規模）でも発話量を確保するため、グループワークとワールドカフェ方式を組み合わせている
参考 URL	・https://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1741841131397/index.html ・https://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1741841131397/simple/zissihoukoku.pdf

	録などで使用する日本語の学習を中心に設計されている ・週 2 回×夜間帯（18:00～20:00）を採用し、勤務後の受講を想定した運用が特徴
参考 URL	https://www.city.sendai.jp/kaigojinzaikakuho/nihongokyoushitsur7.html

No.06　カスタマーハラスメント・クレーム対策セミナー

授業等の名称	カスタマーハラスメント・クレーム対策セミナー
実施主体	岐阜県岐阜市（岐阜市福祉部 介護保険課）
対象者	介護保険施設・事業所等の管理者（施設長）
実施期間・回数・時間	令和 7 年 10 月 21 日（火）、1 回開催
実施時間	14:00～15:30（90 分）
会場／学習形態	・対面：みんなの森 ぎふメディアコスモス「みんなのホール」 ・オンライン：Zoom 参加
学習概要	高齢者人口の増加と介護人材不足を背景に、介護人材の確保や離職防止の観点から、クレーム・カスタマーハラスメント対応を学ぶ機会として開催する
学習内容／項目	■第一部 ・介護施設・事業所でのクレームやカスハラが与える影響とリスク ・クレームとは・カスハラとは何か？　ケーススタディを交えて ・クレームやカスハラを防止するための対策のポイント　他 ■情報提供 ハラスメント対策のご案内（あいおいニッセイ同和損保） 
ICT 活用・日本語支援	・講義＋ケーススタディを用いる設計になっている ・オンライン（Zoom）参加を取り入れるハイブリッド運用

No.07　失敗しない特定技能外国人の採用・定着支援セミナー

授業等の名称	失敗しない特定技能外国人の採用・定着支援セミナー
実施主体	株式会社スタッフ満足
対象者	これから本格的に外国人採用を検討する介護事業者・病院の担当者
実施期間・回数・時間	令和 6 年 11 月 14 日（木）
実施時間	14:00～15:00
会場／学習形態	・会場：株式会社スーパー・ホテルグループ本社 ・学習形態：対面中心
学習概要	関西で 55 棟の介護施設を運営する(株)スーパー・コートの事例をもとに、特定技能外国人の採用方法や受け入れ体制の構築について、実際に取り組んでいる内容を紹介する
学習内容／項目	・スーパー・コートの外国人採用から教育の取り組みについて ・特定技能制度のおさらい ・特定技能受入れ主要国の特徴 ・採用スケジュールとコスト ・受け入れ企業が注意すべき点 
ICT 活用・日本語支援	
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・参加費：無料 ・特定技能制度の理解と実務設計（採用スケジュール・コスト、受入れ

評価方法・成果指標	
特徴・備考	・定員：対面 150 名、Zoom500 名 ・参加費：無料 ・介護事業所の管理者（施設長）を主対象に据え、組織の対応としてのリスク把握→定義の整理→予防策を段階的に理解する内容が中心 ・ケーススタディを含む構成により、一般論の理解に加え、現場判断の具体化につなげる
参考 URL	・https://www.city.yokohama.lg.jp/sakae/kurashi/kyodo_manabi/manabi/shogaigakushu/omotenashi.html#87868 ・hthttps://www.city.gifu.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/028/940/20250919annaibun.pdf

	留意点）を扱う構成になっている ・現場定着・教育の不安に対してどのように受入れ体制を作るかを、スーパー・コートの実例で提示している
参考 URL	https://www.global.staff-manzoku.co.jp/seminar/06

No.08　外国人介護人材受入れ支援セミナー、外国人介護人材定着支援セミナー

授業等の名称	外国人介護人材受入れ支援セミナー、外国人介護人材定着支援セミナー
実施主体	三重県 医療保健部 長寿介護課 介護人材確保班
対象者	三重県内の介護事業者
実施期間・回数・時間	・受入れ支援セミナー：令和 7 年 8 月 20 日（水） ・定着支援セミナー：令和 7 年 9 月 16 日（火）
実施時間	・受入れ支援セミナー：14:00～15:30 ・定着支援セミナー：10:00～11:00
会場／学習形態	・受入れ支援セミナー：三重県勤労者福祉会館 地下 1 階 特別会議室＋オンライン（Zoom）のハイブリッド ・定着支援セミナー：オンライン（Zoom）
学習概要	外国人介護人材を採用後も職場に定着し活躍できるよう、外国人材の特性や現状、受入れ体制や職場文化、日本人職員側の受入れ準備を整理する
学習内容／項目	■ プログラム 1（受入れ支援セミナー） 外国人介護人材を取り巻く環境、概要・在留資格（EPA／在留介護／技能実習（育成就労）／特定技能）、採用プロセス、採用コスト、事例紹介の説明 ■ プログラム 2（定着支援セミナー） 外国人介護人材の国内状況、外国人材の特徴、受入れに必要な組織準備、日本人職員向けの受入れ準備を解説 ■ プログラム 3（関連：事業説明・支援導線） セミナーに併せて事業説明会の実施、希望に応じた個別相談会の設定、マッチング支援（手続き・各種手配等の案内）を行う

No.09　奈良県外国人介護人材受入セミナー

授業等の名称	奈良県外国人介護人材受入セミナー
実施主体	奈良県福祉医療部 医療・介護保険局 地域包括支援課
対象者	奈良県内の介護保険サービス事業所の経営者・施設長・指導担当者・採用担当者等
実施期間・回数・時間	・受入れスタートアップセミナー：令和 7 年 2 月 12 日（水） ・定着支援セミナー：令和 7 年 2 月 19 日（水）
実施時間	13:30～16:30
会場／学習形態	Zoom によるオンラインセミナー
学習概要	・外国人介護人材の受入れに関する制度理解や先進的な取り組み事例などを示し、参加者の不安を解消するプログラム ・外国人介護人材の定着促進に関する有効な手法や、資質向上に繋がる具体的な取り組みについての理解を図る ・外国人介護人材を担当している参加者間の日ごろの悩みや事例等の意見交換を実施する
学習内容／項目	■ 受入れスタートアップセミナー 外国人介護人材の受入れ制度の概要と受入れ時の留意点を押さえつつ、特養・グループホーム等の事例を通して初受入れ事業所が準備すべきポイントを整理する ■ 定着支援セミナー 定着支援の基本的考え方を踏まえ、特養・介護医療院等の事例とインドネシア・タイ出身職員の経験談を用いて、働き続けやすい環境づくりを学ぶ 受入れスタートアップセミナー：

時間	当日の内容
13:40～	外国人介護人材の受入にかかる各制度の概要
14:10～	外国人介護人材の受入に関する留意点
14:50～	受入事例発表① 社会福祉法人都慈会　特別養護老人ホーム都徳苑
15:20～	受入事例発表② 医療法人藤和会　グループホーム なごやか
15:50～	質疑応答

	 
ICT 活用・日本語支援	講義＋事例紹介を中心にオンライン（Zoom）を活用し、受入れ支援セミナーでは会場参加も選択可能
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・参加費：無料 ・受入れ支援セミナーは「在留資格の整理」「採用手順・コスト」「事例」を含み、初めて外国人介護人材の導入を検討している層も想定した内容になっている ・定着支援セミナーは「組織準備」「日本人職員の受入れ準備」を主に職場内の支援体制の整備に焦点を当てている ・単発のセミナーに加えて、事業説明会・個別相談会・マッチング支援への導線を用意し、学習と実務支援（採用・受入れ手続き、入国準備、入国後定着を見据えた準備）を連動させている
参考 URL	・https://www.pref.mie.lg.jp/TOPICS/m0015900110.htm ・https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001210928.pdf ・https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001205897.pdf

	定着支援セミナー：

時間	当日の内容
13:40～	定着支援への理解について
14:00～	受入事例発表① 社会福祉法人恵飯寺聚徳会 特別養護老人ホーム
14:30～	外国人介護職員の経験発表① 特別養護老人ホーム 光明園　介護福祉士（インドネシア出身）
15:00～	外国人介護職員の経験発表② 介護福祉士
15:30～	外国人介護職員の経験発表② （タイ出身）
15:50～	質疑応答



ICT 活用・日本語支援	オンライン（Zoom）を活用
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・参加費：無料 ・受入開始前の不安（制度理解・準備）と受入後の課題（定着・資質向上）を扱う ・施設種別の事例（特養、グループホーム、介護医療院等）と経験談を組み合わせ、一般論に偏らない内容となっている
参考 URL	https://jicwels.or.jp/?p=58775

No.10　外国人介護人材受入セミナー

授業等の名称	外国人介護人材受入セミナー
実施主体	宮城県保健福祉部長寿社会政策課
対象者	・外国人の雇用を検討している（又は雇用している）宮城県内に介護事業所を有する企業 ・宮城県内の介護事業所で就労している（又は就労を希望している）外国人
実施期間・回数・時間	令和 7 年 11 月 25 日（火）
実施時間	・セミナー：13:00～16:00 ・個別相談会：16:00～17:00
会場／学習形態	・会場：エル・ソーラ仙台 ・学習形態：対面＋オンライン（Zoom）によるハイブリッド形式
学習概要	外国人介護人材の適切な受入と定着支援に向け、現状理解、受入準備、在留資格制度の基礎理解、地方での定着支援のポイント整理を目的としている
学習内容／項目	■ プログラム 1 採用・定着について ・外国人介護人材の現状 ・在留資格制度の基本知識 ・新制度の詳細 ・地方に必要な定着支援とは ■ プログラム 2 採用・定着について 外受入事例紹介 社会福祉法人功寿会 ■ プログラム 3 個別相談会 

ICT 活用・日本語支援	・講義中心のセミナー構成となっており、オンライン参加に Zoom を用いている ・個別相談会は多言語対応（日本語、英語、インドネシア語、ミャンマー語、ベトナム語、ネパール語、中国語、韓国語等）となっている
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・定員：50 名 ・セミナーと個別相談会を併設する点が特徴 ・主に「制度理解（在留資格）」「受入準備」「地方での定着支援」「事例共有」「個別相談」を扱っている
参考 URL	https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/chouju/r7teicyaku.html f

No.11　特定技能外国人定着セミナー

授業等の名称	特定技能外国人定着セミナー
実施主体	株式会社プロシーズ
対象者	外国人スタッフの雇用を検討している介護施設
実施期間・回数・時間	令和 4 年 3 月 17 日（木）
実施時間	17:30～18:30
会場／学習形態	オンライン（Web セミナー形式）
学習概要	外国人介護スタッフの受入れと定着に必要な実務ポイントを、「協働体制」「入管手続きの効率化」「長期的教育計画」の 3 観点で整理し、現場運用につなげる
学習内容／項目	■ 第 1 部 協働体制づくり／連携事例 ・外国人スタッフの離職を防ぐ観点から、魅力的な職場づくりと教育体制の準備例を扱う ・介護施設と登録支援機関の連携事例を示し、現場での支援の組み立て方を整理する ・施設スタッフからの相談に対し、支援担当者と施設がどう連携して解決したかの事例紹介を行う ■ 第 2 部「入管手続き」業務効率 DX ・面接・内定後の在留資格手続、在留期限更新、3 か月ごとの雇用状況報告（四半期報告）など、入管関連の手続きを扱う ・「いつまでに／何を／どこへ提出するか」といった手続きの進め方を月単位で発生する業務として解説する ・入管手続きを効率化するシステムの紹介と手続きの負担を下げて定着支援に注力する方法を紹介する ■ 第 3 部 長期的教育計画のすすめ ・日本語、介護技能、各種試験対策について、最適なタイミングと学習方法を解説する ・スタッフのモチベーション維持につながる学習方法の紹介を行う 

ICT 活用・日本語支援	Web 配信を前提に構成されている
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・定参加費：50 名 ・介護現場の定着課題や定着支援を「職場側の体制整備（協働）」「管理業務の負担軽減（入管手続き DX）」「本人の成長支援（長期的学習設計）」に分解し、受入れ準備から継続支援までを扱う構成が特徴 ・教育計画では日本語・技能・試験対策のタイミング設計を明示し、モチベーション維持の手立てまで扱う構成になっている
参考 URL	・https://manabel-japan.com/seminar202203/ ・https://www.pro-seeds.com/news/6731/

No.12　外国人介護職員の円滑な受け入れのためのセミナー、外国人介護職員就労定着のためのセミナー

授業等の名称	外国人介護職員の円滑な受け入れのためのセミナー、外国人介護職員就労定着のためのセミナー
実施主体	兵庫県
対象者	県内で外国人介護職員を受け入れている、あるいは受け入れ予定の施設職員
実施期間・回数・時間	令和 7 年 3 月 10 日（月）
実施時間	13:30～16:15
会場／学習形態	オンライン配信（Zoom）
学習概要	在留資格制度を踏まえ、受入れ後の定着支援を主題として、現場での指導・日本語学習支援・コミュニケーション支援等の具体策を学ぶ
学習内容／項目	■ 第 1 部 外国人人材の現状と円滑な受け入れ・定着のためのポイント 外国人介護職員への対応と効果的な人材育成、受入れ後の指導方法を扱う ■ 第 2 部 外国人介護職員に対する日本語教育について 外国人介護職員に対する日本語教育（学習支援の考え方・支援方法）を学ぶ ■ 第 3 部 技能実習生の円滑な受入れに向けた施設の取り組み、介護技能実習生の体験談 施設職員間の情報交換会として、ノウハウ共有と課題共有を行う 

No.13　外国人介護職員介護技能等向上研修

授業等の名称	外国人介護職員介護技能等向上研修
実施主体	福岡県 保健医療介護部 高齢者地域包括ケア推進課 介護人材確保対策室
対象者	福岡県内で就労する介護職種の技能実習生及び介護分野における特定技能外国人の方
実施期間・回数・時間	各会場 全 5 回の開催　※第 3 回は原則会場参加 1.福岡会場　毎週月曜日 令和 8 年 1 月 26 日、2 月 2 日、2 月 9 日、2 月 16 日、2 月 23 日 2.北九州会場 毎週火曜日 令和 8 年 1 月 27 日、2 月 3 日、2 月 10 日、2 月 17 日、2 月 24 日 3.飯塚会場　毎週水曜日 令和 8 年 1 月 28 日、2 月 4 日、2 月 11 日、2 月 18 日、2 月 25 日 4.久留米会場 毎週木曜日 令和 8 年 1 月 29 日、2 月 5 日、2 月 12 日、2 月 19 日、 2 月 26 日
実施時間	1.福岡会場　　全日程 14: 00～17;00 2.北九州会場　　全日程 14:00 分～17:00 3.飯塚会場　　全日程 14:00 分～17:00 4.久留米会場　　全日程 13:30 分～16;30
会場／学習形態	学習形態：ハイブリッド形式（対面＋オンライン同時開催） 1.福岡会場　　エイムアテイン 2.北九州会場　ウェルとばた 3.飯塚会場　　飯塚商工会議所 4.久留米会場　久留米シティプラザ
学習概要	外国人介護職員の介護技能等の向上を目的に集合研修を実施し、県内の介護現場で円滑に就労・定着できる状態につなげる
学習内容／項目	・介護の基本（着脱・食事・移動・排泄・入浴） ・介護の日本語（コミュニケーション・記録・読解・漢字・言葉） ・文化理解（方言・指示の受け方・電話対応・食事のマナー・整理整頓）

ICT 活用・日本語支援	Zoom によるオンライン配信
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・定員：30 名、参加費無料 ・「長期就労」「転職防止」「コミュニケーション課題」等の現場課題を中心に内容を構成している ・講義＋情報交換会（参加施設間の共有）を取り入れている ・対象を「受入れ中／受入れ予定」の施設職員に限定し、受入れ～定着までの実務課題（指導、言語支援、日常コミュニケーション）に焦点を当てている
参考 URL	・https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf05/gaikoku-kenshu.html ・https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf05/documents/0109chirashi.pdf

	 
ICT 活用・日本語支援	・教材：テキスト「場面から学ぶ介護の日本語」（凡人社）、国際厚生事業団オリジナル教材を用いる ・ICT 活用：オンライン参加を含む
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・定員：対面・オンラインともに各 20 名、参加費無料 ・介護技能と現場での日本語（記録・読解・漢字を含む）学習を中心に内容を構成している ・ハイブリッド開催としつつ、3 日目を原則集合にする運用により、対面での実技・相互練習の機会を確保している ・方言や電話対応、指示の受け方など、職場コミュニケーションの具体的な場面を想定した内容が見られる
参考 URL	https://jicwels.or.jp/fcw/?p=20518

No.14　外国人介護人材受入セミナー

授業等の名称	外国人介護人材受入セミナー
実施主体	愛知県
対象者	県内で外国人介護人材の受入を検討している、又は外国人介護人材の受入・教育等に課題を感じている介護事業者等（複数回の参加可）
実施期間・回数・時間	・第 1 回（名古屋会場） 令和 8 年 1 月 21 日（水） ・第 2 回（名古屋会場） 令和 8 年 3 月 3 日（火）
実施時間	2 回ともに全日程 13: 30～16;30
会場／学習形態	愛知県産業労働センター（ウインクあいち）
学習概要	外国人介護人材の理解を深め、円滑な受入と職場定着を目的に、制度理解、受入準備、受入後の教育・生活支援、先進事例等の要点を学ぶ
学習内容／項目	 ■ 第 1 回：名古屋会場 ・テーマ：「はじめての外国人介護人材受入れのためのセミナー」 ・外国人介護人材の受入に向けて、制度理解（将来予想・受入ルート・労務管理・異文化理解）から、採用～受入・教育体制や環境整備のポイント、先進法人の受入事例までを学ぶ 構成 / 当日の内容 第 1 部：「受入制度理解と外国人介護人材のこれから」 ・外国人労働者受入れの変遷と未来予想 ・4 つの制度、受入れルートについて ・労務管理上の留意点 ・異文化理解と地域共生 第 2 部：「受入体制づくりと支援のポイント」 ・採用から受入までの流れと留意点 ・受入、教育体制の構築と環境整備 ・外国人介護人材が活躍できる環境づくり ・外国人介護人材受入れがもたらすもの 第 3 部：「先進的取組法人による受入事例紹介」 ・介護施設職員による事例紹介 ■ 第 2 回：名古屋会場 ・テーマ：「外国人受入の最前線と定着支援に向けた指導・育成方法のポイント」 ・介護福祉士合格含む特定技能を中心とした外国人受入の最新動向と労務管理上の留意点や受入成功のポイントに加え、言語の壁を越える指導・育成と定着支援の要点、先進法人の受入事例を学ぶ 構成 / 当日の内容 第 1 部：「特定技能受入の最前線！」 ・「特定技能」「介護福祉士合格」の最新動向 ・労務管理上の留意点～知らず知らずの法令違反～ ・外国人受入を成功に導くポイント 第 2 部：「多様な人材の指導・育成の進め方～外国人介護人材とともに～」 ・多様化する介護人材の現状と外国人介護職員の受入 ・言葉の壁を乗り越える指導方法 ・学びの継続と職員定着のポイント 第 3 部：「先進的取組法人による受入事例紹介」 ・介護施設職員による事例紹介
ICT 活用・日本語支援	
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・定員：105 名、参加費無料 ・受入の制度理解から受入体制整備、教育・生活支援、定着までを一連のテーマとして扱う ・各回 3 部構成とし、制度・最新動向の解説と、現場の体制整備・育成方法、先進事例の共有を組み合わせることで、知識習得と現場適用の両方を扱っている
参考 URL	・https://aichikaigoseminar.pref.aichi.jp ・https://www.pref.aichi.jp/press-release/ukeireseminar.html

No.15　受入施設のための外国人介護職員活躍支援セミナー

授業等の名称	受入施設のための外国人介護職員活躍支援セミナー
実施主体	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会 ひょうご外国人介護実習支援センター
対象者	兵庫県内で外国人介護職員を受入中の施設職員
実施期間・回数・時間	令和 6 年 9 月 11 日（水）
実施時間	13:30～15:45
会場／学習形態	オンライン開催
学習概要	・外国人介護職員が職場で円滑に働き、長く定着できる環境づくりに必要な支援・指導の要点を学ぶ ・受入施設が抱えやすい課題（制度理解、日本語支援、指導担当者の関わり、キャリアパス等）を整理し、現場の工夫やノウハウ共有につなげる
学習内容／項目	■ 第 1 部：「外国人介護職員活躍のためのガイドブック」について ・外国人介護職員が、介護現場で更なる活躍ができるよう、必要な支援などを紹介 ・外国人介護職員の定着に向けての支援や、キャリアパスの示し方 ・介護福祉士資格の取得支援について ■ 第 2 部：参加者による情報交換会 ・外国人介護職員が活躍できるよう、施設で工夫して実践していること ・外国人介護職員の定着に向けての支援、指導上の悩み等 ・地域社会との交流や日本語コミュニケーション円滑化のための支援  
ICT 活用・日本語支援	・教材：「外国人介護職員活躍のためのガイドブック」を用いる ・支援方法：講義＋参加者同士のグループ意見交換を取り入れる
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・定員：30 名、参加費無料 ・ガイドブック解説（知識の整理）と施設間の情報交換を組み合わせた内容となっている ・定着支援（中長期就労の視点、キャリアパス、資格取得支援）に加えて、地域交流や日本語コミュニケーションなど、生活・職場の両面を論点として含む構成
参考 URL	https://hyogo-ktsc.org/9%E6%9C%8811%E6%97%A5%EF%BC%88%E6%B0%B4%EF%BC%89%E5%8F%97%E5%85%A5%E6%96%BD%E8%A8%AD%E3%81%AE%E3%81%9F%E3%82%81%E3%81%AE%E5%A4%96%E5%9B%BD%E4%BA%BA%E4%BB%8B%E8%AD%B7%E8%81%B7%E5%93%A1%E6%B4%BB/

No.16　外国人材活用セミナー

授業等の名称	外国人材活用セミナー
実施主体	福島市
対象者	「人手不足をなんとか解消したい」「優秀な人材を確保したい」「新鮮な発想を社内に取り入れたい」等の課題を持つ企業が参加した
実施期間・回数・時間	・Step1：令和 6 年 10 月 1 日（火） ・Step2：令和 6 年 10 月 24 日（木） ・Step3：令和 6 年 11 月 29 日（金）
実施時間	・Step1：15:00～17:00 ・Step2、Step3：14:00～16:00
会場／学習形態	・Step1：アクティブシニアセンター・アオウゼ 大活動室 ・Step2：コラッセふくしま 3 階 企画展示室 ・Step3：キョウワグループ・テルサホール 4 階「つきのわ」
学習概要	・外国人材の受入れと定着支援について、制度理解から運用イメージ形成、業界特化（介護）まで段階的に学ぶ ・在留資格等の基本知識、受入れ準備・費用、コミュニケーション（やさしい日本語）や生活支援施策の理解につなげる
学習内容／項目	■ Step1 基本編 ・在留資格の種類や申請手続き、採用時の留意点、定着のポイントなど、外国人材受入れに必要な制度の全体像を専門家が整理して解説する ■ Step2 実践編 ・受入れの流れや費用・準備事項を具体化し、海外側学生とのオンライン交流を通じて採用・就労のイメージを掴む ■ Step3 介護事業所実践編 ・介護現場における外国人職員の活躍と課題を成功・失敗事例や生活支援、コミュニケーション（やさしい日本語等）の観点から扱い、定着支援の実務を学ぶ

	日程	当日の内容
Step 1	10 月 1 日(火)	・人手不足に関する現状や解消のための戦略 ・就労可能な在留資格など基本的な制度概要 ・外国人材採用時の留意点
Step 2	10 月 24 日(木)	・ベトナム人材受け入れの現状 ・実際にベトナム人材を受け入れる際の流れ ・ベトナム人材の特徴や受け入れの際の注意

	Step 3：11 月 29 日(金) ・外国人材受け入れの現状 ・実際に外国人材を受け入れる際の流れやコスト ・外外国人介護士の特徴やメリット、定着へのアプローチ 
ICT 活用・日本語支援	Step 2 で海外側学生とのオンライン交流を行っている
評価方法・成果指標	参加者の感想を収集し、理解度（制度理解のしやすさ等）や受入れ意欲の変化が確認できる
特徴・備考	・定員：Step1 50 名、Step2 30 名、Step3 20 名 ・参加費無料 ・基本編→実践編→介護事業所特化の 3 段階で、制度から現場運用まで一貫して学べる構成となっている ・自治体の交流拠点（Yuiverse）や生活支援、日本語学習機会の紹介を組み込み、雇用主側の雇用後の不安への対応策を提示する ・ベトナムに焦点を当てた回と、介護業界特化の回を設け、受入れ手順、現場での会話、当事者視点を取り入れる構成になっている
参考 URL	https://www.city.fukushima.fukushima.jp/f-work/companies/foreign-workers/6171.html

No.17　外国人介護職員が活躍できる職場づくり研修

授業等の名称	外国人介護職員が活躍できる職場づくり研修
実施主体	千葉県社会福祉協議会 千葉県外国人介護人材支援センター
対象者	外国人材を受け入れている施設、これから受け入れたいと考えている施設
実施期間・回数・時間	令和 7 年 12 月 11 日（木）
実施時間	13:00～17:00
会場／学習形態	オークラ千葉ホテル 2 階「ブリストル」
学習概要	・外国人介護職員がいきいきと活躍し、勤務を継続しやすい職場環境づくりを想定した研修 ・離職防止・定着促進に関わるメンタルヘルスケア、効果的コミュニケーション、施設側の支援の方向性を中心に扱う
学習内容／項目	■ 第 1 部 ・外国人介護職員の離職防止や定着促進のためのメンタルヘルスケアと効果的なコミュニケーション（指示の出し方、傾聴時のポイント、ストレス予防）を解説する ■ 第 2 部 ・悩み・価値観の違いへの理解、外国人特有のトラブル予防策と対処、施設が取り組むべき支援を解説する 
ICT 活用・日本語支援	
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・定員：50 名、参加費無料 ・受入施設側を対象に、職場内コミュニケーションとメンタルヘルスの要点を具体事例・運用視点で整理する ・離職防止・定着促進をテーマに、 ①個別支援（傾聴・指示・ストレス予防） ②組織対応（トラブル予防、職場環境改善、施設が担う支援）を二部で分けて扱う ・グループワークでの学びを通じて、自施設に持ち帰って施設内研修へ転用しやすい構成にしている
参考 URL	https://cfcc.jp/seminar.html

No.18　外国人介護人材受入れのための採用・定着セミナー

授業等の名称	外国人介護人材受入れのための採用・定着セミナー
実施主体	鹿児島県
対象者	鹿児島県内の介護事業者等
実施期間・回数・時間	令和 7 年 9 月 25 日（木）
実施時間	・第 1 部：14:00～17:00 ・第 2 部：15:15～16:00 ※第 1 部のみまたは第 2 部のみの参加も可能
会場／学習形態	・会場：カクイックス交流センター（かごしま県民交流センター）大ホール ・学習形態：会場参加＋オンライン（Zoom）のハイブリッド
学習概要	・県内介護施設への外国人介護人材の受入れ促進を目的に、在留資格等の制度理解と受入れ法人の取組事例を共有する ・採用から定着までに必要となる知識（コミュニケーション、文化差対応、キャリア育成等）を学ぶ
学習内容／項目	■ 第 1 部：採用・制度理解 ・人材市場・介護業界の現状の整理 ・外国人材採用の現状の整理 ・在留資格の解説（育成就労・特定技能・EPA・在留介護等） ・受入れ経験のある県内介護事業者と外国人介護職員による実践報告（ゲスト登壇） ■ 第 2 部：定着支援 ・外国人材とのコミュニケーションのコツ、職場で起こりやすい事例の整理（コミュニケーション研修） ・外国人材のキャリア育成のポイント整理（キャリアアップ研修）

No.19　若手社員職場定着率向上研修

授業等の名称	若手社員職場定着率向上研修
実施主体	北海道函館市
対象者	・若手社員向け研修：函館市内の事業所の入社 3 年以内の若手社員 ・人事担当者向け研修：函館市内の事業所の人事担当者または若手社員の指導者
実施期間・回数・時間	・若手社員向け研修：令和 7 年 10 月 24 日（金） ・人事担当者向け研修：令和 7 年 11 月 7 日（金）、11 月 13 日（木）
実施時間	・若手社員向け研修： 9：30～17：25 ・人事担当者向け研修：1 回目 13：30～17：25、2 回目 13：30～17：25
会場／学習形態	函館市勤労者総合福祉センター（サン・リフレ函館）
学習概要	■ 若手社員向け研修：函館市内の事業所の入社 3 年以内の若手社員 ・入社 3 年以内の若手社員を対象に、早期離職の予防および職場定着に資する力の獲得を目的として構成 ・コミュニケーション力の向上、仕事への意欲形成、自己および職場における問題解決の進め方、ストレスマネジメント等の強化が中心 ・自先輩社員の声を踏まえた学びを取り入れ、職場での適応と継続就業につなげる内容になっている ■ 人事担当者向け研修： ・人事担当者や若手社員の指導者を対象に、若手の定着を支える職場側の支援・対応力の向上を目的としている ・若年者フォローの考え方、ティーチング／コーチング等の指導手法、職場定着に必要な対応力を整理する ・メンタルヘルス管理、ハラスメント防止の手法、実践的成功事例の共有を通じ、現場での支援実装を促す内容になっている
学習内容／項目	■ 若手社員向け研修：函館市内の事業所の入社 3 年以内の若手社員 ・コミュニケーション能力向上 ・仕事に対する意欲向上 ・自己の問題解決方法 ・職場での問題解決方法 ・先輩社員の声を聞く ・ストレスマネジメント ■ 人事担当者向け研修： ・若年者への理解促進とリスキリング支援 ・職場定着に必要とされる若手社員のフォローアップ

	 
ICT 活用・日本語支援	ICT 活用：Zoom によるオンライン参加
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・参加費無料 ・定着支援を「コミュニケーション（起こりやすい事例）」と「キャリア育成」に分け、受入れ後の運用課題につなげている ・ハイブリッド開催とアーカイブ公開により、参加機会の確保と反復学習につなげる設計が見られる
参考 URL	https://www.pref.kagoshima.jp/ae04/chiikifukushi/r07gaikokujinzaiukeireseminar.html

	・指導力向上～ティーチングとコーチング～ ・メンタルヘルス～アンガーマネジメント・ハラスメント～ ・成功事例の紹介・共有化 
ICT 活用・日本語支援	
評価方法・成果指標	
特徴・備考	・定員：各研修 20 社 30 名、参加費無料 ・希望者への個別カウンセリングを取り入れる ・コミュニケーション、意欲、問題解決、ストレス対応などの若手社員のスキル強化とフォロー、指導、メンタルヘルス、ハラスメント、成功事例共有などの職場側の支援力強化を同時に行っている点が特徴・受講後も継続フォローアップを行う方針が示されており、学習内容の職場実装を促す設計になっている
参考 URL	https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014082500073/

No.20　第 2 回早期離職防止セミナー〔育成担当者向け〕

授業等の名称	第 2 回早期離職防止セミナー〔育成担当者向け〕
実施主体	東京しごとセンター ヤングコーナー
対象者	企業に在職する若手社員育成担当者 （現場 OJT 担当者、研修担当者等）
実施期間・回数・時間	・1 日目：令和 5 年 2 月 3 日（金） ・2 日目：令和 5 年 2 月 17 日（金）
実施時間	各回ともに 10：00～17：00
会場／学習形態	TKP 飯田橋ビジネスセンター カンファレンスルーム 3G
学習概要	・若手社員の早期離職が起きる背景理解から開始し、個人特性を把握した上で適切に伸ばす育成の実践手法を学ぶ ・自社内での育成・定着に関する取組みプランを、講師および他社参加者との議論を通じて策定する
学習内容／項目	■ 1 日目：背景、その人を知り、伸ばす ・早期離職の背景の整理、若手と職場のギャップの把握 ・若手を「知る」ための視点整理、若手を「伸ばす」関わりの検討 ・自社での取組み立案と共有、意見交換 ■ 2 日目：育成の PDCA サイクル ・初期の取組みの振り返り、育成 PDCA の要点を整理する ・内省と育成プロセスの検討 ・育成計画の作成 
ICT 活用・日本語支援	
評価方法・成果	

指標	
特徴・備考	・定員：20 名、参加費無料 ・講義とグループワークを組み合わせ、他社参加者とのディスカッションを取り入れる運用 ・離職要因の理解→個別理解→育成 PDCA の整理と内省→育成計画作成までを段階的に積み上げる流れとなっている ・講師・他社参加者との相互検討を通じて、自社の課題解決を具体的なプランに落とし込む点が中心 ・4 月入社の若手受入れ準備を背景に据え、定着を前提とした育成プロセスの設計・運用に焦点を当てる構成となっている
参考 URL	https://tokyoshigoto-young.jp/company_event/27582

2. 外国人介護人材に関連する養成校及び制度動向に関する基礎資料 情報詳細

ページ	調査番号	資料名	作成主体	作成年（年度）
p. 1	No. 01	外国人介護人材の受入れの現状と今後の方向性について	厚生労働省	令和６年度
p. 10	No. 02	外国人介護人材の業務の在り方に関する検討会中間まとめ	厚生労働省	令和６年度
p. 15	No. 03	在留資格「介護」の美能把握等に関する調査研究事業報告書	公益社団法人日本介護福祉士会	令和６年度
p. 24	No. 04	外国人介護人材定着度調査報告書（令和６年度）	公益社団法人全国老人福祉施設協議会	令和６年度
p. 30	No. 05	外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究（R2）	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会	令和２年度
p. 39	No. 06	外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究（R4）	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会	令和４年度
p. 46	No. 07	EPA に基づく外国人介護福祉士候補者が受入れ施設で習得する介護技術の統一的な評価方法を確立するための調査研究報告書	公益社団法人国際厚生事業団	令和５年
p. 53	No. 08	外国人福祉人材受入促進・定着支援アンケート調査報告書	社会福祉法人大分県社会福祉協議会	令和６年度
p. 60	No. 09	介護福祉士国家試験ルート合格の導入の在り方について	厚生労働省	令和７年度
p. 65	No. 10	外国人の受入れ・秩序ある共生のための総合的対応策	関係閣僚会議	令和７年度
p. 70	No. 11	特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針及び育成就労に係る制度の運用に関する方針について	閣議決定（法務・厚労・国公・外務）	令和７年度
p. 77	No. 12	1　介護福祉士国試、養成校ルートの経過措置「単純延長せず」自民・介護委が見直しを提言 2.　介護福祉士国家試験務付けの経過措置、終了か延長か　専門家で意見分かれる	1　介護ニュース Joint（自民党政務調査会・社会保障制度調査会介護委員会） 2.　社会保険研究所	令和７年度 令和７年度
p. 81	No. 13	介護人材確保に向けた処遇改善等の課題	厚生労働省	令和７年度
p. 89	No. 14	【特集】2026 年の課題と展望―外国人政策をめぐる議論の現在地	東京財団政策研究所	令和７年度
p. 93	No. 15	外国人介護福祉士国家試験受験者アンケート調査結果概要	三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング	令和６年度

15,909 名）と比較しても顕著な増加幅であり、介護現場における主要な外国人材受入れルートとして定着しつつある状況がデータから読み取れる。

(2)　国籍別・施設別・地域別の受入れ傾向

特定技能外国人の国籍別構成（令和６年 12 月末時点）をみると、インドネシアが最も多く、次いでミャンマー、ベトナム、フィリピン、ネパールの順となっている。令和６年６月末時点ではベトナムが２位であったが、12 月末時点ではミャンマーが上回り、送出し国の動向に変化が生じている。受入施設・事業所の類型については、特別養護老人ホームでの受入れが最も多く、次いで病院、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）、特定施設入居者生活介護、介護老人保健施設の順となっており、これら上位５類型で全体の約７割を占めている。都道府県別の受入れ状況では、大阪府、東京都、神奈川県での受入れ数が多く、三大都市圏を中心とした都市部に集中する傾向が確認されている。

調査番号	No.01
資料名（正式名称）	外国人介護人材の受入れの現状と今後の方向性について
作成主体	厚生労働省　社会・援護局　福祉基盤課　福祉人材確保対策室
作成年（年度）	令和６年度
資料種別	政策整理資料（PDF）
掲載 URL（該当ページ）	https://www.mhlw.go.jp/content/12000000/001478533.pdf
URL 種別	PDF 直リンク
URL 遷移先の内容サマリー	本資料は、日本の介護分野における外国人材受け入れの現状と、今後の政策の方向性をまとめたものである。EPA、在留資格「介護」、技能実習、特定技能という４つの主要な受け入れ制度の概要と、それぞれの在留者数を示している。特に、2019 年に開始された特定技能制度による受け入れが急増しており、2024 年 12 月末時点で約 4.4 万人に達していることをデータで示している。 今後の方向性としては、「厚生労働省国際保健ビジョン」に基づき、アジア諸国との連携による「好循環」の創出を目指す。具体的には、海外現地での人材獲得に向けた働きかけの強化（特定技能試験の海外展開等）と、日本国内での定着支援（キャリアアップ支援、介護福祉士国家試験の学習支援強化等）を両輪で進める戦略が詳述されている。
掲載情報の種類・注意点	本資料には、外国人介護人材受け入れに関する制度概要、在留資格ごとの在留者数の推移（グラフ）、政府の基本方針、今後の具体的な戦略などが網羅的に含まれている。数値データは公表時点のものであり、特に在留者数は変動が大きいため、最新の動向を追う際には注意が必要である。また、技能実習制度が「育成就労制度」へ移行する法改正（原則３年以内施行）など、制度変更に関する重要な情報も含まれているため、今後の制度設計を理解する上で重要な資料となる。
大分類	外国人材
中分類	介護分野
具体的内容（典型例）	1　特定技能制度を中心とした受入れ現状の詳細分析 (1)　在留者数の急増と推移 介護分野における特定技能１号の在留者数は、2019 年（平成 31 年）４月の制度創設以降、一貫して増加傾向にある。2019 年 12 月末時点では 170 名であった在留者数は、2022 年 12 月末に 16,081 名、2023 年 12 月末に 28,400 名と推移し、直近の 2024 年（令和６年）12 月末時点では 44,367 名となり、過去最多を更新している。これは、EPA（経済連携協定）に基づく介護福祉士候補者・資格取得者の在留者数（令和６年６月末時点で 3,252 名）や、在留資格「介護」（令和５年 12 月末時点で

(3) 試験実施状況と合格者推移
特定技能１号の要件となる「介護技能評価試験」および「介護日本語評価試験」は、日本国内（47 都道府県）に加え、フィリピン、インドネシア、ネパール、ミャンマー、ベトナムなど海外 12 カ国で実施されている。両試験の累計合格者数は、2019 年 4 月から 2025 年 1 月までの実績でいずれも 11 万 3 千人を超えている。特に令和 4 年度と令和 5 年度を比較すると、国内試験の合格者数は微減傾向にある一方で、海外試験の合格者数は約 2 倍に増加しており、海外現地での試験合格者が供給源として拡大している状況が示唆される。

2 2. 訪問系サービス従事解禁に伴う厳格な運用要件
(4) 基本的考え方と対象者要件
これまで技能実習生や特定技能外国人には認められていなかった訪問介護等の訪問系サービスへの従事について、人材不足の状況等を踏まえ、一定の条件下で解禁する方針が示されている。従事させる外国人材の要件として、介護職員初任者研修課程等の修了に加え、原則として介護事業所等での実務経験が 1 年以上あることが求められる方針である。

(5) 受入事業者が講ずべき具体的措置
受入事業者が外国人材を訪問系サービスに従事させる場合、以下の 5 つの事項を遵守することが求められる方針である。

① 研修の実施：訪問系サービスの基本事項、生活支援技術、利用者・家族・近隣とのコミュニケーション、日本の生活様式、緊急時対応等に関する研修を行うこと。
② OJT の実施：一定期間、サービス提供責任者等が同行訪問を行うなど、必要な訓練を実施すること。
③ キャリアアップ計画の策定：本人の意向を確認しつつ、習得すべき技能や目指すべき姿を明確にした計画を作成・共有すること。
④ ハラスメント対策：防止マニュアルの作成、利用者・家族への周知、相談窓口の設置等の措置を講ずること。
⑤ 環境整備：不測の事態に対応するための ICT 活用の推進や、緊急時対応マニュアルの作成、連絡体制の確保を行うこと。

(6) OJT と同行訪問の詳細ルール
同行訪問の期間については、利用者ごとに設定することとされ、週 1 回のサービス提供の場合には原則として半年間の同行訪問が求められる。ただし、利用者・家族の同意が得られ、ICT（見守りカメラ等）を活用して事業所と常時連携できる体制がある場合には、3 ヶ月間に短縮することも可能とするなど、具体的な運用基準が検討されている。また、実務経験が 1 年に満たない外国人材を例外的に従事させる場合は、日本語能力要件の上乗せ（N2 相当など）や、OJT 期間の延長といった特段の配慮が必要とされる。

(7) 利用者への説明と同意プロセス
外国人材が訪問する可能性がある場合、受入事業者は利用者およびその家族に対し、事前に書面を交付して丁寧な説明を行い、署名による同意を得ることが求められる。説明事項には、訪問する外国人の実務経験、ICT 機器の使用有無、不安がある場合の連絡先などが含まれる。

3 介護福祉士国家試験における「パート合格」制度の導入設計
(1) 導入背景とスケジュール
就労と学習を両立する受験者の負担軽減および資格取得促進を目的として、介護福祉士国家試験に「パート合格（科目別合格）」制度を導入することが検討されている。導入時期は、令和 8 年（2026 年）1 月実施予定の第 38 回国家試験からとされている。

(2) 試験分割と免除の仕組み
試験科目を 3 つのパートに分割し、一部のパートで合格基準を満たした場合、その合格実績は翌年および翌々年の試験まで有効となり、当該パートの受験が免除される仕組みである。初回の受験時は全パートを受験する必要があるが、再受験時には不合格パートのみを受験するか、全パートを受験するかを選択できる方向で調整されている。

(3) 合格基準の設定方針
全科目に対する合格基準は現行と同様（総得点の 6 割程度かつ全科目群での得点）としつつ、パートごとの合格基準については、全体の合格基準点を全科目受験者の平均得点の比率で按分して設定する方針が示されている。合否判定においては、まず全パートの総得点で判定し、不合格の場合にパートごとの合否判定を行うプロセスが想定されている。

4 国際的な人材循環と戦略的獲得に向けた取組
(1) 「国際保健ビジョン」に基づく好循環モデル
厚生労働省が掲げる「国際保健ビジョン」に基づき、アジア諸国等との間で「医療・介護の好循環」を実現する戦略が示されている。これは、日本の介護技術や人材養成システムに関する知見を共有することで国際的な信頼を高め、日本で学びたいという外国人材を増やすとともに、帰国した人材が母国の高齢者ケアに貢献するというサイクルを構築することを目指すものである。

(2) 送出し国への戦略的アプローチ
人材獲得競争が激化する中、送出し国への働きかけを強化する方針が示されている。特に、送出しルートの確立が急務とされるインド等については、関係者のネットワーキングを進めつつ、現地説明会の開催や特定技能試験の実施拡大など、国ごとの事情に応じた募集アプローチを検討することとされている。また、JICA プロジェクトと連携し、インドネシアの公的訓練校での介護プログラム作成支援なども行われている。

(3) 帰国後支援とキャリアパスの可視化
外国人介護人材が日本で就労するインセンティブを高めるため、帰国後のキャリアパスを「見える化」する取組が進められている。具体的には、帰国した人材が現地の介護産業で就労できるようネットワークを構築することや、日本の介護技術を標準化してアジア諸国へ普及させる支援などが検討課題として挙げられている。

5 多角的な定着支援・学習支援体制の整備
(1) ICT を活用した学習支援ツール「にほんごをまなぼう」
外国人介護人材が自律的に日本語学習を行うための環境整備として、Web コンテンツ「にほんごをまなぼう」の開発・運用が行われている。このコンテンツは 14 言語に対応し、日本語能力試験（N3・N2）レベルに合わせたドリル、介護の専門用語検索、特定技能評価試験や国家試験対策の学習テキストなどを無料で提供しており、スマホ等から学習進捗を管理できる機能も備えている。



(2) 相談支援体制と権利保護
外国人材が安心して働けるよう、相談窓口の整備が進められている。EPA に基づく候補者向けにはインドネシア語・ベトナム語等に対応した専用窓口が、それ以外の在留資格（特定技能等）向けには 11 言語に対応した「外国人介護人材無料サポート」が設置され、電話や SNS での相談を受け付けている。また、妊娠・出産等を理由とした不利益取扱いの禁止など、権利保護に関する周知啓発も行われている。

(3) 自治体および事業者による先駆的支援事例
地域医療介護総合確保基金等を活用した自治体独自の支援事例も報告されている。
① 滋賀県：事業者団体と県が共同で「国際介護・福祉人材センター」を設置し、マッチングから定着支援までを一貫して実施。
② 静岡県：「外国人介護人材サポートセンター」事業として、巡回相談や多国籍の交流会を開催し、孤立防止と定着を図っている。
③ 広島県：受入ガイドブックの作成やセミナー開催を通じ、事業所側の受入体制整備を支援している。

(4) キャリアアップ支援事例
民間事業者におけるキャリアアップ支援の好事例として、入国直後から「8 年後の介護福祉士取得・リーダー昇格」を見据えた長期的なキャリア計画を策定し、勤務時間内での日本語学習や実務者研修の受講支援を行ってい

	る法人の取り組みなどが紹介されている。これらは、外国人材の意欲向上と長期定着に寄与しているとされる。 
国家試験対策	（関連度高） 資料内で、外国人材のキャリアアップ支援策として「介護福祉士国家試験の学習支援」や「パート合格の導入検討」が明確に言及されている。養成校は、これらの国の動向を踏まえ、留学生向けの国家試験対策プログラムを強化・最適化する必要がある。
定着支援	（関連度高） 「日本での定着支援の推進」が今後の方向性の柱の一つとして掲げられている。キャリアパスの提示、研修受講支援、就労・生活環境の整備などが挙げられており、養成校が卒業後のキャリアを見据えた教育・指導を行う上で極めて重要な情報となる。
文化理解・地域定着	（関連度中） 直接的な言及は少ないが、「好循環」の考え方や、帰国後のネットワーク構築支援などに触れられている。これは、単なる労働力としてではなく、文化交流や国際貢献の担い手としての側面を意識したものであり、養成校における異文化理解教育や地域社会との連携を考える上で参考になる。
本事業との関係で注目すべきポイント （★事業フック）	本資料で示された国の方向性は、介護福祉士養成校にとって大きなビジネスチャンスと捉えることができる。特に以下の３点は、事業展開を考える上での重要なフックとなる。

	1. 国家試験対策コンテンツの強化・販売：「パート合格」の導入が実現すれば、科目別の学習ニーズが高まる。これに対応した e-ラーニング教材や模擬試験、対策講座などを開発・提供することで、新たな収益源となりうる。 2. キャリアアップ研修プログラムの開発：資料では、訪問系サービスへの従事や多様なキャリアパスが示唆されている。養成校が持つ教育ノウハウを活かし、卒業生や現場で働く外国人材を対象とした実践的なキャリアアップ研修（例：サービス提供責任者養成、認知症ケア専門研修など）を開発・提供することが考えられる。 3. 海外の教育機関との連携：政府が海外現地への働きかけを強化する中、養成校が直接、あるいはコンソーシアムを通じて海外の教育機関と提携し、質の高い候補者の獲得や、日本式介護教育の輸出を目指すことが可能になる。これは、入学者の安定確保と事業の国際展開に繋がる。
出典（正式表記）	厚生労働省　社会・援護局　福祉基盤課　福祉人材確保対策室　介護分野における特定技能協議会運営委員会　令和６年度第１回（R7. 3. 28）第１部後半　厚生労働省資料２「外国人介護人材の受入れの現状と今後の方向性について」

調査番号	No. 02
資料名 （正式名称）	外国人介護人材の業務の在り方に関する検討会
作成主体	厚生労働省（外国人介護人材の業務の在り方に関する検討会）
作成年（年度）	令和６年度
資料種別	検討会中間まとめ
掲載 URL （該当ページ）	https://www.mhlw.go.jp/content/12000000/001268144.pdf
URL 種別	PDF 直リンク
URL 遷移先の内容サマリー	本資料は、厚生労働省が設置した「外国人介護人材の業務の在り方に関する検討会」が取りまとめた中間まとめである。技能実習制度や特定技能制度における外国人介護人材の受け入れに関する現状の課題を整理し、今後の制度のあり方について具体的な提言を行っている。特に、これまで認められていなかった訪問系サービスへの従事解禁や、技能実習生を受け入れる事業所の要件緩和などが主要な論点となっている。また、外国人介護人材のキャリアアップ支援や権利保護、定着促進の重要性を強調しており、日本の介護分野が魅力的な就労先として選ばれるための環境整備の方向性を示している。
掲載情報の種類・注意点	本資料は、政策提言を目的とした検討会の議論をまとめたものであり、図表は含まれていないが、具体的な提言内容が詳細に記述され

	ている。今後の法改正や関連通知の動向を占う上で重要な資料となる。
大分類	制度・政策
中分類	外国人介護人材
具体的内容 （典型例）	本中間まとめは、外国人介護人材の受入れ制度（技能実習、特定技能、EPA）の実施状況や介護現場の実態を踏まえ、今後の業務の在り方について検討した結果を整理したものである。特に、訪問系サービスへの従事、事業所要件の緩和、および戦略的な人材獲得と定着支援に関する具体的な提言がなされている。 1　訪問系サービスへの従事について これまで技能実習生や特定技能外国人には、適切な指導体制の確保や権利保護の観点から、訪問系サービスへの従事は認められてこなかった。しかし、有効求人倍率の高止まりや高齢化の進展を背景に、一定の要件を満たすことを条件として従事を解禁する方向性が示された。 (1)　訪問介護等における従事要件と基本的枠組み 訪問介護は利用者と１対１で業務を行う特性があるため、従事する外国人材については、日本人同様に「介護職員初任者研修」等の研修修了や有資格者であることを前提とする。その上で、ケアの質や権利保護を担保するため、受入事業者に対しては以下の５項目の遵守を求め、当該事項を適切に履行できる体制・計画等を有することを要件とする。 ①　研修の実施 訪問介護の基本事項、生活支援技術に加え、利用者・家族・近隣とのコミュニケーション（傾聴、受容、共感など）、および日本の生活様式等を含む研修を実施すること。これは EPA 介護福祉士の訪問系サービス従事において求められている留意事項と同様の水準とする。 ②　OJT の実施 訪問系サービスの提供を一人で適切に行えるよう、一定期間、サービス提供責任者等が同行するなど必要な OJT を行うこと。具体的な回数や期間は、利用者や外国人材の個々の状況により受入事業者が適切に判断する。 ③　キャリアアップ計画の作成 業務内容や注意事項を丁寧に説明し、本人の意向を確認した上で、キャリアパスの構築に向けた「キャリアアップ計画」を作成すること。 ④　ハラスメント対策 未然防止のための対応マニュアル作成、管理者等の

	役割明確化、発生時の対処ルールの共有、相談窓口の設置と周知、および利用者・家族に対する周知等の措置を講ずること。 ⑤　ICT 活用等による環境整備 負担軽減や不測の事態への対応のため、介護ソフトやタブレット端末を活用した記録業務支援、コミュニケーションアプリの導入、日常生活や業務上の困りごとを相談できる体制整備を行うこと。 また、外国人材が施設サービス等での実務経験がなく、初めて訪問系サービスに従事する場合には、OJT 期間を通常より長く設定することや、定期的な面談、きめ細かな日本語学習支援など、特段の配慮を求めることとされた。 (2)　訪問入浴介護における要件 訪問入浴介護については、施設系サービスと同様に複数人でのサービス提供が必要であり、制度上必ずしも介護職員初任者研修等の修了が必須とされていない。そのため、受入事業者において適切な指導体制を確保した上で、職場内で実務に必要な入浴等の研修等を受講し、業務に従事することとする。あわせて、介護福祉士資格の取得支援を含め、キャリアパスに留意したきめ細かな支援が求められる。 (3)　国による履行体制の確認 国は、巡回訪問等実施機関の体制強化を進め、提出された書類に基づき、受入事業者への巡回訪問等を行う。雇用管理状況、OJT 実施状況、ハラスメント対策、キャリアアップ支援状況等を確認し、不適切な場合は指導を行う。また、第三者による母国語相談窓口の設置や、好事例の収集・周知を通じて環境整備を進める。 2　技能実習「介護」における事業所開設後３年要件の見直し 現行の技能実習制度「介護」職種においては、適切な技能移転と事業の安定性を確保する観点から、受入事業所に対し「開設後３年以上の経過」を要件としている。しかし、制度施行から一定期間が経過し、特定技能制度では同要件が設定されていないこと等を踏まえ、以下の代替要件を満たす場合には、開設後３年未満の事業所でも受入れを認める方向性が示された。 (1)　法人要件の導入 事業所単位ではなく法人単位で安定性を判断し、「法人の設立から３年が経過している」場合には受入れを認める。この「３年」の基準は、介護福祉士国家試験の受験

	資格要件における実務経験対象事業所としての運営期間に準ずる。 (2)　サポート体制要件の導入 法人設立から３年を経過していない場合であっても、同一法人によるサポート体制が構築されていれば適切な技能移転が可能であるとし、以下の体制整備を要件として受入れを認める。 ①　利用者・家族が安心して利用できるよう、外国人に対する研修体制とその実施が確保されていること。 ②　外国人本人、および当該事業所の職員・利用者などからの相談体制があること。 ③　事業開始前に、従事予定職員や利用者・家族に対する説明会等が設けられていること。 ④　法人内において、外国人受入れに関して協議できる体制が設けられていること。 このサポート体制要件を用いて受け入れる場合、技能実習計画への記載を義務付け、実地検査等で確認を行うとともに、不適切な事例には改善命令等の行政処分を検討することで実効性を担保する。 3　戦略的な人材獲得と定着支援 世界的に人材獲得競争が激化する中、日本が選ばれる国となるためには、海外現地への働きかけと国内での定着支援を戦略的に進める必要がある。 (1)　対象国に応じた募集アプローチ 各国の経済発展や地域性に応じたアプローチが求められる。 • ベトナム・フィリピン： 地方部での募集など工夫が必要。 • ミャンマー： 日本に親和的な環境があり増加傾向にあることを踏まえた対応。 • ネパール・スリランカ： 介護福祉士を目指す留学生や特定技能での受入れが見込まれる。 • インドネシア・インド： 人口規模等から今後の受入れ拡大が期待され、特にインド等の新興国では送出しルートの確立が課題とされる。 また、現地の介護技術や日本語の学習環境の整備に加え、帰国後も現地の介護産業で就労できるようなキャリアパスの確保

	報告書全体を通じて、外国人介護人材のキャリアアップの核として介護福祉士国家資格の取得が重要視されており、そのための具体的な支援策（研修支援、受験しやすい環境整備等）が複数提言されている。
定着支援	（関連度高） 訪問系サービスへの従事解禁やキャリアパスの構築、ハラスメント対策、相談体制の整備など、外国人介護人材が日本で長期的に就労するための定着促進策が中心的な議題となっている。
文化理解・地域定着	（関連度中） 直接的な言及は少ないものの、ハラスメント対策や相談体制の整備、生活様式に関する研修の必要性などに触れられており、間接的に文化理解や地域社会への適応を支援する視点が含まれている。
本事業との関係で注目すべきポイント（★事業フック）	本報告書の提言は、介護福祉士養成校にとって、今後の教育内容や学生指導に大きな影響を与えるものである。特に以下の点は、本事業において重点的に取り組むべきフックとなる。 • 訪問介護に関する教育の強化： これまで外国人留学生が卒業後に従事することが想定されていなかった訪問介護分野について、今後は主要なキャリアパスの一つとなる可能性がある。養成校としては、在学中から訪問介護の特性、利用者とのコミュニケーション、日本の生活文化に関する理解を深める教育プログラムを強化する必要がある。 • キャリアデザイン教育の多様化： 施設介護だけでなく、訪問介護、さらには将来的な母国での活躍も見据えた多様なキャリアパスを学生に提示し、それぞれの目標に応じた学習計画を支援する体制が求められる。資格取得後のキャリアアップを見据えた指導がより重要になる。 • 管理者層への情報提供と連携： 提言されている受け入れ事業者側の体制整備（研修、相談体制、ハラスメント対策等）について、養成校が実習先や就職先の事業所と連携し、
出典（正式表記）	厚生労働省外国人介護人材の業務の在り方に関する検討会「外国人介護人材の業務の在り方に関する検討会中間まとめ」

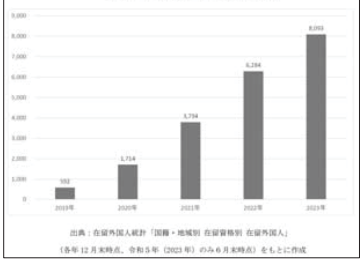
調査番号	No. 03
資料名（正式名称）	在留資格「介護」の実態把握等に関する調査研究事業報告書
作成主体	公益社団法人日本介護福祉士会
作成年（年度）	令和６年度

	（ネットワーク化、日本式介護の標準化・普及等）が重要である。 (2)　定着支援とキャリアアップ 外国人材が日本で長期就労するための環境整備として、以下の点が指摘されている。 (3)　生活環境・学習支援： 宗教・食生活への配慮、住まいの確保支援、資格取得に向けた試験対策・学習支援の実施。 (4)　介護福祉士国家試験の受験環境整備： 働きながら資格取得を目指す層に対し、学習負担を軽減しつつ質を担保する観点から、試験科目のパート合格（科目別合格）の導入について検討が進められている。 (5)　在留期間の特例検討： 特定技能外国人について、国家試験の点数が合格点に達していない場合でも、パート合格など一定の水準にある場合には、在留期間（通常５年上限）を延長して合格を目指せる仕組みの検討が提案された。 4　新制度（育成就労制度）への移行と固有要件のあり方 技能実習制度に代わる「育成就労制度」の創設（原則３年以内の施行）を見据え、介護分野における既存制度との整合性や固有要件の再確認が必要とされている。 (1)　転籍のあり方： 育成就労制度において認められる「本人意向による転籍」について、介護分野での取り扱い（期間設定等）を検討する必要がある。その際、地方部から都市部への人材流出懸念への配慮と、地方部のメリット（生活費の安さ等）の広報が重要であるとの意見が出されている。 (2)　固有要件の検証： 日本語能力要件（Ｎ４等）や、技能実習生には認められていない業務（服薬介助等）について、その必要性を改めて確認・検証していく必要がある。特に日本語能力については、安全なケア提供の観点から緩和には慎重であるべきとの意見が併記されている。 これらの見直しは、外国人材が単なる労働力の穴埋めではなく、日本人職員と同等の処遇・責任を持ちながらキャリアアップできる環境（「共生社会」の実現）を目指すものである。
国家試験対策	（関連度高）

資料種別	調査研究事業報告書
掲載 URL（該当ページ）	https://www.jaccw.or.jp/R5houkokusho_zairyushikaku.pdf?utm_source=chatgpt.com
URL 種別	PDF 直リンク
URL 遷移先の内容サマリー	本報告書は、在留資格「介護」を持つ外国人介護職員が日本で継続的に活躍するための支援状況やニーズの実態を明らかにすることを目的としている。そのために、外国人介護職員本人と受け入れ施設・事業所の担当責任者を対象としたグループインタビュー調査を実施した。調査結果を基に、キャリアパス構築、ライフステージに応じた支援、資格取得支援などの課題を整理し、受け入れ施設向けのガイドブックを作成している。今後の外国人介護人材の定着と活躍を促進するための具体的な示唆に富む内容となっている。
掲載情報の種類・注意点	本資料は、主に在留資格「介護」を持つ当事者および受け入れ施設へのインタビュー調査の結果とその考察で構成されている。定量的な統計データよりも、具体的な事例や意見といった定性的な情報が中心である。特に、キャリアパス、ライフステージの変化（結婚、出産など）、日本語能力の壁、家族の帯同といった、外国人介護職員が直面する現実的な課題に関する生の声が豊富に集められている点が特徴である。資料後半には、これらの課題に対応するための支援策をまとめた「ガイドブック」が含まれており、実践的な内容となっている。
大分類	外国人介護人材
中分類	定着支援・キャリアパス
具体的内容（典型例）	1　在留資格「介護」の現状と基礎データ 在留資格「介護」は、平成 29 年（2017 年）９月の施行以降、在留者数が増加傾向にあり、令和５年（2023 年）６月末時点で 8,093 名となっている。国籍別内訳では、ベトナムが 3,570 名と全体の約半数を占め、次いでネパール（1,075 名）、インドネシア（951 名）、フィリピン（860 名）と続き、アジア圏出身者が大半を構成している。 資格取得ルートについては、当初は養成施設において知識・技能を修得する「養成施設ルート」が主であったが、令和２年（2020 年）４月より、実務経験を経て国家試験に合格する「実務経験ルート」が追加された。これにより、「特定技能１号」や「技能実習」等からの移行が可能となっている。 養成施設ルート（留学生）の介護福祉士国家試験合格率は、第 35 回試験において新卒者が 50.3%、既卒者が 37.0%であり、全体平均（新卒 81.7%）と比較して低い水準にある。なお、令和９年（2027 年）３月 31 日までに養成施設を卒業した者につ

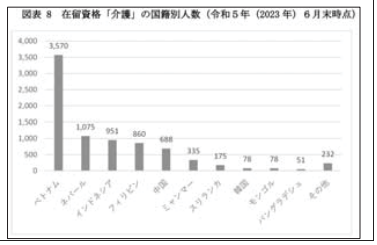
いては、国家試験に不合格または未受験であっても、卒業年度の翌年度から５年間は介護福祉士の資格を有するとする経過措置が設けられている。

図表 7　在留資格「介護」の在留者数



出典：在留外国人統計「国籍・地域別 在留資格別 在留外国人」
（各年 12 月末時点。令和５年（2023 年）のみ６月末時点）をもとに作成

図表 8　在留資格「介護」の国籍別人数（令和５年（2023 年）６月末時点）



長期休暇を希望する声が複数あった。一部の施設では「ホームリーブ制度」により航空券代の補助が行われており、帰国の決断を後押ししている事例があった。

(2)　結婚・出産・育児同国籍同士での結婚が多く、在留資格「家族滞在」を利用して配偶者や子供を呼び寄せるケースが見られた。
①　育児の課題：
日本に親族がいないため、夫婦のみでの育児に不安を感じる声があった。特にシングルマザーの場合、子供の急な体調不良時に頼れる相手がおらず、夜勤や遅番が困難となり、時短勤務に変更せざるを得ない事例が報告された。

②　教育の不安
子供の言語教育（日本語と母国語のバランス）や、将来的な夜勤対応への不安が挙げられた。

(3)　家族帯同と生活支援家族の呼び寄せに関する行政手続きや住居探しについて、施設側のサポートを受けている事例が多かった。一方で、呼び寄せた配偶者（家族滞在ビザ）が日本語能力不足により就職先が見つからない、あるいは住居や経済的な問題で家族を呼び寄せられないといった課題も確認された。

(4)　キャリアパスに関する意識と実態
①　キャリア目標の多様性「介護支援専門員（ケアマネジャー）」や「社会福祉士」の資格取得を目指す者、母国での看護経験を活かして再び看護を学びたいと考える者など、意欲的な姿勢が見られた。一方で、具体的なキャリアプランを持たず、「日本に残りたい」という漠然とした希望を持つ者もいた。
②　役職への意向と障壁経験年数が長い職員の中にはリーダー職を目指す者もいたが、「日本語能力の不足」を理由に自信を持てないケースが複数確認された。特に、日本人職員への指示出しや、緊急時の家族対応、記録業務における日本語の壁がキャリアアップの阻害要因となっている。
③　訪問系サービスの特殊性訪問介護従事者は、直行直帰の勤務形態により他の職員と接する機会が少なく、ロールモデルを見つけにくい状況があった。ただし、重度訪問介護等で他事業所と連携する中で、他社の職員を目標とする事例が見られた。

図表 10　養成施設ルートの受験者数・合格者数・合格率

養成施設ルート（留学生受験者）

	総数			新卒			既卒			学校数
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第 33 回	1,895	646	34.1	1,652	606	36.7	243	40	16.5	167 校
第 34 回	2,615	657	25.1	2,053	616	30.0	562	41	7.3	186 校
第 35 回	3,076	1,425	46.3	2,151	1,063	50.3	925	342	37.0	188 校

養成施設ルート（全体）

	総数			新卒			既卒			学校数
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	
第 33 回	6,542	4,766	72.9	5,907	4,595	77.8	635	171	26.9	359 校
第 34 回	7,144	4,667	65.3	6,226	4,501	72.3	918	166	18.1	359 校
第 35 回	7,784	5,888	75.6	6,484	5,298	81.7	1,300	590	45.4	359 校

出典：第 33～35 回介護福祉士国家試験養成施設等別合格率（厚生労働省）

2　インタビュー調査の実施概要
本調査では、外国人介護職員の定着と活躍支援の在り方を検討するため、以下の属性を持つ外国人介護職員 26 名および施設・事業所の担当責任者 23 名を対象にグループインタビューを実施した。
(1)　外国人介護職員の属性分類：
「養成施設ルート」「実務経験ルート（EPA、技能実習、特定技能等）」「高齢者分野（訪問系）」「その他分野（児童・障害等）」「家族帯同者」「役職者」の６グループ。

(2)　調査論点：
「ライフステージに応じた対応」「キャリアパスの構築」「資格取得支援」の３点。

3　外国人介護職員へのインタビュー調査結果詳細
(1)　ライフステージに関する実態と課題
①　日本での就労・生活意向大半の対象者が、現在の職場で継続して働くことを希望しており、「介護が楽しい」「地域が好き」「職員が優しい」といった理由が挙げられた。将来的に母国への帰国を視野に入れている者も、当面は日本で経験を積みたいという意欲を持っており、母国で介護施設を設立したいという具体的な目標を持つ者もいた。一方で、円安による仕送りへの影響や、身体的負担への不安を訴える声も聞かれた。

②　休暇の取得状況休暇については、概ね希望通り取得できているとの回答が多かった。一時帰国に関しては、１週間から２週間程度の休暇を取得するケースが見られたが、移動時間を考慮すると１カ月程度の

(5)　資格取得に関する学習状況とニーズ
①　学習方法と支援の有無養成施設ルートの者は、在学中の授業や施設でのアルバイト経験が試験対策に有効であったと回答した。実務経験ルート（元 EPA 等）では、受入れ調整機関（JICWELS）による学習支援や業務時間内の勉強時間確保が奏功していた。
②　不合格・未受験の要因業務の多忙さ、特に夜勤や残業により勉強時間の確保が困難であることが主な理由として挙げられた。また、養成施設ルートの経過措置対象者は、試験に合格しなくても５年間の実務従事等の要件で資格を保持できるため、再受験へのモチベーション維持が難しいという実態が明らかになった。
③　希望する支援「技能実習」や「特定技能」の職員に対しても、EPA と同様のテキスト配布や勉強会の開催を求める声があった。また、養成施設ルートの不合格者からは、孤独な学習環境を解消するため、施設内での勉強会や模擬試験の実施等、仲間と共に学ぶ機会が要望された。

4　施設・事業所担当責任者へのインタビュー調査結果詳細
(1)　生活・就労環境の整備状況
①　処遇と規定在留資格「介護」の職員は介護福祉士有資格者であるため、給与やキャリアパス等の処遇は原則として日本人職員と同様に扱われていた。
②　住居・生活支援外国人であることを理由に賃貸契約を断られるケースがあり、法人が保証人になる、法人契約のアパートや寮を提供する等の支援が行われていた。公共交通機関が不便な地域では、自動車免許の取得や車両購入に関する相談があるものの、費用面がハードルとなっていた。
③　家族帯同への対応「家族滞在」の配偶者に対し、自法人での雇用やグループ企業の紹介を行う事例があった。配偶者が日本語を話せない場合、就労先の確保が困難であるため、施設側による就労支援が定着に寄与している。

(2)　キャリアパスの運用と課題
①　評価と昇進国籍に関わらず能力に応じて役職者に登用する方針をとる施設が大半であった。実際に管理職やリーダーとして活躍する外国人もおり、彼らがロールモデルとなることで他の外国人職員のモチベーション向上につながっていた。
②　コミュニケーションの課題役職者には、部下への指導や利用者家族への説明など高度な日本語能力が求

	められるため、コミュニケーション能力（特にニュアンスの理解や伝達）が課題として挙げられた。 ③ 評価制度の工夫一部の施設では、既存のクリニカルラダー（能力評価基準）の表現を分かりやすく見直し、外国人職員にも目指すべき姿を明確に示すことで、キャリアアップ意欲の向上を図っていた。 (3) 資格取得支援の現状 ① 支援の実態日本人職員と同様に、対策講座の実施や受験費用の負担を行う施設があった。一方で、養成施設ルートの経過措置対象者に対しては、再受験を推奨しつつも、強制はできず、積極的な学習支援に至っていないケースも見られた。 ② 支援の格差EPAルートでは体系的な学習プログラムが存在する一方、それ以外のルート（特定技能等）や養成施設卒業後の不合格者に対する支援体制は施設ごとにバラつきがあった。 5 課題の整理と「ガイドブック」による対応 調査結果を踏まえ、以下の主要な課題と対応策が整理され、施設・事業所向けの「ガイドブック」としてまとめられた。 (1) 長期就労とライフステージ支援 ① 課題： 一時帰国等の長期休暇取得、家族（配偶者・子供）の呼び寄せと生活基盤の確保、出産・育児と就労の両立。 ② 対応策： • 休暇制度の柔軟な運用 （有給休暇と特別休暇の組み合わせ等）。 • 「家族滞在」配偶者への就労支援 （自法人雇用や地域での紹介）。 • 行政手続きや子供の教育環境 （学校との連携等）へのサポート。 • シングルマザー等の事情に応じたシフト調整（日勤固定、時短勤務等）。 (2) キャリアパス構築支援 ① 課題： 日本語能力（特に記録・報告・指導）の壁、ロールモデルの不在、キャリアの見通し不足。 ② 対応策： • キャリアパスや評価基準の明確化・可視化（分かりやすい日本語での提示）。

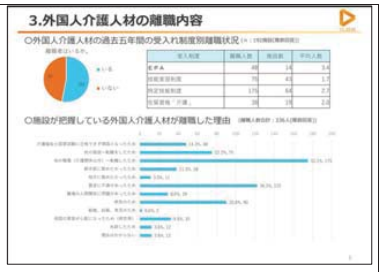
	イフステージの変化（特に家族帯同や育児）に伴う特有の課題への配慮、日本語能力向上を含む継続的なキャリア形成支援、そして資格取得に向けた組織的なバックアップが必要であることが確認された。
国家試験対策	（関連度中） 本報告書は、介護福祉士資格取得後のキャリアや定着が主テーマであり、試験対策に直接的に焦点を当てたものではない。しかし、資格取得後の日本語能力の課題や、実務経験ルートからの受験者への言及があり、試験対策後の継続的な学習支援の重要性を考える上で参考になる。
定着支援	（関連度高） 報告書の核心部分であり、最も関連が深い。キャリアパスの多様性、ライフステージの変化への対応、管理者への登用、職場でのコミュニケーションなど、外国人介護福祉士が日本で長く働き続けるための課題と支援策が具体的かつ多角的に論じられている。養成校が卒業後のキャリアを見据えた教育を行う上で、極めて重要な知見を提供している。
文化理解 ・地域定着	（関連度高） ライフステージの変化への対応（結婚、育児、家族の呼び寄せ）や、地域社会との関わり（子どもの教育など）に関する記述は、文化・社会的背景の違いを乗り越えて日本で生活を築いていく上での課題を浮き彫りにしている。職場内の異文化理解だけでなく、生活者としての定着を支援する視点が含まれており、関連性は高い。
本事業との関係で注目すべきポイント （★事業フック）	本報告書は、我々の事業が目指す「外国人介護人材の育成と定着支援」という目標に直結する、数多くの実践的な示唆を含んでいる。 特に注目すべきは、「キャリアパスの個別性と多様性への対応」という視点である。養成校の段階から、画一的なキャリア像を提示するのではなく、学生一人ひとりが自身の適性や志向に合わせた多様なキャリア（専門職、管理職、教育者など）を描けるような支援が求められる。 本報告書の事例を教材として活用し、卒業後のキャリアデザインについて考える授業やワークショップを導入することは、学生の学習意欲向上と定着率向上に大きく貢献するだろう。また、報告書内の「ガイドブック」は、養成校が実習先や就職先の施設と連携し、卒業生を継続的に支援していくための共通言語となりうる。 施設側との連携会議等で本資料を共有し、受け入れ体制の整備を共に働きかけていく際の強力なツールとなる。

	• 役職者への登用事例の創出と周知。 • 実務に即した日本語学習機会の提供（リーダー研修等）。 (3) 資格取得支援 ① 課題： 業務多忙による学習時間の不足、経過措置によるモチベーション低下、独学の限界。 ② 対応策： • 学習時間の確保 （シフト調整、勤務時間内の学習）。 • 模擬試験の実施やテキスト支給等の経済的・物理的支援。 • 養成施設や外部機関と連携した学習フォローアップ体制の構築。 • 資格取得によるメリット（手当増額等）の提示。  6 結論 在留資格「介護」の外国人材は、日本の介護現場において専門職としての中核的な役割を担うことが期待されている。定着と活躍を促進するためには、日本人職員と同様の処遇に加え、ラ

出典（正式表記）	公益社団法人日本介護福祉士会厚生労働省令和５年度社会福祉推進事業「在留資格「介護」の実態把握等に関する調査研究事業報告書」

調査番号	No. 04
資料名 （正式名称）	外国人介護人材定着度調査報告書（令和６年度）
作成主体	公益社団法人全国老人福祉施設協議会介護人材対策委員会外国人材対策部会
作成年（年度）	令和６年度
資料種別	調査報告書
掲載URL （該当ページ）	https://mitte-x-img.istsw.jp/roushikyo/file/attachment/588768/%E4%BB%A4%E5%92%8C6%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E5%A4%96%E5%9B%BD%E4%BA%BA%E4%BB%8B%E8%AD%B7%E4%BA%BA%E6%9D%90%E3%81%AE%E5%AE%9A%E7%9D%80%E5%BA%A6%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf
URL種別	PDF直リンク
URL遷移先の内容サマリー	本報告書は、全国の外国人介護人材を受け入れている介護施設を対象に実施したWEBアンケート調査の結果をまとめたものである。調査は令和７年１月９日から２月14日にかけて行われ、192施設から得た回答（回答率23.3%）を分析している。外国人介護人材の定着状況や離職状況、その要因を明らかにするとともに、職場環境、コミュニケーション、研修、生活支援など、施設側の支援策の実態を多角的に調査し、今後の定着支援や離職防止に向けた施策の充実を図ることを目的としている。
掲載情報の種類・注意点	本資料には、外国人介護人材を受け入れている全国の介護施設を対象としたWEBアンケート調査に基づく統計データが、グラフや表を用いて整理されている。 具体的には、外国人介護人材が重視する職場環境の要素（コミュニケーション、相談体制等）、在留資格別の離職状況とその理由（賃金、異業種への転職等）、転職勧誘の経路、および施設側が実施している定着支援策（生活支援、住宅補助、日本語研修等）の実施率などが網羅されている。また、施設が国や自治体に求める支援内容（助成金、事務負担軽減等）についても数値化されている。 利用上の注意点として、本調査は回答数が192施設（回答率23.3%）のサンプル調査であり、必ずしも全国の全ての施設の傾向を代表するものではない点に留意が必要である。また、離職理由や転職活動に関するデータは施設側の認識に基づく回答であるため、外国人材本人の意識と乖離する可能性がある点や、一部の設問（転職

	の勧誘経験等）においては、母数が全体か特定の回答者群かを確認し、慎重に数値を解釈する必要がある。
大分類	人材育成・定着
中分類	外国人介護人材
具体的内容 （典型例）	本報告書は、公益社団法人全国老人福祉施設協議会（外国人介護人材対策部会）が、外国人介護人材の定着状況および離職状況の実態を把握し、定着支援や離職防止策の充実に資することを目的に実施した「令和6年度外国人介護人材定着度調査」の結果を取りまとめたものである。 調査は、外国人介護人材を受け入れている全国の介護施設824カ所を対象にWEBアンケート形式で実施され、192施設から回答を得た（回答率23.3%）。回答施設における外国人介護人材の受入総数は1,177人であり、1施設あたりの平均受入人数は6.1人となっている。以下に、調査結果の詳細を示す。 1　外国人介護人材による職場評価と重視する要素 外国人介護人材が現在の職場について「良い」と感じている要素を複数回答で集計した結果、最も割合が高かったのは「職場内のコミュニケーションが良好である」で66.5%（783人）に達した。次いで「悩み不満等相談体制が整っている」が55.7%（656人）、「自分の希望に合わせてシフトを組んでくれる（労働時間や労働日等）」が52.5%（618人）、「有給休暇が取得しやすい」が52.2%（614人）と続いている。 一方で、「給料が良い」という回答は39.8%（468人）にとどまっており、給与面の待遇よりも、職場内の人間関係や働きやすさ、相談のしやすさといったソフト面の環境整備に満足感を見出している傾向が明らかになった。 その他の自由記述回答では、「子育てに協力してくれる体制がある」「お祈りの場所・時間を用意してもらった」「利用者の名前をひらがなで表記している」「仕事・生活面でのサポートが親切である」といった、具体的な配慮に対する肯定的評価が挙げられている。



2　離職の実態と要因分析
過去5年間における外国人介護人材の離職状況を受入制度別に見ると、特定技能制度での離職者が175人と最も多く、次いで技能実習制度（75人）、EPA（48人）、在留資格「介護」（38人）の順となっている。

施設側が把握している離職理由（複数回答）については、「他の職種（介護関係以外）へ転職したため」が52.1%（175件）で最多となり、半数以上が介護業界以外への流出であることが示された。次いで「賃金に不満があったため」が36.3%（122件）、「病気のため」が26.8%（90件）、「他の施設へ転職をしたため」が22.3%（75件）となっている。また、「介護福祉士国家試験に合格できず帰国となったため」という回答も14.3%（48件）存在し、資格取得の成否が就労継続に影響を与えている実態が確認された。

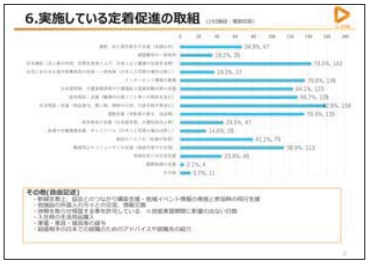
このほか、「都市部に勤めたかったため」（11.3%）といった地理的要因や、母国の家族の事情（9.5%）なども離職理由として挙げられている。

3　転職勧誘の状況と人材移動の動向
外国人介護人材に対する外部からの転職勧誘の有無について調査した結果、「特に勧められたことはない」との回答が71.4%（137件）で大半を占めた。勧誘を受けた経験があるケースの中では、「友人（SNS等含む）から勧められた」が31.8%（61件）で最も多く、次いで「家族から勧められた」が9.9%（19件）となっており、職業紹介事業所（4.7%）や登録支援機関（4.7%）といった公的・準公的なルートよりも、個人的なネットワークを通じた勧誘が主流であることが示された。自由記述では、友人から具体的な給与額の情報を提示されて勧誘を受ける事例などが報告されている。

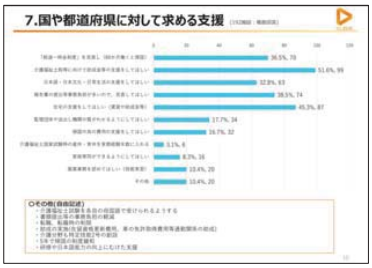
また、日本国内で転職活動を行っている外国人介護人材を採用した実績がある施設は全体の36.5%（70施設）で、採用人数は計183人であった。採用した人材の元施設の所在地（転出元）と採用施設の所在地（転入先）を分析すると、受入数が多い都道府県は神奈川県（24人）、東京都（21人）、愛知県（19人）となっており、地方から都市部へ人材が移動・集中する傾向が見られる。

4　施設における定着促進の取り組み
外国人介護人材の定着を図るために各施設が実施している支援策（複数回答）としては、「生活相談・支援（物品貸与、買い物、病院付添、行政手続き等）」が82.8%（159施設）と最も高い実施率を示した。次いで「住宅補助（法人寮、借上げ、手当等）」が74.5%（143施設）、「インターネット環境の整備」が70.8%（136施設）、「通勤支援（自転車貸与、送迎

等）」が70.3%（135施設）となっており、生活基盤の整備に対する支援が重点的に行われている。業務・学習面での支援では、「就労相談・支援」が66.7%（128施設）、「日本語研修、介護実務研修や介護福祉士国家試験対策の支援」が64.1%（123施設）で実施されている。その他の独自の取り組みとして、「新興宗教上の教会とのつながり構築支援」「地域イベントへの参加同行」「帰国休暇の許可」「結婚相手の就職支援」など、個別の事情に配慮したきめ細かな支援を行っている事例も挙げられた。



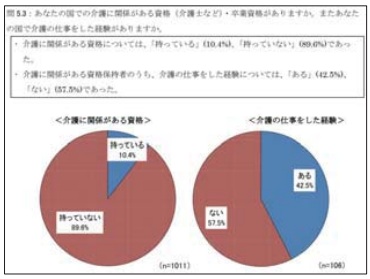
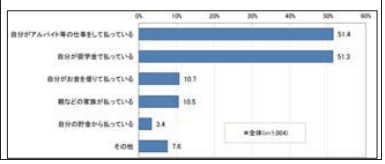
5　国や自治体への要望事項
施設側が国や都道府県に対して求める支援（複数回答）については、「介護福祉士取得に向けて助成金等の支援をしてほしい」が51.6%（99件）で最多となった。次いで「住宅の支援をしてほしい（賃貸や助成金等）」が45.3%（87件）、「報告書の提出等事務負担が多いので、見直してほしい」が38.5%（74件）と続き、経済的支援と事務負担の軽減に対する要望が強い。制度面に関しては、「脱退一時金制度の見直し（60か月働くと帰国してしまう問題）」を求める声が36.5%（70件）、「介護福祉士国家試験を母国語で受験できるようにすること」や「転職・転籍時の制限」を求める意見なども自由記述等で寄せられた。また、生活面での支援として「日本語・日本文化・日常生活の支援」を求める回答も32.8%（63件）見られた。

	 6　まとめ 本調査の結果、外国人介護人材の離職要因には賃金への不満も一定程度影響しているものの、定着を促進する要素としては、職場内の良好なコミュニケーションや相談体制、柔軟なシフト調整といった職場環境の質がより重視されていることが明らかになった。施設側は生活支援や住宅補助に注力しているが、離職理由として「他職種への転職」が半数を超える現状を踏まえ、国や自治体に対しては、資格取得支援や住宅支援の拡充、制度の見直しなど、より抜本的な対策が求められている
国家試験対策	（関連度高） 報告書では、施設の 64.1%が日本語研修や試験対策を実施しているものの、離職理由として「国家試験に合格できず帰国」が 14.3%を占めている。これは、現行の試験対策が十分でない可能性を示唆しており、養成校がより効果的な国家試験対策プログラムを開発・提供する必要性を示している。特に、個々の学習進度に応じた指導や、実務と連動した試験対策などが求められる。
定着支援	（関連度高） 本報告書は定着支援そのものをテーマとしており、関連性は極めて高い。特に、「職場のコミュニケーション」や「相談体制」が定着に重要であるという結果は、養成校が卒業後を見据えた教育プログラム（例：日本の職場文化、コミュニケーションスキル、メンタルヘルスケアなど）を導入する上で重要な示唆を与える。また、施設側が「生活相談・支援」や「住宅補助」に力を入れていることから、養成校としても地域生活に関する情報提供やサポート体制の構築を検討すべきである。

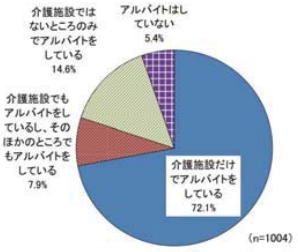
	ス集計表を用いて網羅的に掲載されている。具体的には、留学生の属性（国籍、日本語能力等）、学習・生活実態、養成施設における指導体制や指導上の困難点などが詳細に記述されている。また、国家試験および模擬試験の得点データを活用した分析結果も掲載されており、日本人学生と留学生の正答率比較や、日本語能力（N2/N3等）と得点の相関関係を示した決定木分析、試験問題に使用される日本語の特性（語彙、文構造）による難易度分析などが含まれている。 利用上の注意点として、本調査は令和 2 年度（2020 年度）に実施されたものであり、掲載データは当時の状況を反映したものである。また、本事業の成果物として言及されている「留学生指導についてのガイドライン」は別冊となっており、本報告書自体にはその詳細な内容は含まれていない。なお、一部の分析（学力評価試験との相関等）は、アンケート回答と試験結果の紐付けが可能であった特定の回答者群（留学生 631 名、養成校 67 校）を対象としたデータである点に留意が必要である
大分類	外国人介護人材育成
中分類	介護福祉士国家試験対策、留学生学習支援
具体的内容 （典型例）	1　調査の概要と目的 本事業は、介護福祉士養成施設（以下、養成校）における外国人留学生（以下、留学生）の国家試験合格率が日本人学生を下回っている現状を踏まえ、留学生が抱える就学上の課題を調査・分析することを目的として実施された。調査手法として、留学生および養成校へのアンケート調査、国家試験結果のデータ分析、試行試験・模擬試験の実施と分析、およびヒアリング調査が行われた。 2　2. 留学生の属性と生活実態 (1)　基本属性 アンケート回答のあった留学生（有効回答 1,011 名）の国籍は、ベトナムが 50.2%と過半数を占め、次いでネパール（12.3%）、中国（11.2%）となった。年齢層は 25 歳以下が 46.7%で最多であり、26 歳～30 歳が 40.9%と続く。日本語能力試験（JLPT）の合格状況は、N3 合格者が 37.3%と最も多く、次いで N2 合格者が 30.4%であった。一方で、どのレベルにも合格していない学生が 14.2%存在した。母国での学歴は、短期大学・専門学校卒業が 39.0%、高等学校卒業が 32.3%、大学・大学院卒

文化理解・地域定着	（関連度中） 報告書では、都市部への転職傾向が見られることから、地方における地域社会との連携や、文化理解を促進する取り組みの重要性が間接的に示されている。養成校が立地する地域の特性を活かし、地域のイベントへの参加や住民との交流機会を設けるなど、学生が地域に愛着を持ち、卒業後もその地域で生活を続ける意欲を高めるような働きかけが考えられる。
本事業との関係で注目すべきポイント （★事業フック）	本調査結果は、介護福祉士養成校が取り組むべき課題を明確に示している。特に、①効果的な国家試験対策プログラムの開発、②日本の職場文化やコミュニケーションに関する実践的な教育の導入、③卒業後のキャリアサポートや相談体制の構築、④地方の介護施設への就職を促進するための地域連携強化、といった具体的なアクションにつなげることが可能である。これらは、本事業が目指す「外国人介護人材の育成と定着」という目標に直結する重要なフックとなる。
出典（正式表記）	公益社団法人全国老人福祉施設協議会介護人材対策委員会外国人介護人材対策部会「令和 6 年度外国人介護人材定着度調査報告書」

調査番号	No. 05
資料名 （正式名称）	外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究
作成主体	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会
作成年（年度）	令和 2 年度
資料種別	調査研究の報告書
掲載 URL （該当ページ）	https://kaiyokyo.net/pdf/r2_gaikokujin_gakushuushien.pdf?utm_source=chatgpt.com
URL 種別	PDF 直リンク
URL 遷移先の内容サマリー	本報告書は、外国人留学生の介護福祉士国家試験合格率の低迷を背景に、その学習上の課題を調査・分析し、養成校向けの学習支援ガイドラインを作成することを目的とした事業の成果物である。内容は、国家試験結果の分析、先行研究のレビュー、留学生および養成校への大規模なアンケート調査、試行試験・模擬試験の結果分析、ヒアリング調査など、多角的なアプローチに基づいている。特に、留学生の属性、学習状況、生活実態、養成校の指導体制や課題などが詳細なデータと共に報告されており、外国人介護人材育成の現状と課題を網羅的に把握できる。
掲載情報の種類・注意点	本資料は、介護福祉士養成施設における外国人留学生の国家試験合格率向上を目的とした調査研究の報告書であり、留学生および養成施設に対するアンケート調査に基づく統計データが、グラフやクロ

	業が 24.6%であった。また、母国での看護師資格保有者は 28.7%、介護関連資格保有者は 10.4%であった。  (2)　経済状況と住居 学費・生活費の支弁方法は、「自分がアルバイト等の仕事をして払っている」が 51.4%、「自分が奨学金で払っている」が 51.3%と拮抗した（複数回答）。学力評価試験の点数が高い留学生、および試験平均点が高い養成校に所属する留学生ほど、奨学金の利用率が高く、アルバイトへの依存度が低い傾向が確認された。住居形態は「友人等とのシェア」（36.8%）、「一人暮らし」（34.1%）が多く、「寮」は 21.7%であった。学力評価試験の点数が高い学生層では、寮に居住している割合が高い傾向が見られた。 

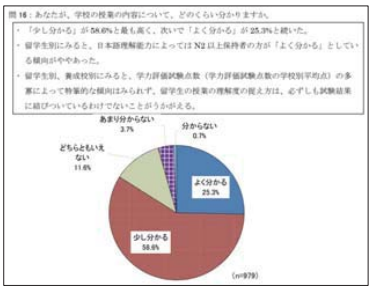
(3)　アルバイトの実態
留学生の 72.1%が「介護施設のみ」でアルバイトを行っており、他の職種と掛け持ちしている者を含めると約 8 割が介護現場で就労している。アルバイトの内容は「利用者への身体介護」が 92.0%と大半を占めた。アルバイト先での学習環境については、「介護や日本語について質問できる」とした回答が約 95%に達し、「仕事より学校の勉強を大切にするように言われている」との回答も 89.0%であった。アルバイトを通じて「介護技術」（69.8%）や「利用者理解」（62.7%）が進んだとする回答が多く、現場経験が学習に一定の効果をもたらしていることが示された。



3　留学生の学習状況と意識
(1)　学習時間と補講
授業がある日の自宅学習時間は「1 時間ぐらい」が 40.7%で最多であった。授業がない日についても「1 時間ぐらい」が 31.4%で最多となる一方、「3 時間ぐらい」以上の学習時間を確保している学生層も一定数存在した。補講への参加状況は、「参加しなければならないものは全部参加している」が 51.2%であった。学力評価試験の点数が高い層や、成績優秀な養成校に所属する留学生ほど、補講への参加率が高い傾向にあった。

(2)　授業の理解度と困難な科目
学校の授業内容について「よく分かる」は 25.3%、「少し分かる」は 58.6%であり、合わせて約 8 割が一定の理解を示している。しかし、JLPT が N3 以下の層では「よく

分かる」の割合が低下する傾向が見られた。学習において困難を感じる科目（複数回答）としては、「社会の理解」が 72.4%と突出して高く、次いで「発達と老化の理解」（47.4%）、「人間の尊厳と自立」（46.4%）が挙げられた。特に「社会の理解」については、学力評価試験の高得点層や N2 以上保有者であっても高い割合で「難しい」と感じており、日本語能力に関わらず概念理解そのものの難易度が高いことが示唆された。

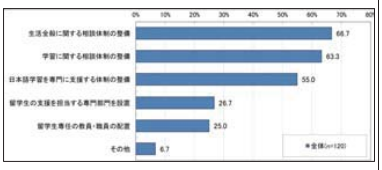


(3)　国家試験に対する意識
国家試験の勉強において困難と感じる要素としては、「病気や障害などの理解」（86.8%）、「医療・介護の言葉の理解」（86.4%）、「介護制度、サービスの理解」（81.0%）が高かった。合格への意欲に関しては、「必ず合格したい」が 69.2%を占めた。この意欲は、学力評価試験の点数が高い層、N2 以上保有者、看護師資格保有者において特に高い傾向が見られた。卒業後の進路希望では、「日本に永住したい」（34.0%）や「10 年ぐらいは住みたい」（33.7%）など、長期滞在を希望する層が過半数を占めた。

4　養成校における受入れ・指導体制の実態
(1)　入学者選抜と日本語要件
留学生の入学試験において重視する要件として、「介護を学ぶ意欲」（94.2%）、「日本語能力」（90.0%）が挙げられた。日本語能力の要件設定については、「N3 以上」とする学校が 47.4%で最多であり、「N2 以上」は

46.3%であった。学力評価試験の平均点が高い養成校や、国家試験合格率が高い養成校では、入学時の日本語要件を「N2 以上」と高く設定している傾向が見られた。

(2)　サポート体制
独自のサポート体制として、「生活全般に関する相談体制」（66.7%）、「学習に関する相談体制」（63.3%）を整備している学校が多い。成績下位校では生活相談の整備率が高い一方、成績上位校では「日本語学習を専門に支援する体制」や「専門部署の設置」が進んでいる傾向が見られた。施設・設備の面では、成績上位校において「寮の完備」や「礼拝所等の設置」など、学習環境および多文化配慮への取り組み実施率が高い傾向にあった。

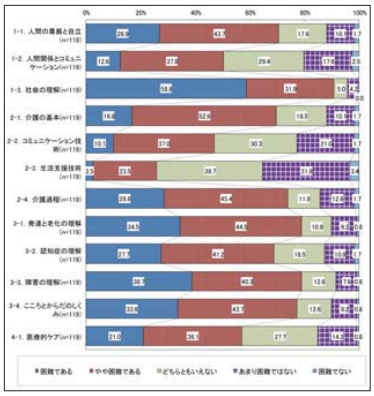


(3)　授業・指導体制
留学生と日本人学生のクラス編成については、「分けておらず共に授業を受けている」が 88.3%と大半を占めた。使用教材については、約 3 割の学校が「外国人向けに一般販売されているテキスト」を使用している一方、「特別な教材は使用していない」とする学校も 34.2%存在した。成績上位校においては、「特別な教材は使用していない」と回答する割合が高く、通常の日本人向け教材で授業が成立している状況がうかがえる。

(4)　国家試験対策と補講
国家試験対策として、「模擬試験等のテスト実施」は 97.5%の学校で行われている。補講の実施頻度について、卒業年度の留学生に対する国家試験直前期の補講は、過半数の学校で週 2〜3 回以上実施されていた。一方で、成績上位校においては、国家試験直前期に補講を「実施していない」とする割合が相対的に高かった。これは、早期の段階（卒業年度以外や長期休暇中）で日本語等の対策を済ませ、直前期は自習等に時間を充てている可能性が示唆された。逆に、成績下位校では、卒業年

度の通年および直前期における補講実施率が高いものの、結果に結びついていない現状が見られた。

(5)　指導上の困難
教員が指導上困難と感じる科目として、「社会の理解」が 90.7%で最も高く、留学生側の意識と一致した。また、「医療・介護の用語の理解」（79.8%）や「法律・サービスの理解」（83.4%）についても困難度が高かった。成績上位校や N2 要件校では、これらの項目についても「困難である」とする回答率が低い傾向にあった。



5　試験結果のデータ分析
(1)　国家試験および模擬試験の得点傾向
日本人学生と留学生の国家試験得点率を比較した結果、全体的に留学生の得点率は低いが、領域別に見ると「人間関係とコミュニケーション」や「介護過程」において、日本人が 9 割近い得点率であるのに対し、留学生は 6 割〜7 割程度と差が開く傾向が見られた。一方で、「社会

	の理解」や「障害の理解」は日本人・留学生ともに得点率が低く、共通の難関科目であることが確認された。 (2)　決定木分析による要因分析 学力評価試験の結果を用いた決定木分析によると、高得点層と低得点層を分ける最も大きな要因は「日本語理解能力（N2 以上か否か）」であった。 ①　高得点層： 「日本語能力 N2 以上」かつ「必ず合格したいという強い意欲」を持つ層が該当する。 ②　中間層： 「日本語能力 N3 以下」であっても、「必ず合格したいという意欲」を持ち、かつ「非授業日に 3 時間以上の自宅学習」を行っている層は、平均点近辺の得点を維持していた。 ③　低得点層： 「日本語能力 N3 以下」で、かつ合格意欲が相対的に低い層が該当した。 また、養成校の属性分析においては、「入学時日本語要件が N2 以上」であることや、「日本語専門学習の対策を行っていない（＝特別な対策が不要なレベルの学生を受け入れている）」ことが、高得点校の特徴として抽出された。 日本語の難しさの分析試験問題に使用される日本語の特性と正答率の関係を分析した結果、「難解な漢語の使用」、「複合語」、「長い・複雑な文」が含まれる問題において、留学生の正答率が低下する傾向が確認された。特に低得点層においては、「難解な漢語」が含まれる問題での正答率が著しく低かった。

	留学生の生活実態、経済状況（奨学金・アルバイト）、将来のキャリアに対する意識調査が含まれており、学習支援が生活の安定や将来設計と密接に関連していることを示している。卒業後の日本での就労意欲が高いことから、資格取得支援がそのまま定着支援に繋がるという文脈で関連性が高い。
文化理解 ・地域定着	（関連度低） 主な焦点は学業支援と国家試験対策であり、日本の文化や地域社会への適応といったテーマは直接的には扱われていない。ただし、アルバイト先での経験を通じて「日本の文化や生活習慣が理解できるようになった」との回答もあり、間接的な関連性は見られる。
本事業との関係で注目すべきポイント （★事業フック）	本報告書は、外国人留学生に対する介護福祉士国家試験対策を体系的に論じた、データに基づく貴重な資料である。特に、「留学生の属性（日本語レベル、母国の学歴等）と、困難を感じる科目の相関分析」は、本事業で開発する教材の難易度設定や内容構成を検討する上で極めて重要な示唆を与える。例えば、N3 レベルの学生を主対象とする場合、「社会の理解」の教材は、専門用語の解説だけでなく、日本の社会保険制度の全体像を図解するなど、基礎的な概念理解を促す工夫が不可欠である。また、「国家試験合格率が高い養成校の実践事例」は、PBL 型教材の導入や、効果的な学習サイクルを設計する上での具体的なモデルケースとして活用できる。これらの知見を基に、より学習効果の高い教材開発を目指すことが期待される。
出典（正式表記）	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会令和２年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業「外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書」

調査番号	No. 06
資料名 （正式名称）	外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究
作成主体	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会
作成年（年度）	令和 4 年度
資料種別	調査研究報告書
掲載 URL （該当ページ）	https://kaiyokyo.net/pdf/r4_gaikokujin_gakushuu_shien.pdf?utm_source=chatgpt.com
URL 種別	PDF 直リンク
URL 遷移先の内容サマリー	本資料は、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会が 2022 年度に実施した、外国人介護人材の質の向上を目的とした調査研究事業の報告書である。特に、介護福祉士国家試験の合格率が低い外国人留学生への学習支援に焦点を当て、指導のポイントや学習ハンドブックのあり方について検討している。具体的には、過去の国家試験の

	図表：決定木分析（イメージ図）  ＜参考＞　学力評価試験の平均得点率：43. 4%（125 点換算で 54. 3 点） 6　まとめ 調査結果から、外国人留学生の国家試験合格に向けた課題は、単なる介護知識の不足だけでなく、ベースとなる日本語能力と、日本の社会制度や文化背景の理解にあることが明らかになった。合格率が高い養成校の特徴として、入学段階で高い日本語能力（N2 以上）を求めている点、および早期からの対策や学生の習熟度に合わせたきめ細かな指導を行っている点が挙げられる。また、留学生自身の学習意欲や自宅学習時間の確保も合格に寄与する重要な要因であることがデータにより裏付けられた。 今後は、特に「社会の理解」等の難関科目における視覚的教材の活用や、専門用語・概念理解のための日本語教育の強化、およびモチベーション維持のためのキャリア支援等が求められることが示唆された内容となっている。
国家試験対策	（関連度高） 本報告書の中核をなすテーマであり、留学生の試験結果分析、困難な科目、有効な学習支援策、養成校の指導事例など、国家試験合格率向上に直結する情報が豊富に含まれている。模擬試験のデータ分析は、具体的な弱点克服のための指導計画策定に極めて有用である。
定着支援	（関連度中）

	得点傾向分析を通じた留学生の弱点科目の特定、効果的な指導方法の提案、そして日本語能力が学習に与える影響の考察などが含まれる。養成施設が留学生を指導する上での具体的な指針を提供し、国家試験合格率の向上と、質の高い外国人介護福祉士の育成を目指す内容となっている。
掲載情報の種類・注意点	本報告書は、主に介護福祉士養成施設の教員を対象として、外国人留学生への指導方法に関する具体的な情報を提供している。国家試験の科目別得点データや、誤答の傾向分析など、定量的なデータに基づいた考察が豊富な点が特徴である。ただし、本報告書自体は直接の学習教材ではなく、あくまで指導者向けのガイドラインである点に注意が必要である。また、一部の PDF 資料はリンク切れとなっている可能性があり、関連資料を別途検索する必要が生じる場合がある。
大分類	外国人介護人材
中分類	教育・研修
具体的内容 （典型例）	本報告書は、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会が実施した「外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業」の成果を取りまとめたものである。 本事業は、外国人留学生（以下、留学生）の国家試験合格率向上および質の高い介護人材の育成を目的とし、留学生の実態調査、養成校へのアンケート、合格者・教員へのヒアリングを通じて、指導ガイドラインの改訂および学習ハンドブックの作成を行ったものである。以下に、調査・分析によって明らかになった詳細データおよび具体的要件、事例について記述する。 1　留学生へのアンケート調査に基づく学習実態の解明 全国の介護福祉士養成施設（164 校）に在籍する卒業予定の留学生を対象としたアンケート調査（有効回答数 995 票）により、以下の学習実態が明らかとなった。 (1)　科目別の学習困難度と対策の実態 留学生が学習において意識する科目、および具体的な学習対策を講じている科目に関する調査結果（n 数に基づく回答者分布）は、以下の傾向を示している。 ①　社会の理解（n=311）： 科目別の学習方法等に関する回答者数が最も多く、多くの留学生が最大の課題として認識している実態が確認された。具体的な学習行動としては、「授業のノートやプリントを何度も読む」（47. 2%が「いつもしている」と回答）、「教科書をよく読む」（40. 4%）等の割合が高く、基礎知識の定着に時間を割いている状況がうかがえる。

② 生活支援技術（n=170）：
「社会の理解」に次いで回答者数が多く、実技を伴う科目としての学習負担が示唆された。学習方法では、「スマートフォン（携帯電話）の動画等を見て勉強する」（45.3%）が他の手段と比較して高い割合を示しており、視覚教材を活用した学習が定着している特徴が見られる。

③ その他の科目：
「コミュニケーション技術」（n=103）、「発達と老化の理解」（n=64）、「認知症の理解」（n=54）等が続く。得点傾向の分析からは「認知症の理解」「発達と老化の理解」等が弱点として特定される傾向にあるが、学生の主観的な学習負担感としては「社会の理解」が圧倒的多数を占めている点が特徴的である。

(2) 合格意欲と日本語能力の相関
国家試験に対する意識調査では、全体の 71.4%が「必ず合格したい」と回答している。属性別のクロス集計によると、日本語能力試験（JLPT）で「N2 以上」を取得している層では 83.3%が「必ず合格したい」と回答しているのに対し、「N2 未満」の層では 63.8%にとどまる傾向が見られた。また、大学・大学院卒の学歴を持つ層（79.1%）や、介護施設でのアルバイト経験がある層（74.6%）において合格意欲が高い傾向が示された。

		n数	必ず合格したい	できれば合格したい	今までに合格したいかどうかを考えたことがない
全体		995	71.4	26.9	1.7
学歴	大学・大学院以上	225	79.1	18.2	2.7
	大学の経験なし	770	69.1	29.5	1.4
介護や看護の資格の保持状況	資格を持っており実務経験有り	106	94.0	4.2	1.9
	資格を持っているが実務経験無し	83	81.9	13.3	4.8
	資格なし	826	70.5	28.1	1.5
日本語能力	N2以上	384	83.3	15.6	1.0
	N2未満	611	63.8	34.0	2.1
介護分野の日本語の理解度	高	196	91.3	13.3	0.5
	中	721	69.6	28.7	1.7
	低	78	50.0	44.9	5.1
アルバイト経験	介護施設・事業所でのアルバイト経験有り	747	74.6	24.6	0.8
	介護施設・事業所でのアルバイト経験無し	248	61.7	33.9	4.4
キャリアコミットメント（情緒的要素）	高	555	79.5	19.8	0.7
	中	326	64.1	34.7	1.2
	低	113	53.1	38.9	8.0
勉強時間	日平均2 時間以上	364	74.2	25.0	0.8
	日平均1 時間以上2 時間未満	402	74.1	25.1	0.7
	日平均1 時間未満	204	61.2	34.0	4.9
授業の理解度	よくわかる	259	83.0	14.7	1.5
	上位以外	661	66.6	31.6	1.8

(3) 学習阻害要因の分析
苦手科目が生じる理由についての設問（n=36～311）では、「出てくる言葉が難しいから」という回答が多くの科目で上位を占めた。特に「社会の理解」や「発達と老化の理解」等の講義系科目において、専門用語や制度用語の難解さが学習の障壁となっていることがデータとして示されている。

	①勉強の仕方がわからないから	②介護の仕事で役立つことが理解できないから	③内容が難しい・面白くないから	④知らないことばかりだから	⑤出てくる言葉が難しいから	⑥あまり勉強していないから	⑦その他	「その他」を除く全設問の平均値
人間の尊厳と自立	1.82	1.84	1.58	1.93	2.12	1.68	1.56	1.78
人間関係とコミュニケーション	2.00	2.05	2.15	2.05	2.15	2.15	2.14	2.09
社会の理解	1.72	1.55	1.67	2.11	2.21	1.58	1.36	1.81
介護の基本	2.24	1.84	2.03	1.95	2.08	2.00	1.92	2.01
コミュニケーション技術	1.94	1.56	1.63	1.88	2.13	1.63	1.27	1.79
生活支援技術	1.95	1.93	1.93	2.15	2.36	1.93	1.56	1.96
介護過程	1.73	1.37	1.37	1.67	1.85	1.73	1.50	1.64
発達と老化の理解	1.88	1.67	1.67	2.11	2.25	1.67	1.58	1.88
認知症の理解	1.78	1.63	1.73	2.22	2.20	1.78	1.44	1.93
障害の理解	1.77	1.77	1.66	1.97	1.77	1.74	1.73	1.78
こころとからだのしくみ	1.72	1.48	1.55	2.03	2.27	1.67	1.39	1.82
医療的ケア	1.75	1.75	1.66	2.00	2.24	1.71	1.39	1.85
平均	1.85	1.69	1.71	2.01	2.15	1.77	1.56	1.86

※設問・選択肢によって n 数が異なるため、n 数の表示はしておりません

2 国家試験データの分析と日本語能力の影響
過去の国家試験（第 33 回および第 34 回等）のデータ分析に基づき、留学生の得点傾向と日本語能力の関係性が整理された。

(1) 日本語能力と誤答のメカニズム
留学生の試験結果分析において、専門用語の理解不足だけでなく、一般的な日本語能力に起因する誤答傾向が確認された。
① 平易な日本語における躓き：
文法的には N4・N5 レベルとされる平易な日本語で構成された問題文であっても、文脈の読み取りや日本の生活文化・背景知識（コンテクスト）の欠如により、正答率が低下する事例が見られた。これは、単語の意味理解だけでは解答できない問題に対する留学生の脆弱性を示唆している。

② 読解プロセスにおける課題：
アンケートの自由記述やヒアリング調査からは、問題文の長文化や、二重否定などの複雑な表現に対する苦手意識が強いことが報告されている。特に「社会の理解」においては、制度の仕組みを理解する以前に、説明文章そのものの読解に時間を要している実態が明らかとなった。

(2) 得点傾向に基づく指導上の留意点
試験データの分析結果より、以下の傾向が導き出された。
① 生活支援技術・認知症の理解：
日本の介護現場特有のケアの考え方や、認知症ケアにおける利用者主体の視点が十分に理解されていないことに起因する失点が見られる。
② 社会の理解：
前述の通り、日本語の壁に加え、社会保障制度等の概念理解が難航しており、留学生と日本人学生の得点差が開きやすい科目となっている。

3 養成校・教員へのアンケートおよびヒアリング調査結果
効果的な指導方法を抽出するため、養成校へのアンケート調査（有効回答 45 票）および、現役合格を果たした元留学生・指導教員へのヒアリングが実施された。

(1) ガイドライン活用と指導の工夫
養成校への調査では、既存の「留学生指導についてのガイドライン」の活用実態として、「国家試験対策授業の準備や授業の中で活用している」「留学生への個別指導の際に活用している」といった回答が得られた。また、指導上の工夫として以下の事例が報告されている。
① 漢字・語彙の指導：
「分からない単語は面倒でも一つ一つ調べて覚える」指導の徹底や、漢字語彙の類推方法の指導。
② 問題演習の工夫：
5 肢択一問題において、単に正解を選ぶだけでなく、「間違いの選択肢を正しい文章に直す作業」を繰り返し実施（例：125 問×5 回分＝700 問以上）させることで、読解力と知識の定着を図った事例（養成校 C の事例）。

(2) 合格した元留学生の特徴
ヒアリング調査の結果、現役合格を果たした留学生には以下の共通項が見出された。
① 高いモチベーション維持
合格への強い意志を持ち、日々の学習を継続している。教員側は「モチベーションは学生が上げるしかない」としつつも、環境整備や興味を持てる授業展開によって支援している。

② 日本人学生との交流：
外国語禁止のルールの下、日本人学生と積極的に交流し、日常会話を通じて日本語能力や日本社会への

知識を向上させている（卒業生 D さんの事例）。

③ 学習方略の確立：
過去問題の反復や、グループワークを通じた教え合いなど、能動的な学習スタイルを確立している。

4 成果物の作成と構成要件
以上の調査結果を踏まえ、養成校向け「ガイドライン（改訂版）」および留学生向け「学習ハンドブック」が作成された。

(1) 「介護福祉士国家資格取得に向けた留学生指導についてのガイドライン（改訂版）」
令和 2 年度版からの改訂として、以下の要素が追加・強化された。
① 日本語教員との連携：
介護教員単独ではなく、日本語教員と連携した指導体制の構築の重要性を明記し、具体的な連携事例を追記した。

② 個別性への配慮：
国や文化の違いによる類型化に留まらず、留学生個人の背景や事情に配慮した指導・環境整備の必要性を強調した。

③ 最新の試験傾向の反映：
第 33 回・34 回国家試験の内容分析に基づき、頻出語彙や躓きやすいポイントの解説を拡充した。

(2) 「留学生のための学習ハンドブック」
これから国家試験を目指す留学生（全学年対象）向けに、平易な日本語で構成されたハンドブックが新規作成された。構成は以下の 4 章立てとなっている。
① 日本で介護を学ぶにあたって：
日本の介護の理念や学習の意義、モチベーション維持の方法（「少しやる気が出ないと感じるとき」「入学した日の気持ちを忘れてしまいそうなとき」等へのアドバイス）。

② 介護の学校の授業での学び方：
授業の受け方、ノートの取り方、苦手科目の克服方法など、日々の学習姿勢に関する具体的助言。

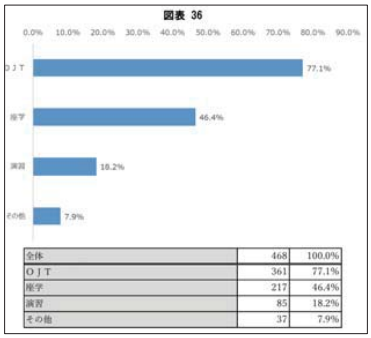
③ 授業以外での学習方法について：
教科書や参考書の効果的な使い方、時間を有効活用

	した試験勉強の方法、スケジュールの立て方。 ④ 日本語で介護を学ぶということ～国試に向けた日本語の理解～： 国家試験特有の日本語表現や、読解のコツに特化した解説。  学習ハンドブックの構成内容 章 / 内容 I. 日本で介護を学ぶにあたって (P9～P13) ★「日本の介護」と「介護の学校で勉強する意味」など★ ・少しやる気が出ないと感じるとき →OOP ・入学した日の同時刻を忘れてしまいそうなとき →OOP II. 介護の学校の授業での学び方 (P14～P24) ★「授業の特徴」や「授業態度」など★ ・苦手な科目がある人へ →OOP III. 授業以外での学習方法について (P25～P29) ★「教科書などの使い方」や「試験勉強の方法」など★ ・時間を上手に使って勉強の方法を知りたい人 →OOP IV. 日本語で介護を学ぶということ ～国試に向けた日本語の理解～ (P30～P35) ★国家試験に特化した日本語★ ・国試問題が何回やっても読めないと感じている人 →OOP ・日本語力を上げて、合格したい人 →OOP これらの成果物は、教える側（養成校・教員）と学ぶ側（留学生）の双方に対して、データと実例に基づいた具体的な指針を提供するものとして位置づけられている。
国家試験対策	（関連度高） 本報告書の中核テーマであり、留学生の国家試験合格率向上を目的とした具体的な分析と指導法が詳述されているため、関連度は高い。
定着支援	（関連度中） 国家試験合格は、在留資格の安定やキャリアアップに繋がり、日本での長期的な就労、すなわち定着を促進する重要な要素である。
文化理解・地域定着	（関連度中） 留学生が苦手とする科目の背景に、日本の文化や生活習慣への理解不足があることを指摘しており、文化理解の重要性を示唆している。
本事業との関係で注目すべきポイント （★事業フック）	本報告書は、外国人留学生の国家試験合格率の低さという喫緊の課題に対し、データに基づいた具体的な解決策を提示している点で、本事業との親和性が極めて高い。特に、留学生が「認知症の理解」や「生活支援技術」といった、日本の介護現場で中核となる領域で困難を抱えているという分析は、本事業で開発する教育コンテンツの重点項目を定める上で重要な示唆を与える。報告書で提案されている「指導のポイント」を PBL 型教材のシナリオ設計や、知識教材

	候補者が必要な介護技術をどの程度習得しているかを統一的かつ網羅的に把握・評価する基準が存在しないのが現状である。本調査は、受入れ施設における指導・評価の現状をアンケートおよびヒアリングを通じて把握し、統一的な評価方法確立に向けた基礎資料とすることを目的として実施された。 2 受入れ施設の指導体制と属性 (1) 施設基本情報 アンケート調査は EPA 介護福祉士候補者を受け入れている 649 施設を対象に実施され、468 施設から回答を得た（回答率 72.1%）。回答施設の種別は、特別養護老人ホームが 64.5%と過半数を占め、次いで介護老人保健施設が 18.8%であった。また、71.8%の施設が EPA 以外の外国人介護人材（技能実習、特定技能等）も受け入れており、その受入れ人数は「5 人以上 10 人未満」が 26.8%と最も多かった。 (2) 研修責任者・研修支援者の属性 EPA 介護福祉士候補者の指導を統括する「研修責任者」と、直接的な支援を行う「研修支援者」の経験・資格について、以下の実態が明らかとなった。 ① 実務経験年数 研修責任者の介護職としての実務経験年数は、「15 年以上」の者が合計で 61.1%（15 年以上 20 年未満 26.9%、20 年以上 30 年未満 31.6%、30 年以上 2.6%）を占め、約 6 割が豊富な現場経験を有している。一方で、「介護福祉士」としての経験年数で見ると、15 年以上の者は 43.3%（15 年以上 20 年未満 25.2%、20 年以上 30 年未満 17.5%、30 年以上 0.6%）であり、過半数には達していない。研修支援者については、介護職としての経験年数が「10 年以上 15 年未満」が 27.6%、「15 年以上 20 年未満」が 28.8%と中間層が厚い構成となっている。 ② 保有資格と講習会修了状況 研修責任者の保有資格（介護福祉士以外）は、介護支援専門員が 50.2%と最も多く、次いで社会福祉士が 15.6%であった。指導に関する講習会の修了状況については、研修責任者の 43.6%が「介護福祉士実習指導者講習会」を修了している一方、「実務者研修教員講習会」の修了者は 4.5%にとどまり、50.9%はいずれの講習会も修了していない。研修支援者においても同様の傾向が見られ、「介護福祉士実習指導者講習会」の修了者は 31.8%であるのに対し、

	の解説コンテンツに組み込むことで、より効果的な学習プログラムの開発が期待できる。
出典（正式表記）	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会令和 4 年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業「外国人介護人材の質の向上等に資する学習支援等調査研究事業報告書」

調査番号	No. 07
資料名（正式名称）	EPA 介護福祉士候補者…評価方法等の調査研究
作成主体	公益社団法人国際厚生事業団（JICWELS）
作成年（年度）	令和 5 年
資料種別	調査研究報告書
掲載 URL（該当ページ）	https://jicwels.or.jp/wp-content/uploads/2023/04/%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E7%A0%94%E7%A9%B6%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf
URL 種別	PDF 直リンク
URL 遷移先の内容サマリー	本報告書は、EPA（経済連携協定）に基づき来日した外国人介護福祉士候補者の、日本の介護現場における技術習得状況と、その評価方法に関する調査結果をまとめたものである。アンケート調査とヒアリング調査を通じて、候補者の技術レベルや施設側の指導・評価の現状を多角的に分析。特に、移動、排泄、食事、入浴といった基本的な介護技術の習得度合いを、来日年度や国籍別に比較し、課題を浮き彫りにしている。また、施設内での研修体制や指導者の経験・資格についても詳細なデータを示しており、外国人介護人材の育成に関わる関係者にとって、実践的な示唆に富む内容となっている。
掲載情報の種類・注意点	本資料は、主に量的調査（アンケート）と質的調査（ヒアリング）に基づいたデータで構成されている。特に、EPA 介護福祉士候補者の技術習得度に関する経年比較データは貴重である。ただし、アンケートの回答は施設側の自己評価に基づくものであり、客観的な第三者評価ではない点に留意が必要。また、調査時点は令和 4 年度（2022 年度）であり、最新の状況とは異なる可能性がある。
大分類	外国人介護人材
中分類	EPA 介護福祉士候補者
具体的内容（典型例）	1 調査の背景と目的 経済連携協定（EPA）に基づき来日した介護福祉士候補者（以下「EPA 介護福祉士候補者」）は、受入れ施設における 3 年間の就労と研修を経て介護福祉士国家資格の取得を目指す。近年、外国人介護人材の受入れ枠組みが多様化する中、EPA 介護福祉士は専門人材として、他の外国人材の指導役となることが期待されている。しかし、受入れ施設において EPA 介護福祉士

	「実務者研修教員講習会」の修了者は 3.8%と低く、61.5%がいずれも修了していない状況にある。 (3) 研修体制 研修の形式は「OJT」が 91.0%と圧倒的に多く、次いで「座学」が 44.0%、「演習」が 31.0%であった。研修計画書については、62.0%の施設が部署内で共有しているが、20.9%の施設では共有されていない。また、外国人介護職員向けに特化した介護技術指導マニュアルを作成している施設は 19.9%にとどまった。  図表 36 0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% OJT 77.1% 座学 46.4% 演習 18.2% その他 7.9% |		
---	---	---
全体	468	100.0%
OJT	361	77.1%
座学	217	46.4%
演習	85	18.2%
その他	37	7.9%	 3 介護技術の習得状況と業務水準 EPA 介護福祉士候補者の介護技術の習得状況について、来日年度（経験年数）ごとの業務水準が明らかになった。ここでは「基本的に一人で行っており、どのような業務も概ね問題なく対応できる」と評価された割合（自立率）を中心に記述する。 (1) 基本介護技術（移動・排泄・食事） 移動、排泄、食事の介護については、就労期間とともに習熟度が順調に向上する傾向が見られる。 ① 移動の介護： 2021 年度来日者（就労 1 年目相当）では 50.0%（インドネシア）～47.5%（フィリピン）程度だが、2018

年度来日者（就労4年目相当）では90%を超えている。

② 排泄の介護：
同様に、2021年度来日者は約50%前後だが、2018年度来日者は90%以上が自立している。

③ 食事の介護：
2021年度来日者は約50%前後、2018年度来日者は90%以上となっている。

(2) 難易度の高い技術（入浴・コミュニケーション）

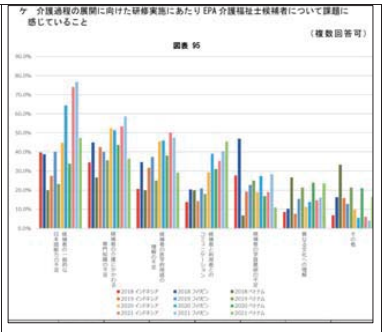
① 入浴の介護：
他の身体介護に比べて習得に時間を要する傾向がある。2021年度来日者の自立率は40.4%～52.7%と低く、2018年度来日者でも90%前後であり、移動や排泄に比べてやや低い数値となっている。

② コミュニケーション技術：
利用者とのコミュニケーションに関しては、2018年度来日者でも「基本的に一人で対応できる」割合は84.5%（インドネシア）、79.6%（フィリピン）であり、一部で日本人職員の付き添いを要する状況が残っている。

(3) 指示理解度
日本語での業務指示に対する理解度（「問題なく実施できている」割合）は、身体介護（移動・排泄・食事・入浴）においては2018年度来日者の8割以上が高い理解度を示している。しかし、「コミュニケーション技術」に関しては、2018年度来日者であっても58.6%（インドネシア）、67.3%（フィリピン）にとどまり、複雑なニュアンスの理解等に課題が残ることが示唆された。

4 介護過程の展開に関する現状

(1) 業務としての実施状況
「介護過程の展開」（アセスメント、計画立案、実施、評価）については、身体介護技術と比較して習得が遅れる傾向にある。2018年度来日者であっても、「基本的に一人で行える」割合は50.0%（インドネシア）、40.8%（フィリピン）にとどまり、約1割～3割の施設では「業務を行わせていない」と回答している。特に「アセスメントにおける情報収集」や「介護計画立案」については、すべての候補者に対して研修を行っている施設は2割～3割程度と低い実施率になっている。



(2) 指導上の課題
介護過程の展開に向けた研修実施にあたっての課題（複数回答）として、候補者の「一般的な日本語能力の不足」（就労1年目のインドネシア候補者で74.1%）や「介護にかかわる専門知識の不足」（同53.4%）が多く挙げられた。また、施設側の課題としては「指導者の負担」（60%以上）や「研修時間の確保」（60%以上）が多くの施設で挙げられており、現場の業務と並行して専門的な指導を行うことの困難さが浮き彫りとなった。

5 評価体制の現状EPA
介護福祉士候補者の介護技術習得状況を評価する仕組みについては、58.3%の施設が「ある」と回答し、41.7%が「ない」と回答した。評価を行う者（複数回答）は「ユニット／フロアリーダー」が58.6%と最も多く、次いで「研修支援者」（55.3%）、「研修責任者」（52.0%）であった。評価頻度は「半年ごと」が24.2%、「その都度」が21.2%であった。また、習得状況を評価するためのチェックリストを提供できるかという問いに対しては、「できる」が28.6%、「チェックリストを作っていない」が35.2%となり、評価ツールが標準化されていない実態が明らかになった。

6 国家試験対策と実技試験免除
介護福祉士国家試験の実技試験免除に向けた取り組みとして、2019年度受入れの候補者（調査時点で受験年度）に対しては、63.3%の施設が「介護技術講習会」を受講させている。その理由として、「候補者向けの研修が実施されている」（68.9%）、「研修内容が候補者の習熟度に適している」（15.2%）などが挙げられた。一方、より体系的な学習が可能とされる「実務者研修」や「介護過程III」の受講率は相対的に低い。実技試験免除の要件として、介護技術講習会ではなく介護過程IIIの履修を選択しない理由としては、「省令改正を知らず、検討していない」（46.3%）や、「介護技術講習会の方がEPA候補者に特化した配慮がなされている」（27.4%）との回答が見られた。

7 ヒアリング調査による具体的取組事例
調査対象施設へのヒアリングから、効果的な研修・指導の事例が確認された。

(1) 初期研修の集中実施（施設C、D）
入職直後の1週間から2週間程度、ユニット配属前に集中研修を実施している事例がある。施設Cではショートステイの空き部屋を利用し、リネン交換や体位変換等の基本技術を指導し、評価表ですべてクリアするまで練習させている。施設Dでは法人研修センターで初任者研修テキストベースのマニュアルを用いた講義を実施している。

(2) マニュアルと評価ツールの活用（施設A、B、G）

- 施設A：
「OJTファイル」により指導内容と実施日を記録し、職員間で共有。また「利用者別ケアチェック表」を用いて、個別の利用者に対するケアの可否を確認し、夜勤開始の判断基準としている。

- 施設B：
動作写真付きの介護技術マニュアルを使用し、日本語能力が十分でない候補者の理解を補助している。評価は「見てみる」から「一人でやってみる」までの5段階で進捗を管理している。

- 施設G：
法人本部の英語堪能な職員と先輩EPA介護福祉士が協力し、英語版マニュアルを作成。微細なニュアンスや「なぜそのケアが必要か」という根拠の理解を促進している。

(3) 介護過程の実践的指導（施設C、D、G）

- 施設C：
候補者に車椅子自走を体験させたり、利用者の誕生日祝いを企画させるなど、利用者の視点やニーズに気づかせる取り組みを行っている。

- 施設D：
日勤独り立ち後、担当利用者を持ち、アセスメントからモニタリングまでの一連のプロセスに参加させている。ケアプラン作成会議にも参加し、意見を述べさせている。

- 施設G：
ケアカンファレンスに全員参加させ、間違いを恐れず発言させることで、日本人職員が見落としていた利用者の情報を吸い上げる機会としている。

(4) 実技試験免除講習の選択（各施設）
多くの施設が、EPA候補者の負担軽減や合格リスク回避の観点から「介護技術講習会」を選択している。施設Aでは、候補者自身がそれしか受けられないと思い込んでいるケースもあった。施設Eでは、近隣の養成校での講習開催がなくなる懸念から、今後の対応を模索している状況が語られた。

これらの事例からは、現場でのOJTと並行して、独自のツールやマニュアル、会議への参加機会などを活用し、単なる作業としての介護ではなく、根拠に基づいた介護（介護過程）の理解を促そうとする各施設の工夫が見て取れる

国家試験対策	（関連度：高） 本報告書は、EPA候補者の技術習熟度を「移動の介護」「入浴の介護」など項目別に詳細に分析しており、国家試験の実技試験で問われる可能性のある領域の学習状況を把握する上で極めて有用である。特に「入浴の介護」のように習熟度が低い項目は、養成校が国家試験対策として重点的に指導すべき分野であることを示唆している。また、施設ごとの評価基準のばらつきが指摘されていることから、養成校が客観的で標準化された実技評価の仕組みを構築・導入する必要性を強く裏付けている。
定着支援	（関連度：中） 報告書は直接的に定着支援をテーマとはしていないが、技術習得の遅れが候補者の心理的負担や職場での孤立感を招き、結果的に離職につながる可能性を示唆している。特に、施設によって研修時間に

	大きな差がある「コミュニケーション技術」は、職場での人間関係構築の基礎となるため、定着率にも影響を与えうる。養成校が、技術的な困難に直面した際の自己解決能力や、異文化環境でのストレスマネジメント能力を育成する教育プログラムを導入することは、卒業後の長期的な定着を支える上で重要となる。
文化理解・地域定着	（関連度：低） 本報告書のスコープは、あくまで介護施設内における「技術」の習得と評価に限定されている。そのため、候補者の日本文化への適応や、地域社会との交流といった側面に関するデータや分析は含まれていない。したがって、この領域における養成校のカリキュラム開発への直接的な示唆は限定的である
本事業との関係で注目すべきポイント（★事業フック）	本報告書で明らかになった「施設ごとの評価基準のばらつき」と「指導者の約 6 割が専門研修未受講」という事実は、本事業が開発する教育コンテンツの重要な提供価値を示唆している。養成校が、卒業生に対して、客観的な評価手法や効果的な指導法を教育するプログラムを導入することは、介護現場全体の質の向上に直結する。特に、本報告書のデータを活用し、「なぜ標準化された評価が必要なのか」を学生に理解させ、具体的な評価シートの作成演習などを PBL 形式で実施する教材は、現場のニーズに即しており、高い導入効果が期待できる。
出典（正式表記）	公益社団法人国際厚生事業団 令和 4 年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業「EPA に基づく外国人介護福祉士候補者が受入れ施設で習得する介護技術の統一的な評価方法を確立するための調査研究報告書」

調査番号	No. 08
資料名（正式名称）	外国人福祉人材受入促進・定着支援アンケート調査報告書
作成主体	社会福祉法人大分県社会福祉協議会
作成年（年度）	令和 6 年度
資料種別	アンケート調査報告書
掲載 URL（該当ページ）	https://www.oitakensyakyo.jp/wp-content/uploads/2025/03/%E5%A4%96%E5%9B%BD%E4%BA%BA%E7%A6%8F%E7%A5%89%E4%BA%BA%E6%9D%90%E5%8F%97%E5%85%A5%E4%BF%83%E9%80%B2%E3%83%BB%E5%AE%9A%E7%9D%80%E6%94%AF%E6%8F%B4%E9%96%A2%E3%81%99%E3%82%8B%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%88%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E3%80%80%E7%B5%90%E6%9E%9C.pdf
URL 種別	PDF 直リンク

URL 遷移先の内容サマリー	本資料は、大分県社会福祉協議会が県内の介護サービス事業所を対象に実施した、外国人福祉人材の受け入れ状況や課題、支援ニーズに関するアンケート調査の結果報告書である。外国人材の受け入れ意向の二極化、在留資格や出身国別の動向、受け入れに伴うメリット・デメリット、事業者が必要とする研修内容やサポート体制について、具体的な数値データや自由記述回答を交えて詳細に分析している。次年度以降の外国人介護人材確保対策事業の方向性を検討するための基礎資料と位置づけられている。
掲載情報の種類・注意点	本資料は、大分県社会福祉協議会が県内の介護サービス事業所を対象に実施したアンケート調査の結果をまとめた報告書である。掲載情報には、外国人介護スタッフの受入状況（年次推移、在留資格、出身国）、受入に伴うコスト（初期費用・月額費用）、離職率などの定量的データが、グラフや表を用いて整理されている。また、受入によるメリット・デメリット、受入を希望しない理由、研修に対する要望などについては、数値データに加え、自由記述回答に基づく具体的な定性情報も多数収録されている。 利用上の注意点として、本調査の有効回答率は 20.3%であり、前年度と比較して 13.5 ポイント低下している点に留意が必要である。この回答率低下の要因は、回答事業所の負担軽減を目的として、県高齢者福祉課が実施する調査と重複する項目について本調査での回答を求めなかったためであり、一部の分析には同課の調査結果が活用されている。また、割合の集計において小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計値が必ずしも 100%にならない場合がある。
大分類	外国人介護人材
中分類	地域における受入・定着支援の実態
具体的内容（典型例）	1　調査の概要と回答属性 本調査は、大分県内の介護サービス事業所（訪問系等を除く）1,402 か所を対象に、外国人介護人材確保対策事業の方向性検討を目的として実施されたものである。実施期間は令和 6 年 12 月 16 日から令和 7 年 1 月 20 日までであり、回答数は 325 事業所（有効回答数 284 事業所）、有効回答率は 20.3%であった。回答数が減少した要因として、県高齢者福祉課が実施した重複する調査項目については同課のデータを活用し、本調査での回答を求めなかった影響が挙げられている。 2　外国人介護スタッフの受入状況 (1)　受入意向の二極化 回答事業所の受入状況は、「受入中」が 35.4%（104 事業所）となり、前年度から 1 割以上増加して初めて 30%を超えた。一方で、「受入希望なし」と回答した事業所も 47.6%（140 事業所）と依然として高い割合を占め、「受入予定」の割合は前回の 31.7%から 13.6%へと半減

	した。受入が進む事業所と、受入を行わない事業所との二極化が進行している状況が示されている。 (2)　在留資格および人数の動向 受入中の外国人スタッフの在留資格（重複あり）では、受入事業所の 37.7%が技能実習生を受け入れており、横 （回答事業所の受入状況）非重複あり 令和 3 年度 / 令和 4 年度 / 令和 5 年度 / 令和 6 年度 受入中 / 17.3%(73) / 19.4%(94) / 23.7%(115) / 35.4%(104) 受入予定 / 34.4%(145) / 39.8%(193) / 31.7%(154) / 13.6%(40) 受入希望なし / 48.3%(204) / 40.8%(198) / 44.2%(215) / 47.6%(140) 過去雇用していた / 0.0%(0) / 0.0%(0) / 0.4%(2) / 3.4%(10) 回答総計 / 100.0%(422) / 100.0%(485) / 100.0%(486) / 100%(294) ばいで推移している。一方、「特定技能」は 27.7%と前年度（31.8%）より減少した。特筆すべき点として、在 （受入中の外国人スタッフの在留資格）非重複あり 令和 3 年度 / 令和 4 年度 / 令和 5 年度 / 令和 6 年度 技能実習 / 43.0% (37) / 41.1% (46) / 37.2%(55) / 37.7% (60) 特定技能 / 3.5% (3) / 19.0% (22) / 31.8%(47) / 27.7%(44) 在留資格「介護」、「留学」 / 3.5% (3) / 1.7%(0) / 6.1%(9) / 17.0%(27) EPA / 0.0% (0) / 0.0%(0) / 0.0%(0) / 1.9% (3) その他※ / 50.0% (46) / 38.2%(38) / 24.9%(37) / 15.7% (25) 回答総計 / 100.0% (86) / 100.0%(116) / 100.0%(148) / 100.0%(159) 留資格「介護」（「留学」を含む）が 17.0%となり、前年度（6.1%）から 10.9 ポイントの大幅な増加を示した。また、県内において EPA（経済連携協定）による受入（1.9%）が存在することも明らかになった。受入人数の総計は 512 人であり、内訳は技能実習が 209 人（40.8%）、特定技能が 160 人（31.3%）、在留資格「介護」（留学生含む）が 51 人（10.0%）となっている。 3　受入に伴うメリットとデメリット (1)　メリットの具体的内容 外国人スタッフを受け入れて生じたメリットとして、「人手不足の解消」「職場の活性化」「若い労働力」等の回答が多く挙げられた。具体的な記述回答として以下の事例が報告されている。 ①　勤務態度・資質： 「勤務意欲が高くまじめ」「高齢者への対応が丁寧で仕事熱心」「素直さがあり真面目に仕事に取り組む」。 ②　職場への影響： 「日本人のスタッフにも良い影響」「職場や利用者

	様を明るい気持ちにさせてくれる」「異文化交流になり職員の知見が広がった」。 ③　雇用安定： 「5 年間離職がない」「確実な採用計画を組める」「安定した雇用の確保」。 ④　有資格者（留学生）の評価： 「介護福祉科を卒業しているので指導量が少ない」「日本語レベルも高く、コミュニケーションや介護技術も問題ない」「人員基準を満たすことが可能」。 (2)　デメリットおよび課題の具体的内容 デメリットとしては、「コスト」「コミュニケーション」「記録業務」「生活支援の負担」に関する回答が集中している。 ①　コスト負担： 「非常にコストがかかる（住居、管理費、手数料）」「日本人よりも経費がかかる」。 ②　コミュニケーションと言語： 「日本語・大分弁の理解ができないことがある」「言葉のニュアンスが伝わらない」「記録を書くことが難しい」「電子カルテが苦手」。 ③　生活・業務外サポート： 「住居探しに苦労した」「病院の付き添いや生活指導が必要」「生活習慣の違い（ゴミ捨て、騒音、光熱費の折半での揉め事）」。 ④　定着・制度リスク： 「短期間で都市部に転職する」「制度上に雇用期限がある」「3 年後に給与が良いという理由でエンジニア関係等を選択できる制度への違和感」。 4　受入予定および希望なし事業所の実態 (1)　受入予定事業所の状況 受入予定事業所の 36.0%が県内の登録支援機関を利用し、22.4%が県外の機関を利用している。初期費用は「30 万円程度」が最も多く、月額費用は「3 万円程度」が最多となっている。情報入手の手段としては、「監理団体・登録支援機関」（57.1%）が主であるが、「大分県社会福祉協議会」からの情報入手も 14.3%と増加傾向にある。

（情報入手の手段）※重複あり

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
監理団体・登録支援機関	24.5(13)%	65.8%(25)	47.3%(35)	57.1%(28)
行政書士事務所等の法律事務所	5.7%(3)	0.0%(0)	2.7%(2)	0.0%(0)
行政機関	11.3%(6)	2.6%(1)	10.8%(8)	6.1%(3)
大分県社会福祉協議会	26.4%(14)	10.5%(4)	9.5%(7)	14.3%(7)
受入を行っている事務所	17.0%(9)	15.8%(6)	25.7%(20)	8.2%(4)
無回答	0.0%(0)	0.0%	0.0%(0)	4.1%(2)
その他※	15.1%(8)	5.3%(2)	4.1%(3)	10.2%(5)
回答個数総計	100.0%(53)	100.0%(38)	100.1%(74)	100.0%(49)

(2)　受入を希望しない理由
受入を希望しない理由（複数回答）としては、「外国人介護スタッフへの教育に必要な人員、時間等を割く余裕がない」が19.5%で最も多い。次いで「受入に必要な費用が高い」（18.2%）、「利用者やその家族とのコミュニケーションに不安」（16.8%）が挙げられている。その他、「住環境の確保が困難（山間部等）」「車での送迎業務があるため困難」といった地理的・業務的要因も記述されている。

（受入を希望しない理由）※重複あり

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
受入に関する制度が複雑である	14.0%(56)	12.6%(58)	14.7%(61)	12.8%(38)
受入に必要な費用が高い	16.5%(66)	15.6%(72)	17.4%(71)	18.2%(54)
利用者やその家族とのコミュニケーションに不安を感じる	24.8%(99)	16.3%(75)	16.9%(69)	16.8%(50)
同僚、上司とのコミュニケーションに不安を感じる	16.8%(67)	11.9%(55)	10.5%(43)	12.1%(36)
外国人介護スタッフへの教育に必要な人員、時間等を割く余裕がない	16.8%(67)	23.4%(108)	25.4%(104)	19.5%(58)
人員は充足している	0.0%(0)	15.2%(70)	8.8%(36)	13.8%(41)
その他	11.0%(44)	5.0%(23)	6.4%(25)	6.7%(20)
回答個数総計	99.9%(399)	100%(461)	100.1%(409)	100%(297)

5　支援取組の認知度と活用状況
(1)　認知度と活用率
大分県社会福祉協議会が実施する研修会等の認知度は72.9%と高い一方、活用率は32.7%にとどまっている。また、令和6年10月に新設された「外国人福祉人材ホームページ」の認知度は20.4%と低い状況にある。

(2)　活用した研修および活用しない理由
活用された研修では、「施設スタッフ向け外国人介護人材受入推進セミナー」が38.3%で最も高く、次いで「コミュニケーションワークショップ＆交流会」

（34.6%）、「外国人介護人材集合研修」（29.0%）となっている。研修を活用しなかった理由としては、「外国人スタッフがいないから」（63.8%）を除くと、「現場が多忙で研修に参加する・参加させる余裕がない」（24.3%）が主要な要因となっている。今後研修を活用したくない理由としても、「現場が多忙」が44.8%で最多であり、「OJTで教育できている」とする回答も20.7%見られた。

6　研修に対する要望
(1)　活用したい研修内容
今後活用したい研修（複数回答）については、以下の3項目がいずれも54.1%という高い希望率を示した。
- 外国人スタッフ向け介護技術基礎研修
- 外国人スタッフ向け介護の日本語研修
- 外国人介護福祉士国家試験対策講座

また、日本人スタッフ向けの受入セミナー（27.9%）や、実務者研修（33.3%）へのニーズも確認された。

（利用した研修）

研修名	回答数	割合
施設スタッフ向け外国人介護人材受入推進セミナー	41	38.3%
コミュニケーションワークショップ＆交流会	37	34.6%
外国人介護人材集合研修	31	29.0%
実務者研修	23	21.5%
介護福祉士国家試験対策講座	14	13.1%
日本語能力試験（JLPT）対策講座	11	10.3%
外国人介護人材・定着支援アドバイザーへの相談、派遣	6	5.6%
インドネシアへ海外視察	6	5.6%
回答個数計：169		

(2)　開催形式・テーマへの要望
希望する開催地は大分市（57.7%）が過半数を占めるが、県内各地での開催要望も存在する。案内時期は「2〜3か月前」を希望する割合が79.3%に達している。施設スタッフ向け研修で取り扱ってほしいテーマとしては、「他事業所の受入事例」が59.5%で最も多く、次いで「コミュニケーションの取り方」（39.6%）、「受入制度に関すること」（35.1%）が挙げられた。自由記述では、「オンライン研修」や「動画配信」による受講を希望する声が多数寄せられており、移動時間の削減や業務との両立を求めている。また、「他施設との交流・意見交換の場」を求める要望も見られた。

	7　退職者の状況 令和6年度の離職率は17.5%となり、前年度（23.0%）より5.5ポイント減少した。退職理由としては、「技能実習修了による帰国」のほか、「自己都合」「都市部への転職」「家族の呼び寄せに伴う関東方面への転居」「賃金条件の良いところへの転職」等が挙げられている。また、「日本語検定不合格」や「体調不良」による帰国も報告されている。 （施設スタッフ向け研修会で取り扱ってほしいテーマ） 回答数／構成比 他事業所の受入事例：66／59.5% 外国人受入制度に関すること：39／35.1% 送出国の文化や慣習に関すること：37／33.3% 受入に関する費用：18／16.2% 外国人コミュニケーションの取り方：44／39.6% その他：5／4.5% 回答個数計：209
国家試験対策	（関連度高） 活用したい研修として「介護福祉士国家試験対策講座」を希望する事業所が54.1%と非常に多く、キャリアアップ支援への強いニーズが明確に示されている。養成校が持つ国家試験対策のノウハウは、地域の外国人材全体の専門性向上に直接貢献できる。
定着支援	（関連度高） 受け入れのデメリットとして「転職リスク」や「コスト」、メリットとして「安定した雇用」が挙げられており、定着が事業所の経営に直結する重要課題であることがわかる。研修ニーズやコミュニケーション、生活支援に関する具体的な課題が示されており、養成校が地域や事業所と連携して取り組むべきテーマが豊富に含まれている。
文化理解・地域定着	（関連度中） 「コミュニケーションの壁」や「文化・慣習の違い」がデメリットとして挙げられている一方、研修ニーズとしては「他事業所の受入事例」や「コミュニケーションの取り方」への関心が高い。異文化理解は重要だが、より実践的なコミュニケーション技術や具体的な事例への関心が強い傾向がある。
本事業との関係で注目すべきポイント	本調査結果は、介護福祉士養成校が地域において果たすべき役割を具体的に示唆している。特に、「高い研修ニーズ」と「参加障壁の存在」のギャップを埋めることが、本事業の重要なフックとなる。

（★事業フック）	具体的には、事業所が最も求めている「介護技術」「介護の日本語」「国家試験対策」といった研修を、養成校が持つ専門知識と教育資源を活かして提供することが考えられる。その際、オンラインやオンデマンド形式を積極的に導入し、「現場が多忙で参加できない」という最大の障壁を取り除く。これにより、養成校は単なる人材輩出機関に留まらず、地域の外国人介護人材全体のスキルアップとキャリア形成を支援する「地域の研修ハブ」としての新たなポジションを確立できる。 さらに、「他事業所の受入事例」への関心の高さを踏まえ、養成校がプラットフォームとなり、優良事例を持つ事業所とこれから受け入れを考える事業所を繋ぐ交流会やセミナーを企画・運営することも有効である。これは、地域全体の受け入れ体制の底上げに貢献し、養成校のプレゼンスを一層高めることに繋がることが期待される。
出典（正式表記）	社会福祉法人大分県社会福祉協議会「外国人福祉人材受入促進・定着支援に関するアンケート調査報告書」

調査番号	No. 09
資料名（正式名称）	介護福祉士国家試験パート合格の導入の在り方について
作成主体	介護福祉士国家試験パート合格の導入に関する検討会
作成年（年度）	令和7年度
資料種別	検討会報告書（通知）
掲載URL（該当ページ）	https://www.mhlw.go.jp/content/001307191.pdf
URL種別	PDF直リンク
URL遷移先の内容サマリー	本資料は、介護人材不足が深刻化する中、介護福祉士国家試験の受験者数減少や、就労しながら学習する受験者の負担軽減を目的として導入される「パート合格（科目別合格）」制度の具体的設計案を取りまとめた報告書である。令和8年（2026年）1月実施予定の第38回試験からの導入を目指し、試験科目を3つのパートに分割すること、合格したパートの免除期間を翌々年までとすること、および合格基準や当日の試験運営方法などが詳細に提言されている。特に、外国人介護人材にとっても学習と就労の両立が課題であることを踏まえ、質の維持を前提としつつ、より受験しやすい環境を整備するための制度変更である。
掲載情報の種類・注意点	本資料は、厚生労働省の検討会による最終的な「提言」であり、制度の骨格（分割パターン、合格基準、導入時期など）が確定的に示されている。ただし、受験手数料の詳細やシステム改修等の実務的な調整は今後行われるため、細部の運用変更の可能性には留意が必要である。また、本制度は日本人・外国人を問わず全受験者に適用

	されるものであるが、外国人材の在留資格（特定技能等）との関連についても言及が含まれているため、制度の趣旨を正しく理解する上で重要な一次資料となる。
大分類	国家試験制度
中分類	特定技能・国家試験制度
具体的内容 （典型例）	1　**制度導入の背景と必要性** 介護福祉士国家試験の受験者数は、第 31 回試験（平成 30 年度）以降減少傾向にあり、特に実務経験ルートでの受験者が約 1 万人減少している現状がある。受験者の 8 割以上を占める実務経験ルートの者は、就労と学習の両立が課題となっており、一発合格へのプレッシャーや学習時間の確保が困難であることが指摘されている。また、外国人介護人材に関しては、「特定技能」や「技能実習」からのルートにおいて、専門的な学習に加え日本語学習の負担が大きく、限られた在留期間内での合格が難しい状況にある。こうした背景から、介護福祉士の質を維持しつつ、学習への取り組みやすさと受験者の利便性を向上させるため、「パート合格」の導入が不可欠であるとの結論に至った。 2　**パート分割の具体的構成（3 分割パターン）** 試験科目の分割にあたっては、学習内容のつながり（領域）や、試験当日の運営面（受験者の拘束時間等）を考慮し、全 13 科目を以下の 3 つのパートに分割することが適当とされた。 **【A パート：人間と社会・介護の理念】（午前実施想定）** 介護の理念や制度、コミュニケーションに関する科目を集約している。問題数は合計 60 問となる。 • 人間の尊厳と自立（2 問） • 介護の基本（10 問） • 社会の理解（12 問） • 人間関係とコミュニケーション（4 問） • コミュニケーション技術（6 問） • 生活支援技術（26 問） **【B パート：こころとからだのしくみ】（午後実施想定）** 身体構造や機能、疾病・障害の理解に関する科目を集約している。問題数は合計 45 問となる。 • こころとからだのしくみ（12 問） • 発達と老化の理解（8 問） • 認知症の理解（10 問） • 障害の理解（10 問） • 医療的ケア（5 問） **【C パート：医療・介護の展開】（午後実施想定）**

	知識・技術を具体的な支援場面や事例に適用する科目を集約している。問題数は合計 20 問と少ないが、事例問題が多く含まれる。 • 介護過程（8 問） • 総合問題（12 問） この 3 分割により、再受験時の学習において注力すべき科目の特定が容易になるとされている。  3　**受験方法と免除のルール** **初回受験時：** 全員が全パートを受験する。 **再受験時**： 不合格となったパートについては受験が必須となる。一方、既に合格基準に達したパートについては、受験者の選択により「免除（受験しない）」か「再度受験する」かを選ぶことができる。ただし、再受験する場合でも、一部のパートのみを受験するか、全パートを受験するかのいずれかの選択となり、複雑な組み合わせは不可とされる。 **有効期限**： パート合格の有効期限は、合格した受験年の「翌々年まで」とされる。これにより、最大 3 回の受験機会の中で全パート合格を目指すことが可能となる。

	4　**合格基準の設定** 介護福祉士の質を担保するため、合格基準は以下のように厳格に設定される。 **全科目に対する基準**： 現行と同様、総得点の 6 割程度を基準とし、かつ全科目群（11 科目群）すべてにおいて得点があることが求められる。 **パートごとの基準**： • 得点基準： 全体の合格基準点を、全科目受験者の平均得点の比率で按分して設定する。これにより、パート間の難易度差を補正する。 • 科目群基準： 各パートを構成する科目群すべてにおいて得点があることを条件とする（0 点の科目群があると不合格）。 • 合否判定フロー： 全パート受験者は、まず「総得点」で合否を判定し、不合格だった場合に「パートごと」の合否を判定する。一部パート受験者は、受験したパートごとに合否を判定する。 5　**試験当日の運営と効率化** 試験運営のコスト増を抑制し、受験者の負担を軽減するため、以下の運営方法が提言されている。 • 時間割： 午前中に A パートを実施し、午後に B パートと C パートを実施する。 • 同時開始： 午後の B パート試験と C パート試験は「同一時刻」に開始する。 • 退出ルール： B パートのみ、あるいは C パートのみの受験者は、当該試験時間が終了した後、速やかに退出させる仕組みとする。 これにより、一部科目受験者の待機時間を削減するとともに、会場借料や人件費の増加を抑える狙いがある。また、受験手数料については、パート合格導入に起因した値上げは行わず、全パート受験でも一部受験でも一律の金額とすることが望ましいとされた。

	6　**導入時期と期待される効果** 導入時期：周知期間を考慮し、令和 8 年（2026 年）1 月実施予定の第 38 回介護福祉士国家試験より導入することが妥当とされた。 期待される効果： • 学習の継続： 一度で合格できなくても、次年度は不合格パートに集中できるため、学習意欲を維持しやすくなる。 • 外国人材への影響： 特定技能外国人など、働きながら学ぶ層にとって、複数年計画での学習が可能となり、資格取得のハードルが適正化される。特に、在留期間延長の議論（特定技能 1 号の 5 年上限問題）と関連し、パート合格が一定の水準証明として機能する可能性も示唆されているが、あくまで質の担保が最優先であると付言されている。 • 教育への効果： 3 つのパート分け（知識・技術／心身の仕組み／総合的展開）は、養成課程における領域区分とも整合しており、教育現場での指導体系が明確化される効果も期待される。
国家試験対策	（関連度高） 本報告書は試験制度の抜本的変更であり、対策講座のあり方を根本から変える必要がある。「3 パート分割」に合わせたカリキュラム再編やパート別模試の開発、さらに「翌々年まで有効」というルールを活用した外国人材向けの長期的な合格戦略の立案が求められるため、関連度は極めて高い。
定着支援	（関連度高） 働きながら資格を取得しやすくなることで、外国人材等が「介護福祉士」として日本に定着するルートが確実になる。資格取得は在留資格「介護」への変更条件であり、長期就労（定着）の決定的な要因となるため、制度変更は定着支援に直結する重要な影響を持つ。
文化理解 ・地域定着	（関連度低） 試験制度の技術的な変更が主眼であり、文化理解や地域定着に関する直接的な言及はない。ただし、資格取得者が増えることで、地域社会において専門職として活躍する外国人が増加し、結果として多文化共生の基盤強化に寄与する可能性はある。

本事業との関係で注目すべきポイント（★事業フック）	試験が 3 パートに分割され合格有効期間が 3 年となる制度変更は、新たな教育事業の好機である。苦手科目に特化した「パート別対策講座」やマイクロ教材の開発需要に加え、外国人材に対し複数年で確実な合格を目指す「戦略的受験ロードマップ」の策定と長期伴走支援が、養成校の新たな収益モデルとして期待される。
出典（正式表記）	介護福祉士国家試験パート合格の導入に関する検討会（2024）「介護福祉士国家試験パート合格の導入の在り方について」（令和 6 年 9 月 24 日）.

調査番号	No. 10
資料名（正式名称）	外国人の受入れ・秩序ある共生のための総合的対応策
作成主体	外国人の受入れ・秩序ある共生社会実現に関する関係閣僚会議
作成年（年度）	令和 7 年度
資料種別	行政資料
掲載 URL（該当ページ）	https://www.kantei.go.jp/jp/singi/gaikokujinzai/pdf/kettei_honbun.pdf
URL 種別	PDF 直リンク
URL 遷移先の内容サマリー	本資料は、日本における外国人の受け入れを拡大し、すべての人が安心して生活できる秩序ある共生社会を実現するための政府の総合的な対応策をまとめたものである。特に、外国人材の育成、就労支援、生活環境の整備、日本語教育の充実、社会保障の適用促進など、多岐にわたる施策が具体的に示されている。また、介護分野における外国人材の確保・育成・定着支援についても重点的に言及されており、介護福祉士を目指す留学生への支援強化や、就労後のキャリアパス明確化などが盛り込まれている。これらの施策を通じて、外国人との共生を円滑に進め、日本社会全体の活性化を図ることを目的としている。
掲載情報の種類・注意点	本資料は、政府の各省庁が実施する施策を網羅的にリストアップしたものである。各施策には施策番号が付与されており、具体的な内容と担当省庁が明記されている。利用上の注意点として、あくまで「対応策」のリストであり、個々の施策の進捗や詳細な実施状況については、別途担当省庁の情報を確認する必要がある。
大分類	外国人材
中分類	受入・共生
具体的内容（典型例）	本対応策は、令和 7 年 6 月末時点で過去最高となる約 396 万人の在留外国人を抱える現状を踏まえ、「秩序」を社会の土台、「多様性」を社会の力と位置づけ、ルールを遵守する外国人を適正に受け入れる一方、不法滞在や制度の不適正利用には厳正に対処する方針

	を包括的に示したものである。以下に、各分野における現状の課題と講じられる施策の詳細を記述する。 1　出入国・在留管理の適正化と制度改革 (1)　出入国管理 DX と厳格化 ①　電子渡航認証制度（JESTA）：2030 年の訪日外国人旅行者数 6,000 万人目標を前提としつつ、不法滞在を企図する外国人の入国を未然に防ぐため、米国 ESTA に類似した電子渡航認証制度（JESTA）の導入を進める。当初の計画を前倒しし、令和 10 年度（2028 年度）中の導入を目指してシステム開発を行う。 ②　入国審査の効率化：税関・入管手続に必要な情報を電子的に提供させる共同キオスクやウォークスルーゲートの導入により、厳格さと円滑さを両立させる。 (2)　在留管理の適正化とマイナンバー活用 ①　·情報連携の強化：令和 9 年（2027 年）3 月以降、公共サービスメッシュを活用し、出入国在留管理庁が関係機関から国民健康保険・年金の納付情報、地方税の課税情報、医療保険資格情報等を直接取得する仕組みを稼働させる。これにより、在留審査における納税・納付状況の確認を厳格化する。 ②　在留カードとマイナンバーカードの一体化：令和 8 年（2026 年）6 月より、在留カードとマイナンバーカードの機能を一体化した「特定在留カード」の運用を開始する。将来的には、受入れ機関（所属機関、学校等）の責務として、在留外国人へのカード取得を推進する方策を検討する。 (3)　在留資格ごとの適正化措置 ①　「特定技能」・「育成就労」：令和 9 年度（2027 年度）からの育成就労制度施行に向け、分野別運用方針を策定する。また、試験合格証明書の偽変造防止策を講じるとともに、転籍制限期間や日本語能力要件（就労開始時、1 年経過時、3 年終了時等の段階的目標）を適切に設定する。 ②　「留学」：週 28 時間を超える資格外活動違反への対応として、マイナンバーによる情報連携を活用して留学生の所得情報を把握し、違反者への指導や在留期間更新の審査を厳格化する。また、日本語教育機関と連携した在籍管理を徹底する。 ③　「永住者」：令和 9 年（2027 年）4 月施行の改正入管法に基づき、公租公課の未納など公的義務を履行

	しない場合における在留資格取消しの運用ガイドラインを策定する。許可審査においては、過去の在留状況や公的義務の履行状況を厳格に確認する。 ④　「経営・管理」：事業実態の把握に向けた実態調査を強化する。特に同一ビルに小規模事務所が集中する事例等については、その事業実態に疑義があるとして厳格に審査を行う。 (4)　不法滞在者対策（不法滞在者ゼロプラン） ①　退去強制の徹底：令和 12 年（2030 年）末までに退去強制確定者を半減させる目標を掲げる。改正入管法により送還停止効の例外が適用される者や重大犯罪者を中心に、護送官付き国費送還を強力に推進する。 ②　不法就労対策：在留カード等読取アプリケーションの利用を事業主に徹底させるとともに、悪質なブローカーや不適正ヤード（解体作業場等）の取締りを強化する。 2　社会制度の適正化（税・社会保障・医療・教育） (1)　医療・社会保障制度の適正利用 医療費不払いへの対応：医療費不払い歴のある訪日外国人に対する入国審査の厳格化について、対象となる不払い額を従来の 20 万円から 1 万円以上に引き下げ、少額の未払いも抑止対象とする。また、対象者を訪日客だけでなく中長期在留者にも拡大する。 ①　国民健康保険・社会保険：令和 9 年（2027 年）6 月から、出入国在留管理庁が保険料納付情報を電子的に確認できる体制を整備し、在留審査に活用する。また、入国初年度の保険料前納の仕組みを導入する。 ②　出産育児一時金：海外療養費や出産育児一時金の不正受給防止のため、被扶養者の国内居住要件の確認や審査の厳格化を継続する。 (2)　日本語教育の充実 ①　就労者向け教育：育成就労制度において、監理支援機関や受入れ企業による日本語講習（原則として認定日本語教育機関が実施）を義務付ける。効果的な学習のため、モデルカリキュラムを開発・普及させる。 ②　生活者向け教育：日本語教室がない地域でも学習できるよう、オンライン教材「つながるひろがるにほんごでのくらし」等のコンテンツを拡充する。「日

	本語教育の参照枠」を活用し、レベルに応じた学習機会を提供する。 ③　子供への支援：公立学校における日本語指導が必要な児童生徒数に応じた教員定数の改善（18 人に 1 人の基礎定数化）を着実に実施する。また、就学前の初期支援として「プレスクール（仮称）」の導入・強化を検討する。 (3)　福祉・教育・住居等の適正化 ①　児童手当・就学援助：外国人の居住実態や監護実態を適切に把握した上で支給を徹底する。マイナンバー連携を活用し、出国後の不適切な受給を防止する。 ②　外国人留学生支援（施策番号 297 等）：介護福祉士養成施設に在学する外国人留学生に対し、修学資金の貸付事業を推進する。加えて、介護福祉士国家資格の取得を目指す意欲ある外国人留学生の修学期間中の支援を図り、将来当該留学生を雇用しようとする介護施設等の負担を軽減することを目的として、学費や生活費などについて、奨学金の給付等の支援を行う。 ③　公営住宅・民泊：公営住宅等への入居に際し、外国人の国籍や在留資格の確認状況を調査し、入居管理の適正化を図る。民泊については、管理システムを拡充し、違法民泊の排除を徹底する。 3　国土の適切な利用と管理 (1)　土地取得等のルール検討：安全保障上の懸念に対応するため、土地取得等の新たな法的ルールの在り方について、対象者（外国人・日本人の別を問わず等）や規制内容（許可制・届出制等）、対象区域を含めた検討を行い、令和 8 年（2026 年）夏までに骨格を取りまとめる。 (2)　実態把握の強化：不動産登記における国籍情報の把握（令和 8 年度早期施行予定）や、森林・農地の取得届出における国籍記載の義務化を進める。また、地下水採取に関する実態調査や条例制定の支援を行う。 4　共生社会の実現に向けた環境整備 (1)　相談体制と情報発信 ①　一元的相談窓口：地方公共団体が設置する相談窓口に対し、外国人受入環境整備交付金による財政支援を行う。多言語翻訳アプリの導入や通訳配置を支援し、11 言語以上での対応を目指す。

	② 外国人支援コーディネーター：相談員等の専門性を高めるため、コーディネーターの育成・認証研修を継続実施する。 ③ 生活オリエンテーション：入国前後の外国人を対象に、日本のルールやマナー、生活情報を伝える動画やガイドブックを多言語で提供する。相談窓口に来ない層へのアウトリーチ型支援も試行する。 (2) ライフステージに応じた支援 ① 乳幼児・学齢期：不就学の可能性がある外国人の子供の実態把握を進め、就学案内や初期適応指導を強化する。特別支援教育における多言語対応も推進する。 ② 青壮年期（就労・定着）：ハローワークに「外国人雇用サービスセンター」等を設置し、専門相談員による支援を行う。留学生の国内就職促進のため、インターンシップ受入れやジョブフェアを開催する。 ③ 高齢期：年金制度の周知徹底や、介護保険制度への円滑な加入・利用支援を行う。 5 今後の検討課題 (1) 受入れの基本的在り方：人口減少下での外国人比率の上昇を見据え、社会保障や教育、文化・宗教等の課題を整理し、国・地方・受入れ機関の役割分担を含めた中長期的な受入れの在り方を政府全体で検討する。 (2) 統合的プログラムの検討：来日前から定住に至るまで、日本語や日本の制度・ルール等を学習するプログラムの創設を検討する。当該プログラムの受講・理解を在留審査の考慮要素とすることも視野に入れる。 (3) 手数料の見直し：受益者負担の観点から、在留許可手数料や査証手数料の見直し（引上げ）を令和８年度中に実施し、体制強化の財源とする。
国家試験対策	（関連度高） 介護福祉士国家資格の取得を目指す留学生への修学資金貸付（施策番号 297）や、資格取得のための学習支援（施策番号 321）が明記されており、国家試験合格に向けた直接的な支援策と評価できるため。
定着支援	（関連度高） 留学生の就職支援（施策番号 286～302）、就労環境の整備（施策番号 309～318）、キャリアパスの明確化（施策番号 319, 320）など、

	働者保護も強化されている。介護分野では、訪問介護サービスへの従事要件緩和や、日本語能力要件の段階的設定など、分野特有の運用方針が示されている。
掲載情報の種類・注意点	本資料は、育成就労・特定技能両制度の基本方針と、介護分野を含む分野別運用方針から構成される。基本方針では制度全体の理念や枠組みが、分野別方針では各産業分野での具体的な要件（受入れ見込数、技能・日本語水準、従事業務、育成プログラム等）が定められている。特に介護分野では、５年間で 16 万人超という大規模な受入れ見込み数が示されており、今後の人材確保戦略の根幹となる情報である。また、育成就労の転籍制限期間が介護分野では「２年」と他分野より長く設定されている点も重要な注意点である。
大分類	外国人材受入制度
中分類	育成就労・特定技能
具体的内容 （典型例）	本資料は、令和８年１月２３日に閣議決定された「特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針及び育成就労に係る制度の運用に関する方針及び特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針について」に基づき、介護分野における具体的な制度運用の詳細を定めたものである。 新たな「育成就労制度」は、未熟練の外国人を３年間で一定の技能水準（特定技能１号相当）まで育成し、中長期的な人材確保につなげることを目的としている。一方、「特定技能制度」は、深刻化する人手不足に対応するため、即戦力となる外国人材を受け入れることを目的としており、両制度は連続性を持ったキャリアパスとして設計されている。 1 介護分野における人手不足の現状と受入れ見込数 (1) 人手不足の状況と受入れの必要性 「第９期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について」（令和６年７月厚生労働省公表）に基づく推計によれば、令和１０年度に必要となる介護職員数は２３５万７，３００人とされている。 これに対し、令和６年度の介護分野の有効求人倍率は４．０８倍と全産業平均を大きく上回り、全国的に極めて深刻な人手不足の状況にあることが示されている。政府は、介護ロボットやＩＣＴの活用による生産性向上（５年間で２%程度の向上目標）、処遇改善や多様な人材の参入促進による国内人材確保の取組を進めているが、これらを加味してもなお、令和１０年度時点で１６万７００人程度の人手不足が見込まれる状況である。高齢化の進展に伴う介護サービス需要の増大に適切に対応

	就職から定着までを一貫して支援する施策が多数盛り込まれているため。
文化理解・地域定着	（関連度中） 日本の企業文化や雇用慣行への理解を深める研修（施策番号 288）や、地域コミュニティとの連携（施策番号 332）に関する記述はあるものの、文化的な側面に特化した施策は限定的であるため。
本事業との関係で注目すべきポイント （★事業フック）	本資料に示された政府方針は、介護コンソーシアムが展開する事業と多くの点で連携可能性がある。特に、「留学生の国内就職支援研修モデルカリキュラム」（施策番号 288）や「外国人留学生の採用や入社後の活躍に向けたハンドブック」（施策番号 286）の活用は、コンソーシアムが提供するキャリア支援プログラムの質を向上させる上で直接的なフックとなる。 また、「高度外国人材活躍地域コンソーシアム」（施策番号 302）との連携を模索することで、地方における留学生の就職・定着支援のネットワークを拡大できる可能性がある。さらに、悪質な仲介事業者排除に向けた取り組み（施策番号 323, 324）に関する情報を養成校や留学生に提供することで、コンソーシアムの信頼性を高め、ブランディングに繋げることができる。
出典（正式表記）	外国人の受入れ・秩序ある共生社会実現に関する関係閣僚会議「外国人の受入れ・秩序ある共生のための総合的対応策」

調査番号	No. 11
資料名 （正式名称）	特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針及び育成就労に係る制度の運用に関する方針について
作成主体	法務大臣、厚生労働大臣、国家公安委員会、外務大臣（閣議決定）
作成年（年度）	令和７年度
資料種別	行政資料（閣議決定）
掲載 URL （該当ページ）	https://www.moj.go.jp/isa/content/001454662.pdf
URL 種別	PDF 直リンク
URL 遷移先の内容サマリー	本資料は、令和８年１月 23 日に閣議決定された「育成就労制度」と、それに伴い変更される「特定技能制度」の運用に関する方針を定めた文書である。技能実習制度に代わる育成就労制度は、人材育成と確保を明確な目的とし、3 年間で「特定技能１号」の水準まで育成する。介護分野では、令和６年度からの５年間で特定技能１号外国人 12 万 6, 900 人、令和９年度からの２年間で育成就労外国人３万 3, 800 人、合計 16 万 700 人の受入れを見込む。 外国人材のキャリアパスを明確化し、計画的な育成を重視する一方、本人の意向による転籍（転職）を一定条件下で認めるなど、労

	するため、外国人材の受入れが必要不可欠であるとされている。 (1) 受入れ見込数（令和６年度～令和１０年度） 向こう５年間における介護分野全体の受入れ見込数は、合計で１６万７００人と設定されている。その内訳は以下の通りである。 (2) １号特定技能外国人： 令和６年度からの５年間で 12 万 6, 900 人を見込み、これを受入れの上限として運用する。 (3) 育成就労外国人： 新制度施行後の令和９年度からの２年間で３万 3, 800 人を見込み、これを受入の上限として運用する。 ３．特定技能制度（介護分野）の運用詳細 (1) 受入れ人材の基準 特定技能１号として受け入れる外国人は、以下の試験に合格した者（または技能実習２号等を良好に修了した者）とされる。 ① 技能水準： 「介護特定技能評価試験（技能）」または「介護育成就労評価試験（専門級）」 ② 日本語能力水準： 「日本語教育の参照枠」のＡ２．２相当以上の水準と認められる試験、および「介護特定技能評価試験（日本語）」 (2) 従事する業務と訪問系サービスの解禁 特定技能外国人が従事する業務区分は「介護」であり、具体的には利用者の心身の状態に応じた入浴、食事、排せつの介助等の身体介護業務とされる。これに付随して、お知らせの掲示や物品補充など、日本人が通常従事する関連業務を行うことも認められる。また、従来認められていなかった訪問介護等の訪問系サービスへの従事について、以下の厳格な要件を満たす場合に限り可能とする方針が示されている。 ① 対象となる外国人材： 介護職員初任者研修課程等を修了し、かつ実務経験等を有する者に限る。 ② 受入れ機関が講ずべき措置： • 訪問介護等の基本事項に関する研修の実施。

	• 一定期間、責任者等が同行することによる必要な訓練（OJT）の実施。 • 業務内容の丁寧な説明と、本人の意向を確認した上でのキャリアアップ計画の作成。 • ハラスメント防止のための相談窓口設置等の措置。 • 不測の事態に対応するための ICT（情報通信技術）活用を含めた環境整備。 (3) 特定技能所属機関（受入れ施設）への要件特定技能外国人を受け入れる事業所は、以下の条件を満たす必要がある。 ① 介護等の業務を行う事業所であること。 ② 受入れ人数は、事業所単位で日本人等の常勤介護職員の総数を上限とすること。 ③ 厚生労働省が設置する「特定技能の協議会」の構成員となり、協議会での決定事項を遵守し、必要な協力を行うこと。 (4) 直接雇用形態に限ること。 4 育成就労制度（介護分野）の運用詳細 (1) 育成の目標と段階的な水準 育成就労制度では、３年間の就労を通じて「特定技能１号」相当の技能・知識を習得することを目指す。介護分野においては、他分野と比較して入国時から高い日本語能力が求められるなど、独自の基準が設定されている。 ① 就労開始前（入国時）： 日本語能力：「日本語教育の参照枠」のＡ２．２相当以上の水準（他分野の多くはＡ１相当であるが、介護では対人サービスの特性上、より高い水準が求められる）。 ② 就労開始後１年経過時： 技能水準：「介護育成就労評価試験（初級）」の実技試験および学科試験。 日本語能力：「日本語教育の参照枠」のＡ２．２相当以上の水準、および日本語学習プランの作成（ただし、Ｂ１相当以上の合格者はプラン作成不要）。 ③ 育成就労終了時（３年後）： 技能水準：「介護育成就労評価試験（専門級）」の実技試験および学科試験。 日本語能力：「日本語教育の参照枠」のＡ２．２相当以上の水準、および「介護特定技能評価試験（日本語）」。

	① 事業所の運営実績： 原則として、事業所が開設後３年以上経過していること。ただし、同一法人が経営する他の介護事業所が開設後３年以上経過している場合などは、例外的に認められる場合がある。その際は、研修体制の確保、相談体制の整備、職員・利用者への事前説明、法人内協議体制の確保等が求められる。 ② 指導体制： ・ 育成就労指導員のうち１名以上は、介護福祉士の資格を有する者、または同等以上の専門知識・技術を有する者であること。 ・ 育成就労外国人５名につき１名以上の指導員を選任すること。 ③ 夜勤・緊急時対応： 夜勤業務など少人数での業務や緊急対応が求められる業務を行わせる場合は、利用者の安全確保のために必要な措置を講じていること。 ④ 受入れ人数枠： 事業所単位で、日本人等の常勤介護職員の総数を上限とし、ケアの質と指導体制を確保できる人数とすること。 (5) 監理支援機関および入国後講習の要件育成就労を監理・支援する機関（監理支援機関）には、介護分野の専門性が求められる。 ① 監理支援機関の要件： • 介護、医療、社会福祉の発展に寄与することを目的とする全国的な団体（その支部を含む）等であること。 • 役職員の中に、５年以上介護業務に従事した経験を持つ介護福祉士等を選任していること。 ② 入国後講習の要件： • 日本語科目： 240 時間以上（ただし、日本語能力試験等でＢ１相当以上を有している場合は 80 時間以上）。講師は日本語教育の有資格者等であること。 • 介護導入科目： 42 時間以上。講師は介護福祉士養成施設の教員経験者等であること。 5 共通事項およびその他の重要施策 (1) キャリア形成プログラムの策定 厚生労働省は、関係業界と協働して「育成・キャリア形成プログラム」を策定する。これは、特定技能制度と育成就労制度を通貫したものであり、外国人が自身のキャ

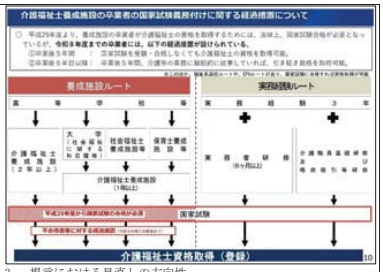
	(2) 転籍（転職）の要件と制限期間育成就労制度では、やむを得ない事情がある場合のほか、本人の意向による転籍（転職）が認められるが、介護分野においては以下の要件と制限が設けられている。 ① 転籍に必要な要件： • 技能水準：「介護育成就労評価試験（初級）」への合格。 • 日本語能力：「日本語教育の参照枠」のＡ２．２相当以上の試験への合格。 ② 転籍制限期間： 介護分野における転籍制限期間は、当分の間「２年」とされる（他分野の多くは１年）。 (3) 転籍制限期間を２年とする理由 介護分野において転籍制限期間を長く設定する理由として、以下の３点が明記されている。 ① 技能習得の特性： 介護は対人支援サービスであり、利用者との信頼関係を築きながら、多様な状態像に対応できる専門的な知識・技術・倫理を習得するには、同一事業所での継続的な実践と一定の時間が必要であるため。 ② 利用者の保護： 認知症高齢者をはじめとする利用者にとって、顔なじみの職員による継続的なケアは生活の質を維持する上で極めて重要であり、頻繁な職員の交代は利用者の不利益につながるため。 ③ 人材流出の防止： 大都市圏での介護人材需要が高いため、早期の転籍を認めると、地方で就労を開始した人材が賃金の高い都市部へ過度に流出し、地方の介護基盤が維持できなくなるおそれがあるため（激変緩和措置）。 なお、転籍制限期間を１年超（２年）に設定する育成就労実施者は、介護職員等処遇改善加算の取得等の要件を満たすことに加え、育成就労外国人ごとの「キャリア支援プラン」を作成し、待遇向上（昇給等）を図ることが求められる。 (4) 育成就労実施者（受入れ施設）への要件 育成就労外国人を受け入れる施設は、以下の基準を満たす必要がある。

	リアを俯瞰し、技能向上を予見できるようにするとともに、受入れ機関が計画的な育成を行うための指針となる。プログラムでは、基礎的な技能習得から始まり、将来的には自らの判断で高度な業務を遂行し、指導的役割を担うことまでを視野に入れている。 (2) 治安対策と地域集中防止 外国人材の受入れ拡大に伴う懸念に対応するため、以下の措置が講じられる。 ① 治安対策： 失踪や犯罪、悪質な送出機関の介在などの問題を把握した場合、厚生労働省は事業者や業界団体に対して指導・助言を行うとともに、関係機関と情報を共有し、必要な措置を講じる。 ② 大都市圏への集中防止： 地域ごとの有効求人倍率等を定期的に把握し、地方における人手不足状況を可視化する。また、地域医療介護総合確保基金を通じた支援や、優良事例の周知を行うことで、特定の地域（大都市圏）への過度な集中を防ぎ、各地域の事業者が人材を確保できるよう図る。 (3) 協議会への加入 特定技能所属機関および育成就労実施者は、厚生労働省が設置する「介護分野に係る分野別協議会」の構成員となり、協議会で決定された措置を講じ、必要な協力を行うことが義務付けられている。これにより、業界全体での適正な制度運用と外国人保護の徹底が図られる仕組みとなっている。
国家試験対策	（関連度高） 育成就労制度の最終目標が「特定技能１号」水準（介護福祉士養成施設卒業と同等）への到達であり、その後の介護福祉士資格取得を視野に入れた制度設計となっているため。段階的な日本語・技能評価は、国家試験対策の基礎となる。
定着支援	（関連度高） 制度全体が、育成を通じた長期的なキャリア形成と定着を促す構造となっている。転籍の柔軟化や受入れ機関の支援義務化は、労働環境の改善と定着率向上に直結する。特に介護分野の転籍制限期間（2年）は、定着を促すための特例措置である。
文化理解・地域定着	（関連度中）

	受入れ機関に「日常生活上・社会生活上の支援」が義務付けられており、地域社会での孤立を防ぐ配慮がなされている。しかし、主眼は労働者としての育成・保護にあり、文化理解や地域コミュニティへの積極的な統合を促す施策は限定的。
本事業との関係で注目すべきポイント （★事業フック）	本方針の最大のポイントは、「育成」を前面に打ち出し、特定技能制度への明確なキャリアパスを提示した点にある。これは、介護福祉士養成校にとって大きな事業機会となり得る。具体的には、育成就労制度で来日した外国人材に対し、養成校が「特定技能１号」への移行、さらにはその先の「特定技能２号」や介護福祉士資格取得を見据えた高度な教育プログラムを提供するという役割が考えられる。特に、転籍が柔軟になることで、より良い労働条件やキャリアアップを求める優秀な外国人材が、養成校での学び直しを選択する可能性が高まる。 養成校は、こうした人材を対象とした日本語教育の強化、国家試験対策講座、あるいは社会人向けの短期課程などを開発・提供することで、新たな学生層を開拓できる可能性がある。また、受入れ機関（介護施設等）との連携を強化し、育成就労計画の策定段階から関与し、施設での OJT と養成校での Off-JT を組み合わせた効果的な育成プログラムを共同で開発・提供することも有望な事業フックとなるだろう。
出典（正式表記）	令和８年１月 23 日閣議決定「特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針及び育成就労に係る制度の運用に関する方針及び特定技能の在留資格に係る制度の運用に関する方針について」

調査番号	No. 12
資料名 （正式名称）	2　介護福祉士国試、養成校ルートの経過措置「単純延長せず」自民・介護委が見直しを提言 3　介護福祉士国家試験義務付けの経過措置、終了か延長か　専門委で意見分かれる
作成主体	1　介護ニュース Joint（自民党政務調査会・社会保障制度調査会 介護委員会） 2　社会保険研究所
作成年（年度）	令和７年度
資料種別	ニュース記事
掲載 URL （該当ページ）	1　https://www.joint-kaigo.com/articles/42447/ 2　https://media.shaho.co.jp/n/n2456d56ce5ec
URL 種別	Web ページ
URL 遷移先の内容サマリー	本資料は、自民党の介護委員会がまとめた、介護福祉士養成校卒業者に対する国家試験義務化の経過措置に関する提言を報じるニュース記事である。委員会は、現行の経過措置を単純に延長するのでは

	なく、国家試験を受験・合格せずとも５年間の実務経験で資格を維持できる制度の見直しを提言している。特に、国家試験の合格率が低い外国人留学生への影響を考慮し、日本語教育の支援強化も併せて要請している点が特徴である。この提言は、介護福祉士の質の担保と人材確保という二つの課題の狭間で、制度のあり方を再検討する動きを示すものである。
掲載情報の種類・注意点	本資料は、自民党の提言内容を報じる二次情報である。提言の背景や具体的な文言は引用されているが、提言そのものの全文ではない点に注意が必要である。より詳細な分析には、一次情報である提言本文の入手が望ましい。
大分類	介護人材
中分類	資格・養成
具体的内容 （典型例）	1　自民党・介護委員会による提言の概要 自民党の政務調査会・社会保障制度調査会介護委員会は、2025 年 12 月 10 日、今後の介護保険制度改正に向けた提言を取りまとめた。本提言における主要な論点は、介護福祉士養成施設（養成校）を卒業した者に対する国家試験の合格義務付けに関する「経過措置」の取り扱いである。委員会は、介護福祉士の資質の担保・向上を原則としつつも、深刻な介護人材不足や養成校の経営状況を踏まえ、現行制度の単純な延長を行わず、制度の在り方を見直すよう提言した。 2　介護福祉士資格取得における「経過措置」の現状と課題 現行の介護福祉士制度においては、大学や専門学校などの養成校を卒業した者に対し、国家試験の合否にかかわらず資格を付与する経過措置が設けられている。 (1)　暫定的な資格付与： 養成校を卒業すれば、国家試験に不合格、または未受験であっても、卒業後５年間の期限付きで介護福祉士の資格が認められる。 (2)　資格の維持・定着要件： この５年間の期間中に、介護現場で連続して５年間実務に従事した場合、国家試験に合格していなくとも、５年経過後も継続して介護福祉士の資格を維持できる仕組みとなっている。 この措置は、国家試験の義務化に伴う激変緩和措置として導入されたものであるが、介護福祉士の専門性や資質の均質化を図る観点から、その是非が議論されてきた経緯がある。

	 3　提言における見直しの方向性 委員会は提言の中で、介護福祉士の資質を担保し向上させるためには、将来的には経過措置の終了を目指すべきであるとの姿勢を示した。しかしながら、直ちに経過措置を廃止した場合、人材確保への悪影響や養成校の運営難が懸念されることから、経過措置の延長そのものは容認するスタンスをとっている。その上で、以下の条件付きでの見直しを求めた。 (1)　「単純延長」の否定：現行の仕組み（試験不合格でも５年間の実務で資格取得可能）をそのまま期間延長するのではなく、制度設計の見直しを行うこと。 (2)　実務経験による資格取得要件の厳格化：国家試験を受験・合格しなくても働き続けることで資格を取得できる現在の措置について、見直しを行うよう提言した。 4　外国人留学生に関するデータと具体的要件本提言の背景には、介護福祉士養成校で学ぶ外国人留学生の増加と、その国家試験合格率の低迷という構造的な課題が存在する。 (1)　国家試験合格率の実態：厚生労働省のデータによれば、養成校で学んだ外国人留学生の国家試験合格率は４割弱にとどまっている。これは日本人学生の合格率と比較して低い水準にある。なお、関連する事業計画書（No. 26）においても、第 37 回国家試験における留学生の合格率は 35.1%と示されており、過半数が不合格となっている現状がある。

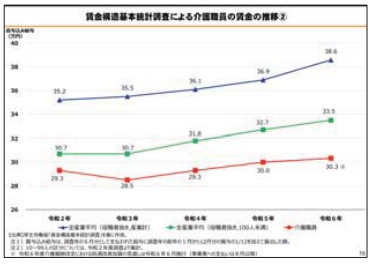
	(2)　経過措置廃止による影響：現行の経過措置が廃止された場合、国家試験に合格できなかった外国人留学生は介護福祉士として働くことができなくなる。これは、留学生にとっても、彼らを受け入れる介護現場にとっても大きな損失となり、人材確保の観点から懸念の声が上がっていた。  5　日本語教育支援の強化要請 委員会は、経過措置の見直し議論と並行して、外国人留学生が国家試験に合格し、正規のルートで資格を取得できるよう支援体制を強化する必要性を強調している。具体的には、外国人留学生に対する日本語教育への支援を強化することを政府に対して要請した。これは、制度の厳格化を行う一方で、意欲ある外国人材が資格を取得できる環境を整備し、質の担保と人材確保の両立を図る狙いがあると考えられる。
国家試験対策	（関連度高） 提言の核心が国家試験の義務化と経過措置であり、特に外国人留学生の合格率の低さが課題として明確に指摘されているため。日本語教育の強化は、国家試験対策に直結する重要な要素である。
定着支援	（関連度中） ５年間の実務経験による資格維持という現行制度が、結果的に現場への定着を促す側面を持っていた。この見直しは、資格取得のルートを変更し、定着支援のあり方にも影響を与える可能性があるため。
文化理解・地域定着	（関連度低） 直接的な言及はない。ただし、外国人留学生が資格を取得し、日本で介護福祉士としてキャリアを継続する上での基盤となる制度に関する議論であり、間接的には文化理解や地域定着の前提条件に関わる。

本事業との関係で注目すべきポイント （★事業フック）	本提言は、外国人留学生に対する日本語教育の重要性を改めて浮き彫りにしている。介護コンソーシアムとして、養成校と連携し、国家試験合格を目標とした、より実践的な日本語教育プログラムや教材を開発・提供する事業機会が考えられる。特に、介護現場で用いられる専門用語やコミュニケーションに特化した e-learning コンテンツなどは、需要が高いと予想される。また、経過措置の見直しが現実となれば、卒業後のキャリアパスに関する新たな相談支援ニーズも生まれる可能性があり、そこも事業のフックとなりうる。
出典（正式表記）	1. 介護ニュース Joint「介護福祉士国試、養成校ルートの経過措置「単純延長せず」自民・介護委が見直しを提言」 2. 介護福祉士国家試験義務付けの経過措置、終了か延長か　専門委で意見分かれる（2025 年 10 月 20 日）

調査番号	No. 13
資料名 （正式名称）	介護人材確保に向けた処遇改善等の課題
作成主体	厚生労働省（社会保障審議会介護給付費分科会資料）
作成年（年度）	令和 7 年度
資料種別	行政資料
掲載 URL （該当ページ）	https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001631039.pdf
URL 種別	PDF 直リンク
URL 遷移先の内容サマリー	本資料は、介護人材の確保・定着に向けた処遇改善の課題と論点をまとめたものである。介護職員の賃金が全産業平均より低い現状や、処遇改善加算の効果と課題を指摘。今後の方向性として、他産業と遜色のない賃金水準の実現、介護支援専門員など加算対象外職種の処遇改善、生産性向上との両立などを論点として提示している。特に、2025 年春季労使交渉の結果や物価上昇を踏まえた抜本的な処遇改善の必要性を強調している。
掲載情報の種類・注意点	介護職員の賃金や労働市場に関する統計データ、社会保障審議会での有識者意見、処遇改善に関する政策の課題と論点が含まれる。データは特定の調査に基づくものであり、意見は特定の審議会のものである点に留意が必要。
大分類	労働・福祉
中分類	介護人材政策
1　具体的内容 2　（典型例）	1　介護人材の賃金水準と労働市場の動向 (1)　有効求人倍率と失業率の推移 介護関係職種の有効求人倍率は、全職業と比較して高い水準で推移している。令和 6 年度の介護関係職種の有効

求人倍率は 3.62 倍から 4.08 倍の範囲で推移しており、全職業の有効求人倍率（1.1 倍前後）を大きく上回る。長期的な傾向として、平成 21 年度以降、介護関係職種の有効求人倍率は上昇傾向にあり、失業率の低下とともに人手不足感が強まっている状況がデータにより示されている。

(2)　賃上げの状況と全産業との比較
2025 年春季労使交渉（春闘）の結果において、全産業の賃上げ率は 5.25%（賃上げ分が明確な組合の集計では 3.70%）となり、2 年連続で 5%を超える水準となった。一方で、中小企業の賃上げ率は 4.65%、小規模企業では 4.36%となっている。介護職員の給与水準については、令和 6 年の「賃金構造基本統計調査」によると、賃与込み給与額は 30.3 万円であり、全産業平均（役職者除く）の 38.6 万円と比較して依然として格差が存在する。産業計（100 人未満）の平均 33.5 万円と比較しても低い水準にある。また、最低賃金については、2025 年度の地域別最低賃金が全国加重平均で 1,055 円（前年比＋51 円）となり、2020 年代に全国平均 1,500 円を目指す政府方針のもと、断続的な引き上げが行われている。



2　処遇改善加算等の取得状況と賃金改善の実態
(1)　介護職員等処遇改善加算の取得状況
令和 6 年度の介護報酬改定において、既存の 3 加算（処遇改善加算、特定処遇改善加算、ベースアップ等支援加算）が一本化された「介護職員等処遇改善加算」の取得

状況（令和 7 年 7 月時点）は、全体で 96.8%となっている。区分別の取得率は以下の通りである。
- 加算Ⅰ：54.9%
- 加算Ⅱ：28.7%
- 加算Ⅲ：9.2%
- 加算Ⅳ：4.0%。



(2)　賃金改善の実施方法と改善額
「介護職員等の職場環境や処遇に関する実態調査」によると、処遇改善加算を取得している施設・事業所における介護職員（月給・常勤）の基本給等は、令和 6 年 9 月と令和 7 年 7 月の比較において、6,130 円（+2.5%）の増加となっている。平均給与額においては、同期間で 6,840 円（+2.0%）の増加が確認されている。賃金改善の実施方法（複数回答）としては、「定期昇給」が 50.2%で最も多く、次いで「ベースアップにより対応」が 42.4%、「賞与等の引き上げまたは新設」が 40.6%となっている。また、ベースアップと定期昇給を区分して把握している事業所（回答の約 4 割）におけるベースアップ分のみの平均改善額は 4,760 円（昇給率換算 1.9%）であった。

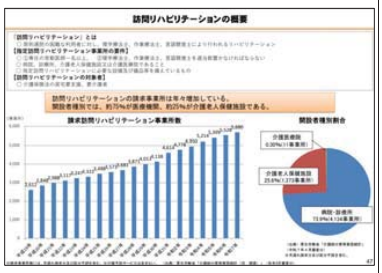
(3)　職種間の配分状況
一本化された新加算では、職種間の配分ルールが柔軟化されており、介護職員以外の職種への配分も行われている。調査結果によると、介護職員以外に配分した職種（複数回答）として、「看護職員」が 63.0%と最も多く、次いで「生活相談員・支援相談員」（54.8%）、

「事務職員」（54.4%）、「介護支援専門員」（44.0%）となっている。職種別の平均給与額（月給・常勤）の改善状況（令和 6 年 9 月比）は以下の通りである。
- 介護職員：+6,840 円
- 看護職員：+5,330 円
- 生活相談員・支援相談員：+7,710 円
- 介護支援専門員：+6,700 円
- 事務職員：+7,880 円。

(4)　介護人材確保・職場環境改善等事業（補助金）の活用
処遇改善加算とは別に措置された補助金事業について、令和 7 年 7 月時点での申請済み割合は 73.1%であった。補助金の使途としては、「人件費改善の実施」が 90.1%、「職場環境改善の実施」が 26.9%となっている。人件費改善に充てた場合の常勤換算職員 1 人当たりの支給額は、介護職員で 26,100 円、介護職員以外で 20,820 円となっている。

3　処遇改善加算の対象範囲に関する課題と論点
(1)　対象外サービスにおける処遇の現状
現行の処遇改善加算は、基準上介護職員が配置されているサービスを対象としており、訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅介護支援（ケアマネジャー）、福祉用具貸与等は算定対象外となっている。一方で、医療分野においては令和 6 年度診療報酬改定により「ベースアップ評価料」が新設され、訪問看護ステーションの看護師等も対象となっていることから、介護保険分野における訪問看護等が対象外であることの均衡が課題として指摘されている。また、居宅介護支援事業所に従事する介護支援専門員について、有効求人倍率が高く人材確保が困難な状況にあり、処遇改善の必要性が議論されている。

(2)　各サービスの特性と経営主体
訪問看護や訪問リハビリテーションは約7割が医療機関（病院・診療所）によって開設されており、医療保険と介護保険の双方が適用されるサービスである。居宅療養管理指導については、医師、薬剤師、管理栄養士等が提供主体となる。福祉用具貸与については、公定価格ではなく市場価格に基づく上限設定（全国平均貸与価格＋1標準偏差）により管理されている。これらのサービス特性や価格設定の仕組みの違いが、加算対象範囲の検討における論点となっている。



4　人材確保対策と職業紹介事業の適正化
(1)　採用活動の現状と課題
介護事業所における採用活動の方法として、「ハローワークや福祉人材センターの利用」（66.9%）や「職員紹介（リファラル）」（65.6%）が主流である一方、「有料職業紹介所の活用」も41.5%に達している。人材紹介会社への高額な紹介手数料の支払いが経営を圧迫しているとの指摘があり、紹介手数料の負担感や、早期離職によるコスト増が課題となっている。

(2)　職業紹介事業への規制強化
職業紹介事業の適正化に向けた取り組みとして、以下の措置が講じられている。

①　手数料実績の公開義務化：令和7年4月より、職業紹介事業者は職種ごとの紹介手数料実績（平均手数

料率等）を「人材サービス総合サイト」等で公開することが義務付けられる。
②　お祝い金・転職勧奨の禁止：求職者への「お祝い金」支給や、就職後2年間の転職勧奨の禁止が指針に明記され、令和7年1月からは許可条件に追加されることで実効性が強化された。
③　医療・介護・保育分野における適正認定制度：法令遵守や手数料の公表、早期離職時の返戻金制度設定などの基準を満たす事業者を認定する制度が運用されており、令和7年11月時点で介護分野では24社が認定されている。

5　生産性向上と業務効率化の推進
(1)　生産性向上の目標とKPI
介護分野における生産性向上は、2040年に向けて分野全体で20%の業務効率化（労働時間短縮等）を目指す目標が設定されている。KPI（重要業績評価指標）として、以下の項目が設定されている。
①　1ヶ月の平均残業時間の減少
②　有給休暇の取得状況（取得日数の増加）
③　総業務時間の減少割合
④　年間の離職率の変化
⑤　人員配置の柔軟化（特定施設等における人員配置基準の特例的な柔軟化の適用率など）。

(2)　テクノロジー導入支援と環境整備生産性向上を推進するための施策として、以下の取り組みが実施されている。
①　介護ロボット・ICT導入支援：
見守りセンサー、移乗支援機器、介護記録ソフト等の導入費用に対する補助や、ケアプランデータ連携システムの利用促進（1年間の無償化キャンペーン等）が行われている。

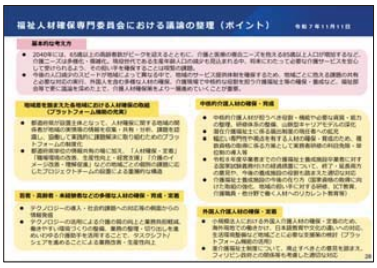
②　ワンストップ相談窓口の設置：
介護現場の生産性向上に関する相談に対応する「介護生産性向上総合相談センター」等のワンストップ窓口を、令和8年度末までに全都道府県に設置する計画が進められている。

③　経営の協働化・大規模化：
小規模法人の事務処理部門の集約や共同採用などを促進するためのガイドライン作成や支援事業が展開されている。

(3)　人員基準の特例的な柔軟化見守り機器等のテクノロジーを活用し、安全体制を確保した上で、夜間の人員配置基準を緩和するなどの特例措置が導入されている。令和6年度報酬改定においては、特定施設等における人員配置基準の柔軟化（3:1配置の特例）等の措置が講じられ、実証事業を通じてその効果検証が行われている。

6　外国人材の活用
(1)　受入れの方向性
2040年には約57万人の介護職員が新たに必要となると推計される中、外国人材の確保・定着が喫緊の課題として位置づけられている。「福祉人材確保専門委員会における議論の整理」においては、外国人を含む多様な人材の確保、地域ごとの支援策（日本語教育、生活環境整備、海外現地への働きかけ）の重要性が指摘されている。

(2)　具体的な取り組み
外国人材の確保・定着に向けて、以下の取り組みが挙げられている。
①　小規模法人における外国人材確保・定着支援（プラットフォーム機能の活用）。
②　海外現地での働きかけや日本語教育の充実。
③　介護福祉士養成施設における留学生への支援（国家試験対策、ICT教育等）。



7　その他の関連事項
(1)　人員基準欠如による減算規定
介護・看護職員やケアマネジャーが基準員数を下回った

場合、介護給付費が原則3割減算される「人員基準欠如減算」の規定が存在する。職員の欠員が生じた場合、翌月または翌々月から減算が適用され、人員基準が解消されるまで継続するため、人材確保が困難な地域においてはサービスの存続に関わる重大なリスクとなっている。

(2)　ハローワークにおける支援
主要なハローワークに「人材確保対策コーナー」を設置し、きめ細かな職業相談や、業界団体と連携した「お仕事相談会」「ツアー型面接会」などを実施している。令和6年度のマッチング等による就職者数は全国で約10,387人（福祉人材センター実績）となっている。



国家試験対策	（関連度低） 直接的な試験対策情報は含まないが、介護福祉士の専門性やキャリアパスに関する議論は、学生のモチベーション向上に繋がる可能性がある。
定着支援	（関連度高） 資料全体が処遇改善による定着支援をテーマとしており、賃金水準の改善、キャリアアップの仕組み、職場環境の改善に関する議論は、介護職員全体の定着に直結する。
文化理解・地域定着	（関連度中） 外国人人材の活用が論点として挙げられており、受け入れ体制や定着支援の議論は、文化理解や地域社会への統合を考える上で重要な示唆を与える。

本事業との関係で注目すべきポイント（★事業フック）	処遇改善の議論は、外国人留学生の就職先選定やキャリアプランに直接影響するため、養成校として最新情報を提供しキャリア相談に活かすことが重要である。また、国が示す「外国人人材の積極的な活用」という方針は事業の追い風であり、受け入れ体制の整備や定着支援プログラムの強化が事業の差別化に繋がる。生産性向上の議論は、ICT 教育や介護ロボット活用など、教育内容の高度化のフックとなる。
出典（正式表記）	厚生労働省（2025）「介護人材確保に向けた処遇改善等の課題」社会保障審議会介護給付費分科会（第 248 回）資料 1.

調査番号	No. 14
資料名（正式名称）	【特集】2026 年の課題と展望―外国人政策をめぐる議論の現在地
作成主体	東京財団政策研究所
作成年（年度）	令和 7 年度
資料種別	政策論考・コラム（または Web 記事）
掲載 URL（該当ページ）	https://www.tkfd.or.jp/research/detail.php?id=4861
URL 種別	Web ページ
URL 遷移先の内容サマリー	2025 年の日本における外国人政策を巡る議論の活発化を、長期的な視点から分析した論考。参院選での争点化や SNS での議論加速を背景に、制度見直しの動きが相次いだことを指摘。1990 年以降の外国人受け入れの経緯を振り返り、人口動態の変化、制度と社会の受容のズレ、情報環境の変化が議論集中の要因と分析。排外的な感情の可視化にも言及し、2026 年に向けては二項対立ではなく、制度設計と適正な運用が重要だと結論付けている。
掲載情報の種類・注意点	東京財団政策研究所の研究員による、日本の外国人政策に関する分析と提言をまとめた論考。2025 年の動向を中心に、歴史的経緯や社会的背景を解説している。統計データに基づく分析ではなく、専門家による定性的な考察が中心である点に留意が必要。 また、本資料はシンクタンクによる論考であり、2025 年の政治情勢（女性首相の誕生等）を前提とした分析が含まれる点に留意が必要である。行政機関による公式な統計・報告資料とは区別して参照する必要がある。
大分類	外国人労働者
中分類	政策・制度
具体的内容（典型例）	本資料は、2026 年 1 月時点の視座から、2025 年に日本で生じた外国人政策をめぐる動向と社会的議論の変容を分析したものである。 2025 年は、日本初の女性首相誕生や参議院選挙での外国人政策の争点化、「日本人ファースト」を掲げた政党の躍進など、政治的な転換点となった年として位置づけられている。

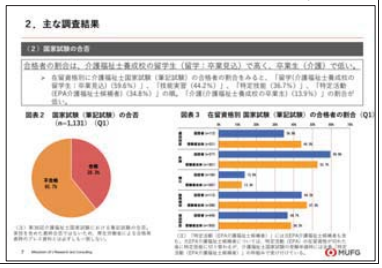
	1　2025 年における具体的な政策・制度変更の動き 2025 年には、外国人政策に関する制度運用の見直しや新たな検討事項が短期間に相次いで提示・施行された。具体的な動きは以下の通りである。 (1)　既施行の措置 ①　外国運転免許証の切替厳格化： 10 月 1 日より、いわゆる「外免切替」の運用が厳格化された。 ②　在留資格「経営・管理」の要件引き上げ： 10 月 16 日より、発給要件の引き上げが実施された。 (2)　検討が開始・表明された事項 ①　総量規制の検討： 8 月の法務大臣勉強会において、外国人の受け入れ規模の把握・管理（総量規制）の可能性が論点として浮上した。 ②　国籍取得・永住許可の厳格化： 日本国籍取得に必要な居住期間の延長や、永住許可要件への「一定程度の日本語能力」追加に関する議論が進められている。 ③　不動産取得の実態把握： 不動産登記時における国籍の届け出や、報告制度の見直しを含む施策が示された。 ④　育成就労の受入れ上限案： 2027 年度開始予定の「育成就労制度」に関し、受入れ可能人数の上限案として「123 万人」という具体的な数値が初めて提示された。 2　1990 年以降の制度的蓄積と構造変化 2025 年の動きは突発的なものではなく、1990 年代以降の制度拡張と社会変化の累積の結果であると分析されている。その経緯は以下の通りである。 • 1990 年：入管法改正により、「専門的技術的分野」と「家族・日系人ルート」の二本柱で受け入れが拡張された。 • 1993 年：技能実習制度が開始され、建前上の「国際貢献（人材育成）」と実質的な「労働力需給調整」という構造が形成された。

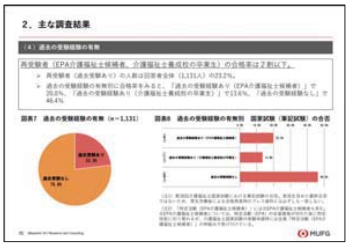
	• 2000 年代：IT 分野での技術者受け入れや、2008 年の「留学生 30 万人計画」により、教育と就労の結びつきが加速した。 • 2010 年代以降：特定技能制度の創設など、産業分野の広がりに応じた制度の新設と運用調整が短い周期で繰り返され、在留経路が多層化・複雑化した。 • 地域社会の変化：地方都市の製造業、介護、宿泊業などで外国人労働力への依存が高まった一方、受け入れ体制や住民意識には地域間格差が存在している。 3　議論が集中・表面化した構造的要因 これまで個別に進行してきた事象が、2025 年に集中的に表面化した背景には、以下の 3 つの構造的要因が存在する。 (1)　人口動態と産業構造の変化：少子高齢化による生産年齢人口の減少が長期的に進行し、産業構造が製造業からサービス・ケア労働へシフトする中で、外国人労働力が部分的に組み込まれたが、その位置づけに関する社会的合意形成が不十分であった。 (2)　制度と社会受容のタイムラグ：多層化した在留資格や移動経路に対し、教育機関、企業、行政、地域社会の調整能力の整備が追いつかず、政策先行・現場後追いの状況が蓄積され、各所で摩擦が生じた。 (3)　情報環境の変化（SNS の普及）：特定の地域や分野で生じた出来事が SNS を通じて瞬時に全国・世界へ共有されるようになり、局所的な課題が社会全体の問題として結びつけられやすい環境が形成された。 4　排外的な感情の可視化と背景 2025 年に外国人をめぐる議論が強い感情を伴って広がった背景には、以下の社会的・心理的条件が複合している。 (1)　異質性への防御反応： 同化を前提としない外国人の存在が可視化され、「郷に入れば郷に従え」という同調圧力が強い日本社会において違和感や反発が喚起された。 (2)　SNS による感情の増幅： 匿名性の高い SNS により不満表出の敷居が下がり、「直接注意する」代わりに「ネット上で晒す」行為が常態化した。また、リコメンド機能等により自身の感情に合致する情報に繰り返し接触し、それを「社会全体の声」と誤認しやすい環境が醸成された。

	(3)　相対的剥奪感の拡大： 外免切替や留学生支援などの制度に対し、「外国人が優遇され、本来自分たちが得られるものが奪われている」という認識が広がり、不公平感が特定の集団へ向けられた。 (4)　経済的閉塞感と「象徴的な逆転」： 長期的な経済停滞の中で、都市部を中心に豊かな消費行動を行う外国人の姿が可視化され、「我慢を強いられる日本人」と「享受する外国人」という対比が感情を刺激した。 (5)　単純化されたスローガンの受容： 「日本人ファースト」のような分かりやすい言葉が、複雑な制度議論よりも強い訴求力を持ち、ドイツの AfD 支持拡大と同様の現象として日本でも支持を広げた。 5　2026 年に向けた展望 本資料は結論として、2026 年に向けた課題は「受け入れを拡大するか抑制するか」という二項対立の議論ではないとしている。重要なのは、感情論に即応することではなく、以下の視点に基づいた具体的な制度設計であると提言している。 • どの制度を、どの目的のために、どの水準で運用し、誰が責任を持つのかを明確にすること。 • 制度への信頼を支えるための適正な運用と説明可能性（アカウンタビリティ）を、論点ごとに積み上げていく姿勢を持つこと。
国家試験対策	（関連度低） 記事は外国人政策全般を論じており、介護福祉士国家試験の具体的な内容に直接関連する記述はないため。
定着支援	（関連度高） 外国人労働者を取り巻く社会的な議論や感情の動向は、彼らの定着に大きな影響を与える。本稿が指摘する「制度と社会受容のズレ」や「排外的な感情の可視化」は、定着支援を考える上で不可欠な背景情報となるため。
文化理解・地域定着	（関連度高） 日本社会における外国人に対する感情や、その背景にある社会構造を深く分析しており、異文化理解や地域社会への定着を考える上で極めて重要な示唆を与える。特に SNS が感情を増幅させる構造についての分析は、現代的な課題として注目すべきであるため。

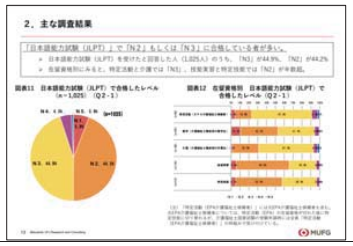
本事業との関係で注目すべきポイント（★事業フック）	本稿が明らかにした「制度と社会受容のズレ」および「排外的な感情の可視化」は、介護コンソーシアム事業にとって大きなビジネスチャンスを示唆している。特に、SNS の普及が感情の増幅を招いているという分析は重要である。これに対し、コンソーシアムとして、外国人留学生と受け入れ施設・地域住民との間の相互理解を促進するためのプログラム（例：オンライン交流会、文化理解ワークショップ、SNS リテラシー教育）を開発・提供することが有効な一手となりうる。本稿の分析を事業の社会的意義を裏付けるエビデンスとして活用し、「感情」ではなく「信頼」を醸成するソリューションを提供することで、他事業との差別化を図る強力なフックとなる。
出典（正式表記）	東京財団政策研究所（2026）「【特集】2026 年の課題と展望―外国人政策をめぐる議論の現在地」

調査番号	No. 15
資料名（正式名称）	外国人介護福祉士国家試験受験者アンケート調査結果概要
作成主体	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（令和 6 年度老人保健健康増進等事業）
作成年（年度）	令和 6 年度
資料種別	調査結果概要（PDF）
掲載 URL（該当ページ）	https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2025/04/koukai_250513_04.pdf
URL 種別	PDF 直リンク
URL 遷移先の内容サマリー	本資料は、第 36 回介護福祉士国家試験（2024 年 1 月実施）を受験した外国人介護人材（EPA、留学生、技能実習、特定技能）を対象に実施したアンケート調査（有効回答 1,131 件）の結果と、実際の試験合否データを紐づけて分析したものである。在留資格別の合格率、日本語能力（JLPT）と合否の相関、職場での支援内容と合格率の関係などを定量的に明らかにし、外国人介護人材の国家資格取得に向けた効果的な支援のあり方を検討するための基礎資料となっている。
掲載情報の種類・注意点	本資料には、アンケート回答と試験センターのデータを突合した詳細な統計データ（グラフ・表）が掲載されている。特に、在留資格別・出身国別の合格率や、JLPT レベル別の合格率、学習支援の内容別合格率などのクロス集計データが豊富である。注意点として、回答者の在留資格構成において「特定技能」が約 4 割を占めており、受験者全体の構成比とは必ずしも一致しない可能性がある点、また筆記試験のみの合否データに基づいている点に留意が必要である。
大分類	外国人材
中分類	国家試験対策

具体的内容（典型例）	1　**調査の概要と回答者の属性構成** 本調査は、第 36 回介護福祉士国家試験（2024 年 1 月実施）を受験した外国人介護人材を対象に実施されたアンケート調査（有効回答数 1,131 件）と、公益財団法人社会福祉振興・試験センターが保有する合否データを突合し、実態を分析したものである。回答者の在留資格構成は、「特定技能」が 39.7%と最も多く、次いで「留学（介護福祉士養成校の留学生：卒業見込）」が 24.5%、「介護（介護福祉士養成校の卒業生）」が 15.9%、「技能実習」が 10.0%、「特定活動（EPA 介護福祉士候補者）」が 9.9%となっている。出身国・地域別では、ベトナムが 34.2%で最多であり、インドネシア（17.0%）、ミャンマー（12.7%）、ネパール（12.0%）、フィリピン（10.1%）と続く。 2　**在留資格別の合格率と「養成校既卒者」の構造的課題** 第 36 回国家試験（筆記）における在留資格別の合格率には顕著な差異が見られる。「留学（卒業見込）」の合格率が 59.6%と最も高く、次いで「技能実習」が 44.2%、「特定技能」が 36.7%、「特定活動（EPA）」が 34.8%であった。特筆すべき課題として、「介護（養成校の卒業生）」の合格率が 13.9%と極めて低い水準にあることが判明した。この層は、養成校を卒業したものの在学中に国家試験に合格できず、就労しながら再受験を目指している者が主であると考えられる。過去の受験経験の有無別に見ても、再受験者（過去受験あり）の合格率は、EPA 候補者で 20.0%、養成校卒業生で 13.6%に留まっており、初受験者（過去受験なし）の合格率 46.4%と比較して著しく低い。一度不合格となった後、働きながらの学習で合格を目指すことの困難さがデータにより浮き彫りとなっている。 



3　**日本語能力（JLPT）と合格率の相関関係**
日本語能力試験（JLPT）の合格レベルと国家試験の合否には強い正の相関が確認された。JLPT「N1」合格者の国家試験合格率は 86.7%、「N2」合格者では 53.4%であるのに対し、「N3」合格者では 25.2%へと急激に低下する。在留資格別に見ても、N2 以上の日本語能力を持つ層は、特定活動（EPA）で 81.0%、留学で 79.7%、技能実習で 55.9%、特定技能で 50.4%と、いずれも 5 割以上の合格率を維持している。一方で、N3 レベルの場合、全体の合格率は低迷するものの、「留学」に限り N3 レベルでも 41.7%が合格している点は注目に値する。これは、養成校での体系的な学習が、日本語能力のハンディキャップを一定程度補完している可能性を示唆している。



4　**支援内容の有効性とニーズのギャップ**
職場等から受けた学習支援の内容と、実際の合格率との関係性を分析した結果、最も効果的な支援策が明らかになった。「勤務時間やシフトの調整をしてもらった」受験者の合格率は 58.4%に達し、これは「特に何もしてもらわなかった」層や他の支援を受けた層と比較して有意に高い。学習時間の確保が合格への最大の鍵であることが定量的に示された。一方で、「試験対策講座やセミナーを紹介してもらった」場合の合格率は 46.5%、「施設や法人の職員に勉強を教えてもらった」場合は 36.4%であった。職員による指導は実施率が 36.0%と最も高い支援策であるが、合格率への寄与度という点ではシフト調整に及ばない結果となった。また、外国人材本人が希望する支援（ニーズ）と、実際に提供されている支援には乖離が見られる。受験者が今後希望する支援としては、「受験料の負担」（34.0%）や「テキスト費用負担」（26.6%）といった金銭的支援への要望が強い。これに対し、実際に受験料負担を受けている割合は 12.4%に留まっている。特に不合格者層において、「職員に勉強を教えてもらうこと」（31.4%）や「受験料負担」（31.1%）への要望が高く、再受験に向けた経済的・人的サポートの不足が懸念される。



5　**来日前の学歴・職歴による影響**
母国での最終学歴と合格率の関係を見ると、「大学・大学院」卒の合格率が高い傾向にあるものの、JLPT で N2 以上を取得していれば、最終学歴が「高等学校」や「専門学校」であっても 5 割台後半～6 割の合格率を示しており、学歴そのものよりも日本語能力が合否の決定要因となっている。また、母国での「看護や介護の学習経験」や「就労経験」の有無に関しても同

	様の傾向が見られた。母国で看護・介護の学習経験がない者（「どちらも勉強していない」）であっても、N2 以上であれば 61.2%が合格しており、経験者（「どちらも勉強した」層の N2 以上合格率は 65.6%）と遜色ない結果となっている。これは、日本の国家試験対策においては、母国での専門知識の有無よりも、日本語での学習適応力が優先されることを示唆している。 6 **科目群別の正答率と苦手領域** 試験結果の得点状況を科目群別に分析すると、外国人受験者全体の平均正答率は、日本人受験者（68.4%）と比較して低調である。在留資格別では、「留学（卒業見込）」の平均得点率が 53.5%と最も高く、次いで「特定活動（EPA）」が 52.7%、「技能実習」が 51.3%と続く中、「介護（既卒者）」は 41.0%と最も低い。科目別では、「社会の理解」や「介護の基本」といった制度理解や概念理解を要する科目で正答率が伸び悩む傾向にある。特に既卒者（介護）は、在学中の留学生と比較して全科目群で正答率が低く、卒業後に知識を維持・向上させる環境が整っていないことがデータから読み取れる。 7 **受験動機と定着意向** 国家試験を受けた理由（複数回答）としては、「日本で介護職として働き続けるため」が 68.9%で最多となり、「日本で長く住み続けたいため」（55.2%）が続いた。これらは「給料が上がるため」（43.9%）よりも上位にあり、資格取得が日本での長期就労・定住の手段として強く意識されていることが確認された。特に「日本での就職・転職に有利なため」と回答した層の合格率は 57.8%と比較的高い傾向にあり、キャリアアップへの明確な目的意識が学習成果に結びついていることが推察される。 

国家試験対策	**（関連度：高）**国家試験合格率と日本語能力（JLPT）の相関データや、有効な支援策（シフト調整等）の分析結果は、養成校が留学生や卒業生に対して提供すべきプログラムを設計する上で直接的な根拠となる。特に N2 取得の重要性や、既卒者へのフォローアップの必要性を示すデータは極めて重要である。
定着支援	**（関連度：中）**国家試験受験の理由として「日本で介護職として働き続けるため」（68.9%）や「日本で長く住み続けたいため」（55.2%）が上位に挙がっており、資格取得支援が定着支援そのものであることが裏付けられている。また、職場での支援体制（シフト調整等）が合否に影響することから、施設側への働きかけの材料としても活用できる。
文化理解 ・地域定着	**（関連度：低）**主に試験対策と合否要因に焦点を当てた調査であり、文化理解や地域コミュニティとの関わりに関する直接的なデータや分析は少ない。ただし、日本での長期居住意向が高いことは、地域定着のポテンシャルを示唆している。
本事業との関係で注目すべきポイント （★事業フック）	本調査で明らかになった「養成校卒業生（既卒者）の合格率の低さ（13.9%）」は、養成校にとって卒業後の継続支援（リカレント教育）という新たな事業領域の必要性を強く示唆している。また、「勤務時間の調整」が合格に有効であるというデータは、コンソーシアムが介護施設に対して学習環境整備を提言・コンサルティングする際の強力なエビデンスとなる。これらを組み合わせ、在学中から卒業後までを一貫して支援する教育モデルの構築が求められる。
出典（正式表記）	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（2025）令和 6 年度老人保健健康増進等事業「外国人介護人材の介護福祉士国家資格取得の支援強化に関する調査研究事業外国人介護福祉士国家試験受験者アンケート調査結果概要」

3．国家試験対策 PBL

教材・指導ガイド

教材の構成

■テーマ

介護福祉士国家試験対策の学習計画立案

■学習概要

外国人留学生がグループを組み、国家試験の合格にむけた学習計画を検討する。国家試験の出題傾向や各自の学習課題を整理し、介護福祉教育コンソーシアムが保有するeラーニングをはじめとする各種学習コンテンツの利用について検討し、グループで学習計画を立案する。

■学習目標

従来の国家試験対策の実効性を高めるために、本教材の学習を通して主体的に学習を進める姿勢や思考力を強化することを目的とする。

■時間数

12時間（90分×8コマ）

■学習対象者

外国人留学生

科目「国家試験対策」PBL学習

介護福祉士国家試験対策の学習計画立案

一般社団法人　介護福祉教育コンソーシアム

STEP1　国家資格について考える

教材の構成

STEP1	国家資格について考える	3.0時間
STEP2	苦手な分野を特定する	1.5時間
STEP3	学習コンテンツを調べる	4.5時間
STEP4	学習の計画を立てる	1.5時間
STEP5	学習計画の発表	1.5時間

1. 国家資格について考える

■ **STEP1の学習目標**

- 介護福祉士の国家資格取得によって日本での生活がどのように変化するのかを具体的に考えてみましょう。
- さらに、取得した場合と、取得しなかった場合の違いを比較しながら、自分の将来について考えましょう。
- 国家試験の出題傾向や、問題の意図を正確に把握する力を養いましょう 。

■ **STEP1の学習時間**

- 3.0時間（0.5時間、1.5時間、1時間）

■ **STEP1の課題**

1-1　介護福祉士としてのキャリアについて考える（0.5時間）
⇒ ワークシート1-1

1-2　過去問の傾向を調べる（1.5時間）
⇒ ワークシート1-2

1-3　過去問をつかったディスカッション（1時間）
⇒ ワークシート1-3

1-1. 介護福祉士としてのキャリアについて考える

生成AIも使って、質問①と質問②の答えをグループで話し合って、まとめましょう。

質問①	**将来、どんな介護職員になっていたいですか。 どこで、どのような役割を担当していたいですか。**
質問②	**日本で介護福祉士の資格をとると、将来の仕事や生活はどう変わるでしょうか。 資格があるときと、ないときのちがいをくらべて考えてみましょう。**

1-2. 過去問の傾向を調べる

生成AIも使って、グループで話し合って、まとめましょう。

出題範囲（科目）		主な問題種別	出題の特徴
①人間と社会	• 人間の尊厳と自立 • 人間関係とコミュニケーション • 社会の理解		
②介護	• 介護の基本 • コミュニケーション技術 • 生活支援技術 • 介護過程		
③こころとからだのしくみ	• 発達と老化の理解 • 認知症の理解 • 障害の理解 • こころとからだのしくみ		
④医療的ケア	• 医療的ケア		
全体傾向の分析			

1-3. 過去問をつかったディスカッション

Ａさん（76歳、女性、要支援1）は、一人暮らしである。週1回介護予防通所リハビリテーションを利用しながら、近所の友人たちとの麻雀を楽しみに生活している。最近、膝に痛みを感じ、変形性膝関節症（kneeosteoarthritis）と診断された。同時期に友人が入院し、楽しみにしていた麻雀ができなくなった。Ａさんは徐々に今後の生活に不安を感じるようになった。ある日、「自宅で暮らし続けたいけど、心配なの…」と介護福祉職に話した。

第36回人間の尊厳と自立（令和5年度）からの出題

Q Ａさんに対する介護福祉職の対応として、最も適切なものを1つ選び、その理由を説明してください。

1. 要介護認定の申請を勧める。
2. 友人のお見舞いを勧める。
3. 膝の精密検査を勧める。
4. 別の趣味活動の希望を聞く。
5. 生活に対する思いを聞く。

正解：５，生活に対する思いを聞く

上記の問題について、なぜ【5】が正解なのか、理由を考えてみましょう。
さらに、国家試験受験にあたって身に着けておくべき日本の知識を考えてみましょう。

【5】の対応が求められる理由	身に着けておくべき日本の知識

STEP2　苦手な分野を特定する

2.　苦手な分野を特定する

■ **STEP2の学習目標**

- 漢字の習熟度、専門用語の理解、文章を読むスピードなど、学習の壁となっている本当の原因を見つけましょう。
- 生成AIを活用しながら、弱点を克服するプランを考えましょう。

■ **STEP2の学習時間**

- 1.5時間（1.5時間×1コマ）

■ **STEP2の課題**

2-1　自己分析チェックリスト（0.5時間）
⇒ ワークシート2-1
2-2　弱点分析と克服プランの策定（1.0時間）
⇒ ワークシート2-2

2-1.　自己分析チェックリスト

苦手だと感じる項目にチェックを入れ、苦手分野を把握しましょう。

	質問	✓
1	日本語の読解力（設問文・選択肢の文法、否定表現、因果関係の把握）	□
2	介護専門知識の理解（介護過程、人体・疾病、制度、倫理の基礎と関連付け）	□
3	出題形式・傾向への対応力（過去問ベースの頻出テーマ理解と取捨選択）	□
4	事例問題の処理スキル（条件整理、優先順位判断、設問意図の把握）	□
5	継続的な試験対策学習（反復学習と到達度確認）	□
6	試験事例に出てくる生活背景の理解（一人暮らし、家族関係、在宅介護の一般的前提）	□
7	日本語特有の表現慣習への慣れ（遠回し表現、控えめな訴え、暗黙の前提）	□
8	介護現場で想定される行動様式の理解（利用者・家族・介護職の役割関係）	□

2-2.　弱点分析と克服プランの策定

生成AIも使って、質問①と質問②の答えをグループで話し合って、まとめましょう。

質問①	合否に大きく影響する弱点や課題は何ですか？

質問②	弱点を克服するための具体的な方法を考えてみましょう。

3.　学習コンテンツを調べる

■ **STE3の学習目標**

- どのような学習コンテンツ（教科書や問題集、eラーニング教材など）があるのか調べてみましょう。
- 実際にコンテンツを使ってみて、使いやすさを確かめてみましょう。
- どの教材をどのように活用するか、グループで考えてみましょう。

■ **STEP3の学習時間**

- 4.5時間（1.5時間×3コマ）

■ **STEP3の課題**

3-1　学習コンテンツの把握・確認（3時間）
⇒ ワークシート3-1
3-2　課題の整理／活用方法を考える（1.5時間）
⇒ ワークシート3-2

14

STEP3　学習コンテンツを調べる

13

3-1.　学習コンテンツの把握・確認

教材名②

提供団体	
テーマ	
種類	
日本語の難しさ	
図表の有無	
その他の特徴など	

教材イメージ
画面キャプチャ

16

3-1.　学習コンテンツの把握・確認

教材名①

提供団体	
テーマ	
種類	
日本語の難しさ	
図表の有無	
その他の特徴など	

教材イメージ
画面キャプチャ

15

参考情報　学習コンテンツ紹介①

介護福祉士基礎学習 e ラーニング





■ **提供団体**
介護福祉教育コンソーシアム

■ **テーマ**
介護福祉士国家試験対策
基礎学習/過去問題/模擬試験による総合学習

■ **利用環境**
WEBサイト形式の学習コンテンツ
スマホやパソコンを使って、いつでもどこでも利用が可能

■ **概要**
eラーニングコンテンツには、国家試験過去問題の詳細な解答・解説、国家試験出題基準に準拠した模擬問題、基礎学習問題4200問が搭載されている。

3-1.　学習コンテンツの把握・確認

教材名③

提供団体	
テーマ	
種類	
日本語の難しさ	
図表の有無	
その他の特徴など	

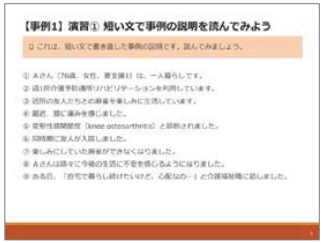
教材イメージ
画面キャプチャ

3-2.　課題の整理　／　活用方法を考える①

学習課題	コンテンツ名	①学習を進めるうえで、役に立った特徴 ②使いにくいと感じた点、気をつけるべき点
		①
		②
		①
		②
		①
		②

参考情報　学習コンテンツ紹介②

外国人介護職のための介護・日本語教育演習テキスト





■ **提供団体**
介護福祉教育コンソーシアム

■ **テーマ**
介護福祉士国家試験対策
事例問題を題材とした長文読解学習

■ **利用環境**
WEBサイト形式のeラーニング教材スマホやパソコンを使って、講義動画・PPT・確認問題をいつでもどこでも利用可能

■ **概要**
介護福祉士国家試験の事例問題を題材とし、長文を短い文に分解しながら語彙理解・文構造の把握・設問意図の読解を段階的に学習する教材。やさしい日本語を用いて読解のプロセスを可視化し、外国人留学生がつまずきやすいポイントを演習形式で整理している。

STEP4　学習の計画を立てる

3-2.　課題の整理　／　活用方法を考える②

学習課題	コンテンツ名	①学習を進めるうえで、役に立った特徴 ②使いにくいと感じた点、気をつけるべき点
		①
		②
		①
		②
		①
		②

4.　グループ目標の設定と相互学習の計画

グループ目標	
学習の進め方	
コンテンツの活用方法	

目標達成のために、自分が他のメンバーの役に立てることは何ですか？

4.　学習の計画を立てる

■ **STEP4の学習目標**

- グループ目標を決めて、学習の進め方、教材の活用方法など、学習計画案を策定しましょう。
- グループ目標の達成に向けて、他のメンバーの成長に貢献できること（例：漢字を教える、良い動画を紹介するなど）を考えましょう。

■ **STEP4の学習時間**

- 1.5時間（1.5時間×1コマ）

■ **STEP4の課題**

4　グループ目標の設定と相互学習の計画（1.5時間）

⇒ ワークシート4

5.　学習計画の発表

■ **STEP5の学習目標**

- STEP1～STEP 5 で整理した内容をもとに、学習計画をまとめ、発表できる形に仕上げましょう。
- 「これから頑張るぞ！」という決意を発表し、仲間と協力して全員で合格する意識を高めましょう。

■ **STEP5の学習時間**

- 1.5時間（1.5時間×1コマ）

■ **STEP5の課題**

5-1　「発表資料」介護福祉士国家試験　合格に向けた学習計画（1.0時間）
⇒ ワークシート5－1
5-2　各グループで代表者を決め、全体に発表する。（0.5時間）

26

STEP5　学習計画の発表

25

1.　将来の目標

（1）将来、どんな介護職員になっていたいか

・
・
・
・
・

（2）国家資格を取得することが、自分の将来の働き方や生活に与える影響

・
・
・
・
・

5-1 発表資料

介護福祉士国家試験
合格に向けた学習計画

（グループ名）

３．弱点の分析

国家試験の合否に向けて対策が必要な課題

・

・

・

・

・

２．国家試験の出題傾向

出題範囲（科目）		主な問題種別	出題の特徴
①人間と社会	• 人間の尊厳と自立 • 人間関係とコミュニケーション • 社会の理解		
②介護	• 介護の基本 • コミュニケーション技術 • 生活支援技術 • 介護過程		
③こころとからだのしくみ	• 発達と老化の理解 • 認知症の理解 • 障害の理解 • こころとからだのしくみ		
④医療的ケア	• 医療的ケア		
全体傾向の分析			
身に着けておくべき日本の知識			

４．グループで活用したい学習コンテンツ

学習コンテンツ②

提供団体	
テーマ	
種類	
日本語の難しさ	
図表の有無	
その他の特徴など	

教材イメージ
画面キャプチャ

４．グループで活用したい学習コンテンツ

学習コンテンツ①

提供団体	
テーマ	
種類	
日本語の難しさ	
図表の有無	
その他の特徴など	

教材イメージ
画面キャプチャ

4.　決意表明

合格に向けた決意表明

3.　グループ目標の設定

グループ目標	
克服すべき課題	
教材の活用方法	
学習の進め方	
グループ目標の達成に向けて、協力して取り組むこと	

科目「国家試験対策」PBL学習

介護福祉士国家試験対策の学習計画立案

一般社団法人　介護福祉教育コンソーシアム

【指導ガイド】
この教材では、介護福祉士国家試験合格に向けた学習計画を立案します。
従来の知識伝達型の試験対策ではなく、学習者自身が課題を分析し、学習方法を選択できるようになることをねらいとしています。

指導者は知識を教えることを主目的とするのではなく、学習の進め方を支援するファシリテーターとして関わります。
学習者が自分の現状を把握し、グループで協働しながら合格までの道筋を考えられるよう促してください。

この学習では、完成度の高い成果物を作ること自体を目的にはしません。
学習計画を立てるプロセスの中で、どのように考えたか、なぜその方法を選んだかを言語化できるようにすることを重視します。

また、グループワークを基本として進めます。
4〜5名程度でグループを編成し、互いの課題や学習状況を共有しながら計画を作成できるようにしてください。

教材の構成

■テーマ
介護福祉士国家試験対策の学習計画立案

■学習概要
外国人留学生がグループを組み、国家試験の合格にむけた学習計画を検討する。国家試験の出題傾向や各自の学習課題を整理し、介護福祉教育コンソーシアムが保有するeラーニングをはじめとする各種学習コンテンツの利用について検討し、グループで学習計画を立案する。

■学習目標
従来の国家試験対策の実効性を高めるために、本教材の学習を通して主体的に学習を進める姿勢や思考力を強化することを目的とする。

■時間数
12時間（90分×8コマ）

■学習対象者
外国人留学生

【指導ガイド】
この教材は、外国人留学生がグループで国家試験合格に向けた学習計画を立案することを目的としています。

出題傾向の分析と自己課題の整理を結び付けて考えることで、主体的に学習を進める力を養います。
指導にあたっては、「試験対策の方法を教える」のではなく、「どのように学習を進めれば合格に近づくかを学習者自身が考える」ことを重視してください。
学習者が既存の学習コンテンツの特徴を比較し、自分たちに合った活用方法を選択できるよう支援することが重要です。

総時間数は12時間（90分×8コマ）です。
各STEPは独立した活動ではなく、最終的な学習計画の作成に向かって段階的につながる構成になっています。
そのため、各活動の目的を適宜確認し、現在の作業が最終成果物とどのように関係しているかを意識させてください。

対象は外国人留学生ですが、本教材の主眼は日本語力の向上そのものではありません。
国家試験合格に向けて、自分の課題を分析し、学習を設計できるようになることにあります。
必要に応じて日本語理解の支援は行いますが、学習者同士の協働によって解決できる場面を大切にしてください。

教材の構成

STEP1	国家資格について考える	3.0時間
STEP2	苦手な分野を特定する	1.5時間
STEP3	学習コンテンツを調べる	4.5時間
STEP4	学習の計画を立てる	1.5時間
STEP5	学習計画の発表	1.5時間

【指導ガイド】
この教材は、学習計画の立案と発表までを5つのステップで進める構成になっています。

最初に全体の流れを示し、それぞれの活動がどのようにつながっているかを理解させることが重要です。

STEP1では、国家資格を取得する意味と国家試験の出題傾向を整理し、学習の目的を明確にします。
STEP2では、自己分析を通して自分の弱点や学習課題を把握します。
STEP3では、学習コンテンツの特徴を比較し、課題に応じた活用方法を検討します。
STEP4では、グループとしての学習計画を具体的に作成します。
STEP5では、作成した学習計画を発表し、合格に向けた意識を高めます。

指導にあたっては、現在どのステップに取り組んでいるのかを適宜示し、活動の目的を確認しながら進めてください。
学習者が学習の全体像を把握できるようにすることで、各活動の意義を理解しやすくなります。

また、ここで各ステップの時間配分を共有しておくと、学習の見通しを持たせることができます。

STEP1　国家資格について考える

【指導ガイド】
ここからSTEP1に入ります。

STEP1では、国家資格を取得する意味と国家試験の出題傾向を理解し、学習に取り組む目的を明確にすることをねらいとします。
試験対策の具体的な方法に入る前に、「なぜ合格を目指すのか」「合格することで何が変わるのか」を考えさせることが重要です。
学習の目的が明確になることで、その後の活動に対する主体性が高まります。

指導者は、資格取得が将来の働き方や生活にどのような影響を与えるかを具体的にイメージできるよう促してください。
単に在留資格や給与の違いといった制度的な側面だけでなく、役割やキャリアの広がりといった視点にも触れられるよう支援します。

また、STEP1は国家試験の出題傾向を初めて扱う段階でもあります。
ここでは細かな知識の習得を目的とするのではなく、試験問題がどのような力を求めているのかを大まかに捉えさせることを重視してください。

このSTEPで学習の方向性を定めることが、後の自己分析や学習計画の質に大きく影響します。
そのため、活動の意図を丁寧に説明し、表面的な作業にならないように進行することが重要です。

1. 国家資格について考える

■ **STEP1の学習目標**

- 介護福祉士の国家資格取得によって日本での生活がどのように変化するのかを具体的に考えてみましょう。
- さらに、取得した場合と、取得しなかった場合の違いを比較しながら、自分の将来について考えましょう。
- 国家試験の出題傾向や、問題の意図を正確に把握する力を養いましょう 。

■ **STEP1の学習時間**

- 3.0時間（0.5時間、1.5時間、1時間）

■ **STEP1の課題**

1-1　介護福祉士としてのキャリアについて考える（0.5時間）
⇒ ワークシート1-1
1-2　過去問の傾向を調べる（1.5時間）
⇒ ワークシート1-2
1-3　過去問をつかったディスカッション（1時間）
⇒ ワークシート1-3

5

【指導ガイド】
このスライドでは、STEP1で取り組むワークと到達目標を確認します。
最初に学習目標を共有し、このSTEPが「将来像の明確化」と「出題傾向の理解」を目的としていることを押さえてください。

1つ目のワークでは、介護福祉士としてどのように働きたいかを考えます。
資格取得の有無による将来の違いを比較させることで、学習の必要性を自分の言葉で説明できる状態を目指します。
2つ目のワークでは、国家試験の出題傾向を調べます。
ここでは知識の暗記ではなく、問題の形式や問われ方の特徴に気付かせることが重要です。
学習者が「どのような力が求められている試験なのか」を理解できるよう支援してください。
3つ目のワークでは、過去問題を用いたディスカッションを行います。
正解を当てることを目的にするのではなく、根拠を説明する過程を重視します。学習者同士が考え方を共有することで、試験で求められる思考の視点に気付けるように進行してください。

学習時間は合計3時間です。それぞれの活動の目的が異なるため、時間配分を意識しながら進める必要があります。特にディスカッションの時間が不足すると、思考の深まりが得られにくくなるため注意してください。
指導にあたっては、ワークシートを「記入すること」が目的にならないようにしてください。記入内容をグループ内で共有し、考えを言語化するプロセスに重点を置くことが重要です。

5

回答例

1-2. 過去問の傾向を調べる

生成AIも使って、グループで話し合って、まとめましょう。

出題範囲（科目）		主な問題種別	出題の特徴
①人間と社会	• 人間の尊厳と自立 • 人間関係とコミュニケーション • 社会の理解	• 知識確認型 • 正誤組合せ • 短文読解型	• 法制度・社会保障制度の理解を問う • 用語の定義の正確性を重視 • 否定選択問題が多い • 理念と制度目的の整合性を確認
②介護	• 介護の基本 • コミュニケーション技術 • 生活支援技術 • 介護過程	• 事例問題 • 介護過程展開問題 • 優先順位選択 • 組合せ問題	• 長文事例中心 • 最も適切なものを選択 • 尊厳・自立支援視点が前提 • 条件整理と状況判断を要求
③こころとからだのしくみ	• 発達と老化の理解 • 認知症の理解 • 障害の理解 • こころとからだのしくみ	• 医学的基礎知識問題 • 症状原因対応問題 • 事例型問題	• 解剖生理・疾病理解が基礎 • 認知症は頻出 • 因果関係理解を重視 • 専門用語の理解を確認
④医療的ケア	• 医療的ケア	• 手順確認問題 • 禁忌選択問題 • 実施条件確認問題	• 手技の順序確認 • 安全管理重視 • 禁止事項選択が多い • 正確性を要求

全体傾向の分析

- 知識を覚える問題と、事例を読んで考えて答える問題の両方が多い。
- 利用者の尊厳や自立支援を大切にして、状況に合う支援を選ぶ力が必要。
- 医学的知識、ケア等の手順、介護保険等の制度について、しっかり意味を理解することが必要。

【指導ガイド】
このスライドでは、国家試験の出題範囲・問題形式・出題の特徴を整理するワークを行います。
ここでの目的は、個々の知識を覚えることではなく、「どのような力が求められている試験なのか」を理解することです。

まず、4つの出題分野ごとに、どのような内容が問われているのかを確認させます。
その際、科目名を覚えることを目的にするのではなく、それぞれの分野で求められる理解の性質の違いに着目させてください。

次に、問題形式の特徴を整理します。
知識確認型の問題だけでなく、長文事例を読み取って判断する問題が多いことに気付かせることで、必要な学習方法を考える視点につなげます。

さらに、全体傾向の分析を行います。
尊厳や自立支援の視点、因果関係の理解、条件整理の力など、単なる暗記では対応できない試験であることを押さえることが重要です。
必要に応じて、「どのような勉強が必要になりそうか」という問いを投げかけ、STEP2の自己分析につながるようにします。

また、ここでも生成AIを活用することができますが、AIによるまとめをそのまま使用するのではなく、グループで内容を確認し、自分たちの言葉で整理させることが重要です。

7

回答例

1-1. 介護福祉士としてのキャリアについて考える

生成AIも使って、質問①と質問②の答えをグループで話し合って、まとめましょう。

質問① 将来、どんな介護職員になっていたいですか。
どこで、どのような役割を担当していたいですか。

- **リーダーになり、利用者が楽しく毎日を過ごせるようにサポートをしたい。**
- **医療の知識も勉強して、医療的ケアもできる技術の高い介護職になりたい。**
- **自分の国から来る後輩に介護を教える先生のような役割をしたい。**

質問② 日本で介護福祉士の資格をとると、将来の仕事や生活はどう変わるでしょうか。
資格があるときと、ないときのちがいをくらべて考えてみましょう。

（介護福祉士の資格があるとき）
- **在留資格「介護」に変えられて、ずっと日本で働くことができる。**
- **自分の国の家族を日本に呼んで、一緒に住むことができる。**
- **資格手当が出るので、毎月もらえるお金が増える。**

（介護福祉士の資格がないとき）
- **働ける期間が決まっていて、いつか自分の国に帰ることになる。**
- **家族を日本に呼んで住んでもらうことは難しい。**

【指導ガイド】
このスライドでは、学習の出発点として将来像を具体化するワークを行います。国家試験対策を「やらなければならないもの」として捉えるのではなく、「自分の将来につながるもの」として位置付けることが目的です。

まず、「どのような介護職員になりたいか」「どのような場所で、どのような役割を担いたいか」を考えさせます。
可能であれば、勤務形態、担当したい業務、後輩指導、専門性の向上など、役割のイメージまで言語化できるよう促してください。

次に、介護福祉士資格を取得した場合と取得しなかった場合の違いを比較します。在留資格、就労期間、収入、家族との生活など、生活面の変化を具体的に考えさせることで、資格取得の意味を現実的に捉えられるようにします。
指導にあたっては、制度的な説明を長く行う必要はありません。
学習者が自分の経験や将来の希望と結び付けて話せるよう、問いかけを中心に進めてください。

また、このワークでは生成AIの活用を想定しています。将来像を言語化することが難しい学習者に対しては、AIを用いて視点を広げることも有効です。
ただし、AIの回答をそのまま記入させるのではなく、「自分の考えとして納得できる内容か」を確認させることが重要です。
ワークの内容をグループ内で共有する際には、他者の目標を否定せず、それぞれの将来像の違いを認め合う雰囲気をつくってください。
ここで語られた内容は、その後の学習計画の方向性に大きく影響します。

6

回答例

1-3. 過去問をつかったディスカッション

Aさん（76歳、女性、要支援1）は、一人暮らしである。週1回介護予防通所リハビリテーションを利用しながら、近所の友人たちとの麻雀を楽しみに生活している。最近、膝に痛みを感じ、変形性膝関節症（kneeosteoarthritis）と診断された。同時期に友人が入院し、楽しみにしていた麻雀ができなくなった。Aさんは徐々に今後の生活に不安を感じるようになった。ある日、「自宅で暮らし続けたいけど、心配なの…」と介護福祉職に話した。

第36回人間の尊厳と自立（令和5年度）からの出題

Q Aさんに対する介護福祉職の対応として、最も適切なものを1つ選び、その理由を説明してください。

1. 要介護認定の申請を勧める。
2. 友人のお見舞いを勧める。
3. 膝の精密検査を勧める。
4. 別の趣味活動の希望を聞く。
5. 生活に対する思いを聞く。

正解：5．生活に対する思いを聞く

上記の問題について、なぜ【5】が正解なのか、理由を考えてみましょう。
さらに、国家試験受験にあたって身に着けておくべき日本の知識を考えてみましょう。

【5】の対応が求められる理由	身に着けておくべき日本の知識
• 不安な気持ちがあるので、まず何が一番心配なのかを聞くことが大切だから	• 日本人は自分の困っていることをはっきりと言えず、とおまわしに言うことがある
• 「家で暮らしたい」という気持ちを大切にするために本人に気持ちを聞く必要があるから	• 日本では、友達と趣味活動を楽しむことが、健康に過ごすための支えになっている

【指導ガイド】
このスライドでは、過去問題を用いて、正解に至る考え方と根拠を説明するワークを行います。学習者用教材にはあらかじめ正解が示されているため、正誤の判断そのものではなく、「なぜその答えになるのか」を説明できるようにすることを目的とします。
まず、事例を読み取り、利用者の状況、生活背景、気持ちの変化を整理させます。そのうえで、正解の選択肢が適切である理由を、尊厳の保持や自立支援の視点と結び付けて考えさせてください。

次に、他の選択肢がこの場面では適切でない理由を検討します。
「間違っているから」ではなく、「この時点で優先される支援ではない」「利用者理解が不十分である」といった観点で説明できるよう促します。

このワークでは、正解を知っている状態から思考を組み立てることに意味があります。試験対策としてだけでなく、介護過程における判断のプロセスを学ぶ機会であることを意識させてください。また、事例の背景には日本の生活文化や価値観が含まれている点にも着目させます。利用者が不安を直接的に表現しない場合があることや、地域での人間関係や趣味活動が生活の質に影響することなど、事例理解に必要な視点を整理します。ディスカッションでは、学習者同士が根拠を説明し合うことを重視してください。
指導者は結論を示すのではなく、「その理由はどの文章から読み取れるか」「どの視点に基づいた判断か」を問い返すことで思考を深めます。
このワークを通して、国家試験では知識量だけでなく、利用者理解を基盤とした判断力が求められていることを確認します。

8

STEP2　苦手な分野を特定する

9

【指導ガイド】
ここからSTEP2に入ります。
STEP2では、国家試験合格に向けて自分に不足している力を整理し、学習課題を明確にすることをねらいとします。

STEP1で試験の特徴を理解しているため、「どのような力が必要か」と「自分の現状」とを対応させながら考えられるように進めてください。
単に「できないところ」を挙げるのではなく、「合否に影響する課題は何か」という視点で整理することが重要です。

この段階では、学習者が自分の弱点を言語化することに難しさを感じる場合があります。
指導者は、不足している知識量ではなく、読解の速度、設問の意図の把握、事例の整理方法など、学習プロセスの課題にも目を向けさせてください。

また、弱点を個人の問題として捉えるのではなく、グループで共有できる学習課題として扱うことがポイントです。
互いの課題を把握することで、STEP4の学習計画における役割分担や相互支援につながります。

ここでは「できていないこと」を評価するのではなく、「どのようにすれば改善できるか」を考える段階であることを強調してください。
学習者が安心して課題を出せるような雰囲気づくりが重要です。

9

2-1.　自己分析チェックリスト

苦手だと感じる項目にチェックを入れ、苦手分野を把握しましょう。

	質問	✓
1	日本語の読解力（設問文・選択肢の文法、否定表現、因果関係の把握）	□
2	介護専門知識の理解（介護過程、人体・疾病、制度、倫理の基礎と関連付け）	□
3	出題形式・傾向への対応力（過去問ベースの頻出テーマ理解と取捨選択）	□
4	事例問題の処理スキル（条件整理、優先順位判断、設問意図の把握）	□
5	継続的な試験対策学習（反復学習と到達度確認）	□
6	試験事例に出てくる生活背景の理解（一人暮らし、家族関係、在宅介護の一般的前提）	□
7	日本語特有の表現慣習への慣れ（遠回し表現、控えめな訴え、暗黙の前提）	□
8	介護現場で想定される行動様式の理解（利用者・家族・介護職の役割関係）	□

【指導ガイド】
このスライドでは、国家試験対策に必要な力を項目ごとに整理したチェックリストを用いて自己分析を行います。
目的は、漠然とした「苦手意識」を、具体的な学習課題として言語化することです。

各項目について、苦手だと感じる項目にチェックを入れるよう指示します。
学習者が各項目について、できているかどうかを直感的に判断させて構いません。
ここでは正確な自己評価を求めるのではなく、自分の学習の傾向に気付くことを重視します。

特に重要なのは、日本語の読解力、事例問題の処理スキル、出題傾向への対応力といった、学習方法に関わる項目です。
知識量の不足だけに意識が向かないよう、学習プロセスの課題にも目を向けさせてください。

また、「試験事例に出てくる生活背景の理解」や「日本語特有の表現慣習への慣れ」といった項目は、外国人留学生がつまずきやすいポイントです。
これらは努力不足ではなく、学習環境の違いによって生じる課題であることを補足し、安心してチェックできるようにします。

チェックの結果は個人の中だけに留めるのではなく、グループで共有させてください。

11

2.　苦手な分野を特定する

■ **STEP2の学習目標**

- 漢字の習熟度、専門用語の理解、文章を読むスピードなど、学習の壁となっている本当の原因を見つけましょう。
- 生成AIを活用しながら、弱点を克服するプランを考えましょう。

■ **STEP2の学習時間**

- 1.5時間（1.5時間×1コマ）

■ **STEP2の課題**

2-1　自己分析チェックリスト（0.5時間）
⇒ ワークシート2-1
2-2　弱点分析と克服プランの策定（1.0時間）
⇒ ワークシート2-2

10

【指導ガイド】
このスライドでは、STEP2で行うワークの内容と到達目標を確認します。

ここでの目的は、自分の学習課題を具体的にし、その課題に対する克服方法まで考えられるようにすることです。
最初のワークでは、チェックリストを用いて自己分析を行います。このチェックは学習者を評価するためのものではなく、学習の方向性を決めるための材料であることを最初に伝えてください。
できている・できていないを判断することが目的ではなく、「どこに力を入れて学習すべきか」を明確にすることが重要です。

次のワークでは、合否に影響する課題を整理し、その克服方法を検討します。
ここでは抽象的な目標にならないよう、「どの教材を使うか」「どのような方法で学習するか」まで具体化させることを意識してください。

学習時間は1.5時間です。自己分析で時間を使い過ぎると、克服方法の検討が不十分になりやすいため、時間配分に注意が必要です。
指導にあたっては、学習者が「知識が足りない」といった表現だけで終わらないようにしてください。
例えば、「長い文章を読むと内容が整理できない」「否定表現の設問で間違えやすい」など、学習行動レベルで課題を表現できるよう支援します。
また、この段階で出てきた課題は、後のSTEP3で学習コンテンツを選択する際の基準になります。そのため、グループ内で共有し、共通する課題と個別の課題の両方を整理させることが重要です。

10

互いの課題を知ることで、どのような支援ができるかを考える視点が生まれ、STEP4の相互学習につながります。

指導者は、チェックの数の多さや少なさを評価しないように注意してください。
重要なのは、どの項目をどのように改善していくかを次のワークで考えることです。

また、「苦手な分野はない」と答える学習者がいる場合があります。
その際は、自己評価の正誤を指摘するのではなく、STEP1で整理した出題傾向と照らし合わせて考えさせてください。
例えば、「長文事例を時間内に読み切れているか」「否定表現の設問で迷うことがないか」といった、具体的な学習行動の視点で問いかけを行います。
模擬問題や過去問題に取り組んだ際の正答率や解答時間を振り返らせることも有効です。
客観的な学習状況をもとに考えることで、自分の課題に気付きやすくなります。

それでも課題が見つからない場合は、「現在の学習方法をさらに効果的にするために改善できる点は何か」という視点で整理させてください。
強みを伸ばす計画として捉えることで、学習への意欲を維持することができます。

11

回答例

2-2.　弱点分析と克服プランの策定

生成AIも使って、質問①と質問②の答えをグループで話し合って、まとめましょう。

質問①	合否に大きく影響する弱点や課題は何ですか？
（日本語の読解力） • 問題の文が長いと読むのが大変。とくに「～ではないもの」をえらぶ問題で、間違えやすい。 （事例問題の処理スキル） • 事例の要点整理や、問題が何を聞いているかを理解することが難しい。 （日本語特有の表現慣習） • 利用者の気持ちがはっきり書かれていない表現の読み取りが難しい。	
質問②	**弱点を克服するための具体的な方法を考えてみましょう。**
（日本語の読解力） • 文章を短く分けて説明してくれる教材を使って、1つずつ意味を確認しながら読む練習をする。 （事例問題の処理スキル） • 事例の文章を分けて読み、何が書いてあるのかを一つずつ整理する練習をする。 （日本語特有の表現慣習） • 解説を読みながら、「この人はどんな気持ちだったのか」を考えて理解していく。	

【指導ガイド】
このスライドでは、チェックリストで整理した課題の中から、合否に大きく影響するものを選び、具体的な克服方法を検討するワークを行います。
ここで重要なのは、「できていないこと」を挙げるだけで終わらせず、「どのように改善するか」まで言語化することです。

まず、国家試験の合格に向けて優先度の高い課題は何かを考えさせます。
すべての課題に取り組もうとするのではなく、得点に直結しやすい課題に焦点を当てるように促してください。
次に、その課題を克服するための学習方法を具体的に検討します。
使用する教材、学習の進め方、学習の頻度など、実行可能なレベルまで落とし込むことがポイントです。「頑張る」「たくさん勉強する」といった抽象的な表現にならないよう支援してください。

ここでも生成AIの活用が考えられますが、提案された方法をそのまま採用するのではなく、自分たちの学習環境で実行できるかを基準に検討させることが重要です。また、個人の課題とグループで共有できる課題を整理させることで、STEP4の学習計画につながります。
例えば、読解が苦手な学習者が多い場合は、グループで長文読解の時間を設定するなど、相互学習の視点を持たせてください。
指導者は、課題の適切さよりも、課題と学習方法の対応関係に着目して助言します。
「その方法で本当に改善できるか」「どのくらいの期間で効果が出そうか」といった問いかけを行うことで、実現可能な計画に近づけることができます。

3.　学習コンテンツを調べる

■ **STE3の学習目標**
- どのような学習コンテンツ（教科書や問題集、eラーニング教材など）があるのか調べてみましょう。
- 実際にコンテンツを使ってみて、使いやすさを確かめてみましょう。
- どの教材をどのように活用するか、グループで考えてみましょう。

■ **STEP3の学習時間**
- 4.5時間（1.5時間×3コマ）

■ **STEP3の課題**

3-1　学習コンテンツの把握・確認（3時間）
⇒ ワークシート3-1
3-2　課題の整理／活用方法を考える（1.5時間）
⇒ ワークシート3-2

【指導ガイド】
このスライドでは、STEP3で実施するワークの内容と進め方を確認します。
目的は、学習コンテンツの特徴を把握し、自分たちの課題に応じた活用方法を具体的に考えられるようにすることです。

最初のワークでは、複数の学習コンテンツについて、学習方法、難易度、日本語の量、図表の有無、学習機能などの観点から整理します。
ここでは教材の内容を詳しく理解する必要はありません。
「どのような学習者に向いているか」「どのような課題の解決に使えそうか」という視点で確認させてください。

次のワークでは、STEP2で整理した課題と学習コンテンツを対応させ、具体的な活用方法を検討します。
「どの教材を使うか」だけでなく、「どのような順番で使うか」「どのように学習時間を配分するか」まで考えさせることが重要です。

学習時間は4.5時間です。教材を調べて確認する時間と、グループで検討する時間のバランスを意識して進行してください。調査に時間を使い過ぎると、活用方法の検討が不十分になるため注意が必要です。

指導にあたっては、教材の機能の多さや見やすさだけで判断しないようにしてください。「自分たちの課題を解決できるか」という基準で整理できるよう問いかけを行います。また、このSTEPで検討した内容がそのままSTEP4の学習計画の根拠になります。

STEP3　学習コンテンツを調べる

【指導ガイド】
ここからSTEP3に入ります。
STEP3では、自分たちの学習課題を解決するために、どの学習コンテンツをどのように活用するかを検討します。

ここでのポイントは、「教材の内容を知ること」ではなく、「課題に応じて学習手段を選択する力」を身に付けることです。
STEP2で整理した課題と結び付けながら、どの教材が有効かを考えさせてください。

学習者は、これまで与えられた教材をそのまま使用する学習経験が多いため、教材を比較して選ぶという発想に慣れていない場合があります。
指導者は、教材の特徴と学習課題との対応関係に着目させるよう支援してください。

また、実際に教材を使用してみる時間を確保することが重要です。
説明だけで判断するのではなく、使いやすさ、日本語の難易度、学習の進めやすさなどを体験的に確認させてください。
このSTEPでは、教材の評価が目的にならないよう注意してください。
「良い教材かどうか」ではなく、「自分たちの課題に合っているかどうか」という視点で整理させることが重要です。

グループで検討する際には、個人の課題に対応する教材と、グループで共通して活用できる教材の両方を整理させます。

回答例

3-1.　学習コンテンツの把握・確認

教材名①：介護福祉士基礎学習ｅラーニング

提供団体	介護福祉教育コンソーシアム
テーマ	介護福祉士国家試験対策 基礎学習/過去問題/模擬試験による総合学習
種類	WEBサイトで使える教材、スマホやパソコンで見られる
日本語の難しさ	国家試験と同じぐらいの難しさ、ルビはついている
図表の有無	基本的になし
その他の特徴など	• 正解できなかった/わからなかった問題を再度挑戦できる • 正答率が表示される • ルビのオンオフを変更できる • 学習の達成率が表示される



【指導ガイド】
このスライドでは、学習コンテンツの特徴を整理表にまとめるワークを行います。

目的は、教材の情報を収集することではなく、STEP2で整理した学習課題と対応させながら、活用の方向性を考えることです。
整理する項目は、提供団体、テーマ、教材の種類、日本語の難易度、図表の有無、その他の特徴などです。
それぞれの項目について、「自分たちの学習にどのように影響するか」という視点で記入させてください。

特に、日本語の難易度や学習機能は、学習の進めやすさに大きく関わります。
例えば、ルビの有無や解き直し機能、達成度の表示といった要素が、どのような学習課題の解決につながるかを考えさせます。
指導にあたっては、すべての項目を埋めることを目的にしないようにしてください。重要なのは、教材の特徴を自分たちの学習課題と結び付けて理解することです。

また、実際に教材を操作した感想を反映させることも大切です。
見た目の情報だけで判断するのではなく、「学習で使ってみてどうだったか」という視点を共有させてください。
ここで整理した内容は、次のワークで学習コンテンツの活用方法を検討する際の根拠になります。グループ内で共通認識を持てるよう、記入した内容を説明し合う時間を確保してください。

回答例

3-1.　学習コンテンツの把握・確認

教材名②：**外国人介護職のための介護・日本語教育演習テキスト**

提供団体	介護福祉教育コンソーシアム
テーマ	介護福祉士国家試験対策 事例問題を題材とした長文読解学習
種類	WEBサイトで使える教材、スマホやパソコンで見られる
日本語の難しさ	日本語N3レベルで書かれていて、読みやすい
図表の有無	事例説明のページにイラストがある
その他の特徴など	• 国家試験問題以外にも問題があり、事例の内容を理解しやすい • 講義映像があり、読み方がわからない漢字があっても聞きやすい • わからない単語を調べて書き出すワークがある



【指導ガイド】
このスライドでは、学習コンテンツの特徴を整理表にまとめるワークを行います。

目的は、教材の情報を収集することではなく、STEP2で整理した学習課題と対応させながら、活用の方向性を考えることです。
整理する項目は、提供団体、テーマ、教材の種類、日本語の難易度、図表の有無、その他の特徴などです。
それぞれの項目について、「自分たちの学習にどのように影響するか」という視点で記入させてください。

特に、日本語の難易度や学習機能は、学習の進めやすさに大きく関わります。
例えば、ルビの有無や解き直し機能、達成度の表示といった要素が、どのような学習課題の解決につながるかを考えさせます。

指導にあたっては、すべての項目を埋めることを目的にしないようにしてください。
重要なのは、教材の特徴を自分たちの学習課題と結び付けて理解することです。

また、実際に教材を操作した感想を反映させることも大切です。
見た目の情報だけで判断するのではなく、「学習で使ってみてどうだったか」という視点を共有させてください。

参考情報　学習コンテンツ紹介②

外国人介護職のための介護・日本語教育演習テキスト



- **提供団体**
  介護福祉教育コンソーシアム
- **テーマ**
  介護福祉士国家試験対策
  事例問題を題材とした長文読解学習
- **利用環境**
  WEBサイト形式のeラーニング教材スマホやパソコンを使って、講義動画・PPT・確認問題をいつでもどこでも利用可能
- **概要**
  介護福祉士国家試験の事例問題を題材とし、長文を短い文に分解しながら語彙理解・文構造の把握・設問意図の読解を段階的に学習する教材。やさしい日本語を用いて読解のプロセスを可視化し、外国人留学生がつまずきやすいポイントを演習形式で整理している。

【指導ガイド】
このスライドは、参考情報として「外国人介護職のための介護・日本語教育演習テキスト」の教材概要を示しています。
ここでは教材の内容を詳しく学習することを目的とするのではなく、どのような特徴を持つ学習コンテンツであるかを把握させます。

この教材は、国家試験の事例問題をもとに、長文を短い文に分けながら読解のプロセスを段階的に整理できる構成になっています。
語彙理解、文構造の把握、設問意図の読み取りを可視化しながら学習できるため、事例問題の処理スキルに課題がある学習者に適しています。

また、講義動画を用いて学習できるため、漢字の読みや文章理解に不安がある場合でも取り組みやすい点が特徴です。
イラストが用いられていることにより、事例の場面をイメージしながら読み進めることができます。

一方で、知識問題の演習量を確保する教材ではないため、基礎知識の定着を目的とした学習には別の教材と組み合わせて活用する必要があります。
そのため、この教材をワークで取り扱う学習者がいる場合は、「どのような課題を持つ学習者に適しているか」「どの学習場面で活用すると効果的か」という視点で整理させてください。

参考情報　学習コンテンツ紹介①

介護福祉士基礎学習ｅラーニング





- **提供団体**
  介護福祉教育コンソーシアム
- **テーマ**
  介護福祉士国家試験対策
  基礎学習/過去問題/模擬試験による総合学習
- **利用環境**
  WEBサイト形式の学習コンテンツ
  スマホやパソコンを使って、いつでもどこでも利用が可能
- **概要**
  eラーニングコンテンツには、国家試験過去問題の詳細な解答・解説、国家試験出題基準に準拠した模擬問題、基礎学習問題4200問が搭載されている。

【指導ガイド】
このスライドは、参考情報として「介護福祉士基礎学習eラーニング」の教材概要を示しています。
ここでは教材の内容を詳しく理解することを目的とするのではなく、どのような特徴を持つ学習コンテンツであるかを把握させます。

この教材は、過去問題、模擬問題、基礎学習問題が体系的に用意されており、知識の定着や反復学習に適しています。
正答率や学習の達成度が可視化されるため、学習の進捗を管理しやすい点も特徴です。

一方で、図表が少なく、日本語の難易度が国家試験と同程度であるため、読解に課題がある学習者にとっては負担が大きくなる場合があります。
そのため、この教材をワークで取り扱う学習者がいる場合は、「どのような課題を持つ学習者に適しているか」「どのタイミングで活用するのが効果的か」という視点で整理させてください。

回答例

3-2.　課題の整理　／　活用方法を考える

学習課題	コンテンツ名	①学習を進めるうえで、役に立った特徴 ②使いにくいと感じた点、気をつけるべき点
（事例問題の処理スキル） 事例の要点整理や、問題が何を聞いているかを理解することが難しい。	外国人介護職のための介護・日本語教育演習テキスト	① 事例がこまかく分かれている
		② すぐに解説を読まずに、考える時間を作るように気を付ける
（日本語特有の表現慣習） 利用者の気持ちがはっきり書かれていない表現の読み取りが難しい。	外国人介護職のための介護・日本語教育演習テキスト	① 解説の中で利用者の気持ちについて書かれている
		② 解説を読んでもわからないときはそのままにしないようにする
（日本語の読解力） 長い文章や「～ではないもの」を選ぶ問題で、読み間違えが起こりやすい。	介護福祉士基礎学習ｅラーニング	① 問題がたくさんあり、いろんなパターンの問題を解ける
		② 間違えた問題は見直すことが必要

【指導ガイド】
このスライドでは、STEP2で整理した学習課題と学習コンテンツの特徴を対応させ、具体的な活用方法を検討するワークを行います。
ここでの目的は、教材を選ぶことではなく、「課題をどのような学習方法で解決するか」を言語化することです。

まず、それぞれの課題に対して、どの教材のどのような特徴が役に立つかを整理させます。
次に、活用する際に注意すべき点についても整理します。
例えば、すぐに解説を見てしまうと読解の力が身に付かないことや、反復学習を行わないと知識が定着しないことなど、学習の進め方に関わる視点を持たせることが重要です。

指導にあたっては、「この教材が良い」と結論付けるのではなく、「自分たちの課題に対してどのように使うか」というプロセスを重視してください。
同じ教材であっても、課題によって活用方法が異なることに気付かせることがポイントです。
また、個人の課題への対応と、グループで共通して取り組む内容の両方を整理させます。これにより、STEP4での学習計画において、個別学習と相互学習の役割分担を考えやすくなります。

ここで整理した内容は、学習計画の根拠になります。そのため、「なぜその教材を使うのか」「なぜその方法で学習するのか」を説明できる状態にしておくことが重要です。

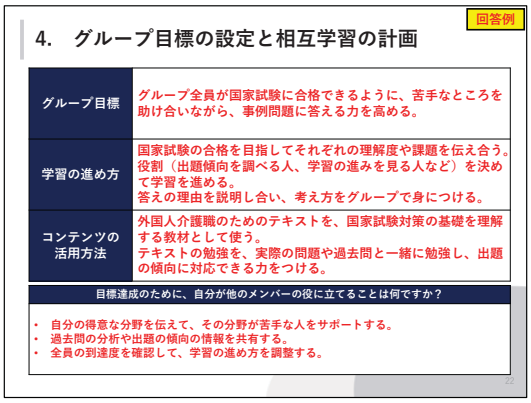


【指導ガイド】
ここからSTEP4に入ります。

STEP4では、これまでに整理してきた将来像、出題傾向、学習課題、学習コンテンツの活用方法をもとに、グループとしての学習計画を具体化します。
このSTEPの目的は、計画表を完成させることではなく、「合格に向けてどのように学習を進めるか」をグループで合意形成することです。
そのため、個人の意見を持ち寄り、根拠をもとに話し合うプロセスを重視してください。

まず、グループとしての目標を設定します。
単に「合格する」とするのではなく、どのような力を身に付けることで合格に近づくのかまで言語化させることが重要です。
次に、学習の進め方や教材の活用方法を具体的に決めます。
STEP3で整理した内容をもとに、個別学習の時間とグループ学習の時間の使い分け、学習の順序、到達度の確認方法などを検討させてください。

また、相互学習の視点を取り入れることが重要です。それぞれの得意分野を共有し、「自分がグループにどのように貢献できるか」を考えさせます。
ここでの役割分担は、作業の分担ではなく、学習支援の視点で設定するようにしてください。
指導にあたっては、計画の実現可能性に着目して助言します。
学習時間、学習環境、実習や他科目との兼ね合いを踏まえ、無理のない計画になっているかを確認させることが重要です。

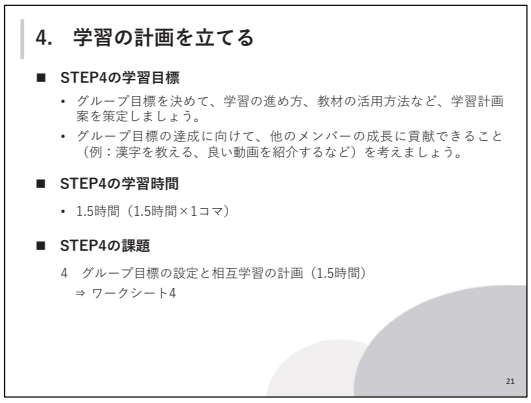


【指導ガイド】
このスライドは、学習計画の記入例をもとに、グループでどのように内容を具体化していくかの参考に活用してください。どのような視点で計画を立てればよいかを理解させることがねらいです。

まず、グループ目標については、「全員で合格する」という結果だけでなく、「事例問題に対応できる力を高める」など、身に付ける力の視点で設定されている点に着目させてください。
学習の方向性が明確になっているかを確認することが重要です。

学習の進め方では、理解度や課題を共有したうえで役割を設定している点が示されています。ここでの役割は作業分担ではなく、学習を支えるための役割であることを押さえてください。互いの得意分野を生かしながら学習を進めるという視点を持たせることがポイントです。
教材の活用方法については、基礎理解のための教材と、実際の問題演習を組み合わせている点に着目させます。STEP3で整理した内容が計画に反映されているかを確認するよう促してください。

また、「自分がグループにどのように貢献できるか」という項目は、相互学習を成立させるうえで重要です。得意分野の共有、学習状況の確認、情報提供など、具体的な行動として表現できるよう支援してください。
指導にあたっては、この記入例をそのまま模倣させるのではなく、グループの実態に合わせて内容を検討させることが大切です。
あくまで計画作成の視点を理解するための資料として活用してください。



【指導ガイド】
このスライドでは、グループで学習計画を作成するワークの進め方と到達目標を確認します。ここでの目的は、これまでのSTEPで整理してきた内容を根拠として、実行可能な学習計画を作成することです。
まず、グループ目標を設定します。
「国家試験に合格する」という結果だけでなく、「どのような力を身に付けることを目標とするのか」まで具体的に言語化させてください。
STEP1からSTEP3までの内容と結び付いているかを確認することが重要です。

次に、学習の進め方を検討します。それぞれの理解度や課題を共有したうえで、どの順序で学習を進めるか、どのように到達度を確認するかを具体的に決めさせます。定期的に振り返りの機会を設けるなど、学習を継続するための仕組みを計画に含めるよう促してください。
教材の活用方法については、STEP3で整理した内容をもとに、どの教材をどの場面で使用するのかを明確にします。また、グループの目標達成に向けて、自分がどのように貢献できるかを考えさせます。ここでの役割は作業分担ではなく、学習支援の視点で設定するようにしてください。出題傾向をまとめる、学習の進み具合を確認する、理解が難しい内容を説明するなど、互いの学習を支える役割を意識させます。

学習時間は1.5時間です。話し合いに時間を使い過ぎて計画の具体化が不十分にならないよう、途中で進捗を確認することが必要です。指導にあたっては、計画の根拠が説明できているかに着目してください。「なぜこの教材を使うのか」と問いかけを行うことで、学習計画の質を高めることができます。



【指導ガイド】
ここからSTEP5に入ります。STEP5では、グループで作成した学習計画を発表し、合格に向けた学習の方向性を全体で共有します。

このSTEPの目的は、発表資料を完成させることではなく、自分たちの学習計画の根拠を説明できるようにすることです。STEP1からSTEP4までの内容がどのようにつながっているかを意識しながら発表できるよう促してください。

発表を通して、他のグループの計画を知ることも重要な学習になります。
学習課題の捉え方や教材の活用方法の違いに気付き、自分たちの計画を見直す視点を持たせてください。

また、このSTEPは学習計画を対外的に評価する場ではありません。
合格に向けて取り組む意思を共有し、学習への動機付けを高める場として位置付けることが重要です。

指導にあたっては、発表の形式や資料の完成度よりも、計画の内容とその根拠に着目してください。「なぜこの目標にしたのか」「なぜこの学習方法を選んだのか」といった点が説明できているかを確認します。

発表後には、可能であれば他のグループの良かった点や参考になる点を共有する時間を設けてください。相互に学び合うことで、学習計画を実行していく意識を高めることができます。

5. 学習計画の発表

■ **STEP5の学習目標**

- STEP1～STEP 5 で整理した内容をもとに、学習計画をまとめ、発表できる形に仕上げましょう。
- 「これから頑張るぞ！」という決意を発表し、仲間と協力して全員で合格する意識を高めましょう。

■ **STEP5の学習時間**

- 1.5時間（1.5時間×1コマ）

■ **STEP5の課題**

5-1 「発表資料」介護福祉士国家試験　合格に向けた学習計画（1.0時間）
⇒ ワークシート5－1
5-2 各グループで代表者を決め、全体に発表する。（0.5時間）

24

【指導ガイド】
このスライドでは、発表に向けたワークの進め方と到達目標を確認します。目的は、これまでに作成してきた学習計画を発表できる形にまとめ、合格に向けた行動につなげることです。

最初のワークでは、発表資料を作成します。STEP1からSTEP4までの内容を整理し、将来の目標、出題傾向、学習課題、学習コンテンツの活用方法、グループ目標が一貫した計画として示されているかを確認させてください。

資料作成では、情報量の多さよりも、学習計画の根拠が分かる構成になっているかを重視します。「どの課題に対して」「どの教材を使い」「どのように学習するのか」という対応関係が明確になっていることが重要です。

次に、グループ内で発表者を決め、発表の準備を行います。
一部の学習者だけが説明するのではなく、全員が計画の内容を理解し、必要に応じて補足できる状態にしておくことを意識させてください。

学習時間は1.5時間です。資料作成に時間を使い過ぎると発表練習の時間が不足するため、途中で進捗を確認し、時間配分を調整してください。

指導にあたっては、発表技術の指導よりも、計画の内容とその根拠の確認に重点を置きます。発表を通して、自分たちの学習の進め方を再確認し、実行への意欲を高めることができるよう支援してください。

5-1 **発表資料**

介護福祉士国家試験
合格に向けた学習計画

（グループ名）

【指導ガイド】
このスライドは、グループの学習計画を発表するための表紙にあたります。

グループ名を記載し、「介護福祉士国家試験合格に向けた学習計画」を発表する場であることを明確にします。
表紙は評価の対象ではありませんが、発表の目的と位置付けを全体で共有する役割があります。

ここで改めて、発表が成果物の完成度を競う場ではなく、これまでの学習プロセスを根拠とともに説明する場であることを確認してください。
また、発表に向けての意識を切り替えるタイミングでもあります。

「自分たちの計画を他者に伝える」という視点を持たせることで、計画の内容を再整理する機会になります。
指導にあたっては、発表資料の見た目ではなく、発表内容の一貫性と根拠に着目することを事前に伝えておくと、その後の準備が進めやすくなります。

1. 将来の目標

（1）将来、どんな介護職員になっていたいか

・
・
・
・
・

（2）国家資格を取得することが、自分の将来の働き方や生活に与える影響

・
・
・
・
・

【指導ガイド】
このスライドでは、どのような介護職員になりたいか、資格取得によって働き方や生活がどのように変化するかを示します。

STEP1で整理した内容が、学習計画の出発点として位置付けられているかを確認してください。
将来像については、勤務場所や役割、身に付けたい専門性などが具体的に示されていることが望ましいです。

将来の姿が明確であるほど、「なぜ学習するのか」という目的がはっきりし、その後の計画とのつながりが強くなります。
また、資格取得による変化については、在留資格や収入といった制度的な側面だけでなく、キャリア形成や責任の範囲の広がりなど、職業人としての成長の視点が含まれているかにも着目してください。

指導にあたっては、単なる目標の提示にならないよう、「この目標を実現するためにどのような力が必要か」という問いかけを行うことで、次のスライドとのつながりを意識させます。

2． 国家試験の出題傾向

出題範囲（科目）		主な問題種別	出題の特徴
①人間と社会	・人間の尊厳と自立 ・人間関係とコミュニケーション ・社会の理解		
②介護	・介護の基本 ・コミュニケーション技術 ・生活支援技術 ・介護過程		
③こころとからだのしくみ	・発達と老化の理解 ・認知症の理解 ・障害の理解 ・こころとからだのしくみ		
④医療的ケア	・医療的ケア		
全体傾向の分析			
身に着けておくべき日本の知識			

【指導ガイド】
ここでは、国家試験の出題分野、問題形式、出題の特徴をもとに、どのような力が求められているかを整理します。

科目名や出題範囲を並べるだけでなく、「知識問題と事例問題の両方への対応が必要であること」「尊厳や自立支援の視点が前提になっていること」などが示されているかを確認してください。
また、試験で求められる力を「読解力」「条件整理の力」「根拠をもとに判断する力」といった形で言語化できているかが重要です。

この内容が弱点分析の根拠となるため、STEP2とのつながりが見える構成になっているかに着目します。
指導にあたっては、試験の特徴を説明するだけで終わらせず、「この特徴に対応するためにはどのような学習が必要になるか」という視点で発表できているかを確認してください。

3．弱点の分析

国家試験の合否に向けて対策が必要な課題

.
.
.
.
.

【指導ガイド】
このスライドでは、国家試験の特徴を踏まえたうえで、自分たちの課題が整理されているかを確認します。
課題は、「知識が足りない」といった抽象的な表現ではなく、「長文事例を読むのに時間がかかる」「設問の意図を読み違えることがある」など、学習行動のレベルで示されていることが望ましいです。

また、課題が出題傾向と対応しているかを確認してください。
試験で求められる力との関係が説明できている場合、学習計画の根拠が明確になります。

個人の課題とグループに共通する課題が整理されているかも重要な観点です。
共通する課題が明確になることで、グループ学習の方向性が定まります。

指導にあたっては、課題の多さや少なさではなく、「課題をどのように捉えているか」「改善の方向性が見えているか」に着目してください。

4．グループで活用したい学習コンテンツ

学習コンテンツ①

提供団体	
テーマ	
種類	
日本語の難しさ	
図表の有無	
その他の特徴など	

教材イメージ
画面キャプチャ

【指導ガイド】
このスライドでは、選択した教材の特徴と活用方法が、学習課題と対応しているかを確認します。

教材の紹介になっていないかに注意し、「どの課題に対してどのように使うのか」が具体的に示されているかに着目してください。
複数の教材を使用する場合は、それぞれの役割の違いが整理されていることが重要です。
例えば、基礎知識の定着のための教材、読解力を高めるための教材、問題演習のための教材といった使い分けが明確になっているかを確認します。

また、個別学習とグループ学習のどちらで活用するのか、どのタイミングで使用するのかが示されていると、計画の実現性が高まります。
指導にあたっては、「なぜこの教材を選んだのか」「他の教材ではなくこの教材である理由は何か」を問いかけることで、活用方法の根拠を明確にさせてください。

4．グループで活用したい学習コンテンツ

学習コンテンツ②

提供団体	
テーマ	
種類	
日本語の難しさ	
図表の有無	
その他の特徴など	

教材イメージ
画面キャプチャ

【指導ガイド】
このスライドでは、選択した教材の特徴と活用方法が、学習課題と対応しているかを確認します。

教材の紹介になっていないかに注意し、「どの課題に対してどのように使うのか」が具体的に示されているかに着目してください。
複数の教材を使用する場合は、それぞれの役割の違いが整理されていることが重要です。
例えば、基礎知識の定着のための教材、読解力を高めるための教材、問題演習のための教材といった使い分けが明確になっているかを確認します。

また、個別学習とグループ学習のどちらで活用するのか、どのタイミングで使用するのかが示されていると、計画の実現性が高まります。
指導にあたっては、「なぜこの教材を選んだのか」「他の教材ではなくこの教材である理由は何か」を問いかけることで、活用方法の根拠を明確にさせてください。

5．グループ目標の設定

グループ目標	
克服すべき課題	
教材の活用方法	
学習の進め方	
グループ目標の達成に向けて、協力して取り組むこと	

【指導ガイド】
ここでは、グループとしてどのように学習を進めていくかを示します。
目標がSTEP1からSTEP3までの内容を踏まえて設定されているかを確認してください。

学習の進め方については、学習の順序、到達度の確認方法、振り返りのタイミングなどが含まれていることが望ましいです。
継続して取り組める仕組みになっているかが重要な観点です。

役割については、作業分担ではなく、相互学習を成立させるための役割になっているかを確認します。
得意分野の共有、問題の解説、学習状況の確認など、学習を支える行動として具体的に示されていることが重要です。

また、学習計画が現実的な時間配分になっているか、他の授業や実習との両立が可能かといった実行可能性の視点でも確認してください。



【指導ガイド】
最後に、学習計画をどのように実行していくかをグループとして表明します。

ここでは、形式的なまとめではなく、合格に向けてどのように取り組むかが自分たちの言葉で示されていることが重要です。
これまでに立てた計画を実行していくために、どのような姿勢で学習に取り組むのか、グループとしてどのように支え合うのかが表現されているかを確認してください。

また、このスライドは学習の動機付けを高める役割を持っています。
発表後の学習行動につながる内容になっているかに着目します。

発表の最後に位置付けられているため、聞き手が「このグループはどのように学習を進めていくのか」を具体的にイメージできる内容になっていることが望ましいです。

32

４．文化理解支援 PBL

教材・指導ガイド

教材の構成

■テーマ

介護現場で円滑に共生するための文化理解

■学習概要

介護現場の事例を基に、留学生と日本人学生が共に、日本で働く上で必要な文化や生活習慣、考え方を整理し、相互理解を深める学び方を検討する。

■学習目標

- 日本の介護観・生活文化への理解を深め、多文化共生力を育成する。
- PBLや異文化比較の実践活動を通じ、共感力と異文化対応力を高める。

■時間数

12時間（90分×8コマ）

■学習対象者

外国人留学生、日本人学生

2

科目「文化理解支援」PBL学習

介護現場で円滑に共生するための文化理解

一般社団法人　介護福祉教育コンソーシアム

STEP1　事例から「違い」の原因を考える

4

教材の構成

STEP1	事例から「違い」の原因を考える	3.0時間
STEP2	背景にある文化・習慣を深掘りする	1.5時間
STEP3	相互理解のためのポイントを整理する	3.0時間
STEP4	具体的な学習計画・行動計画を立てる	3.0時間
STEP5	学習計画の発表	1.5時間

3

1. 事例から「違い」の原因を考える

■ **STEP1の学習目標**

- 事例（介護現場で実際に起こりうる認識のズレ）を検討し、認識のズレが生じる原因について、考えてみましょう。

■ **STEP1の学習時間**

- 3.0時間（1.5時間×2コマ）

■ **STEP1の課題**

1-1【事例①】　事例について考える(1)（45分）
⇒ ワークシート1-1
1-2【事例②】　事例について考える(2)（45分）
⇒ ワークシート1-2
1-3【事例③】　事例について考える(3)（45分）
⇒ ワークシート1-3
1-4　認識の違いから生じる「ズレ」について考える（45分）
⇒ ワークシート1-4

5

1-1.【事例①】事例について考える(1)



介護福祉士を目指すAさんは、勉強を続けながら現場でアルバイトをすることになりました。ある日、先輩職員から「利用者様の部屋、きれいにしておいてくださいね」と声をかけられました。Aさんは「はい！」と元気よく応えて、さっそく作業にとりかかりました。

しばらくして先輩職員が部屋を確認すると、テーブルの上はそのままで、ベッドのシーツにはしわが残っていました。先輩職員は「まだ終わっていないんですか？」と少し強い口調で注意しました。「掃除は終わりました。」Aさんは一生懸命に掃除をして、ベッドも整えたのに、なぜ注意されたのか分からず戸惑ってしまいました。

この事例について、生成AIを活用し、以下の質問をグループで考えてみましょう。

Aさんはどうして「終わった」と考えていたのでしょうか。	
先輩職員は、なぜ「まだ終わっていない」と判断したのでしょうか。	
このような認識のズレは、なぜ起こったのでしょうか。	

6

1-2.【事例②】事例について考える(2)



介護施設でアルバイトを始めたBさんは、アルバイトは初めてで、もちろん介護の仕事も経験はありません。

ある日、Bさんは先輩職員から「食事のあと、利用者様の様子を見ておいてください。」と声をかけられました。しばらくしてから、先輩職員が確認したところ、ある利用者様の姿勢が崩れ、咳き込んでいることに気づきました。机の上には食べ残しが残ったままです。先輩職員は「様子を見ておいてって頼んだでしょ！？どうしてちゃんと報告してくれなかったの？」とBさんを注意しました。

Bさんは言われた通り様子を見ていたつもりだったため、なぜ注意されたのか理解できず戸惑ってしまいました。

この事例について、生成AIを活用し、以下の質問をグループで考えてみましょう。

Bさんは、「様子を見る」とは何をすることだと思っていましたか。	
先輩職員は、「様子を見る」に何を含めていましたか。	
このような認識のズレは、なぜ起こったのでしょうか。	

7

1-3.【事例③】事例について考える(3)



介護施設でアルバイトをしているCさんは、相手の気持ちを尊重することを大切にしたいと考えていました。

ある日、休憩時間に利用者様から「お腹がすいたからお菓子を食べたい。」と声をかけられました。Cさんが、近くにあったお菓子を渡すと、利用者様は「ありがとう」と言って、嬉しそうに食べ始めました。すると、それを見た職員が慌てて駆け寄って、お菓子を取り上げ、「勝手な事をしないでください！」と厳しい口調でCさんを注意しました。

Cさんは「本人が食べたいと言っていたので、良いことをしたと思っていたのに。なぜ怒られたのか分からない。」と戸惑っていました。

この事例について、生成AIを活用し、以下の質問をグループで考えてみましょう。

Cさんは、なぜお菓子を渡してもよいと思ったのでしょうか。	
職員は、なぜCさんを注意したのでしょうか。	
このような認識のズレは、なぜ起こったのでしょうか。	

8

1-4.　認識の違いから生じる「ズレ」について考える

生成AIを活用し、質問①、質問②についてグループで考えてみましょう。

質問①	事例のような「認識のズレ」はなぜ起こるのでしょう。生成AIを活用し、考えられる原因を、書き出してみましょう。
質問②	これまでに、自分の言ったことや行動が、相手に違う意味で伝わってしまった経験はありますか。グループで共有してみましょう。

STEP2　背景にある文化・習慣を深掘りする

2.　背景にある文化・習慣を深掘りする

■ **STEP2の学習目標**

- 「認識のズレ」の背景にはどのような事があるか、国や文化の違いによる「生活習慣」「大切にしたいこと（価値観）」「マナー」など、考え方の違いについて考えてみましょう。

■ **STEP2の学習時間**

- 1.5時間（1.5時間×1コマ）

■ **STEP2の課題**

2-1　認識のズレが起きる場面を考える（45分）
⇒ ワークシート2-1
2-2　なぜ認識のズレが起きやすいのかを考える（45分）
⇒ ワークシート2-2

2-1.　認識のズレが起きる場面を考える

人と人のコミュニケーションでは、受け取り方が異なることで、認識のズレが起こることがあります。まず、認識のズレが起きるのはどのようなときでしょうか。生成AIも活用して、できるだけたくさん挙げてみましょう。

例）指示があいまいなとき	例）本音をはっきり言わないとき

この中で、育った国や慣れ親しんだ言語、文化、生まれた世代などが異なる人が、同じ場所で働いたり生活したりするとき、特に認識のズレが起きやすそうだと思うものはどれですか。３つ選びましょう。

①	
②	
③	

STEP3　相互理解のためのポイントを整理する

14

2-2.　なぜ認識のズレが起きやすいのかを考える

2-1で選んだ３つについて、なぜそのような場面で認識のズレが起きやすいのか、生成AIを活用して、具体的に考えましょう。

	2-1で選んだ場面	なぜ起きやすいと思うか	背景にある違い （国・言語・文化・世代など）
①			
②			
③			

13

3-1.　認識のズレを防ぐための心がけを整理する

コミュニケーションの認識のズレを減らすためには、どのような心がけを持つことが大切でしょうか。生成AIを活用し、伝える側、受け取る側のそれぞれの立場で考えてみましょう。

立場	必要な心がけ
自分が伝える側になったとき	
自分が受け取る側になったとき	

16

3.　相互理解のためのポイントを整理する

■ **STEP3の学習目標**

- STEP2で整理した「認識のズレ」が起きやすい場面を踏まえて、共に働くチームの一員として、どのような心がけと具体的行動が必要か整理してみましょう。

■ **STEP3の学習時間**

- 3.0時間（1.5時間×2コマ）

■ **STEP3の課題**

3-1　認識のズレを防ぐための心がけを整理する（1.5時間）
⇒ ワークシート3-1
3-2　認識のズレを防ぐための具体的な言動を考える（1.5時間）
⇒ ワークシート3-2

15

STEP4　具体的な学習計画・行動計画を立てる

18

3-2.　認識のズレを防ぐための具体的な言動を考える

STEP2で取り上げた３つの場面について、関わる人の立場（伝える側・受け取る側）から、どのような言動があれば認識のずれを防ぎやすくなるか、生成AIを活用し、考えましょう。

	STEP2で取り上げた場面	「伝える側」として必要な言動	「受け取る側」として必要な言動
①			
②			
③			

17

4-1.　相互理解を深める方法を挙げる

いま共に学ぶ日本人学生と留学生が相互理解を深める方法を、生成AIを活用して、できるだけ多く挙げましょう。

相互理解を深めるための方法（できるだけ多く）

20

4.　具体的な学習計画・行動計画を立てる

■ **STEP4の学習目標**

- 介護福祉士養成校で共に学ぶ留学生と日本人学生が、相互理解を深めるための具体的な行動をグループで考えてみましょう。
- 将来、介護現場で多様な背景をもつ人々と関わることを見据えて、考えてみましょう。

■ **STEP4の学習時間**

- 3.0時間（1.5時間×2コマ）

■ **STEP4の課題**

4-1　相互理解を深める方法を挙げる（1.5時間）
⇒ ワークシート4-1

4-2　グループの目標と具体的な取り組みを決める（1.5時間）
⇒ ワークシート4-2

19

STEP5　学習計画の発表

22

4-2.　グループの目標と具体的な取り組みを決める

まず、グループとしてどのような状態を目指すかを決めましょう。
その目標を実現するために、どのような心がけを持ち、どのような方法で相互理解を深めていくか、生成AIを活用し、具体的にまとめましょう。

グループ目標	
大切にする心がけ	
具体的な方法	

21

5-1 発表資料

文化理解・相互理解に向けた学習計画

（グループ名）

24

5.　学習計画の発表

■ **STEP5の学習目標**

- STEP1～STEP4で整理した内容をもとに、学習計画をまとめ、発表できる形に仕上げましょう。
- 明日から取り組むグループの行動目標を発表し、仲間と協力して学習・行動実践を進めていく意識を高めましょう。

■ **STEP5の学習時間**

- 1.5時間（1.5時間×1コマ）

■ **STEP5の課題**

5-1　「発表資料」文化理解・相互理解に向けた学習計画（1.0時間）
⇒ ワークシート5-1
5-2　各グループで代表者を決め、全体に発表する。（0.5時間）

23

1.　認識違いから生じる「ズレ」についての考察

質問①	事例のような「認識のズレ」はなぜ起こるのでしょう。生成AIを活用し、考えられる原因を、書き出してみましょう。
質問②	これまでに、自分の言ったことや行動が、相手に違う意味で伝わってしまった経験はありますか。グループで共有してみましょう。

25

2.　認識のズレが起きる理由と背景にある違い

	2-1で選んだ場面	なぜ起きやすいと思うか	背景にある違い （国・言語・文化・世代など）
①			
②			
③			

26

3.　認識のズレを防ぐための具体的な言動

	STEP2で取り上げた場面	「伝える側」として 必要な言動	「受け取る側」として 必要な言動
①			
②			
③			

27

4.　グループ目標と具体的な取り組み

グループ目標	
大切にする心がけ	・
	・
	・
具体的な方法	・
	・
	・

28

科目「文化理解支援」PBL学習

介護現場で円滑に共生するための文化理解

一般社団法人　介護福祉教育コンソーシアム

【指導ガイド】
この教材では、文化や価値観の違いによって生じる認識のズレを題材に、出来事を構造的に捉える力を育てることをねらいとしています。

違いは避けるべきものではなく、前提として存在するものです。
指導者は、違いそのものを評価するのではなく、その違いがどのように誤解へと発展するのか、その過程を丁寧に整理するよう促します。
学習者が自分の価値観を絶対的な基準として扱わないよう、問いを通して視点を広げられるよう支援します。

この学習では、グループワークを基本として進めます。
4〜5名程度でグループを編成し、グループディスカッションを中心に学習を進めていきます。

進行にあたっては、発言の量よりも思考の質を重視してください。活発な議論を促すことが目的ではありません。表層的な議論ではなく、内省を伴った発言が生まれる環境を整えることを念頭に、学習を開始して下さい。

教材の構成

■テーマ
介護現場で円滑に共生するための文化理解

■学習概要
介護現場の事例を基に、留学生と日本人学生が共に、日本で働く上で必要な文化や生活習慣、考え方を整理し、相互理解を深める学び方を検討する。

■学習目標
- 日本の介護観・生活文化への理解を深め、多文化共生力を育成する。
- PBLや異文化比較の実践活動を通じ、共感力と異文化対応力を高める。

■時間数
12時間（90分×8コマ）

■学習対象者
外国人留学生、日本人学生

【指導ガイド】
この教材では、文化や価値観の違いに正解を求めるのではなく、ズレに気付き、その背景を考え、関わりを再構築する思考プロセスを体験することをねらいとしています。

指導者は、特定の文化理解の知識を覚えることや、適切な対応策を導き出すことをゴールにしないことを、最初に明確に共有し、ズレに気付いたときにどのように思考を進めるか、そのプロセスを大事にするよう促します。

学習者は、問題に対して「正しい答え」を探そうとする傾向があります。しかし、学習のプロセスで、まずズレを認識し、その背景を考え、どのような関わりが可能かを検討するという流れを体験することが目的です。結論の良し悪しよりも、思考の一貫性を重視します。

また、文化の違いを一般論で説明することにも注意が必要です。「文化が違うから仕方がない」とまとめてしまうと、思考が止まります。この教材では、どの場面で、どの基準が衝突し、どのような前提が影響しているのかを具体的に扱います。抽象的な理解ではなく、状況に根差した思考を促してください。

総時間数は12時間（90分×8コマ）です。
各STEPでは説明に時間をかけ過ぎないことが重要です。目的を共有したら、すぐに事例へ入ります。ディスカッションを通してこの目的の意味が理解されるよう、促してください。

対象は外国人留学生と日本人留学生ですが、議論が双方の対立構造を生まないよう、十分配慮して議論を進めることが重要です。

教材の構成

STEP1	事例から「違い」の原因を考える	3.0時間
STEP2	背景にある文化・習慣を深掘りする	1.5時間
STEP3	相互理解のためのポイントを整理する	3.0時間
STEP4	具体的な学習計画・行動計画を立てる	3.0時間
STEP5	学習計画の発表	1.5時間

【指導ガイド】
この教材は、「認識のズレに気づく」ところからスタートし、「日常生活の中でズレを生まない関係性づくり」までを5つのステップに分けて考えていく構成になっています。

STEP1では、認識のズレがどの様な原因で発生するのかということについて考えます。
STEP2では、認識のズレが生まれる背景について考察・分析を行います。
STEP3では、相互理解を促進するための関わり方の検討を行います。
STEP4では、これまでの学習を統合し、実践に向けた行動計画を作成します。
STEP5では、作成した学習計画を発表し、相互理解を深め、共生していくための意識を高めます。

各STEPはバラバラに独立しているのではなく、連続した思考の流れを形成しています。指導にあたっては、常に前段階との接続を意識して、学習を進めてください。

学習者は、早い段階で対応策を提示したくなる傾向がありますが、指導にあたっては、分析を経ずに解決策に飛びつかないよう促すことが重要です。
背景理解が不十分なまま関わりを考えると、対応は表面的なものになります。
段階を飛ばさず丁寧に進行することが、学習効果を高める鍵となります。

時間配分としては、特定のSTEPに偏らないよう注意が必要です。
特に分析段階（STEP2）を十分に確保することが、後半の質を左右します。
全体の構造を意識しながら進行してください。

STEP1　事例から「違い」の原因を考える

【指導ガイド】
ここからSTEP1に入ります。

STEP1では、介護現場で実際に起こりうる認識のズレに着目し、「違い」がどのようにして生まれるのかを考えることが目的です。事例を通して、出来事そのものを評価するのではなく、同じ場面を見ても受け取り方が異なるという事実に気付き、その背景に目を向ける視点を育てます。学習の出発点として、ズレを問題として扱うのではなく、理解を深めるための入口として捉える姿勢を共有してください。

指導にあたっては、すぐに原因を断定するのではなく、まず「どの部分に違いがあったのか」を丁寧に言語化させることが重要です。事例の登場人物の立場に立ち、それぞれが何を当然だと考えていたのかを考えさせることで、認識の違いがどのように生じるのかを整理していきます。正解を導く場ではなく、多様な視点を可視化する場であることを明確にしてください。

このSTEPでは、分析を深めることよりも、違いに気付くことに重点を置きます。出来事の表面だけで判断するのではなく、解釈がどのように分かれるのかを確認し、思考を一段階深める準備を整えます。ここで整理された気付きが、次のSTEPで背景を検討する土台になります。

STEP1の重要ポイントは、「認識のズレを発見すること」と「違いを構造的に捉えようとする姿勢を持つこと」です。この段階で違いの存在を明確にし、多様な見方があることを共有することで、後続の学習が一貫した流れとして機能します。

1. 事例から「違い」の原因を考える

■ **STEP1の学習目標**
- 事例（介護現場で実際に起こりうる認識のズレ）を検討し、認識のズレが生じる原因について、考えてみましょう。

■ **STEP1の学習時間**
- 3.0時間（1.5時間×2コマ）

■ **STEP1の課題**

1-1【事例①】　事例について考える(1)（45分）
⇒ ワークシート1-1
1-2【事例②】　事例について考える(2)（45分）
⇒ ワークシート1-2
1-3【事例③】　事例について考える(3)（45分）
⇒ ワークシート1-3
1-4　認識の違いから生じる「ズレ」について考える（45分）
⇒ ワークシート1-4

5

【指導ガイド】
このスライドでは、STEP1の目的と活動全体の構造の説明を行います。

STEP1では、提示された事例を通して、現場で生じている認識のズレを具体的に可視化します。出来事の良し悪しを判断することよりも、どのような基準や前提の違いが背景にあるのかを整理することを重視します。ズレを単なるトラブルとして扱うのではなく、「どの場面で」「どの基準が」「どのように食い違っているのか」を言語化する段階です。

1つ目のワークでは、事例の事実関係を整理し、評価を加えずに出来事の輪郭を明確にします。
2つ目のワークでは、違和感や疑問点を言語化し、自分がどのような前提で状況を見ているのかを整理します。
3つ目のワークでは、登場人物それぞれの「当然」がどのように異なっているかを具体的に検討します。
4つ目のワークでは、複数の事例を横断し、ズレが生じる構造を整理します。

学習時間は合計3時間です。各事例ごとに十分な検討時間を確保し、思考を段階的に積み重ねることが重要です。共有の時間は要点を中心に行い、個人思考とグループ検討の時間配分を意識してください。

指導にあたっては、「どちらが正しいか」という評価に焦点が移らないよう、前提の違いに視点を戻します。文化一般論に収束するのではなく、具体的な場面と基準の対応関係が言語化されているかを確認してください。STEP1の到達点は、「ズレの根本原因」が明確になっている状態です。ここで構造が整理されることで、STEP2で背景を分析する土台が整います。

5

1-2.【事例②】事例について考える(2)

回答例

介護施設でアルバイトを始めたBさんは、アルバイトは初めてで、もちろん介護の仕事も経験はありません。
ある日、Bさんは先輩職員から「食事のあと、利用者様の様子を見ておいてください。」と声をかけられました。しばらくしてから、先輩職員が確認したところ、ある利用者様の姿勢が崩れ、咳き込んでいることに気づきました。机の上には食べ残しが残ったままです。先輩職員は「様子を見ておいてって頼んだでしょ！？どうしてちゃんと報告してくれなかったの？」とBさんを注意しました。
Bさんは言われた通り様子を見ていたつもりだったため、なぜ注意されたのか理解できず戸惑ってしまいました。



この事例について、生成AIを活用し、以下の質問をグループで考えてみましょう。

Bさんは、「様子を見る」とは何をすることだと思っていましたか。	食事が終わるまで、利用者様のそばにいて、見ていることが仕事だと理解していた。
先輩職員は、「様子を見る」に何を含めていましたか。	食事中の誤嚥や体調変化に注意するなど、「見守り」だけでなく、「安全を守る責任」も含まれていると考えていた。
このような認識のズレは、なぜ起こったのでしょうか。	先輩は「様子を見る」という言葉の意味を「当然分かっている」と思い込み、詳しく伝えなかったから。 Bさんは確認せず、自分の理解で行動してしまったから。

7

【指導ガイド】
このスライドでは、事例に対して感じた違和感や疑問点を自分の言葉で言語化することが目的です。

ここでは、どの部分に引っ掛かりを感じたのか、その理由を本人の言葉で表現させることを重視し、「どこに」「なぜ」という観点で具体化できるよう、促してください。

発言が対立的になった場合でも、どちらが正しいかを判断しないよう進行し、「なぜそう感じたのか」と問い返すことで、自分の前提に気付かせる流れで進めてください。

違和感は、対立の原因ではなく学習の出発点です。発言が対立的になった場合でも、どちらが正しいかを判断する必要はありません。「なぜそう感じたのか」という問いを通じて、自分の前提に気付くことが重要です。学習者が「当たり前」と感じている基準が何であるかを可視化することがSTEP1の核心です。

このワークでは生成AIの活用を想定しています。考えを言語化することが難しい場合は、AIを用いて表現の幅を広げることも有効です。ただし、AIの回答をそのまま記入させるのではなく、「自分の考えとして納得できる内容か」を確認させることが重要です。

STEP1では違和感を広く拾い上げることが目的です。ディスカッションでは、発言量の多さよりも多様な視点が出ているかに着目してください。

7

1-1.【事例①】事例について考える(1)

回答例

介護福祉士を目指すAさんは、勉強を続けながら現場でアルバイトをすることになりました。ある日、先輩職員から「利用者様の部屋、きれいにしておいてくださいね」と声をかけられました。Aさんは「はい！」と元気よく応えて、さっそく作業にとりかかりました。
しばらくして先輩職員が部屋を確認すると、テーブルの上はそのままで、ベッドのシーツにはしわが残っていました。先輩職員は「まだ終わっていないんですか？」と少し強い口調で注意しました。「掃除は終わりました。」Aさんは一生懸命に掃除をして、ベッドも整えたのに、なぜ注意されたのか分からず戸惑ってしまいました。



この事例について、生成AIを活用し、以下の質問をグループで考えてみましょう。

Aさんはどうして「終わった」と考えていたのでしょうか。	自分なりに一生懸命ほこりを取り、床や机を拭いたので、「やるべきことはやった」と思ったから。
先輩職員は、なぜ「まだ終わっていない」と判断したのでしょうか。	利用者様の快適さや安全にもかかわるため、シーツのしわやテーブルの上の片付けまで含めてきれいにするという認識だったから。
このような認識のズレは、なぜ起こったのでしょうか。	先輩は、どこまで片付けて欲しいのか、言わなくても分かるだろうと思い、細かい指示を出さなかったし、Aさんも確認をしなかったから。

6

【指導ガイド】
このスライドでは、提示された事例について「何が起きていたのか」を事実ベースで整理をすることが目的です。

ここでは評価や推測を加えないよう促してください。まずは出来事の事実を丁寧に確認させ、事実と解釈が混ざらないよう注意を促してください。「そのように見えた」という表現が出てきた場合は、それが観察された事実なのか、本人の解釈なのかを問い返し、言葉の区別をさせます。

学習者は、無意識のうちに意味づけを行いながら事例を読み取ります。しかしSTEP1では、その自動的な解釈を一度立ち止まって見直します。どの言動が具体的に確認できるのか、どの部分が自分の推測であるのかを区別できることが到達点です。

このワークでは生成AIの活用を想定しています。考えを言語化することが難しい場合は、AIを用いて表現の幅を広げることも有効です。ただし、AIの回答をそのまま記入させるのではなく、「自分の考えとして納得できる内容か」を確認させることが重要です。

時間配分としては、全体共有に偏らず、考えを整理する時間を確保することが重要です。考えが十分に洗い出されていることを確認してから次に進んでください。

6

1-3.【事例③】事例について考える(3)

回答例

介護施設でアルバイトをしているCさんは、相手の気持ちを尊重することを大切にしたいと考えていました。
ある日、休憩時間に利用者様から「お腹がすいたからお菓子を食べたい。」と声をかけられました。Cさんが、近くにあったお菓子を渡すと、利用者様は「ありがとう」と言って、嬉しそうに食べ始めました。すると、それを見た職員が慌てて駆け寄って、お菓子を取り上げ、「勝手な事をしないでください！」と厳しい口調でCさんを注意しました。
Cさんは「本人が食べたいと言っていたので、良いことをしたと思っていたのに。なぜ怒られたのか分からない。」と戸惑っていました。



この事例について、生成AIを活用し、以下の質問をグループで考えてみましょう。

Cさんは、なぜお菓子を渡してもよいと思ったのでしょうか。	お腹がすいている様子を見て、すぐに助けることが親切だと思った。
職員は、なぜCさんを注意したのでしょうか。	利用者様の健康状態（糖尿病やアレルギーなど）を考えて、勝手に食べ物を渡すのは危険だと思ったから。
このような認識のズレは、なぜ起こったのでしょうか。	Cさんは「気持ちを大切にすること」を優先し、職員は「安全とルール」を優先したから。

8

【指導ガイド】
このスライドで提示されている事例は、登場人物それぞれが「当然」としている前提の食い違いに気付かせることが目的です。

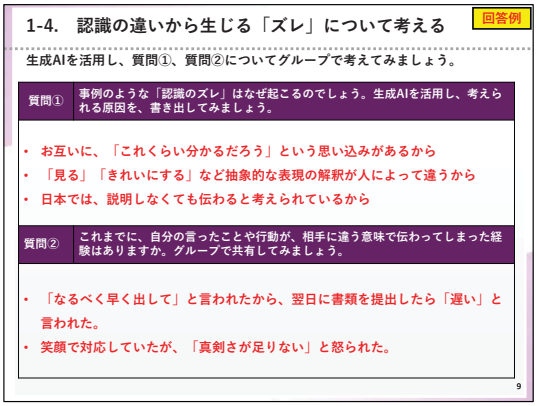
ここでは行動の是非を判断させないよう促してください。問題の本質は行動そのものではなく、その行動をどの基準で受け止めているかにあることに注目させます。「なぜこの場面で違和感が生まれたのか」「何を当然だと考えているのか」と問いかけ、報告の仕方、時間の捉え方、役割への期待など、どの基準が前提になっているのかを具体的に言語化させる流れで進めてください。

ここでは背景の説明までは求めません。しかし、“何がズレているのか”は具体的に言語化させる必要があります。単に「文化の違いがある」とまとめてしまうと思考が止まってしまいます。重要なのは、「どの基準が、どの場面で衝突したのか」を明確にすることです。この事例は、価値観の優劣を決めるためのものではなく、見えていなかった前提を浮かび上がらせるための教材です。

このワークでは生成AIの活用を想定しています。考えを言語化することが難しい場合は、AIを用いて表現の幅を広げることも有効です。ただし、AIの回答をそのまま記入させるのではなく、「自分の考えとして納得できる内容か」を確認させることが重要です。

長時間議論を続ける必要はありませんが、「どこがズレの核心か」を明確にすることが重要です。このズレの革新を言語化できるよう支援しながら学習を進めてください。

8



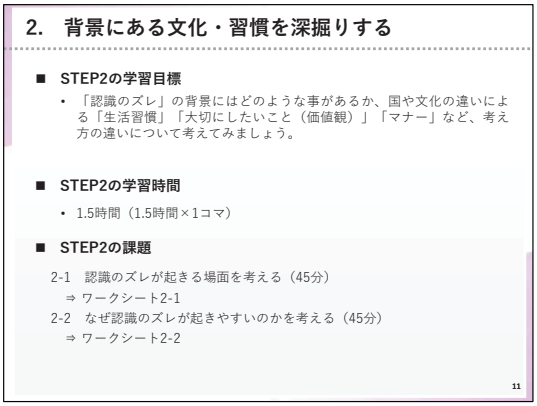
【指導ガイド】
このスライドでは、STEP1全体を振り返り、思考の変化や気付きの内容を言語化することが目的です。

ここでは結論の良し悪しを評価しないよう促してください。最初に事例を読んだときの印象と、ディスカッションを通して現在どのように考えているかを比較させ、「どのように見方が変わったのか」「何に気付いたのか」を自分の言葉で整理させる流れで進めてください。

「自分はどのような前提で物事を見ていたのか」「違いに出会ったとき、どのように考えることができたか」と問いかけ、気付きが曖昧な場合は問いを重ねて具体化させます。

このワークでは生成AIの活用を想定しています。考えを言語化することが難しい場合は、AIを用いて表現の幅を広げることも有効です。ただし、AIの回答をそのまま記入させるのではなく、「自分の考えとして納得できる内容か」を確認させることが重要です。

STEP1はズレの発見が目的です。「どこでズレが発生したのか」が自分の言葉で整理されていることを確認し、STEP2へつなげてください。



【指導ガイド】
このスライドでは、STEP2の学習目的と活動全体の構造を理解させることが目的です。

STEP2では、STEP1で整理したズレを出発点に、その背景にある要因を多角的に検討します。出来事の表面を説明する段階から一歩踏み込み、価値観、役割期待、言語理解、経験差など、複数の視点から構造を整理することを重視します。ズレを単発の事象として扱うのではなく、どのような条件が重なって生じているのかを考察する段階です。

1つ目のワークでは、日々のコミュニケーションの中で認識のズレが起こる場面を想像し、できるだけたくさんの具体例を挙げていきます。具体例が出尽くしたところで、特に認識のズレが起こりそうなものを3つ選びます。
2つ目のワークでは、ワーク1で選んだ3つの場面で、なぜズレが起きやすいのか、その背景にある違いを言語化し、整理します。

STEP2全体の学習時間は1.5時間です。要因の列挙だけで満足せず、関連性まで言語化できているかを確認しながら進行してください。

指導にあたっては、要因を一つに特定する流れに偏らないよう、複数の観点を提示します。文化一般論に収束するのではなく、具体的な場面との接続が保たれているかを確認してください。

STEP2の到達点は、ズレを構造として説明できる状態です。背景と行動の関係が整理されていることを確認することが重要です。

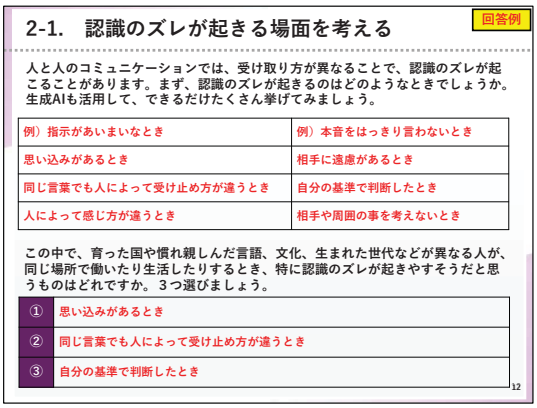


【指導ガイド】
ここからSTEP2に入ります。

STEP2では、STEP1で見えてきた認識のズレを手がかりに、その背景にある要因を整理し、構造として理解することが目的です。出来事の表面で起きていることを超えて、「なぜそのような受け止め方になったのか」「何が影響しているのか」を検討します。文化や価値観、経験、相手への期待など複数の視点から背景を捉えることで、ズレを説明できる状態に近付くことがこのSTEP全体の到達点です。

指導にあたっては、原因を一つに特定する流れにならないよう留意してください。背景には複数の要因が重なっている可能性があります。「他にどのような視点が考えられるか」「どの前提がどの場面で影響したのか」と問いかけながら、視点を広げていきます。また、一般論に流れるのではなく、実体験の具体的な場面と結び付けて考えられているかを確認します。ズレと背景が対応関係として整理されていることが重要です。

このSTEPでは、解決策を導くことよりも、構造を理解することに意味があります。「ズレを生み出した背景を多面的に捉えること」と「実際の場面と結び付いた形で説明できること」など構造が明確になることで、学習全体がより深まりを持って展開していきます。
背景を整理することで、次のSTEPで具体的な関わり方を検討する土台が整います。



【指導ガイド】
このスライドでは、認識のズレが起こる具体的な場面を整理し、コミュニケーションにおける「すれ違い」の要因を可視化することを目的としています。
また、国・言語・文化・世代などの違いがある環境で、特にズレが起こりやすい場面を自分事として考えさせることをねらいとしています。

指導者は、「なぜその場面でズレが起こるのか」を具体的なエピソードと結びつけて考えさせることが重要です。また、「誰が悪いか」という視点ではなく、「どのような条件が重なるとズレが起きやすいか」という構造的な理解に導くことを意識します。

学習者は、「外国人だから」「日本人だから」といった属性だけに原因を求めてしまう傾向があります。指導では、文化や言語の違いだけでなく、個人の経験、立場、思い込みなど複数の要因が重なっていることに気づかせる必要があります。「外国人だから」「日本人だから」といった対立を生む議論を避けるよう十分な注意が必要です。
また、自分の経験を振り返る際に他者を批判する方向に話が進まないよう、「自分もズレを起こす可能性がある」という内省的な姿勢を促すことも大切です。

このワークでは生成AIの活用を想定していますが、AIの回答をそのまま「正解」として受け取らないよう指導することが重要です。
生成AIは多様な視点を広げるための補助ツールであり、最終的に自分たちの現場や経験に照らして考え直すプロセスを必ず設けるよう促してください。

2-2.　なぜ認識のズレが起きやすいのかを考える

回答例

2-1で選んだ３つについて、なぜそのような場面で認識のズレが起きやすいのか、生成AIを活用して、具体的に考えましょう。

	2-1で選んだ場面	なぜ起きやすいと思うか	背景にある違い（国・言語・文化・世代など）
①	思い込みがあるとき	自分の経験から「きっとこうだ」と先に決めてしまうから。	育った国や文化による判断の基準や受け止め方の違い
②	同じ言葉でも人によって受け止め方が違うとき	相手の考えをと自分の考えが違う可能性があるから。	育った国や文化、言語の違い
③	自分の基準で判断したとき	必ずしも自分の基準が正しいとは限らないから。	育った国や文化、世代の違い

13

【指導ガイド】
このスライドでは、前のワークで選んだ「認識のズレが起きやすい場面」について、なぜズレが生じるのかを具体的に言語化することを目的としています。表面的な出来事だけでなく、その背景にある国・言語・文化・世代などの違いに気づき、ズレの構造を理解することを目指します。

指導者は、「正しい・間違い」を判断する場にしないことを意識し、ズレが起きる“仕組み”を考えさせることに焦点を当てます。また、「なぜそう思ったのか」「どんな経験がその判断につながったのか」と問い返し、思考を一段深める支援を行います。

学習者は、「自分が正しい」「相手が悪い」という結論で止まってしまいやすい傾向があります。出来事の説明だけで終わらず、「背景にどんな違いがあったか」「他の見方はあるか」を考えさせることが重要です。
指導にあたっては、「文化の違いだから仕方ない」と単純化しすぎないよう、個人差や状況要因にも目を向けさせることが重要です。

このワークでは生成AIの活用を想定していますが、AIの回答をそのまま正解として扱わないようにします。生成AIは多様な視点を広げるための補助ツールとして活用し、「自分たちの経験と照らしてどうか」「現場ではどう考えるか」を必ず対話で検討することが重要です。

13

STEP3　相互理解のためのポイントを整理する

14

【指導ガイド】
ここからSTEP3に入ります。

STEP3では、STEP2で整理した背景理解を踏まえ、どのような関わり方が考えられるかを具体化することが目的です。ズレの構造を理解したうえで、その状況に対してどのように働きかけることができるのかを検討します。相手を評価するのではなく、自分の関わりをどのように調整できるかという視点に立つことが、このSTEP全体の到達点です。

学習者は、すぐに解決策を提示したくなる傾向があります。しかしSTEP3では、「相手を変える方法」を考えるのではなく、「自分の関わり方をどのように調整できるか」という視点を持たせることが重要です。違いをなくすことを目的にしません。違いが存在することを前提に、どのように理解し合い、誤解を減らすことができるかを考えさせてください。

指導者は、抽象的な理想論にとどまらないよう留意してください。「理解する」「尊重する」といった言葉だけで終わるのではなく、どの場面で、どのような言葉や行動が考えられるのかを具体化できるよう促してください。また、STEP2で整理した背景要因とのつながりが見えるかを常に確認します。「どの背景に対して、その関わりが有効だと考えたのか」と問いかけることで、思考の筋道を明確にします。

STEP3の重要ポイントは、「背景と関わりが対応関係として整理されていること」と「自分の行動として具体的に語れること」です。ここで関わりの方向性が明確になることで、学習が実践へと接続していきます。

14

3.　相互理解のためのポイントを整理する

■ **STEP3の学習目標**

- STEP2で整理した「認識のズレ」が起きやすい場面を踏まえて、共に働くチームの一員として、どのような心がけと具体的行動が必要か整理してみましょう。

■ **STEP3の学習時間**

- 3.0時間（1.5時間×2コマ）

■ **STEP3の課題**

3-1　認識のズレを防ぐための心がけを整理する（1.5時間）
⇒ ワークシート3-1
3-2　認識のズレを防ぐための具体的な言動を考える（1.5時間）
⇒ ワークシート3-2

15

【指導ガイド】
このスライドでは、STEP3の目的と活動全体の構造を理解させることが目的です。ここでは、STEP2で整理した背景構造を踏まえ、具体的な関わりの方向性を検討します。ズレの原因を理解する段階から一歩進み、どのような関わりが誤解の拡大を防ぎ、相互理解につながるのかを構想する段階です。違いを解消することを目指すのではなく、違いが存在する前提の中で関係を再構築する視点を育てます。

1つ目のワークでは、STEP2で整理した背景要因に対応する関わりの方向性を検討します。どの要因に対してどのような働きかけが考えられるかを具体的に言語化します。
2つ目のワークでは、その方向性を実際の言動レベルへと落とし込みます。どの場面で、どのような言葉や行動をとるのかを具体的に整理し、背景との対応関係を明確にします。

STEP3全体の学習時間は3時間です。学習者は、一般的な理想論に流れやすい傾向がありますが、「理解する」「尊重する」といった抽象的な表現で終わらせないことが重要です。その関わりが、どの背景要因に対して有効なのかを説明できるよう、考察の時間をしっかりと取るよう留意してください。

STEP3の到達点は、背景理解と関わりが論理的につながっている状態です。この対応関係が明確になっていることを確認してから、最終段階へ進みます。

15

3-1.　認識のズレを防ぐための心がけを整理する

回答例

コミュニケーションの認識のズレを減らすためには、どのような心がけを持つことが大切でしょうか。生成AIを活用し、伝える側、受け取る側のそれぞれの立場で考えてみましょう。

立場	必要な心がけ
自分が伝える側になったとき	相手がどう受け取るかを考えて、できるだけ具体的に説明する
	あいまいな表現（少し、ちゃんと、あとで など）をできるだけ使わない
	相手に確認しながら話す（「ここまで大丈夫ですか？」と聞く）
自分が受け取る側になったとき	分かったつもりにならず、分からないことは質問する
	自分の思い込みで判断しない
	大事な内容は自分の言葉で言い直して確認する

16

【指導ガイド】
このスライドでは、STEP2で整理した背景を踏まえ、どのような関わりの方向性が考えられるかを具体的に検討させることが目的です。

ここでは完成度の高い答えを導かせないよう促してください。重要なのは、背景理解と関わりの発想が論理的につながっているかどうかです。学習者が一般的な理想論や道徳的な表現に流れていないかを確認し、「もっと丁寧に説明する」「相手を尊重する」といった抽象的な言葉で止まっている場合は、その関わりがどの背景要因に対して有効だと考えられるのかを問い返してください。STEP2で整理した要因と明確に接続できているかを常に意識させることが重要です。

また、「相手を変える」発想に傾いていないかにも注意を促してください。ここでは相手の行動を矯正する方法を考えるのではなく、自分の関わりをどのように調整できるかという視点を持たせます。違いをなくすことを目標にするのではありません。違いが存在することを前提に、誤解が拡大しないための工夫を検討する段階であることを明確にしてください。

このワークでは生成AIの活用を想定しています。考えを言語化することが難しい場合は、AIを用いて表現の幅を広げることも有効です。ただし、AIの回答をそのまま記入させるのではなく、「自分の考えとして納得できる内容か」を確認させることが重要です。

時間配分としては、発想を広げる時間を十分に確保することが重要です。ただし、議論が抽象的になり過ぎないよう注意が必要です。途中で必ず「それはどの背景に対しての関わりか」と確認する場面を設けてください。十分な方向性が整理され、背景との対応関係が説明できる状態になっていることを確認してから、次の具体化段階へ進むことが望まれます。

16

3-2.　認識のズレを防ぐための具体的な言動を考える

回答例

STEP2で取り上げた３つの場面について、関わる人の立場（伝える側・受け取る側）から、どのような言動があれば認識のずれを防ぎやすくなるか、生成AIを活用し、考えましょう。

	STEP2で取り上げた場面	「伝える側」として必要な言動	「受け取る側」として必要な言動
①	思い込みがあるとき	・「あなたはどう思いますか」と確認する	・自分の理解が合っているか確認する（例：「つまり〇〇ということですか」）
②	同じ言葉でも人によって受け止め方が違うとき	・あいまいな言葉を使わず、具体的に伝える（例：「きれいにして」→「机の上を片づけて、シーツをのばしてください」）	・分からないことはそのままにせず、「どこまでやればいいですか」と具体的に聞く
③	自分の基準で判断したとき	・相手の国や文化の違いも考えて、背景や理由も一緒に伝える（なぜ必要か）	・自分の考え方が合っているか、ルールや相手が求めていることを確認する

17

【指導ガイド】
このスライドでは、前段で整理した関わりの方向性を具体的な言動レベルまで落とし込ませることが目的です。

ここでは抽象的な理念を掲げさせないよう促してください。「どの場面で」「どのような言葉で」「どのタイミングで」関わるのかを具体化させることを重視します。学習者が再び一般論に戻っていないかを確認し、具体的な場面設定が伴っているか、その行動がSTEP2で整理した背景要因にどのように作用すると考えているのかを説明させてください。「なぜその関わりが有効だと考えたのか」という問いは必ず投げかけ、背景と行動が分断されていないかを確認することが重要です。

誤解は一度の会話で解消するとは限りません。継続的な関わりとしてどのように積み重ねていくのかという視点を持たせ、関係性の中で実行可能な行動になっているかを意識させます。

このワークでは生成AIの活用を想定しています。具体的な言動を考えることが難しい場合は、AIを用いて思考の幅を広げることも有効です。ただし、AIの回答をそのまま記入させるのではなく、「自分の考えとして納得できる内容か」を確認させることが重要です。

具体化に十分な時間を確保する必要がありますが、議論が広がり過ぎた場合は、場面を限定させることで焦点を絞ってください。最後には、背景と関わりの対応関係が明確に説明できる状態になっているかを確認してください。

4.　具体的な学習計画・行動計画を立てる

■ **STEP4の学習目標**
- 介護福祉士養成校で共に学ぶ留学生と日本人学生が、相互理解を深めるための具体的な行動をグループで考えてみましょう。
- 将来、介護現場で多様な背景をもつ人々と関わることを見据えて、考えてみましょう。

■ **STEP4の学習時間**
- 3.0時間（1.5時間×2コマ）

■ **STEP4の課題**

4-1　相互理解を深める方法を挙げる（1.5時間）
⇒ ワークシート4-1
4-2　グループの目標と具体的な取り組みを決める（1.5時間）
⇒ ワークシート4-2

19

【指導ガイド】
このスライドでは、STEP4のワーク工程を共有し、これまでの学習内容を統合することが目的です。

1つ目のワークでは、STEP1からSTEP3までで整理してきた内容を振り返り、ズレ・背景・関わりがどのように連続しているかを構造として整理します。どのズレから出発し、どの背景を検討し、その結果どの関わりを導いたのかを、順序立てて言語化します。各STEPを独立した活動として捉えるのではなく、一つの思考プロセスとして統合する段階です。
2つ目のワークでは、整理した構造を自分の言葉で説明できる状態へと整えます。代表的なズレを一つ選び、そのズレを起点に背景と関わりを筋道立てて説明する練習を行います。三つの段階が対応関係を保っているかを確認し、思考の流れが途切れていないかを点検します。

作業の中心は、思考の一貫性を可視化することです。網羅的に整理することよりも、ズレ・背景・関わりの対応関係が明確になっているかを重視します。関わりが背景要因と結び付いているか、背景がズレと接続しているかを丁寧に確認してください。

このSTEPの学習時間は3時間です。これまでの学習内容を整理する時間を十分に確保し、その後に簡潔な共有を行います。
到達点は、思考のプロセスを構造として説明できる状態です。表現の巧拙よりも、論理の筋道が通っているかが重要です。発表準備に偏らず、構造の確認に重点を置いて進行し、整理が整ったことを確認してから、次の発表フェーズへ移行します。

STEP4　具体的な学習計画・行動計画を立てる

18

【指導ガイド】
ここからSTEP4に入ります。

STEP4では、STEP1からSTEP3までの学習を統合し、自分たちの理解がどのように深まったのかを整理することが目的です。ズレの発見、背景の分析、関わりの検討という一連のプロセスを振り返り、それぞれがどのようにつながっているのかを確認します。単なる振り返りではなく、思考の流れを構造として再確認する段階です。

学習者は、良い意見が出たかどうかで満足しがちです。しかしSTEP4では、理解と行動が結び付いているかを確認することが重要です。「ズレ」「背景」「関わり」が一貫した思考として整理されているかを確認してください。

指導にあたっては、感想の共有にとどまらないよう留意してください。「どの段階で見方が変わったのか」「どの問いが理解を深めるきっかけになったのか」といった視点で整理させます。また、STEPごとの内容が分断されず、一つの筋道として語れるかを確認します。ズレをどのように捉え直し、どのような背景を考え、どのような関わりを導いたのかが説明できる状態が重要です。

このSTEPでは、結論の優劣を競うのではなく、違いが生じたときに、どのような順序で考えることができるかという思考の再現性に着目します。学習を通して獲得した視点が、自分の中で整理されているかを確かめられるよう支援してください。

4-1.　相互理解を深める方法を挙げる

回答例

いま共に学ぶ日本人学生と留学生が相互理解を深める方法を、生成AIを活用して、できるだけ多く挙げましょう。

相互理解を深めるための方法（できるだけ多く）
お互いの国の文化や習慣に興味を持ち、毎月テーマを決めて調べる
分からない言葉や表現は、遠慮せずその場で確認する
途中で判断しないで、相手の話を最後まで聞く
誤解や認識のズレに気づいたときは、そのままにせず対話する
小さな困りごとを相談できるランチ会を、月に1回開く
自分の考えを説明する前に、「なぜそう思うのか」理由まで話す
「自分の当たり前」と「相手の当たり前」を言葉にして確認する
月に1回、体験活動（地域イベント・ボランティアなど）に一緒に参加する

20

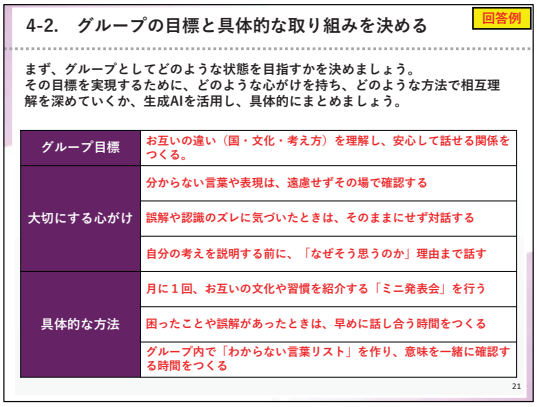
【指導ガイド】
このスライドでは、これまでの学習内容を自分の現場や立場に引き寄せ、相互理解のためにどのような対策があるか、具体的に想像させることが目的です。

ここでは抽象的な決意表明に流れないよう注意し、「どの場面で」「どのような確認や対話を行うのか」を具体的に言語化させます。「気を付けたい」「理解を深めたい」といった表現で終わらせず、日常生活や実際の関係性の中で取り組める方法を挙げさせてください。

また、STEP2での背景理解とSTEP3で整理した関わりの視点が反映されているかを確認し、単なる一般論になっていないか、これまでの議論と乖離がないか、問い返すことが重要です。

このワークでは生成AIの活用を想定しています。具体的な方法を考えることが難しい場合は、AIを用いて思考の幅を広げることも有効です。ただし、AIの回答をそのまま記入させるのではなく、「自分の考えとして納得できる内容か」を確認させることが重要です。

時間配分としては、具体的な方法を検討する時間を十分に確保することが効果的です。全体共有は短時間で構いません。実践に結び付く具体的な行動が言語化ができているかを見極めることが、この活動の質を左右します。



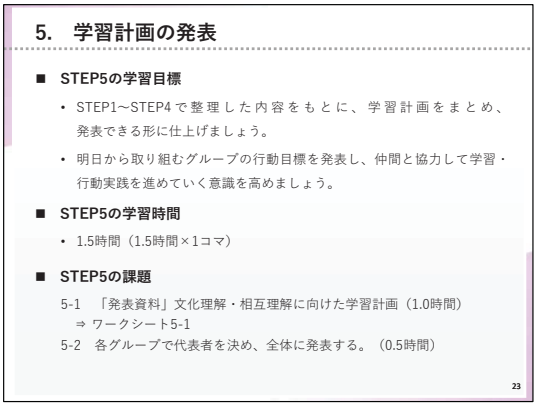
【指導ガイド】
このスライドでは、STEP1からSTEP4までの学習全体を統合し、理解がどのように変化したのかを構造として整理させることが目的です。

ここでは、学習の流れが一つの思考プロセスとして自分の中に結び付いているかどうかが重要です。学習者は、「違いを理解することが大切だ」といった抽象的な結論で終わらせやすい傾向があります。しかし本教材の到達点は、理解の重要性を認識することではありません。違いが生じたときに、どのような視点で状況を捉え直すことができるか、その思考のプロセスを再現できる状態に近付いているかが重要です。

また、完璧な対応を求める必要はありません。誤解や衝突が起きないことを目標にするのではなく、起きたときにどのように捉え直すかという姿勢を確認します。違いを前提にした思考ができているかが重要です。ここで得た視点が、日常の場面でどのように活かされ得るかを具体的に想像させることも有効です。ただし、具体的な行動計画の完成度を評価する場ではありません。

このワークでは生成AIの活用を想定しています。具体的な取り組みを考えることが難しい場合は、AIを用いて思考の幅を広げることも有効です。ただし、AIの回答をそのまま記入させるのではなく、「自分の考えとして納得できる内容か」を確認させることが重要です。

時間配分としては、全体共有に時間をかけ過ぎないよう注意が必要です。グループで検討する時間を十分に確保することで、学習内容の定着が促進されます。



【指導ガイド】
このスライドでは、発表資料作成の工程と目的を共有し、STEP1からSTEP4までの学習内容をそのまま可視化することが目的です。

最初のワークでは、発表資料を作成します。
STEP1で整理したズレ、STEP2で整理した背景要因、STEP3で検討した関わり方などをそのまま転記します。
ここで新しい分析や修正を加えることは行いません。各STEPで到達した思考の状態を、順序どおりに並べることが重要です。
ワークの中心は、思考の流れを崩さずに並べることです。どのズレに対してどの背景を考え、その背景を踏まえてどの関わりを導いたのかが、資料上で読み取れる状態を整えます。内容の完成度よりも、STEPごとの対応関係が明確になっているかを確認してください。

次にグループ内で発表者を決め、発表の準備を行います。
一部の学習者だけが説明するのではなく、全員が計画の内容を理解し、必要に応じて補足できる状態にしておくことを意識させてください。

学習時間は1.5時間です。資料作成に時間を使いすぎると発表練習の時間が不足するため、途中で進捗を確認し、時間配分を調整してください。

指導にあたっては、発表技術の指導よりも、計画の内容とその根拠の確認に重点を置きます。発表を通して、自分たちの学習の進め方を再確認し、実行への意欲を高めることができるよう支援してください。



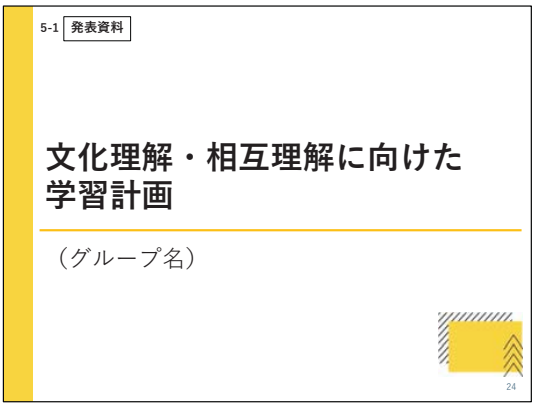
【指導ガイド】
ここからSTEP5に入ります。

STEP5では、これまで整理してきた思考の流れを発表資料という形で可視化し、第三者にも伝わる構造へと整えることが目的です。STEP1からSTEP4までのプロセスを振り返り、ズレの認識、背景の分析、関わりの検討、そして統合までの流れが一貫した構造として示されているかを確認します。学習の成果をまとめる段階であり、同時に思考を再度整理する機会でもあります。

指導者は、資料づくりが形式的な作業にならないよう留意してください。
ワークシートから内容を写すこと自体が目的ではありません。どのズレに対してどの背景を考え、その結果どの関わりを導いたのかという因果の流れが、資料上で読み取れる状態を整えることが中心です。構造の明確さが最も重要な観点となります。

また、内容の網羅性や表現の巧拙に意識が向き過ぎないよう配慮します。発表資料は完成作品の提示ではなく、学習の軌跡を共有するためのものです。
思考の順序が守られているか、各STEPが自然につながっているかを確認しながら進めてください。

STEP5の重要ポイントは、「思考のプロセスが第三者にも理解できる形で可視化されていること」と「STEP間の対応関係が明確になっていること」です。
ここで構造が整うことで、学習が共有可能な知見として結実します。



【指導ガイド】
このスライドはmグループの学習計画を発表するための表紙にあたります。

グループ名を記載し、「文化理解・相互理解に向けた学習計画」を発表する場であることを明確にします。

表紙は評価の対象ではありませんが、発表の目的と位置付けを全体で共有する役割があります。

ここで改めて、発表が成果物の完成度を競う場ではなく、これまでの学習プロセスを根拠とともに説明する場であることを確認してください。
また、発表に向けての意識を切り替えるタイミングでもあります。

「自分たちの計画を他者に伝える」という視点を持たせることで、計画の内容を再整理する機会になります。
指導にあたっては、発表資料の見た目ではなく、発表内容の一貫性と根拠に着目することを事前に伝えておくと、その後の準備が進めやすくなります

1. 認識違いから生じる「ズレ」についての考察

質問①	事例のような「認識のズレ」はなぜ起こるのでしょう。生成AIを活用し、考えられる原因を、書き出してみましょう。
質問②	これまでに、自分の言ったことや行動が、相手に違う意味で伝わってしまった経験はありますか。グループで共有してみましょう。

25

【指導ガイド】
本スライドは、事例検討を通して気づいた「認識のズレ」を、より一般化し、自分自身の経験と結びつけて内省するための振り返り段階に位置づけられます。事例の理解にとどまらず、「自分も当事者になりうる」という視点へと学びを深めることを目的とします。

「認識のズレ」が特定の人の問題ではなく、誰にでも起こりうる現象であること、原因を一つに限定せず、複数の視点（言語・文化・経験・立場など）から挙げられているかを確認してください。
多角的な要因が挙げられていて、構造や背景に目を向けた記述になっていることが望ましいです。

質問②では、「いつ・どこで・誰と・どうズレたか」自分の経験を具体的に振り返っているかをに着目してください。

指導にあたっては、学習者が「正解探し」にならないよう留意し、自分の体験や感じ方を安心して共有できる雰囲気づくりを重視してください。
また、背景要因や構造的な視点を問い返すことで「誰が悪いか」を議論する方向に偏らないよう、促してください。

25

2. 認識のズレが起きる理由と背景にある違い

	2-1で選んだ場面	なぜ起きやすいと思うか	背景にある違い（国・言語・文化・世代など）
①			
②			
③			

26

【指導ガイド】
このスライドは、「ズレが起きる場面」を表面的に理解する段階から一歩進み、その背景にある国・言語・文化・世代などの違いに目を向けさせることを目的としています。
個人の性格の問題ではなく、「背景の違い」によって認識のズレが生じることを構造的に理解する段階です。

単なる感想ではなく、「なぜ起きやすいのか」が言語化されていること、「文化の違い」などの抽象表現だけでなく、国・言語・世代など具体的に示されていることが望ましいです。
また、「相手が悪い」になっていないかを確認することも重要です。 双方の立場から考えられているかがポイントです。

指導にあたっては、「文化の違いだから仕方ない」と単純化させないよう留意してください。文化や国籍だけで説明するのではなく、世代・経験・立場など複数の要因が重なっている可能性を示すことが重要です。
また、「違い＝対立」ではなく、「違い＝多様性」であることを強調し、相互理解につなげる視点を持たせることが大切です。

「認識のズレが起きる理由とその背景にある違いを整理する」ことを行うことで、次のスライドで扱う“ズレを防ぐための具体的な心がけや行動”とのつながりを意識させます。

26

3. 認識のズレを防ぐための具体的な言動

	STEP2で取り上げた場面	「伝える側」として必要な言動	「受け取る側」として必要な言動
①			
②			
③			

27

【指導ガイド】
このスライドは、認識のズレが起きる理由を理解したうえで、それを防ぐための具体的な「言動」に落とし込む段階です。原因分析で終わらせず、実際の行動レベルに変換することを目的としています。

それぞれの場面に対応した言動になっているかを確認してください。抽象的な心がけではなく、実際にそのまま使える具体的な言葉や行動が示されていることが望ましいです。
また、立場によって必要な言動が違うこと、同じ場面でも「確認する」「言い直す」「質問する」など、行動のバリエーションがあるかどうかに着目してください。

指導にあたっては、「もっと具体的に言うと？」と問いかけ、抽象的な表現（例：気をつける、理解する）で止まらないようにします。また、実際の現場でそのまま使える日本語表現に言い換えさせることで、実践につながる学習を促進します。

具体的な言動を整理することで、自分たちのグループとしてどのような姿勢や行動を大切にするかを考える次のスライドとのつながりを意識させます。

27

4. グループ目標と具体的な取り組み

グループ目標	
大切にする心がけ	・
	・
	・
具体的な方法	・
	・
	・

28

【指導ガイド】
最後に、学習計画をどのように実行していくかをグループとして表明します。

ここでは、目標と方法がつながっているか、「気持ち」だけでなく「行動」に落とし込めているかに着目してください。
また、異なる国・文化・言語背景を前提にした工夫が含まれているかということも重要です。

また、このスライドは学習の動機付けを高める役割を持っています。
発表後の行動変容につながる内容になっているかに着目します。

発表の最後に位置付けられているため、聞き手が「このグループはどのように学習を進めていくのか」を具体的にイメージできる内容になっていることが望ましいです。

28

５．地域定着支援 PBL

教材・指導ガイド

教材の構成

■テーマ

ライフプランから考える地域理解の学習計画立案

■学習概要

ライフプランやキャリアプランを起点に、地域の魅力や特性を整理し、地域について学ぶべき事項と学習方法を検討して学習計画にまとめる。

■学習目標

- 地域課題をテーマにしたPBL,地域行事参加、施設連携を通じて地元志向を醸成する。
- 生活者としての役割意識を育て、卒業後も地域で働き続ける基盤を整える。

■時間数

12時間（90分×8コマ）

■学習対象者

外国人留学生・日本人学生

科目「地域定着支援」PBL学習
ライフプランから考える地域理解のための学習計画立案

一般社団法人　介護福祉教育コンソーシアム

STEP1　人生設計検討

教材の構成

STEP1	人生設計検討	3.0時間
STEP2	地域の魅力分析	3.0時間
STEP3	学習課題の整理	1.5時間
STEP4	学習方法検討	3.0時間
STEP5	学習計画立案・発表	1.5時間

1. 人生設計検討

■ **STEP1の学習目標**

- 地域で働く先輩の話を聞くことで、「この地域で働く自分」のイメージを具体的に思い描いてみましょう。
  - ◆ 事前準備：これからの学習やインタビューに向けた準備を行いましょう。
  - ◆ 事後学習：インタビューを通して考えたことを整理しましょう。

■ **STEP1の学習時間**

- 3.0時間（1.5時間×2コマ）

■ **STEP1の課題**

1-1　インタビューの準備をする（０.5時間）
⇒ ワークシート1-1
1-2　準備した質問をもとにインタビューを行う（1.0時間）
⇒ ワークシート1-2
1-3　インタビューからの学びをまとめる（1.5時間）
⇒ ワークシート1-3

1-1. インタビューの準備をする

この地域で活躍する介護福祉の方の話を聞いてみましょう。まずは、知りたいこと、聞いてみたいことなど、生成AIを活用して、質問内容を考えましょう。

質問（知りたいこと・聞いてみたいこと）



1-2. 準備した質問をもとにインタビューを行う

事前に考えた質問内容をもとに、介護福祉の方に話を聞いてみましょう。話の内容をメモしながらインタビューをしてみましょう。

質問（知りたいこと・聞いてみたいこと）	②インタビューのメモ

1-3. インタビューからの学びをまとめる

生成AIを活用しながら、インタビューを聞いて感じたこと、学んだことをまとめましょう。さらに、学んだことを、今後の学生生活にどう活かしていくか、考えてみましょう。

インタビューを聞いて感じたこと	
インタビューから学んだこと	
学んだことを今後の学生生活にどう活かしていくか考えてみましょう	

STEP2　地域の魅力分析

2-1.　地域の特徴について調べる

地域の特徴や強み、課題などをまとめている資料を探してみましょう。見つけた資料から、生成AIも活用して、地域の特徴や強み、課題などを整理してみましょう。

参照した資料	例）市役所・町役場のホームページ、観光パンフレット、地域の広報誌、地域紹介動画（YouTube 等）
地域の特徴	例）自然が多い、山や海が近い、気候の特徴、お祭りや伝統行事が多い、特産品などの特徴•海と山に囲まれていて、自然がとても多い。
地域の強み	例）家賃や物価が安い、人が親切で地域交流がある、自然が豊かでリラックスできる
地域の課題	例）公共交通が少ない、娯楽施設や買い物の場所が少ない、

2.　地域の魅力分析

■ **STEP2の学習目標**

- 今住んでいる地域の特性を客観的に分析して、生活・就労の場としての魅力と可能性について考えてみましょう。

■ **STEP2の学習時間**

- 3.0時間（1.5時間×2コマ）

■ **STEP2の課題**

2-1　地域の特徴について調べる（1.5時間）
⇒ ワークシート2-1
2-2　この地域の良さを考える（1.5時間）
⇒ ワークシート2-2

2-2.　この地域の良さを考える

生成AIを活用しながら、この地域について、自分自身が魅力に感じる点を整理し、グループで共有して書き出してみましょう。

この地域の魅力・いいなと感じる点

STEP3　学習課題の整理

3.　学習課題の整理

■ **STEP3の学習目標**

- 今いる地域で永く住むために必要な情報を考えましょう。
- どこで、どのような情報が手に入るのか、インターネットでは見つけられない情報をどのように調べればいいか考えましょう。

■ **STEP3の学習時間**

- 1.5時間（1.5時間×1コマ）

■ **STEP3の課題**

3-1　働く場所を決めるうえで重視する情報を洗い出す。（0.5時間）
⇒ ワークシート3-1
3-2　重視する項目を選び、なぜそれが重要なのか考える。（1.0時間）
⇒ ワークシート3-2

3-1.　働く場所を決めるうえで重視する情報を洗い出す

働く場所（住む地域や就職先など）を決める時に、どのような事を重視するかグループで考えてみましょう。大事だと思うキーワードに〇をつけてみてください。

	重視する観点					
	生活環境	地域特性	仕事内容	労働条件	人間関係	その他
具体的なキーワード	住まい	公共サービス	やりがいがもてる	給与	友人	
	家賃	地域交流やイベント	安心感がある	勤務時間	相談できる人	
	交通の利便性	近所付き合い	成長できる	休日	信頼できる人	
	買い物に便利	多文化への理解	挑戦できる	キャリアアップ	職場の先輩	
	病院が近い	外国人居住者	自由がある	資格制度	日本語の学習支援	
	お祈りの場所	自然環境	誇りを持てる	研修制度	参加できる地域コミュニティ	
	安全・治安	過ごしやすい気候	自分らしくいられる	職場の雰囲気	困ったときの相談窓口	

〇の多かった観点を3つ選びましょう。

①	②	③

3-2.　なぜ重要なのか考える

3-1で選んだ観点について、なぜそれが重要なのか考えてみましょう。生成AIを活用しながら、重要だと思う理由を言葉にして、グループで書き出してみましょう。

（重視する観点：労働条件、生活環境、地域特性、人間関係、仕事内容、その他）

重視する観点	なぜ重要なのか（重視する理由）
①	
②	
③	

4.　学習方法検討

■ **STEP4の学習目標**

- インターネットで調べられる情報だけでなく、人に話を聞いたり、実際に体験することで、その地域のよさや特色を見つける方法について、具体的に考えてみましょう。

■ **STEP4の学習時間**

- 3.0時間（1.0時間×3コマ）

■ **STEP4の課題**

4-1　重視する項目について、一般的な情報を調べる。（1.0 時間）
⇒ ワークシート4-1
4-2　住んでいる地域の実情に近い情報の調べ方を考える。（1.0 時間）
⇒ ワークシート4-2
4-3　調査に向けた行動計画を立てる。（1.0 時間）
⇒ ワークシート4-3

STEP4　学習方法検討

4-2.　地域の実情に近い情報の調べ方を考える

調査している観点について、より詳しく、私たちが住んでいる地域の実情に近い情報を調べるには、どのようにしたらよいでしょうか。生成AIを活用しながら、調べる方法を考えてみましょう 。

重視する観点	住んでいる地域の実情に近い情報の調べ方
①	
②	
③	

今回調べた3つの観点から、今後更に深く調べてみたい観点を1つ選びましょう。

4-1.　一般的な情報を調べる

重視する観点の中から、特に気になるキーワード（例: 労働環境の場合：給与、勤務時間、休日など）を3つ選んでください。それぞれについて、介護職や住んでいる地域の一般的な情報を、生成AIやインターネットなど活用し、調べて整理してみましょう。

重視する観点	気になるキーワード	調べた内容
①		
②		
③		

STEP5　学習計画立案・発表

22

4-3.　調査に向けた行動計画を立てる

4-2で選んだ観点について、私たちが住んでいる地域の実情に近い情報を調べるために、グループの目標や調べること、調べる方法について、生成AIを活用しながら、具体的に考えてみましょう。

グループ目標	
今後調べること	
調べる方法	

21

5-1　発表資料

ライフプランから考える
地域理解のための学習計画立案

（グループ名）

5.　学習計画立案・発表

■ **STEP5の学習目標**

- STEP1-STEP4までの分析を統合し、地域定着のための学習行動計画書を完成させましょう。

■ **STEP5の学習時間**

- 1.5時間（1.5時間×1コマ）

■ **STEP5の課題**

5-1　「発表資料」ライフプランから考える地域理解のための学習計画立案（1.0時間）
⇒ ワークシート5-1

5-2　各グループで代表者を決め、全体で発表する（0.5時間）

23

2.　この地域の良さを考える

この地域の魅力・いいなと感じる点

26

1.　インタビューからの学びをまとめる

インタビューを 聞いて感じたこと	
インタビューから 学んだこと	
学んだことを 今後の学生生活にどう 活かしていくか考えて みましょう	

25

4.　調査に向けた行動計画

グループ目標	
今後調べること	
調べる方法	

28

3.　重視する観点とその理由

重視する観点	なぜ重要なのか（重視する理由）
①	
②	
③	

27

科目「地域定着支援」PBL学習
ライフプランから考える地域理解のための学習計画立案

一般社団法人　介護福祉教育コンソーシアム

【指導ガイド】
この教材では、ライフプランから考える地域理解のための学習計画を立案します。
地域で働き続けることを自分自身の将来と結び付けて考え、地域の魅力を再発見し、「ここで働いてみたい」という具体的なイメージを持てる状態に近付くことをねらいとしています。

指導者は知識を教えることを主目的とするのではなく、学習の進め方を支援するファシリテーターとして関わります。
学習者が自分の現状を把握し、グループで協働しながら合格までの道筋を考えられるよう促してください。

この学習では、完成度の高い成果物を作ること自体を目的にはしません。
学習計画を立てるプロセスの中で、どのように考えたか、なぜその方法を選んだかを言語化できるようにすることを重視します。

また、グループワークを基本として進めます。
4～5名程度でグループを編成し、互いの課題や学習状況を共有しながら計画を作成できるようにしてください。

教材の構成

■テーマ
ライフプランから考える地域理解の学習計画立案

■学習概要
ライフプランやキャリアプランを起点に、地域の魅力や特性を整理し、地域について学ぶべき事項と学習方法を検討して学習計画にまとめる。

■学習目標
- 地域課題をテーマにしたPBL,地域行事参加、施設連携を通じて地元志向を醸成する。
- 生活者としての役割意識を育て、卒業後も地域で働き続ける基盤を整える。

■時間数
12時間（90分×8コマ）

■学習対象者
外国人留学生・日本人学生

【指導ガイド】
この教材は、地域定着支援というテーマを通して、地域の魅力を具体的に理解し、自分自身がその地域で働く姿を具体的に想像できる状態に近付くことを目的としています。

指導にあたっては、地域を客観的に分析する活動として進めるのではなく、自分の将来像と結び付けて考える学習であることを明確にしてください。「自分はどのような働き方をしたいのか」「その働き方はこの地域で実現できるか」といった問いを通して、地域理解と自己理解を往復させる進行を意識します。

総時間数は12時間（90分×8コマ）です。
各STEPは、ライフプランの明確化から始まり、地域理解、必要な準備の整理、具体的な学習計画の構想へと段階的に進む構造になっていることを共有してください。

学習のゴールは、地域の特色や魅力を自分の言葉で説明できること、さらにその魅力が自分の将来設計とどのように結び付いているかを具体的に語れる状態に近付くことです。STEPごとの活動成果を整えることよりも、地域で働くイメージが具体化しているかどうかを確認することが重要です。

ここで教材全体の構造と目的が共有されることで、以降のSTEPが一貫した流れとして機能します。地域理解が将来設計の具体化につながる設計になっていることを意識させ、次の段階へ進んでください。

教材の構成

STEP1	人生設計検討	3.0時間
STEP2	地域の魅力分析	3.0時間
STEP3	学習課題の整理	1.5時間
STEP4	学習方法検討	3.0時間
STEP5	学習計画立案・発表	1.5時間

【指導ガイド】
【この教材は、学習計画の立案と発表までを5つのステップで進める構成になっています。

最初に全体の流れを示し、それぞれの活動がどのようにつながっているかを理解させることが重要です。

STEP1では、地域で働く先輩へのインタビューを通じて、「この地域で働く自分」の将来像や人生設計を具体的に思い描き、学習の出発点とします。
STEP2では、今住んでいる地域の特性や強みを客観的に調べ、生活や就労の場としての地域の魅力と将来の可能性について深く分析します。
STEP3では、その地域で永く働き、生活するために重視する観点や必要な情報を整理し、これから深掘りすべき学習課題を明確にします。
STEP4では、インターネットや人から話を聞くなど、地域の実情に近い情報を集めるための学習方法を検討し、具体的な行動計画を立てます。
STEP5では、作成した学習計画を発表し、地域理解や将来の地域定着に向けた意識を高めます。

指導者は、現在どのステップに取り組んでいるのかを適宜示し、活動の目的を確認しながら進めてください。学習者が学習の全体像を把握できるようにすることで、各活動の意義や計画へのつながりを理解しやすくなります。
また、ここで各ステップの時間配分を共有しておくと、学習の見通しを持たせることができます。

各STEPは独立した活動ではなく、最終的な学習行動計画書の作成に向かって段階的につながっていることを、学習者に常に意識させてください。

STEP1　人生設計検討

【指導ガイド】
ここからSTEP1に入ります。

STEP1では、自分自身の将来像を具体的に描き、働く場所に求める価値観や条件を明確にすることをねらいとします。
この段階では、地域理解よりも先に、自分自身の基準を整える意味を丁寧に共有してください。将来像が明確であるほど、地域の魅力は具体的に見えてきます。「どのような生活を送りたいか」「どのような働き方に充実を感じるか」「どのような環境で力を発揮できるか」といった問いを通して、学習者が自分の未来を描ける状態をつくります。

思考の質を見る視点として、将来像が抽象語だけで構成されていないかを確認してください。具体的な場面や情景が語られているか、生活と仕事が分断されずに描かれているかが観察ポイントです。情景が浮かぶレベルまで言語化できるよう、支援することが重要です。

1. 人生設計検討

■ **STEP1の学習目標**

- 地域で働く先輩の話を聞くことで、「この地域で働く自分」のイメージを具体的に思い描いてみましょう。
  - ◆ 事前準備：これからの学習やインタビューに向けた準備を行いましょう。
  - ◆ 事後学習：インタビューを通して考えたことを整理しましょう。

■ **STEP1の学習時間**

- 3.0時間（1.5時間×2コマ）

■ **STEP1の課題**

1-1　インタビューの準備をする（0.5時間）
⇒ ワークシート1-1

1-2　準備した質問をもとにインタビューを行う（1.0時間）
⇒ ワークシート1-2

1-3　インタビューからの学びをまとめる（1.5時間）
⇒ ワークシート1-3

【指導ガイド】
このスライドでは、STEP1の目的と活動全体の構造を理解させることが目的です。

STEP1では、自分自身の将来像を具体的に描き、働く場所に求める価値観や条件を明確にすることで、地域を検討するための基準を整えます。

1つ目のワークでは、将来の生活や働き方を具体的な情景として描き、自分がどのような環境で充実感を得られるのかを言語化します。
2つ目のワークでは、働く場所に求める条件を整理し、優先順位を明確にします。
3つ目のワークでは、これまで整理した将来像や条件と地域の特色を結び付け、地域で働く姿を具体的に想像します。これらの活動を通して、将来像・条件・地域理解が一つの流れとしてつながります。

学習時間の合計は3時間です。
将来像の具体化に十分な時間を確保し、条件整理と地域接続のワークに段階的に移行します。個人思考の時間を中心に据え、共有は代表例に絞ることで思考の集中を保ちます。時間配分は、将来像の具体化に最も多く配分すると効果的です。

指導にあたっては、将来像と条件が結び付いているか、さらに地域との接続が具体的に語られているかを観察してください。抽象語の列挙にとどまらず、具体的理由が含まれている場合、思考は深まっていると考えられます。

STEP1の到達点は、地域を検討するための自分なりの基準が明確になっている状態です。思考の軸が整理されるよう、支援してください。

1-1. インタビューの準備をする

回答例

この地域で活躍する介護福祉の方の話を聞いてみましょう。まずは、知りたいこと、聞いてみたいことなど、生成AIを活用して、質問内容を考えましょう。

質問（知りたいこと・聞いてみたいこと）
介護の仕事を始めたとき、一番大変だったことは何ですか？
仕事をしていて、「この仕事をやっていてよかった」と思うのはどんな時ですか？
この地域の生活で困ったことがあったときや寂しいときは、誰に相談していますか？
休みの日は、この町のどこで、どんなことをしてリラックスしていますか？
職場の先輩や、地域の人たちと仲良くなるために、何か工夫したことはありますか？



【指導ガイド】
このスライドでは、地域で活躍する介護福祉職へのインタビューに向けて、質問内容を具体化することが目的です。
ここでは質問を多く作ることよりも、「この地域で働く自分」を思い描きながら、何を知りたいのかを明確にすることを重視します。地域定着というテーマを自分の将来像と結び付ける最初の段階であり、関心の方向を可視化する時間です。

ワークでは、まずグループで知りたいことや聞いてみたいことを書き出します。
「働きがい」「生活のしやすさ」「人間関係」「将来のキャリア」など複数の観点から考えさせることで、質問の幅が広がります。
互いの視点の違いを確認しながら質問を整理する過程そのものが、地域で働くイメージを具体化するプロセスになります。

このワークでは生成AIの活用を想定しています。ゼロから質問を思いつくことが難しい学習者に対しては、AIを用いて、介護福祉職の先輩への質問のアイデアを複数出させるよう促すことも有効です。ただし、AIの回答をそのまま記入させるのではなく、「自分が本当に知りたいことか」「自分の将来や生活に結びつく内容になっているか」を自ら選択し、自分の回答として納得できる内容かを確認させることが重要です。

指導にあたっては、学習者が「給料はいくらですか？」のような条件面だけの質問で終わらないよう、模範解答例を示しながら、「先輩の『気持ち』や『生活の様子』がわかる質問も入れてみよう」と促し、多様な視点を引き出すよう支援してください。また、地域を抽象的に語るのではなく、「この地域」という具体性を保つことが重要です。質問が具体的であるほど、次のインタビュー活動の質が高まります。

1-2. 準備した質問をもとにインタビューを行う

回答例

事前に考えた質問内容をもとに、介護福祉の方に話を聞いてみましょう。話の内容をメモしながらインタビューをしてみましょう。

質問（知りたいこと・聞いてみたいこと）	②インタビューのメモ
介護の仕事を始めたとき、一番大変だったことは何ですか？	・最初は、お年寄りの「方言（地域の言葉）」が全然わからなくて、とても困った。 ・でも、施設の先輩がノートに書いて優しく教えてくれたから、少しずつできるようになった。
仕事をしていて、「この仕事をやっていてよかった」と思うのはどんな時ですか？	・利用者様が、私の顔を覚えて「ありがとう」と笑顔で言ってくれた時。 ・私が手伝うことで、利用者様が自分でできること（歩くことなど）が増えた時。
この地域の生活で困ったことがあったときや寂しいときは、誰に相談していますか？	・職場で仲の良い日本人の先輩ができてからは、休みの日に一緒にご飯に行って、話を聞いてもらっている。 ・地域のボランティア（日本語教室など）の人に、生活のルール（ゴミの出し方や病院の行き方など）を教えてもらった。
休みの日は、この町のどこで、どんなことをしてリラックスしていますか？	・近くに温泉があるので、時々行って疲れをとっているのが好き。 ・道の駅（直売所）で安い野菜を買って、自分の国の料理をたくさん作り、友達と家でパーティーをして食べる。
職場の先輩や、地域の人たちと仲良くなるために、何か工夫したことはありますか？	・自分から「おはようございます」「お疲れ様です」と元気に挨拶することを、毎日絶対に続けた。 ・お祭りや地域の掃除などに参加して、近所の人に顔を覚えてもらった。

【指導ガイド】
このスライドでは、地域で活躍する介護福祉職へのインタビューを通して、地域で働く実際の姿に触れることが目的です。

ここでは情報を集めること以上に、地域で働く人の経験や思いに耳を傾け、自分の将来像と重ねながら理解を深める姿勢を共有してください。事前に準備した質問を活かしつつ、対話の中で生まれる気付きにも目を向けることが重要です。

ワークでは、役割を分担しながらインタビューを進めます。質問者は準備した問いをもとに話を引き出し、記録者は具体的なエピソードや印象的な言葉を丁寧に書き留めます。回答の内容を要約するだけでなく、「どのような場面でそう感じたのか」「どのような経験が背景にあるのか」といった具体性を意識させます。対話を通じて得られた情報は、その後の整理や分析の素材になります。

指導にあたっては、質問を消化することに意識が向き過ぎないよう支援してください。相手の話に応じて問いを深めたり、補足を求めたりする姿勢を促します。また、地域の魅力や課題がどのように語られているかを丁寧に拾い上げることが重要です。

インタビューは単なる情報収集ではなく、地域との接点を具体化する機会です。得られた言葉やエピソードが、自分の将来像とどのように結び付くかを意識させます。

1-3. インタビューからの学びをまとめる

回答例

生成AIを活用しながら、インタビューを聞いて感じたこと、学んだことをまとめましょう。さらに、学んだことを、今後の学生生活にどう活かしていくか、考えてみましょう。

インタビューを聞いて感じたこと	• 休みの日に温泉に行ったり、道の駅で安い野菜を買って友達とパーティーをしたりして、この町の生活を楽しんでいるのがいいなと感じた。 • 自分から毎日元気に挨拶をすることや、地域の行事に参加することが、周りの人と仲良くなるためにとても大切だとわかった。
インタビューから学んだこと	• 仕事でわからないことがあっても、職場の先輩に質問すればしっかりサポートしてもらえること。 • 生活で困ったときや寂しいときは一人で悩まず、職場の先輩や地域のボランティアの人（日本語教室など）に相談できる場所を見つけるのが大事だということ。
学んだことを今後の学生生活にどう活かしていくか考えてみましょう	• 学校やアルバイト先で、自分から元気に「おはようございます」「お疲れ様です」と挨拶することを絶対に毎日続ける。 • 休みの日は家の中にいるだけでなく、地域の温泉や道の駅に行ってみたり、お祭りやボランティアに参加して、町の人と話すチャンスを作りたい。

【指導ガイド】
このスライドでは、インタビューで得られた内容を整理し、地域で働く姿を具体的に描くことがねらいです。
対話の中で得たエピソードや言葉をもとに、地域の特徴や働く環境の実態を整理する段階で、印象の共有にとどまらず、どのような条件や環境が地域定着に影響しているのかを言語化することが大切です。

ワークでは、グループで印象的だった発言などを書き出し、「地域の魅力」「働きやすさ」「課題」「定着につながる要因」などの観点で分類します。単なる感想の羅列にならず、発言の背景や具体的な状況を踏まえて整理することが重要です。インタビューで語られた内容が、どのような地域の特性を示しているのかを考えながら進めます。

指導者は、学生が「勉強になった」「頑張りたい」といった抽象的な感想だけで終わらないよう注意してください。「先輩が教えてくれた『温泉』や『お祭りへの参加』『挨拶』などの具体的なエピソードから、自分なら明日から何ができるかな？」と問いかけ、学生生活での具体的な行動目標を引き出せるよう支援します。

このワークでは生成AIの活用を想定しています。インタビューのメモから自分の学びや目標を言語化することが難しい学習者に対しては、AIを用いて、メモの要点を整理させたり、今後の学生生活への活かし方のヒントを提案させるよう促すことも有効です。ただし、AIの回答をそのまま記入させるのではなく、「自分が本当に感じたことか」「自分の実際の学生生活で実行できる内容になっているか」を自ら選択し、自分の回答として納得できる内容かを確認させることが重要です。

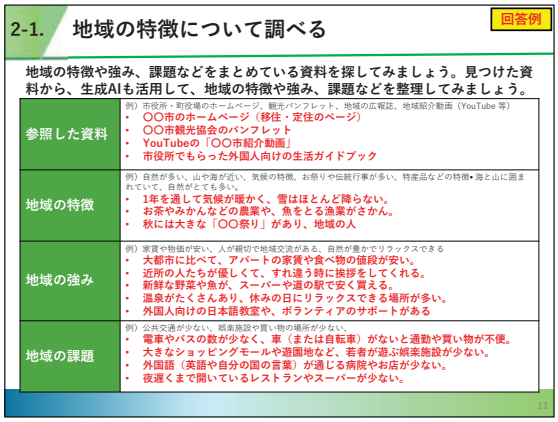


【指導ガイド】
ここからSTEP2に入ります。

STEP2では、STEP1で整理した地域の特徴や自分たちが重視する観点を踏まえ、それらを裏付ける一般的な情報を調査し、地域理解をより具体的かつ立体的に深めていくことが目的です。表面的な印象やイメージにとどまらず、客観的なデータや複数の情報源を手がかりに、地域の実情を多面的に捉える視点を育てます。地域定着というテーマに対して、根拠をもって語れる状態に近付くことが、このSTEP全体の到達点です。

指導にあたっては、単に情報を集める活動にならないよう留意してください。どの観点を選び、なぜその観点を深めようとしているのかを明確にしたうえで調査に入ることが重要です。「どのキーワードを軸に調べているのか」「その情報は地域のどの特徴とつながっているのか」と問いかけながら進行します。また、一つの情報だけで判断せず、複数の資料や視点を参照しながら整理する姿勢を促してください。生成AIやインターネットを活用する際も、情報の出所や信頼性に目を向け、内容をそのまま受け取るのではなく、自分たちの言葉でまとめ直すことを大切にします。

このSTEPでは、結論を急いで導く必要はありません。地域の強みや課題、労働環境や生活環境などが、どのような実情に基づいているのかを説明できる状態を目指します。



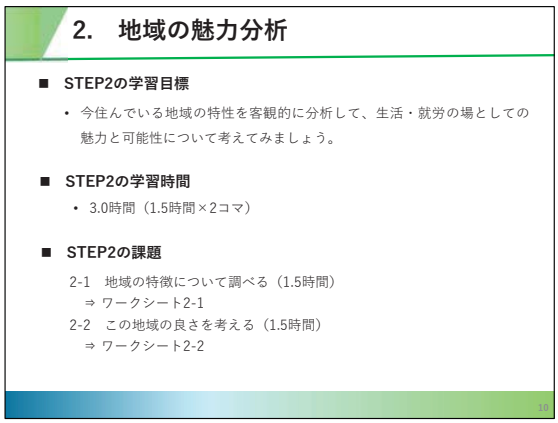
【指導ガイド】
このスライドでは、地域の特徴・強み・課題を客観的な資料から整理し、地域の魅力を多角的に検討することが目的です。

ここではインタビューで得た印象に依拠するのではなく、公開情報や統計資料などを参照しながら、地域の全体像を多面的に捉える視点を育てます。

ワークでは、まず役所や自治体のホームページ、観光パンフレット、広報誌、地域紹介動画などから情報を収集します。生成AIを活用して情報を整理することも有効です。そのうえで、「地域の特徴」「地域の強み」「地域の課題」という三つの観点に分けてまとめます。単に情報を書き写すのではなく、地域の生活環境や働く環境とどのように関係しているかを意識しながら整理します。

指導にあたっては、観光的な魅力に偏らず、生活者の視点が含まれているかを確認してください。また、強みと課題を対比的に捉えられているかも重要です。たとえば「自然が豊か」という特徴が、どのような強みにつながり、どのような課題とも関係しているのかを問いかけます。地域の姿を一面的に理解するのではなく、複数の側面から整理できている状態を目指します。

このワークでは生成AIの活用を想定しています。市役所のHPや観光パンフレットなどの膨大な資料から必要な情報を読み取り、整理することが難しい学習者に対しては、AIを用いて、資料の文章から「地域の特徴・強み・課題」を要約・抽出させるよう促すことも有効です。ただし、AIの回答をそのまま記入させるのではなく、「自分の実際の生活実感と合っているか」「自分が本当に地域の強みや課題だと感じる内容か」を自ら選択し、自分の回答として納得できる内容かを確認させることが重要です。



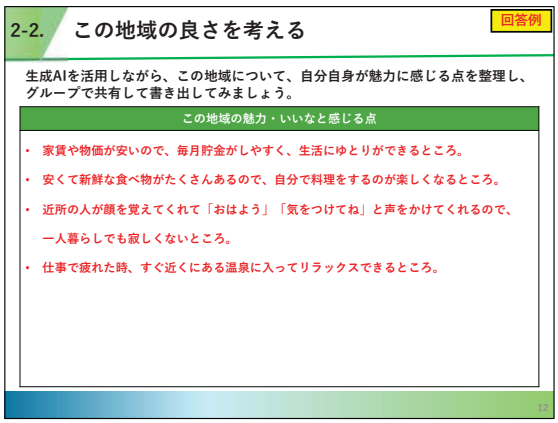
【指導ガイド】
このスライドでは、STEP2の目的と活動全体の構造を理解させることが目的です。

STEP2では、地域の特色や資源を具体的に整理し、自分の将来像や働く条件との接点をより深く検討することで、地域定着の可能性を現実的に捉える視点を育てます。

1つ目のワークでは、地域の産業、生活環境、支援体制、人とのつながりなどの要素を具体的に洗い出し、地域の特徴を多面的に整理します。
2つ目のワークでは、それらの要素が自分の将来像や働く条件とどのように結び付くかを検討します。単に地域の情報を集める段階ではなく、自分の基準と照らし合わせながら考える段階であることを共有してください。整理された情報が、自分の未来像とどのように関係するのかを言語化することが重要です。

学習時間の合計は3時間です。地域情報の整理に一定の時間を確保し、その後の接続検討に十分な時間を配分してください。情報の洗い出しに時間が偏らないよう、将来像との接続に重点を置く構成が効果的です。

指導にあたっては、地域の特徴が具体的に語られているか、さらにその特徴が自分の価値観や条件とどのようにつながっているかを観察してください。



【指導ガイド】
このスライドでは、整理した地域の特徴・強み・課題を、自分自身の将来像や働き方のイメージと結び付けて考えることが目的です。

ここでは地域を外側から眺める段階から一歩進み、「自分がこの地域で働くとしたら」という視点に切り替えます。地域定着というテーマを、自分の選択や生活と接続する段階です。

ワークでは、2-1で整理した地域の特徴・強み・課題を見直しながら、「自分にとって魅力的に感じる点」「もっと知りたいと感じる点」を書き出します。そのうえで、地域の条件が自分の価値観や生活イメージとどのように関係しているかを言語化します。単なる感想にとどまらず、「なぜそう感じるのか」「どの特徴がその印象につながっているのか」を具体的に整理するよう促してください。

指導者は、このワークが「一般的な地域のPRポイント」を探すのではなく、「自分にとっての価値」を見つける作業であることを強調してください。「他の人にとっては普通の田舎町でも、○○さんにとって『静かでよく眠れる』なら、それは素晴らしい魅力だよ」と肯定し、自分自身の価値観や将来の生活イメージと結びつけて言語化できるよう支援します。

このワークでは生成AIの活用を想定しています。地域の客観的な特徴から、自分にとっての魅力を引き出して言語化することが難しい学習者に対しては、AIを用いて、調べた特徴から考えられる「生活上のメリット」や「魅力」のアイデアを複数提案させるよう促すことも有効です。ただし、AIの回答をそのまま記入させるのではなく、「自分が本当に魅力に感じているか」「自分の価値観や将来の生活イメージと合っているか」を自ら選択し、自分の回答として納得できる内容かを確認させることが重要です。



【指導ガイド】
ここからSTEP3に入ります。

STEP3では、STEP1で整理した「重視する観点」と、STEP2で調査した地域の一般情報を踏まえ、「この地域で働くこと」を具体的に想像し、自分たちの判断軸をより明確にしていくことがねらいです。

情報を集めて理解を深める段階から一歩進み、その地域で生活し、働く自分の姿を描きながら、地域の魅力や可能性を主体的に捉え直すことが、このSTEP全体の到達点です。

指導にあたっては、単なる印象の共有にとどまらないよう留意してください。「どの情報が自分たちの重視する観点と結び付いたのか」「どの点に魅力や安心感を感じたのか」といった問いを通して、STEP2で整理した内容との接続を意識させます。また、良い面だけに焦点を当てるのではなく、気になる点や不安に感じる点も含めて率直に言語化させることで、より現実的な判断につながります。地域を評価する立場ではなく、そこで働く当事者として考える視点を大切にしてください。

このSTEPでは、最終的な結論を一つに絞る必要はありません。重要なのは、「なぜそう感じたのか」「どの情報がその判断に影響したのか」を説明できる状態に近付くことです。地域の特徴、強み、課題、労働条件や人間関係などが、自分たちの価値観や将来像とどのように関係しているかを整理しながら進めます。議論が抽象的になった場合は、「どの情報を根拠にそう考えたのか」と具体化を促してください。

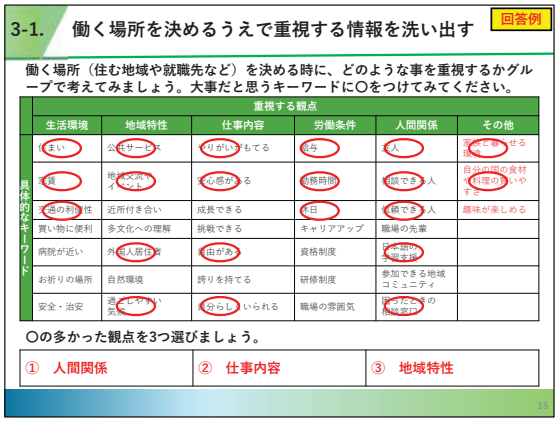
【指導ガイド】
このスライドでは、STEP3で取り組むワークと到達目標を確認します。

最初に学習目標を共有し、このステップが、今いる地域で永く働き生活するために必要な情報を考え、インターネットでは見つけられない地域の実情に近い情報をどのように調べればいいかなど、「学習課題の整理」を目的としていることを押さえてください。

1つ目のワークでは、働く場所を決めるうえで重視する情報を洗い出します。労働条件や生活環境など様々な観点からキーワードを選び、自分たちが地域に定着する上で何を大切にしたいのかを明確にすることが狙いです。
2つ目のワークでは、1つ目のワークで選んだ重視する項目について、なぜそれが重要なのかを考えます。AIも活用しながら重視する理由を言葉にし、グループで共有することで、後の調査に向けた軸を定めます。

学習時間は合計1.5時間です。
情報の洗い出しから理由の深掘りまでを1コマで行うため時間配分に注意が必要です。なぜその項目が重要なのかを言語化し、グループでしっかり共有するための対話の時間を十分に確保できるよう、進捗を管理してください。

指導にあたっては、一般的な理想論ではなく、学習者自身のライフプランや実感に基づいた意見を引き出すよう促してください。ここで定めた重視する観点とその理由が、次のステップでの具体的な情報収集に向けた行動計画の軸となることを意識させることが重要です。



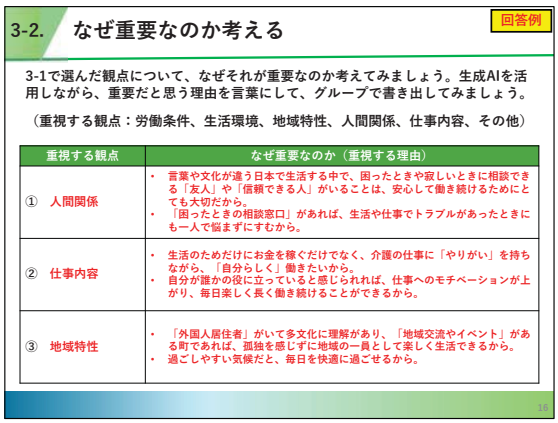
【指導ガイド】
このスライドでは、働く場所を選ぶ際に自分が何を重視しているのかを可視化し、判断基準を明確にすることが目的です。

ここでは地域や職場を評価する前に、優先順位を整理します。住む地域や就職先を考える際の観点を具体化することで、地域理解と自己理解を結び付ける段階です。

ワークでは、提示された「重視する観点」の項目を見ながら、自分たちが大切だと感じるキーワードに〇を付けます。生活環境、地域特性、仕事内容、労働条件、人間関係など複数の観点から考え、自分がどの要素を重視しているのかを確認します。一覧表にない、自分なりの観点がある場合は、その他の欄に書き入れます。

全てのキーワードの検討を終えたら、〇の多かった観点を三つ選び、なぜそれを重視しているのかを言語化します。単なる好みの表明にとどまらず、自分の将来像や価値観との結び付きを整理することが重要です。

指導にあたっては、他者と同じ基準を選ぶことが目的ではないことを共有してください。重視する観点の違いがあることそのものに意味があります。また、〇の数に注目するだけでなく、その背景にある理由を丁寧に引き出します。「なぜそれが大切なのか」「どのような経験や将来像と関係しているのか」と問いかけることで、判断基準がより明確になります。地域や職場を選ぶ視点が具体化されているかを確認してください。



【指導ガイド】
このスライドでは、前のワークで選んだ「重視する観点」をもとに、具体的な地域や職場の条件と照らし合わせながら、自分にとっての適合性を検討することがねらいです。
ここでは単に観点を並べるのではなく、自分の価値基準と地域の実情がどのように関係しているかを整理します。判断の軸を明確にし、選択の理由を説明できる状態を目指します。

ワークでは、3-1で選んだ三つの観点を中心に、地域の特徴や職場条件と結び付けて考えます。「生活環境を重視する」と選んだ場合には、具体的にどのような条件が満たされていると感じるのかを記入します。

このワークでは生成AIの活用を想定しています。キーワードに関する一般的な情報を、インターネット等から適切に探して要約することが難しい学習者に対しては、AIを用いて、介護職の一般的な労働条件や住んでいる地域の平均的なデータを検索・整理させるよう促すことも有効です。ただし、AIを活用して理由の文章を膨らませる場合も、「自分の本当の気持ちや将来の夢に合っているか」を必ず確認させ、自分自身の言葉として納得できる内容に仕上げるよう支援します。

指導者は、学生が「お金がたくさんほしいから」「休みがほしいから」といった一言で終わらせず、「それができると、あなたの日本での生活はどう良くなるの？」と深掘りするよう促してください。

グループディスカッションでは、観点の違いだけでなく、同じ観点でも理由が異なることに注目します。自分の判断軸が具体的に説明できていることを確認し、次のまとめの活動へとつなげてください。

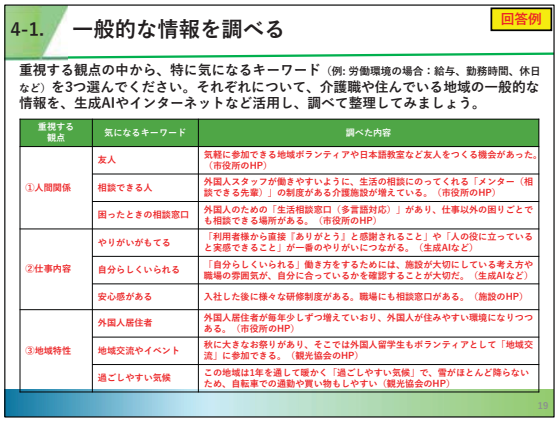


【指導ガイド】
ここからSTEP4に入ります。

STEP4では、インターネットで調べられる一般的な情報だけでなく、人に話を聞いたり実際に体験したりすることで、その地域の良さや特色を見つける方法を具体的に考え、調査に向けた行動計画を立てることをねらいとします。

このステップでは、まずSTEP3で選んだ「働く場所を決めるうえで重視する観点」について、気になるキーワードを選び、インターネットや生成AIを活用して一般的な情報を調べます。次に、一般的な情報から一歩踏み込み、自分たちが住んでいる地域の実情に近いリアルな情報を得るには「誰に聞けばよいか」「どこへ行けば確かめられるか」といった具体的な調べ方を検討します。最後に、グループでさらに深く調べてみたい観点を一つ選び、その目標達成に向けて、今後調べることや具体的な調査方法を整理し、自分たちの目で見て体験するための行動計画（アクションプラン）を立案します。

指導にあたっては、学生がインターネットの検索だけで終わらず、現場に足を運び生の声を聞くといったリアルな情報収集のアイデアを出せるよう支援してください。学生に問いかけを行いながら、主体的に行動できる実現可能な調査計画へと導く役割が求められます。



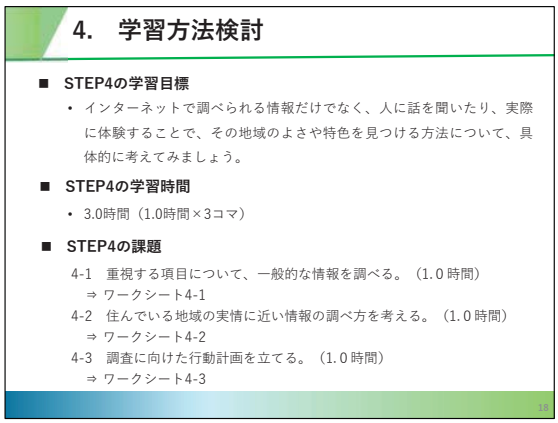
【指導ガイド】
このスライドでは、重視する観点について、客観的な一般情報を収集し、判断材料を広げることが目的です。

ここでは印象や推測に基づく判断から一歩進み、実際のデータや公開情報をもとに地域の実態を確認します。自分の価値基準と現実の条件を照らし合わせる準備段階です。

ワークでは、3-1，3-2で整理した「重視する観点」の中から特に気になるキーワードを三つ選びます。それぞれについて、介護職やその地域に関する一般的な情報を生成AIやインターネットを活用して調べ、整理します。
たとえば地域特性であれば「外国人居住者」や「地域交流イベント」「過ごしやすい気候」など、丸がついたキーワードを中心に調べます。情報を収集するだけでなく、重視する観点とどのように関係しているのかを意識しながら整理することが重要です。

このワークでは生成AIの活用を想定しています。調査に向けた具体的な目標や、地域の実情を調べるためのアクション（誰に聞くか、どこへ行くか等）を思いつくことが難しい学習者に対しては、AIを用いて、学生でも実行可能な調査方法のアイデアを複数提案させるよう促すことも有効です。ただし、AIの回答をそのまま記入させるのではなく、「自分たちが実際に無理なく実行できる行動か」「自分たちが本当に知りたい地域の実情に迫れる内容か」を自ら選択し、自分の回答として納得できる内容かを確認させることが重要です。

指導者は、学生が3-1で選んだキーワードをしっかりと引き継いで検索できているかを確認してください。 また、この段階ではインターネットやAIで調べられる「一般的な情報（客観的な事実や傾向）」にとどまることに気づかせることが重要です。



【指導ガイド】
このスライドでは、STEP4で取り組むワークと到達目標を確認します。

最初に学習目標を共有し、このステップがインターネット上の一般的な情報だけでなく、ヒアリングや実体験を通して地域の実情に近い情報を集めるための「学習方法の検討」を目的としていることを押さえてください。

1つ目のワークでは、STEP3で選んだ重視する観点について、一般的な情報を調べます。インターネット等を活用して客観的なデータや労働条件などを把握し、次の具体的な調査に向けた土台を作ることが狙いです。
2つ目のワークでは、一般的な情報だけでは分からない「住んでいる地域の実情に近い情報」の調べ方を考えます。誰に聞くか、どこに行くかなど、現場のリアルな声を集める具体的なアプローチを検討させてください。
3つ目のワークでは、調査に向けた具体的な行動計画を立てます。自分たちのグループの目標を定め、何をどのように調べるかといったアクションプランを明確にし、学生自身が実行可能な計画へと落とし込みます。

学習時間は合計3.0時間です。
一般的な情報の検索に時間をかけすぎず、地域の実情に迫るための調べ方や、具体的な行動計画の策定（グループでの合意形成）に十分な時間を確保できるよう、進捗を管理してください。

指導にあたっては、学生がインターネットの検索だけで満足しないよう注意を促してください。地域に足を運び、地域の人から直接生の話を聞くなど、リアルな情報収集の重要性と行動の意義に気付けるよう支援します。

「ネットにはこう書いてあるけど、実際の〇〇市の介護施設は本当にそうなのかな？」と問いかけることで、次のステップ（4-2. 住んでいる地域の実情に近い情報の調べ方を考える）でのリアルな情報収集の必要性へとスムーズに繋げてください。

時間配分としては、情報収集の時間と整理の時間を明確に区切ります。調べることに時間をかけ過ぎず、整理と共有の時間を確保してください。

4-2. 地域の実情に近い情報の調べ方を考える

回答例

調査している観点について、より詳しく、私たちが住んでいる地域の実情に近い情報を調べるには、どのようにしたらよいでしょうか。生成AIを活用しながら、調べる方法を考えてみましょう。

重視する観点	住んでいる地域の実情に近い情報の調べ方
① 人間関係	• 市役所の「生活相談窓口」に実際に行ってみて、窓口の担当者に話を聞いてみる。 • 「ボランティア日本語教室」に見学に行き、そこに参加している留学生や外国人の先輩と交流する。
② 仕事内容	• 気になる介護施設の「施設見学」に参加してみる。 • アルバイト先の介護施設の先輩に、ネットには書いていない「毎日の仕事で感じる本当のやりがい」や「職場のリアルな人間関係」について話を聞いてみる。
③ 地域特性	• 秋にあるお祭りのボランティアに実際に参加してみる。 • 外国人がよく行くスーパーや道の駅に行き、自分の国の食材が本当に売られているか、自転車で買い物に行きやすい道を走ってみて自分で確かめる。

今回調べた3つの観点から、今後更に深く調べてみたい観点を1つ選びましょう。

地域特性

20

【指導ガイド】
このスライドでは、4-1で調べた一般的な情報から一歩踏み込み、自分たちが住む地域の実情に近いリアルな情報を集めるための具体的な方法（誰に聞くか、どこに行くかなど）を考えることがねらいです。
インターネットやAIによる検索だけでは得られない「現場の生の声」や「実際の体験」の重要性に着目させてください。自分たちが実際に足を運んだり、人に聞いたりできる具体的な行動を伴う調べ方になっているかを確認することが重要です。

学習の進め方は、まず3つの観点それぞれについて、ヒアリングや現地訪問などの具体的なアクションを考えさせることがポイントです。その後、グループで話し合い、自分たちの将来に最も直結する、さらに深く調べてみたい観点を1つに絞り込むよう促してください。
グループディスカッションでは、「なぜその観点をさらに深く調べたいのか」という理由を言語化させることが重要です。

指導にあたっては、学生が「もう一度ネットで調べる」といった回答で終わらないよう、「誰に話を聞けば分かるか」「どこへ行けば確かめられるか」と問いかけ、リアルな情報収集のアイデアを引き出すよう支援してください。

このワークでは生成AIの活用を想定しています。どのように調べればよいか具体的な方法を思いつくことが難しい学習者に対しては、AIを用いて、効果的な情報収集のアプローチ（ヒアリングすべき相手や、訪問すべき場所など）のアイデアを複数提案させるよう促すことも有効です。ただし、AIの回答をそのまま記入させるのではなく、「自分たちが実際に無理なく実行できる調査方法か」を自ら選択し、自分の回答として納得できる内容かを確認させることが重要です

20

STEP5　学習計画立案・発表

22

【指導ガイド】
ここからSTEP5に入ります。

STEP5では、これまでの学習を発表資料として整理し、他者に伝えることを通して、自分たちの思考をさらに明確にすることが目的です。地域の特徴を把握し、重視する観点を整理し、情報を調査し、働く姿を具体化してきた一連のプロセスを、第三者にも理解できる形で示します。発表は結論の提示ではなく、思考の軌跡を共有する場であることを全体で確認してください。

指導にあたっては、ただワークシートから転記するだけの作業にならないよう留意します。どのような気付きから出発したのか、どの情報を根拠に地域を理解したのか、どのように自分の将来像と結び付けたのかという流れが、資料上で読み取れる構造になっているかを確認してください。STEPごとの内容が分断されず、地域定着というテーマに向かって積み重なっていることが重要です。また、発表を聞く側にも、思考のプロセスに着目する視点を共有してください。

このSTEPでは、内容の優劣を競うことよりも、自分たちがどのような視点で地域を捉え直したのかを、自分の言葉で説明できる状態を目指します。発表後には、他グループの視点から新たな気付きを得る時間を設けることで、理解がさらに広がります。

22

4-3. 調査に向けた行動計画を立てる

回答例

4-2で選んだ観点について、私たちが住んでいる地域の実情に近い情報を調べるために、グループの目標や調べること、調べる方法について、生成AIを活用しながら、具体的に考えてみましょう。

グループ目標	• この地域が、地域の人と関わりながら楽しく生活できる町かどうか、自分たちの目で見て体験する。
今後調べること	• 参加できる地域のお祭りやイベントがあるかどうか。参加したとき、地域の人たち話しかけやすい雰囲気があるかどうか。 • 休みの日にリラックスできる場所（温泉や道の駅など）は、自分たちの移動手段（自転車やバス）で本当に行きやすいか、楽しめるか。 • 地域ボランティアの活動拠点や相談窓口は、実際に足を運びやすく、地域の人と交流できる場所になっているか。
調べる方法	• 地域のイベントやボランティアにグループで参加し、一緒に準備をしながら地域の人たちと実際に会話をしてみる。 • 次の休みの日に、グループのみんなで自転車（またはバス）を使って「道の駅」に行き、買い物をしたり地域の人に話を聞いてみたりする。 • 市内で開かれている「ボランティア日本語教室」に見学に行き、参加している外国人の先輩たちに普段の生活の様子や休日の過ごし方をインタビューする。

21

【指導ガイド】
このスライドでは、これまで整理してきた重視する観点や地域条件を踏まえ、今後どのような調査を行うかを具体的に計画することが目的です。
ここでは情報を増やすことそのものが中心ではありません。自分たちが何を明らかにしたいのかを明確にし、そのためにどのような行動を取るかを整理します。思考段階から行動段階へ移行する節目にあたるワークです。

ワークでは、4-2で検討した観点の中から特に重要と考えた項目をもとに、グループ目標を設定します。次に「今後調べること」として、より具体的な問いを立てます。抽象的なテーマのままにせず、「どの情報が不足しているのか」「どの条件を詳しく知る必要があるのか」を明確にします。そのうえで「調べる方法」を整理します。生成AIの活用方法、インターネット検索、自治体資料、インタビューなど、複数の手段を具体的に挙げさせてください。

このワークでは生成AIの活用を想定しています。行動計画を考えることが難しい学習者に対しては、AIを用いて、学生でも実行可能な調査方法やアクションプランのアイデアを複数提案させるよう促すことも有効です。ただし、AIの回答をそのまま記入させるのではなく、「自分たちが実際に無理なく実行できる行動か」「自分たちが本当に知りたい地域の実情に迫れる内容か」を自ら選択し、自分の回答として納得できる内容かを確認させることが重要です。

指導者は、学生が立てた「調べる方法」が、「学生の自分たちでも本当に実行できる行動か」を確認してください。例えば「すべてのお祭りに行く」「たくさんの施設を見学する」といった無理な計画になっていないかを見守り、「まずは来週、学校の先生に見学のお願いをしに行こう」といった、すぐに始められる具体的な第一歩の行動（ネクストアクション）へと背中を押すことが重要です。

21

5.　学習計画立案・発表

■ **STEP5の学習目標**

- STEP1-STEP4までの分析を統合し、地域定着のための学習行動計画書を完成させましょう。

■ **STEP5の学習時間**

- 1.5時間（1.5時間×1コマ）

■ **STEP5の課題**

5-1　「発表資料」ライフプランから考える地域理解のための学習計画立案（1.0時間）
⇒ ワークシート5-1
5-2　各グループで代表者を決め、全体で発表する（0.5時間）

23

【指導ガイド】
このスライドでは、発表の目的と共有の視点を理解させることがねらいです。

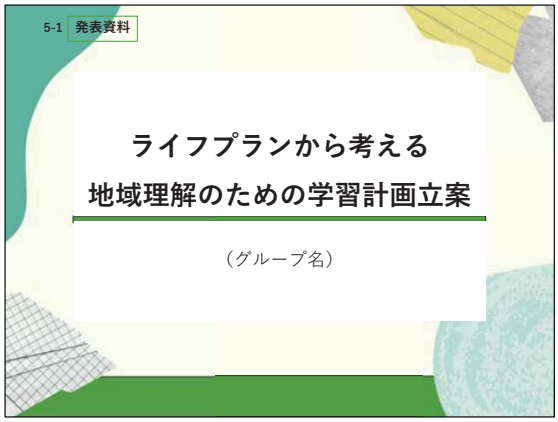
発表は成果の優劣を競う場ではなく、STEP1からSTEP3までの思考の流れを可視化し、学習のプロセスを共有する段階です。

発表では、STEP1で描いた将来像、STEP2で整理した地域理解、STEP3で具体化した準備や行動計画を順に示します。それぞれの内容が独立して提示されるのではなく、「将来像から出発し、地域理解を経て、行動へとつながった」という一連の流れが見える構成で共有させてください。発表資料の完成度よりも、思考の因果関係が伝わっているかが重要です。

発表時間は全体で30分間です。思考のつながりが最も伝わる部分に重点を置いて発表すると効果的です。質疑応答の時間も確保し、他者の視点から気付きが得られる場を設けるとよいでしょう。

指導にあたっては、「どの将来像から出発したのか」「どの地域要素が鍵となったのか」「どのような準備へと結び付いたのか」という因果の流れが語られているかを観察してください。単なる情報提示にとどまらず、思考の筋道が一貫している場合、学習は深まっています。この段階の到達点は、地域定着を自分の将来と結び付けて説明できる状態です。発表を通して思考が再整理されていることを確認し、教材全体の学習が統合されるよう進行してください。

23

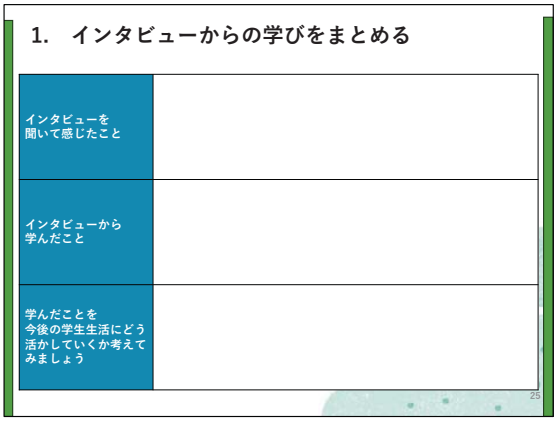


【指導ガイド】
このスライドは、グループの学習計画を発表するための表紙にあたります。

グループ名を記載し、「ライフプランから考える、地域理解のための学習計画」を発表する場であることを明確にします。
表紙は評価の対象ではありませんが、発表の目的と位置付けを全体で共有する役割があります。

ここで改めて、発表が成果物の完成度を競う場ではなく、これまでの学習プロセスを根拠とともに説明する場であることを確認してください。
また、発表に向けての意識を切り替えるタイミングでもあります。

「自分たちの計画を他者に伝える」という視点を持たせることで、計画の内容を再整理する機会になります。
指導にあたっては、発表資料の見た目ではなく、発表内容の一貫性と根拠に着目することを事前に伝えておくと、その後の準備が進めやすくなります。



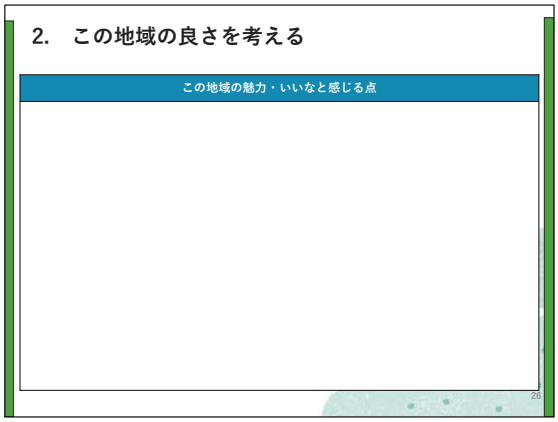
【指導ガイド】
このスライドでは、STEP1の先輩へのインタビューを通じて得たリアルな気づきと、それを自身の学生生活にどう活かすかという行動目標を発表し、地域理解に向けた学習計画の原点として全体で共有することが目的です。

学生が単なる感想を述べるだけでなく、先輩の生の声から何を学び、それを自分自身の具体的な行動目標に落とし込めているかを確認してください。インタビューで得た「地域で働くイメージ」が、学生生活での実践的なアクション（挨拶の徹底や地域行事への参加など）に直結していることが望ましいです。また、他のグループの発表を聞き、多様な視点や行動のアイデアに気づきを得る機会となるよう促してください。

先輩の具体的なエピソードから得た学びと、明日から実践できる行動目標の結びつきの強さに着目してください。抽象的な決意ではなく、自身の生活に引き寄せたリアルで主体的な行動目標が設定できているかが重要です。

指導にあたっては、発表内容の良し悪しを評価するのではなく、「なぜその行動をしようと思ったのか」という背景にあるインタビューでの気づきを言語化できるよう支援してください。学生の主体的な姿勢を肯定することが重要です。

インタビューを通して感じた「この地域で働くイメージ」や「大切にしたいこと」が、客観的な地域の魅力や自身の価値観とどう結びつくのかを問いかける声かけを行うことで、次のスライドとのつながりを意識させます。



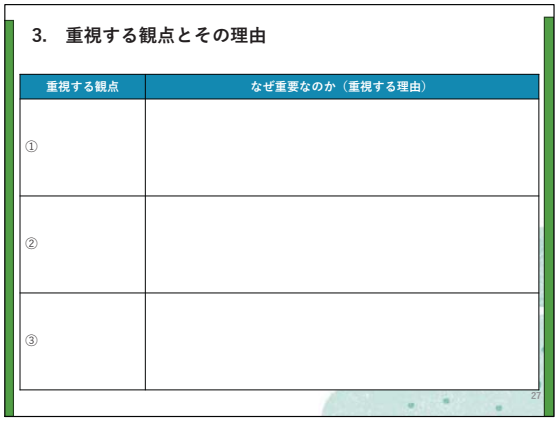
【指導ガイド】
このスライドでは、STEP2の地域分析を通じて、客観的な地域の特徴から、学生自身が「この地域の良さ」をどのような魅力や価値として見出したかを発表し、グループごとの多様な視点を全体で共有することが目的です。

学生が一般的な地域のPRポイントを述べるだけでなく、自分自身の将来の生活や価値観に結びつけて「自分にとっての良さ」として語れているかを確認してください。生活のしやすさや人とのつながりなど、留学生ならではのリアルな視点で具体的な魅力が見出されていることが望ましいです。また、他のグループの発表を聞くことで、同じ地域でも人によって感じ方や価値観が異なることに気づき、地域の魅力の多様性を理解する機会となるよう促してください。

客観的に調べた地域の事実が、学生自身の主観的な魅力へとどのように変換されているかに着目してください。「物価が安いから貯金できる」など、自身の生活や実感に基づいた具体的な価値として言語化できているかが重要です。

指導にあたっては、発表された魅力の良し悪しを評価するのではなく、「なぜそれを良いと感じたのか」という背景にある個人の価値観を言葉にできるよう支援してください。学生が見出した多様な視点や独自の価値観を肯定することが重要です。

自分にとって魅力に感じる地域の要素が、実際に働く場所や住む場所を決める際に「重視する条件」としてどのように反映されるのかを問いかける声かけを行うことで、次のスライドとのつながりを意識させます。

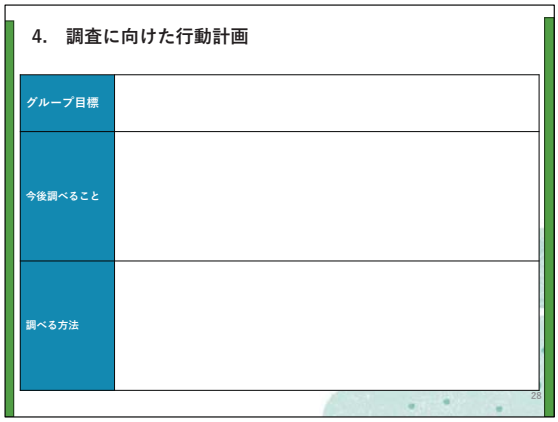


【指導ガイド】
このスライドは、STEP2と3の分析結果をもとに、自分たちが感じた地域の魅力と、将来働く場所を決める際に重視する観点やその理由を共有することを目的とします。学習計画の根拠となる価値観やニーズを明確にする部分です。

地域の魅力が単なる一般的な情報ではなく、学習者自身の視点（生活しやすさや人の温かさなど）で語られているかを確認してください。また、重視する観点については、「なぜそれが重要なのか」という理由が論理的に説明されているかが重要です。AIからの情報に頼りすぎず、自分たちのライフプランや価値観に根ざした、納得感のある理由として言語化されていることが望ましいです。

重視する観点とその理由が、グループメンバーの実際の生活実感や将来のキャリアプランとしっかり結びついているかに着目してください。この価値観の整理が、次に行う「調査に向けた行動計画」の方向性を決定づける重要な軸となります。

指導にあたっては、重視する観点について「なぜその理由になったのか」を深掘りするよう促してください。単に項目を読み上げるだけでなく、自分たちの経験や不安、期待などを交えて語ることで、発表に説得力を持たせるよう支援します。



【指導ガイド】
最後に、学習計画をどのように実行していくかをグループとして表明します。

ここでは、形式的なまとめではなく、地域理解や将来の地域定着に向けてどのように取り組むかが自分たちの言葉で示されていることが重要です。

これまでに立てた計画を実行していくために、どのような姿勢で学習に取り組むのか、グループとしてどのように取り組んでいくのか、発表後の学習行動につながる内容になっているかに着目します。

発表の最後に位置付けられているため、聞き手が「このグループはどのように学習を進めていくのか」を具体的にイメージできる内容になっていることが望ましいです。

28

６．「外国人介護職のための介護・日本語教育文章読解演習テキスト」

テキスト教材・指導ガイド

科目【国家試験対策】

外国人介護職のための介護・日本語教育 文章読解演習テキスト

一般社団法人介護福祉教育コンソーシアム
プロトタイプ版（令和7年度）

1

目次

【事例1】膝の痛みと生活変化に不安を感じる一人暮らしの女性
【事例2】聴力低下のある施設入所高齢者とのコミュニケーション
【事例3】認知症の父の消費者トラブルに対する娘からの相談への対応
【事例4】生活困窮状態にある引きこもりの姉に対する支援の相談
【事例5】骨粗鬆症の高齢女性への支援
【事例6】介護老人保健施設入所中の高齢男性の食事中のトラブル
【事例7】肥満の男性の入浴時の感覚
【事例8】砂場遊びが好きな広汎性発達障害の幼稚園児の対応
【事例9】高齢男性の激しい胸痛
【事例10】アルツハイマー型認知症の女性の夫への妄想
【事例11】アルツハイマー型認知症の女性の認知症高齢者グループホーム入居後の様子
【事例12】療育手帳を所持する女性の金銭管理への支援
【事例13】胃ろうによる経管栄養中の女性の腹部膨満感
【事例14】若年性認知症の母親を持つ高校生の娘の悩み
【事例15】入浴動作に困難を感じ始めた脳梗塞後遺症の男性への支援
【事例16】難聴のある高齢女性利用者とのコミュニケーション
【事例17】失語症のある女性利用者への入浴予定の伝え方
【事例18】夜盲のある女性利用者との夕方の出会い
【事例19】認知症の女性の尿路感染症予防のための介護
【事例20】テレビショッピングの健康食品購入に困る高齢女性への対応
【事例21】睡眠中のいびきと日中の眠気がある男性施設利用者への対応
【事例22】認知症の高齢女性の大正琴を通した支援
【事例23】就労継続支援B型事業所を利用する左片麻痺の男性
【事例24】前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援
【事例25】車の事故により脊髄損傷となった男性
【事例26】アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援
【事例27】自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援

2

【事例１】

膝の痛みと生活変化に不安を感じる一人暮らしの女性



3

【事例1】膝の痛みと生活変化に不安を感じる一人暮らしの女性

この事例では、一人暮らしをしている高齢の女性が登場します。
この女性は、ひざの痛みや生活の変化によって、不安を感じるようになりました。
この事例を通して、利用者の気持ちや介護福祉職の役割を考えてみましょう。

3

【事例１】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Aさん（76歳、女性、要支援1）は、一人暮らしである。週1回介護予防通所リハビリテーションを利用しながら、近所の友人たちとの麻雀を楽しみに生活している。最近、膝に痛みを感じ、変形性膝関節症（knee osteoarthritis）と診断された。同時期に友人が入院し、楽しみにしていた麻雀ができなくなった。Aさんは徐々に今後の生活に不安を感じるようになった。ある日、「自宅で暮らし続けたいけど、心配なの…」と介護福祉職に話した。

出典：第36回人間の尊厳と自立（令和5年度）

4

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Aさん（76歳、女性、要支援1）は、一人暮らしである。
週1回介護予防通所リハビリテーションを利用しながら、近所の友人たちとの麻雀を楽しみに生活している。
最近、膝に痛みを感じ、変形性膝関節症（knee osteoarthritis）と診断された。
同時期に友人が入院し、楽しみにしていた麻雀ができなくなった。
Aさんは徐々に今後の生活に不安を感じるようになった。
ある日、「自宅で暮らし続けたいけど、心配なの…」と介護福祉職に話した。

以上が、今回の事例の説明です。

4

【事例1】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Aさん（76歳、女性、要支援1）は、一人暮らしです。
② 週1回介護予防通所リハビリテーションを利用しています。
③ 近所の友人たちとの麻雀を楽しみに生活しています。
④ 最近、膝に痛みを感じました。
⑤ 変形性膝関節症（knee osteoarthritis）と診断されました。
⑥ 同時期に友人が入院しました。
⑦ 楽しみにしていた麻雀ができなくなりました。
⑧ Aさんは徐々に今後の生活に不安を感じるようになりました。
⑨ ある日、「自宅で暮らし続けたいけど、心配なの…」と介護福祉職に話しました。

5

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Aさんがどのような生活をしているのか、どんなことで困っているのかを考えながら読みましょう。

① Aさん（76歳、女性、要支援1）は、一人暮らしです。
② 週1回介護予防通所リハビリテーションを利用しています。
③ 近所の友人たちとの麻雀を楽しみに生活しています。
④ 最近、膝に痛みを感じました。
⑤ 変形性膝関節症（knee osteoarthritis）と診断されました。
⑥ 同時期に友人が入院しました。
⑦ 楽しみにしていた麻雀ができなくなりました。
⑧ Aさんは徐々に今後の生活に不安を感じるようになりました。
⑨ ある日、「自宅で暮らし続けたいけど、心配なの…」と介護福祉職に話しました。

事例の説明は理解できましたか。

【事例1】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）変形性膝関節症 （knee osteoarthritis）	ひざの関節が悪くなり、痛くなったり、はれたりする。そのため、ひざを動かしにくくなる病気。

6

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「変形性膝関節症」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、ひざの関節が悪くなり、痛みが出たり、はれたりして、ひざを動かしにくくなる病気のことです。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

【事例1】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Aさんはどのようなサービスを利用していますか。

問2 Aさんの普段の生活の楽しみは何ですか。

問3 Aさんに最近起きた変化は何ですか。

問4 Aさんが介護福祉職に話した内容から、どのような気持ちが読み取れますか。

7

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Aさんがどのようなサービスを利用しているかを考えます。
事例の中に出てきた支援やサービスを思い出してください。

次に、Aさんが普段の生活で何を楽しみにしていたのかを考えます。
Aさんの日常の様子に注目して読み返してみましょう。

続いて、最近Aさんの生活にどのような変化があったのかを考えます。
体の変化や、生活の中でできなくなったことに目を向けてみましょう。

最後に、Aさんが介護福祉職に話した言葉から、どのような気持ちを持っているのかを考えます。
不安や希望など、Aさんの気持ちを想像しながら答えてみてください。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例1】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Aさんはどのようなサービスを利用していますか。
【正解】週1回の介護予防通所リハビリテーションを利用している。

問2 Aさんの普段の生活の楽しみは何ですか。
【正解】近所の友人たちとの麻雀を楽しみにしている。

問3 Aさんに最近起きた変化は何ですか。
【正解】膝に痛みを感じ、変形性膝関節症と診断された。
また、同時期に友人が入院し、楽しみにしていた麻雀ができなくなった。

問4 Aさんが介護福祉職に話した内容から、どのような気持ちが読み取れますか。
【正解】自宅での生活を続けたいという希望を持ちつつも、
それが実現できるかどうかに不安を感じている。

8

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Aさんは、週に1回、介護予防通所リハビリテーションを利用しています。
これが、Aさんが利用しているサービスです。

Aさんの普段の生活の楽しみは、近所の友だちと一緒に麻雀をすることです。
これは、事例の中で楽しみとして書かれていました。

最近Aさんに起きた変化として、ひざに痛みを感じるようになり、病院で変形性膝関節症と診断されたことが分かります。
また、同じ時期に友だちが入院したため、楽しみにしていた麻雀ができなくなりました。

Aさんが介護福祉職に話した内容から、自宅で暮らし続けたいという気持ちがあることが分かります。
一方で、それが本当にできるのかどうか、不安を感じている様子も読み取れます。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

【事例1】演習③ 質問を読んで考えよう

問5 Aさんに対する介護福祉職の対応として、最も適切なものを1つ選び、その理由を説明してください。

1.要介護認定の申請を勧める。
2.友人のお見舞いを勧める。
3.膝の精密検査を勧める。
4.別の趣味活動の希望を聞く。
5.生活に対する思いを聞く。

9

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「要介護認定の申請を勧める。」
2つ目、「友人のお見舞いを勧める。」
3つ目、「膝の精密検査を勧める。」
4つ目、「別の趣味活動の希望を聞く。」
5つ目、「生活に対する思いを聞く。」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

9

【事例２】

聴力低下のある施設入所高齢者とのコミュニケーション



11

【事例２】聴力低下のある施設入所高齢者とのコミュニケーション

この事例では、施設に入って生活している高齢の女性が出てきます。
介護福祉職が声をかけましたが、うまく伝わりませんでした。
そのため、女性は困った様子を見せました。
この事例を通して、介護福祉職として、声の大きさや話すスピードなど、話し方のくふうを学びましょう。

11

【事例1】演習③ 質問を読んで考えよう

問5 Aさんに対する介護福祉職の対応として、最も適切なものを1つ選び、その理由を説明してください。

1.要介護認定の申請を勧める。
2.友人のお見舞いを勧める。
3.膝の精密検査を勧める。
4.別の趣味活動の希望を聞く。
5.生活に対する思いを聞く。

10

【解説】

- Aさんは、体の動きが悪くなり、生活の環境も変わったため、**これからの生活に不安を感じています。**
- この段階では、まずAさんの気持ちに寄りそい、**生活についてどう思っているかを、しっかり聞くことが大切**です。
- 不安や希望がよく分からないまま、何かをすすめることは、よい対応とは言えません。

10

では、問5の答えを確認します。

正解は、「生活に対する思いを聞く」です。
Aさんは、体を動かしにくくなり、生活のようすが変わりました。
そのため、これからの生活について不安を感じています。
この段階では、まずAさんの気持ちを確認します。
生活について、どのように思っているのかを聞くことが大切です。
不安や希望が分からないまま、何かを勧めることは、適切な対応とは言えません。

以上で、事例1の学習を終了します。

10

【事例2】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Bさん（90歳、女性、要介護3）は、介護老人福祉施設に入所している。入浴日に、担当の介護福祉職が居室を訪問し、「Bさん、今日はお風呂の日です。時間は午後3時からです」と伝えた。しかし、Bさんは言っていることがわからなかったようで、「はい、何ですか」と困った様子で言った。

出典：第36回人間関係とコミュニケーション（令和5年度）

12

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Bさん（90歳、女性、要介護3）は、介護老人福祉施設に入所している。
入浴日に、担当の介護福祉職が居室を訪問し、「Bさん、今日はお風呂の日です。時間は午後3時からです」と伝えた。
しかし、Bさんは言っていることがわからなかったようで、「はい、何ですか」と困った様子で言った。

以上が、今回の事例の説明です。

12

【事例2】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Ｂさん（90歳、女性、要介護3）は、介護老人福祉施設に入所しています。
② 入浴日に、担当の介護福祉職が居室を訪問しました。
③ 介護福祉職は「Ｂさん、今日はお風呂の日です。時間は午後3時からです」と伝えました。
④ しかし、Ｂさんは言っていることがわからなかったようです。
⑤ Ｂさんは「はい、何ですか」と困った様子で言いました。

13

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Bさんがどのような生活をしているのか、どんなことで困っているのかを考えながら読みましょう。

① Ｂさん（90歳、女性、要介護3）は、介護老人福祉施設に入所しています。
② 入浴日に、担当の介護福祉職が居室を訪問しました。
③ 介護福祉職は「Ｂさん、今日はお風呂の日です。時間は午後3時からです」と伝えました。
④ しかし、Ｂさんは言っていることがわからなかったようです。
⑤ Ｂさんは「はい、何ですか」と困った様子で言いました。

事例の説明は理解できましたか。

13

【事例2】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）介護老人福祉施設	家で生活することがむずかしい高齢の人が、介護を受けて生活する施設。

14

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「介護老人福祉施設」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、家で生活することがむずかしい高齢の人が、介護を受けて生活する施設のことです。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

14

【事例2】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Bさんの基本情報について、事例から読み取れることは何ですか。

問2 介護福祉職は何を伝えようとしましたか。

問3 Bさんの反応から、Bさんはどのような様子で、どのような気持ちだと考えられますか。

15

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Bさんの基本情報について、事例からわかることをまとめます。
事例の中に出てきたBさんの年齢や性別、介護度や生活している場所を思い出してください。

次に、介護福祉職はBさんに何を伝えようとしていたかを考えます。
介護福祉職がBさんに言った内容に注目して読み返してみましょう。

最後に、Bさんの反応から、Bさんの様子や気持ちを読み取ります。
耳の聞こえなどBさんの健康状態を考えてみましょう。
また、不安などBさんの気持ちを想像してみましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

15

【事例2】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Bさんの基本情報について、事例から読み取れることは何ですか。
【正解】90歳の女性で要介護3。介護老人福祉施設に入所している。

問2 介護福祉職は何を伝えようとしましたか。
【正解】今日が入浴日であること、および入浴時間が午後3時からであること。

問3 Bさんの反応から、Bさんはどのような様子で、どのような気持ちだと考えられますか。
【正解】耳が聞こえにくくなっており、介護福祉職の言葉が聞き取れていない。
また、その状況に困っている様子である。

16

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Bさんは、90歳の女性で要介護3。介護老人福祉施設に入所しています。
これが、事例から読み取れるBさんの基本情報です。

介護福祉職は、今日が入浴日で、入浴時間が午後3時からであることを伝えようとしていました。
これは、事例の中で介護福祉職の言葉に書かれていました。

介護福祉士の言葉に対するBさんの反応は、介護福祉職の言葉が聞き取れていないようでした。
耳が聞こえにくくなっていて、その状況に困っている様子が読み取れます。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

16

【事例2】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 介護福祉職の準言語を活用した対応として、最も適切なものを1つ選び、その理由を説明してください。

1. 強い口調で伝えた。
2. 抑揚をつけずに伝えた。
3. 大きな声でゆっくり伝えた。
4. 急かすように伝えた。
5. 早口で伝えた。

17

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「強い口調で伝えた。」
2つ目、「抑揚をつけずに伝えた。」
3つ目、「大きな声でゆっくり伝えた。」
4つ目、「急かすように伝えた。」
5つ目、「早口で伝えた。」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例３】

認知症の父の消費者トラブルに対する娘からの相談への対応



19

【事例３】認知症の父の消費者トラブルに対する娘からの相談への対応

この事例では、一人暮らしをしている高齢の男性が出てきます。
Dさんは、認知症があり、訪問介護サービスを利用しています。
ある日、訪問介護員がDさんの家を訪ねたとき、近所に住んでいるDさんの娘から相談がありました。

この事例を通して、介護福祉職として、利用者や家族からの相談にどう対応するかを学びましょう。

【事例2】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 介護福祉職の準言語を活用した対応として、最も適切なものを1つ選び、その理由を説明してください。

1. 強い口調で伝えた。
2. 抑揚をつけずに伝えた。
3. **大きな声でゆっくり伝えた。**
4. 急かすように伝えた。
5. 早口で伝えた。

【解説】

- Bさんは、**耳が聞こえにくく、話の内容が聞き取れずに困っています。**
- そのため、伝わりやすくなるように、**大きな声ではっきりと、ゆっくり話すことが大切**です。
- 強い口調や早口で話すと、相手をこわがらせたり、さらに聞き取りにくくなったりします。

18

では、問4の答えを確認します。

正解は、「大きな声でゆっくり伝えた。」です。
Bさんは、耳が聞こえにくいです。
そのため、話の内容が聞き取れずに困っている様子です。
このような場合は、伝わりやすい話し方をしましょう。
大きな声ではっきりと、ゆっくり話すことが大切です。
強い口調や抑揚のない声、早口は、相手を怖がらせたり、さらに聞き取りがしにくくなったりします。

以上で、事例2の学習を終了します。

【事例3】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Dさん（80歳、男性、要介護2）は、認知症（dementia）がある。訪問介護（ホームヘルプサービス）を利用しながら一人暮らしをしている。ある日、訪問介護員（ホームヘルパー）がDさんの自宅を訪問すると、近所に住むDさんの長女から、「父が、高額な投資信託の電話勧誘を受けて、契約しようかどうか悩んでいるようで心配だ」と相談された。

出典：第36回社会の理解（令和5年度）

20

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Dさん（80歳、男性、要介護2）は、認知症（dementia）がある。訪問介護（ホームヘルプサービス）を利用しながら一人暮らしをしている。
ある日、訪問介護員（ホームヘルパー）がDさんの自宅を訪問すると、近所に住むDさんの長女から、「父が、高額な投資信託の電話勧誘を受けて、契約しようかどうか悩んでいるようで心配だ」と相談された。

以上が、今回の事例の説明です。

【事例3】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Dさん（80歳、男性、要介護2）は、認知症（dementia）があります。
② 訪問介護（ホームヘルプサービス）を利用しながら一人暮らしをしています。
③ ある日、訪問介護員（ホームヘルパー）がDさんの自宅を訪問しました。
④ 近所に住むDさんの長女から相談を受けました。
⑤ 「父が、高額な投資信託の電話勧誘を受けて、契約しようかどうか悩んでいるようで心配だ」という内容でした。

21

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Bさんがどのような生活をしているのか、どんなことで困っているのかを考えながら読みましょう。

① Dさん（80歳、男性、要介護2）は、認知症（dementia）があります。
② 訪問介護（ホームヘルプサービス）を利用しながら一人暮らしをしています。
③ ある日、訪問介護員（ホームヘルパー）がDさんの自宅を訪問しました。
④ 近所に住むDさんの長女から相談を受けました。
⑤「父が、高額な投資信託の電話勧誘を受けて、契約しようかどうか悩んでいるようで心配だ」という内容でした。

事例の説明は理解できましたか。

21

【事例3】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）認知症（dementia）	年をとることで、ものごとを忘れやすくなる病気。名前や約束、お金など生活に関わることが、分かりにくくなることがある。

22

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「認知症（dementia）」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、年をとることで、ものごとを忘れやすくなる病気のことです。
名前や約束、お金など生活に関わることが、分かりにくくなることがあります。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

22

【事例3】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Dさんはどのような状態で生活していますか。

問2 長女の相談内容は具体的に何ですか。

問3 この事例ではどのような問題が考えられますか。

23

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Dさんがどのように生活しているか、事例から読み取ります。
事例の中に出てきたDさんの年齢や性別、介護の状態、利用しているサービスを思い出してください。

次に、長女からの訪問介護員への相談の内容について考えます。
Dさんがどのような電話を受け、娘がなぜ心配しているのかに注目して読み返しましょう。

最後に、この事例でどのような問題が心配されるかを考えます。
認知症があることで、お金や契約の判断がむずかしくなることを意識してみましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

23

【事例3】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Dさんはどのような状態で生活していますか。
【正解】認知症があり、要介護2の状態。訪問介護を利用しながら一人暮らしをしている。

問2 長女の相談内容は具体的に何ですか。
【正解】父親が高額な投資信託の電話勧誘を受けており、契約を悩んでいることへの心配。

問3 この事例ではどのような問題が考えられますか。
【正解】認知症のある高齢者が、判断能力が十分でない状態で、高額な金融商品の契約を結んでしまう可能性がある。これは消費者被害につながる恐れがある。

24

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Dさんは、80歳の男性で、認知症があり、要介護2の状態です。訪問介護を利用しながら、一人暮らしをしています。
これが、事例から読み取れるDさんの生活の状態です。

長女の相談内容は、Dさんが高いお金がかかる投資信託へ電話勧誘を受けていて、契約しようかどうか悩んでいることを心配しているというものでした。
これは、事例の中で娘の言葉として書かれていました。

この事例では、Dさんに認知症があることで、正しい判断がむずかしくなっていることが想像できます。
そのため、判断力が十分でない状態で、高額の契約をしてしまうかもしれません。お金のトラブルにあう可能性が心配されます。
このような点が、事例から読み取れる問題です。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

24

【事例3】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 訪問介護員（ホームヘルパー）が長女に助言する相談先として、最も適切なものを1つ選び、その理由を説明してください。

1. 公正取引委員会
2. 都道府県障害者権利擁護センター
3. 運営適正化委員会
4. 消費生活センター
5. 市町村保健センター

25

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「公正取引委員会」
2つ目、「都道府県障害者権利擁護センター」
3つ目、「運営適正化委員会」
4つ目、「消費生活センター」
5つ目、「市町村保健センター」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

25

【事例３】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 訪問介護員（ホームヘルパー）が長女に助言する相談先として、最も適切なものを1つ選び、その理由を説明してください。

1. 公正取引委員会
2. 都道府県障害者権利擁護センター
3. 運営適正化委員会
4. **消費生活センター**
5. 市町村保健センター

【解説】

- **消費生活センターは、お金や契約など消費者トラブルについて相談できる**ところです。
- **電話の勧誘や、高いお金の契約について助言や支援**をしてくれます。
- この事例では、**認知症がある高齢者がトラブルにあう心配**があります。
- そのため、**専門の相談先である消費生活センターに相談をすすめることが大切**です。

26

では、問4の答えを確認します。

正解は、「消費生活センター」です。
消費生活センターは、お金や契約など消費者のトラブルについて相談できるところです。
電話の勧誘や、高いお金がかかる契約について、どうしたらよいかを教えてくれます。
この事例では、Dさんは認知症があり、お金や契約について正しく判断することがむずかしい状態です。
そのため、家族だけで悩まず、専門の相談先に相談することが大切です。
他の相談先ではなく、消費者トラブルにくわしい消費生活センターに相談をすすめることが、いちばん適切な対応です。

以上で、事例3の学習を終了します。

26

【事例４】

生活困窮状態にある引きこもりの姉に対する支援の相談



27

【事例４】生活困窮状態にある引きこもりの姉に対する支援の相談

この事例では、ひきこもりの状態で一人で暮らしている55歳の女性が出てきます。
この女性は、生活に困っているようです。
このことを、遠くに住む弟が、家主からの連絡で知りました。

この事例を通して、生活が急に変わったときに、どのような問題が起こるかを考えます。
また、介護や福祉の仕事をする人として、どこに相談するとよいか、どのように支援につなぐかを学びましょう。

27

【事例4】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ｅさん（55歳、女性、障害の有無は不明）は、ひきこもりの状態にあり、就労していない。父親の年金で父親とアパートで暮らしていたが、父親が亡くなり、一人暮らしになった。遠方に住む弟は、姉が家賃を滞納していて、生活に困っているようだと、家主から連絡を受けた。

出典：第36回社会の理解（令和5年度）

28

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ｅさん（55歳、女性、障害の有無は不明）は、ひきこもりの状態にあり、就労していない。
父親の年金で父親とアパートで暮らしていたが、父親が亡くなり、一人暮らしになった。
遠方に住む弟は、姉が家賃を滞納していて、生活に困っているようだと、家主から連絡を受けた。

以上が、今回の事例の説明です。

28

【事例4】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Ｅさん（55歳、女性、障害の有無は不明）は、ひきこもりの状態です。
② 就労していません。
③ 父親の年金で父親とアパートで暮らしていました。
④ 父親が亡くなり、一人暮らしになりました。
⑤ 遠方に住む弟は、家主から連絡を受けました。
⑥ 姉が家賃を滞納していて、生活に困っているようだという内容でした。

29

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Eさんの状況がどのように変化して、今どのような生活をしているのかを考えながら読みましょう。
また、弟がどのようにしてEさんの状況を知ったのかにも注目しましょう。

① Ｅさん（55歳、女性、障害の有無は不明）は、ひきこもりの状態です。
② 就労していません。
③ 父親の年金で父親とアパートで暮らしていました。
④ 父親が亡くなり、一人暮らしになりました。
⑤ 遠方に住む弟は、家主から連絡を受けました。
⑥ 姉が家賃を滞納していて、生活に困っているようだという内容でした。

事例の説明は理解できましたか。

【事例4】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）ひきこもり	家の外にあまり出ないで、仕事や学校に行かず、家の中にこもって生活している状態。

30

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「ひきこもり」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、家の外にあまり出ないで、仕事や学校に行かず、家の中にこもって生活している状態のことです。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

【事例4】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Eさんはどのような状態で生活していましたか。

問2 Eさんの状況はどのように変化しましたか。

問3 弟はどのようにしてEさんの状況を知りましたか。

31

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Eさんがどのように生活していたかを、事例から読み取ります。
事例の中に出てきた、Eさんの年齢や性別、仕事をしているかどうか、だれと生活していたかを思い出してください。

次に、Eさんの生活がどのように変わったかについて考えます。
なぜ一人暮らしになったのか、その結果生活にどのような影響が出たのかに注目して読み返しましょう。

最後に、弟がどのようにしてEさんの状況を知ったのかを考えます。
だれから、どのような内容の連絡があったのかを確認してみましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例4】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Eさんはどのような状態で生活していましたか。
【正解】ひきこもりの状態で就労しておらず、父親の年金で父親とアパートで暮らしていた。

問2 Eさんの状況はどのように変化しましたか。
【正解】父親が亡くなり一人暮らしとなった。
その後、家賃を滞納するなど生活に困窮している。

問3 弟はどのようにしてEさんの状況を知りましたか。
【正解】家主から、姉が家賃を滞納していて生活に困っているようだと連絡を受けた。

32

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Eさんは、55歳の女性で、ひきこもりの状態にあり、仕事をしていません。父親の年金で父親とアパートに住んでいました。
これが、事例から読み取れるEさんの生活の状態です。

その後、父親が亡くなり、Eさんは一人暮らしになりました。
収入がなくなり、家賃を払うことができず、生活に困っている様子が分かります。
これが、事例の中に書かれていた生活の変化です。

弟は、家主からの連絡によって、Eさんが家賃を滞納していて、生活に困っていることを知りました。
このようにして、弟はEさんの状況を知りました。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

【事例4】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 心配した弟が相談する機関として、最も適切なものを1つ選び、その理由を説明してください。

1. 地域包括支援センター
2. 福祉事務所
3. 精神保健福祉センター
4. 公共職業安定所（ハローワーク）
5. 年金事務所

33

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「地域包括支援センター」
2つ目、「福祉事務所」
3つ目、「精神保健福祉センター」
4つ目、「公共職業安定所（ハローワーク」
5つ目、「年金事務所」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

33

【事例４】

骨粗鬆症の高齢女性への支援



35

【事例5】粗鬆症のある高齢者への支援

この事例では、骨粗鬆症と診断された82歳の女性が出てきます。
Fさんの体の状態は、どのような様子でしょうか。
また、ふだんの生活は、どのように過ごしているのでしょうか。

この事例を通して、骨粗鬆症のある高齢者の日常生活の様子や、病気の進行を防ぐための支援について考えます。
また、介護福祉職として、どのような支援が適切かを学びましょう。

35

【事例4】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 心配した弟が相談する機関として、最も適切なものを1つ選び、その理由を説明してください。

1. 地域包括支援センター
2. **福祉事務所**
3. 精神保健福祉センター
4. 公共職業安定所（ハローワーク）
5. 年金事務所

【解説】

- **福祉事務所**は、収入がないなどの事情で**生活に困っている人の相談を受けるところ**です。
- **生活保護や生活支援について考えてくれる機関**です。
- そのため、Eさんのことを**専門の相談先である福祉事務所に相談をすることが大切**です。

34

では、問4の答えを確認します。

正解は、「福祉事務所」です。
福祉事務所は、収入がなく、生活に困っている人の相談を受け、生活を立て直すための支援を行う行政の機関です。
この事例では、Eさんは仕事をしておらず、父親が亡くなったあと、家賃を払えない状態になっています。
このような場合は、生活保護や生活困窮者支援制度を考える必要があります。
そのため、弟が相談する先として、福祉事務所がいちばん適切です。

以上で、事例4の学習を終了します。

34

【事例5】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ｆさん（82歳、女性）は、健康診断で骨粗鬆症（osteoporosis）と診断され、内服治療が開始された。杖歩行で時々ふらつくが、ゆっくりと自立歩行することができる。昼間は自室にこもり、ベッドで横になっていることが多い。リハビリテーションとして週3日歩行訓練を行い、食事は普通食を毎食8割以上摂取している。

出典：第36回こころとからだのしくみ（令和5年度）

36

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ｆさん（82歳、女性）は、健康診断で骨粗鬆症（osteoporosis）と診断され、内服治療が開始された。
杖歩行で時々ふらつくが、ゆっくりと自立歩行することができる。昼間は自室にこもり、ベッドで横になっていることが多い。
リハビリテーションとして週3日歩行訓練を行い、食事は普通食を毎食8割以上摂取している。

以上が、今回の事例の説明です。

36

【事例5】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Ｆさん（82歳、女性）は、健康診断で骨粗鬆症（osteoporosis）と診断されました。
② 内服治療が開始されました。
③ 杖歩行で時々ふらつきます。
④ ゆっくりと自立歩行することができます。
⑤ 昼間は自室にこもっています。
⑥ ベッドで横になっていることが多いです。
⑦ リハビリテーションとして週3日歩行訓練を行っています。
⑧ 食事は普通食を毎食8割以上摂取しています。

37

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Fさんの体の状態がどのような様子か、今どのような生活をしているのかを考えながら読みましょう。
また、治療やリハビリテーションの内容にも注目してみましょう。

① Ｆさん（82歳、女性）は、健康診断で骨粗鬆症（osteoporosis）と診断されました。
② 内服治療が開始されました。
③ 杖歩行で時々ふらつきます。
④ ゆっくりと自立歩行することができます。
⑤ 昼間は自室にこもっています。
⑥ ベッドで横になっていることが多いです。
⑦ リハビリテーションとして週3日歩行訓練を行っています。
⑧ 食事は普通食を毎食8割以上摂取しています。

事例の説明は理解できましたか。

【事例5】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）骨粗鬆症（osteoporosis）	骨が弱くなり、もろくなる病気。 少し転んだだけでも、骨が折れやすくなる状態。

38

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「骨粗鬆症（osteoporosis）」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、骨が弱くなり、もろくなる病気のことです。
少し転んだだけでも、骨が折れやすくなる状態になっています。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

【事例5】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Fさんは骨粗鬆症と診断され、どのような治療が開始されましたか。

問2 Fさんの歩行状態はどのようですか。

問3 Fさんは昼間どのように過ごしていますか。

問4 Fさんのリハビリテーションの内容と頻度を答えてください。

39

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、骨粗鬆症と診断されたFさんの治療について、事例から読み取ります。
どのような治療が始まったかを思い出してください。

次に、Fさんの歩き方の様子について考えます。
歩くときのようすや、一人で歩けているかどうかに注目してください。

次に、昼間の過ごし方について確認します。
Fさんが、日中どこで、どのように過ごしているかを思い出しましょう。

最後に、リハビリテーションの内容と回数について考えます。
どのようなリハビリを、どのくらいの回数で行っているかに注目してみましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例5】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Fさんは骨粗鬆症と診断され、どのような治療が開始されましたか。
【正解】内服治療が開始されました。

問2 Fさんの歩行状態はどのようですか。
【正解】時々ふらつきますが、ゆっくりと自立歩行することができます。

問3 Fさんは昼間どのように過ごしていますか。
【正解】自室にこもり、ベッドで横になっていることが多いです。

問4 Fさんのリハビリテーションの内容と頻度を答えてください。
【正解】歩行訓練を週3日行っています。

40

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Fさんは、健康診断で骨粗鬆症と診断され、内服治療が始まりました。
これが、事例から読み取れる治療の内容です。

歩行の状態については、時々ふらつきますが、ゆっくりと自分で歩くことができます。
これが、事例の中に書かれていたFさんの歩行の状態です。

Fさんは昼間は自室で過ごし、ベッドで横になっていることが多い様子が分かります。
これが、Fさんの昼間の過ごし方です。

Fさんはリハビリテーションとして、歩行訓練を週3日行っています。
これが、事例の中に書かれていたリハビリの内容と回数です。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

【事例5】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 Fさんの骨粗鬆症（osteoporosis）の進行を予防するための支援として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. リハビリテーションを週1日に変更する。
2. 繊維質の多い食事を勧める。
3. 日光浴を日課に取り入れる。
4. 車いすでの移動に変更する。
5. ビタミンA（vitamin A）の摂取を勧める。

41

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「リハビリテーションを週1日に変更する。」
2つ目、「繊維質の多い食事を勧める。」
3つ目、「日光浴を日課に取り入れる。」
4つ目、「車いすでの移動に変更する。」
5つ目、「ビタミンA（vitamin A）の摂取を勧める。」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

41

【事例5】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 Fさんの骨粗鬆症（osteoporosis）の進行を予防するための支援として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. リハビリテーションを週1日に変更する。
2. 繊維質の多い食事を勧める。
3. **日光浴を日課に取り入れる。**
4. 車いすでの移動に変更する。
5. ビタミンA（vitamin A）の摂取を勧める。

【解説】

- **日光をあびることで、体の中でビタミンDが作られ、骨を強くする働きがあります。**
- ビタミンDは**カルシウムの吸収を助ける**ため、**骨粗鬆症の予防**につながります。

42

では、問4の答えを確認します。

正解は、「日光浴を日課に取り入れる。」です。
日光をあびると、体の中でビタミンDが作られます。
ビタミンDは、カルシウムの吸収を助け、骨を強くする働きがあります。
Fさんは骨粗鬆症があり、骨が弱くなりやすい状態です。
そのため、日光浴を取り入れることは、骨粗鬆症の進行を防ぐために大切な支援となります。
他の選択肢は、骨粗鬆症の予防として効果が期待できません。

以上で、事例5の学習を終了します。

42

【事例６】

介護老人保健施設入所中の高齢男性の食事中のトラブル



43

【事例6】介護老人保健施設入所中の高齢男性の食事中のトラブル

この事例では、介護老人保健施設に入所している79歳の男性が出てきます。
Gさんは、食事のときの様子に注意が必要な状態です。
食事中に、苦しそうな様子が見られました。

この事例を通して、高齢者の食事中に起こりやすいトラブルについて考えます。
また、介護福祉職として、どのような点に注意し、どのように対応するとよいかを学びましょう。

43

【事例6】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Gさん（79歳、男性）は、介護老人保健施設に入所している。Gさんは普段から食べ物をかきこむように食べる様子がみられ、最近はむせることが多くなった。義歯は使用していない。食事は普通食を摂取している。ある日の昼食時、唐揚げを口の中に入れたあと、喉をつかむようなしぐさをし、苦しそうな表情になった。

出典：第36回こころとからだのしくみ（令和5年度）

44

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Gさん（79歳、男性）は、介護老人保健施設に入所している。
Gさんは普段から食べ物をかきこむように食べる様子がみられ、最近はむせることが多くなった。
義歯は使用していない。食事は普通食を摂取している。
ある日の昼食時、唐揚げを口の中に入れたあと、喉をつかむようなしぐさをし、苦しそうな表情になった。

以上が、今回の事例の説明です。

44

【事例6】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Gさん（79歳、男性）は、介護老人保健施設に入所しています。
② Gさんは普段から食べ物をかきこむように食べる様子がみられます。
③ 最近はむせることが多くなりました。
④ 義歯は使用していません。
⑤ 食事は普通食を摂取しています。
⑥ ある日の昼食時、唐揚げを口の中に入れたあと、喉をつかむようなしぐさをしました。
⑦ 苦しそうな表情になりました。

45

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Gさんの食事の様子や体の状態がどのようであるかを考えながら読みましょう。
また、食事中にどのような変化があったのかにも注目してみましょう。

Gさん（79歳、男性）は、介護老人保健施設に入所しています。
Gさんは普段から食べ物をかきこむように食べる様子がみられます。
最近はむせることが多くなりました。
義歯は使用していません。
食事は普通食を摂取しています。
ある日の昼食時、唐揚げを口の中に入れたあと、喉をつかむようなしぐさをしました。
苦しそうな表情になりました。

事例の説明は理解できましたか。

【事例6】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）むせる	食べ物や飲み物が、うまくのどを通らず、せきが出たり、苦しくなったりすること。

46

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「むせる」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、食べ物や飲み物が、うまくのどを通らず、せきが出たり、苦しくなったりすることです。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

【事例6】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Gさんはどこに入所していますか。

問2 Gさんの食べ方はどのような様子ですか。

問3 最近、Gさんの食事中に起こるようになったことは何ですか。

問4 Gさんは義歯を使用していますか。

問5 ある日の昼食時、唐揚げを口に入れた後のGさんの様子はどうでしたか。

47

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Gさんがどこで生活しているかを、事例から読み取ります。
どのような施設に入所しているかを思い出してください。
次に、Gさんの食べ方の様子について考えます。
ふだん、どのように食事をしているかに注目して読み返しましょう。

次に、最近の食事中の変化について確認します。
食事のときに、どのようなことが起こるようになったかを思い出してください。
次に、義歯を使っているかどうかについて確かめます。
事例の中に書かれていた内容を確認してみましょう。

最後に、ある日の昼食時の様子について考えます。
唐揚げを食べたあと、Gさんがどのような様子だったかに注目してください。
まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例6】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Gさんはどこに入所していますか。
【正解】介護老人保健施設に入所しています。

問2 Gさんの食べ方はどのような様子ですか。
【正解】普段から食べ物をかきこむように食べる様子がみられます。

問3 最近、Gさんの食事中に起こるようになったことは何ですか。
【正解】むせることが多くなりました。

問4 Gさんは義歯を使用していますか。
【正解】義歯は使用していません。

問5 ある日の昼食時、唐揚げを口に入れた後のGさんの様子はどうでしたか。
【正解】喉をつかむようなしぐさをし、苦しそうな表情になりました。

48

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Gさんは、介護老人保健施設に入所して生活しています。
これが、事例から読み取れるGさんが入所している場所です。

食べ方については、普段から食べ物をかきこむように食べる様子がみられます。
これが、事例に書かれていたGさんの食事の様子です。

また、最近は、食事のときにむせることが多くなっています。
これが、事例の中で示されていたGさんの食事中に起こるようになったことです。

そして、Gさんは義歯を使用していません。
この点も、事例の中に書かれていました。

ある日の昼食時には、唐揚げを食べたあと、喉をつかむようなしぐさをし、苦しそうな表情になりました。これが、唐揚げを口に入れた後のGさんの様子です。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

【事例6】演習③ 質問を読んで考えよう

問6

Gさんに起きていることとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 心筋梗塞（myocardial infarction）
2. 蕁麻疹（urticaria）
3. 誤嚥性肺炎（aspiration pneumonia）
4. 食中毒（foodborne disease）
5. 窒息（choking）

49

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「心筋梗塞（myocardial infarction）」
2つ目、「蕁麻疹（urticaria）」
3つ目、「誤嚥性肺炎（aspiration pneumonia）」
4つ目、「食中毒（foodborne disease）」
5つ目、「窒息（choking）」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

49

【事例6】演習③ 質問を読んで考えよう

問6

Gさんに起きていることとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 心筋梗塞（myocardial infarction）
2. 蕁麻疹（urticaria）
3. 誤嚥性肺炎（aspiration pneumonia）
4. 食中毒（foodborne disease）
5. **窒息（choking）**

【解説】

- 食事中に**のどをつかみ、苦しそうな様子**が見られます。
- 食べ物が**のどや気道につまり、息ができなくなる窒息**の状態と考えられます。

50

では、問6の答えを確認します。

正解は、「窒息（choking）」です。
Gさんは、食事中にのどをつかむようなしぐさをし、苦しそうな表情をしていました。
これは、食べ物が気道につまり、息ができなくなったためと考えられます。
このような状態を、窒息といいます。
窒息は、命にかかわることもある、とても危険な状態です。
他の選択肢は、食事中に急に起こる症状としては考えにくいものです。

以上で、事例6の学習を終了します。

50

【事例７】

肥満の男性の入浴時の感覚



51

【事例7】肥満の男性の入浴時の感覚

この事例では、入浴時の感覚について話す60歳の男性のHさんが出てきます。
Hさんはお風呂に入ると、からだが軽く感じて楽になると話しました。

この事例を通して、体の特徴と、話している内容のつながりを考えていきます。
また、介護福祉職として、どのような点に注意し、どのように対応するとよいかを学びましょう。

51

【事例7】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Hさん（60歳、男性）は、身長170cm、体重120kgである。Hさんは浴槽で入浴しているときに毎回、「お風呂につかると、からだが軽く感じて楽になります」と話す。胸が苦しいなど、ほかの訴えはない。

出典：第36回こころとからだのしくみ（令和5年度）

52

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Hさん（60歳、男性）は、身長170cm、体重120kgである。
Hさんは浴槽で入浴しているときに毎回、「お風呂につかると、からだが軽く感じて楽になります」と話す。
胸が苦しいなど、ほかの訴えはない。

以上が、今回の事例の説明です。

52

【事例7】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Hさん（60歳、男性）は、身長170cm、体重120kgです。
② Hさんは浴槽で入浴しているときに毎回、「お風呂につかると、からだが軽く感じて楽になります」と話します。
③ 胸が苦しいなど、ほかの訴えはありません。

53

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Gさんの食事の様子や体の状態がどのようであるかを考えながら読みましょう。
また、食事中にどのような変化があったのかにも注目してみましょう。

Hさん（60歳、男性）は、身長170cm、体重120kgです。
Hさんは浴槽で入浴しているときに毎回、「お風呂につかると、からだが軽く感じて楽になります」と話します。
胸が苦しいなど、ほかの訴えはありません。

事例の説明は理解できましたか。

53

【事例7】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）浴槽	お風呂でお湯をためて、体をつけるところ。

54

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「浴槽」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、お風呂でお湯をためて、体をつけるところです。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

54

【事例7】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Hさんの身長と体重を答えてください。

問2 Hさんがお風呂に入ったときの感覚はどのようなものですか。

問3 Hさんに他の体調の訴えはありますか。

55

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Hさんの身長と体重について、事例から読み取ります。
Hさんの身長は何cmで、体重は何kgだったでしょうか。

次に、Hさんがお風呂に入ったときの感じ方についてまとめます。
Hさんがどのような言葉で話していたかに注目して読み返しましょう。

最後に、Hさんにほかの体調の訴えがあるかどうかを確認します。
胸の苦しさなど、体の不調について書かれていたかを思い出してください。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

55

【事例7】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Hさんの身長と体重を答えてください。
【正解】身長170cm、体重120kg。

問2 Hさんがお風呂に入ったときの感覚はどのようなものですか。
【正解】お風呂につかると、からだが軽く感じて楽になる。

問3 Hさんに他の体調の訴えはありますか。
【正解】胸が苦しいなど、ほかの訴えはない。

56

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Hさんは、身長170cm、体重120kgの男性です。
これが、事例から読み取れるHさんの身長と体重です。

Hさんは、お風呂につかると、体が軽く感じて楽になると話しています。
これが、事例の中に書かれていたHさんがお風呂に入ったときの感覚です。

また、Hさんには、胸が苦しいなどのほかの体調の訴えはありません。
この点も、事例の中で示されていました。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

56

【事例7】演習③ 質問を読んで考えよう

問4

Hさんが話している内容に関連する入浴の作用として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 静水圧作用
2. 温熱作用
3. 清潔作用
4. 浮力作用
5. 代謝作用

57

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「静水圧作用」
2つ目、「温熱作用」
3つ目、「清潔作用」
4つ目、「浮力作用」
5つ目、「代謝作用」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例8】

砂場遊びが好きな広汎性発達障害の幼稚園児の対応



59

【事例8】砂場遊びが好きな広汎性発達障害の幼稚園児の対応

この事例では、広汎性発達障害のある6歳の幼稚園児のJさんが出てきます。
Jさんは、砂場遊びが好きです。
ある日、砂場がいつもと違う状況になり、Jさんはパニックになってしまったようです。

この事例を通して、広汎性発達障害のある子どもの特性や、いつもと違う変化が起きたときの感じ方について考えます。
また、どのような声かけや事前の説明が大切かを学びましょう。

【事例7】演習③ 質問を読んで考えよう

問4

Hさんが話している内容に関連する入浴の作用として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 静水圧作用
2. 温熱作用
3. 清潔作用
4. **浮力作用**
5. 代謝作用

【解説】

- 水の中では、**浮力がはたらき、体が軽くなったように感じます**。
- 体重が重い人ほど、**体への負担が少なくなり、楽に感じます**。

58

では、問4の答えを確認します。

正解は、「浮力作用」です。
水の中では、浮力で体が水に支えられるため、体重が軽くなったように感じます。
Hさんは体重が重いため、入浴すると体への負担が減り、「楽になる」と感じていると考えられます。
他の選択肢は、Hさんの発言内容とは直接つながりません。

以上で、事例7の学習を終了します。

【事例8】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



幼稚園児のＪさん（6歳、男性）には、広汎性発達障害（pervasive developmental disorder）がある。砂場で砂だんごを作り、きれいに並べることが好きで、毎日、一人で砂だんごを作り続けている。ある日、園児が帰宅した後に、担任が台風に備えて砂場に青いシートをかけておいた。翌朝、登園したＪさんが、いつものように砂場に行くと、青いシートがかかっていた。Ｊさんはパニックになり、その場で泣き続け、なかなか落ち着くことができなかった。

出典：第36回発達と老化の理解（令和5年度）

60

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

幼稚園児のＪさん（6歳、男性）には、広汎性発達障害（pervasive developmental disorder）がある。
砂場で砂だんごを作り、きれいに並べることが好きで、毎日、一人で砂だんごを作り続けている。
ある日、園児が帰宅した後に、担任が台風に備えて砂場に青いシートをかけておいた。
翌朝、登園したＪさんが、いつものように砂場に行くと、青いシートがかかっていた。
Ｊさんはパニックになり、その場で泣き続け、なかなか落ち着くことができなかった。

以上が、今回の事例の説明です。

【事例8】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① 幼稚園児のＪさん（6歳、男性）には、広汎性発達障害（pervasive developmental disorder）があります。
② 砂場で砂だんごを作り、きれいに並べることが好きです。
③ 毎日、一人で砂だんごを作り続けています。
④ ある日、園児が帰宅した後に、担任が台風に備えて砂場に青いシートをかけておきました。
⑤ 翌朝、登園したＪさんが、いつものように砂場に行きました。
⑥ 青いシートがかかっていました。
⑦ Ｊさんはパニックになりました。
⑧ その場で泣き続けました。
⑨ なかなか落ち着くことができませんでした。

61

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Jさんの遊びの様子がどのようであるかを考えながら読みましょう。
また、砂場にどのような変化があり、それに対するJさんの反応がどうだったかにも注目してみましょう。

幼稚園児のＪさん（6歳、男性）には、広汎性発達障害（pervasive developmental disorder）があります。
砂場で砂だんごを作り、きれいに並べることが好きです。
毎日、一人で砂だんごを作り続けています。
ある日、園児が帰宅した後に、担任が台風に備えて砂場に青いシートをかけておきました。
翌朝、登園したＪさんが、いつものように砂場に行きました。
青いシートがかかっていました。
Ｊさんはパニックになりました。
その場で泣き続けました。
なかなか落ち着くことができませんでした。

事例の説明は理解できましたか。

【事例8】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）広汎性発達障害（pervasive developmental disorder）	生まれつき、人との関わり方や行動のしかたに特性がある障害。いつもと違うことが起こると、不安になることがあります。

62

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「広汎性発達障害（pervasive developmental disorder）」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、生まれつき、人との関わり方や行動のしかたに特性がある障害のことです。
まわりの人と同じように行動することがむずかしいことがあります。
また、いつもと違うことが起こると、不安になることがあります。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

【事例8】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Jさんの障害名は何ですか。

問2 Jさんはいつも砂場で何をして遊んでいますか。

問3 園児が帰宅した後、担任は砂場にどのような準備をしましたか。

問4 翌朝、Jさんが砂場に行ったとき、どのような状況でしたか。

問5 その時、Jさんはどのような反応を示しましたか。

63

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Jさんの障害の名前について、事例から読み取ります。
どのような障害があると書かれていたかを思い出してください。

次に、Jさんがいつも砂場でしている遊びについて考えます。
どんな遊びが好きで、毎日どのように遊んでいるかに注目して読み返しましょう。
そして、園児が帰ったあとに、担任がした準備について確認します。
なぜ、その準備をしたのかも読み取りましょう。

次に、翌朝、砂場がどのような状態だったかを思い出します。
Jさんが砂場に行ったとき、何が変わっていたかに注目してください。

最後に、そのときのJさんの反応についてまとめます。
どのような気持ちになり、どんな行動をとったかを確認してみましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例8】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Jさんの障害名は何ですか。
【正解】広汎性発達障害（pervasive developmental disorder）

問2 Jさんはいつも砂場で何をして遊んでいますか。
【正解】砂場で砂だんごを作り、きれいに並べることが好きで、毎日、一人で砂だんごを作り続けています。

問3 園児が帰宅した後、担任は砂場にどのような準備をしましたか。
【正解】台風に備えて砂場に青いシートをかけておきました。

問4 翌朝、Jさんが砂場に行ったとき、どのような状況でしたか。
【正解】青いシートがかかっていました。

問5 その時、Jさんはどのような反応を示しましたか。
【正解】パニックになり、その場で泣き続け、なかなか落ち着くことができませんでした。

64

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Jさんは、広汎性発達障害があります。
これが、事例から読み取れるJさんの障害の名前です。

Jさんは、砂場で砂だんごを作り、きれいに並べて遊ぶことが好きです。
毎日、一人で同じ遊びを続けて、砂だんごを作っています。
これが、事例に書かれていたJさんの普段の遊びの様子です。

園児が帰宅したあと、担任は、台風に備えて砂場に青いシートをかけました。
これが、担任が砂場に行った準備です。
翌朝、Jさんが砂場に行くと、砂場には青いシートがかかっていました。
いつもと違う状態になっていたことが分かります。
これが、翌朝Jさんが見た砂場の状況です。

そのとき、Jさんはパニックになり、その場で泣き続け、なかなか落ち着くことができませんでした。これが、砂場の変化に対するJさんの反応です。
この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

【事例8】演習③ 質問を読んで考えよう

問6

担任は、Ｊさんにどのように対応すればよかったのか、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 前日に、「あしたは、台風が来るよ」と伝える。
2. 前日に、「あしたは、台風が来るので砂場は使えないよ」と伝える。
3. 前日に、「あしたは、おだんご屋さんは閉店です」と伝える。
4. その場で、「今日は、砂場は使えないよ」と伝える。
5. その場で、「今日は、おだんご屋さんは閉店です」と伝える。

65

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「前日に、「あしたは、台風が来るよ」と伝える。」
2つ目、「前日に、「あしたは、台風が来るので砂場は使えないよ」と伝える。」
3つ目、「前日に、「あしたは、おだんご屋さんは閉店です」と伝える。」
4つ目、「その場で、「今日は、砂場は使えないよ」と伝える。」
5つ目、「その場で、「今日は、おだんご屋さんは閉店です」と伝える。」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

65

【事例8】演習③ 質問を読んで考えよう

問6

担任は、Ｊさんにどのように対応すればよかったのか、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 前日に、「あしたは、台風が来るよ」と伝える。
2. **前日に、「あしたは、台風が来るので砂場は使えないよ」と伝える。**
3. 前日に、「あしたは、おだんご屋さんは閉店です」と伝える。
4. その場で、「今日は、砂場は使えないよ」と伝える。
5. その場で、「今日は、おだんご屋さんは閉店です」と伝える。

【解説】

- Jさんは**いつもと違うことが起きると、不安**になりやすい。
- **前もって伝えることで、気持ちの準備**ができます。
- **具体的に「砂場は使えない」と伝えることが大切**です。
- いつもと違う**変化は、事前の説明が必要**です。

66

では、問6の答えを確認します。

正解は、「前日に、「あしたは、台風が来るので砂場は使えないよ」と伝える。」です。
Jさんは、毎日同じ遊びを続けることが好きで、いつもと違うことが起こると、不安になりやすい特性があります。
何も知らされないまま砂場に行くと、いつも違い青いシートがかかっていて、強い不安を感じてしまったと考えられます。
前の日に、何が起こるのかを具体的に伝えておくことで、Jさんは心の準備をすることができ、パニックを防ぐことにつながります。
その場で急に伝えたり、意味が分かりにくい言い方をしたりする対応は、Jさんにとって理解がむずかしく、適切とはいえません。

以上で、事例8の学習を終了します。

66

【事例９】

高齢男性の激しい胸痛



67

【事例9】高齢男性の激しい胸痛

この事例では、80歳の男性のKさんが出てきます。
Kさんは、最近、胸の痛みを感じることがありました。
今朝、強い胸の痛みが続いたため、救急車を呼んだようです。

この事例を通して、体の変化に気づくことの大切さを考えます。
また、いつもと違う症状が出たときに、どのような対応が大切かを学びましょう。

67

【事例9】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ｋさん（80歳、男性）は、40歳ごろから職場の健康診査で高血圧と高コレステロール血症を指摘されていた。最近、階段を上るときに胸の痛みを感じていたが、しばらく休むと軽快していた。喉の違和感や嚥下痛はない。今朝、朝食後から冷や汗を伴う激しい胸痛が起こり、30分しても軽快しないので、救急車を呼んだ。

出典：第36回発達と老化の理解（令和5年度）

68

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ｋさん（80歳、男性）は、40歳ごろから職場の健康診査で高血圧と高コレステロール血症を指摘されていた。
最近、階段を上るときに胸の痛みを感じていたが、しばらく休むと軽快していた。
喉の違和感や嚥下痛はない。
今朝、朝食後から冷や汗を伴う激しい胸痛が起こり、30分しても軽快しないので、救急車を呼んだ。

以上が、今回の事例の説明です。

68

【事例9】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Kさん（80歳、男性）は、40歳ごろから職場の健康診査で高血圧と高コレステロール血症を指摘されていました。
② 最近、階段を上るときに胸の痛みを感じていました。
③ しばらく休むと軽快していました。
④ 喉の違和感や嚥下痛はありません。
⑤ 今朝、朝食後から冷や汗を伴う激しい胸痛が起こりました。
⑥ 30分しても軽快しないので、救急車を呼びました。

69

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Kさんの体の状態がどのようであるかを考えながら読みましょう。
また、今朝何が起こったのかにも注目してみましょう。

Kさん（80歳、男性）は、40歳ごろから職場の健康診査で高血圧と高コレステロール血症を指摘されていました。
最近、階段を上るときに胸の痛みを感じていました。
しばらく休むと軽快していました。
喉の違和感や嚥下痛はありません。
今朝、朝食後から冷や汗を伴う激しい胸痛が起こりました。
30分しても軽快しないので、救急車を呼びました。

事例の説明は理解できましたか。

69

【事例9】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）高血圧	血圧がいつも高い状態のこと。心臓や血管に負担がかかり、病気の原因になることがある。

70

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「高血圧」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、血圧がいつも高い状態のことです。
心臓や血管に負担がかかり、病気の原因になることがあります。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

70

【事例9】演習③ 質問を読んで考えよう

問1	Kさんが40歳頃から指摘されていた病気は何ですか。
問2	最近、Kさんはどのようなときに胸の痛みを感じていましたか。
問3	胸の痛みはどのように変化していましたか。
問4	Kさんに喉の違和感や嚥下痛はありましたか。
問5	今朝、どのような症状が現れましたか。
問6	症状はその後どのように変化しましたか。

71

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Kさんが40歳ごろから指摘されていた病気について、事例から読み取ります。
どのような病気が書かれていたかを思い出してください。

次に、最近Kさんが胸の痛みを感じていた場面について考えます。
どこでどのような動きをしたときに痛みが出ていたかに注目して読み返しましょう。
そして、その胸の痛みがどのように変化していたかを確認します。
休んだあと、症状がどうなっていましたか。

次に、喉の違和感や飲みこむときの痛みがあったかどうかを確認します。
事例の中に書かれていた内容を見てみましょう。
また、今朝起こった症状をまとめましょう。
朝食後、どんなことが起こりましたか。

最後に、その後の変化について考えます。
どのくらいの時間がたった後、症状はどうなったかに注目しましょう。
まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

71

【事例9】演習③ 質問を読んで考えよう

問1	Kさんが40歳頃から指摘されていた病気は何ですか。 **【正解】高血圧と高コレステロール血症**
問2	最近、Kさんはどのようなときに胸の痛みを感じていましたか。 **【正解】階段を上るとき**
問3	胸の痛みはどのように変化していましたか。 **【正解】しばらく休むと軽快していた。**
問4	Kさんに喉の違和感や嚥下痛はありましたか。 **【正解】ない。**
問5	今朝、どのような症状が現れましたか。 **【正解】朝食後から冷や汗を伴う激しい胸痛が起こった。**
問6	症状はその後どのように変化しましたか。 **【正解】30分しても軽快しなかった。**

72

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Kさんは、40歳ごろから高血圧と高コレステロール血症を指摘されていました。
これが、事例から読み取れるKさんの病気です。
最近、Kさんは階段を上るときに胸の痛みを感じていました。
階段を上るときが、胸の痛みが感じていたときです。

その胸の痛みは、しばらく休むと軽くなっていました。
これが、胸の痛みの変化です。

Kさんには、喉の違和感や飲みこむときの痛みはありませんでした。
この点も、事例の中に書かれていました。
今朝は、朝食後から冷や汗をともなう激しい胸の痛みが起こりました。
これが、今朝Kさんの体に現れた症状です。

そして、症状は30分たっても軽くなりませんでした。
これが、今朝起こった症状のその後の変化です。
この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

72

【事例9】演習③ 質問を読んで考えよう

問7

Kさんに考えられる状況として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 喘息
2. 肺炎
3. 脳梗塞
4. 心筋梗塞
5. 逆流性食道炎

73

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「喘息」
2つ目、「肺炎」
3つ目、「脳梗塞」
4つ目、「心筋梗塞」
5つ目、「逆流性食道炎」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例9】演習③ 質問を読んで考えよう

問7

Kさんに考えられる状況として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 喘息
2. 肺炎
3. 脳梗塞
4. **心筋梗塞**
5. 逆流性食道炎

【解説】

- **高血圧や高コレステロール血症は、心筋梗塞の原因**になりやすいです。
- 安静にしても**強い胸の痛みが続くときは、心筋梗塞の可能性**が高い

74

では、問7の答えを確認します。

正解は、「心筋梗塞」です。
Kさんは、長い間高血圧と高コレステロール血症を指摘されていました。
これらは、心臓の病気が起こりやすくなる原因です。
最近は、階段を上るときに胸の痛みがあり、休むと楽になっていました。
しかし今朝は、安静にしていても強い胸の痛みが続き、冷や汗も出ました。
このような症状は、心筋梗塞が起きている可能性が高い状態です。
そのため、Kさんに考えられる状況として、心筋梗塞が最も適切です。
他の選択肢は、症状や経過が異なるため、当てはまりません。

以上で、事例9の学習を終了します。

【事例１０】

アルツハイマー型認知症の女性の夫への妄想



75

【事例10】アルツハイマー型認知症の女性の夫への妄想

この事例では、アルツハイマー型認知症と診断された78歳の女性が出てきます。
Lさんは、夫と二人で暮らし、訪問介護を利用しながら生活しています。
ある日、夫が訪問介護員に、女性の症状について相談しました。

この事例を通して、認知症の症状について考えます。
また、介護福祉職として、本人の気持ちに配慮しながら、家族の不安や負担にどのように向き合い、支援していくことが大切かを学びましょう。

【事例10】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ｌさん（78歳、女性、要介護1）は、3年前にアルツハイマー型認知症と診断された。訪問介護を利用し、夫の介護を受けながら二人で暮らしている。ある日、訪問介護員が訪問すると夫から、「用事で外出しようとすると『外で女性に会っている』と言って興奮することが増えて困っている」と相談を受けた。

出典：第36回認知症の理解（令和5年度）

76

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ｌさん（78歳、女性、要介護1）は、3年前にアルツハイマー型認知症と診断された。
訪問介護を利用し、夫の介護を受けながら二人で暮らしている。
ある日、訪問介護員が訪問すると夫から、「用事で外出しようとすると『外で女性に会っている』と言って興奮することが増えて困っている」と相談を受けた。

以上が、今回の事例の説明です。

【事例10】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Ｌさん（78歳、女性、要介護1）は、3年前にアルツハイマー型認知症と診断されました。
② 訪問介護を利用しています。
③ 夫の介護を受けながら二人で暮らしています。
④ ある日、訪問介護員が訪問しました。
⑤ 夫から、「用事で外出しようとすると『外で女性に会っている』と言って興奮することが増えて困っている」と相談を受けました。

77

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Gさんの食事の様子や体の状態がどのようであるかを考えながら読みましょう。
また、食事中にどのような変化があったのかにも注目してみましょう。

Ｌさん（78歳、女性、要介護1）は、3年前にアルツハイマー型認知症と診断されました。
訪問介護を利用しています。
夫の介護を受けながら二人で暮らしています。
ある日、訪問介護員が訪問しました。
夫から、「用事で外出しようとすると『外で女性に会っている』と言って興奮することが増えて困っている」と相談を受けました。

事例の説明は理解できましたか。

77

【事例10】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）アルツハイマー型認知症	物忘れが多くなり、考え方や判断がむずかしくなる病気。事実とちがうことを本当だと思ってしまうことがある。

78

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「アルツハイマー型認知症」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、物忘れが多くなり、考え方や判断がむずかしくなる病気のことです。
事実とちがうことを本当だと思ってしまうことがあります。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

78

【事例10】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Lさんはいつアルツハイマー型認知症と診断されましたか。

問2 Lさんが利用しているサービスは何ですか。

問3 Lさんは誰から介護を受けていますか。

問4 夫が訪問介護員に相談した内容を説明してください。

79

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Lさんがいつ、アルツハイマー型認知症と診断されたかを、事例から読み取ります。
何年前にアルツハイマー型認知症と診断されたでしょうか。

次に、Lさんが利用しているサービスについて考えます。
どのようなサービスを使って生活しているかに注目して読み返しましょう。

次に、Lさんが誰から介護を受けているかを確認します。
一緒に住んでいる家族について思い出してください。

最後に、夫が訪問介護員に相談した内容について考えます。
どのような行動があり、なぜ困っているのかに注目して読み返してみましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

79

【事例10】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Lさんはいつアルツハイマー型認知症と診断されましたか。
【正解】3年前

問2 Lさんが利用しているサービスは何ですか。
【正解】訪問介護

問3 Lさんは誰から介護を受けていますか。
【正解】夫

問4 夫が訪問介護員に相談した内容を説明してください。
【正解】用事で外出しようとすると『外で女性に会っている』と言って興奮することが増えて困っている。

80

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Lさんは、3年前にアルツハイマー型認知症と診断されました。
3年前が、事例から読み取れるLさんの診断時期です。

Lさんは、訪問介護のサービスを利用しています。
これが、事例に書かれていた利用しているサービスです。

Lさんは、夫から介護を受けながら、二人で生活しています。
この点も、事例の中に示されていました。

夫の相談内容は、外出しようとすると、「外で女性に会っている」と言って興奮することが増えて困っている、というものでした。
これが、事例の中で夫が訪問介護員に伝えた言葉に表されています。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

80

【事例10】演習③ 質問を読んで考えよう

問5 Lさんの症状に該当するものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 誤認
2. 観念失行
3. 嫉妬妄想
4. 視覚失認
5. 幻視

81

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「誤認」
2つ目、「観念失行」
3つ目、「嫉妬妄想」
4つ目、「視覚失認」
5つ目、「幻視」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例１１】

アルツハイマー型認知症の女性の認知症高齢者グループホーム入居後の様子



83

【事例11】アルツハイマー型認知症の女性の認知症高齢者グループホーム入居後の様子

この事例では、アルツハイマー型認知症のある78歳の女性、Mさんが出てきます。
Mさんは、認知症高齢者グループホームで生活しています。
ある日、Mさんは大声をあげ、皆が落ち着かなくなる場面がありました。

この事例を通して、認知症のある人が新しい環境に入ったときに感じやすい不安や混乱について考えます。
また、本人の訴えの意味をどのように受け止めれば、安心につながる対応ができるかを学びましょう。

【事例10】演習③ 質問を読んで考えよう

問5 Lさんの症状に該当するものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 誤認
2. 観念失行
3. **嫉妬妄想**
4. 視覚失認
5. 幻視

【解説】
- Lさんは「夫が外で女性に会っている」という**根拠のない考えを強く信じています。**
- **事実ではないのに、強く思いこんでしまう症状を「嫉妬妄想」**と言います。

82

では、問5の答えを確認します。

正解は、「嫉妬妄想」です。
Lさんは、夫が外出しようとすると、「外で女性に会っている」と言って興奮しています。
しかし、その考えにははっきりした理由や証拠はありません。
このように、事実ではないことを強く信じてしまう状態を、「嫉妬妄想」といいます。
認知症の症状の一つとして見られることがあります。
他の選択肢は、Lさんの行動や発言の説明としては適切ではありません。

以上で、事例10の学習を終了します。

【事例11】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Mさん（80歳、女性、要介護1）は、アルツハイマー型認知症であり、３日前に認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）に入居した。主治医から向精神薬が処方されている。居室では穏やかに過ごしていた。夕食後、表情が険しくなり、「こんなところにはいられません。私は家に帰ります」と大声を上げ、ほかの利用者にも、「あなたも一緒に帰りましょう」と声をかけて皆が落ち着かなくなることがあった。

出典：第36回認知症の理解（令和5年度）

84

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Mさん（80歳、女性、要介護1）は、アルツハイマー型認知症であり、３日前に認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）に入居した。
主治医から向精神薬が処方されている。
居室では穏やかに過ごしていた。
夕食後、表情が険しくなり、「こんなところにはいられません。私は家に帰ります」と大声を上げ、ほかの利用者にも、「あなたも一緒に帰りましょう」と声をかけて皆が落ち着かなくなることがあった。

以上が、今回の事例の説明です。

【事例11】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Mさん（80歳、女性、要介護1）は、アルツハイマー型認知症です。
② 3日前に認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）に入居しました。
③ 主治医から向精神薬が処方されています。
④ 居室では穏やかに過ごしていました。
⑤ 夕食後、表情が険しくなりました。
⑥ 「こんなところにはいられません。私は家に帰ります」と大声を上げました。
⑦ ほかの利用者にも、「あなたも一緒に帰りましょう」と声をかけました。
⑧ 皆が落ち着かなくなることがありました。

85

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Mさんの生活の変化や生活の様子がどのようであるかを考えながら読みましょう。
また、夕食後の出来事にも注目してみましょう。

Mさん（80歳、女性、要介護1）は、アルツハイマー型認知症です。
3日前に認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）に入居しました。
主治医から向精神薬が処方されています。
居室では穏やかに過ごしていました。
夕食後、表情が険しくなりました。
「こんなところにはいられません。私は家に帰ります」と大声を上げました。
ほかの利用者にも、「あなたも一緒に帰りましょう」と声をかけました。
皆が落ち着かなくなることがありました。

事例の説明は理解できましたか。

85

【事例11】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）向精神薬	心の状態を落ち着かせたり、不安や興奮をやわらげたりするために使う薬。

86

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「向精神薬」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、心の状態を落ち着かせたり、不安や興奮をやわらげたりするために使う薬です。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

86

【事例11】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Mさんの病名は何ですか。

問2 Mさんがグループホームに入居したのはいつですか。

問3 Mさんに処方されている薬は何ですか。

問4 Mさんは居室でどのように過ごしていましたか。

87

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Mさんの病名について、事例から読み取ります。
どのような病名が書かれていたかを思い出してください。

次に、Mさんがグループホームに入居した時期を確認します。
いつ入居したのか、事例の中の記述を見てみましょう。

そして、Mさんに処方されている薬について確認します。
どのような薬が出されていたかに注目して読み返してください。

最後に、Mさんが居室でどのように過ごしていたかをまとめます。
居室では、どのような状態だったかを確認してみましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

87

【事例11】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Mさんの病名は何ですか。
【正解】アルツハイマー型認知症

問2 JMさんがグループホームに入居したのはいつですか。
【正解】3日前

問3 Mさんに処方されている薬は何ですか。
【正解】向精神薬

問4 Mさんは居室でどのように過ごしていましたか。
【正解】穏やかに過ごしていた。

88

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Mさんは、アルツハイマー型認知症があります。
これが、事例から読み取れるMさんの病名です。

Mさんは、3日前に認知症対応型共同生活介護（グループホーム）に入居しました。
3日前が、事例に書かれていた入居の時期です。

Mさんには、向精神薬が処方されています。
この点も、事例の中に書かれていました。

Mさんは、居室では穏やかに過ごしていました。
これが、入居後の居室での様子として示されていた内容です。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

88

【事例11】演習③ 質問を読んで考えよう

問5 Mさんの介護を検討するときに優先することとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. Mさんが訴えている内容
2. Mさんの日中の過ごし方
3. ほかの利用者が落ち着かなくなったこと
4. 対応に困ったこと
5. 薬が効かなかったこと

89

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「Mさんが訴えている内容」
2つ目、「Mさんの日中の過ごし方」
3つ目、「ほかの利用者が落ち着かなくなったこと」
4つ目、「対応に困ったこと」
5つ目、「薬が効かなかったこと」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例１２】

療育手帳を所持する女性の金銭管理への支援



91

【事例12】療育手帳を所持する女性の金銭管理への支援

この事例では、療育手帳を所持する36歳の女性Dさんが出てきます。
Dさんはお金の管理が苦手なようです。
そこで、支援を受けることにしました。

この事例を通して、金銭管理に困難のある人に対して、どのような支援が有効かを考えます。
また、本人の力を活かしながら、生活を安定させるための具体的な支援方法や関わり方について学びましょう。

【事例11】演習③ 質問を読んで考えよう

問5 Mさんの介護を検討するときに優先することとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. **Mさんが訴えている内容**
2. Mさんの日中の過ごし方
3. ほかの利用者が落ち着かなくなったこと
4. 対応に困ったこと
5. 薬が効かなかったこと

【解説】

- Mさんは、「家に帰りたい」と**強い不安**を言葉で伝えています。
- Mさんの言葉には、**環境の変化への不安**が表れています。
- まずは、Mさんの**訴えの内容を受け止め、気持ちや不安の理解を優先することが大切**です。

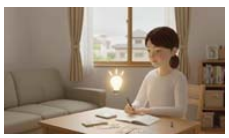
では、問5の答えを確認します。

正解は、「Mさんが訴えている内容」です。
Mさんは、「こんなところにはいられません。私は家に帰ります」と話しています。
この言葉から、今いる場所に強い不安や違和感を感じていることが分かります。
Mさんはグループホームに入り環境が変わり、不安が強くなっていると考えられます。
そのため、まずは訴えを否定せず、気持ちを受け止めることが大切です。
安心できる声かけや関わり方を考えることが、介護を検討する上で最も優先されます。
ほかの利用者の様子や、対応が大変だったことは、介護の検討では優先度が低いです。

以上で、事例11の学習を終了します。

【事例12】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Dさん（36歳、女性、療育手帳所持）は、一人暮らしをしながら地域の作業所に通っている。身の回りのことはほとんど自分でできるが、お金の計算、特に計画的にお金を使うのが苦手だった。そこで、社会福祉協議会の生活支援員と一緒に銀行へ行って、1週間ごとにお金をおろして生活するようになった。小遣い帳に記録をするようにアドバイスを受けて、お金を計画的に使うことができるようになった。

出典：第36回障害の理解（令和5年度）

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Dさん（36歳、女性、療育手帳所持）は、一人暮らしをしながら地域の作業所に通っている。
身の回りのことはほとんど自分でできるが、お金の計算、特に計画的にお金を使うのが苦手だった。
そこで、社会福祉協議会の生活支援員と一緒に銀行へ行って、1週間ごとにお金をおろして生活するようになった。
小遣い帳に記録をするようにアドバイスを受けて、お金を計画的に使うことができるようになった。

以上が、今回の事例の説明です。

【事例12】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Dさん（36歳、女性、療育手帳所持）は、一人暮らしをしています。
② 地域の作業所に通っています。
③ 身の回りのことはほとんど自分でできます。
④ お金の計算、特に計画的にお金を使うのが苦手でした。
⑤ そこで、社会福祉協議会の生活支援員と一緒に銀行へ行きました。
⑥ 1週間ごとにお金をおろして生活するようになりました。
⑦ 小遣い帳に記録をするようにアドバイスを受けました。
⑧ お金を計画的に使うことができるようになりました。

93

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Dさんの生活の様子がどのようであるかを考えながら読みましょう。
また、Dさんはどんな支援を受けて、何ができるようになったかにも注目してみましょう。

Dさん（36歳、女性、療育手帳所持）は、一人暮らしをしています。
地域の作業所に通っています。
身の回りのことはほとんど自分でできます。
お金の計算、特に計画的にお金を使うのが苦手でした。
そこで、社会福祉協議会の生活支援員と一緒に銀行へ行きました。
1週間ごとにお金をおろして生活するようになりました。
小遣い帳に記録をするようにアドバイスを受けました。
お金を計画的に使うことができるようになりました。

事例の説明は理解できましたか。

93

【事例12】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）作業所	障害のある人が、仕事の練習や簡単な作業をしながら生活に必要な力を身につけるために通う場所。

94

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「作業所」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、障害のある人が、仕事の練習や簡単な作業をしながら生活に必要な力を身につけるために通う場所です。
スタッフの支援を受けながら、働く経験をしたり、生活リズムを整えたりします。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

94

【事例12】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Dさんはどのような生活をしていますか。

問2 Dさんにはどのような困難がありましたか。

問3 Dさんはどのような支援を受けましたか。

問4 Dさんはどのようなアドバイスを受けましたか。

問5 支援の結果、Dさんはどのように変化しましたか。

95

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Dさんの生活の様子について、事例から読み取ります。
どのような生活をしていて、どこに通っているかを思い出してください。

次に、Dさんが困っていたことについて考えます。
特に、お金の使い方について、どのような苦手さがあったかに注目しましょう。
そして、Dさんが受けた支援の内容を確認します。
誰に、どのような支援を受けたのかに注目して読み返しましょう。

次に、どのようなアドバイスを受けたかについて考えます。
どのような工夫が提案されていたかを確認しましょう。

最後に、その支援によってDさんがどのように変わったかをまとめます。
支援の結果、どんな力が身についたのかに注目してください。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

95

【事例12】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Dさんはどのような生活をしていますか。
【正解】一人暮らしをしながら地域の作業所に通っている。

問2 Dさんにはどのような困難がありましたか。
【正解】お金の計算、特に計画的にお金を使うのが苦手だった。

問3 Dさんはどのような支援を受けましたか。
【正解】社会福祉協議会の生活支援員と一緒に銀行へ行って、1週間ごとにお金をおろして生活するようになった。

問4 Dさんはどのようなアドバイスを受けましたか。
【正解】小遣い帳に記録をするようにアドバイスを受けた。

問5 支援の結果、Dさんはどのように変化しましたか。
【正解】お金を計画的に使うことができるようになった。

96

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Dさんは、一人暮らしをしながら、地域の作業所に通って生活しています。
これが、事例から読み取れるDさんの生活の様子です。

Dさんは、身の回りのことは自分でできますが、お金の計算が苦手でした。
特に、計画的にお金を使うことが難しかったことが分かります。
これが、Dさんが困っていた点です。
そこで、社会福祉協議会の生活支援員と一緒に銀行へ行き、1週間ごとにお金をおろして生活する支援を受けました。
これが、Dさんが受けた具体的な支援の内容です。

また、小遣い帳にお金の使い道を記録するようにアドバイスを受けました。
これが、Dさんが受けたアドバイスの内容です。

こういった支援の結果、Dさんはお金を計画的に使うことができるようになりました。
これが、支援によって見られたDさんの変化です。
この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

96

【事例12】演習③ 質問を読んで考えよう

問6

次のうち、Dさんが活用した支援を実施する事業として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 障害者相談支援事業
2. 自立生活援助事業
3. 日常生活自立支援事業
4. 成年後見制度利用支援事業
5. 日常生活用具給付等事業

97

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「障害者相談支援事業」
2つ目、「自立生活援助事業」
3つ目、「日常生活自立支援事業」
4つ目、「成年後見制度利用支援事業」
5つ目、「日常生活用具給付等事業」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例１３】

胃ろうによる経管栄養中の女性の腹部膨満感



99

【事例13】胃ろうによる経管栄養中の女性の腹部膨満感

この事例では、介護老人福祉施設に入所している75歳の女性Eさんが出てきます。
Eさんは、胃ろうによる経管栄養を受けています。
経管栄養の途中で、お腹の張りを訴えました。

この事例を通して、経管栄養中に見られる体調の変化にどのように気づき、どのように対応することが大切かを考えます。
また、介護福祉士として、利用者の訴えを受け止めながら、安全に配慮した初期対応について学びましょう。

【事例12】演習③ 質問を読んで考えよう

問6

次のうち、Dさんが活用した支援を実施する事業として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 障害者相談支援事業
2. 自立生活援助事業
3. **日常生活自立支援事業**
4. 成年後見制度利用支援事業
5. 日常生活用具給付等事業

【解説】

- 社会福祉協議会の生活支援員が、**金銭管理を手助け**しています。
- 本人ができることを活かしながら、**生活を支える支援**です。
- **日常生活自立支援事業は、お金の管理など日常生活に関わること支援**します。

98

では、問6の答えを確認します。

正解は、「日常生活自立支援事業」です。
Dさんは、お金を計画的に使うことが苦手でした。
そのため、社会福祉協議会の生活支援員と一緒に銀行へ行き、1週間ごとにお金をおろす支援を受けました。
このように、日常生活の中で必要なお金の管理を手助けする支援は、日常生活自立支援事業にあたります。
この事業は、本人の判断力を尊重しながら、安心して生活できるよう支えることを目的としています。
他の選択肢は、相談のみの支援や、成年後見制度の利用、物の給付などであり、Dさんの支援内容とは一致しません。

以上で、事例12の学習を終了します。

【事例13】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ｅさん（75歳、女性）は、介護老人福祉施設に入所している。脳梗塞の後遺症があり、介護福祉士が胃ろうによる経管栄養を行っている。ある日、半座位で栄養剤の注入を開始し、半分程度を順調に注入したところで、体調に変わりがないかを聞くと、「少しお腹が張ってきたような気がする」とＥさんは答えた。意識レベルや顔色に変化はなく、腹痛や嘔気はない。

出典：第36回医療的ケア（令和5年度）

100

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ｅさん（75歳、女性）は、介護老人福祉施設に入所している。
脳梗塞の後遺症があり、介護福祉士が胃ろうによる経管栄養を行っている。
ある日、半座位で栄養剤の注入を開始し、半分程度を順調に注入したところで、体調に変わりがないかを聞くと、「少しお腹が張ってきたような気がする」とＥさんは答えた。
意識レベルや顔色に変化はなく、腹痛や嘔気はない。

以上が、今回の事例の説明です。

【事例13】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Ｅさん（75歳、女性）は、介護老人福祉施設に入所しています。
② 脳梗塞の後遺症があります。
③ 介護福祉士が胃ろうによる経管栄養を行っています。
④ ある日、半座位で栄養剤の注入を開始しました。
⑤ 半分程度を順調に注入したところで、体調に変わりがないかを聞きました。
⑥ 「少しお腹が張ってきたような気がする」とＥさんは答えました。
⑦ 意識レベルや顔色に変化はありません。
⑧ 腹痛や嘔気はありません。

101

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Eさんの体の状態や、経管栄養中の様子を理解しましょう。
また、Eさんの訴えに対して、介護福祉士がどのような点に注意すべきかも考えてみましょう。

Ｅさん（75歳、女性）は、介護老人福祉施設に入所しています。
脳梗塞の後遺症があります。
介護福祉士が胃ろうによる経管栄養を行っています。
ある日、半座位で栄養剤の注入を開始しました。
半分程度を順調に注入したところで、体調に変わりがないかを聞きました。
「少しお腹が張ってきたような気がする」とＥさんは答えました。
意識レベルや顔色に変化はありません。
腹痛や嘔気はありません。

事例の説明は理解できましたか。

101

【事例13】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）脳梗塞	脳梗塞とは、脳の血管がつまって、脳に血が流れなくなる病気。血が届かなくなった部分の脳は、うまく働かなくなる。

102

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「脳梗塞」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、脳の血管がつまって、脳に血が流れなくなる病気のことです。
血が届かなくなった部分の脳は、うまく働かなくなります。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

102

【事例13】演習③ 質問を読んで考えよう

問1	Eさんはどのような施設に入所していますか。
問2	Eさんにはどのような後遺症がありますか。
問3	Eさんはどのような方法で栄養を摂取していますか。
問4	ある日の経管栄養中、Eさんの体位はどのようにしていましたか。
問5	栄養剤を半分程度注入したとき、Eさんはどのように訴えましたか。
問6	そのとき、Eさんの意識レベルと顔色はどうでしたか。
問7	そのとき、Eさんに腹痛や嘔気はありましたか。

103

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Eさんがどのような施設で生活しているかを確認します。
事例の最初の文を読み返してみましょう。
次に、Eさんの後遺症について整理します。どのような病気の後遺症があるのかに注目してください。そして、Eさんがどのような方法で栄養をとっているかを確認します。口から食べているのか、それ以外の方法なのかを読み取ってください。

また、ある日の経管栄養の場面について考えます。そのとき、Eさんがどのような体の姿勢でいたかを確認しましょう。栄養剤を半分ほど注入したとき、Eさんがどのように感じたかを整理します。Eさんが実際に話した言葉に注目してください。

そのときのEさんの意識の状態や顔色について確認します。
体調に大きな変化があったかどうかを読み取りましょう。

最後に、腹痛や吐き気など、ほかの症状があったかどうかを確認します。
事例の中に、そのような訴えがあったかを振り返ってみましょう。
まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

103

【事例13】演習③ 質問を読んで考えよう

問1	Eさんはどのような施設に入所していますか。 **【正解】介護老人福祉施設**
問2	Eさんにはどのような後遺症がありますか。 **【正解】脳梗塞の後遺症**
問3	Eさんはどのような方法で栄養を摂取していますか。 **【正解】胃ろうによる経管栄養**
問4	ある日の経管栄養中、Eさんの体位はどのようにしていましたか。 **【正解】半座位**
問5	栄養剤を半分程度注入したとき、Eさんはどのように訴えましたか。 **【正解】「少しお腹が張ってきたような気がする」**
問6	そのとき、Eさんの意識レベルと顔色はどうでしたか。 **【正解】意識レベルや顔色に変化はない。**
問7	そのとき、Eさんに腹痛や嘔気はありましたか。 **【正解】腹痛や嘔気はない。**

104

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Eさんは、介護老人福祉施設に入所しています。これが、Eさんが入所している施設です。
Eさんには、脳梗塞の後遺症があります。
過去に脳梗塞を起こし、その影響が残っていることが分かります。

Eさんは、胃ろうによる経管栄養で栄養をとっています。これが、Eさんの栄養摂取の方法です。ある日の経管栄養中、Eさんは半座位の姿勢でした。
上半身を少し起こした状態で行われていたことが分かります。

栄養剤を半分ほど注入したとき、Eさんは「少しお腹が張ってきたような気がする」と話しました。これが、Eさんの訴えです。
そのとき、意識レベルや顔色に変化はありませんでした。
大きな体調の変化は見られていません。

また、そのとき、Eさんには腹痛や嘔気はありませんでした。
強い症状は出ていないことが事例から分かります。
この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

104

【事例13】演習③ 質問を読んで考えよう

問8

次のうち、介護福祉士が看護職員に相談する前に行う対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 嘔吐していないので、そのまま様子をみる。
2. 仰臥位（背臥位）にする。
3. 腹部が圧迫されていないかを確認する。
4. 注入速度を速める。
5. 栄養剤の注入を終了する。

105

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「嘔吐していないので、そのまま様子をみる。」
2つ目、「仰臥位（背臥位）にする。」
3つ目、「腹部が圧迫されていないかを確認する。」
4つ目、「注入速度を速める。」
5つ目、「栄養剤の注入を終了する。」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

105

【事例１４】

若年性認知症の母親を持つ高校生の娘の悩み



107

【事例14】若年性認知症の母親を持つ高校生の娘の悩み

この事例では、若年性認知症のある48歳の女性Aさんと、その家族の様子が描かれています。
ある日、長女の様子について、夫から介護福祉職へ相談がありました。

この事例を通して、若年性認知症のある人を支える家族、とくに子どもが抱えやすい悩みや負担について考えます。
また、家族の思いに寄り添い、どのような支援やつながりが大切かを学びましょう。

107

【事例13】演習③ 質問を読んで考えよう

問8

次のうち、介護福祉士が看護職員に相談する前に行う対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 嘔吐していないので、そのまま様子をみる。
2. 仰臥位（背臥位）にする。
3. **腹部が圧迫されていないかを確認する。**
4. 注入速度を速める。
5. 栄養剤の注入を終了する。

【解説】

- お腹の張りを訴えたときは、まず**腹部が圧迫されていないかを確認することが大切**です。
- **体位変更や注入の中止は、確認後に判断**します。

106

では、問8の答えを確認します。

正解は、「腹部が圧迫されていないかを確認する。」です。
Eさんは、経管栄養の途中で「少しお腹が張ってきたような気がする」と訴えました。
このような場合、まずはお腹がきつく押されていないかを確認することが大切です。
嘔吐や強い痛みがなくても、そのまま様子を見るのは安全とはいえません。
また、仰向けにしたり、注入速度を速めたり、すぐに注入を終わらせたりする対応は、圧迫があるかを確認してから判断する必要があります。

以上で、事例13の学習を終了します。

106

【事例14】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ａさん（48歳、女性、要介護1）は、若年性認知症で、夫、長女（高校1年生）と同居している。Ａさんは家族と過ごすことを希望し、小規模多機能型居宅介護で通いを中心に利用を始めた。Ａさんのことが心配な長女は、部活動を諦めて学校が終わるとすぐに帰宅していた。ある日、夫が、「長女が、学校の先生たちにも相談しているが、今の状況をわかってくれる人がいないと涙を流すことがある」と介護福祉職に相談をした。

出典：第36回介護の基本（令和5年度）

108

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ａさん（48歳、女性、要介護1）は、若年性認知症で、夫、長女（高校1年生）と同居している。
Ａさんは家族と過ごすことを希望し、小規模多機能型居宅介護で通いを中心に利用を始めた。
Ａさんのことが心配な長女は、部活動を諦めて学校が終わるとすぐに帰宅していた。
ある日、夫が、「長女が、学校の先生たちにも相談しているが、今の状況をわかってくれる人がいないと涙を流すことがある」と介護福祉職に相談をした。

以上が、今回の事例の説明です。

108

【事例14】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Ａさん（48歳、女性、要介護1）は、若年性認知症です。
② 夫、長女（高校1年生）と同居しています。
③ Ａさんは家族と過ごすことを希望しています。
④ 小規模多機能型居宅介護で通いを中心に利用を始めました。
⑤ Ａさんのことが心配な長女は、部活動を諦めて学校が終わるとすぐに帰宅していました。
⑥ ある日、夫が、「長女が、学校の先生たちにも相談しているが、今の状況をわかってくれる人がいないと涙を流すことがある」と介護福祉職に相談をしました。

109

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読みながら、Aさんの家庭の状況に注目してみましょう。
また、長女がどのような思いを抱いているかについても考えながら読み進めてください。

Ａさん（48歳、女性、要介護1）は、若年性認知症です。
夫、長女（高校1年生）と同居しています。
Ａさんは家族と過ごすことを希望しています。
小規模多機能型居宅介護で通いを中心に利用を始めました。
Ａさんのことが心配な長女は、部活動を諦めて学校が終わるとすぐに帰宅していました。
ある日、夫が、「長女が、学校の先生たちにも相談しているが、今の状況をわかってくれる人がいないと涙を流すことがある」と介護福祉職に相談をしました。

事例の説明は理解できましたか。

【事例14】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）若年性認知症	65歳より前に発症する認知症。40代や50代など、働く世代にも起こる。記憶力が低下したり、考える力や判断力が弱くなったりする。

110

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「若年性認知症」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、65歳より前に発症する認知症のことです。
40代や50代など、働く世代にも起こります。
認知症になると、記憶力が低下したり、考える力や判断力が弱くなったりします。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

【事例14】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Aさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。

問2 Aさんの病名は何ですか。

問3 Aさんはどのようなサービスを利用し始めましたか。

問4 Aさんの長女は学校が終わるとどのような行動をとっていましたか。

問5 ある日、夫は介護福祉職にどのような相談をしましたか。

111

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Aさんの年齢・性別・要介護度について、事例から読み取ります。
どのような人であるかを思い出してください。

次に、Aさんの病名について確認します。
どのような病名が書かれていましたか。

そして、Aさんが利用し始めたサービスについて考えます。
どのサービスを、どのような使い方で利用しているかを読み返しましょう。

次に、Aさんの長女の行動について整理します。
学校が終わったあと、どのように過ごしていたかを確認してください。

最後に、夫が介護福祉職に相談した内容をまとめます。
夫の言葉を確認し、長女がどのような気持ちを抱えていたのかに注目しましょう。
まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例14】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Aさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。
【正解】48歳、女性、要介護1

問2 Aさんの病名は何ですか。
【正解】若年性認知症

問3 Aさんはどのようなサービスを利用し始めましたか。
【正解】小規模多機能型居宅介護で通いを中心に利用を始めた。

問4 Aさんの長女は学校が終わるとどのような行動をとっていましたか。
【正解】部活動を諦めて学校が終わるとすぐに帰宅していた。

問5 ある日、夫は介護福祉職にどのような相談をしましたか。
【正解】「長女が、学校の先生たちにも相談しているが、今の状況をわかってくれる人がいないと涙を流すことがある」と相談した。

112

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Aさんは、48歳の女性で、要介護1です。
これが、事例から読み取れるAさんの基本的な情報です。

Aさんの病名は、若年性認知症です。
これが、事例に書かれていたAさんの病名です。
Aさんは、小規模多機能型居宅介護を、通いを中心に利用し始めました。
これが、Aさんの利用し始めたサービスです。

Aさんの長女は、部活動をあきらめて、学校が終わるとすぐに帰宅していました。
母親のことを心配して行動していた様子が読み取れます。

ある日、夫は介護福祉職に、「長女が、学校の先生たちにも相談しているが、今の状況をわかってくれる人がいないと涙を流すことがある」と相談しました。
このことから、長女が強い不安や孤独を感じていることが分かります。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

【事例14】演習③ 質問を読んで考えよう

問6

夫の話を聞いた介護福祉職の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 長女に、掃除や洗濯の方法を教える。
2. 家族でもっと頑張るように、夫を励ます。
3. 同じような体験をしている人と交流できる場について情報を提供する。
4. 介護老人福祉施設への入所の申込みを勧める。
5. 介護支援専門員（ケアマネジャー）に介護サービスの変更を提案する。

113

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「長女に、掃除や洗濯の方法を教える。」
2つ目、「家族でもっと頑張るように、夫を励ます。」
3つ目、「同じような体験をしている人と交流できる場について情報を提供する。」
4つ目、「介護老人福祉施設への入所の申込みを勧める。」
5つ目、「介護支援専門員（ケアマネジャー）に介護サービスの変更を提案する。」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

113

【事例14】演習③ 質問を読んで考えよう

問6

夫の話を聞いた介護福祉職の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 長女に、掃除や洗濯の方法を教える。
2. 家族でもっと頑張るように、夫を励ます。
3. **同じような体験をしている人と交流できる場について情報を提供する。**
4. 介護老人福祉施設への入所の申込みを勧める。
5. 介護支援専門員（ケアマネジャー）に介護サービスの変更を提案する。

【解説】

- 長女は、**自分の気持ちをわかってほしい**と思っています。
- **同じ立場の人と話す**ことで、**不安や孤独がやわらぎます**。
- 家族だけで抱えこまず、**つながりの場を紹介することが大切**です。

114

では、問6の答えを確認します。

正解は、「同じような体験をしている人と交流できる場について情報を提供する。」です。
長女は、母親が若年性認知症になったことについて、分かってくれる人がいないと感じ、つらい気持ちを抱えています。
同じ立場の人と話すことができる場では、気持ちを共有したり、体験を聞いたりすることができます。
そのため、安心感や支えにつながると考えられます。
家事の指導や家族への励まし、施設入所やサービス変更の提案は、長女の気持ちそのものに直接こたえる対応ではありません。
まずは、気持ちに寄り添い、支え合える場につなぐことが大切です。

以上で、事例14の学習を終了します。

114

【事例１５】

入浴動作に困難を感じ始めた脳梗塞後遺症の男性への支援



115

【事例15】入浴動作に困難を感じ始めた脳梗塞後遺症の男性への支援

この事例では、この事例では、脳梗塞の後遺症として左片麻痺がある61歳の男性Bさんが出てきます。
Bさんは自宅での入浴を続けています。
しかし最近、入浴中の動作に悩みがあるようです。

この事例を通して、身体機能の変化によって生じる日常生活動作の困難さにどのように対応するかを考えます。
また、本人の力を活かしながら安全に入浴を続けるために、どのような福祉用具や支援を選択することが大切かを学びましょう。

115

【事例15】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ｂさん（61歳、男性、要介護3）は、脳梗塞による左片麻痺がある。週2回訪問介護を利用し、妻（58歳）と二人暮らしである。自宅での入浴が好きで、妻の介助を受けながら、毎日入浴している。サービス提供責任者に、Ｂさんから、「浴槽から立ち上がるのがつらくなってきた。何かいい方法はないですか」と相談があった。

出典：第36回介護の基本（令和5年度）

116

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ｂさん（61歳、男性、要介護3）は、脳梗塞による左片麻痺がある。
週2回訪問介護を利用し、妻（58歳）と二人暮らしである。
自宅での入浴が好きで、妻の介助を受けながら、毎日入浴している。
サービス提供責任者に、Ｂさんから、「浴槽から立ち上がるのがつらくなってきた。何かいい方法はないですか」と相談があった。

以上が、今回の事例の説明です。

116

【事例15】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Ｂさん（61歳、男性、要介護3）は、脳梗塞による左片麻痺があります。
② 週2回訪問介護を利用しています。
③ 妻（58歳）と二人暮らしです。
④ 自宅での入浴が好きです。
⑤ 妻の介助を受けながら、毎日入浴しています。
⑥ サービス提供責任者に、Ｂさんから、「浴槽から立ち上がるのがつらくなってきた。何かいい方法はないですか」と相談がありました。

117

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Bさんの身体の状態や、入浴の様子を理解しましょう。
また、Bさんの相談内容に対して、サービス提供責任者がどのような対応をすべきかも考えてみましょう。

Ｂさん（61歳、男性、要介護3）は、脳梗塞による左片麻痺があります。
週2回訪問介護を利用しています。
妻（58歳）と二人暮らしです。
自宅での入浴が好きです。
妻の介助を受けながら、毎日入浴しています。
サービス提供責任者に、Ｂさんから、「浴槽から立ち上がるのがつらくなってきた。何かいい方法はないですか」と相談がありました。

事例の説明は理解できましたか。

【事例15】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）左片麻痺	体の左側の手足が動かしにくい状態。 脳梗塞などが原因で起こることが多い。

118

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「左片麻痺」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、体の左側の手足が動かしにくい状態のことです。
脳梗塞などが原因で起こることが多いです。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

【事例15】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Bさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。
問2 Bさんにはどのような後遺症がありますか。
問3 Bさんはどのようなサービスを利用していますか。
問4 Bさんと誰が同居していますか。
問5 Bさんの入浴の様子はどのように説明されていますか。
問6 Bさんはサービス提供責任者にどのような相談をしましたか。

119

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Bさんの年齢・性別・要介護度について確認します。
事例の最初の文を読み返してみましょう。

次に、Bさんにどのような後遺症があるかを整理します。
何の病気によるどのような後遺症なのかに注目してください。
続いて、Bさんが利用している介護サービスについて確認します。
どのようなサービスを、どのくらいの頻度で利用しているかを読み取りましょう。
次に、Bさんの入浴の様子について整理します。
どこで、誰の介助を受けながら、どのくらいの頻度で入浴しているかに注目しましょう。

最後に、Bさんがサービス提供責任者に相談した内容を確認します。
入浴中にどのような問題があるようになったのか、Bさんの言葉をそのまま読み取ってみましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例15】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Bさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。
【正解】61歳、男性、要介護3
問2 Bさんにはどのような後遺症がありますか。
【正解】脳梗塞による左片麻痺
問3 Bさんはどのようなサービスを利用していますか。
【正解】週2回訪問介護を利用している。
問4 Bさんと誰が同居していますか。
【正解】妻（58歳）と二人暮らし
問5 Bさんの入浴の様子はどのように説明されていますか。
【正解】自宅での入浴が好きで、妻の介助を受けながら、毎日入浴している。
問6 Bさんはサービス提供責任者にどのような相談をしましたか。
【正解】「浴槽から立ち上がるのがつらくなってきた。何かいい方法はないですか」と相談があった。

120

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Bさんは、61歳の男性で、要介護3です。
これが、事例から読み取れるBさんの年齢、性別、要介護度です。

Bさんには、脳梗塞による左片麻痺があります。脳梗塞の後遺症として、体の左側にまひが残っていることが分かります。Bさんは、週2回、訪問介護を利用しています。
これが、Bさんが利用している介護サービスです。

Bさんは、妻（58歳）と二人で暮らしています。
自宅で家族と生活している様子が読み取れます。
Bさんは、自宅での入浴が好きで、妻の介助を受けながら、毎日入浴しています。
これが、事例に書かれていたBさんの入浴の様子です。

Bさんは、サービス提供責任者に「浴槽から立ち上がるのがつらくなってきた。何かいい方法はないですか」と相談しました。
これが、Bさんの相談内容です。
この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

【事例15】演習③ 質問を読んで考えよう

問7 Bさんへのサービス提供責任者の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. Bさんがひとりで入浴できるように、自立生活援助の利用を勧める。
2. 浴室を広くするために、居宅介護住宅改修費を利用した改築を勧める。
3. 妻の入浴介助の負担が軽くなるように、行動援護の利用を勧める。
4. 入浴補助用具で本人の力を生かせるように、特定福祉用具販売の利用を勧める。
5. Bさんが入浴を継続できるように、通所介護の利用を勧める。

121

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「Bさんがひとりで入浴できるように、自立生活援助の利用を勧める。」
2つ目、「浴室を広くするために、居宅介護住宅改修費を利用した改築を勧める。」
3つ目、「妻の入浴介助の負担が軽くなるように、行動援護の利用を勧める。」
4つ目、「入浴補助用具で本人の力を生かせるように、特定福祉用具販売の利用を勧める。」
5つ目、「Bさんが入浴を継続できるように、通所介護の利用を勧める。」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

121

【事例15】演習③ 質問を読んで考えよう

問7 Bさんへのサービス提供責任者の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. Bさんがひとりで入浴できるように、自立生活援助の利用を勧める。
2. 浴室を広くするために、居宅介護住宅改修費を利用した改築を勧める。
3. 妻の入浴介助の負担が軽くなるように、行動援護の利用を勧める。
4. **入浴補助用具で本人の力を生かせるように、特定福祉用具販売の利用を勧める。**
5. Bさんが入浴を継続できるように、通所介護の利用を勧める。

【解説】
- **浴槽から立ち上がる動作がつらくなっている**ことが、Bさんの主な困りごとです。
- **入浴補助用具を使うことで、その動作を助ける**ことができます。

122

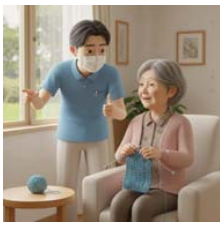
では、問7の答えを確認します。

正解は、「入浴補助用具で本人の力を生かせるように、特定福祉用具販売の利用を勧める。」です。
Bさんは、浴槽から立ち上がる動作がつらくなってきたと感じています。
そのため、立ち上がりを助ける入浴補助用具を使うことが有効です。
入浴補助用具を使うことで、Bさんは自分の力を活かしながら、安全に入浴を続けることができます。
自立生活援助や行動援護、通所介護は、今回の「浴槽から立ち上がりにくい」という訴えに直接対応するものではありません。
居宅介護住宅改修も、動作の困難さそのものを解決する手段ではありません。

以上で、事例15の学習を終了します。

122

【事例１６】
難聴のある高齢女性利用者とのコミュニケーション



123

【事例16】難聴のある高齢女性利用者とのコミュニケーション

この事例では、介護老人保健施設に入所している軽度の難聴がある高齢女性Cさんが出てきます。
職員に対し、Cさんがうれしそうに孫の絵について話す場面が示されています。

この事例を通して、聴こえにくさがある利用者との関わり方について考えます。
また、相手の思いに共感を示すために、非言語コミュニケーションをどのように活用するとよいかを学びましょう。

123

【事例16】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Cさん（85歳、女性、要介護3）は、介護老人保健施設に入所しており、軽度の難聴がある。数日前から、職員は感染症対策として日常的にマスクを着用して勤務することになった。ある日、D介護福祉職がCさんの居室を訪問すると、「孫が絵を描いて送ってくれたの」と笑いながら絵を見せてくれた。D介護福祉職はCさんの言動に共感的理解を示すために、意図的に非言語コミュニケーションを用いて対応した。

出典：第36回コミュニケーション技術（令和5年度）

124

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Cさん（85歳、女性、要介護3）は、介護老人保健施設に入所しており、軽度の難聴がある。
数日前から、職員は感染症対策として日常的にマスクを着用して勤務することになった。
ある日、D介護福祉職がCさんの居室を訪問すると、「孫が絵を描いて送ってくれたの」と笑いながら絵を見せてくれた。
D介護福祉職はCさんの言動に共感的理解を示すために、意図的に非言語コミュニケーションを用いて対応した。

以上が、今回の事例の説明です。

124

【事例16】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Cさん（85歳、女性、要介護3）は、介護老人保健施設に入所しています。
② 軽度の難聴があります。
③ 数日前から、職員は感染症対策として日常的にマスクを着用して勤務することになりました。
④ ある日、D介護福祉職がCさんの居室を訪問しました。
⑤ 「孫が絵を描いて送ってくれたの」と笑いながら絵を見せてくれました。
⑥ D介護福祉職はCさんの言動に共感的理解を示すために、意図的に非言語コミュニケーションを用いて対応しました。

125

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Cさんの体の状態や、そのときのやり取りの様子を理解しましょう。
また、Cさんの話に対して、介護福祉職がどのように反応しているかも考えてみましょう。

Cさん（85歳、女性、要介護3）は、介護老人保健施設に入所しています。
軽度の難聴があります。
数日前から、職員は感染症対策として日常的にマスクを着用して勤務することになりました。
ある日、D介護福祉職がCさんの居室を訪問しました。
「孫が絵を描いて送ってくれたの」と笑いながら絵を見せてくれました。
D介護福祉職はCさんの言動に共感的理解を示すために、意図的に非言語コミュニケーションを用いて対応しました。

事例の説明は理解できましたか。

125

【事例16】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）難聴	耳の聞こえが悪くなり、 話し声や音が聞き取りにくい状態のこと。

126

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「難聴」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、耳の聞こえが悪くなり、話し声や音が聞き取りにくい状態のことです。
大きな声や、はっきりした話し方が必要になることがあります。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

126

【事例16】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Cさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。

問2 Cさんはどのような施設に入所していますか。

問3 Cさんにはどのような聴覚の問題がありますか。

問4 職員が感染症対策としてとった行動は何ですか。

問5 ある日、D介護福祉職がCさんの居室を訪問したとき、Cさんはどのようなことを話しましたか。

問6 D介護福祉職はCさんの言動に対してどのように対応しましたか。

127

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Cさんの年齢・性別・要介護度について確認します。
事例の最初の文を読み返してみましょう。
続いて、Cさんはどのような施設に入所しているか読み取りましょう。
次に、Cさんにどのような聴覚の問題があるかを整理します。
どのような耳の聞こえの問題があるのかに注目してください。

続いて、職員が感染症対策としてどのような対応をとっているかを確認します。
職員は勤務の際、どのような感染症対策をしていますか。
次に、D介護福祉職が居室を訪問したとき、Cさんがどのような話をしたかを思い出しましょう。Cさんの言葉と様子に注目してください。

最後に、D介護福祉職がCさんに対してどのような対応を行ったのかを整理します。
どのようにCさんの気持ちを受け止めたのかを考えてみましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

127

【事例16】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Cさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。
【正解】85歳、女性、要介護3

問2 Cさんはどのような施設に入所していますか。
【正解】介護老人保健施設

問3 Cさんにはどのような聴覚の問題がありますか。
【正解】軽度の難聴がある。

問4 職員が感染症対策としてとった行動は何ですか。
【正解】日常的にマスクを着用して勤務することになった。

問5 ある日、D介護福祉職がCさんの居室を訪問したとき、Cさんはどのようなことを話しましたか。
【正解】「孫が絵を描いて送ってくれたの」と笑いながら絵を見せてくれた。

問6 D介護福祉職はCさんの言動に対してどのように対応しましたか。
【正解】共感的理解を示すために、意図的に非言語コミュニケーションを用いて対応した。

128

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Cさんは、85歳の女性で、要介護3です。これが、事例から読み取れるCさんの年齢、性別、要介護度です。Cさんは、介護老人保健施設で生活しています。これが、Cさんが入所している施設です。

Cさんには、軽度の難聴があります。
聞こえにくさが少しあり、会話の際に配慮が必要な状態であることが分かります。
職員は、感染症対策として、日常的にマスクを着用して勤務しています。
これが、事例の中で示されている職員が感染症対策としてとった行動です。

ある日、D介護福祉職が居室を訪問したとき、Cさんは「孫が絵を描いて送ってくれたの」と話し、笑いながら絵を見せてくれました。これが、Cさんの話したことです。

D介護福祉職は、Cさんの気持ちに共感するために、意図的に非言語コミュニケーションを用いて対応しました。
これが、D介護福祉職のCさんの言動に対する対応です。
この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

128

【事例16】演習③ 質問を読んで考えよう

問7

このときのD介護福祉職のCさんへの対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 「よかったですね」と紙に書いて渡した。
2. 目元を意識した笑顔を作り、大きくうなずいた。
3. 「お孫さんの絵が届いて、うれしかったですね」と耳元で話した。
4. 「私もうれしいです」と、ゆっくり話した。
5. 「えがとてもじょうずです」と五十音表を用いて伝えた。

129

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「「よかったですね」と紙に書いて渡した。」
2つ目、「目元を意識した笑顔を作り、大きくうなずいた。」
3つ目、「「お孫さんの絵が届いて、うれしかったですね」と耳元で話した。」
4つ目、「「私もうれしいです」と、ゆっくり話した。」
5つ目、「「えがとてもじょうずです」と五十音表を用いて伝えた。」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例16】演習③ 質問を読んで考えよう

問7

このときのD介護福祉職のCさんへの対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 「よかったですね」と紙に書いて渡した。
2. **目元を意識した笑顔を作り、大きくうなずいた。**
3. 「お孫さんの絵が届いて、うれしかったですね」と耳元で話した。
4. 「私もうれしいです」と、ゆっくり話した。
5. 「えがとてもじょうずです」と五十音表を用いて伝えた。

【解説】
- Cさんは軽い難聴があり声が**聞こえにくい状態**です。
- 職員のマスクで**口や顔の動きも見えにくい**です。
- この場合、**目元の表情やうなずきなど、言葉を使わない伝え方**が効果的です。

130

では、問7の答えを確認します。

正解は、「目元を意識した笑顔を作り、大きくうなずいた。」です。
Cさんは軽度の難聴があります。
そして、職員はマスクを着けて対応していました。
そのため、声や口の動きが分かりにくい状況でした。
このような場面では、言葉で伝えるよりも、目元の表情やうなずきなどの非言語コミュニケーションが、気持ちを伝えやすくなります。

以上で、事例16の学習を終了します。

【事例１７】

失語症のある女性利用者への入浴予定の伝え方



131

【事例17】失語症のある女性利用者への入浴予定の伝え方

この事例では、脳梗塞の後遺症により言語に障害がある高齢女性Eさんが出てきます。
ある日、Eさんは介護福祉職が話したことをうまく理解できなかったようです。

この事例を通して、言葉の理解が難しい利用者への伝え方について考えます。
また、相手の理解の特徴に合わせて、どのような言葉を使うとよいかを学びましょう。

【事例17】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ｅさん（70歳、女性）は、脳梗塞の後遺症で言語に障害がある。発語はできるが、話したいことをうまく言葉に言い表せない。聴覚機能に問題はなく、日常会話で使用する単語はだいたい理解できるが、単語がつながる文章になるとうまく理解できない。ある日、Ｅさんに介護福祉職が、「お風呂は、今日ではなくあしたですよ」と伝えると、Ｅさんはしばらく黙って考え、理解できない様子だった。

出典：第36回コミュニケーション技術（令和5年度）

132

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ｅさん（70歳、女性）は、脳梗塞の後遺症で言語に障害がある。
発語はできるが、話したいことをうまく言葉に言い表せない。
聴覚機能に問題はなく、日常会話で使用する単語はだいたい理解できるが、単語がつながる文章になるとうまく理解できない。
ある日、Ｅさんに介護福祉職が、「お風呂は、今日ではなくあしたですよ」と伝えると、Ｅさんはしばらく黙って考え、理解できない様子だった。

以上が、今回の事例の説明です。

【事例17】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Ｅさん（70歳、女性）は、脳梗塞の後遺症で言語に障害があります。
② 発語はできますが、話したいことをうまく言葉に言い表せません。
③ 聴覚機能に問題はありません。
④ 日常会話で使用する単語はだいたい理解できます。
⑤ しかし、単語がつながる文章になるとうまく理解できません。
⑥ ある日、Ｅさんに介護福祉職が、「お風呂は、今日ではなくあしたですよ」と伝えました。
⑦ Ｅさんはしばらく黙って考え、理解できない様子でした。

133

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読みながら、Eさんの体の状態や、言葉の理解の様子を確認しましょう。
また、Eさんに対して、介護福祉職がどのような言葉を使っているかにも注目してみましょう。

Ｅさん（70歳、女性）は、脳梗塞の後遺症で言語に障害があります。
発語はできますが、話したいことをうまく言葉に言い表せません。
聴覚機能に問題はありません。
日常会話で使用する単語はだいたい理解できます。
しかし、単語がつながる文章になるとうまく理解できません。
ある日、Ｅさんに介護福祉職が、「お風呂は、今日ではなくあしたですよ」と伝えました。
Ｅさんはしばらく黙って考え、理解できない様子でした。

事例の説明は理解できましたか。

133

【事例17】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）後遺症	病気やけがが治ったあとも、 体や心に残る症状や障害のこと。

134

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「後遺症」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、病気やけがが治ったあとも、体や心に残る症状や障害のことです。
完全には元に戻らず、生活に影響が続く場合があります。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

134

【事例17】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Eさんの年齢と性別を答えてください。
問2 Eさんにはどのような原因で言語障害がありますか。
問3 Eさんの発語の特徴はどのようなものですか。
問4 Eさんの聴覚機能に問題はありますか。
問5 Eさんは日常会話でどの程度言葉を理解できますか。
問6 ある日、介護福祉職はEさんに何と伝えましたか。
問7 介護福祉職の言葉を聞いたEさんはどのような反応を示しましたか。

135

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Eさんの年齢と性別を確認します。
事例の最初の文をもう一度読んでみましょう。
次に、Eさんがなぜ言語に障害があるのかを考えます。
どのような病気のあとに、言語障害が出たのかに注目してください。
続いて、Eさんの発語の特徴について整理します。話すことはできるのか、言いたいことをうまく伝えられているかを考えてみましょう。

次に、Eさんの聴覚機能について確認します。耳の聞こえに問題があるかどうかを読み取ってください。続いて、Eさんが日常会話の言葉をどのくらい理解できているかを考えます。単語と文章の理解の違いに注目し、事例を読み返してみましょう。
次に、ある日、介護福祉職がEさんにどのような言葉をかけたのかを思い出してください。実際に伝えた言葉の内容を確認しましょう。

最後に、その言葉を聞いたときのEさんの様子を整理します。
Eさんはすぐに理解できたのか、どのような反応をしたのかを考えてみましょう。
まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

135

【事例17】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Eさんの年齢と性別を答えてください。
【正解】 70歳、女性
問2 Eさんにはどのような原因で言語障害がありますか。
【正解】 脳梗塞の後遺症
問3 Eさんの発語の特徴はどのようなものですか。
【正解】 発語はできるが、話したいことをうまく言葉に言い表せない。
問4 Eさんの聴覚機能に問題はありますか。
【正解】 聴覚機能に問題はない。
問5 Eさんは日常会話でどの程度言葉を理解できますか。
【正解】 日常会話で使用する単語はだいたい理解できるが、単語がつながる文章になるとうまく理解できない。
問6 ある日、介護福祉職はEさんに何と伝えましたか。
【正解】 「お風呂は、今日ではなくあしたですよ」
問7 介護福祉職の言葉を聞いたEさんはどのような反応を示しましたか。
【正解】 Ｅさんはしばらく黙って考え、理解できない様子だった。

136

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Eさんは、70歳の女性です。これが、事例から読み取れるEさんの年齢と性別です。
Eさんは、脳梗塞の後遺症によって、言語に障害があります。
これが、Eさんに言語障害がある原因です。

Eさんは、発語はできますが、話したいことをうまく言葉にすることができません。
これが、Eさんの発語の特徴です。Eさんには、聴覚機能の問題はありません。
耳の聞こえには問題がないことが、事例から分かります。

言葉の理解については、Eさんは、日常会話で使われる単語はだいたい理解できます。
しかし、単語がつながった文章になると、理解が難しくなります。
ある日、介護福祉職はEさんに「お風呂は、今日ではなくあしたですよ」と伝えました。
これが、介護福祉職がEさんに伝えたことです。

その言葉を聞いたEさんは、しばらく黙って考えましたが、理解できない様子でした。
これが、Eさんの反応です。
この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

136

【事例17】演習③ 質問を読んで考えよう

問8

このとき、Ｅさんへの介護福祉職の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 「何がわからないのか教えてください」と質問する。
2. 「お風呂、あした」と短い言葉で伝える。
3. 「今日、お風呂に入りたいのですね」と確かめる。
4. 「あしたがお風呂の日で、今日は違いますよ」と言い換える。
5. 「お・ふ・ろ・は・あ・し・た」と1音ずつ言葉を区切って伝える。

137

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「「何がわからないのか教えてください」と質問する。」
2つ目、「「お風呂、あした」と短い言葉で伝える。」
3つ目、「「今日、お風呂に入りたいのですね」と確かめる。」
4つ目、「「あしたがお風呂の日で、今日は違いますよ」と言い換える。」
5つ目、「「お・ふ・ろ・は・あ・し・た」と1音ずつ言葉を区切って伝える。」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

137

【事例18】

夜盲のある女性利用者との夕方の出会い



139

【事例18】夜盲のある女性利用者との夕方の出会い

この事例では、網膜色素変性症による夜盲がある70歳の女性Gさんが出てきます。
ある日の夕方、Gさんには驚いたようです。
どんなことがあったのでしょうか。

この事例を通して、視覚障害の特性を踏まえた関わり方について考えます。
また、利用者の不安や戸惑いに寄り添いながら、どのような声かけや配慮が大切かを学びましょう。

139

【事例17】演習③ 質問を読んで考えよう

問8

このとき、Ｅさんへの介護福祉職の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 「何がわからないのか教えてください」と質問する。
2. **「お風呂、あした」と短い言葉で伝える。**
3. 「今日、お風呂に入りたいのですね」と確かめる。
4. 「あしたがお風呂の日で、今日は違いますよ」と言い換える。
5. 「お・ふ・ろ・は・あ・し・た」と1音ずつ言葉を区切って伝える。

【解説】

- Eさんは、**単語は理解できますが、文章になると理解が難しい**です。
- この場合、**大切な言葉だけを、短く伝えると理解しやすい**です。

138

では、問8の答えを確認します。

正解は、「「お風呂、あした」と短い言葉で伝える。」です。
Eさんは、日常会話で使われる単語は理解できますが、単語がつながった文章になると、理解が難しくなります。
そのため、「文章で説明するよりも、「お風呂」「あした」などの大切な言葉だけを、短く伝える方が、Eさんにとって分かりやすい対応になります。
また、この場面で質問をしたり、Eさんの気持ちを確かめたりすると、かえって混乱してしまう可能性があります。
Eさんの理解の特徴に合わせて、短く、分かりやすい言葉を使うことが大切です。

以上で、事例17の学習を終了します。

138

【事例18】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ｇさん（70歳、女性、要介護1）は、有料老人ホームに入居していて、網膜色素変性症による夜盲がある。ある日の夕方、Ｇさんがうす暗い廊下を歩いているのをＨ介護福祉職が発見し、「Ｈです。大丈夫ですか」と声をかけた。Ｇさんは、「びっくりした。見えにくくて、わからなかった…」と暗い表情で返事をした。

出典：第36回コミュニケーション技術（令和5年度）

140

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ｇさん（70歳、女性、要介護1）は、有料老人ホームに入居していて、網膜色素変性症による夜盲がある。
ある日の夕方、Ｇさんがうす暗い廊下を歩いているのをＨ介護福祉職が発見し、「Ｈです。大丈夫ですか」と声をかけた。
Ｇさんは、「びっくりした。見えにくくて、わからなかった…」と暗い表情で返事をした。

以上が、今回の事例の説明です。

140

【事例18】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Gさん（70歳、女性、要介護1）は、有料老人ホームに入居しています。
② 網膜色素変性症による夜盲があります。
③ ある日の夕方、Gさんがうす暗い廊下を歩いているのをH介護福祉職が発見しました。
④ 「Hです。大丈夫ですか」と声をかけました。
⑤ Gさんは、「びっくりした。見えにくくて、わからなかった…」と暗い表情で返事をしました。

141

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Gさんの視覚の状態や、ある日の夕方の様子を確認しましょう。
また、Gさんの反応に対して、H介護福祉職がどのように対応することが適切かも考えてみましょう。

Gさん（70歳、女性、要介護1）は、有料老人ホームに入居しています。
網膜色素変性症による夜盲があります。
ある日の夕方、Gさんがうす暗い廊下を歩いているのをH介護福祉職が発見しました。
「Hです。大丈夫ですか」と声をかけました。
Gさんは、「びっくりした。見えにくくて、わからなかった…」と暗い表情で返事をしました。

事例の説明は理解できましたか。

141

【事例18】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）夜盲	暗いところで見えにくくなる目の病気。夕方や夜、電気が弱い場所では、周りの様子が分かりにくくなる。

142

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「夜盲」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、暗いところで見えにくくなる目の病気のことです。
明るい昼間は見えますが、夕方や夜、電気が弱い場所では、周りの様子が分かりにくくなります。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

142

【事例18】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Gさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。
問2 Gさんはどのような施設に入居していますか。
問3 Gさんにはどのような視覚障害がありますか。
問4 ある日の夕方、Gさんはどこを歩いていましたか。
問5 Gさんを発見したH介護福祉職はどのように声をかけましたか。
問6 H介護福祉職の声かけに対して、Gさんはどのように返事をしましたか。

143

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Gさんの年齢・性別・要介護度を確認します。事例の最初の文をもう一度読んでみましょう。次に、Gさんがどのような施設で生活しているかを考えます。どのような場所に入居しているのかに注目してください。

続いて、Gさんにはどのような目の障害があるかを整理します。
どの病気によって、どのような見えにくさがあるのかを読み取りましょう。
次に、ある日の夕方、Gさんがどこを歩いていたのかを確認します。
そのとき歩いていた場所の明るさにも注目してください。

続いて、Gさんを見つけたH介護福祉職が、どのように声をかけたのかを思い出しましょう。実際に言った言葉を確認してください。
最後に、その声かけに対して、Gさんがどのように返事をしたのかを整理します。
Gさんの言葉と、そのときの表情に注目してみましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

143

【事例18】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Gさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。
【正解】70歳、女性、要介護1
問2 Gさんはどのような施設に入居していますか。
【正解】有料老人ホーム
問3 Gさんにはどのような視覚障害がありますか。
【正解】網膜色素変性症による夜盲
問4 ある日の夕方、Gさんはどこを歩いていましたか。
【正解】うす暗い廊下
問5 Gさんを発見したH介護福祉職はどのように声をかけましたか。
【正解】「Hです。大丈夫ですか」
問6 H介護福祉職の声かけに対して、Gさんはどのように返事をしましたか。
【正解】「びっくりした。見えにくくて、わからなかった…」と暗い表情で返事をした。

144

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Gさんは、70歳の女性で、要介護1です。
これが、事例から読み取れるGさんの年齢、性別、要介護度です。

Gさんは、有料老人ホームに生活しています。
これが、Gさんが入居している施設です。

Gさんには、網膜色素変性症による夜盲があります。
これがGさんの視覚障害で、暗い場所や夜になると、見えにくくなる目の障害があることが分かります。
ある日の夕方、Gさんは、うす暗い廊下を歩いていました。これが、ある日の夕方Gさんが歩いていた場所です。H介護福祉職は、「Hです。大丈夫ですか」と声をかけました。これが、Gさんを発見したH介護福祉職の声かけです。

それに対してGさんは、「びっくりした。見えにくくて、わからなかった…」と、暗い表情で返事をしました。これが、H介護福祉職の声かけに対するGさんの返事です。
この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

144

【事例18】演習③ 質問を読んで考えよう

問7

このときのGさんに対するH介護福祉職の受容的な対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 「驚かせてしまいましたね。一緒に歩きましょうか」
2. 「明るいところを歩きましょう。電気をつけたほうがいいですよ」
3. 「見えにくくなってきたのですね。一緒に点字の練習を始めましょう」
4. 「白杖があるかを確認しておきます。白杖を使うようにしましょう」
5. 「暗い顔をしないでください。頑張りましょう」

145

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「「驚かせてしまいましたね。一緒に歩きましょうか」」
2つ目、「「明るいところを歩きましょう。電気をつけたほうがいいですよ」」
3つ目、「「見えにくくなってきたのですね。一緒に点字の練習を始めましょう」」
4つ目、「「白杖があるかを確認しておきます。白杖を使うようにしましょう」」
5つ目、「「暗い顔をしないでください。頑張りましょう」」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例19】

認知症の女性の尿路感染症予防のための介護



147

【事例19】認知症の女性の尿路感染症予防のための介護

この事例では、認知症のある84歳の女性Jさんが出てきます。
Jさんは夫と二人で暮らしていましたが、尿路感染症を繰り返していました。
なぜそのような状態になっていたのでしょうか。

この事例を通して、高齢者の排泄における感染予防について考えます。
また、利用者の尊厳に配慮しながら、どのような排泄支援をすることが大切かを学びましょう。

【事例18】演習③ 質問を読んで考えよう

問7

このときのGさんに対するH介護福祉職の受容的な対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. **「驚かせてしまいましたね。一緒に歩きましょうか」**
2. 「明るいところを歩きましょう。電気をつけたほうがいいですよ」
3. 「見えにくくなってきたのですね。一緒に点字の練習を始めましょう」
4. 「白杖があるかを確認しておきます。白杖を使うようにしましょう」
5. 「暗い顔をしないでください。頑張りましょう」

【解説】

- Gさんの**気持ちを受け止め、寄り添うことが大切**です。
- 「驚かせてしまいましたね」とGさんが驚いた**気持ちを受け止めます**。
- 「一緒に歩きましょうか」とGさんに**寄り添う**声かけをします。

では、問7の答えを確認します。

正解は、「驚かせてしまいましたね。一緒に歩きましょうか」です。
Gさんは、うす暗い廊下で急に声をかけられ、驚いてしまいました。
また、見えにくくて不安な気持ちもあったと考えられます。
そのため、まずは「驚かせてしまいましたね」と気持ちを受け止め、そのうえで「一緒に歩きましょうか」と寄り添う声かけをすることが大切です。
ほかの選択肢は、すぐに問題を解決しようとしたり、励ますだけで気持ちに十分に共感していなかったりします。
受容的な対応とは、まず相手の気持ちを理解し、安心できるように関わることです。

以上で、事例18の学習を終了します。

【事例19】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ｊさん（84歳、女性、要介護3）は、認知症があり、夫（86歳、要支援1）と二人暮らしである。Ｊさんは尿意はあるが、夫の介護負担を軽減するため終日おむつを使用しており、尿路感染症を繰り返していた。夫が体調不良になったので、Ｊさんは介護老人福祉施設に入所した。

出典：第36回生活支援技術（令和5年度）

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ｊさん（84歳、女性、要介護3）は、認知症があり、夫（86歳、要支援1）と二人暮らしである。
Ｊさんは尿意はあるが、夫の介護負担を軽減するため終日おむつを使用しており、尿路感染症を繰り返していた。
夫が体調不良になったので、Ｊさんは介護老人福祉施設に入所した。

以上が、今回の事例の説明です。

【事例19】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Ｊさん（84歳、女性、要介護3）は、認知症があります。
② 夫（86歳、要支援1）と二人暮らしです。
③ Ｊさんは尿意はあります。
④ 夫の介護負担を軽減するため終日おむつを使用しています。
⑤ 尿路感染症を繰り返していました。
⑥ 夫が体調不良になったので、Ｊさんは介護老人福祉施設に入所しました。

149

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Jさんの排尿の状態や生活の様子を確認しましょう。
また、Jさんの状況に対して、どのような支援が適切かも考えてみましょう。

Ｊさん（84歳、女性、要介護3）は、認知症があります。
夫（86歳、要支援1）と二人暮らしです。
Ｊさんは尿意はあります。
夫の介護負担を軽減するため終日おむつを使用しています。
尿路感染症を繰り返していました。
夫が体調不良になったので、Ｊさんは介護老人福祉施設に入所しました。

事例の説明は理解できましたか。

149

【事例19】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）尿路感染症	おしっこの通り道にばい菌が入り、炎症が起こる病気。熱が出たり、おしっこのときに痛みを感じたりすることがある。

150

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「尿路感染症」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、おしっこの通り道にばい菌が入り、炎症が起こる病気のことです。
熱が出たり、おしっこのときに痛みを感じたりすることがあります。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

150

【事例19】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Jさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。
問2 Jさんにはどのような疾患がありますか。
問3 Jさんと誰が同居していますか。
問4 Jさんに尿意はありますか。
問5 Jさんが終日おむつを使用しているのはなぜですか。
問6 Jさんはどのような症状を繰り返していましたか。
問7 Jさんが介護老人福祉施設に入所したのはなぜですか。

151

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Jさんの年齢・性別・要介護度を確認します。事例の最初の文を読み返してみましょう。次に、Jさんにはどのような疾患があるかを確認しましょう。
続いて、Jさんが誰と一緒に生活しているのかを整理します。
Jさんは誰と同居していましたか。

次に、Jさんに尿意があるかどうかを読み取ります。
尿意について書かれている部分を確認してください。
続いて、Jさんが終日おむつを使用している理由を整理します。
なぜ終日おむつをして生活をしているのかに注目しましょう。

その後、Jさんが繰り返していた症状について確認します。
体のどのような問題を繰り返していたのかを読み取りましょう。
最後に、Jさんが介護老人福祉施設に入所した理由を整理します。
Jさんの家族の状況の変化に注目してみましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

151

【事例19】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Jさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。
【正解】84才、女性、要介護3
問2 Jさんにはどのような疾患がありますか。
【正解】認知症
問3 Jさんと誰が同居していますか。
【正解】夫（86歳、要支援1）と二人暮らし
問4 Jさんに尿意はありますか。
【正解】尿意はある。
問5 Jさんが終日おむつを使用しているのはなぜですか。
【正解】夫の介護負担を軽減するため
問6 Jさんはどのような症状を繰り返していましたか。
【正解】尿路感染症
問7 Jさんが介護老人福祉施設に入所したのはなぜですか
【正解】が体調不良になったから。

152

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Jさんは、84歳の女性で、要介護3です。
これが、事例から読み取れるJさんの年齢・性別・要介護度です。

Jさんには、認知症があります。これが、Jさんの疾患です。

Jさんは、86歳で要支援1の夫と二人で暮らしていました。
夫がJさんと同居していた人です。
Jさんには、尿意があります。おしっこをしたいという感覚はありました。
しかし、夫の介護負担を軽くするために、終日おむつを使用していました。
これが、おむつを使っていた理由です。

その結果、Jさんは尿路感染症を繰り返していました。これが、Jさんが繰り返していた症状です。その後、夫が体調不良になったため、Jさんは介護老人福祉施設に入所しました。これが、入所した理由です。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

152

【事例19】演習③ 質問を読んで考えよう

問8 Jさんの尿路感染症を予防する介護として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 尿の性状を観察する。
2. 体温の変化を観察する。
3. 陰部洗浄の回数を検討する。
4. おむつを使わないで、トイレに誘導する。
5. 膀胱留置カテーテルの使用を提案する。

153

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「尿の性状を観察する。」
2つ目、「体温の変化を観察する。」
3つ目、「陰部洗浄の回数を検討する。」
4つ目、「おむつを使わないで、トイレに誘導する。」
5つ目、「膀胱留置カテーテルの使用を提案する。」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

153

【事例19】演習③ 質問を読んで考えよう

問8 Jさんの尿路感染症を予防する介護として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 尿の性状を観察する。
2. 体温の変化を観察する。
3. 陰部洗浄の回数を検討する。
4. **おむつを使わないで、トイレに誘導する。**
5. 膀胱留置カテーテルの使用を提案する。

【解説】
- Jさんには**尿意がある**ため、おむつを使わず**トイレでの排せつができる可能性**があります。
- **おむつの長時間使用は、尿路感染症のリスク**を高めます。
- **できるだけトイレで排せつすることが、感染の予防**につながります。

154

では、問8の答えを確認します。

正解は、「おむつを使わないで、トイレに誘導する」です。
Jさんには尿意があります。そのため、トイレで排せつできる可能性があります。
おむつを長時間使用すると、むれたり、ばい菌が増えやすくなったりして、尿路感染症の原因になることがあります。
できるだけトイレで排せつすることが、感染の予防につながります。
尿の様子や体温を観察すること、陰部を清潔に保つことも大切です。
しかし、これらは感染の早期発見や清潔保持であり、根本的な予防とはいえません。
また、膀胱留置カテーテルは感染のリスクが高いため、安易に使用するべきではありません。
尿意があるというJさんの力を活かし、できるだけ自然な排せつを支援することが大切です。

以上で、事例19の学習を終了します。

154

【事例２０】
テレビショッピングの健康食品購入に困る高齢女性への対応



155

【事例20】テレビショッピングの健康食品購入に困る高齢女性への対応

この事例では、もの忘れが目立ちはじめた77歳の女性Kさんが出てきます。
Kさんはテレビショッピングで商品を購入し、支払いに困っているようです。

この事例を通して、高齢者の判断力の低下と消費行動の問題について考えます。
また、本人の意思を尊重しながら、どのように状況を整理し、適切な支援につなげるかを学びましょう。

155

【事例20】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ｋさん（77歳、女性、要支援2）は、もの忘れが目立ちはじめ、訪問介護を利用しながら夫と二人で生活している。訪問時、Ｋさん夫婦から、「Ｋさんがテレビショッピングで購入した健康食品が毎月届いてしまい、高額の支払いが発生して困っている」と相談があった。

出典：第36回生活支援技術（令和5年度）

156

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ｋさん（77歳、女性、要支援2）は、もの忘れが目立ちはじめ、訪問介護を利用しながら夫と二人で生活している。
訪問時、Ｋさん夫婦から、「Ｋさんがテレビショッピングで購入した健康食品が毎月届いてしまい、高額の支払いが発生して困っている」と相談があった。

以上が、今回の事例の説明です。

156

【事例20】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Ｋさん（77歳、女性、要支援2）は、もの忘れが目立ちはじめています。
② 訪問介護を利用しながら夫と二人で生活しています。
③ 訪問時、Ｋさん夫婦から、「Ｋさんがテレビショッピングで購入した健康食品が毎月届いてしまい、高額の支払いが発生して困っている」と相談がありました。

157

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読みながら、Kさんの生活の様子や、困っていることを確認しましょう。
また、Kさん夫婦の相談に対して訪問介護員がどう対応すべきか考えてみましょう。

Ｋさん（77歳、女性、要支援2）は、もの忘れが目立ちはじめています。
訪問介護を利用しながら夫と二人で生活しています。
訪問時、Ｋさん夫婦から、「Ｋさんがテレビショッピングで購入した健康食品が毎月届いてしまい、高額の支払いが発生して困っている」と相談がありました。

事例の説明は理解できましたか。

157

【事例20】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）もの忘れ	前にあったことを思い出せなくなること。年をとると少し増えることがある。ひどくなると生活に困ることもある。

158

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「もの忘れ」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、前にあったことや、聞いたことを思い出せなくなることです。
年をとるともの忘れが少し増えることがありますが、ひどくなると生活に困ることもあります。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

158

【事例20】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Kさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。

問2 Kさんにはどのような症状が見られ始めていますか。

問3 Kさんはどのようなサービスを利用していますか。

問4 Kさんと誰が同居していますか。

問5 Kさん夫婦から訪問介護員にどのような相談がありましたか。

159

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Kさんの年齢・性別・要支援度を確認します。
事例の最初の文をもう一度読んでみましょう。

次に、Kさんにどのような症状が見られはじめているのかを考えます。
どのようなことが目立ち始めているかに注目してください。
続いて、Kさんが利用しているサービスについて整理します。
どのような介護サービスを利用しているのかを確認しましょう。

次に、Kさんが誰と生活しているのかを読み取りましょう。
Kさんと同居している家族は誰でしょうか。

最後に、Kさん夫婦が訪問介護員にどのような相談をしたのかを思い出します。
どのような困りごとがあったのか、具体的な内容を確認しましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

159

【事例20】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Kさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。
【正解】77歳、女性、要支援2

問2 Kさんにはどのような症状が見られ始めていますか。
【正解】もの忘れが目立ちはじめている。

問3 Kさんはどのようなサービスを利用していますか。
【正解】訪問介護

問4 Kさんと誰が同居していますか。
【正解】夫と二人で生活している。

問5 Kさん夫婦から訪問介護員にどのような相談がありましたか。
【正解】「Ｋさんがテレビショッピングで購入した健康食品が毎月届いてしまい、高額の支払いが発生して困っている」

160

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Kさんは、77歳の女性で、要支援2です。
これが、事例から読み取れるKさんの年齢・性別・要介護度です。

Kさんには、もの忘れが目立ちはじめています。
これが、Kさんに見られる症状です。
Kさんは、訪問介護を利用しています。
これが、Kさんが利用しているサービスです。

Kさんは、夫と二人で生活しています。
夫がKさんと同居している人です。

Kさん夫婦からは、「テレビショッピングで購入した健康食品が毎月届き、高額の支払いが発生して困っている」と伝えました。
これが、訪問介護員に対する相談内容です。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

160

【事例20】演習③ 質問を読んで考えよう

問6 Kさん夫婦に対する訪問介護員の発言として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 「健康食品は処分しましょう」
2. 「クーリング・オフをしましょう」
3. 「買い物は夫がするようにしましょう」
4. 「契約内容を一緒に確認しましょう」
5. 「テレビショッピングでの買い物はやめましょう」

161

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「「健康食品は処分しましょう」」
2つ目、「「クーリング・オフをしましょう」」
3つ目、「「買い物は夫がするようにしましょう」」
4つ目、「「契約内容を一緒に確認しましょう」」
5つ目、「「テレビショッピングでの買い物はやめましょう」」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例20】演習③ 質問を読んで考えよう

問6 Kさん夫婦に対する訪問介護員の発言として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 「健康食品は処分しましょう」
2. 「クーリング・オフをしましょう」
3. 「買い物は夫がするようにしましょう」
4. **「契約内容を一緒に確認しましょう」**
5. 「テレビショッピングでの買い物はやめましょう」

【解説】
- まず**契約内容を確認し、状況を整理することが大切**です。
- **本人の意思を尊重し、一緒に解決方法を考える**姿勢が求められます。

162

では、問8の答えを確認します。

正解は、「契約内容を一緒に確認しましょう」です。
Kさん夫婦が困っているのは、健康食品の購入による高額な支払いです。
まずは、どのような契約をしているのかを確認することが大切です。
いきなり商品を処分したり、クーリング・オフをすると決めたりするのは、適切ではありません。
また、Kさんの買い物をやめさせることも、本人の気持ちを尊重していない対応です。
訪問介護員は、Kさん夫婦と一緒に状況を整理し、どのような方法がよいかを考えることが大切です。
本人の意思を大切にしながら、解決に向けて支援する姿勢が求められます。

以上で、事例20の学習を終了します。

【事例２１】
睡眠中のいびきと日中の眠気がある男性施設利用者への対応



163

【事例21】睡眠中のいびきと日中の眠気がある男性施設利用者への対応

この事例では、介護老人保健施設に入所している79歳の男性Lさんが出てきます。
Lさんは睡眠中に大きないびきをかいているようです。

この事例を通して、高齢者の睡眠の問題の重要性を理解します。
また、介護福祉職として、どのように対応するべきかを考えます。

【事例21】事例説明

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ｌさん（79歳、男性、要介護2）は、介護老人保健施設に入所して1か月が経過した。睡眠中に大きないびきをかいていることが多く、いびきの音が途切れることもある。夜間に目を覚ましていたり、起床時にだるそうにしている様子もしばしば見られている。

出典：第36回生活支援技術（令和5年度）

164

まずは事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ｌさん（79歳、男性、要介護2）は、介護老人保健施設に入所して1か月が経過した。
睡眠中に大きないびきをかいていることが多く、いびきの音が途切れることもある。
夜間に目を覚ましていたり、起床時にだるそうにしている様子もしばしば見られている。

以上が、今回の事例の説明です。

【事例21】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Ｌさん（79歳、男性、要介護2）は、介護老人保健施設に入所して1か月が経過しました。
② 睡眠中に大きないびきをかいていることが多いです。
③ いびきの音が途切れることもあります。
④ 夜間に目を覚ましていることもしばしば見られています。
⑤ 起床時にだるそうにしている様子もしばしば見られています。

165

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Lさんの睡眠の様子を確認しましょう。
また、Lさんの様子に対して、介護福祉職がどのように対応することが適切かも考えてみましょう。

Ｌさん（79歳、男性、要介護2）は、介護老人保健施設に入所して1か月が経過しました。
睡眠中に大きないびきをかいていることが多いです。
いびきの音が途切れることもあります。
夜間に目を覚ましていることもしばしば見られています。
起床時にだるそうにしている様子もしばしば見られています。

事例の説明は理解できましたか。

165

【事例21】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）いびき	寝ているときに、「ぐー」「ごー」などの大きな音が出ること。ひどいいびきは、よく眠れていないサインになることもある。

166

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「いびき」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、寝ているときに、「ぐー」「ごー」などの大きな音が出ることです。
ひどいいびきは、よく眠れていないサインになることもあります。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

166

【事例21】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Lさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。
問2 Lさんが介護老人保健施設に入所してどのくらいの期間が経過していますか。
問3 Lさんの睡眠中の様子はどのようなものですか。
問4 Lさんには夜間にどのようなことが見られていますか。
問5 Lさんには起床時にどのようなことが見られていますか。

167

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Lさんの年齢・性別・要介護度を確認します。
事例の最初の文を読み返してみましょう。

続いて、Lさんが介護老人保健施設に入所してどのくらいの期間がたったかを読み取りましょう。Lさんが施設に入所してから何カ月になりますか。

次に、Lさんの睡眠中の様子について整理します。
どのようないびきが見られているのかを確認しましょう。

続いて、夜間の様子を読み取りましょう。
夜にどのような様子が見られているかに注目してください。
次に、起床時の様子について整理します。
目覚めたときにLさんはどのようなことが見られていますか。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

167

【事例21】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Lさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。
【正解】79歳、男性、要介護2
問2 Lさんが介護老人保健施設に入所してどのくらいの期間が経過していますか。
【正解】1か月
問3 Lさんの睡眠中の様子はどのようなものですか。
【正解】大きないびきをかいていることが多い。いびきの音が途切れることもある。
問4 Lさんには夜間にどのようなことが見られていますか。
【正解】夜間に目を覚ましていることもしばしば見られている。
問5 Lさんには起床時にどのようなことが見られていますか。
【正解】起床時にだるそうにしている様子もしばしば見られている。

168

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Lさんは、79歳の男性で、要介護2です。
これが、事例から読み取れるLさんの年齢・性別・要介護度です。

Lさんは、介護老人保健施設に入所して1か月が経過しています。
これが、施設に入所してからの期間です。

Lさんは、睡眠中に大きないびきをかくことが多く、いびきの音が途切れることもあります。これが、Lさんの睡眠中の様子です。

また、夜に目を覚ましていることもしばしば見られています。
これが、Lさんの夜間の様子です。

さらに、目を覚ました時にはだるそうにしている様子が見られています。
これが、Lさんの起床時の様子です。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

168

【事例21】演習③ 質問を読んで考えよう

問6 介護福祉職がＬさんについて収集すべき情報として、最も優先度の高いものを1 つ選びなさい。

1. 枕の高さ
2. マットレスの硬さ
3. 掛け布団の重さ
4. 睡眠中の足の動き
5. 睡眠中の呼吸状態

169

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「枕の高さ」
2つ目、「マットレスの硬さ」
3つ目、「掛け布団の重さ」
4つ目、「睡眠中の足の動き」
5つ目、「睡眠中の呼吸状態」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例２２】

認知症の高齢女性の大正琴を通じた支援（Part１）



171

【事例22】認知症の高齢女性の大正琴を通じた支援（Part１）

この事例では、認知症を疑われ施設に入所した75歳の女性Aさんが出てきます。
施設では大正琴クラブに参加して、笑顔を見せています。
ある日のクラブ活動後、Aさんは職員に強い口調であることを言いました。

この事例を通して、認知症のある利用者の言動をどのように理解するかを考えます。
また、その人の生活歴や強みを活かした支援のあり方について学びましょう。

【事例21】演習③ 質問を読んで考えよう

問6 介護福祉職がＬさんについて収集すべき情報として、最も優先度の高いものを1 つ選びなさい。

1. 枕の高さ
2. マットレスの硬さ
3. 掛け布団の重さ
4. 睡眠中の足の動き
5. **睡眠中の呼吸状態**

【解説】

- **睡眠中の呼吸の乱れ**が見られます。
- まずは**睡眠中の呼吸状態を観察することが大切**です。
- **夜に目が覚めることや朝のだるさ**も大切なサインです。

170

では、問7の答えを確認します。

正解は、「睡眠中の呼吸状態」です。
Lさんは、大きないびきをかいています。
また、いびきの音が途中で止まることもあります。
さらに、夜に目を覚ましたり、朝にだるそうにしていたりする様子も見られます。
このような状態は、睡眠時無呼吸症候群の可能性も考えられます。
そのため、まずは睡眠中の呼吸の様子をしっかり観察することが大切です。
ほかの選択肢も睡眠に関係していますが、呼吸の状態のほうが優先度は高いです。

以上で、事例21の学習を終了します。

【事例22】事例説明（Part1）

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ａさん（75歳、女性）は、一人暮らしで、身体機能に問題はない。70歳まで地域の子どもたちに大正琴を教えていた。認知症（dementia）の進行が疑われて、心配した友人が地域包括支援センターに相談した結果、Ａさんは介護老人福祉施設に入所することになった。入所時のＡさんの要介護度は3であった。入所後、短期目標を、「施設に慣れ、安心して生活する（3か月）」と設定し、計画は順調に進んでいた。Ａさんは施設の大正琴クラブに自ら進んで参加し、演奏したり、ほかの利用者に大正琴を笑顔で教えたりしていた。ある日、クラブの終了後に、Ａさんは部屋に戻らずに、エレベーターの前で立ち止まっていた。介護職員が声をかけると、Ａさんが、「あの子たちが待っているの」と強い口調で言った。

出典：第36回介護過程（令和5年度）

172

まずはPART1の事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ａさん（75歳、女性）は、一人暮らしで、身体機能に問題はない。
70歳まで地域の子どもたちに大正琴を教えていた。
認知症（dementia）の進行が疑われて、心配した友人が地域包括支援センターに相談した結果、Ａさんは介護老人福祉施設に入所することになった。
入所時のＡさんの要介護度は3であった。
入所後、短期目標を、「施設に慣れ、安心して生活する（3か月）」と設定し、計画は順調に進んでいた。
Ａさんは施設の大正琴クラブに自ら進んで参加し、演奏したり、ほかの利用者に大正琴を笑顔で教えたりしていた。
ある日、クラブの終了後に、Ａさんは部屋に戻らずに、エレベーターの前で立ち止まっていた。
介護職員が声をかけると、Ａさんが、「あの子たちが待っているの」と強い口調で言った。

以上が、今回のPART1の事例の説明です。

【事例22】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Aさん（75歳、女性）は、一人暮らしです。
② 身体機能に問題はありません。
③ 70歳まで地域の子どもたちに大正琴を教えていました。
④ 認知症（dementia）の進行が疑われました。
⑤ 心配した友人が地域包括支援センターに相談しました。
⑥ その結果、Aさんは介護老人福祉施設に入所することになりました。
⑦ 入所時のAさんの要介護度は3でした。
⑧ 入所後、短期目標を、「施設に慣れ、安心して生活する（3か月）」と設定しました。
⑨ 計画は順調に進んでいました。
⑩ Aさんは施設の大正琴クラブに自ら進んで参加していました。
⑪ 演奏したり、ほかの利用者に大正琴を笑顔で教えたりしていました。
⑫ ある日、クラブの終了後に、Aさんは部屋に戻らずに、エレベーターの前で立ち止まっていました。
⑬ 介護職員が声をかけました。
⑭ Aさんは「あの子たちが待っているの」と強い口調で言いました。

173

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。一文ずつ読んで、Aさんの生活歴や施設での様子を確認しましょう。また、Aさんの発言の意味をどのように理解し、どのような支援が適切かを考えてみましょう。

Aさん（75歳、女性）は、一人暮らしです。 身体機能に問題はありません。
70歳まで地域の子どもたちに大正琴を教えていました。
認知症（dementia）の進行が疑われました。
心配した友人が地域包括支援センターに相談しました。
その結果、Aさんは介護老人福祉施設に入所することになりました。
入所時のAさんの要介護度は3でした。
入所後、短期目標を、「施設に慣れ、安心して生活する（3か月）」と設定しました。
計画は順調に進んでいました。
Aさんは施設の大正琴クラブに自ら進んで参加していました。
演奏したり、ほかの利用者に大正琴を笑顔で教えたりしていました。
ある日、クラブの終了後に、Aさんは部屋に戻らずに、エレベーターの前で立ち止まっていました。 介護職員が声をかけました。
Aさんは「あの子たちが待っているの」と強い口調で言いました。

事例の説明は理解できましたか。

【事例22】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）大正琴	日本の楽器の一つ。細い箱のような形をしていて、左手で音階のボタンを押さえて、右手で弦をはじいて音を出す。

174

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「大正琴」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、日本の楽器の一つで、細い箱のような形をしています。
左手で音階のボタンを押さえて、右手で弦をはじいて音を出します。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

【事例22】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Aさんの施設入所前の生活状況について説明してください。

問2 Aさんが施設入所することになった経緯を説明してください。

問3 入所後の短期目標とその達成状況について説明してください。

問4 クラブ活動終了後のAさんの様子はどのようでしたか。

175

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Aさんの施設入所前の生活状況を確認します。
何歳で、身体状況やどのようなことをして生活をしていたかを読み取りましょう。

続いて、Aさんが施設に入所することになった流れを読み取りましょう。
どのようなきっかけで入所が決まったのかに注目してください。

次に、入所後の短期目標とその達成状況について整理します。
どのような目標が立てられ、Aさんにどのような様子が見られていたかを確認しましょう。

続いて、大正琴クラブ活動終了後のAさんの様子を読み取りましょう。どのように活動に参加していたかに注目してください。
Aさんはどのような様子で、どのような言葉を話したのかを確認しましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例22】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Aさんの施設入所前の生活状況について説明してください。
【正解】Aさんは75歳の女性で、一人暮らしをしていました。身体機能には問題はなく、70歳までは地域の子どもたちに大正琴を教えるなど、充実した生活を送っていました。

問2 Aさんが施設入所することになった経緯を説明してください。
【正解】Aさんに認知症の進行が疑われるようになり、それを心配した友人が地域包括支援センターに相談しました。その結果、介護老人福祉施設への入所が決まり、入所時の要介護度は3という状態でした。

問3 入所後の短期目標とその達成状況について説明してください。
【正解】「施設に慣れ、安心して生活する」という3か月間の短期目標が設定され、その計画は順調に進んでいました。特に大正琴クラブでの活動を通して、施設生活への適応が進んでいる様子が見られました。

問4 クラブ活動終了後のAさんの様子はどのようでしたか。
【正解】Aさんは部屋に戻らず、エレベーターの前で立ち止まっていました。介護職員が声をかけると「あの子たちが待っているの」と強い口調で話しました。この言動からは、過去に子どもたちに大正琴を教えていた時期の記憶が現在の状況と混ざり合っている可能性が考えられます。

176

ここでは、質問に対する答えの例を示します。自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Aさんは、75歳の女性で、一人暮らしをしていました。
身体機能に問題はなく、70歳までは地域の子どもたちに大正琴を教えていました。
これが、施設入所前のAさんの生活の様子です。
Aさんは、認知症の進行が疑われました。それを心配した友人が地域包括支援センターに相談しました。その結果、介護老人福祉施設に入所することになり、入所時の要介護度は3でした。これが、Aさんが施設入所することになった経緯です。
入所後は、「施設に慣れ、安心して生活する」という3か月の短期目標が設定されました。その計画は順調に進んでいました。Aさんは大正琴クラブでの活動を通して、施設生活への適応が進んでいる様子でした。これが、入所後の短期目標とその達成状況です。

しかし、クラブ活動のあとAさんは部屋に戻らず、エレベーターの前で立ち止まっていました。介護職員が声をかけると「あの子たちが待っているの」と強い口調で話しました。これがクラブ活動終了後のAさんの様子です。Aさんは過去に子どもたちに大正琴を教えていた時の記憶と現在の状況が混ざっている可能性が考えられます。
この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

【事例22】演習③ 質問を読んで考えよう

問5

大正琴クラブが終わった後のＡさんの行動を解釈するために必要な情報として、最も優先すべきものを選び、その理由を説明してください。

1. 介護職員の声かけのタイミング
2. Ａさんが演奏した時間
3. 「あの子たちが待っているの」という発言
4. クラブに参加した利用者の人数
5. 居室とエレベーターの位置関係

177

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「介護職員の声かけのタイミング」
2つ目、「Ａさんが演奏した時間」
3つ目、「「あの子たちが待っているの」という発言」
4つ目、「クラブに参加した利用者の人数」
5つ目、「居室とエレベーターの位置関係」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

177

【事例２２】

認知症の高齢女性の大正琴を通じた支援（Part２）



179

【事例22】認知症の高齢女性の大正琴を通じた支援（Part２）

この事例は、Part１からの続きの事例です。
もし、Part１を学習していない場合は、Part１から学習をはじめてください。

この事例では、認知症を疑われ施設に入所した75歳の女性Aさんが出てきます。
施設では大正琴クラブに参加して、笑顔を見せています。
ある日のクラブ活動後、Aさんは職員に強い口調であることを言いました。

この事例を通して、認知症のある利用者の言動をどのように理解するかを考えます。
また、その人の生活歴や強みを活かした支援のあり方について学びましょう。

179

【事例22】演習③ 質問を読んで考えよう

問5

大正琴クラブが終わった後のＡさんの行動を解釈するために必要な情報として、最も優先すべきものを選び、その理由を説明してください。

1. 介護職員の声かけのタイミング
2. Ａさんが演奏した時間
3. **「あの子たちが待っているの」という発言**
4. クラブに参加した利用者の人数
5. 居室とエレベーターの位置関係

【解説】

- **Aさんのこの発言は、Aさんの言動を理解し、適切な支援をするための大切な手がかり**です。
- 発言は地域の子どもたちに大正琴を教えていた**過去の生活と関係している**と考えられます。
- 認知症が進むと、見当識障害が現れ、**今の状況と過去の記憶が混ざる**ことがあります。

178

では、問5の答えを確認します。

正解は、「「あの子たちが待っているの」という発言」です。
Aさんは、以前、地域の子どもたちに大正琴を教えていました。
そのため、「あの子たちが待っているの」という言葉は、過去の生活と強く関係していると考えられます。
認知症が進むと、見当識障害が現れ、今の状況と過去の記憶が混ざることがあります。
Aさんのこの発言は、Aさんの言動を理解し、適切な支援をするための大切な手がかりです。

これで、【事例22】認知症の高齢女性の大正琴を通じた支援のPart１の学習を終了します。

178

【事例22】事例説明（Part2）

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Aさんの状況から支援を見直すことになりました。

出典：第36回介護過程（令和5年度）

180

PART2の事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Aさんの状況から支援を見直すことになりました。

以上が、今回のPART2の事例の説明です。

180

【事例22】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 これまでの支援計画はどのように進んでいましたか。

問2 大正琴クラブでのAさんの様子から、どのような特徴が見られましたか。

問3 支援を見直す必要性が生じた理由を説明してください。

181

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、入所後の支援計画がどのように進んでいたかを確認します。
短期目標の内容と、その達成状況、Aさんの様子に注目して読み取りましょう。

続いて、大正琴クラブでのAさんの様子を整理します。
Aさんがどのように活動に参加していたか、どのような表情や行動が見られていたかを確認してください。

最後に、クラブ終了後の出来事から、なぜ支援を見直す必要が出てきたのかを考えます。
Aさんの発言に注目し、その言葉がどのような意味を持つのかを読み取りましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例22】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 これまでの支援計画はどのように進んでいましたか。
【正解】入所後に設定された「施設に慣れ、安心して生活する（3か月）」という短期目標は順調に進んでいました。特に大正琴クラブでの活動を通して、Aさんが施設生活に適応している様子が見られていました。

問2 大正琴クラブでのAさんの様子から、どのような特徴が見られましたか。
【正解】Aさんは大正琴クラブに自ら進んで参加するだけでなく、他の利用者に対して大正琴を教える場面も見られ、そうした活動の中で笑顔を見せていました。これは施設での新たな役割を見出している可能性を示唆しています。

問3 支援を見直す必要性が生じた理由を説明してください。
【正解】クラブ終了後にAさんが「あの子たちが待っているの」と発言したエピソードから、過去の経験と現在の状況が混在している様子が見られました。このことから、Aさんの認知機能の状態や、大正琴を通した活動の意味をより深く理解し、適切な支援の方向性を検討する必要性が生じています。

182

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

入所後に設定された「施設に慣れ、安心して生活する（3か月）」という短期目標は、順調に進んでいました。
Aさんは大正琴クラブに参加し、活動を通して施設生活に適応している様子が見られました。これが、これまでの支援計画の進み具合です。
大正琴クラブでは、Aさんは自ら進んで活動に参加し、ほかの利用者に大正琴を教える姿も見られました。
そのときのAさんは笑顔で、施設の中で自分の役割を見出している様子でした。
これが、クラブ活動で見られたAさんの特徴です。

しかし、クラブ活動終了後、Aさんは部屋に戻らず、エレベーターの前で立ち止まっていました。介護職員が声をかけると、「あの子たちが待っているの」と強い口調で話しました。この発言から、過去の記憶と現在の状況が混ざっている可能性が考えられます。
また、Aさんの大正琴を通じた活動の意味をより深く理解する必要があります。そのため、支援の見直しが必要になりました。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

【事例22】演習③ 質問を読んで考えよう

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「介護職員との関係を改善する。」
2つ目、「身体機能を改善する。」
3つ目、「演奏できる自信を取り戻す。」
4つ目、「エレベーターの前に座れる環境を整える。」
5つ目、「大正琴を教える役割をもつ。」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例22】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 Aさんの状況から支援を見直すことになりました。新たな支援の方向性として、最も適切なものを選び、その理由を説明してください。

1. 介護職員との関係を改善する。
2. 身体機能を改善する。
3. 演奏できる自信を取り戻す。
4. エレベーターの前に座れる環境を整える。
5. 大正琴を教える役割をもつ。

184

では、問4の答えを確認します。

正解は、「大正琴を教える役割をもつ」です。
Aさんは、70歳まで地域の子どもたちに大正琴を教えていました。
施設でも、自ら進んでクラブに参加し、ほかの利用者に大正琴を教えていました。
また、「あの子たちが待っているの」という発言からも、教えることがAさんにとって大切な役割であることがわかります。
そのため、施設の中で教える役割をもつことは、Aさんの強みを活かす支援につながります。役割をもつことで、生きがいや自信を保つことができ、今の生活を前向きに続ける助けになると考えられます。

以上で、事例22の学習を終了します。

【事例22】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 Aさんの状況から支援を見直すことになりました。新たな支援の方向性として、最も適切なものを選び、その理由を説明してください。

1. 介護職員との関係を改善する。
2. 身体機能を改善する。
3. 演奏できる自信を取り戻す。
4. エレベーターの前に座れる環境を整える。
5. **大正琴を教える役割をもつ。**

【解説】

- Aさんの発言から、**教える役割への思い**が残っていると考えられます。
- **役割をもつことは、生きがいづくり**につながります。
- **Aさんの教える経験という強みを活かす支援**が、適切な方向性です。

【事例２３】

就労継続支援B型事業所を利用する左片麻痺の男性（Part１）



185

【事例23】就労継続支援B型事業所を利用する左片麻痺の男性（Part１）

この事例では、49歳で脳梗塞を発症し、左片麻痺と高次脳機能障害のあるBさんが出てきます。
ある日、就労継続支援B型事業所で、新たに組立て作業に挑戦しましたが、「こんなの、できない」と大声を出しました。

この事例を通して、障害特性が作業にどのような影響を与えているかを考えます。
また、本人の自尊心や希望を大切にしながら、どのように支援方法を工夫すればよいかを学びましょう。

185

【事例23】事例説明（Part1）

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ｂさん（50歳、男性、障害支援区分3）は、49歳のときに脳塞（cerebral infarction）を発症し、左片麻痺で高次脳機能障害（higher brain dysfunction）と診断された。以前は大工で、手先が器用だったと言っている。現在は就労継続支援Ｂ型事業所に通っている。
短期目標を、「右手を使い、作業を自分ひとりで行える（3か月）」と設定し、製品を箱に入れる単純作業を任されていた。ほかの利用者との人間関係も良好で、左片麻痺に合わせた作業台で、毎日の作業目標を達成していた。生活支援員には、「将来は手先を使う仕事に就きたい」と希望を話していた。

出典：第36回介護過程（令和5年度）

186

まずはPART1の事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ｂさん（50歳、男性、障害支援区分3）は、49歳のときに脳塞（cerebral infarction）を発症し、左片麻痺で高次脳機能障害（higher brain dysfunction）と診断された。
以前は大工で、手先が器用だったと言っている。
現在は就労継続支援Ｂ型事業所に通っている。
短期目標を、「右手を使い、作業を自分ひとりで行える（3か月）」と設定し、製品を箱に入れる単純作業を任されていた。
ほかの利用者との人間関係も良好で、左片麻痺に合わせた作業台で、毎日の作業目標を達成していた。
生活支援員には、「将来は手先を使う仕事に就きたい」と希望を話していた。

以上が、今回のPART1の事例の説明です。

186

【事例23】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Ｂさん（50歳、男性、障害支援区分3）は、49歳のときに脳塞（cerebral infarction）を発症しました。
② 左片麻痺で高次脳機能障害（higher brain dysfunction）と診断されました。
③ 以前は大工で、手先が器用だったと言っています。
④ 現在は就労継続支援Ｂ型事業所に通っています。
⑤ 短期目標を、「右手を使い、作業を自分ひとりで行える（3か月）」と設定しました。
⑥ 製品を箱に入れる単純作業を任されていました。
⑦ ほかの利用者との人間関係も良好です。
⑧ 左片麻痺に合わせた作業台で、毎日の作業目標を達成していました。
⑨ 生活支援員には、「将来は手先を使う仕事に就きたい」と希望を話していました。

187

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Bさんの障害や事業所での様子を確認しましょう。
また、Bさんの将来の希望を理解し、どのような支援が適切かを考えてみましょう。

Ｂさん（50歳、男性、障害支援区分3）は、49歳のときに脳塞（cerebral infarction）を発症しました。
左片麻痺で高次脳機能障害（higher brain dysfunction）と診断されました。
以前は大工で、手先が器用だったと言っています。
現在は就労継続支援Ｂ型事業所に通っています。
短期目標を、「右手を使い、作業を自分ひとりで行える（3か月）」と設定しました。
製品を箱に入れる単純作業を任されていました。
ほかの利用者との人間関係も良好です。
左片麻痺に合わせた作業台で、毎日の作業目標を達成していました。
生活支援員には、「将来は手先を使う仕事に就きたい」と希望を話していました。

事例の説明は理解できましたか。

187

【事例23】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）高次脳機能障害	病気やけがで脳に傷がつき、注意力・記憶力・言語・感情のコントロール等がうまくいかなくなる障害。

188

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「高次脳機能障害」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、病気やけがで脳に傷がつき、注意力・記憶力・言語・感情のコントロール等がうまくいかなくなる障害のことです。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

188

【事例23】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Bさんの障害に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。
1. 右片麻痺で高次脳機能障害がある。
2. 左片麻痺で高次脳機能障害がある。
3. 右片麻痺で失語症がある。
4. 左片麻痺で失語症がある。
5. 右片麻痺で構音障害がある。

問2 Bさんが就労継続支援B型事業所で行っていた作業はどのようなものですか。

問3 Bさんは生活支援員に将来の希望をどのように話していましたか。

189

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Bさんの障害の内容について確認します。
体のどの部分にまひがあって、どのような障害があるのかを読み取りましょう。

次に、Bさんが就労継続支援B型事業所で行っていた作業について整理します。
どのような仕事を任されていたのかを確認しましょう。

最後に、Bさんが生活支援員に話していた将来の希望について考えます。
どのような仕事に就きたいと話していたのかを読み取りましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例23】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Bさんの障害に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。
1. 右片麻痺で高次脳機能障害がある。
2. **左片麻痺で高次脳機能障害がある。**
3. 右片麻痺で失語症がある。
4. 左片麻痺で失語症がある。
5. 右片麻痺で構音障害がある。

問2 Bさんが就労継続支援B型事業所で行っていた作業はどのようなものですか。
【正解】製品を箱に入れる単純作業を任されていました。

問3 Bさんは生活支援員に将来の希望をどのように話していましたか。
【正解】「将来は手先を使う仕事に就きたい」と希望を話していました。

190

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

問1の正解は、「左片麻痺で高次脳機能障害がある」です。
Bさんは49歳のときに脳梗塞を発症し、左片麻痺と高次脳機能障害と診断されました。

次に、Bさんは就労継続支援B型事業所で、製品を箱に入れる単純作業をしていました。
これが、Bさんが就労継続支援B型事業所で行っていた作業です。

最後に、Bさんは生活支援員に「将来は手先を使う仕事に就きたい」と話していました。
これが、Bさんが生活支援員に話した将来の希望です。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例23】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 Bさんに対するカンファレンス（conference）が開催され、短期目標を達成するための具体的な支援について見直すことになった。次の記述のうち、見直した支援内容として、最も適切なものを1つ選びなさい
1. 完成品の不備を出すことへの反省を促す。
2. 左側に部品を置いて作業するように促す。
3. 完成までの手順を理解しやすいように示す。
4. 生活支援員が横に座り続けて作業内容を指示する。
5. 製品を箱に入れる単純作業も同時に行うように調整する。

191

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「完成品の不備を出すことへの反省を促す。」
2つ目、「左側に部品を置いて作業するように促す。」
3つ目、「完成までの手順を理解しやすいように示す。」
4つ目、「生活支援員が横に座り続けて作業内容を指示する。」
5つ目、「製品を箱に入れる単純作業も同時に行うように調整する。」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例23】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 Bさんに対するカンファレンス（conference）が開催され、短期目標を達成するための具体的な支援について見直すことになった。次の記述のうち、見直した支援内容として、最も適切なものを1つ選びなさい
1. 完成品の不備を出すことへの反省を促す。
2. 左側に部品を置いて作業するように促す。
3. **完成までの手順を理解しやすいように示す。**
4. 生活支援員が横に座り続けて作業内容を指示する。
5. 製品を箱に入れる単純作業も同時に行うように調整する。

【解説】
- **高次脳機能障害では、作業手順を理解したり、作業を行うことが難しくなる**ことがあります。
- **手順を分かりやすく示すことが、Bさんの力を活かす支援**になります。
- 反省を促すのではなく、**自立を支える工夫**が重要です。
- **自尊心を尊重**しながら、**特性に合わせた支援**を行います。

192

では、問4の答えを確認します。

正解は、「完成までの手順を理解しやすいように示す」です。
Bさんは、左片麻痺と高次脳機能障害があります。
新しい組み立て作業がうまく進まなかったのは、意欲の問題ではなく、障害の特性が影響していると考えられます。
高次脳機能障害がある場合、作業の流れを理解したり、順序立てて進めたりすることが難しくなることがあります。
そのため、完成までの手順を分かりやすく示すことは、Bさんの力を引き出すための大切な支援です。
反省を促したり、常に横で指示を出したりするのではなく、本人が自分で取り組めるように工夫することが重要です。
Bさんの自尊心を大切にしながら、障害特性に合わせた支援を行うことが、目標達成につながります。

これで、Part 1 の学習を終了します。

【事例２３】

就労継続支援B型事業所を利用する左片麻痺の男性（Part２）



193

【事例23】就労継続支援B型事業所を利用する左片麻痺の男性（Part２）

この事例は、Part１からの続きの事例です。
もし、Part１を学習していない場合は、Part１から学習をはじめてください。

この事例では、49歳で脳梗塞を発症し、左片麻痺と高次脳機能障害のあるBさんが出てきます。
ある日、就労継続支援B型事業所で、新たに組立て作業に挑戦しましたが、「こんなの、できない」と大声を出しました。

この事例を通して、障害特性が作業にどのような影響を与えているかを考えます。
また、本人の自尊心や希望を大切にしながら、どのように支援方法を工夫すればよいかを学びましょう。

193

【事例23】事例説明（Part2）

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



将来に向けて、生活支援員が新たに製品の組立て作業を提案すると、Ｂさんも喜んで受け入れた。初日に、「ひとりで頑張る」と始めたが、途中で何度も手が止まり、完成品に不備が見られた。生活支援員が声をかけると、「こんなの、できない」と大声を出した。

出典：第36回介護過程（令和5年度）

194

PART2の事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

将来に向けて、生活支援員が新たに製品の組立て作業を提案すると、Ｂさんも喜んで受け入れた。
初日に、「ひとりで頑張る」と始めたが、途中で何度も手が止まり、完成品に不備が見られた。
生活支援員が声をかけると、「こんなの、できない」と大声を出した。

以上が、今回のPART2の事例の説明です。

194

【事例23】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① 生活支援員は、将来を考えて新しい製品の組立て作業を提案しました。
② Ｂさんは、その提案を喜んで受け入れました。
③ 初日に、Ｂさんは「ひとりで頑張る」と言いました。
④ Ｂさんは、作業を始めました。
⑤ Ｂさんは、作業の途中で何度も手を止めました。
⑥ 完成品に不備が見られました。
⑦ 生活支援員は、Ｂさんに声をかけました。
⑧ Ｂさんは、「こんなの、できない」と大声を出しました。

195

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Bさんの作業の状況を確認しましょう。
また、Bさんの心情を考えてみましょう。

生活支援員は、将来を考えて新しい製品の組立て作業を提案しました。
Ｂさんは、その提案を喜んで受け入れました。
初日に、Ｂさんは「ひとりで頑張る」と言いました。
Ｂさんは、作業を始めました。
Ｂさんは、作業の途中で何度も手を止めました。
完成品に不備が見られました。
生活支援員は、Ｂさんに声をかけました。
Ｂさんは、「こんなの、できない」と大声を出しました。

事例の説明は理解できましたか。

195

【事例23】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）不備	足りないところがあることや、うまくできていない部分があること。

196

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「不備」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、足りないところがあることや、うまくできていない部分があることです。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

196

【事例23】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 「しかし、途中で何度も手が止まった。」「完成品に不備が見られた。」という記述から読み取れるBさんの作業状況を説明してください。

問2 Bさんが「こんなの、できない」と言った理由として考えられることは何ですか。

197

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Bさんの作業の様子を確認します。
組み立て作業を始めたあと、どのような様子が見られたのかに注目して読みましょう。
途中の状況や、完成品の状態について確認してください。

次に、Bさんが「こんなの、できない」と言った理由について考えます。
作業が思うようにできなかったことが、どのような気持ちにつながったのかを考えてみましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

197

【事例23】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 「しかし、途中で何度も手が止まった。」「完成品に不備が見られた。」という記述から読み取れるBさんの作業状況を説明してください。
【正解】製品の組み立て作業を始めたが、途中で何度も手が止まり、完成品に不備が見られた。

問2 Bさんが「こんなの、できない」と言った理由として考えられることは何ですか。
【正解】製品の組み立て作業が思うようにできず、うまくいかなかったことへのいらだちや自信喪失の表れだと考えられます。

198

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Bさんは製品の組み立て作業を始めましたが、途中で何度も手が止まりました。
そして、完成した製品には不備が見られました。
これが、Bさんの作業状況です。

また、生活支援員が声をかけたとき、Bさんは「こんなの、できない」と大声を出しました。
このように言ったのは、思うように作業ができなかったことへのいらだちや、自信をなくした気持ちの表れだと考えられます。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

198

【事例23】演習③ 質問を読んで考えよう

問3 生活支援員の声かけに対し、Bさんが大声を出した理由を解釈する視点として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. ほかの利用者との人間関係
2. 生活支援員に話した将来の希望
3. 製品を箱に入れる毎日の作業量
4. 製品の組立て作業の状況
5. 左片麻痺に合わせた作業台

199

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「ほかの利用者との人間関係」
2つ目、「生活支援員に話した将来の希望」
3つ目、「製品を箱に入れる毎日の作業量」
4つ目、「製品の組立て作業の状況」
5つ目、「左片麻痺に合わせた作業台」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

199

【事例23】演習③ 質問を読んで考えよう

問3 生活支援員の声かけに対し、Bさんが大声を出した理由を解釈する視点として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. ほかの利用者との人間関係
2. 生活支援員に話した将来の希望
3. 製品を箱に入れる毎日の作業量
4. **製品の組立て作業の状況**
5. 左片麻痺に合わせた作業台

【解説】

- Bさんが**大声を出したのは、製品の組立て作業がうまくいかなかった状況への反応**です。
- **作業を思うようにできないストレスやいらだち**が強くなったと考えられます。
- ほかの利用者との関係や将来の希望などは、この場面の直接の理由とは考えにくいです。

200

では、問3の答えを確認します。

正解は、「製品の組立て作業の状況」です。
Bさんは、新しい組立て作業を始めましたが、途中で何度も手が止まりました。
完成した製品にも不備が見られました。
そのため、思うようにできない気持ちや、うまくいかないいらだちが強くなったと考えられます。
大声を出したのは、生活支援員の声かけそのものが原因ではなく、作業がうまくいかなかったことへの反応だと考えるのが適切です。
ほかの利用者との関係や将来の希望などは、この場面の直接の理由とは考えにくいです。
Bさんの気持ちを理解するためには、まず作業の状況に目を向けることが大切です。

以上で、事例23の学習を終了します。

200

【事例２４】

前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part１）



201

【事例24】前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part１）

この事例では、59歳の男性Cさんが出てきます。
Cさんはある日、八百屋で代金を支払わずに商品を持ち帰る行動をしてしまったようです。

この事例を通して、前頭側頭型認知症の特徴的な行動をどのように理解するかを考えます。
また、行動を制限するのではなく、社会参加を支える支援のあり方について学びましょう。

201

【事例24】事例説明（Part1）

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ｃさん（59歳、男性）は、妻（55歳）と二人暮らしであり、専業農家である。Ｃさんはおとなしい性格であったが、最近怒りやすくなったと妻は感じていた。Ｃさんは毎日同じ時間に同じコースを散歩している。ある日、散歩コースの途中にあり、昔からよく行く八百屋から、「Ｃさんが代金を支払わずに商品を持っていった。今回で2回目になる。お金を支払いにきてもらえないか」と妻に連絡があった。妻がＣさんに確認したところ、悪いことをした認識がなかった。

出典：第36回総合問題（令和5年度）

202

まずはPART1の事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ｃさん（59歳、男性）は、妻（55歳）と二人暮らしであり、専業農家である。
Ｃさんはおとなしい性格であったが、最近怒りやすくなったと妻は感じていた。
Ｃさんは毎日同じ時間に同じコースを散歩している。
ある日、散歩コースの途中にあり、昔からよく行く八百屋から、「Ｃさんが代金を支払わずに商品を持っていった。今回で2回目になる。お金を支払いにきてもらえないか」と妻に連絡があった。
妻がＣさんに確認したところ、悪いことをした認識がなかった。

以上が、今回のPART1の事例の説明です。

202

【事例24】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Ｃさん（59歳、男性）は、妻（55歳）と二人暮らしです。
② Ｃさんは専業農家です。
③ Ｃさんはおとなしい性格でした。
④ しかし、最近怒りやすくなったと妻は感じていました。
⑤ Ｃさんは毎日同じ時間に同じコースを散歩しています。
⑥ ある日、散歩コースの途中にある昔からよく行く八百屋から、妻に連絡がありました。
⑦ 「Ｃさんが代金を支払わずに商品を持っていった。今回で2回目になる。お金を支払いにきてもらえないか」という内容でした。
⑧ 妻がＣさんに確認したところ、悪いことをした認識がありませんでした。

203

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Cさんの生活の様子を確認しましょう。
また、八百屋からCさんの妻にどのような連絡があったかに注目しましょう。

Ｃさん（59歳、男性）は、妻（55歳）と二人暮らしです。
Ｃさんは専業農家です。
Ｃさんはおとなしい性格でした。
しかし、最近怒りやすくなったと妻は感じていました。
Ｃさんは毎日同じ時間に同じコースを散歩しています。
ある日、散歩コースの途中にある昔からよく行く八百屋から、妻に連絡がありました。
「Ｃさんが代金を支払わずに商品を持っていった。今回で2回目になる。お金を支払いにきてもらえないか」という内容でした。
妻がＣさんに確認したところ、悪いことをした認識がありませんでした。

事例の説明は理解できましたか。

203

【事例24】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）八百屋	野菜やくだものを売る店。 昔からある小さなお店のことを言うことが多い。

204

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「八百屋」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、野菜やくだものを売る店のことです。
昔からある小さなお店のことを言うことが多いです。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

204

【事例24】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 CさんとCさんの妻の生活状況について述べた次の文として、適切なものを1つ選びなさい。
1. Cさんは一人暮らしをしている。
2. Cさんは施設に入所している。
3. Cさんは妻と二人暮らしをしている。
4. Cさんは子供と同居している。
5. Cさんは病院に入院している。

問2 事例に示されたCさんの職業は何ですか。

問3 妻が八百屋から連絡を受けた内容は何ですか。

問4 妻がCさんに確認したところ、Cさんはどのような反応でしたか。

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Cさんの生活状況について確認します。
Cさんは誰と暮らしているのかを読み取りましょう。

次に、Cさんの職業について整理します。
どのような仕事をしているのかに注目してください。

続いて、八百屋から妻に連絡があった内容を確認します。
どのような出来事があったのかを読み取りましょう。

最後に、妻がCさんに確認したときの反応について考えます。
Cさんはどのような様子だったのかを確認しましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例24】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 CさんとCさんの妻の生活状況について述べた次の文として、適切なものを1つ選びなさい。
1. Cさんは一人暮らしをしている。
2. Cさんは施設に入所している。
3. **Cさんは妻と二人暮らしをしている。**
4. Cさんは子供と同居している。
5. Cさんは病院に入院している。

問2 事例に示されたCさんの職業は何ですか。
【正解】専業農家

問3 妻が八百屋から連絡を受けた内容は何ですか。
【正解】Cさんが代金を支払わずに商品を持っていったこと。今回で2回目になること。お金を支払いに来てもらえないかということ。

問4 妻がCさんに確認したところ、Cさんはどのような反応でしたか。
【正解】悪いことをした認識がありませんでした。

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、問1の正解は、「Cさんは妻と二人暮らしをしている」です。
Cさんは59歳の男性で、55歳の妻と二人で生活しています。

次に、Cさんの職業は専業農家です。
農業を仕事として生活しています。

続いて、八百屋からの妻への連絡内容は、Cさんが代金を支払わずに商品を持っていったということでした。
それが今回で2回目であり、代金を支払いに来てほしいという連絡でした。

最後に、妻が確認すると、Cさんには悪いことをしたという認識がありませんでした。
これが、妻の確認に対するCさんの反応です。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

【事例24】演習③ 質問を読んで考えよう

問5 Cさんが八百屋でとった行動から考えられる状態として、最も適切なものを1つ選びなさい。
1. 脱抑制
2. 記憶障害
3. 感情失禁
4. 見当識障害
5. 遂行機能障害

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「脱抑制」
2つ目、「記憶障害」
3つ目、「感情失禁」
4つ目、「見当識障害」
5つ目、「遂行機能障害」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例24】演習③ 質問を読んで考えよう

問5 Cさんが八百屋でとった行動から考えられる状態として、最も適切なものを1つ選びなさい。
1. 脱抑制
2. 記憶障害
3. 感情失禁
4. 見当識障害
5. 遂行機能障害

【解説】
- Cさんは**お金を払わずに商品を持っていきました。**
- **善悪の判断がむずかしくなり、行動をコントロールする力が弱くなっている脱抑制**の可能性があります。

では、問5の答えを確認します。

正解は、「脱抑制」です。
Cさんは、代金を支払わずに商品を持っていきました。
そして、自分が悪いことをしたという認識もありませんでした。
これは、行動をコントロールする力が弱くなっている可能性があります。
善いことと悪いことの判断がむずかしくなり、思ったままに行動してしまう状態を「脱抑制」といいます。
前頭側頭型認知症では、このような行動が見られることがあります。
ほかの選択肢も認知症の症状ですが、今回の行動を最もよく説明しているのは「脱抑制」です。

これで、Part 1 の学習を終了します。

【事例２４】

前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part２）



209

【事例24】前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part２）

この事例は、Part１からの続きの事例です。
もし、Part１を学習していない場合は、Part１から学習をはじめてください。

この事例では、59歳の男性Cさんが出てきます。
Cさんはある日、八百屋で代金を支払わずに商品を持ち帰る行動をしてしまったようです。

この事例を通して、前頭側頭型認知症の特徴的な行動をどのように理解するかを考えます。
また、行動を制限するのではなく、社会参加を支える支援のあり方について学びましょう。

【事例24】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① 心配になった妻がＣさんと病院に行きました。
② 前頭側頭型認知症（frontotemporal dementia）と診断を受けました。
③ 妻は今後同じようなことが起きないように、Ｃさんの行動を常に見守りました。
④ また、Ｃさんの外出を制限しました。
⑤ しかし、妻は疲労がたまり、今後の生活に不安を感じました。
⑥ そこで、地域包括支援センターに相談しました。
⑦ 要介護認定の申請を行いました。
⑧ 訪問介護（ホームヘルプサービス）を利用することになりました。

211

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Cさんの診断名やCさんの妻が行ったことを確認しましょう。
また、Cさんの妻の相談の背景や、相談した結果どうなったかに注目しましょう。

心配になった妻がＣさんと病院に行きました。
前頭側頭型認知症（frontotemporal dementia）と診断を受けました。
妻は今後同じようなことが起きないように、Ｃさんの行動を常に見守りました。
また、Ｃさんの外出を制限しました。
しかし、妻は疲労がたまり、今後の生活に不安を感じました。
そこで、地域包括支援センターに相談しました。
要介護認定の申請を行いました。
訪問介護（ホームヘルプサービス）を利用することになりました。

事例の説明は理解できましたか。

【事例24】事例説明（Part2）

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



心配になった妻がＣさんと病院に行くと、前頭側頭型認知症（frontotemporal dementia）と診断を受けた。妻は今後同じようなことが起きないように、Ｃさんの行動を常に見守り、外出を制限したが、疲労がたまり、今後の生活に不安を感じた。そこで、地域包括支援センターに相談し、要介護認定の申請を行い、訪問介護（ホームヘルプサービス）を利用することになった。

出典：第36回総合問題（令和5年度）

210

次に、PART2の事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

心配になった妻がＣさんと病院に行くと、前頭側頭型認知症（frontotemporal dementia）と診断を受けた。
妻は今後同じようなことが起きないように、Ｃさんの行動を常に見守り、外出を制限したが、疲労がたまり、今後の生活に不安を感じた。
そこで、地域包括支援センターに相談し、要介護認定の申請を行い、訪問介護（ホームヘルプサービス）を利用することになった。

以上が、今回のPART2の事例の説明です。

【事例24】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）前頭側頭型認知症	性格や行動が大きく変わることが多い認知症の一つ。怒りやすくなったり、同じ行動をくり返したり、社会のルールを守れなくなることがある。

212

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「前頭側頭型認知症」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、性格や行動が大きく変わることが多い認知症の一つです。
怒りやすくなったり、同じ行動をくり返したり、社会のルールを守れなくなることがあります。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

【事例24】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Cさんの診断名は何ですか。

問2 妻はCさんの行動をどのように管理しましたか。

問3 妻が地域包括支援センターに相談した理由は何ですか。

問4 妻が地域包括支援センターに相談した結果、どのようなサービスを利用することになりましたか。

213

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Cさんが病院でどのような診断を受けたのかを確認します。
診断名に注目して読み取りましょう。

続いて、妻がCさんの行動にどのように対応していたかを整理します。
どのような方法でCさんの行動を管理していたかを確認してください。

次に、妻が地域包括支援センターに相談した理由を読み取ります。
どのような背景で相談したのかに注目しましょう。

最後に、相談の結果、どのような支援サービスを利用することになったのかを確認します。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例24】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Cさんの診断名は何ですか。
【正解】前頭側頭型認知症（frontotemporal dementia）

問2 妻はCさんの行動をどのように管理しましたか。
【正解】Cさんの行動を常に見守り、外出を制限しました。

問3 妻が地域包括支援センターに相談した理由は何ですか。
【正解】Cさんの行動管理による疲労がたまり、今後の生活に不安を感じたからです。

問4 妻が地域包括支援センターに相談した結果、どのようなサービスを利用することになりましたか。
【正解】要介護認定の申請を行い、訪問介護（ホームヘルプサービス）を利用することになりました。

214

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Cさんの診断名は前頭側頭型認知症です。
病院を受診した結果、この診断を受けました。

次に、妻はCさんの行動を常に見守り、外出を制限しました。
これが、妻が行ったCさんの行動の管理です。

続けて、妻は疲労がたまり、今後の生活に不安を感じたため、地域包括支援センターに相談しました。
これが、妻が地域包括支援センターに相談した理由です。

最後に、相談の結果、要介護認定の申請を行い、訪問介護（ホームヘルプサービス）を利用することになりました。
これが、相談後に利用することになったサービスです。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

【事例24】演習③ 質問を読んで考えよう

問5 Cさんの介護保険制度の利用に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

1. 介護保険サービスの利用者負担割合は1割である。
2. 介護保険料は特別徴収によって納付する。
3. 要介護認定の結果が出る前に介護保険サービスを利用することはできない。
4. 要介護認定の利用者負担割合は2割である。
5. 介護保険サービスの費用はサービスの利用回数に関わらず定額である。

215

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「介護保険サービスの利用者負担割合は1割である。」
2つ目、「介護保険料は特別徴収によって納付する。」
3つ目、「要介護認定の結果が出る前に介護保険サービスを利用することはできない。」
4つ目、「要介護認定の利用者負担割合は2割である。」
5つ目、「介護保険サービスの費用はサービスの利用回数に関わらず定額である。」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例24】演習③ 質問を読んで考えよう

問5 Cさんの介護保険制度の利用に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。

1. 介護保険サービスの利用者負担割合は1割である。
2. 介護保険料は特別徴収によって納付する。
3. 要介護認定の結果が出る前に介護保険サービスを利用することはできない。
4. 要介護認定の利用者負担割合は2割である。
5. 介護保険サービスの費用はサービスの利用回数に関わらず定額である。

【解説】
- **介護保険の利用者負担は原則1割**です。
- **介護保険料の納付は特別徴収と普通徴収**があります。
- **要介護認定の結果が出る前**でも、**条件によってはサービスを利用できる**こともあります。
- サービス**費用は利用した内容や回数によって変わります**。

216

では、問5の答えを確認します。

正解は、「介護保険サービスの利用者負担割合は1割である。」です。
介護保険サービスを利用するとき、利用者は原則として費用の1割を負担します。
ただし、所得が多い人は2割や3割になることもあります。
介護保険料は、年金から引かれる特別徴収もありますが、個別の納付書や口座振替で支払う普通徴収もあります。
また、要介護認定の結果が出る前でも、条件によってはサービスを利用できることがあります。
サービスの費用は、利用した回数や内容によって決まります。定額ではありません。

これで、Part 2 の学習を終了します。

【事例２４】

前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part３）



217

【事例24】前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part３）

この事例は、Part２からの続きの事例です。
もし、Part２を学習していない場合は、Part２から学習をはじめてください。

この事例では、59歳の男性Cさんが出てきます。
Cさんはある日、八百屋で代金を支払わずに商品を持ち帰る行動をしてしまったようです。

この事例を通して、前頭側頭型認知症の特徴的な行動をどのように理解するかを考えます。
また、行動を制限するのではなく、社会参加を支える支援のあり方について学びましょう。

【事例24】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① その後、妻に外出を制限されたＣさんは不穏となりました。
② 困った妻が訪問介護員（ホームヘルパー）に相談しました。
③ 訪問介護員から「八百屋に事情を話して事前にお金を渡して、Ｃさんが品物を持ち去ったときは、渡したお金から商品代金を支払うようにお願いしてはどうか」とアドバイスを受けました。

219

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Cさんの心身の様子を確認しましょう。
また、Cさんの妻に対し、訪問介護員がアドバイスした内容について考えましょう。

その後、妻に外出を制限されたＣさんは不穏となりました。
困った妻が訪問介護員（ホームヘルパー）に相談しました。
訪問介護員から「八百屋に事情を話して事前にお金を渡して、Ｃさんが品物を持ち去ったときは、渡したお金から商品代金を支払うようにお願いしてはどうか」とアドバイスを受けました。

事例の説明は理解できましたか。

【事例24】事例説明（Part3）

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



その後、妻に外出を制限されたＣさんは不穏となった。困った妻が訪問介護員（ホームヘルパー）に相談したところ、「八百屋に事情を話して事前にお金を渡して、Ｃさんが品物を持ち去ったときは、渡したお金から商品代金を支払うようにお願いしてはどうか」とアドバイスを受けた。

出典：第36回総合問題（令和5年度）

218

次に、PART3の事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

その後、妻に外出を制限されたＣさんは不穏となった。
困った妻が訪問介護員（ホームヘルパー）に相談したところ、「八百屋に事情を話して事前にお金を渡して、Ｃさんが品物を持ち去ったときは、渡したお金から商品代金を支払うようにお願いしてはどうか」とアドバイスを受けた。

以上が、今回のPART3の事例の説明です。

【事例24】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）不穏	気持ちが落ち着かず、そわそわしている状態。心が不安定になり、イライラしたり、興奮したりすることもある。

220

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「不穏」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、気持ちが落ち着かず、そわそわしている状態のことです。
心が不安定になり、イライラしたり、興奮したりすることもあります。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

【事例24】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Cさんが不穏になったのはなぜですか。

問2 訪問介護員（ホームヘルパー）のアドバイスの内容を説明してください。

221

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Cさんがなぜ不穏になったのかを確認します。
どのような出来事がきっかけになったのかを読み取りましょう。

次に、訪問介護員（ホームヘルパー）がどのようなアドバイスをしたのかを整理します。
どのような方法を提案したのかを読み取りましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例24】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Cさんが不穏になったのはなぜですか。
【正解】妻に外出を制限されたから。

問2 訪問介護員（ホームヘルパー）のアドバイスの内容を説明してください。
【正解】八百屋に事情を話して事前にお金を渡し、Cさんが品物を持ち去ったときは、渡したお金から商品代金を支払うようにお願いするというアドバイスでした。

222

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

Cさんは、妻に外出を制限されたことで不穏になりました。
これが、Cさんが不穏になったきっかけです。

困った妻は、訪問介護員（ホームヘルパー）に相談しました。
その結果、八百屋に事情を説明し、あらかじめお金を渡しておき、Cさんが品物を持って行ったときはそこから代金を支払うようお願いするというアドバイスをもらいました。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

【事例24】演習③ 質問を読んで考えよう

問3 訪問介護員（ホームヘルパー）が意図したCさんへの関わりをＩＣＦ（International Classification of Functioning、 Disability and Health：国際生活機能分類）に当てはめた記述として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 個人因子への影響を意図して、健康状態に働きかける。
2. 健康状態への影響を意図して、心身機能に働きかける。
3. 活動への影響を意図して、身体構造に働きかける。
4. 参加への影響を意図して、環境因子に働きかける。
5. 環境因子への影響を意図して、個人因子に働きかける

223

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「介護保険サービスの利用者負担割合は1割である。」
2つ目、「介護保険料は特別徴収によって納付する。」
3つ目、「要介護認定の結果が出る前に介護保険サービスを利用することはできない。」
4つ目、「要介護認定の利用者負担割合は2割である。」
5つ目、「介護保険サービスの費用はサービスの利用回数に関わらず定額である。」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例24】演習③ 質問を読んで考えよう

問3 訪問介護員（ホームヘルパー）が意図したCさんへの関わりをＩＣＦ（International Classification of Functioning、 Disability and Health：国際生活機能分類）に当てはめた記述として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 個人因子への影響を意図して、健康状態に働きかける。
2. 健康状態への影響を意図して、心身機能に働きかける。
3. 活動への影響を意図して、身体構造に働きかける。
4. **参加への影響を意図して、環境因子に働きかける。**
5. 環境因子への影響を意図して、個人因子に働きかける

【解説】

- Cさんの行動を止めるのではなく、**まわりの環境を工夫**しています。
- 八百屋に事情を説明することは、**環境因子への働きかけ**です。
- **環境を整えることで、Cさんの社会参加**を支えています。
- 病気や体に直接はたらきかける支援ではありません。

224

では、問3の答えを確認します。

正解は、「参加への影響を意図して、環境因子に働きかける。」です。
訪問介護員は、Cさんの行動を止めるのではなく、八百屋に事情を説明し、先にお金を渡しておく方法を提案しました。
これは、Cさんが地域の理解を得て社会参加ができるようにする工夫です。
Cさんの生活や人との関わりを続けられるように、まわりの環境を調整しています。
ICFでは、まわりの人や社会のしくみは「環境因子」といいます。
この事例では、その環境を整えることで、Cさんの社会参加を支えようとしています。
健康状態や心身機能に直接働きかけるのではなく、生活を続けられるように環境を工夫している点が重要です。

以上で、事例24の学習を終了します。

【事例２５】

車の事故により脊髄損傷となった男性（Part１）



225

【事例25】車の事故により脊髄損傷となった男性（Part１）

この事例では、70歳の男性Dさんが登場します。
Dさんは車の事故に遭い、脊髄損傷と診断されました。

この事例を通して、脊髄損傷後の生活の変化をどのように理解するかを考えます。
また、在宅復帰に向けて、リハビリテーションや住宅改修、多職種連携をどのように活用するかについて学びましょう。

225

【事例25】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Dさん（70歳、男性）は、自宅で妻と二人暮らしです。
② 年金収入で生活しています。
③ ある日、車を運転中に事故に遭いました。
④ 救急搬送されました。
⑤ 医師からは、第4胸髄節まで機能が残存している脊髄損傷（spinal cord injury）と説明を受けました。
⑥ Dさんは、入院中に要介護3の認定を受けました。

227

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Dさんの生活の様子を確認しましょう。
また、Dさんが受けた診断と認定に注目しましょう。

Dさん（70歳、男性）は、自宅で妻と二人暮らしです。
年金収入で生活しています。
ある日、車を運転中に事故に遭いました。
救急搬送されました。
医師からは、第4胸髄節まで機能が残存している脊髄損傷（spinal cord injury）と説明を受けました。
Dさんは、入院中に要介護3の認定を受けました。

事例の説明は理解できましたか。

227

【事例25】事例説明（Part1）

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Dさん（70歳、男性）は、自宅で妻と二人暮らしで、年金収入で生活している。ある日、車を運転中に事故に遭い救急搬送された。医師からは、第4胸髄節まで機能が残存している脊髄損傷（spinal cord injury）と説明を受けた。Dさんは、入院中に要介護3の認定を受けた。

出典：第36回総合問題（令和5年度）

226

まずはPART1の事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Dさん（70歳、男性）は、自宅で妻と二人暮らしで、年金収入で生活している。
ある日、車を運転中に事故に遭い救急搬送された。医師からは、第4胸髄節まで機能が残存している脊髄損傷（spinal cord injury）と説明を受けた。
Dさんは、入院中に要介護3の認定を受けた。

以上が、今回のPART1の事例の説明です。

226

【事例25】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）脊髄損傷	背中の中にある脊髄という神経が、けがなどで傷つくこと。この神経が傷つくと、体が動きにくくなったり、手足の感覚がなくなったりすることがある。

228

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「脊髄損傷」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、背中の中にある脊髄という神経が、けがなどで傷つくことです。
この神経が傷つくと、体が動きにくくなったり、手足の感覚がなくなったりすることがあります。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

228

【事例25】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Dさんの生活状況について述べた次の文として、適切なものを1つ選びなさい。
1. Dさんは家族と同居している。
2. Dさんは一人暮らしをしている。
3. Dさんは妻と二人暮らしをしている。
4. Dさんは施設に入所している。
5. Dさんは病院に入院している。

問2 事故に遭う前のDさんの生活を支えていた収入は何ですか。

問3 事故後、Dさんはどのように治療を受けましたか。

問4 入院中にDさんが受けた認定は何ですか。またその際の認定結果はどうでしたか。

229

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Dさんの生活状況について確認します。
Dさんはどのように暮らしているのかを読み取りましょう。

次に、事故に遭う前の生活を支えていた収入について読み取ります。
どのような収入で生活していたのかに注目してください。

続いて、事故後にDさんが受けた治療について確認します。
Dさんはどのように搬送され、どのような治療を受けたのかを読み取りましょう。

最後に、入院中に受けた認定について考えます。
どのような認定を受け、どのような結果だったのかを確認しましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例２５】

車の事故により脊髄損傷となった男性（Part２）



231

【事例25】車の事故により脊髄損傷となった男性（Part２）

この事例は、Part１からの続きの事例です。
もし、Part１を学習していない場合は、Part１から学習をはじめてください。

この事例では、70歳の男性Dさんが登場します。
Dさんは車の事故に遭い、脊髄損傷と診断されました。

この事例を通して、脊髄損傷後の生活の変化をどのように理解するかを考えます。
また、在宅復帰に向けて、リハビリテーションや住宅改修、多職種連携をどのように活用するかについて学びましょう。

【事例25】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Dさんの生活状況について述べた次の文として、適切なものを1つ選びなさい。
1. Dさんは家族と同居している。
2. Dさんは一人暮らしをしている。
3. **Dさんは妻と二人暮らしをしている。**
4. Dさんは施設に入所している。
5. Dさんは病院に入院している。

問2 事故に遭う前のDさんの生活を支えていた収入は何ですか。
【正解】年金収入

問3 事故後、Dさんはどのように治療を受けましたか。
【正解】Cさん救急搬送され、入院治療を受けました。

問4 入院中にDさんが受けた認定は何ですか。またその際の認定結果はどうでしたか。
【正解】Dさんは入院中に介護保険の要介護認定を受け、要介護3と判定されました。

230

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

まず、問1の正解は、「Dさんは妻と二人暮らしをしている」です。
Dさんは70歳の男性で、妻と自宅で生活しています。

次に、事故に遭う前のDさんの生活を支えていた収入は、年金収入です。
これが事故に遭う前のDさんの生活を支えていた収入です。

続いて、事故後の治療についてです。
Dさんは車の事故に遭い、救急搬送されて入院し、治療を受けました。

最後に、入院中に受けた認定についてです。
Dさんは介護保険の要介護認定を受け、要介護3と判定されました。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

これで、Part１の学習を終了します。

【事例25】事例説明（Part2）

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Dさんは、退院後は自宅で生活することを望んでいた。妻は一緒に暮らしたいと思うが、Dさんの身体状況を考えると不安を感じていた。介護支援専門員（ケアマネジャー）は、「退院後は、在宅復帰を目的に、一定の期間、リハビリテーション専門職がいる施設で生活してはどうか」とDさんに提案した。Dさんは妻と退院後の生活について話し合った結果、一定期間施設に入所して、その間に、自宅の住宅改修を行うことにして、介護支援専門員（ケアマネジャー）に居宅介護住宅改修費について相談した。

出典：第36回総合問題（令和5年度）

232

PART2の事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Dさんは、退院後は自宅で生活することを望んでいた。
妻は一緒に暮らしたいと思うが、Dさんの身体状況を考えると不安を感じていた。
介護支援専門員（ケアマネジャー）は、「退院後は、在宅復帰を目的に、一定の期間、リハビリテーション専門職がいる施設で生活してはどうか」とDさんに提案した。
Dさんは妻と退院後の生活について話し合った結果、一定期間施設に入所して、その間に、自宅の住宅改修を行うことにして、介護支援専門員（ケアマネジャー）に居宅介護住宅改修費について相談した。

以上が、今回のPART2の事例の説明です。

【事例25】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Dさんは、退院後は自宅で生活することを望んでいた。
② 妻は一緒に暮らしたいと思っていた。
③ しかし、Dさんの身体状況を考えると不安を感じていた。
④ 介護支援専門員（ケアマネジャー）は、「退院後は、在宅復帰を目的に、一定の期間、リハビリテーション専門職がいる施設で生活してはどうか」とDさんに提案した。
⑤ Dさんは妻と退院後の生活について話し合った。
⑥ 話し合った結果、一定期間施設に入所することにした。
⑦ その間に、自宅の住宅改修を行うことにした。
⑧ Dさんは介護支援専門員（ケアマネジャー）に居宅介護住宅改修費について相談した。

233

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、DさんとDさんの妻の退院後の生活の希望を読み取りましょう。
また、介護支援専門員の提案と、Dさんと妻の話し合いの結果も確認しましょう。

Dさんは、退院後は自宅で生活することを望んでいた。
妻は一緒に暮らしたいと思っていた。
しかし、Dさんの身体状況を考えると不安を感じていた。
介護支援専門員（ケアマネジャー）は、「退院後は、在宅復帰を目的に、一定の期間、リハビリテーション専門職がいる施設で生活してはどうか」とDさんに提案した。
Dさんは妻と退院後の生活について話し合った。
話し合った結果、一定期間施設に入所することにした。
その間に、自宅の住宅改修を行うことにした。
Dさんは介護支援専門員（ケアマネジャー）に居宅介護住宅改修費について相談した。

事例の説明は理解できましたか。

233

【事例25】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）住宅改修	手すりをつける、段差をなくすなど、家の中を、安全で生活しやすいように直すこと。

234

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「住宅改修」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、手すりをつける、段差をなくすなど、家の中を、安全で生活しやすいように直すことです。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

234

【事例25】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 DさんとDさんの妻の退院後の希望について述べた次の文として、適切なものを1つ選びなさい。
1. Dさんは自宅での生活を望んだが、妻は施設入所を望んだ。
2. Dさんは施設入所を望んだが、妻は自宅での生活を望んだ。
3. Dさんも妻も自宅での生活を望んだ。
4. Dさんも妻も施設入所を望んだ。
5. Dさんと妻の希望は事例から読み取れない。

問2 介護支援専門員が退院後の生活についてDさんに提案した内容は何ですか。

問3 Dさんと妻が話し合った結果、退院後どのような生活をすることになりましたか。

235

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Dさんと妻の退院後の希望を確認します。
Dさんはどこで生活したいと考えていましたか。
また、妻はどのように考えていましたか。

次に、介護支援専門員（ケアマネジャー）の提案内容を整理します。
どのような目的で、どのような施設を提案したのかに注目しましょう。

最後に、Dさんと妻が話し合った結果、どのような生活の計画になったのかを確認します。
施設入所と住宅改修の関係に注目してください。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

235

【事例25】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 DさんとDさんの妻の退院後の希望について述べた次の文として、適切なものを1つ選びなさい。
1. Dさんは自宅での生活を望んだが、妻は施設入所を望んだ。
2. Dさんは施設入所を望んだが、妻は自宅での生活を望んだ。
3. Dさんも妻も自宅での生活を望んだ。
4. Dさんも妻も施設入所を望んだ。
5. Dさんと妻の希望は事例から読み取れない。

問2 介護支援専門員が退院後の生活についてDさんに提案した内容は何ですか。
【正解】在宅復帰を目的に、一定の期間、リハビリテーション専門職がいる施設で生活することを提案しました。

問3 Dさんと妻が話し合った結果、退院後どのような生活をすることになりましたか。
【正解】一定期間施設に入所し、その間に自宅の住宅改修を行うことになりました。

236

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

まず、問1の正解は、「Dさんも妻も自宅での生活を望んだ」です。
Dさんは退院後、自宅で生活したいと考えていました。
妻も一緒に暮らしたいと思っていました。
これが、DさんとDさんの妻の退院後の希望です。

次に、介護支援専門員の提案内容についてです。
在宅復帰を目的に、一定期間、リハビリテーション専門職がいる施設で生活することを提案しました。
これが、介護支援専門員が退院後の生活についてDさんに提案した内容です。

続いて、Dさんと妻が話し合った結果についてです。
一定期間施設に入所し、その間に自宅の住宅改修を行うことになりました。
これが、DさんとDさんの妻が話し合って決めた退院後の生活です。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

236

【事例25】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 次のうち、Dさんが提案を受けた施設として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 養護老人ホーム
2. 軽費老人ホーム
3. 介護老人福祉施設
4. 介護老人保健施設
5. 介護医療院

237

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「養護老人ホーム」
2つ目、「軽費老人ホーム」
3つ目、「介護老人福祉施設」
4つ目、「介護老人保健施設」
5つ目、「介護医療院」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

237

【事例25】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 次のうち、Dさんが提案を受けた施設として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 養護老人ホーム
2. 軽費老人ホーム
3. 介護老人福祉施設
4. **介護老人保健施設**
5. 介護医療院

【解説】

- 脊髄損傷後のDさんには**身体機能維持・回復支援が重要**です。
- Dさんは**自宅での生活を希望**しています。
- この場合、**在宅復帰を目指してリハビリテーションを行う介護老人保健施設**が適切です。

238

では、問4の答えを確認します。

正解は、「介護老人保健施設」です。
介護老人保健施設は、在宅復帰を目指してリハビリテーションを行う施設です。
リハビリ専門職が配置されており、身体機能の回復を支援します。
Dさんは脊髄損傷を受け、入院中に要介護3と認定されており、自宅での生活をしたいと思っています。
今後の生活に向けて、リハビリを受けながら在宅復帰を目指すことが大切です。
ほかの施設は在宅復帰を主な目的とはしていません。
そのため、Dさんの状況に最も適しているのは「介護老人保健施設」です。

238

【事例25】演習③ 質問を読んで考えよう

問5 次の記述のうち、介護支援専門員（ケアマネジャー）がDさんに説明する居宅介護住宅改修費の支給限度基準額として、適切なものを1つ選びなさい。

1. 10 万円
2. 15 万円
3. 20 万円
4. 25 万円
5. 30 万円

239

もう一問、これまでの内容を受けて、問題に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「10万円」
2つ目、「15万円」
3つ目、「20万円」
4つ目、「25万円」
5つ目、「30万円」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

239

【事例25】演習③ 質問を読んで考えよう

問5 次の記述のうち、介護支援専門員（ケアマネジャー）がDさんに説明する居宅介護住宅改修費の支給限度基準額として、適切なものを1つ選びなさい。

1. 10 万円
2. 15 万円
3. **20 万円**
4. 25 万円
5. 30 万円

【解説】

- **居宅介護住宅改修費の支給限度基準額は、要介護1～5の人が対象で20万円**です。
- Dさんは要介護3の認定を受けており、**居宅介護住宅改修費の支給限度基準額は20万円**です。

240

では、問5の答えを確認します。

正解は、「20万円」です。
居宅介護住宅改修費の支給限度基準額は、要介護1～5の認定を受けている人に対して20万円が上限となっています。
Dさんは要介護3の認定を受けているため、この20万円が上限となります。

これで、Part 2 の学習を終了します。

240

【事例２５】

車の事故により脊髄損傷となった男性（Part３）



241

【事例25】車の事故により脊髄損傷となった男性（Part３）

この事例は、Part２からの続きの事例です。
もし、Part２を学習していない場合は、Part２から学習をはじめてください。

この事例では、70歳の男性Dさんが登場します。
Dさんは車の事故に遭い、脊髄損傷と診断されました。

この事例を通して、脊髄損傷後の生活の変化をどのように理解するかを考えます。
また、在宅復帰に向けて、リハビリテーションや住宅改修、多職種連携をどのように活用するかについて学びましょう。

241

【事例25】事例説明（Part3）

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ｄさんが施設入所してから3か月後、住宅改修を終えた自宅に戻ることになった。Ｄさんは自宅での生活を楽しみにしている。その一方で、不安も抱えていたため、担当の介護福祉士は、理学療法士と作業療法士に相談して、生活上の留意点を記載した冊子を作成して、Ｄさんに手渡した。

出典：第36回総合問題（令和5年度）

242

次に、PART3の事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ｄさんが施設入所してから3か月後、住宅改修を終えた自宅に戻ることになった。
Ｄさんは自宅での生活を楽しみにしている。
その一方で、不安も抱えていたため、担当の介護福祉士は、理学療法士と作業療法士に相談して、生活上の留意点を記載した冊子を作成して、Ｄさんに手渡した。

以上が、今回のPART3の事例の説明です。

242

【事例25】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Ｄさんが施設入所してから3か月後、住宅改修を終えた自宅に戻ることになった。
② Ｄさんは自宅での生活を楽しみにしている。
③ その一方で、不安も抱えていた。
④ そのため、担当の介護福祉士は、理学療法士と作業療法士に相談した。
⑤ 生活上の留意点を記載した冊子を作成した。
⑥ その冊子をＤさんに手渡した。

243

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Dさんの気持ちを確認しましょう。
また、介護福祉士が行った支援について考えましょう。

Ｄさんが施設入所してから3か月後、住宅改修を終えた自宅に戻ることになった。
Ｄさんは自宅での生活を楽しみにしている。
その一方で、不安も抱えていた。
そのため、担当の介護福祉士は、理学療法士と作業療法士に相談した。
生活上の留意点を記載した冊子を作成した。
その冊子をＤさんに手渡した。

事例の説明は理解できましたか。

243

【事例25】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）留意点	とくに気をつける点や注意をする点。

244

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「留意点」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、とくに気をつける点や注意をする点のことです。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

244

【事例25】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Dさんはいつ頃自宅に戻ることになりましたか。

問2 自宅に戻ることになったDさんの気持ちはどのようなものでしたか。

問3 担当の介護福祉士はどのような対応をしましたか。

245

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Dさんがいつ自宅に戻ることになったのかを確認します。
施設での生活期間や住宅改修との関係に注目して読み取りましょう。

次に、自宅に戻ることになったときのDさんの気持ちを整理します。
自宅での生活に対して、どのような気持ちを持っていたでしょうか。

最後に、担当の介護福祉士がどのような対応をしたのかを確認します。
だれに相談し、どのような支援を行ったのかを読み取りましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

245

【事例25】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Dさんはいつ頃自宅に戻ることになりましたか。
【正解】施設入所から3か月後に、住宅改修を終えた自宅に戻ることになりました。

問2 自宅に戻ることになったDさんの気持ちはどのようなものでしたか。
【正解】自宅での生活を楽しみにしている一方で、不安も抱えていました。

問3 担当の介護福祉士はどのような対応をしましたか。
【正解】理学療法士と作業療法士に相談し、Dさんの生活上の留意点を記載した冊子を作成して手渡しました。

246

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Dさんは、施設入所から3か月後に、住宅改修を終えた自宅へ戻ることになりました。
施設で一定期間生活し、その間に自宅の改修を行っていました。

Dさんは、自宅での生活を楽しみにしていました。
しかしその一方で、不安な気持ちも抱えていました。
これが、自宅に戻ることになったDさんの気持ちです。

担当の介護福祉士は、Dさんのことを理学療法士と作業療法士に相談しました。
そして、生活上の留意点をまとめた冊子を作成し、Dさんに手渡しました。
これが、介護福祉士が行った対応です。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

246

【事例25】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 次の記述のうち、冊子の内容として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 食事では、スプーンを自助具で手に固定する。
2. 移動には、リクライニング式車いすを使用する。
3. 寝具は、エアーマットを使用する。
4. 更衣は、ボタンエイドを使用する。
5. 外出するときには、事前に多機能トイレの場所を確認する。

247

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「食事では、スプーンを自助具で手に固定する。」
2つ目、「リクライニング式車いすを使用する。」
3つ目、「寝具は、エアーマットを使用する。」
4つ目、「更衣は、ボタンエイドを使用する。」
5つ目、「外出するときには、事前に多機能トイレの場所を確認する。」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

247

【事例25】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 次の記述のうち、冊子の内容として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 食事では、スプーンを自助具で手に固定する。
2. 移動には、リクライニング式車いすを使用する。
3. 寝具は、エアーマットを使用する。
4. 更衣は、ボタンエイドを使用する。
5. **外出するときには、事前に多機能トイレの場所を確認する。**

【解説】
- 第4胸髄節まで機能が残っている脊髄損傷では、**排泄の管理が課題**になります。
- **多機能トイレをあらかじめ確認しておくことは、安心して外出するために大切**です。

248

では、問4の答えを確認します。

正解は、「外出するときには、事前に多機能トイレの場所を確認する」です。
Dさんは第4胸髄節まで機能が残っている脊髄損傷であるため、排泄の管理が生活上の大きな課題になると考えられます。
多機能トイレをあらかじめ確認しておくことは、安心して外出するための大切な留意点です。
これはDさんの社会参加を支える工夫です。

以上で、事例25の学習を終了します。

248

【事例２６】

アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援（Part１）



249

【事例26】アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援（Part１）

この事例では、34歳の女性Eさんが登場します。
Eさんはアテトーゼ型の脳性麻痺があり、不随意運動が見られます。
また、Eさんにはやりたいことがあるようです。

この事例では、不随意運動が食事や飲水といった日常生活動作にどのような影響を与えているかを理解します。
また、「自分でやりたい」という思いを尊重しながら、自助具の工夫や移動支援などを活用して社会参加を支える支援のあり方について学びます。

249

【事例26】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Ｅさん（34歳、女性、障害支援区分3）は、特別支援学校の高等部を卒業しました。
② 週2回、生活介護を利用しながら自宅で生活しています。
③ Ｅさんはアテトーゼ型（athetosis）の脳性麻痺（cerebral palsy）で不随意運動があります。
④ 首を振る動作が見られます。
⑤ 食事は首の動きに合わせて、自助具を使って食べています。
⑥ 食事中は不随意運動が強くなります。
⑦ 食事が終わると、「首が痛い、しびれる」と言ってベッドに横になるときがあります。

251

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Eさんの生活の様子や障害のことを確認しましょう。
また、Eさんの食事中の様子に注目しましょう。

Ｅさん（34歳、女性、障害支援区分3）は、特別支援学校の高等部を卒業しました。
週2回、生活介護を利用しながら自宅で生活しています。
Ｅさんはアテトーゼ型（athetosis）の脳性麻痺（cerebral palsy）で不随意運動があります。
首を振る動作が見られます。
食事は首の動きに合わせて、自助具を使って食べています。
食事中は不随意運動が強くなります。
食事が終わると、「首が痛い、しびれる」と言ってベッドに横になるときがあります。

事例の説明は理解できましたか。

251

【事例26】事例説明（Part1）

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ｅさん（34歳、女性、障害支援区分3）は、特別支援学校の高等部を卒業後、週2回、生活介護を利用しながら自宅で生活している。Ｅさんはアテトーゼ型（athetosis）の脳性麻痺（cerebral palsy）で不随意運動があり、首を振る動作が見られる。食事は首の動きに合わせて、自助具を使って食べている。食事中は不随意運動が強く、食事が終わると、「首が痛い、しびれる」と言ってベッドに横になるときがある。

出典：第36回総合問題（令和5年度）

250

まずはPART1の事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ｅさん（34歳、女性、障害支援区分3）は、特別支援学校の高等部を卒業後、週2回、生活介護を利用しながら自宅で生活している。
Ｅさんはアテトーゼ型（athetosis）の脳性麻痺（cerebral palsy）で不随意運動があり、首を振る動作が見られる。
食事は首の動きに合わせて、自助具を使って食べている。
食事中は不随意運動が強く、食事が終わると、「首が痛い、しびれる」と言ってベッドに横になるときがある。

以上が、今回のPART1の事例の説明です。

250

【事例26】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）不随意運動	自分の気持ちや考えとは関係なく、体が動いてしまうこと。

252

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「不随意運動」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、自分の気持ちや考えとは関係なく、体が動いてしまうことです。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

252

【事例26】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Eさんの障害の特徴について、事例からわかることは何ですか。

問2 Eさんは食事の際、どのように対応していますか。

問3 食事中のEさんの状態はどのようですか。

253

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Eさんの障害の特徴について確認します。
どのような種類の脳性麻痺か、どのような動きが見られるかに注目しましょう。

次に、Eさんが食事のときにどのような工夫をしているかを整理します。
どのように何を使っているのかを読み取りましょう。

続いて、食事中や食事後のEさんの様子を確認します。
どのような体の状態になり、Eさんが何を話しているかに注目してください。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例26】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Eさんの障害の特徴について、事例からわかることは何ですか。
【正解】アテトーゼ型の脳性麻痺で、不随意運動があり、特に首を振る動作が見られます。

問2 Eさんは食事の際、どのように対応していますか。
【正解】首の動きに合わせて自助具を使って食べています。

問3 食事中のEさんの状態はどのようですか。
【正解】不随意運動が強くなり、食事後に「首が痛い、しびれる」と言って ベッドに横になることがあります。

254

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

まず、Eさんはアテトーゼ型の脳性麻痺があり、不随意運動が見られます。
特に首を振る動きがあることが、事例から読み取れます。
これが、Eさんの障害の特徴です。

続いて、Eさんは食事のとき、首の動きに合わせて自助具を使って食べています。
これが、食事の際の対応です。

最後に、食事中は不随意運動が強くなります。
食事後には「首が痛い、しびれる」と言って、ベッドに横になることがあります。
これが、食事中のEさんの様子です。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

【事例26】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 Eさんの食事の様子から、今後、引き起こされる可能性が高いと考えられる二次障害として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 変形性股関節症（coxarthrosis）
2. 廃用症候群（disuse syndrome）
3. 起立性低血圧（orthostatic hypotension）
4. 脊柱側弯症（scoliosis）
5. 頚椎症性脊髄症（cervical spondylotic myelopathy）

255

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「変形性股関節症（coxarthrosis）」
2つ目、「廃用症候群（disuse syndrome）」
3つ目、「起立性低血圧（orthostatic hypotension）」
4つ目、「脊柱側弯症（scoliosis）」
5つ目、「頚椎症性脊髄症（cervical spondylotic myelopathy）」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例26】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 Eさんの食事の様子から、今後、引き起こされる可能性が高いと考えられる二次障害として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 変形性股関節症（coxarthrosis）
2. 廃用症候群（disuse syndrome）
3. 起立性低血圧（orthostatic hypotension）
4. 脊柱側弯症（scoliosis）
5. **頚椎症性脊髄症（cervical spondylotic myelopathy）**

【解説】
- 不随意運動により首を振り、**首へ負担**がかかっています。
- このように**首に強い負担が続くと、頚椎症性脊髄症を引き起こす可能性**があります。
- ほかの選択肢は、首の症状とは関係が低いです。

256

では、問4の答えを確認します。

正解は、「頚椎症性脊髄症」です。
Eさんは食事中に不随意運動が強くなり、首を振る動きが多く見られます。
また、食事後には「首が痛い、しびれる」と訴えています。
このように首に強い負担が続くと、頚椎に障害が起こり、頚椎症性脊髄症を引き起こす可能性があります。
そのため、今後起こりやすい二次障害として最も適切なのは「頚椎症性脊髄症」です。
ほかの選択肢は、今回の事例に見られる首の症状とは関係が低いです。

これで、Part 1 の学習を終了します。

【事例２６】

アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援（Part２）



257

【事例26】アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援（Part２）

この事例は、Part１からの続きの事例です。
もし、Part１を学習していない場合は、Part１から学習をはじめてください。

この事例では、34歳の女性Eさんが登場します。
Eさんはアテトーゼ型の脳性麻痺があり、不随意運動が見られます。
また、Eさんにはやりたいことがあるようです。

この事例では、不随意運動が食事や飲水といった日常生活動作にどのような影響を与えているかを理解します。
また、「自分でやりたい」という思いを尊重しながら、自助具の工夫や移動支援などを活用して社会参加を支える支援のあり方について学びます。

257

【事例26】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① お茶を飲むときは取っ手つきのコップで飲んでいます。
② しかし、コップを口元に運ぶまでにお茶がこぼれるようになってきました。
③ 日頃から自分のことは自分でやりたいと考えています。
④ お茶が上手に飲めなくなってきたことを気にしています。

259

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Eさんがお茶を飲むときの課題を読み取りましょう。
また、Eさんの気持ちを考えましょう。

お茶を飲むときは取っ手つきのコップで飲んでいます。
しかし、コップを口元に運ぶまでにお茶がこぼれるようになってきました。
日頃から自分のことは自分でやりたいと考えています。
お茶が上手に飲めなくなってきたことを気にしています。

事例の説明は理解できましたか。

259

【事例26】事例説明（Part2）

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



また、お茶を飲むときは取っ手つきのコップで飲んでいるが、コップを口元に運ぶまでにお茶がこぼれるようになってきた。日頃から自分のことは自分でやりたいと考えていて、お茶が上手に飲めなくなってきたことを気にしている。

出典：第36回総合問題（令和5年度）

258

次に、PART2の事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

また、お茶を飲むときは取っ手つきのコップで飲んでいるが、コップを口元に運ぶまでにお茶がこぼれるようになってきた。
日頃から自分のことは自分でやりたいと考えていて、お茶が上手に飲めなくなってきたことを気にしている。

以上が、今回のPART2の事例の説明です。

258

【事例26】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）こぼれる	中にあるものが外に出てしまうこと。

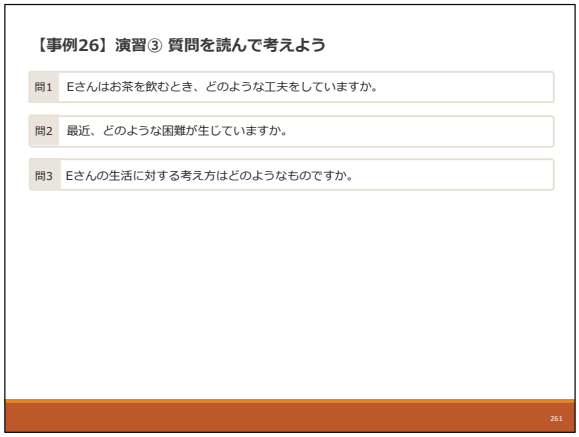
260

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「こぼれる」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、中にあるものが外に出てしまうことです。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

260



次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Eさんがお茶を飲むときにどのような工夫をしているかを確認します。
どのようなコップを使っているのかを読み取りましょう。

次に、最近どのような困難が出てきたのかを整理します。
コップを口元に運ぶときに、どのようなことが起きているのかに注目してください。

最後に、Eさんが日頃どのような気持ちで生活しているのかを考えます。
Eさんがどのように考えているかに注目しましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

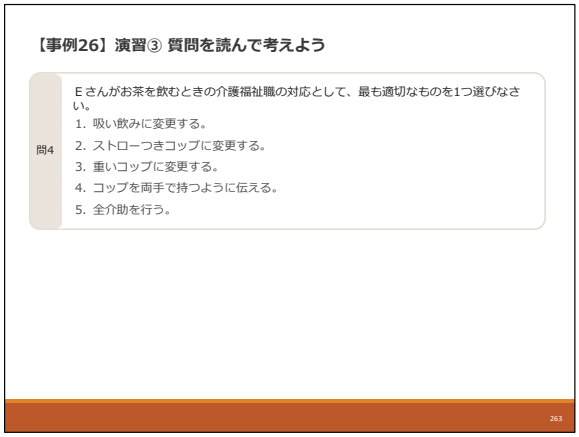
ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

まず、Eさんは、取っ手つきのコップを使ってお茶を飲んでいます。
これが、Eさんが行っているお茶を飲むときの工夫です。

次に、最近は、コップを口元に運ぶまでにお茶がこぼれるようになってきました。
これが、新たに生じている困難です。

続いて、Eさんは、日頃から「自分のことは自分でやりたい」と考えています。
これが、Eさんの生活に対する考え方です。

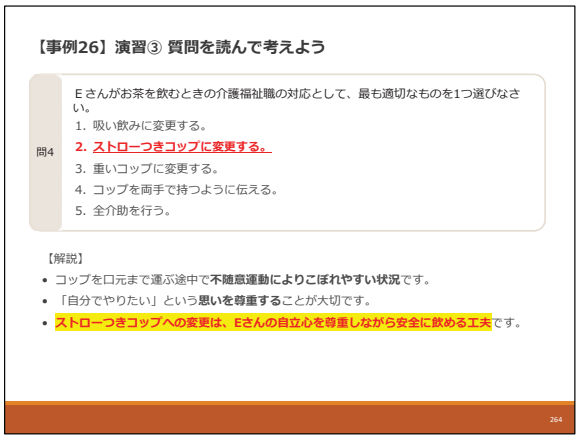
この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。



これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「吸い飲みに変更する。」
2つ目、「ストローつきコップに変更する。」
3つ目、「重いコップに変更する。」
4つ目、「コップを両手で持つように伝える。」
5つ目、「全介助を行う。」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。



では、問4の答えを確認します。

正解は、「ストローつきコップに変更する」です。
Eさんは、不随意運動があり、コップを口元まで運ぶあいだにお茶がこぼれるようになっています。
また、「自分のことは自分でやりたい」という思いも大切にしています。
ストローつきコップを使えば、コップを大きく傾けなくても飲むことができ、こぼれる心配も少ないです。
そして、自分のことは自分で行うという気持ちも守ることができます。
Eさんの気持ちと身体の状態の両方を考えた対応が大切です。

これで、Part 2 の学習を終了します。

【事例２６】

アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援（Part３）



265

【事例26】アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援（Part３）

この事例は、Part２からの続きの事例です。
もし、Part２を学習していない場合は、Part２から学習をはじめてください。

この事例では、34歳の女性Eさんが登場します。
Eさんはアテトーゼ型の脳性麻痺があり、不随意運動が見られます。
また、Eさんにはやりたいことがあるようです。

この事例では、不随意運動が食事や飲水といった日常生活動作にどのような影響を与えているかを理解します。
また、「自分でやりたい」という思いを尊重しながら、自助具の工夫や移動支援などを活用して社会参加を支える支援のあり方について学びます。

【事例26】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Ｅさんは、生活介護事業所で油絵を描くことを楽しみにしています。
② 以前から隣町の油絵教室に通い技術を高めたいと話していました。
③ そこでＥさんは、「自宅から油絵教室に通うときの介助をお願いするにはどうしたらよいか」と介護福祉職に相談しました。

267

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Eさんが楽しみにしていることを理解しましょう。
また、Eさんが介護福祉職に相談した内容について考えましょう。

Ｅさんは、生活介護事業所で油絵を描くことを楽しみにしています。
以前から隣町の油絵教室に通い技術を高めたいと話していました。
そこでＥさんは、「自宅から油絵教室に通うときの介助をお願いするにはどうしたらよいか」と介護福祉職に相談しました。

事例の説明は理解できましたか。

【事例26】事例説明（Part3）

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ｅさんは、生活介護事業所で油絵を描くことを楽しみにしている。以前から隣町の油絵教室に通い技術を高めたいと話していた。そこでＥさんは、「自宅から油絵教室に通うときの介助をお願いするにはどうしたらよいか」と介護福祉職に相談した。

出典：第36回総合問題（令和5年度）

266

PART3の事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ｅさんは、生活介護事業所で油絵を描くことを楽しみにしている。
以前から隣町の油絵教室に通い技術を高めたいと話していた。
そこでＥさんは、「自宅から油絵教室に通うときの介助をお願いするにはどうしたらよいか」と介護福祉職に相談した。

以上が、今回のPART3の事例の説明です。

【事例26】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）介助	体が不自由な人が生活するときに、そばで手伝うこと。

268

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「介助」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、体が不自由な人が生活するときに、そばで手伝うことです。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

【事例26】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Eさんはどのような趣味活動を楽しんでいますか。

問2 Eさんは今後どのようなことをしたいと考えていますか。

問3 Eさんは介護福祉職に何を相談しましたか。

269

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Eさんがどのような趣味活動を楽しんでいるのかを確認します。
生活介護事業所で何をしているのかに注目して読み取りましょう。

次に、Eさんが今後どのようなことをしたいと考えているのかを整理します。
どこに通いたいのか、何を高めたいのかを確認しましょう。

最後に、Eさんが介護福祉職に何を相談したのかを読み取りましょう。
どのような場面で何をお願いすることについて相談したのかに注目してください。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例26】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Eさんはどのような趣味活動を楽しんでいますか。
【正解】生活介護事業所で油絵を描くことを楽しんでいます。

問2 Eさんは今後どのようなことをしたいと考えていますか。
【正解】隣町の油絵教室に通い、技術を高めたいと考えています。

問3 Eさんは介護福祉職に何を相談しましたか。
【正解】自宅から油絵教室に通うときの介助をお願いする方法について相談しました。

270

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

Eさんは生活介護事業所で油絵を描くことを楽しんでいます。
これが、Eさんの趣味活動です。

Eさんは隣町の油絵教室に通い、もっと技術を高めたいと考えています。
これが、Eさんが今後やりたいと考えていることです。

Eさんは自宅から油絵教室に通うときの介助について、介護福祉職に相談しました。
これが、Eさんからの介護福祉職への相談内容です。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

【事例26】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 介護福祉職は、Eさんが隣町の油絵教室に通うことができるようにサービスを提案したいと考えている。次のうち、Eさんが利用するサービスとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 自立生活援助
2. 療養介護
3. 移動支援
4. 自立訓練
5. 同行援護

271

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「自立生活援助」
2つ目、「療養介護」
3つ目、「移動支援」
4つ目、「自立訓練」
5つ目、「同行援護」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例26】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 介護福祉職は、Eさんが隣町の油絵教室に通うことができるようにサービスを提案したいと考えている。次のうち、Eさんが利用するサービスとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 自立生活援助
2. 療養介護
3. **移動支援**
4. 自立訓練
5. 同行援護

【解説】

- **移動支援は、障害のある人の外出を支援するサービスで、Eさんの状況に最適**です。
- 移動支援は趣味や余暇活動のための外出にも利用でき、**社会参加**を支えます。

272

では、問4の答えを確認します。

正解は、「移動支援」です。
Eさんは、隣町の油絵教室に通いたいと考えています。
そのためには、外出するときの移動をサポートするサービスが必要です。
移動支援は、障害のある人が外出するときに付き添いなどを行い、社会参加を支えるサービスです。
趣味や余暇活動のための外出にも利用できます。
移動支援は、障害者の社会参加や余暇活動を支援する制度として最適なサービスです。

以上で、事例26の学習を終了します。

【事例２７】

自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援（Part１）



273

【事例27】自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援（Part１）

この事例では、20歳の男性Fさんが登場します。
Fさんには自閉症スペクトラム障害と重度の知的障害があります。
Fさんの介護の家族負担が大きくなり、話し合いの結果、家族はある決断をします。

この事例では、障害のある人と家族の尊厳を守り、その可能性を引き出す支援のあり方を学びます。
また、家族の思いに寄り添いながら、施設入所後も本人・家族と協働して支援を見直していくことの重要性について考えます。

273

【事例27】事例説明（Part1）

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ｆさん（20歳、男性）は、自閉症スペクトラム障害（autism spectrum disorder）と重度の知的障害があり、自宅で母親（50歳）、姉（25歳）と3人で暮らしている。Ｆさんは生活介護事業所を利用している。事業所では比較的落ち着いているが、自宅に帰ってくると母親に対してかみつきや頭突きをすることがあった。また、自分で頭をたたくなどの自傷行為もたびたび見られる。

出典：第36回総合問題（令和5年度）

274

まずはPART1の事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ｆさん（20歳、男性）は、自閉症スペクトラム障害（autism spectrum disorder）と重度の知的障害があり、自宅で母親（50歳）、姉（25歳）と3人で暮らしている。
Ｆさんは生活介護事業所を利用している。
事業所では比較的落ち着いているが、自宅に帰ってくると母親に対してかみつきや頭突きをすることがあった。
また、自分で頭をたたくなどの自傷行為もたびたび見られる

以上が、今回のPART1の事例の説明です。

274

【事例27】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Ｆさん（20歳、男性）は、自閉症スペクトラム障害（autism spectrum disorder）と重度の知的障害があります。
② 自宅で母親（50歳）、姉（25歳）と3人で暮らしています。
③ Ｆさんは生活介護事業所を利用しています。
④ 事業所では比較的落ち着いています。
⑤ しかし、自宅に帰ってくると母親に対してかみつきや頭突きをすることがありました。
⑥ また、自分で頭をたたくなどの自傷行為もたびたび見られます。

275

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Fさんの生活の様子や障害のことを確認しましょう。
また、Fさんの自宅での行動に注目しましょう。

Ｆさん（20歳、男性）は、自閉症スペクトラム障害（autism spectrum disorder）と重度の知的障害があります。
自宅で母親（50歳）、姉（25歳）と3人で暮らしています。
Ｆさんは生活介護事業所を利用しています。
事業所では比較的落ち着いています。
しかし、自宅に帰ってくると母親に対してかみつきや頭突きをすることがありました。
また、自分で頭をたたくなどの自傷行為もたびたび見られます。

事例の説明は理解できましたか。

275

【事例27】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）自閉症スペクトラム障害（autism spectrum disorder）	人とのコミュニケーションや行動のしかたに特徴がある発達障害。強いこだわりがあったり、人の気持ちを読み取ることがむずかしいことがある。

276

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「自閉症スペクトラム障害（autism spectrum disorder）」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、人とのコミュニケーションや行動のしかたに特徴がある発達障害のことです。
強いこだわりがあったり、人の気持ちを読み取ることがむずかしいことがあります。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

276

【事例27】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Fさんにはどのような障害がありますか。

問2 Fさんは誰と暮らしていますか。

問3 事業所と自宅でのFさんの様子はどのように違いますか。

277

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Fさんの障害について確認します。
どのような障害があるのかを読み取りましょう。

次に、Fさんが誰と一緒に暮らしているのか整理します。

続いて、事業所での様子と自宅での様子の違いに注目します。
どのような行動が見られるのか、どんな違いがあるのかを考えましょう。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例27】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 Fさんにはどのような障害がありますか。
【正解】自閉症スペクトラム障害と重度の知的障害があります。

問2 Fさんは誰と暮らしていますか。
【正解】母親（50歳）と姉（25歳）と3人で暮らしています。

問3 事業所と自宅でのFさんの様子はどのように違いますか。
【正解】事業所では比較的落ち着いていますが、自宅では母親に対してかみつきや頭突きをすることがあります。また、自分で頭をたたくなどの自傷行為も見られます。

278

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

まず、Fさんには自閉症スペクトラム障害と重度の知的障害があります。
これが、Fさんの障害です。

次に、Fさんは母親と姉の3人で自宅に暮らしています。

続いて、事業所と自宅でのFさんの様子の違いです。
事業所では比較的落ち着いていますが、自宅では母親にかみついたり頭突きをしたりすることがあります。
また、自分で頭をたたくなどの自傷行為も見られます。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

【事例27】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 次のうち、Ｆさんが自宅に帰ってきたときの状態に該当するものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 学習障害
2. 注意欠陥多動性障害
3. 高次脳機能障害
4. 強度行動障害
5. 気分障害

279

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「学習障害」
2つ目、「注意欠陥多動性障害」
3つ目、「高次脳機能障害」
4つ目、「強度行動障害」
5つ目、「気分障害」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例27】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 次のうち、Ｆさんが自宅に帰ってきたときの状態に該当するものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 学習障害
2. 注意欠陥多動性障害
3. 高次脳機能障害
4. **強度行動障害**
5. 気分障害

【解説】

- **自傷行為**（頭をたたく）や**他害行為**（かみつき・頭突き）といった問題行動が見られます。
- **問題行動が多く見られ、日常生活に大きな支障を及ぼす問題は強度行動障害**にあたります。
- 強度行動障害は、自閉症や知的障害のある人に時として見られます。

280

では、問4の答えを確認します。

正解は、「強度行動障害」です。
Fさんは、自宅に帰ると母親にかみついたり頭突きをしたりします。
また、自分で頭をたたくなどの自傷行為も見られます。
このように、自傷行為や他害行為といった問題行動が強くあらわれ、生活に大きな影響を与えている状態を「強度行動障害」といいます。
強度行動障害は、自閉症や知的障害のある人に時として見られます。
他の選択肢の障害は、今回のような強い自傷・他害行為を中心とする行動特性とは異なります。

これで、Part 1 の学習を終了します。

【事例２７】

自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援（Part２）



281

【事例27】自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援（Part２）

この事例は、Part１からの続きの事例です。
もし、Part１を学習していない場合は、Part１から学習をはじめてください。

この事例では、20歳の男性Fさんが登場します。
Fさんには自閉症スペクトラム障害と重度の知的障害があります。
Fさんの介護の家族負担が大きくなり、話し合いの結果、家族はある決断をします。

この事例では、障害のある人と家族の尊厳を守り、その可能性を引き出す支援のあり方を学びます。
また、家族の思いに寄り添いながら、施設入所後も本人・家族と協働して支援を見直していくことの重要性について考えます。

281

【事例27】事例説明（Part2）

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



仕事をしている母親に代わり、小さい頃から食事や排泄の介護をしている姉は、これまでＦさんの行動を止めることができていたが、最近ではからだが大きくなり力も強くなって、母親と協力しても止めることが難しくなっていた。家族で今後のことを考えた結果、Ｆさんは障害者支援施設に入所することになった。

出典：第36回総合問題（令和5年度）

282

PART2の事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

仕事をしている母親に代わり、小さい頃から食事や排泄の介護をしている姉は、これまでＦさんの行動を止めることができていたが、最近ではからだが大きくなり力も強くなって、母親と協力しても止めることが難しくなっていた。
家族で今後のことを考えた結果、Ｆさんは障害者支援施設に入所することになった。

以上が、今回のPART2の事例の説明です。

282

【事例27】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① 仕事をしている母親に代わり、小さい頃から食事や排泄の介護をしている姉がいます。
② 姉は、これまでＦさんの行動を止めることができていました。
③ しかし最近では、Fさんのからだが大きくなり力も強くなってきました。
④ 母親と協力しても止めることが難しくなっていました。
⑤ 家族で今後のことを考えた結果、Ｆさんは障害者支援施設に入所することになりました。

283

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、家族の決断の経緯と内容を読み取りましょう。
また、家族の気持ちを考えましょう。

仕事をしている母親に代わり、小さい頃から食事や排泄の介護をしている姉がいます。
姉は、これまでＦさんの行動を止めることができていました。
しかし最近では、Fさんのからだが大きくなり力も強くなってきました。
母親と協力しても止めることが難しくなっていました。
家族で今後のことを考えた結果、Ｆさんは障害者支援施設に入所することになりました。

事例の説明は理解できましたか。

283

【事例27】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）排泄	便や尿といった体の中のいらないものを外に出すこと。

284

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「排泄」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、便や尿といった体の中のいらないものを外に出すことです。
たとえば、トイレで便や尿を出すことをいいます。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

284

【事例27】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 これまでFさんの介護は誰が中心になって行ってきましたか。

問2 なぜFさんの行動を止めることが難しくなったのですか。

問3 家族はどのような決断をしましたか。

285

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、これまでFさんの介護をだれが中心になって行ってきたのかを確認します。
母親と姉の役割に注目して読み取りましょう。

次に、なぜFさんの行動を止めることが難しくなったのかを整理します。
体の成長や力の強さが、どのように影響しているのかを考えてみましょう。

最後に、家族がどのような決断をしたのかを確認します。
話し合いの結果、どのような選択をしたのかに注目してください。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

【事例27】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 これまでFさんの介護は誰が中心になって行ってきましたか。
【正解】母親が仕事をしているため、小さい頃から姉が食事や排泄の介護を行ってきました。

問2 なぜFさんの行動を止めることが難しくなったのですか。
【正解】Fさんの身体が大きくなり力も強くなったため、母親と姉が協力しても制止することが困難になってきたからです。

問3 家族はどのような決断をしましたか。
【正解】家族で今後のことを話し合った結果、Fさんを障害者支援施設に入所させることを決めました。

286

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

まず、これまでFさんの介護は、母親が仕事をしているため、姉が中心となって行ってきました。

次に、Fさんの行動を止めることが難しくなった理由についてです。
体が大きくなり、力も強くなったため、母親と姉が協力しても制止することが困難になってきました。

最後に、家族がどのような決断をしたのかについてです。
今後のことを話し合った結果、Fさんは障害者支援施設に入所することになりました。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

【事例27】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 Ｆさんが入所してからも月1、2回は、姉が施設を訪ね、Ｆさんの世話をしている。ある日、担当の介護福祉職が姉に声をかけると、「小学生の頃から、学校が終わると友だちと遊ばずにまっすぐ家に帰り、母親に代わって、弟の世話をしてきた。今は、弟を見捨てたようで、申し訳ない」などと話す。介護福祉職の姉への対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 「これからもＦさんのお世話をしっかり行ってください」
2. 「Ｆさんは落ち着いていて、自傷他害行為があるようには見えませんね」
3. 「お姉さんは、小さい頃からお母さんの代わりをしてきたのですね」
4. 「訪問回数を減らしてはどうですか」
5. 「施設入所を後悔しているのですね。もう一度在宅ケアを考えましょう」

287

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「「これからもＦさんのお世話をしっかり行ってください」」
2つ目、「「Ｆさんは落ち着いていて、自傷他害行為があるようには見えませんね」」
3つ目、「「お姉さんは、小さい頃からお母さんの代わりをしてきたのですね」」
4つ目、「「訪問回数を減らしてはどうですか」」
5つ目、「「施設入所を後悔しているのですね。もう一度在宅ケアを考えましょう」」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

【事例27】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 Ｆさんが入所してからも月1、2回は、姉が施設を訪ね、Ｆさんの世話をしている。ある日、担当の介護福祉職が姉に声をかけると、「小学生の頃から、学校が終わると友だちと遊ばずにまっすぐ家に帰り、母親に代わって、弟の世話をしてきた。今は、弟を見捨てたようで、申し訳ない」などと話す。介護福祉職の姉への対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 「これからもＦさんのお世話をしっかり行ってください」
2. 「Ｆさんは落ち着いていて、自傷他害行為があるようには見えませんね」
3. **「お姉さんは、小さい頃からお母さんの代わりをしてきたのですね」**
4. 「訪問回数を減らしてはどうですか」
5. 「施設入所を後悔しているのですね。もう一度在宅ケアを考えましょう」

【解説】
- まずは姉の長年の献身と努力を受け止め、**共感することが重要**です。
- **気持ちを否定せず、寄り添う姿勢**が必要です。

288

では、問4の答えを確認します。

正解は、「お姉さんは、小さい頃からお母さんの代わりをしてきたのですね」です。
姉は、小学生の頃から母親に代わってFさんの世話を続けてきました。
その長年の負担や努力があったからこそ、施設入所に対して「見捨てたようで申し訳ない」という気持ちが生まれています。
このような場面では、まず姉のこれまでの苦労や思いに寄り添い、共感を示すことが大切です。
「お姉さんは、小さい頃からお母さんの代わりをしてきたのですね」という言葉は、姉の歩んできた人生と努力を認める対応です。
相手の気持ちを否定せず、評価や指示をするのではなく、まず受け止める姿勢が重要です。

これで、Part 2 の学習を終了します。

【事例２７】

自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援（Part３）



289

【事例27】自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援（Part３）

この事例は、Part２からの続きの事例です。
もし、Part２を学習していない場合は、Part２から学習をはじめてください。

この事例では、20歳の男性Fさんが登場します。
Fさんには自閉症スペクトラム障害と重度の知的障害があります。
Fさんの介護の家族負担が大きくなり、話し合いの結果、家族はある決断をします。

この事例では、障害のある人と家族の尊厳を守り、その可能性を引き出す支援のあり方を学びます。
また、家族の思いに寄り添いながら、施設入所後も本人・家族と協働して支援を見直していくことの重要性について考えます。

【事例27】事例説明（Part3）

事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。



Ｆさんが施設に入所して1年が経った。介護福祉職は、Ｆさん、母親、姉と共にこれまでの生活と支援を振り返り、当面、施設で安定した生活が送れるように検討した。

出典：第36回総合問題（令和5年度）

290

PART3の事例の説明を読んで、内容を確認しましょう。

Ｆさんが施設に入所して1年が経った。
介護福祉職は、Ｆさん、母親、姉と共にこれまでの生活と支援を振り返り、当面、施設で安定した生活が送れるように検討した。

以上が、今回のPART3の事例の説明です。

【事例27】演習① 短い文で事例の説明を読んでみよう

これは、短い文で書き直した事例の説明です。読んでみましょう。

① Ｆさんが施設に入所して1年が経ちました。
② 介護福祉職は、Ｆさん、母親、姉と共にこれまでの生活と支援を振り返りました。
③ 当面、施設で安定した生活が送れるように検討しました。

291

次に、事例の内容を短い文で読んでみましょう。
この事例は、内容を分かりやすくするために、文を短く書き直しています。
一文ずつ読んで、Fさんの支援の検討の様子を確認しましょう。

Ｆさんが施設に入所して1年が経ちました。
介護福祉職は、Ｆさん、母親、姉と共にこれまでの生活と支援を振り返りました。
当面、施設で安定した生活が送れるように検討しました。

事例の説明は理解できましたか。

【事例27】演習② わからない言葉や文の意味を考えよう

事例の説明を読んで、意味がわからない言葉や文を見つけてください。
わからない言葉や文を、書き出しましょう。意味を調べて、自分の言葉で書いてください。

わからない言葉・文	言葉・文の意味（調べたこと）
（例）振り返る	これまでのことを思い出して、 どうだったかを考えること。

292

次の演習では、事例の説明文を読んで、意味がわからない言葉や、意味が分かりにくい文を見つけます。
まず、事例中で、知らない言葉や、何を言っているのかよく分からない文があったら、ノートに書き出します。
次に、その言葉や文の意味を調べます。辞書やインターネットを使ってもかまいません。
意味が分かったら、そのまま写すのではなく、自分が理解しやすい日本語で書き直してください。

たとえば、「振り返る」という言葉が分からない場合は、その意味を調べます。
これは、これまでのことを思い出して、どうだったかを考えることです。

このように、言葉や文の意味を確認しながら読むことで、事例の内容が分かりやすくなります。

【事例27】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 施設入所から現在までどのくらいの期間が経過していますか。

問2 介護福祉職は誰と共に支援内容を検討していますか。

問3 現在の支援の目標は何ですか。

293

次の演習では、事例の内容を思い出しながら、質問に答えてみましょう。
正しい答えを書くことよりも、内容を理解して、自分の言葉で考えることが大切です。

まず、Fさんが施設に入所してからどのくらいの期間がたっているのかを確認します。
入所してから現在までの時間の流れに注目して読み取りましょう。

次に、介護福祉職が誰と一緒にこれまでの生活や支援を振り返っているのかを整理します。
支援を考える場に、どのような人が参加しているかを確認しましょう。

最後に、現在の支援の目標について考えます。
Fさんがどのような生活を送れるようにすることが目標なのかに注目してください。

まずは自分で質問の答えを考えてみましょう。
次のページでは、答え方の例を紹介します。

293

【事例27】演習③ 質問を読んで考えよう

問1 施設入所から現在までどのくらいの期間が経過していますか。
【正解】1年が経過しています。

問2 介護福祉職は誰と共に支援内容を検討していますか。
【正解】Fさん本人、母親、姉と共に検討しています。

問3 現在の支援の目標は何ですか。
【正解】当面、施設で安定した生活が送れるようにすることです。

294

ここでは、質問に対する答えの例を示します。
自分の答えと比べながら、どこが同じか、どこが違うかを確認してください。
答えは一つだけではありませんが、事例の内容に合っていることが大切です。

まず、Fさんは施設に入所してから1年が経過しています。
これが、施設入所から現在までの期間です。

次に、介護福祉職は、Fさん本人、母親、姉と一緒にこれまでの生活や支援を振り返っています。
これが、介護福祉職と支援内容を検討しているメンバーです。

最後に、当面、施設で安定した生活が送れるようにすることを目標にしています。
これが、現在の支援の目標です。

この回答例を参考にして、自分の答えを見直してみましょう。

294

【事例27】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 次のうち、Ｆさんの支援を修正するときに利用するサービスとして、正しいものを1つ選びなさい。

1. 地域定着支援
2. 計画相談支援
3. 地域移行支援
4. 基幹相談支援
5. 基本相談支援

295

これまでの内容を受けて、国家試験の過去問に挑戦してみましょう。
問題文と選択肢を丁寧に読み、事例の説明に合っていると思うものを考えてください。

選択肢は次のとおりです。
1つ目、「地域定着支援」
2つ目、「計画相談支援」
3つ目、「地域移行支援」
4つ目、「基幹相談支援」
5つ目、「基本相談支援」

これまでに学んだ内容を思い出して、選択肢の中から、最も適切だと思うものを一つ選んでください。

295

【事例27】演習③ 質問を読んで考えよう

問4 次のうち、Ｆさんの支援を修正するときに利用するサービスとして、正しいものを1つ選びなさい。

1. 地域定着支援
2. **計画相談支援**
3. 地域移行支援
4. 基幹相談支援
5. 基本相談支援

【解説】

- 施設入所後1年が経過し、**支援内容の見直しの時期**です。
- **計画相談支援は、サービス等利用計画の作成・見直しを行う制度**で、Fさんの支援を修正する状況に最適です。
- 本人・家族・支援者の意見を反映し、今の状況に合った支援へ修正することが重要です。

296

では、問4の答えを確認します。

正解は、「計画相談支援」です。
Fさんは、施設に入所してから1年が経過し、これまでの生活や支援内容を振り返る時期にあります。
今後も施設で安定した生活を送るためには、支援計画の見直しが必要です。
計画相談支援は、サービス等利用計画を作成したり、定期的に見直したりするサービスです。
本人や家族、支援者の意見をもとに、今の状況に合った支援内容へ修正することができます。
今回のように、施設での支援内容を見直す場合には「計画相談支援」が最も適切です。

以上で、事例27の学習を終了します。

296

科目【国家試験対策】

外国人介護職のための介護・日本語教育 文章読解演習テキスト ＜指導ガイド＞

一般社団法人介護福祉教育コンソーシアム
プロトタイプ版（令和7年度）

目次

【事例1】膝の痛みと生活変化に不安を感じる一人暮らしの女性
【事例2】聴力低下のある施設入所高齢者とのコミュニケーション
【事例3】認知症の父の消費者トラブルに対する娘からの相談への対応
【事例4】生活困窮状態にある引きこもりの姉に対する支援の相談
【事例5】骨粗鬆症の高齢女性への支援
【事例6】介護老人保健施設入所中の高齢男性の食事中のトラブル
【事例7】肥満の男性の入浴時の感覚
【事例8】砂場遊びが好きな広汎性発達障害の幼稚園児の対応
【事例9】高齢男性の激しい胸痛
【事例10】アルツハイマー型認知症の女性の夫への妄想
【事例11】アルツハイマー型認知症の女性の認知症高齢者グループホーム入居後の様子
【事例12】療育手帳を所持する女性の金銭管理への支援
【事例13】胃ろうによる経管栄養中の女性の腹部膨満感
【事例14】若年性認知症の母親を持つ高校生の娘の悩み
【事例15】入浴動作に困難を感じ始めた脳梗塞後遺症の男性への支援
【事例16】難聴のある高齢女性利用者とのコミュニケーション
【事例17】失語症のある女性利用者への入浴予定の伝え方
【事例18】夜盲のある女性利用者との夕方の出会い
【事例19】認知症の女性の尿路感染症予防のための介護
【事例20】テレビショッピングの健康食品購入に困る高齢女性への対応
【事例21】睡眠中のいびきと日中の眠気がある男性施設利用者への対応
【事例22】認知症の高齢女性の大正琴を通した支援
【事例23】就労継続支援B型事業所を利用する左片麻痺の男性
【事例24】前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援
【事例25】車の事故により脊髄損傷となった男性
【事例26】アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援
【事例27】自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援

【事例１　指導ガイド】

膝の痛みと生活変化に不安を感じる一人暮らしの女性



事例1の指導者向けガイドを説明します。
今回の事例は、膝の痛みをきっかけに生活に変化が生じ、将来の生活に不安を感じるようになった一人暮らしの高齢女性を扱っています。
身体機能の低下だけでなく、生活環境や人との関わりの変化が、利用者の気持ちにどのような影響を与えるのかがポイントです。
この事例を通して、利用者の状況を整理しながら、不安の背景にある気持ちをどのように読み取るかを意識して進めていきます。

【事例1】1. 演習の狙い

この演習では、下記の内容を狙いとしています。

01 事例説明の理解

生活状況の変化と、**利用者の心理的な変化**を関連付けて理解すること

02 演習①の狙い

事例説明に書かれている**内容を正確に読み取れているかを確認**すること

03 演習②の狙い

抜き出された語句や表現について、**一つひとつ意味を確認して理解**につなげること

04 演習③の狙い

介護福祉職としての対応を考えることで、**利用者の心情に寄り添う視点の重要性を理解**すること

この演習では、事例説明の内容を正しく理解し、利用者の生活状況の変化と心理面の変化を結び付けて捉えられるようになることを目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、自立度の高い一人暮らしの高齢女性が、身体機能の低下や生活環境の変化によって、今後の生活に不安を感じるようになるまでの流れが示されています。生活の変化と、利用者の気持ちの変化を関連付けて理解できるようにすることが狙いです。

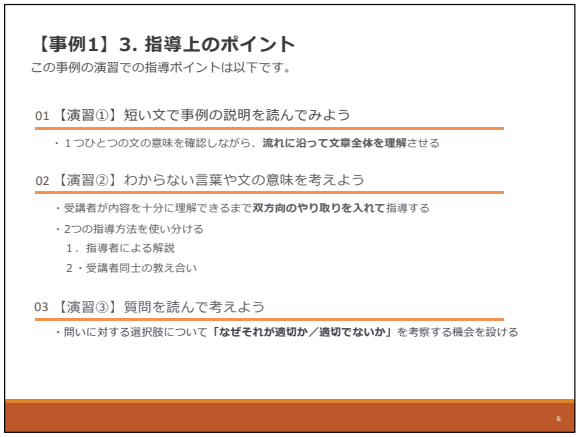
02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い
演習③では、事例説明の内容を的確に把握できるようになることを目指します。

サービス利用の状況や日常生活の様子を確認する問いから始め、最近の変化やその影響、そして利用者の不安な気持ちを読み取る問いへと進みます。
最後に、介護福祉職としての適切な対応を考える問題を通して、利用者の心情に寄り添う視点の重要性を理解することを狙いとしています。

4



事例1の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。

6



事例1の事例説明は、大きく三つの要素で構成されています。

01 現在の生活状況
最初の段落では、Aさんの基本的な生活状況が説明されています。
要支援1の一人暮らしの高齢者として、介護予防サービスを利用しながら、友人との交流も楽しんでいる様子が分かります。

02 生活の変化
次の段落では、Aさんの生活に影響を与えた二つの変化が示されています。
一つは、変形性膝関節症による身体機能の低下です。
もう一つは、友人の入院によって社会的な交流の機会が減ったことです。
これらの変化が重なり、Aさんの生活に大きな影響が出ていることが読み取れます。

03 不安の出現
最後の段落では、こうした変化を受けてAさんが感じ始めた不安が表現されています。
自宅での生活を続けられるかどうかという不安を、介護福祉職に打ち明ける形で支援を求めていることが示されています。

5

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、事例の内容をもとに質問に答えながら理解を深めます。
サービス利用の状況や日常生活の様子を確認する問いから始め、最近の変化や利用者の気持ちを読み取る問いへと進みます。

最後に、介護福祉職としてどのような対応が適切かを考えます。
選択肢を選ぶ問題では、「なぜそれが適切か」「なぜ適切でないか」を考えさせることで、判断の根拠を意識させます。

6

【事例２　指導ガイド】

聴力低下のある施設入所高齢者とのコミュニケーション



7

事例2の指導者向けガイドを説明します。
今回の事例は、耳が聞こえにくくなっている高齢の女性が、施設での生活の中で、介護福祉職の声かけをうまく理解できなかった場面を扱っています。
身体機能の変化の中でも、聞こえにくさがあることで、相手の話が分からず、困った気持ちになる点がポイントです。
この事例を通して、利用者の反応から状況を整理し、どのような話し方が相手に伝わりやすいかを意識しながら進めていきます。

7

いう身体状態と困っている心情を読み取る力を養います。
最後に、聴力が低下した高齢者に対する適切な話し方について考えることで、準言語の活用について実践的な理解を深めます。

8

【事例2】1. 演習の狙い

この演習では、下記の内容を狙いとしています。

01 事例説明の理解

準言語の活用等高齢者の身体機能の変化に応じた適切なコミュニケーション方法を理解すること

02 演習①の狙い

事例説明に書かれている**内容を正確に読み取れているかを確認**すること

03 演習②の狙い

抜き出された語句や表現について、**一つひとつ意味を確認して理解**につなげること

04 演習③の狙い

聴力が低下した高齢者に対し、準言語（声の大きさ、速さ、抑揚など）の活用を理解すること

8

この演習では、事例説明の内容を正しく理解し、準言語の活用を含め、高齢者の身体機能の変化に応じた適切なコミュニケーション方法を理解することを目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、入所施設で生活する高齢者に聴力低下が見られる場合のコミュニケーション場面を取り上げています。高齢者の身体機能の変化に寄り添い、準言語の活用を含め適切なコミュニケーション方法への理解を深めることが目的です。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い
演習③では、事例の内容を踏まえ、Bさんの言葉や反応から状況を整理し、聴力低下と

8

【事例2】2. 文章の流れの確認

事例説明は、大きく3つの要素で構成されています。
各要素の主な内容は以下の通りです。

01
場面設定



Bさん（90歳・要介護3）が、介護老人福祉施設で生活している

02
介護福祉職の行動



入浴の予定を伝えるため、介護福祉職がBさんの居室をたずね、声をかける

03
Bさんの反応



介護福祉職の話が聞き取れず、困惑している様子のBさん

9

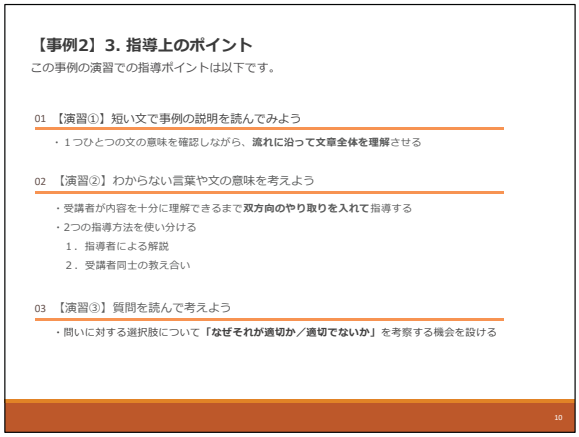
事例2の事例説明は、大きく三つの要素で構成されています。

01 場面設定
最初の段落では、Bさんの基本的な生活状況が説明されています。
90歳・要介護3の高齢者として、介護老人福祉施設で生活している様子が分かります。

02 介護福祉職の行動
次の段落では、午後3時からの入浴の予定を伝えるために、介護福祉職がBさんの居室を訪問し、声をかける場面が描かれています。

03 Bさんの反応
最後の段落では、介護福祉職の言葉が聞き取れず、Bさんが困惑している様子が示されています。
この反応から、聴力の低下があり、話し方への配慮が必要な状況であることが読み取れます。

9



事例2の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。

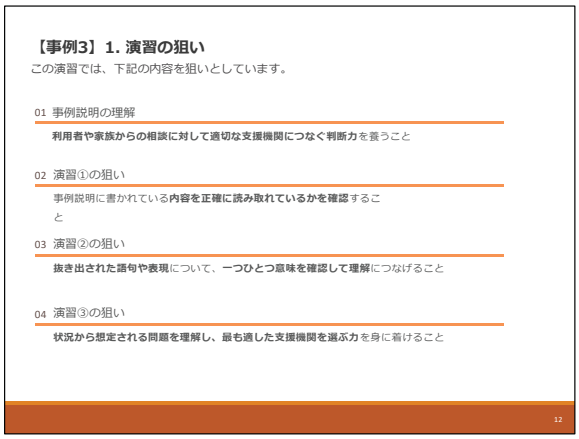


事例3の指導者向けガイドを説明します。
今回の事例は、認知症のある高齢の男性が、一人暮らしを続ける中で、消費者トラブルに巻き込まれる可能性がある場面を扱っています。
家族である娘から訪問介護員に相談が寄せられるという点が特徴です。
認知症があることで、お金や契約について正しく判断することがむずかしくなり、トラブルになる可能性があることが、この事例の重要なポイントです。
本人の問題としてだけでなく、家族の不安や心配にも目を向ける必要があります。
この事例を通して、利用者本人の状況を整理するとともに、家族からの相談をどのように受け止め、適切な相談先につなぐかという、介護福祉職としての役割を意識しながら学習を進めていきます。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、事例の内容をもとに質問に答えながら理解を深めます。
生活の状況や介護福祉職が利用者に伝えようとした内容を確認する問いから始め、利用者の反応から身体状況や心情を読み取る問いへと進みます。

最後に、介護福祉職としてどのような対応が適切かを考えます。
選択肢を選ぶ問題では、「なぜそれが適切か」「なぜ適切でないか」を考えさせることで、実践的な対応力を養います。
実際に声を出して練習するなど、体験的な学習を取り入れることも効果的です。



この演習では、認知症のある一人暮らし高齢者が消費者トラブルに巻き込まれる危険性と、それを心配する家族からの相談に、介護職としてどのように対応するかを理解することを目的としています。

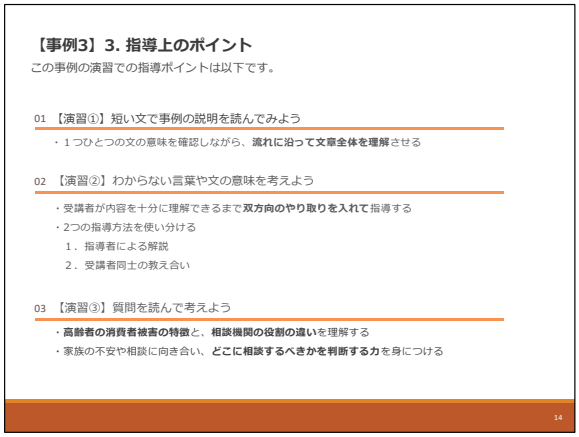
01 事例説明の理解
この事例では、認知症のある高齢の男性が一人暮らしをしており、電話による勧誘を受けて契約を悩んでいる状況が示されています。あわせて、娘がその状況を心配し、訪問介護員に相談しています。状況を整理し、適切な支援機関につなぐ判断力を養います。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い

演習③では、利用者の状態と、家族からの相談内容を正確に理解し、そこからどのような問題が考えられるかを整理します。
特に、認知症があることで判断がむずかしくなり、消費者被害につながる可能性がある点に気づけるようにします。
最後に、複数の専門相談機関の中から、事例に最も適した相談先を選ぶことで、介護職としての最も適した支援機関を選ぶ力を養います。



事例3の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。



事例3の事例説明は、大きく三つの要素で構成されています。

01 利用者の基本情報
最初の段落では、Dさんの基本的な生活状況が説明されています。
要介護2で認知症があり、一人暮らしをしている80歳の男性高齢者で、訪問介護を利用しながら生活していることが分かります。

02 訪問介護員の訪問
次の段落では、訪問介護員がDさんの家を訪問した際に、近所に住む長女と会い、相談を受けたことが示されています。

03 長女からの相談内容
長女からの相談は、Dさんが電話による勧誘を受け、高額な投資信託の契約を悩んでいることを心配している、という内容でした。
認知症があり判断力が十分でない高齢者が消費者トラブルに巻き込まれる危険性が表現されています。
認知症高齢者の権利を守ることや、消費者被害を防ぐことの重要性が示されています。
あわせて、介護職として、適切な支援機関と連携する必要性が読み取れます。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、事例の内容をもとに質問に答えながら理解を深めます。
Dさんの生活状況や認知症の状態、そして長女からの相談内容を整理する問いから始め、どのような問題が起こる可能性があるかを考える問いへと進みます。

最後に、介護職としてどの専門機関への相談をすすめることが適切かを考えます。
「なぜその相談先が適切なのか」「なぜ他の機関ではないのか」を確認しながら、相談機関の役割の違いを理解させ、どこに相談するべきか判断する力を養います。
あわせて、利用者本人だけでなく、家族の不安や相談にどう向き合うかという、介護職としての基本的な姿勢についても意識づけを行います。

【事例4　指導ガイド】

生活困窮状態にある引きこもりの姉に対する支援の相談



15

事例4の指導者向けガイドを説明します。
今回の事例は、ひきこもりの状態にある55歳の女性が、父親の死去をきっかけに生活に困るようになった場面を扱っています。
それまで父親の年金に頼って生活していましたが、支えを失ったことで生活が立ち行かなくなった点が特徴です。
この事例では、ひきこもりの長期化と家族の死去が重なり、生活困窮が表面化する過程が重要なポイントとなります。
また、家主からの連絡を通して、遠方に住む弟が状況を知るという点にも注目します。

この事例を通して、利用者の生活状況を整理するとともに、生活に困っている人を適切な支援機関につなぐという、介護・福祉職の役割を意識しながら学習を進めていきます。

15

04 演習③の狙い
演習③では、父親の死去による生活状況の変化と、家主から弟への連絡によって問題が明らかになる流れを整理します。
その上で、生活に困っている状況に対して、どの支援機関に相談することが適切かを考えさせます。
最後に、各種相談機関の役割と機能を理解し、介護・福祉職として適切な支援につなぐ判断力を養うことを目指します。

16

【事例4】1. 演習の狙い

この演習では、下記の内容を狙いとしています。

01 事例説明の理解

ひきこもりの長期化と家族の高齢化、生活困窮という複合的な問題を理解すること

02 演習①の狙い

事例説明に書かれている**内容を正確に読み取れているかを確認**すること

03 演習②の狙い

抜き出された語句や表現について、**一つひとつ意味を確認して理解**につなげること

04 演習③の狙い

各種相談機関の役割と機能を理解し、最も適した支援機関を選択する判断力を身に着けること

16

この演習では、問題の一例として、ひきこもりの長期化、家族の高齢化、そして生活困窮という問題が表面化する過程に着目します。こういった複合的な問題に対する支援への理解を深める事を目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、ひきこもりの状態にある中年女性が、父親の死去をきっかけに生活困窮に陥った状況について弟が家主から連絡を受けて知る過程が示されています。
ひきこもりの長期化と家族の高齢化、そして生活困窮という複合的な問題を理解することを目指します。

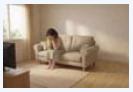
02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

16

【事例4】2. 文章の流れの確認

事例説明は、大きく3つの要素で構成されています。
各要素の主な内容は以下の通りです。

01	02	03
Eさんの生活状況	**生活状況の変化**	**問題の表面化**
		
55歳の女性で、就労しておらずひきこもり状態。父親の年金で生活している。	父親が亡くなり、一人暮らしを開始。家賃を滞納する。	家主からの連絡を受けて弟がEさんの状況を知り、心配する。

17

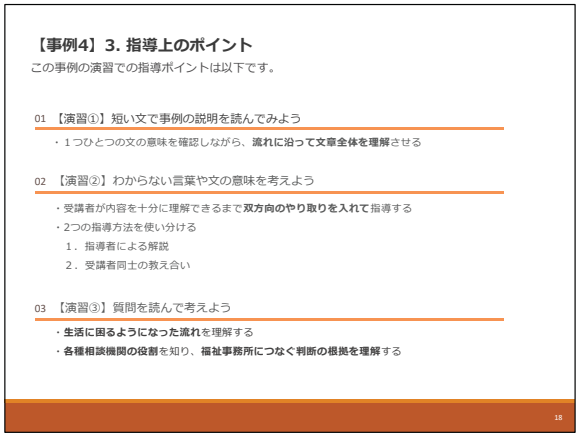
事例4の事例説明は、大きく三つの要素で構成されています。

01 Eさんの生活状況
最初の段落では、Eさんの基本的な生活状況が説明されています。
55歳の女性で、ひきこもりの状態にあり、仕事をしていません。
父親の年金で父親とアパートに住み、生活していたことが分かります。

02 生活状況の変化
次の段落では、父親が亡くなったことをきっかけに、Eさんが一人暮らしになったことが示されています。
これまで父親に支えられていた生活が、大きく変化したことが読み取れます。

03 問題の表面化
最後の段落では、家主から弟への連絡によって、Eさんが家賃を滞納し、生活に困っている状況が明らかになります。
この事例を通して、家族の死去をきっかけに、ひきこもり状態にある人の生活困窮が表に出る過程が示されています。
あわせて、生活に困っている人を、適切な支援機関につなぐ必要性が読み取れます。

17



事例4の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三～四人程度を目安とします。

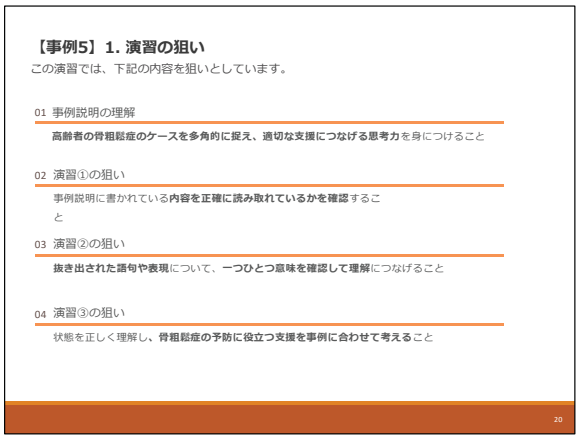


事例5の指導者向けガイドを説明します。
今回の事例は、骨粗鬆症と診断された高齢女性が、治療やリハビリを受けながら生活している場面を扱っています。
Fさんは自立して歩行できるものの、ふらつきがあり、転倒や骨折のリスクを抱えている状態である点が特徴です。
この事例では、骨粗鬆症という病気の理解だけでなく、現在の生活の様子やリハビリの内容をどのように読み取るかが重要なポイントとなります。
また、日常生活の過ごし方が、骨粗鬆症の進行や予防にどのように関係しているかにも注目します。

この事例を通して、利用者の身体状態や生活状況を整理しながら、骨粗鬆症の進行を防ぐために、どのような支援が適切かを判断する視点を養うことを目的とします。
あわせて、介護・福祉職として、根拠をもって支援内容を説明できることの重要性を意識しながら学習を進めていきます。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、ひきこもり状態のEさんが父親の死去をきっかけに、どのような過程で生活に困るようになったのかを整理します。
あわせて、家主から弟への連絡によって問題が明らかになった点にも注目します。
また、複数の相談機関の中から、なぜ福祉事務所への相談が適切なのかを具体的に説明します。各機関の役割の違いを整理しながら、生活に困っている人を適切な支援につなぐ判断力を養うことが目的です。



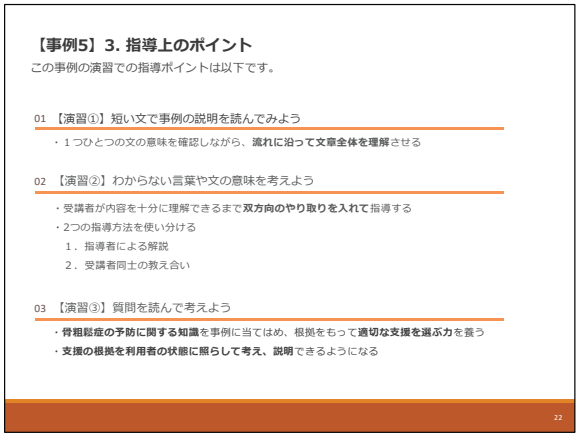
この演習では、骨粗鬆症のある高齢者の日常生活と支援のあり方に着目します。
診断や治療、リハビリ、生活の様子といった情報を整理しながら、骨粗鬆症の進行を防ぐためにどのような支援が必要かを考えることを目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、健康診断で骨粗鬆症と診断された高齢女性が、治療やリハビリを受けながら生活している状況が示されています。
身体の状態や日常生活の様子を読み取り、骨粗鬆症のケースを多角的に捉え、適切な支援につなげる思考力を養うことを目指します。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い
演習③では、骨粗鬆症の診断から治療、リハビリ、日常生活の様子までを整理します。
その上で、骨粗鬆症の進行を防ぐために、どのような支援が適切かを事例に即して考えさせます。
最後に、知識を事例に当てはめて判断することで、介護・福祉職として根拠をもって支援を選ぶ力を養うことを目指します。



事例5の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。



事例5の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 Fさんの骨粗鬆症診断と治療
最初の段落では、Fさんが健康診断で骨粗鬆症と診断され、内服治療が開始されたことが説明されています。
この段落から、Fさんに骨が弱くなく病気があり、医師の指示のもとで治療を受けていることが分かります。

02 Fさんの現在の状態
次の段落では、Fさんの現在の状態について述べられています。
歩行の様子や日常生活の過ごし方、リハビリテーションの内容、食事の状況などが示されており、骨粗鬆症と付き合いながら生活している様子が読み取れます。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、事例説明に書かれている情報をもとに、Fさんの骨粗鬆症の診断、治療内容、リハビリの状況、日常生活の様子などを整理して理解することを目的としています
また、高齢者の骨粗鬆症予防に関する基礎的な知識を、事例に当てはめて考える力を養います。
特に、日光浴によるビタミンDの生成とカルシウム吸収の関係など、必要に応じて補足説明を行いながら、なぜその支援が適切なのかを理解できるよう指導します。
単なる知識の確認にとどまらず、「Fさんの状態を踏まえると、なぜこの支援がよいのか」を自分の言葉で説明できるようになることを目指します。

【事例６　指導ガイド】

介護老人保健施設入所中の高齢男性の食事中のトラブル



23

事例6の指導者向けガイドを説明します。
今回の事例は、介護老人保健施設に入所している高齢男性が、食事中にトラブルを起こした場面を扱っています。
Gさんは、普段から食べ物をかきこむように食べる様子があり、最近ではむせることが増えているという特徴があります。
食事中に窒息の危険が生じた可能性が示されている点が、この事例の重要なポイントです。

この事例では、食事の様子やしぐさ、表情といった情報から、何が起きているのかを正しく読み取る力が求められます。
また、高齢者の食事場面で起こりやすいトラブルについて理解し、症状から適切に判断する視点を養うことも重要です。
この事例を通して、利用者の状態を丁寧に観察し、食事介助や見守りの場面で注意すべき点を整理するとともに、介護・福祉職として安全に配慮した対応ができるようになることを目指して学習を進めていきます。

04 演習③の狙い
演習③では、Gさんの入所先、普段の食事の様子、最近の変化、食事中のしぐさや表情などを整理します。
その上で、食事中に何が起きていたのかを判断し、選択肢の中から最も適切なものを選びます。
知識を覚えるだけでなく、事例に当てはめて考えることで、症状から起こっている事態を正しく判断する実践的な力を養います。

【事例6】1. 演習の狙い

この演習では、下記の内容を狙いとしています。

01 事例説明の理解

高齢者の食事介助において起こりうる問題を理解し、適切に対処する力を身につけること

02 演習①の狙い

事例説明に書かれている**内容を正確に読み取れているかを確認**すること

03 演習②の狙い

抜き出された語句や表現について、**一つひとつ意味を確認して理解**につなげること

04 演習③の狙い

症状から起こっている事態を正しく判断し、**知識を実際の事例に適用して考える力**を養うこと

この演習では、高齢者の食事中に起こりうるトラブルと、その背景となる要因に着目します。
普段の食事の様子や身体の状態を整理しながら、食事中に起きている問題を正しく理解し、適切な対応を考えることを目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、介護老人保健施設に入所している高齢男性が、食事中に苦しそうな様子を見せた場面が示されています。
普段の食べ方や、むせの有無、義歯の使用状況などの情報から、何が起きているのかを読み取り、適切に対応する力を養うことを目指します。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

【事例6】2. 文章の流れの確認

事例説明は、大きく２つの要素で構成されています。
各要素の主な内容は以下の通りです。

01

Gさんの普段の食事の様子



介護老人保健施設に入所中。食べ物をかきこむように食べ、最近はむせることが多い。義歯は未使用で、普通食を摂取。

02

ある日の昼食時の出来事

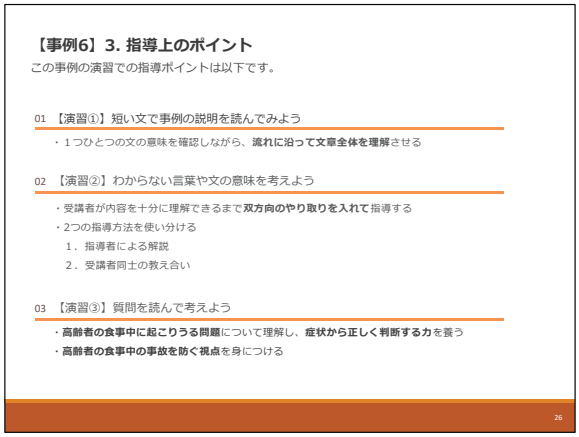


唐揚げを口に入れた後に喉をつかむしぐさをし、苦しそうな表情をした。

事例6の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 Gさんの普段の食事の様子
最初の段落では、Gさんが介護老人保健施設に入所して生活していることが説明されています。
普段から食べ物をかきこむように食べる様子があり、最近はむせることが多くなっている点が示されています。
また、義歯を使用していないことや、普通食を摂取していることから、食事中のリスクが高まっている状況が読み取れます。

02 ある日の昼食時の出来事
次の段落では、昼食時に起こった具体的な出来事が描かれています。
唐揚げを口に入れた直後に、喉をつかむようなしぐさをし、苦しそうな表情を見せた様子が示されています。
この場面から、食事中に急なトラブルが起きたことが分かります。



事例6の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。



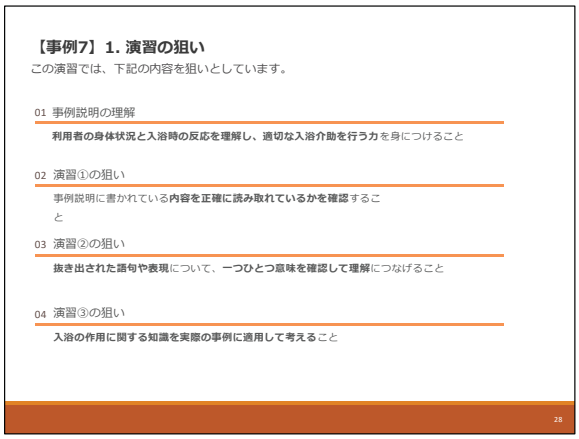
事例7の指導者向けガイドを説明します。
今回の事例は、身体的特徴のある男性が、浴槽への入浴時の感覚を訴える場面を扱っています。
Hさんは、身長170cm、体重120kgという特徴があります。

この事例では、対象者の身体的特徴と話している内容を関連づけて捉える力が求められます。
また、高齢者や肥満の利用者の入浴介助においては、身体的な特性を考慮した対応が求められます。
身体への負担軽減や安全の確保など、利用者の状態に即した適切な介助方法を考えられるようにすることが重要です。

また、高齢者の食事場面で起こりやすいトラブルについて理解し、症状から適切に判断する視点を養うことを目指して学習を進めていきます。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Gさんの入所施設や食事の様子、昼食時の出来事など、事例の重要な情報を整理しながら正しく読み取る力を養います。
また、高齢者の食事中に起こりやすいトラブルについて理解し、事例の症状から窒息の可能性を判断できるよう、必要な知識を補足しながら指導します。
食事介助の場面では、利用者の身体状態や食べ方の特徴を踏まえた観察と対応が重要であることを確認し、事故を防ぐ視点を身につけることを目指します。



この演習では、入浴時に利用者が感じる変化と、その理由に着目します。
Hさんの体格や入浴中の発言を手がかりに、入浴の作用を正しく理解し、介護場面での支援につなげることを目的としています。

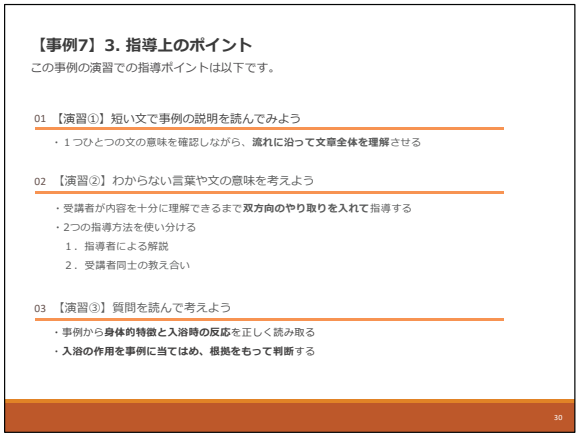
01 事例説明の理解
この事例では、体重が重い男性が、入浴中に「体が軽く感じて楽になる」と話している場面が示されています。
身体的特徴や入浴時の感覚、他の体調の訴えがない点などから、入浴による身体への影響を整理して理解し、適切な入浴介助を行う力を養います。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い
演習③では、事例のHさんの体格、入浴時の発言、他の体調の訴えの有無などを整理します。
その上で、なぜ体が軽く感じるのかを入浴の作用と結びつけて考え、適切な選択肢を選ばせます。
知識を覚えるだけでなく、利用者の言葉や状態から根拠をもって考え、実践的に判断する力を養うことを目指します。

28



事例7の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。

30



事例7の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 Hさんの身体的特徴
最初は、Hさんの年齢・性別・身長・体重といった基本的な身体情報が示されています。
肥満体型のため、日常生活や動作時に身体への負担がかかりやすい状況であることが読み取れます。

02 入浴時の感覚と体調
次に、Hさんが入浴中に「体が軽く感じて楽になる」と話している様子が示されています。
また、胸が苦しいなどの他の体調の訴えはなく、入浴そのものが苦痛になっていないことも分かります。

事例全体を通して、肥満体型のHさんが入浴によって感じる身体的な変化が理解できます。

29

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
Hさんの身体的特徴や入浴時の発言、ほかに体調の訴えがない点など、事例に書かれている重要な情報を整理しながら理解することを目的としています。
また、最後の選択問題では、入浴の作用に関する知識を事例に当てはめて考えます。
Hさんが「体が軽く感じて楽になる」と話している理由として、浮力の作用が考えられることを導き出せるよう、必要に応じて補足説明を行います。
利用者の身体的な特性を踏まえ、どのような点に配慮して入浴介助を行うべきかを考えられるようにしていきます。

30

【事例8　指導ガイド】

砂場遊びが好きな広汎性発達障害の幼稚園児の対応



31

事例8の指導者向けガイドを説明します。
今回の事例は、広汎性発達障害のある幼稚園児Jさんが、環境の変化をきっかけにパニックを起こした場面を扱っています。
Jさんは、砂場で砂だんごを作り、きれいに並べるという同じ遊びを毎日続けることを好む特性があります。
そのため、いつもと違う状況が突然起こると、強い不安を感じやすい点が、この事例の重要なポイントです。

この事例では、子どもの行動や反応の背景にある特性を理解し、なぜパニックが起きたのかを状況と結びつけて整理する視点が求められます。
あわせて、環境の変化に対して、どのような事前の説明や配慮が必要だったのかを考えていきます。
この事例を通して、子どもの特性に配慮した関わり方や支援のしかたを学んでいきます。

31

04 演習③の狙い
演習③では、Jさんの障害特性、遊びの特徴、砂場の環境変化、そしてパニック時の反応を整理します。
そのうえで、どのような対応が適切だったのかを選択肢の中から考えます。
知識を覚えるだけでなく、事例に当てはめて考えることで、発達障害のある子どもに対して、見通しをもたせる説明や配慮の重要性を理解し、実際の支援場面で活かせる判断力を養うことを目指します。

32

【事例8】1. 演習の狙い

この演習では、下記の内容を狙いとしています。

01 事例説明の理解

障害特性や普段の様子から、**なぜ強い不安が生じたのかを理解**すること

02 演習①の狙い

事例説明に書かれている**内容を正確に読み取れているかを確認**すること

03 演習②の狙い

抜き出された語句や表現について、**一つひとつ意味を確認して理解**につなげること

04 演習③の狙い

発達障害児の**特性を理解し、その子どもに合わせた支援を考える力**を身につけること

32

この演習では、広汎性発達障害のある子どもが、環境の変化によって不安やパニックを起こす場面に着目します。
普段の遊びの様子や行動の変化を整理しながら、子どもの特性を理解し、適切な関わり方や対応を考えることを目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、砂場遊びが好きな広汎性発達障害の幼稚園児が、いつもと違う状況に直面したことでパニックになった場面が示されています。
Jさんの障害特性、毎日の遊びの様子、砂場の変化、そしてそのときの反応を読み取り、なぜ強い不安が生じたのかを理解する力を養うことを目指します。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

32

【事例8】2. 文章の流れの確認

事例説明は、大きく３つの要素で構成されています。
各要素の主な内容は以下の通りです。

01
Jさんの特性と遊び



広汎性発達障害がある幼稚園児のJさんは、砂場での砂だんご作りが好き。毎日一人で没頭している。

02
ある日の出来事



園児が帰ったあと、担任が台風に備え砂場にシートをかけた。翌朝、Jさんが砂場に行くと、シートがかかっていた。

03
Jさんの反応



Jさんはパニックになり、その場で泣き続け、なかなか落ち着かなかった。

33

事例8の事例説明は、大きく三つの要素で構成されています。

01 Jさんの特性と遊び
最初の部分では、Jさんに広汎性発達障害があることと、砂場で砂だんごを作り、きれいに並べる遊びを毎日続けている様子が説明されています。
同じ遊びをくり返すことがJさんの日課になっている点が、この事例の重要なポイントです。

02 ある日の出来事
次に、園児が帰宅したあと、担任が台風に備えて砂場に青いシートをかけたことが説明されています。
この対応によって、翌朝、砂場の様子がいつもと違う状態になっていました。

03 Jさんの反応
最後の部分では、登園後に砂場へ行ったJさんが、青いシートを見てパニックになり、その場で泣き続け、なかなか落ち着けなかった様子が描かれています。
この反応から、Jさんが環境の変化に強い不安を感じやすい特性をもっていることが読み取れます。

33

【事例8】3. 指導上のポイント

この事例の演習での指導ポイントは以下です。

01 【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう

・１つひとつの文の意味を確認しながら、**流れに沿って文章全体を理解**させる

02 【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう

・受講者が内容を十分に理解できるまで**双方向のやり取りを入れて**指導する
・2つの指導方法を使い分ける
　1．指導者による解説
　2．受講者同士の教え合い

03 【演習③】質問を読んで考えよう

・事例から、Jさんの特性と環境の変化を整理し、**何が混乱の原因になったのか**を読み取る
・発達障害児の**特性を踏まえ、事前に伝えることや見通しを持たせる対応の大切さ**を理解する

34

事例8の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三～四人程度を目安とします。

【事例9　指導ガイド】

高齢男性の激しい胸痛



35

事例9の指導者向けガイドを説明します。
今回の事例は、長年にわたり高血圧と高コレステロール血症を指摘されていた高齢男性が、急な強い胸痛を起こした場面を扱っています。
Kさんは、これまでも階段を上るときに胸の痛みを感じることがありましたが、休むと症状が軽くなっていました。
しかし今回は、安静にしていても胸の強い痛みが続き、冷や汗を伴っているという点が特徴です。

この事例では、これまでの症状の経過と、今回の急な変化を整理しながら、どのような状態が考えられるのかを判断する視点が重要となります。
また、命に関わる可能性のある症状について、早急な対応が必要であることを理解することも大切なポイントです。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Jさんの障害特性や日課となっている遊び、砂場の変化、パニックに至った様子など、事例の重要な情報を整理して理解することを目的とします。
どの出来事がJさんの混乱につながったのかを、文章から正確に読み取れるよう指導します。
また、発達障害のある子どもへの適切な対応について考えます。
いつもと違う状況を急に受け入れることが難しい特性に着目し、事前に具体的に伝えることの大切さを理解できるよう補足説明を行います。
あわせて、発達障害児の支援では、見通しを持たせることが安心につながる点を確認し、言葉や視覚的な手がかりを使った支援の視点を身につけることを目指します。

【事例9】1. 演習の狙い

この演習では、下記の内容を狙いとしています。

01 事例説明の理解

高齢者の心疾患のリスクを理解し、**緊急性の判断と対応を考える力**を身につけること

02 演習①の狙い

事例説明に書かれている**内容を正確に読み取れているかを確認**するこ
と

03 演習②の狙い

抜き出された語句や表現について、**一つひとつ意味を確認して理解**につなげること

04 演習③の狙い

症状の特徴や経過から、どの疾患が最も考えられるかを判断すること

36

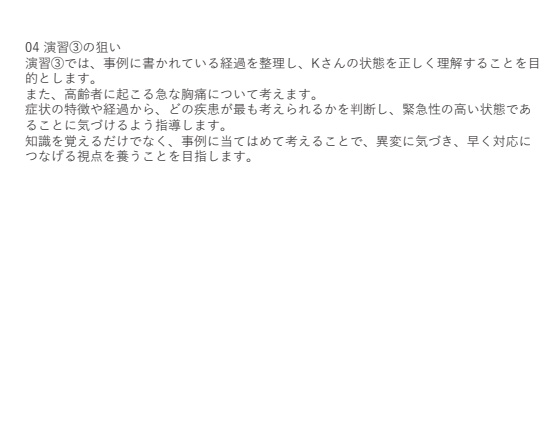
この演習では、高血圧や高コレステロール血症がある高齢者に、胸の痛みが起こった場面に着目します。
これまでの症状の経過と今朝の急な変化を整理しながら、心筋梗塞などの緊急性の高い状態を疑う視点と、早く対応につなぐ考え方を学ぶことを目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、砂場遊びが好きな広汎性発達障害の幼稚園児が、いつもと違う状況に直面したことでパニックになった場面が示されています。
Jさんの障害特性、毎日の遊びの様子、砂場の変化、そしてそのときの反応を読み取り、なぜ強い不安が生じたのかを理解する力を養うことを目指します。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い
演習③では、事例に書かれている経過を整理し、Kさんの状態を正しく理解することを目的とします。
また、高齢者に起こる急な胸痛について考えます。
症状の特徴や経過から、どの疾患が最も考えられるかを判断し、緊急性の高い状態であることに気づけるよう指導します。
知識を覚えるだけでなく、事例に当てはめて考えることで、異変に気づき、早く対応につなげる視点を養うことを目指します。



事例9の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。



事例9の事例説明は、大きく三つの要素で構成されています。

01 Kさんの既往歴
最初の部分では、Kさんが40歳ごろから高血圧と高コレステロール血症を指摘されてきたことが説明されています。
これらは心臓の病気につながりやすい生活習慣病であり、Kさんが以前から心疾患のリスクを抱えていたことが分かります。

02 最近の症状
次に、階段を上るときに胸の痛みが出るようになり、しばらく休むと楽になっていたという症状が示されています。
また、喉の違和感や嚥下痛はないと書かれています。
このことから、体を動かしたときに起こる胸痛が、以前から見られていたことが読み取れます。

03 今朝の急変
最後の部分では、朝食後に冷や汗を伴う強い胸の痛みが起こり、30分たっても改善しなかったため、救急車を呼んだ経過が述べられています。
この状況から、これまでの症状とは異なる、緊急性の高い状態に変化したことが理解できます。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Kさんの既往歴、最近の胸痛）、そして今朝の急変という流れを、事例から正しく読み取れるように指導します。
また、各疾患の特徴を整理したうえで、Kさんのリスク因子と「安静時に強い胸痛が続く」という所見から、心筋梗塞の可能性が最も高いことに気づけるよう補足します。
あわせて、高齢者の急性胸痛では重い病気をまず疑い、速やかな対応が求められることを理解します。

【事例１０　指導ガイド】

アルツハイマー型認知症の女性の夫への妄想



39

事例10の指導者向けガイドを説明します。
今回の事例は、アルツハイマー型認知症と診断された高齢女性Lさんが、夫の外出に妄想的な訴えを示す場面を扱っています。
Lさんは訪問介護を利用し、夫の介護を受けながら二人で生活していますが、夫が外出しようとすると「外で女性に会っている」と思い込み、興奮することが増えている点が特徴です。
根拠のない思い込みから感情が高ぶる様子が見られることが、この事例の重要なポイントです。

この事例では、Lさんの言動や夫の相談内容から、どのような症状が起きているのかを正しく読み取る力が求められます。
また、認知症の行動・心理症状（BPSD）について理解し、症状の特徴から適切に判断する視点を養うことも重要です。
この事例を通して、本人の症状だけでなく、介護する家族の困りごとにも目を向け、介護・福祉職としてどのように受け止め、どのように対応することが大切かを考えられるようになることを目指して学習を進めていきます。

39

受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い
演習③では、Lさんの言動や夫の相談内容から、どのような認知症の症状が表れているのかを考えます。
その上で、認知症の行動・心理症状（BPSD）の知識と結びつけ、最も当てはまる症状を選ばせます。
単に用語を覚えるのではなく、利用者の言葉や行動を根拠にして考え、認知症の特性を踏まえた適切な対応を判断できる力を養うことを目指します。

40

【事例10】1. 演習の狙い

この演習では、下記の内容を狙いとしています。

01 事例説明の理解

アルツハイマー型認知症の中核症状とBPSDを理解し、適切な対応を考える力を身につけること

02 演習①の狙い

事例説明に書かれている**内容を正確に読み取れているかを確認**すること

03 演習②の狙い

抜き出された語句や表現について、**一つひとつ意味を確認して理解**につなげること

04 演習③の狙い

利用者の言葉や行動を根拠に、認知症の特性を踏まえた適切な対応を判断できる力を養うこと

40

この演習では、アルツハイマー型認知症のある利用者に見られる言動と、その背景にある症状に着目します。
Lさんの生活状況や夫からの相談内容を手がかりに、認知症の行動・心理症状（BPSD）を正しく理解し、介護現場での適切な対応につなげることを目的としています。

01 事例説明の理解
アルツハイマー型認知症と診断された高齢女性が、夫の外出をきっかけに強い疑いの気持ちを示す場面が描かれています。
診断された時期、利用しているサービス、夫と二人で暮らしている生活状況、そして夫が困っている具体的な言動を整理し、アルツハイマー型認知症の中核症状とBPSDを理解し、適切な対応を考える力を養います。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、

40

【事例10】2. 文章の流れの確認

事例説明は、大きく２つの要素で構成されています。
各要素の主な内容は以下の通りです。

01

Lさんの状況



Lさんは78歳の女性で、要介護1。3年前にアルツハイマー型認知症と診断された。現在は訪問介護を利用しながら、夫の介護を受け二人暮らしをしている。

02

夫の相談内容



訪問介護員が訪問した際、夫から相談があった。相談内容は、夫が外出しようとすると、Lさんが「外で女性に会っている」と言って興奮すること増えており、困っていること。

41

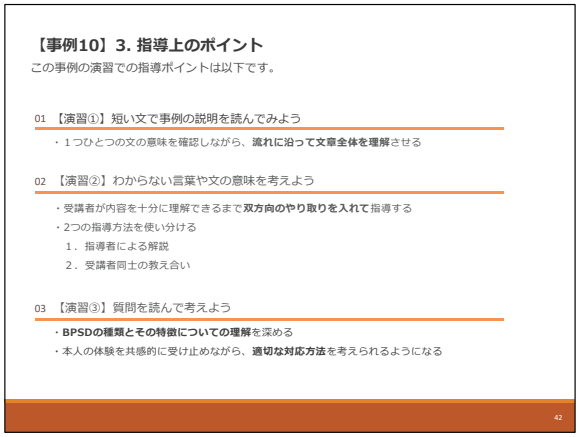
事例10の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 Lさんの状況
最初の部分では、Lさんは78歳の女性で要介護度1であること、アルツハイマー型認知症と３年前に診断されたことが示されています。
また、訪問介護を利用しながら、夫と二人で暮らし、日常的に夫の介護を受けている生活状況が分かります。

02 夫の相談内容
次に、訪問介護員が訪問した際に、夫から相談された内容が述べられています。
夫が外出しようとすると、Lさんが「外で女性に会っている」と言って興奮する様子が見られ、そのような出来事が増えて困っていることが示されています。

事例全体を通して、アルツハイマー型認知症のLさんに見られる嫉妬妄想の症状と、それに伴う家族の負担や困惑が理解できます。

41



事例10の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。

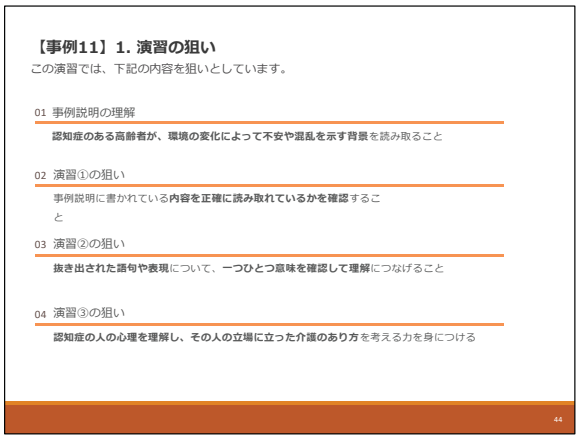


事例11の指導者向けガイドを説明します。
今回の事例は、アルツハイマー型認知症のある高齢女性が、認知症高齢者グループホームに入居した後、環境の変化をきっかけに不安や興奮を示した場面を扱っています。
入居から日が浅い中で、生活環境が大きく変わったことにより、本人の不安が強まっている点が、この事例の重要なポイントです。

この事例では、本人の言動だけでなく、その背景にある不安や思いをどのように理解するかという視点が求められます。
また、認知症の行動・心理症状として現れる訴えをどのように受け止め、介護の検討の場面で何を優先して対応すべきかを考えることも重要です。
この事例を通して、認知症のある人の立場に立って状況を理解し、安心感を与えられる関わり方や支援の考え方を学んでいきます。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
まずはLさんの年齢や介護度、認知症の診断時期、生活状況、そして夫からの相談内容など、事例に書かれている重要な情報を整理しながら理解します。
また、認知症にみられる行動・心理症状（BPSD）に関する知識を、事例に当てはめて考えます
。Lさんが夫の外出に対して根拠のない疑いを持ち、興奮している様子から、嫉妬妄想が考えられることに気づけるよう、必要に応じて補足説明を行います。
認知症の人の言動の背景にある不安や混乱を理解し、本人の気持ちを受け止めながら、どのような関わりや対応が求められるかを考えられるようにしていきます。



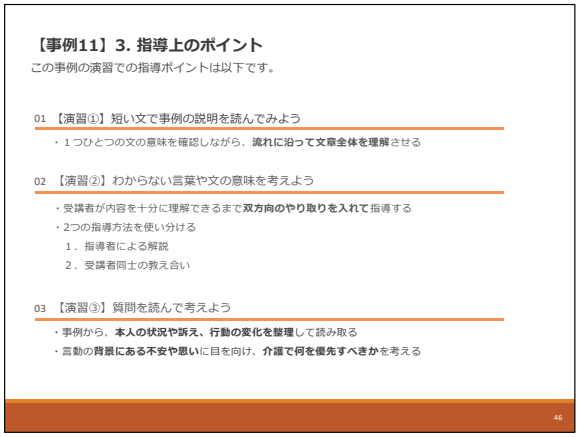
この演習では、アルツハイマー型認知症のある高齢者が、環境の変化や不安によって興奮や訴えを示す場面に着目します。
生活状況や行動を整理しながら、本人の気持ちを理解し、安心につながる関わり方や対応を考えることを目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、アルツハイマー型認知症のある女性が、認知症高齢者グループホームに入居したあと、夕食後に不安や混乱を示した場面が描かれています。
Mさんの生活状況、居室での様子、夕食後の言動に注目して読み取り、なぜ強い不安や興奮が起こったのかを理解する力を養うことを目指します。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い
演習③では、Mさんの基本的な状況、居室での様子、夕食後に起こった出来事など、事例に書かれている重要な情報を整理します。
そのうえで、Mさんの訴えや行動の背景にある気持ちを考え、介護を検討する際に何を優先すべきかを選択肢の中から考えます。
知識を覚えるだけでなく、事例に当てはめて考えることで、アルツハイマー型認知症の人の不安や混乱を理解し、本人の立場に立った安心につながる対応を実践的に判断できる力を養うことを目指します。



事例11の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。



事例11の事例説明は、大きく三つの要素で構成されています。

01 Mさんの概要
前半では、Mさんの年齢、介護度、アルツハイマー型認知症の診断、グループホームへの入居時期、向精神薬の処方状況などが説明されています。
3日前にグループホームに入居し、生活環境が大きく変化した直後であることが読み取れます。

02 ある日の出来事
中盤では、グループホームの居室では穏やかに過ごしていた様子が簡潔に述べられています。

03 夕食後の出来事
後半では、夕食後に表情が険しくなり、「家に帰る」と強く訴え、大声を出したり他の利用者に声をかけたりした場面が描かれています。
事例全体を通して、アルツハイマー型認知症のMさんの環境の変化に対する不安や不適応が読み取れます。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

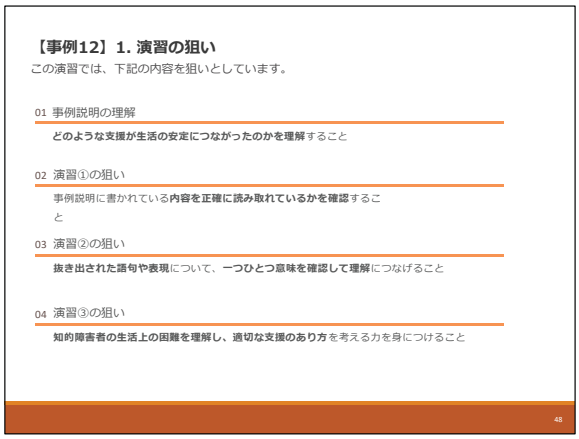
03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Mさんの年齢や認知症の状況、入居後の生活、夕食後に起こった出来事など、事例に書かれている重要な情報を整理して理解することを目的とします。
また、認知症ケアにおいて何を優先して考えるべきかを確認します。
Mさんの「家に帰りたい」という訴えに注目し、その言葉の背景にある不安や戸惑いに気づけるよう、必要に応じて補足説明を行います。
あわせて、認知症のある人への支援では、行動そのものだけでなく、その人の気持ちや体験を受け止めることが大切である点を確認します。
本人の立場に立って考え、安心感につながる関わり方を選ぶ視点を身につけることを目指します。



事例12の指導者向けガイドを説明します。
今回の事例は、療育手帳を所持する成人女性が、一人暮らしをしながら地域で生活する中で、金銭管理に困難を抱えていた場面を扱っています。
Dさんは、身の回りのことはほとんど自分でできる一方で、お金の計算や計画的にお金を使うことが苦手でした。
そのため、金銭管理の支援が必要な状態でした。

この事例では、本人の生活状況や困りごとを整理し、それに対してどのような支援が行われたのかを読み取ることが求められます。
また、この事例を通して、本人の力を活かしながら支援することの大切さを考えていきます。

04 演習③の狙い
演習③では、Dさんの生活状況、金銭管理の苦手さ、受けた具体的な支援、そして支援後の変化を整理します。
そのうえで、どの福祉サービスが事例に最も適しているかを選択肢の中から考えます。
知識を覚えるだけでなく、事例に当てはめて考えることで、知的障害のある人の生活上の困難を理解し、適切な支援を判断できる力を養うことを目指します。



この演習では、知的障害のある人が日常生活の中で直面する金銭管理の困難と、それに対する支援に着目します。
生活状況やお金の使い方の課題を整理しながら、本人の力を活かした支援のあり方を考えることを目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、療育手帳を所持する女性が、一人暮らしをしながら作業所に通い、金銭管理に困難を抱えていた場面が示されています。
生活の様子、困っていた点、受けた支援の内容とその結果を読み取り、どのような支援が生活の安定につながったのかを理解する力を養うことを目指します。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。



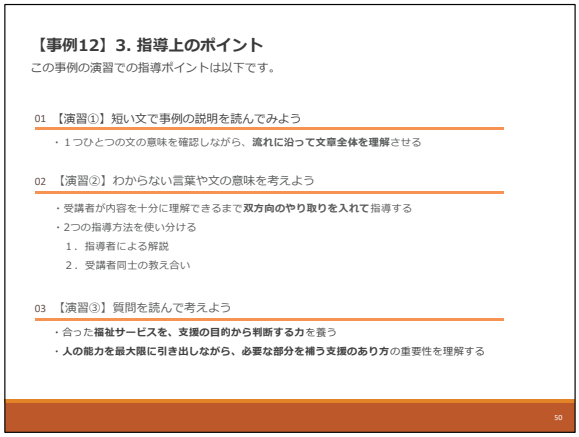
事例12の事例説明は、大きく三つの要素で構成されています。

01 Dさんの生活状況
前半では、Dさんは36歳女性で療育手帳を持っていること、一人暮らしをしながら作業所に通っている生活形態、身の回りのことは概ね自分でできている状況が説明されています。

02 金銭管理の困難
中盤では、Dさんがお金の計算や、計画的にお金を使うことが苦手である点が具体的に述べられています。
生活の中で金銭管理が課題となっていたことが、この事例の重要なポイントです。

03 支援の内容と効果
後半では、社会福祉協議会の生活支援員による具体的な支援内容と、その結果が示されています。
銀行での定期的な引き出しや小遣い帳の活用により、Dさんがお金を計画的に使えるようになった変化が描かれています。

事例全体を通して、知的障害のある人が適切な支援を受けることで、金銭管理の力を高め、より安定した自立生活につなげていく過程が理解できます。



事例12の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三～四人程度を目安とします。

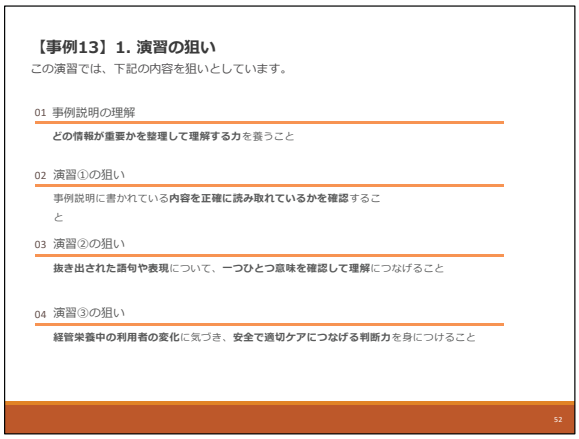


事例13の指導者向けガイドを説明します。
今回の事例は、介護老人福祉施設に入所している高齢女性が、胃ろうによる経管栄養を受けている場面を扱っています。
Eさんは脳梗塞の後遺症があり、介護福祉士によって経管栄養が行われています。
栄養剤の注入中に「お腹が張ってきた」と訴えたことが、この事例の重要なポイントです。

この事例では、経管栄養の実施状況や利用者の訴え、意識レベルや他の症状の有無といった情報を整理し、何が起きているのかを正しく読み取る力が求められます。
また、この事例を通して、経管栄養中の小さな変化に気づき、安全につなげるための判断力を身につけることを目指します。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Dさんの生活の様子や金銭管理の困難、受けた支援の内容とその結果について、事例の中から整理して理解することを目的とします。
また、障害者福祉サービスに関する知識を事例に当てはめて考えます。
Dさんが受けた支援の特徴から、Dさんへの支援は日常生活自立支援事業が該当することを判断できるよう、各制度の目的や役割を補足しながら説明します。
また、今回の金銭管理の支援のような知的障害者の地域生活支援では、すべてを代わりに行うのではなく、本人ができることを活かしながら必要な部分を支える視点が大切であることを確認します。



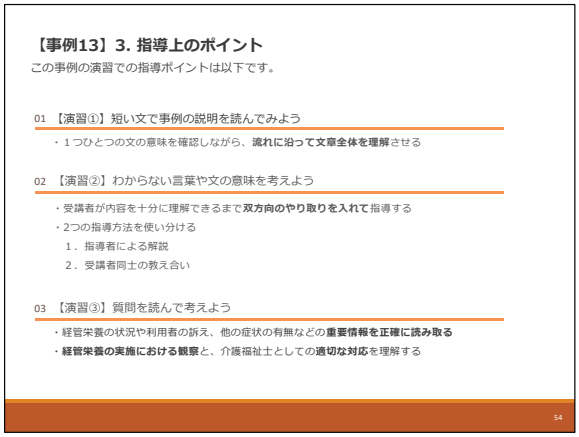
この演習では、経管栄養を受けている利用者に見られる体調の変化と、その対応に着目します。
利用者の訴えや身体状況を整理しながら、安全に経管栄養を行うために必要な観察と判断の視点を身につけることを目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、胃ろうによる経管栄養を受けている高齢女性が、栄養剤の注入中に腹部の張りを訴えた場面が示されています。
Eさんの基礎疾患、経管栄養の実施状況、訴えの内容、他の症状の有無を読み取り、重要な情報を整理して理解する力を養います。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い
演習③では、Eさんの状態、経管栄養中の様子、腹部の張りの訴え、意識レベルや随伴症状の有無を整理します。
そのうえで、介護福祉士が行うべき適切な対応を選択肢の中から考えます。
知識を覚えるだけでなく、事例に当てはめて考えることで、経管栄養中の変化に気づき、安全なケアにつなげる判断力を養うことを目指します。



事例13の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。



事例13の事例説明は、大きく三つの要素で構成されています。

01 Eさんの状況
前半では、Eさんの年齢や性別、介護老人福祉施設に入所していること、脳梗塞の後遺症があること、そして胃ろうによる経管栄養を行っている状況が説明されています。

02 ある日の経管栄養の実施
中盤では、ある日に行われた経管栄養の様子が述べられています。
半座位で栄養剤の注入を開始し、半分程度までは順調に注入されていたことが分かります。

03 Eさんの訴えと状態
後半では、注入途中にEさんが「お腹が張ってきた」と訴えた場面が描かれています。
一方で、意識レベルや顔色に変化はなく、腹痛や嘔気もみられなかったことが示されています。

事例全体を通して、胃ろうによる経管栄養中にみられた利用者の訴えと身体状況から、介護福祉士としてどのような点に着目し、どのように対応すべきかを考えるための情報が整理されています。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

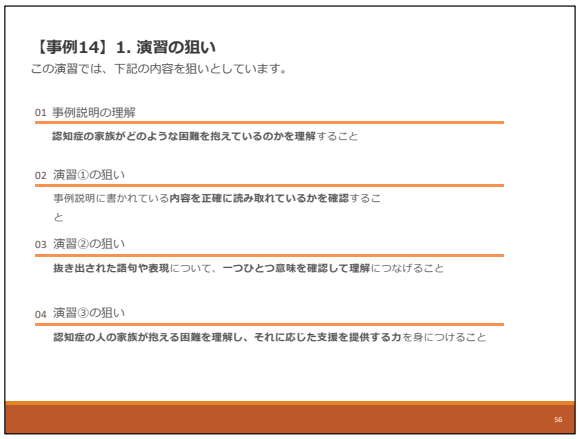
03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Eさんの基本的な状況や経管栄養の実施方法、注入中にみられた腹部の張りの訴えなどを、事例の中から整理して理解することを目的とします。
また、経管栄養中に起こりやすいトラブルへの対応について、事例をもとに考えます。
Eさんの状態や症状の有無を踏まえ、まず何を確認するべきか、どのような対応が適切かを判断できるよう、観察の視点や基本的な対応の考え方を補足しながら説明します。
経管栄養を行う場面では、利用者の変化を見逃さず、安全につなげる判断と対応が重要であることを確認していきます。



事例14の指導者向けガイドを説明します。
今回の事例は、若年性認知症のある母親と暮らす家族、特に高校生の娘が抱える悩みに焦点を当てた場面を扱っています。
Aさんは家族と一緒に生活することを希望し、在宅サービスを利用しながら暮らしていますが、その状況の中で、長女は不安や孤独を抱えていました。
家族が不安を一人で抱え込みやすい点が、この事例の重要なポイントです。

この事例では、認知症の本人だけでなく家族の言動や気持ちに目を向け、どのような困りごとや孤独感が生じているのかを整理して理解する視点が求められます。
あわせて、家族の思いを受け止め、同じ立場の人とつながる機会を紹介するなど、家族への支援のあり方について考えていきます。
この事例を通して、認知症の人を支える家族全体を視野に入れた関わり方や支援のしかたを学んでいきます。

04 演習③の狙い
演習③では、Aさんの状況、高校生の長女の様子、夫の相談内容といった事例の重要な情報を整理します。
そのうえで、悩みを抱える長女に対して、どのような支援が適切かを選択肢の中から考えます。
知識を覚えるだけでなく、事例に当てはめて考えることで、認知症の人の家族が抱える気持ちやニーズを理解し、実際の支援場面で活かせる判断力を養うことを目指します。



この演習では、若年性認知症のある人と暮らす家族が抱える悩みや負担に着目します。
本人の状況だけでなく、認知症の家族の抱える困難や思いを整理しながら、家族支援のあり方を考えることを目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、若年性認知症のある母親と暮らす高校生の娘が、家庭の状況に不安や孤独感を抱いている場面が示されています。
Aさんの病状や生活状況、長女の行動、そして夫からの相談内容を読み取り、認知症の家族がどのような困難を抱えているのかを理解する力を養うことを目指します。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。



事例14の事例説明は、大きく三つの要素で構成されています。

01 Aさんの状況
前半では、Aさんは48歳で要介護1、若年性認知症であることが述べられています。
長女と夫が同居しており、家族で一緒に過ごしたいという希望があり、小規模多機能型居宅介護を利用し始めたことが説明されています。在宅での生活を続けながら支援を受けている状況が、この事例の基礎となっています。

02 長女の様子
中盤では、Aさんのことを心配する長女が、部活動をあきらめ、学校が終わるとすぐに帰宅している様子が述べられています。母親を支えようとする一方で、自分の生活を制限している長女の負担が読み取れます。

03 夫からの相談内容
後半では、夫が介護福祉職に対して、長女が学校の先生に相談しても理解してもらえず、涙を流すことがあると話した内容が示されています。
この相談から、長女が孤立感や強い不安を抱えていることが分かります。

事例全体を通して、若年性認知症の母親を持つ高校生の娘が直面する困難と、理解者や支えを必要としている様子が理解できます。

【事例14】3. 指導上のポイント

この事例の演習での指導ポイントは以下です。

01 【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう

・１つひとつの文の意味を確認しながら、**流れに沿って文章全体を理解**させる

02 【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう

・受講者が内容を十分に理解できるまで**双方向のやり取りを入れて**指導する
・2つの指導方法を使い分ける
　１．指導者による解説
　２．受講者同士の教え合い

03 【演習③】質問を読んで考えよう

・事例から、認知症の**家族が抱える悩みや負担**を読み取る
・認知症ケアにおける**家族の立場や思いに寄り添った関わり方と支援**の重要性を理解する

58

事例14の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三～四人程度を目安とします。

【事例１５　指導ガイド】

入浴動作に困難を感じ始めた脳梗塞後遺症の男性への支援



59

事例15の指導者向けガイドを説明します。
今回の事例は、脳梗塞の後遺症による左片麻痺がある男性が、自宅での入浴動作に困難を感じ始めた場面を扱っています。
Bさんは、妻の介助を受けながら毎日自宅で入浴してきましたが、最近になって浴槽から立ち上がる動作がつらくなってきたと相談しています。
これまで続けてきた生活を大切にしながら、どのような支援が適切かを考えることが、この事例の重要なポイントです。

この事例では、利用者の心身の状態や生活習慣、本人の希望を整理し、困りごとの背景を正しく読み取る力が求められます。
また、本人の力を活かしつつ、日常動作を続けていくために、どのようなサービスや支援がが有効かを判断する視点を養うことを目指します。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Aさんの状況や家族の様子、夫からの相談内容など、事例に書かれている重要な情報を整理して理解することを目的とします。
文章の中から、誰がどのような悩みを抱えているのかを正確に読み取れるようにします。
また、認知症の人を支える家族への適切な支援について考えます。
事例の長女の悩みや孤立感に着目し、どのような支援が気持ちの支えにつながるのかを、事例に基づいて判断できるよう補足説明を行います。
あわせて、認知症ケアでは、本人だけでなく家族も支援の対象であることを確認し、家族の立場や思いに寄り添った関わり方の重要性を理解することを目指します。

【事例15】1. 演習の狙い

この演習では、下記の内容を狙いとしています。

01 事例説明の理解

どの日常生活動作に負担が生じているのかを整理して理解する力を養うこと

02 演習①の狙い

事例説明に書かれている**内容を正確に読み取れているかを確認**すること

03 演習②の狙い

抜き出された語句や表現について、**一つひとつ意味を確認して理解**につなげること

04 演習③の狙い

個別性の高い効果的な支援方法を判断する力を身につけること

60

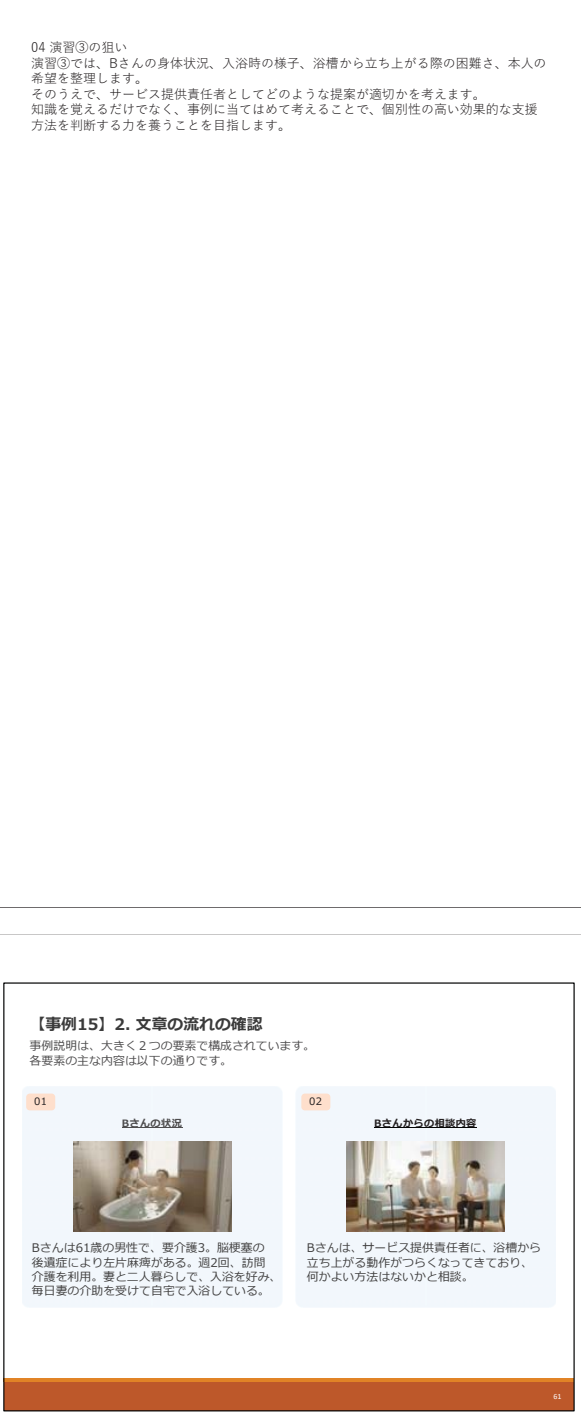
この演習では、脳梗塞の後遺症がある利用者の日常生活動作の変化と、その支援方法に着目します。
利用者の身体状況や生活の様子、本人の訴えを整理しながら、安全に生活を続けるために必要な支援の視点を身につけることを目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、脳梗塞による左片麻痺がある男性が、自宅での入浴動作に困難を感じ始めた場面が示されています。
Bさんの身体状況、入浴の様子、家族による介助の状況、本人の相談内容を読み取り、どの動作に負担が生じているのかを整理して理解する力を養います。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い
演習③では、Bさんの身体状況、入浴時の様子、浴槽から立ち上がる際の困難さ、本人の希望を整理します。
そのうえで、サービス提供責任者としてどのような提案が適切かを考えます。
知識を覚えるだけでなく、事例に当てはめて考えることで、個別性の高い効果的な支援方法を判断する力を養うことを目指します。



事例15の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。

事例15の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 Bさんの状況
前半では、Bさんの年齢・性別・要介護度、脳梗塞による左片麻痺という後遺症、利用している訪問介護サービス、妻と二人暮らしの生活状況が説明されています。
また、自宅での入浴を好み、妻の介助を受けながら毎日入浴していることも示されています。

02 Bさんからの相談内容
後半では、Bさんがサービス提供責任者に対して、浴槽から立ち上がる動作がつらくなってきたことを相談し、何かよい方法はないかと尋ねている場面が描かれています。

事例全体を通して、脳梗塞後遺症による身体機能の低下により、これまで続けてきた入浴動作に困難が生じてきたBさんの状況と、生活を続けるための支援の必要性が理解できます。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Bさんの基本的な状況や入浴の様子、浴槽から立ち上がることがつらくなってきたという相談内容を、事例の中から整理して理解することを目的とします。
また、Bさんの身体状況や生活の希望を踏まえ、どのような支援や工夫が考えられるかを、事例をもとに考えます。
事例の入浴動作の困難さに対しては、入浴補助用具の活用が最も有効であることを導き出せるよう、必要な知識を補足説明します。
利用者一人ひとりの状態や変化に合わせて、新たなニーズをくみ取り、適切な支援やサービスを選ぶ視点が大切です。

【事例１６　指導ガイド】

難聴のある高齢女性利用者とのコミュニケーション



63

事例16の指導者向けガイドを説明します。

今回の事例は、軽度の難聴がある高齢女性が、マスクを着用している介護福祉職とやり取りをする場面を扱っています。
Cさんは、孫から送られてきた絵をうれしそうに見せながら話をしており、D介護福祉職はその気持ちに寄り添う対応を行っています。
この事例では、言葉が聞こえにくい上に、口元や表情が見えにくい状況下で、どのように共感を示し、気持ちを受け止めるコミュニケーションをするかを考えることが重要なポイントです。

この事例では、利用者の聴覚の状態や状況を整理し、言語的なやり取りが難しい場面での適切な関わり方を読み取る力が求められます。
また、言葉だけに頼らず、表情やうなずきなどの非言語コミュニケーションを活用し、利用者に安心感や共感を伝えるための支援の視点を養うことを目指します。

04 演習③の狙い
演習③では、Cさんの聴覚の特性と、マスク着用という環境条件を踏まえたうえで、D介護福祉職の対応を振り返ります。
そのうえで、どのようなコミュニケーション方法が最も適切であったのかを選択肢の中から考えます。
知識を覚えるだけでなく、事例に当てはめて考えることで、利用者の特性や状況に応じて、言語的・非言語的な手段を使い分ける重要性を理解し、実際の支援場面で活かせる判断力を養うことを目指します。

【事例16】1. 演習の狙い

この演習では、下記の内容を狙いとしています。

01 事例説明の理解

状況を整理し、**コミュニケーションが難しくなりやすい要因を理解する力**を養うこと

02 演習①の狙い

事例説明に書かれている**内容を正確に読み取れているかを確認**すること

03 演習②の狙い

抜き出された語句や表現について、**一つひとつ意味を確認して理解**につなげること

04 演習③の狙い

利用者の特性や状況に応じて、言語的・非言語的な手段を使い分ける重要性を身につけること

この演習では、感覚機能に低下がある利用者とのコミュニケーションに着目します。
利用者の身体状況や周囲の環境、やり取りの場面を整理しながら、状況に応じた適切な関わり方を考えることを目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、介護老人保健施設に入所している軽度の難聴がある高齢女性が、職員との会話を楽しむ場面が示されています。
Cさんの年齢や要介護度、聴覚の状態、施設内の感染症対策として職員がマスクを着用している状況、そしてD介護福祉職とのやり取りを読み取り、コミュニケーションが難しくなりやすい要因を整理して理解する力を養います。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

【事例16】2. 文章の流れの確認

事例説明は、大きく３つの要素で構成されています。
各要素の主な内容は以下の通りです。

01	02	03
Cさんの状況	**施設の状況**	**ある日の出来事**
		
Cさんは85歳の女性で、要介護3であり、介護老人保健施設に入所している。軽度の難聴がある。	施設では、数日前から職員は感染症対策でマスク着用。	D介護福祉職が居室を訪れると、Cさんは孫の絵をうれしそうに見せた。D介護福祉職は、非言語コミュニケーションで共感を示した。

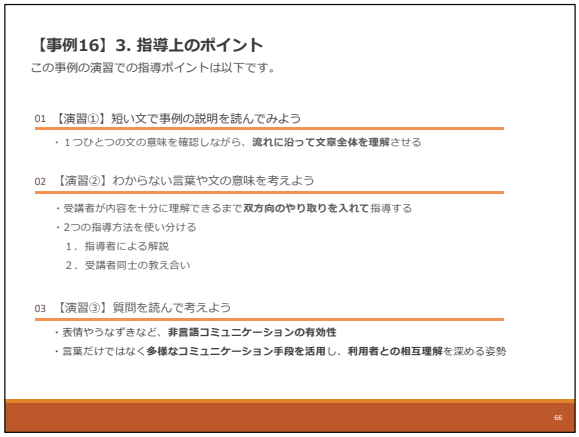
事例16の事例説明は、大きく三つの要素で構成されています。

01 Cさんの状況
前半では、Cさんが85歳の女性で要介護3であること、介護老人保健施設に入所していること、軽度の難聴があることが説明されています。

02 施設の状況
次に、感染症対策として、職員が日常的にマスクを着用して勤務しているという施設の状況が示されています。
このことにより、言葉が聞き取りにくくなるなど、コミュニケーションに配慮が必要な環境であることが分かります。

03 ある日の出来事
後半では、D介護福祉職がCさんの居室を訪問した際、Cさんが孫から届いた絵をうれしそうに見せた場面が描かれています。
D介護福祉職は、Cさんの気持ちに寄り添うため、非言語コミュニケーションを用いて共感を示しました。

事例全体を通して、軽度の難聴がある利用者に対し、環境条件を踏まえながら、非言語的手段のコミュニケーションを用いることの重要性が理解できます。



事例16の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。



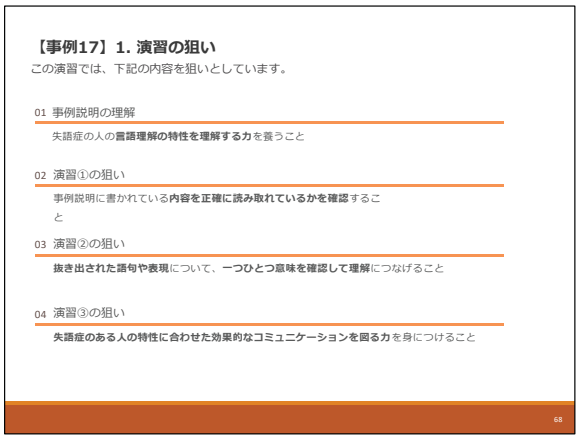
事例17の指導者向けガイドを説明します。

今回の事例は、軽度の難聴がある高齢女性が、マスクを着用している介護福祉職とやり取りをする場面を扱っています。
Cさんは、孫から送られてきた絵をうれしそうに見せながら話をしており、D介護福祉職はその気持ちに寄り添う対応を行っています。
この事例では、言葉が聞こえにくい上に、口元や表情が見えにくい状況下で、どのように共感を示し、気持ちを受け止めるコミュニケーションをするかを考えることが重要なポイントです。

この事例では、利用者の聴覚の状態や状況を整理し、言語的なやり取りが難しい場面での適切な関わり方を読み取る力が求められます。
また、言葉だけに頼らず、表情やうなずきなどの非言語コミュニケーションを活用し、利用者に安心感や共感を伝えるための支援の視点を養うことを目指します。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Cさんの基本的な状況や施設の環境、D介護福祉職とのやり取りについて、事例の中から整理して理解することを目的とします。
Cさんが軽度の難聴があることや、職員がマスクを着用している状況を踏まえ、どのようなコミュニケーションが適切かを考えます。
事例で示された場面を通して、言葉だけではない、表情やうなずきといった非言語的なコミュニケーションの有効性を理解できるよう補足説明します。
利用者一人ひとりの状態や状況に応じて、多様なコミュニケーション手段を活用し、伝え方を工夫する視点が重要であることを確認していきます。



この演習では、失語症のある利用者とのコミュニケーションに着目します。
利用者の言語の理解の特徴や、やり取りの場面を整理しながら、状況に応じた適切な伝え方を考えることを目的としています。

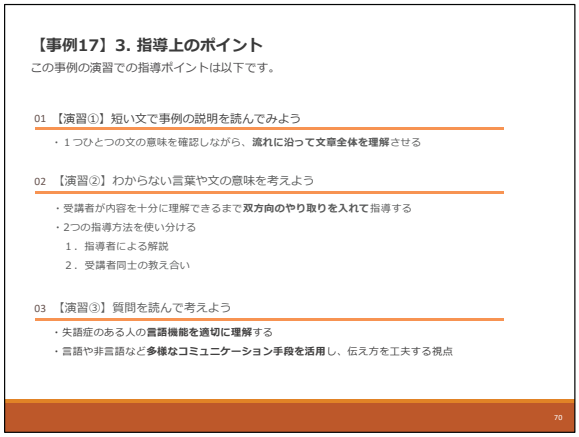
01 事例説明の理解
この事例では、脳梗塞の後遺症により言語に障害がある高齢女性Eさんと、介護福祉職とのやり取りが示されています。
Eさんの事例から、言語理解の特性を理解する力を養います。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い

演習③では、Eさんの言語理解の特性を踏まえたうえで、介護福祉職の対応を振り返ります。
そのうえで、Eさんにとって最も分かりやすい伝え方はどれかを、選択肢の中から考えます。
知識を覚えるだけでなく、事例に当てはめて考えることで、失語症のある利用者の特性に合わせた効果的なコミュニケーションを図る力を身につけることを目指します。



事例17の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三～四人程度を目安とします。



事例17の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 Eさんの言語障害の特徴
前半では、Eさんが70歳の女性であり、脳梗塞の後遺症による言語障害があることが説明されています。
発語は可能ですが言葉での表現が難しいこと、聴覚機能に問題はないこと、単語は理解できるものの、文章になると理解が困難になることなど、Eさんの言語機能の特徴が示されています。

02 ある日の出来事
後半では、介護福祉職が入浴予定についてEさんに伝える場面が描かれています。
その際、Eさんが内容を理解できず、考え込む様子が示されており、文章での理解が難しいという特性が実際のやり取りの中で表れています。

事例全体を通して、失語症のあるEさんの言語理解の特性と、それに応じた伝え方やコミュニケーションの工夫の必要性が理解できます。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Eさんの言語障害の特徴や、ある日の出来事について、事例の中から重要なポイントを整理して理解することを目的にします。
また、失語症のある人とのコミュニケーション方法について考えます。
Eさんは単語の理解は可能ですが、文章になると理解が難しいという特性があります。
この特性を踏まえ、どのような伝え方が最も適切であるかを、選択肢の中から判断できるよう、必要な知識を補足説明します。
演習全体を通して、失語症のある人の言語機能を適切に理解し、残っている力を活かした伝え方や、言葉だけでなくジェスチャーや視覚的な手がかりなどを組み合わせたコミュニケーションの工夫が重要であることを確認していきます。

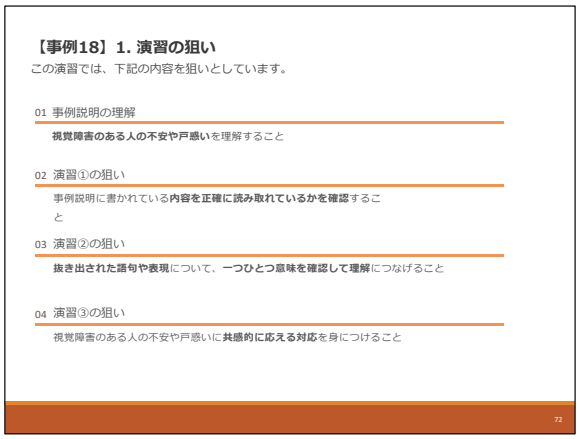


事例18の指導者向けガイドを説明します。

今回の事例は、網膜色素変性症による夜盲がある女性利用者が、夕方のうす暗い廊下で不安を感じた場面を扱っています。
Gさんは、暗い環境では見えにくいという特性がある中で、突然声をかけられたことで驚きと戸惑いを示しました。
この場面では、視覚障害の特性を踏まえずに声をかけたことによるコミュニケーションのずれが生じています。

利用者の感じている不安にどのように気づき、どのように寄り添うかを考えることが、この事例の重要なポイントです。
この事例では、利用者の障害特性やそのときの環境、本人の反応を整理し、気持ちの背景を正しく読み取る力が求められます。
また、視覚障害のある人に対して、どのような声かけや配慮が適切であるかを学びます。

04 演習③の狙い
演習③では、Gさんの「びっくりした」「見えにくくてわからなかった」という言葉に注目させます。
そのうえで、視覚障害のあるGさんへの受容的な対応として、どのような言葉かけが最も適切かを選択させます。
単に視覚障害に関する知識を確認するのではなく、事例の具体的な場面に即して考えることが重要です。
利用者の不安や戸惑いを理解し、まず気持ちを受け止める姿勢の大切さを指導します。



この演習では、視覚障害のある利用者への対応に着目します。
利用者の障害特性やその日の状況、本人の反応を丁寧に読み取りながら、不安や戸惑いにどのように応じるべきかを考えることを目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、有料老人ホームに入居しているGさんが、網膜色素変性症による夜盲のため、夕方のうす暗い廊下で見えにくさを感じている場面が示されています。
Gさんの年齢、要介護度、障害の内容、発見時の状況、H介護福祉職の声かけ、そしてGさんの反応を読み取り、どのような点で不安や驚きが生じたのかを整理して理解する力を養います。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

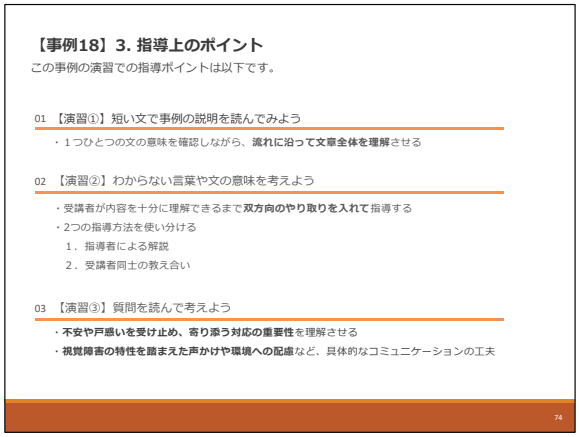


事例18の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 Gさんの状況
前半では、Gさんの年齢・性別・要介護度、有料老人ホームに入居していること、そして網膜色素変性症による夜盲があることが説明されています。
暗い場所や夕方になると見えにくくなるという視覚の特性が示されています。

02 ある日の出来事
後半では、夕方のうす暗い廊下でGさんが歩いているところを、H介護福祉職が発見し、声をかけた場面が描かれています。
その際、Gさんが予期せぬ声かけに驚き、「見えにくくてわからなかった」と戸惑いを示す様子が示されています。

事例全体を通して、夜盲のあるGさんが暗い環境で感じる不安と、介護福祉職とのコミュニケーションのずれが生じた背景を理解することができます。



事例18の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三～四人程度を目安とします。



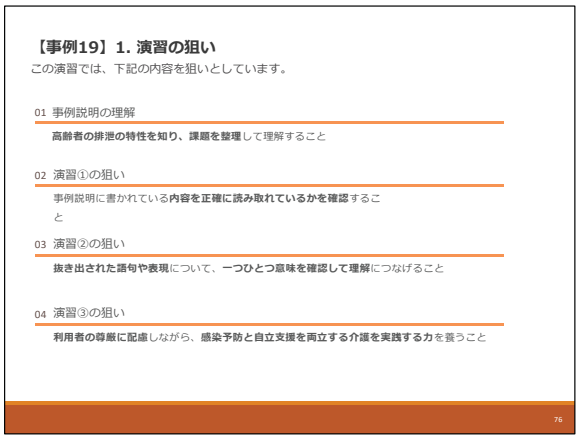
事例19の指導者向けガイドを説明します。

今回の事例は、認知症のある高齢女性が、夫の介護負担を軽減するために終日おむつを使用し、その結果、尿路感染症を繰り返していた場面を扱っています。
さらに、夫の体調不良を契機に、介護老人福祉施設へ入所することになった経緯が示されています。

この事例では、排泄の状態や家族の状況が、どのように健康問題や生活の変化につながっているかを読み取ることが重要です。
おむつ使用の背景には、夫の負担軽減という配慮がある一方で、感染リスクが高まっているという課題もあります。
利用者の尊厳と自立を尊重しながらの高齢者の排泄ケアを考えることが、この事例の重要なポイントです。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Gさんの基本的な状況や、夕方の廊下での出来事について、事例から重要な情報を正確に読み取る力を養います。
また、視覚障害のある人への受容的な対応について考えます。
Gさんの「びっくりした」「見えにくくてわからなかった」という言葉に着目し、その不安や戸惑いをまず受け止める姿勢の重要性を理解させます。
問題解決を急ぐのではなく、気持ちに寄り添う関わりが基本であることを確認します。
さらに、視覚障害の特性を踏まえた声かけや環境への配慮など、具体的なコミュニケーションの工夫についても補足し、実践場面に活かせる視点を養います。



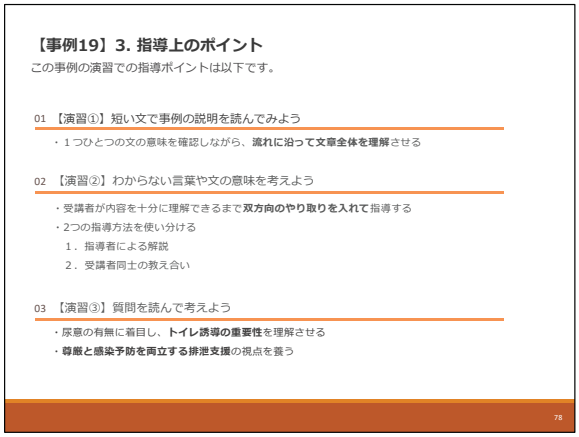
この演習では、排泄に関する課題を抱える利用者への対応に着目します。
利用者の心身の状態や生活状況、感染症のリスクを丁寧に読み取りながら、どのような支援が適切かを考えることを目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、認知症のあるJさんが、夫と二人で生活する中で、終日おむつを使用し、尿路感染症を繰り返していた状況が示されています。
Jさんの年齢、要介護度、排尿の状態、夫の介護負担、施設入所の理由などを読み取り、高齢者の排泄の特性を知り、感染の背景や生活上の課題を整理して理解する力を養います。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い
演習③では、Jさんに尿意があるという点に注目させます。
そのうえで、尿路感染症を予防するためにどのような支援が最も適切かを考えさせます。
単に感染症の知識を確認するのではなく、事例の具体的な状況に即して考えることが重要です。
利用者の尊厳に配慮しながら、感染予防と自立支援を両立させる視点の大切さを指導します。



事例19の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。



事例19の事例説明は、大きく三つの要素で構成されています。

01 Jさんの状況
前半では、Jさんの年齢・性別・要介護度、認知症の有無、夫との二人暮らしという生活状況が説明されています。
また、尿意はあるものの、夫の介護負担を軽減するために終日おむつを使用している排尿の状態が示されています。

02 尿路感染症の問題
中盤では、Jさんが尿路感染症を繰り返していることが述べられています。
おむつの継続使用が、感染のリスクと関係している可能性が読み取れます。

03 介護老人福祉施設への入所
後半では、夫の体調不良をきっかけに、Jさんが介護老人福祉施設へ入所したことが示されています。

事例全体を通して、認知症のあるJさんが、夫の介護負担を減らすためのおむつ使用により尿路感染症を繰り返しており、その後、夫の体調不良によって施設入所に至った流れを理解することができます。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Jさんの基本的な状況や尿路感染症の問題、施設入所に至った理由について、事例から重要な情報を正確に読み取る力を養います。
また、尿路感染症を予防するための適切な介護について考えます。
Jさんに尿意があることに着目し、可能な限りトイレでの排泄を促すことの重要性を理解させます。
さらに、高齢者の排泄ケアでは、尊厳と自立を尊重しながら感染予防を図る視点が重要であることを確認します。
家族の負担軽減だけを理由に安易におむつを選択するのではなく、残存機能を見極めた個別支援の必要性を指導します。

【事例２０　指導ガイド】

テレビショッピングの健康食品購入に困る高齢女性への対応



79

事例20の指導者向けガイドを説明します。

今回の事例は、もの忘れが目立ちはじめた高齢女性が、テレビショッピングによる高額な支払いに困っている場面を扱っています。
Kさんは訪問介護を利用しながら夫と二人で生活していますが、健康食品の定期購入が続き、経済的な問題が生じています。

この事例では、認知症による判断力の低下が消費行動にどのような影響を与えるかを理解することが重要なポイントです。
また、本人の意思を尊重しながら、どのように問題を整理し、適切な支援につなげるかを考えることが求められます。
利用者や家族の思いに耳を傾け、一方的に行動を制限するのではなく、ともに解決策を探る姿勢が重要です。

04 演習③の狙い
演習③では、Kさん夫婦の困り事に対して、訪問介護員としてどのような初期対応が適切かを考えます。
単に消費者トラブルの知識を確認するのではなく、事例の状況に即して判断することが重要です。
認知症による判断力の低下という背景を理解し、本人や家族に寄り添いながら、解決に向けて支援する姿勢を身につけることを目指します。

【事例20】1. 演習の狙い

この演習では、下記の内容を狙いとしています。

01 事例説明の理解

認知症高齢者の消費者被害への対応に関する理解を深める事

02 演習①の狙い

事例説明に書かれている**内容を正確に読み取れているかを確認**すること

03 演習②の狙い

抜き出された語句や表現について、**一つひとつ意味を確認して理解**につなげること

04 演習③の狙い

判断力の低下に起因する問題を理解し、寄り添いながら解決に導く支援のあり方を学ぶこと

80

この演習では、認知症の高齢者の消費者被害への対応に着目します。
利用者の状況や家族からの相談内容を整理しながら、どのような対応が適切かを考えることを目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、もの忘れが目立ちはじめたKさんと、その夫からの相談内容が示されています。
Kさんの年齢や要支援度、生活状況、そしてテレビショッピングによる高額な支払いの問題を読み取り、認知症高齢者の消費者被害に対する理解を深めます。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

【事例20】2. 文章の流れの確認

事例説明は、大きく２つの要素で構成されています。
各要素の主な内容は以下の通りです。

01

Kさんの状況



Kさんは77歳の女性で、要支援2。もの忘れが目立ち始めている。訪問介護を利用し、夫と二人暮らしをしている。

02

Kさん夫婦からの相談内容



テレビショッピングで健康食品を購入した。毎月商品が届き、高額の支払いに困っている。そのことを、訪問介護員に相談。

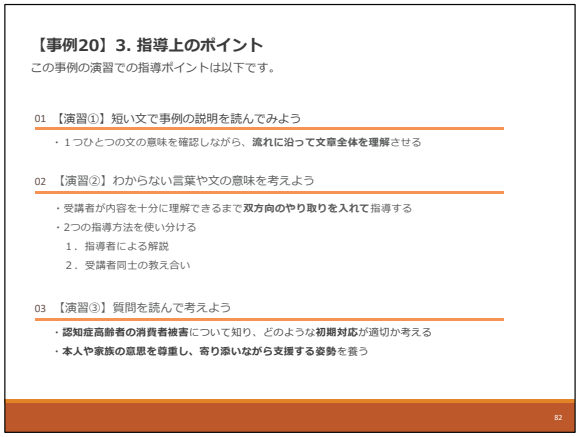
81

事例20の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 Kさんの状況
前半では、Kさんの年齢・性別・要支援度、もの忘れが目立ちはじめていること、訪問介護を利用していること、そして夫と二人で生活している家族構成が説明されています。
日常生活は続けているものの、判断力の低下がうかがえる状況が示されています。

02 Kさん夫婦からの相談内容
後半では、訪問介護員に対して、テレビショッピングで購入した健康食品が毎月届き、高額の支払いが発生しているという相談が示されています。
継続的な購入により、経済的な負担が生じていることが読み取れます。

事例全体を通して、Kさんが判断力の低下を背景に消費行動の問題に直面している状況と、それに対する適切な支援の必要性が理解できます。



事例20の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三～四人程度を目安とします。



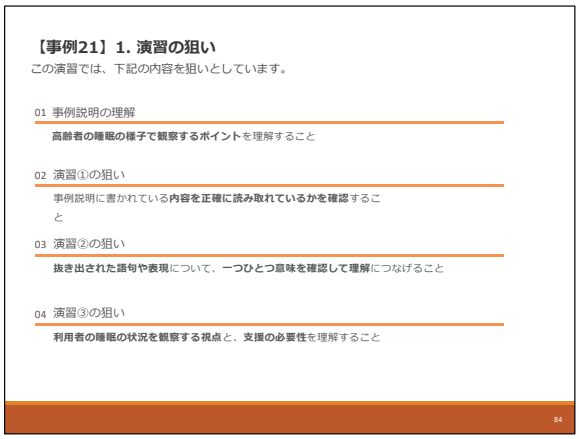
事例21の指導者向けガイドを説明します。

今回の事例は、介護老人保健施設に入所しているLさんに、睡眠中のいびきや呼吸の途切れが見られる場面を扱っています。
さらに、夜間の覚醒や起床時の倦怠感もみられており、睡眠の質の低下が疑われる状況です。
この事例では、睡眠中の呼吸障害の可能性に気づくことが重要なポイントです。

大きないびきや呼吸の途切れは、睡眠時無呼吸症候群を疑うサインであり、見逃してはならない観察事項です。
利用者の夜間や起床時の様子を総合的に整理し、どの情報を優先して確認すべきかを判断する力が求められます。
また、異常に気づいた場合には、速やかに報告・連携するという専門職としての基本姿勢を養うことを目指します。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Kさんの状況やKさん夫婦からの相談内容について、事例の中から重要なポイントを整理して理解することを目的とします。
また、認知症高齢者の消費者被害への対応について考えます。
認知症による判断力の低下を踏まえつつ、本人の意思を尊重しながらどのような初期対応が適切か判断できるよう、必要な知識を補足説明します。
演習全体を通して、一方的に行動を制限するのではなく、本人や家族に寄り添いながら現状を整理し、ともに解決策を探る支援の姿勢が重要であることを確認していきます。



この演習では、、高齢者の睡眠中に見られる異常への対応に着目します。
利用者の基本情報や睡眠中の様子、夜間や起床時の状態を整理しながら、健康状態の変化にどのように気づき、対応すべきかを考えることを目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、介護老人保健施設に入所しているLさんが、睡眠中に大きないびきをかき、いびきが途切れる様子があること、さらに夜間の覚醒や起床時のだるさが見られていることが示されています。
Lさんの年齢や要介護度、入所期間、睡眠中および日中の様子を正確に読み取り、どの点が重要な観察項目であるかを整理して理解する力を養います。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い
演習③では、Lさんの睡眠中の呼吸状態に着目し、どの情報を優先して収集すべきかを考えます。
睡眠時無呼吸症候群の可能性を踏まえ、呼吸状態の観察が最も重要であることを判断できるようにします。
単に知識を確認するのではなく、事例に即して評価の優先順位を考えることが重要です。
高齢者の睡眠障害は見逃してはならない問題であり、呼吸状態の観察など適切なアセスメントに基づく支援の必要性が求められることを理解させます。



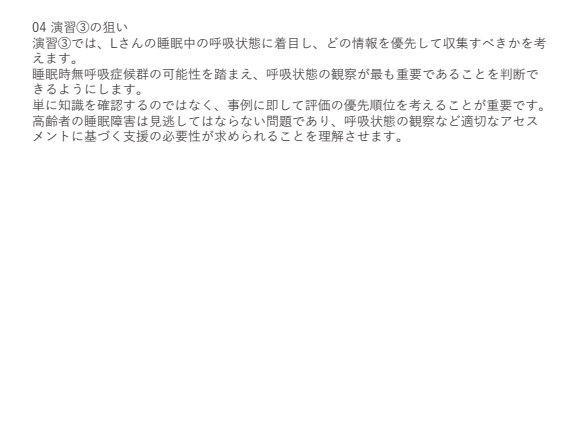
事例21の事例説明は、大きく三つの要素で構成されています。

01 Lさんの基本情報
前半では、Lさんの年齢・性別・要介護度、介護老人保健施設に入所していること、そして入所から1か月が経過していることが説明されています。

02 睡眠中の問題
中盤では、Lさんが睡眠中に大きないびきをかいていることや、いびきの音が途切れることがあるといった、睡眠中の呼吸の異常が示されています。

03 夜間・起床時の問題
後半では、夜間に目を覚ましている様子や、起床時にだるそうにしている様子が述べられています。
これらは睡眠の質の低下を示す症状です。

事例全体を通して、睡眠時の呼吸障害とそれに伴う睡眠の質の低下が、Lさんの健康状態に影響を及ぼしている可能性が示唆されています。



事例21の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Lさんの基本情報や睡眠中の様子、夜間・起床時の状態について、事例の中から重要なポイントを整理して理解することを目的とします。
また、睡眠時の呼吸障害が疑われる場合の初期対応について考えます。
睡眠時無呼吸症候群の可能性を踏まえ、まず何を優先して観察すべきかを選択できるよう、評価の視点を整理します。
高齢者の睡眠障害は見逃してはならない問題であり、早期発見と適切な報告・連携が重要です。
利用者の睡眠の状況を丁寧に観察し、異常に気づく専門職としての姿勢を養うことを目指します。

【事例２２　指導ガイド】

認知症の高齢女性の大正琴を通じた支援



87

事例22の指導者向けガイドを説明します。

今回の事例は、認知症を疑われ施設に入所した75歳の女性Aさんが、大正琴クラブに参加している場面を扱っています。
クラブ活動中は笑顔も見られ、穏やかに過ごしていましたが、活動後に職員へ強い口調で訴える様子がみられました。

一見すると感情的な言動にも見えますが、その背景にどのような思いがあるのかを考えることが重要なポイントです。

認知症のある利用者の言動は、表面的な言葉だけで判断するのではなく、その人の気持ちやこれまでの生活歴と結びつけて理解する視点が求められます。
特に、好きな活動に参加しているという事実や、そこで見せた笑顔は、Aさんの強みや大切にしている価値観を示す重要な情報です。

利用者の言動の背景を丁寧に整理し、その人らしさを活かした支援とは何かを考える姿勢を養うことを目指します。

講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い
演習③では、Aさんの発言の意味を生活歴と結びつけて考えます。
表面的な言動だけを見るのではなく、その人の人生の背景を踏まえて理解する視点を養います。
さらに、Aさんの強みである「教える力」に着目し、それを活かした支援の方向性を検討します。
認知症の症状だけに目を向けるのではなく、その人の持つ力や可能性を見出し、それを活かした支援を展開する重要性を理解させることを目指します。

【事例22】1. 演習の狙い

この演習では、下記の内容を狙いとしています。

01 事例説明の理解

認知症の高齢者の生活歴や価値観に目を向け、その言動の背景を理解する力を身につけること

02 演習①の狙い

事例説明に書かれている**内容を正確に読み取れているかを確認**すること

03 演習②の狙い

抜き出された語句や表現について、**一つひとつ意味を確認して理解**につなげること

04 演習③の狙い

その人の持つ力や可能性を見出し、それを活かした支援を展開する重要性を理解すること

この演習では、認知症高齢者の言動をどのように理解し、その理解に基づいてどのような支援を展開するかに着目します。
利用者の基本情報や生活歴、現在の言動を整理しながら、その人の人生の文脈の中で意味を捉えることを目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、Aさんがこれまで子どもたちに大正琴を教えてきた生活歴を持ち、施設入所後も大正琴クラブで生き生きと活動している様子が示されています。
一方で、「あの子たちが待っているの」という発言から、過去と現在が混在している様子も見られます。
Aさんの年齢や要介護度だけでなく、生活歴や価値観に目を向け、その言動の背景を理解する力を養います。

02 演習①の狙い
二つの文章を読むことまず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
で、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受

【事例22】2. 文章の流れの確認

事例説明は、大きく３つの要素で構成されています。
各要素の主な内容は以下の通りです。

01

Aさんの入所前の生活



Aさんは75歳の女性で一人暮らし。身体機能に問題なし。70歳まで地域の子どもたちに大正琴を教えていた。

02

施設入所の経緯と初期の様子



Aさんは認知症の進行が疑われ、友人の相談により施設に入所した。入所時の要介護度は3。短期目標が設定され、経過は順調だった。

03

大正琴クラブでの出来事



大正琴クラブに自主的に参加し、他の利用者に教える役割を担っていた。クラブ終了後、部屋に戻らずエレベーター前で立ち止まった。「あの子たちが待っている」と発言した。

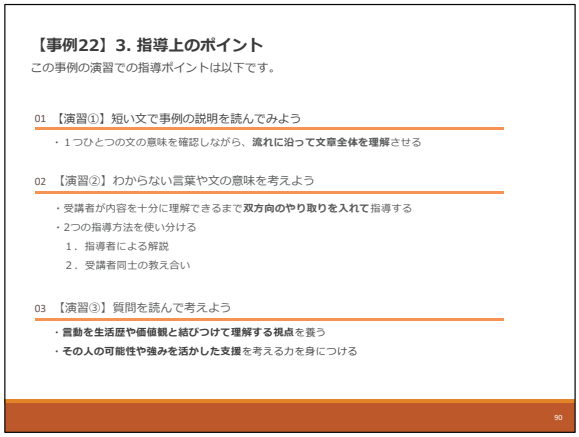
事例22の事例説明は、大きく三つの要素で構成されています。

01 Aさんの入所前の生活
前半では、Aさんの年齢、身体機能に問題がないこと、70歳まで地域の子どもたちと大正琴を通じた交流があったことが説明されています。

02 施設入所の経緯と初期の様子
中盤では、Aさんが認知症の進行が疑われて施設に入所したこと、入所時の要介護度が３であること、短期目標が設定されており経過が順調だったと示されています。

03 大正琴クラブでの出来事
後半では、大正琴クラブに自主的に参加したり、ほかの施設利用者に教える役割を担っていること、そしてエレベーター前で立ち止まり、「あの子たちが待っている」という発言があったと示されています。

最後の「あの子たちが待っている」という発言からは、過去と現在が混在している様子が示唆されています。



事例22の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。

事例23の指導者向けガイドを説明します。

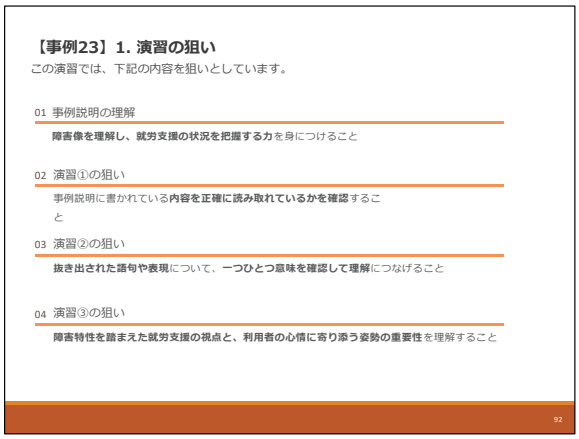
今回の事例は、脳梗塞後に左片麻痺と高次脳機能障害のあるBさんが、就労継続支援B型事業所で新しい組立て作業に取り組む場面を扱っています。
Bさんは将来、手先を使う仕事に就きたいという希望を持ちながらも、作業の途中で手が止まり、不備が見られ、「こんなの、できない」と大声を出しました。

この事例では、作業がうまくいかなかった背景を、障害特性と関連づけて理解することが重要なポイントです。
単に意欲や性格の問題として捉えるのではなく、高次脳機能障害による遂行機能や理解面の困難さに目を向ける必要があります。

また、支援の見直しにおいては、Bさんの自尊心や将来の希望を尊重しながら、手順を分かりやすく示すなどの具体的な工夫を検討する視点が求められます。
障害特性を踏まえた就労支援と、心理面への配慮を両立させる支援のあり方を学ぶことを目指します。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Aさんの言動を事例の中から整理して理解し、その背景を生活歴や価値観と結びつけて解釈することを目的とします。
特に「あの子たちが待っているの」という発言については、単なる見当識障害として扱うのではなく、長年「教える役割」を担ってきた経験や思いが反映されている可能性に注目できるよう指導します。
また、支援の見直しでは、認知症の症状だけに着目するのではなく、Aさんの強みや可能性を活かした支援を考えることが重要です。
大正琴クラブで生き生きと活動し、他者に教える力を発揮している点に着目し、それを支援の方向性につなげる視点を養うことを目指します。



この演習では、Bさんの障害特性をどのように理解し、その特性を踏まえてどのような就労支援を行うかに着目します。
事例に示された基本情報や作業状況、Bさんの発言内容を整理しながら、障害と就労支援の関係を具体的に考えることを目的としています。

01 事例説明の理解
この事例では、Bさんが脳梗塞後の左片麻痺と高次脳機能障害を抱えながら、就労継続支援B型事業所で作業に取り組んでいる様子が示されています。
作業内容の変更に伴うBさんの反応とその背景にある心理状態を考えます。
Bさんの障害像を理解し、就労支援の状況を理解します。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い
演習③では、Bさんの障害像と就労支援の実態を把握した上で、Bさんが「こんなの、できない」と大声を出した心情を、作業の状況と結びつけて考えます。
知識と事例を結びつけて実践的に考えることを通して、障害特性を踏まえた就労支援の視点と、利用者の心情に寄り添う姿勢の重要性を学びます。

92



事例23PART2の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 新たな作業の提案と開始
前半では、生活支援員が将来を見据えて製品の組立て作業を提案し、Bさんがそれを喜んで受け入れたことが示されています。
「ひとりで頑張る」と前向きに取り組もうとする姿勢も述べられています。

02 作業の困難と大声
後半では、実際に作業を始めたものの、途中で何度も手が止まり、完成品に不備が見られたことが示されています。
生活支援員の声かけに対し、「こんなの、できない」と大声を出す場面も描かれています。

PART2全体を通して、より高度な作業に挑戦する中で、うまくいかずにBさんが戸惑いや焦りを感じ、心理的に動揺している様子が読み取れます。

94



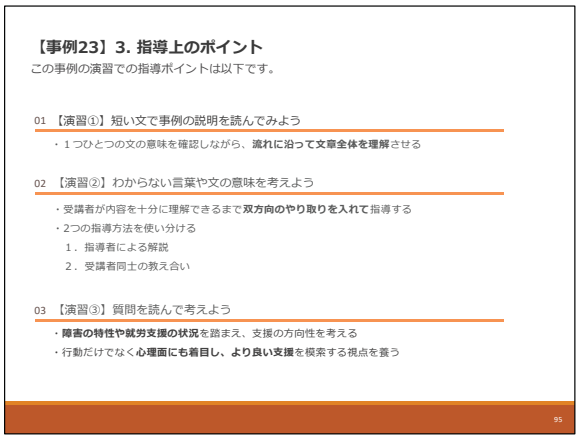
事例23PART1の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 Bさんの障害と経歴
前半では、Bさんが49歳で脳梗塞を発症し、左片麻痺と高次脳機能障害と診断されたことが示されています。
発症前は大工として働き、手先が器用であったという経歴も述べられています。

02 就労継続支援B型事業所での状況
後半では、Bさんが就労継続支援B型事業所に通い、製品の箱詰め作業を担当していることが示されています。ほかの利用者との関係も良好で、左片麻痺に合わせた作業台を使用しながら目標を達成している様子や、「将来は手先を使う仕事に就きたい」という希望も述べられています。

PART1全体を通して、脳梗塞の後遺症を抱えながらも、就労に向けて前向きに取り組んでいるBさんの姿が理解できます。

93



事例23の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

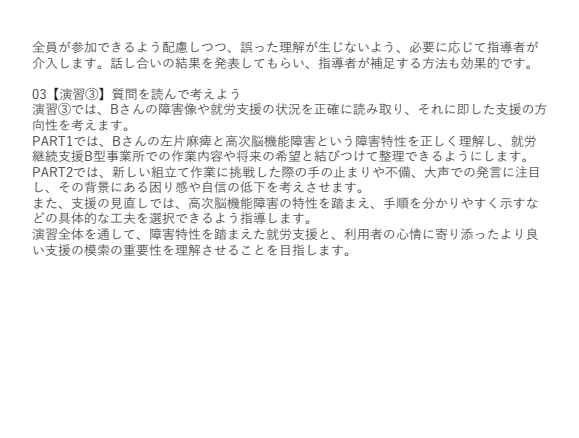
1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。

95

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Bさんの障害像や就労支援の状況を正確に読み取り、それに即した支援の方向性を考えます。
PART1では、Bさんの左片麻痺と高次脳機能障害という障害特性を正しく理解し、就労継続支援B型事業所での作業内容や将来の希望と結びつけて整理できるようにします。
PART2では、新しい組立て作業に挑戦した際の手の止まりや不備、大声での発言に注目し、その背景にある困り感や自信の低下を考えさせます。
また、支援の見直しでは、高次脳機能障害の特性を踏まえ、手順を分かりやすく示すなどの具体的な工夫を選択できるよう指導します。
演習全体を通して、障害特性を踏まえた就労支援と、利用者の心情に寄り添ったより良い支援の模索の重要性を理解させることを目指します。



この演習では、前頭側頭型認知症のある高齢者の言動をどのように理解し、その理解に基づいてどのような支援を考えるかを学ぶことを目的としています。
各PARTの設問は、事例に示された事実を正確に読み取り、専門知識と結びつけて考えられるかを確認する内容となっています。

01 事例説明の理解
本事例では、Cさんが専業農家として生活してきたこと、八百屋で代金を支払わずに商品を持ち帰ったことなどが示されています。
さらに、病院で前頭側頭型認知症と診断され、妻が外出を制限した結果、不穏となった経過も描かれています。
設問では、これらの事実を正確に読み取り、行動の背景にある認知症の特性を理解できるかが問われています。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、



事例24の指導者向けガイドを説明します。

今回の事例は、Cさんが代金を支払わずに商品を持ち帰った行動をきっかけに、前頭側頭型認知症と診断され、その後の支援が展開される経過を扱っています。

Cさんの行動は、単なる物忘れではなく、前頭側頭型認知症に特徴的な脱抑制として理解することが重要です。
また、その行動が妻の負担増大や外出制限、Cさんの不穏につながっていく流れを整理して捉える必要があります。

さらに、訪問介護員の提案は、Cさんの行動を制限するのではなく、八百屋への働きかけという環境調整によって社会参加を支えるものです。
症状理解、制度理解、環境調整を関連づけながら、認知症のある人の尊厳を守る支援を考える視点を養うことが本事例の狙いです。

受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い
演習③では、Cさんの行動を単なる問題行動として捉えるのではなく、前頭側頭型認知症に特徴的な脱抑制の症状として理解できるかが重要です。
さらに、訪問介護員の提案をICFの視点から整理し、環境因子への働きかけによって社会参加を支えるという考え方を理解できるかを確認します。
知識を覚えるだけでなく、事例の文脈の中で適切な支援を選択できる力を養うことを目指します。
介護上の課題を多角的に捉え、環境調整を含む適切な支援につなげる思考力を身につけます。



事例24PART1の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 Cさんの性格と行動の変化
前半では、Cさんが妻と二人暮らしで専業農家として生活していること、これまでおとなしい性格であったことが示されています。
また、最近は怒りやすくなったと、性格の変化も述べられています。

02 八百屋での出来事
後半では、Cさんが八百屋で代金を支払わずに商品を持ち去ったことが示されています。
それが2回目であり、妻が確認しても本人に悪いことをしたという認識がなかったことが述べられています。

PART1全体を通して、Cさんの行動や認識にこれまでとは異なる変化が見られ、何らかの異変が疑われる状況であることが理解できます。



事例24PART2の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 前頭側頭型認知症の診断
前半では、Cさんが病院を受診し、前頭側頭型認知症と診断されたことが示されています。
これにより、これまで見られていた行動や性格の変化が、認知症によるものである可能性が示されます。

02 妻の介護と不安
後半では、妻がCさんの行動を常に見守り、外出を制限するなど対応していたことが述べられています。
しかし、その結果、妻に疲労がたまり、今後の生活に不安を感じるようになりました。
そこで地域包括支援センターに相談し、要介護認定の申請を行い、訪問介護サービスを利用することになった経緯が示されています。

PART2全体を通して、Cさんの診断をきっかけに家族の負担が大きくなり、公的サービスの利用へとつながった流れが理解できます。

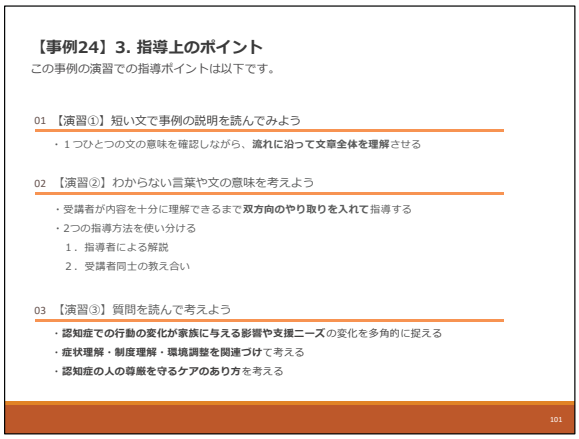


事例24PART3の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 外出制限によるCさんの不穏
前半では、外出を制限されたことでCさんが不穏になったことが示されています。
行動を抑える対応が、かえって混乱や落ち着かなさを強めてしまった状況が描かれています。

02 訪問看護員のアドバイス
後半では、困った妻が訪問介護員に相談し、八百屋に事情を説明して事前に代金を渡しておく方法が提案されたことが述べられています。
これはCさんの行動を一方的に制限するのではなく、地域の理解を得ながら安全に外出を続けられるようにする工夫です。

PART3全体を通して、Cさんの行動特性を踏まえ、参加を支えるために環境を調整する支援の重要性が理解できます。



事例24の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

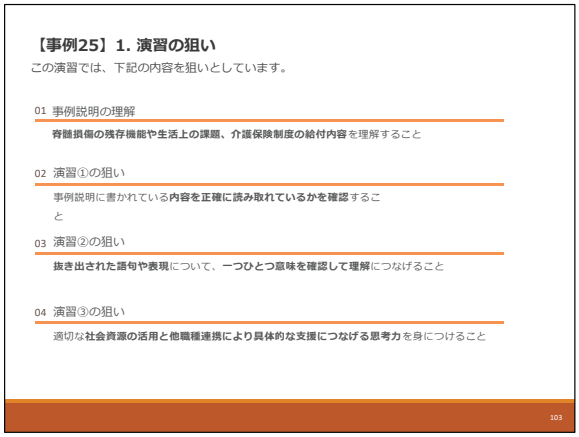
指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Cさんの言動や家族の対応、支援の展開について、事例の記述をもとに整理して理解することを目的とします。
PART1では、前頭側頭型認知症に特徴的な脱抑制の可能性を読み取れるようにします。
PART2では、行動の制限がCさんの不穏につながった経過や、地域包括支援センターへの相談、訪問介護の利用開始までの流れを、因果関係を意識して捉えられるようにします。
PART3では、訪問介護員の提案をICFの視点で考察します。
Cさんの行動を止めるのではなく、八百屋に事前に説明し環境を整えることで社会参加を支えようとした点に注目し、環境因子への働きかけが参加の継続につながることを理解できるよう指導します。
演習③全体を通して、認知症での行動の変化が家族に与える影響や支援ニーズの変化を多角的に捉え、症状理解・制度理解・環境調整を関連づけて考える力を養うことを目指します。
あわせて、認知症の人の尊厳を守るケアのあり方を考えます。



この演習では、脊髄損傷のあるDさんの在宅復帰支援をどのように考えるかを学ぶことを目的としています。
各PARTの設問は、事例に示された事実を正確に読み取り、専門知識と結びつけて考えられるかを確認する内容となっています。

01 事例説明の理解
本事例では、Dさんが事故により脊髄損傷となり、要介護3の認定を受けたこと、退院後の生活について妻と話し合いながら支援を検討していく経過が示されています。
また、一定期間施設に入所し、その間に住宅改修を行うことや、介護福祉士が在宅生活に向けた準備として冊子を作成する場面も描かれています。
設問では、脊髄損傷の残存機能や生活上の課題、介護保険制度の給付内容を正しく理解しているかが問われています。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、



事例25の指導者向けガイドを説明します。

今回の事例は、脊髄損傷を受けたDさんが在宅復帰を目指すまでの経過と支援の内容を扱っています。

Dさんは第4胸髄節まで機能が残存している脊髄損傷であり、損傷の高さと残っている機能の関係を正しく理解することが大切です。
身体機能の状態が、日常生活や外出にどのように影響するかを整理します。

また、介護老人保健施設の役割や住宅改修費の制度など、在宅復帰を支える社会資源についても確認します。
さらに、外出時の不安に対しては、多職種で連携して多機能トイレの事前確認など具体的な生活上の留意点を示すことで、社会参加を支える支援が行われています。
身体機能だけでなく、環境調整と多職種連携を通して在宅復帰を支える視点を養うことが本事例の狙いです。

受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い
演習③では、脊髄損傷者の生活上の留意点を具体的に考えられるかが重要です。
特に、外出時の多機能トイレの確認など、社会参加を支える実践的な工夫に着目します。
また、制度の知識を単に覚えるのではなく、事例の状況に合わせて適切な支援を選択できるかを確認します。
在宅復帰支援における課題を多角的に捉え、本人の思いに寄り添いながら、社会資源と他職種連携を活用した支援を考える力を養うことを目指します。

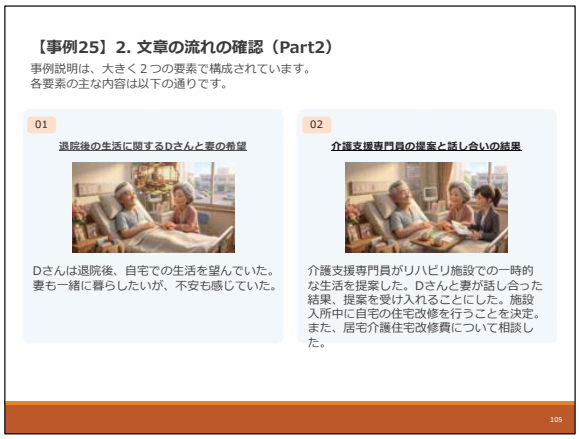


事例25PART1の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 事故前のDさんの生活
前半では、Dさんが妻と二人暮らしで、年金収入で生活していたことが示されています。

02 事故後の状況
後半では、車の事故により脊髄損傷を負い、第4胸髄節まで機能が残存していると説明を受けたことが述べられています。
さらに、入院中に要介護3の認定を受けたことも示されています。

PART1全体を通して、事故をきっかけにDさんの心身の状態や生活が大きく変化したことが理解できます。



事例25PART2の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 退院後の生活に関するDさんと妻の希望
前半では、退院後は自宅で生活したいというDさんの希望と、一緒に暮らしたい気持ちはあるものの不安を抱える妻の思いが示されています。

02 介護支援専門員の提案と話し合いの結果
後半では、介護支援専門員の提案を受け、一定期間施設に入所し、その間に自宅の住宅改修を行うという方法を選択した経緯が述べられています。

PART2全体を通して、在宅復帰に向けて段階的に準備を進める必要性と、公的支援を活用した支援の流れが理解できます。

事例25PART3の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 自宅復帰に向けたDさんの思い
前半では、住宅改修を終えた自宅に戻ることになったDさんが、自宅での生活を楽しみにする一方で、不安も抱えている様子が示されています。

02 介護福祉士の支援
後半では、Dさんの不安に対応するために、担当の介護福祉士が理学療法士や作業療法士と連携し、生活上の留意点をまとめた冊子を作成して手渡した経緯が述べられています。

PART3全体を通して、在宅復帰に向けた心理的支援と、具体的な生活指導を多職種で支える重要性が理解できます。

事例25の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

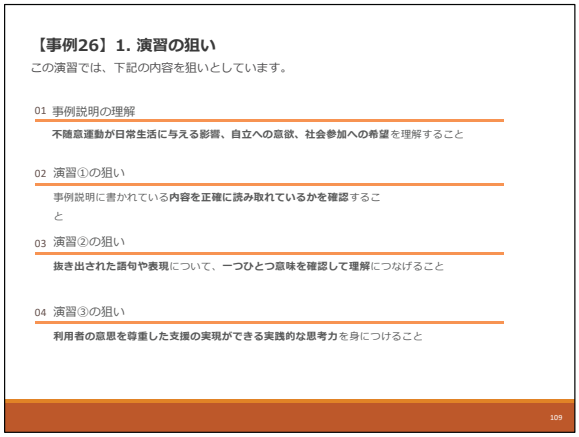
指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Dさんの身体状況や退院後の生活支援について、事例の記述をもとに整理して理解することを目的とします。
PART1では、第4胸髄節まで機能が残存していることの意味を理解できているかがポイントです。
PART2では、介護老人保健施設の役割と在宅復帰支援の流れを理解できているかを確認します。
他の施設との違いにも目を向け、リハビリテーション専門職が関わる意義を整理できるよう指導します。
PART3では、外出時の排泄への不安に対する具体的な対応策に着目します。
多機能トイレの事前確認など、環境を整えることで社会参加を支える視点を理解できるようにします。
演習③全体を通して、Dさんの心身の状態と生活環境の変化を関連づけて捉え、多職種連携を活かした在宅復帰支援のあり方を考える力を養うことを目指します。



この演習では、アテトーゼ型脳性麻痺のあるEさんの生活支援をどのように考えるかを学ぶことを目的としています。
各PARTの設問は、事例に示された事実を正確に読み取り、障害特性と本人希望を理解して支援方法に結びつけて考えられるかを確認する内容となっています。

01 事例説明の理解
本事例では、Eさんがアテトーゼ型脳性麻痺による不随意運動があり、特に首の動きが強いこと、食事や飲水に工夫が必要であることが示されています。
また、食事後の首の痛みやしびれといった身体への影響や、自分のことは自分でやりたいという思い、さらに油絵教室に通いたいという社会参加への希望も描かれています。
設問では、不随意運動の特徴や二次障害のリスク、日常生活動作への影響、本人の希望と利用できる障害福祉サービスについて正しく理解しているかが問われています。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、



事例26の指導者向けガイドを説明します。

今回の事例は、アテトーゼ型脳性麻痺のあるEさんの生活場面と、社会参加への支援を扱っています。

Eさんには不随意運動があり、特に首の動きが食事や飲水動作に影響しています。
まずは、不随意運動が日常生活動作にどのような負担を与えるのかを正しく理解することが大切です。
あわせて、首への負担から生じる可能性のある二次障害についても整理します。

また、Eさんは「自分のことは自分でやりたい」という思いを持っています。
そのため、自助具の工夫やストローつきコップの活用など、自立心を尊重した支援方法を検討します。
さらに、隣町の油絵教室への通学希望に対しては、移動支援などのサービスを活用することで社会参加を支える視点を学びます。

障害特性を理解し、本人の希望を尊重した支援を考える力を養うことが本事例の狙いです。

受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い
演習③では、Eさんの障害特性を踏まえた具体的な支援を考えられるかが重要です。
飲水の場面では、自立を尊重しながら安全に行える方法を選択できるかを確認します。
また、油絵教室への通学支援では、社会参加を支えるサービスを適切に選べるかがポイントです。
単に知識を覚えるのではなく、事例の状況に合わせて支援方法を判断できる力を養うことを目指します。
そして、利用者の意思を尊重した支援の実現という、実践的な思考力の養成を目指します。



事例26PART1の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 Eさんの基本情報と生活状況
前半では、Eさんが34歳の女性で、障害支援区分3であること、特別支援学校高等部を卒業後、週2回生活介護を利用しながら自宅で生活していることが示されています。

02 障害特性と日常生活での影響
後半では、アテトーゼ型脳性麻痺による不随意運動があり、特に首を振る動作が見られることが述べられています。
さらに、食事中は不随意運動が強くなり、首の痛みやしびれを訴える様子も示されています。

PART1全体を通して、不随意運動が日常生活に影響を与え、身体的負担が生じていることが理解できます。



事例26PART2の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 飲水時の現状
前半では、Eさんが取っ手つきのコップを使用していること、しかし口元に運ぶまでにお茶がこぼれるようになってきたことが示されています。
飲水動作に困難が生じている様子が具体的に描かれています。

02 本人の思いと心配
後半では、Eさんが「自分のことは自分でやりたい」と考えていること、そして上手に飲めなくなってきたことを気にしている様子が述べられています。

PART2全体を通して、日常生活動作の変化がEさんの心理面に影響を与えていることが理解できます。

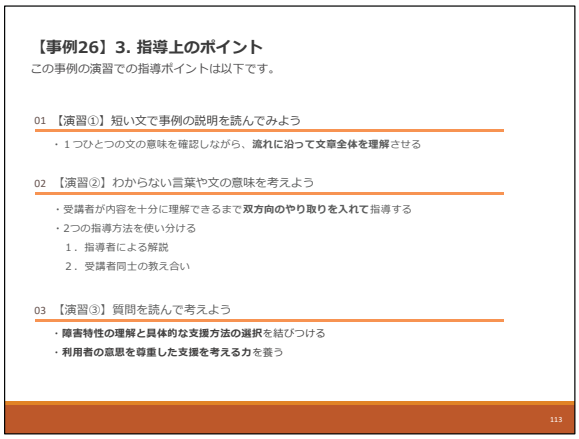


事例26PART3の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 趣味活動の現状
前半では、Eさんが生活介護事業所で油絵を描くことを楽しみにしている様子が説明されています。

02 さらなる活動への意欲
後半では、隣町の油絵教室に通い、技術を高めたいという意欲が述べられています。
また、そのために自宅から教室までの介助をどのように受ければよいかを、介護福祉職に相談したことが示されています。

PART3全体を通して、余暇活動を通じた社会参加への強い意欲と、それを実現するための具体的な支援ニーズが理解できます。



事例26の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

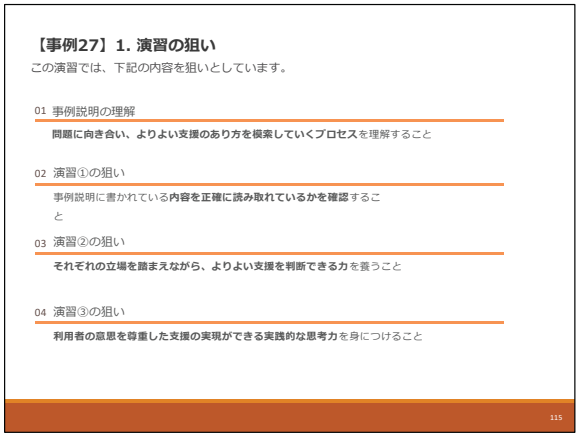
指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Eさんの障害特性と生活場面での課題を、事例の記述をもとに整理して理解することを目的とします。
PART1では、不随意運動が食事動作にどのような影響を与えているかに着目します。
特に、首の過度な動きが頚椎に負担をかけ、二次障害につながる可能性があることを、医学的な視点も交えて理解できるよう指導します。
PART2では、飲水動作の困難さに対する支援方法を考えます。
自助具の選択にあたっては、安全性だけでなく、Eさんの「自分でやりたい」という思いを尊重する視点が重要であることを整理します。
PART3では、油絵教室への通学という社会参加の希望に対し、どのようなサービスが適切かを考察します。
移動支援の役割を理解し、単なる移動の補助ではなく、社会参加を支える支援であることを学びます。
演習③全体を通して、障害特性の理解と具体的な支援方法の選択を結びつけ、利用者の意思を尊重した支援を考える力を養うことを目指します。



この演習では、強度行動障害のあるFさんの生活支援と家族支援をどのように考えるかを学ぶことを目的としています。
各PARTの設問は、事例に示された事実を正確に読み取り、障害特性や家族の状況を理解したうえで、適切な支援に結びつけて考えられるかを確認する内容となっています。

01 事例説明の理解
本事例では、Fさんが自閉症スペクトラム障害と重度の知的障害があり、自宅では自傷・他害行為が見られることが示されています。
事業所では比較的落ち着いている一方、自宅では母親に対するかみつきや頭突き、自傷行為が見られるなど、環境による行動の違いも描かれています。
また、姉が幼少期から介護を担ってきたこと、身体の成長により家族だけでは対応が困難になったこと、話し合いの末に施設入所を決断した経緯も示されています。
設問では、強度行動障害の理解、家族の負担、施設入所という選択の意味、そして支援計画の見直しに関する制度（計画相談支援）について正しく理解しているかが問われています。
行動障害に向き合い、よりよい支援のあり方を模索していくプロセスを理解しましょう。

02 演習①の狙い
まず、元の事例説明を読んだ後に、短い文に区切った事例説明を読みます。
二つの文章を読むことで、事例に書かれている内容を正確に理解できているかを確認します。文章全体を理解するためには、一文一文の意味を正しく捉えることが重要であり、ここが演習①のポイントです。



事例27の指導者向けガイドを説明します。

今回の事例は、強度行動障害のあるFさんの家庭生活と、施設入所後の支援の在り方を扱っています。

Fさんは事業所では比較的落ち着いていますが、自宅ではかみつきや頭突き、自傷行為が見られます。
まずは、強度行動障害の特性と、環境の違いによって行動が変化する点を正しく理解することが重要です。

また、長年にわたり介護を担ってきた姉や母親の負担や葛藤にも目を向けます。
施設入所は「見捨てる」選択ではなく、本人の安定と家族の安全・負担軽減を図るための支援の一つであることを整理します。
さらに、入所後も本人・家族とともに生活を振り返り、計画相談支援を活用しながら支援内容を見直していくことの重要性を学びます。

強度行動障害への理解、家族支援の視点、そして多職種連携による継続的な支援の調整を結びつけて考える力を養うことが、本事例の狙いです。

03 演習②の狙い
演習②では、受講者自身に「意味が分からない単語や箇所」を抜き出してもらいます。
その一つひとつについて意味を確認し、理解につなげることが目的です。あわせて、受講者がどこでつまずいているのかを指導者が把握することも重要な狙いです。これは、受講者の日本語理解レベルを知るための有効な判断材料となり、今後の指導方針を考える際に役立ちます。

04 演習③の狙い
演習③では、Fさんの行動を単なる「問題行動」として捉えるのではなく、強度行動障害として理解し、環境や支援体制の影響を考えられるかが重要です。
また、姉の「見捨てたようで申し訳ない」という思いに対して、支援者がどのように共感的に関わるかを考えることも大きなポイントです。
さらに、施設入所後も支援を振り返り、計画相談支援を活用して支援内容を見直す仕組みを理解します。
単に知識を覚えるのではなく、本人・家族・支援者それぞれの立場を踏まえながら、より良い支援を判断できる力を養うことを目指します。



事例27PART1の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 Fさんの障害特性と生活状況
前半では、Fさんが自閉症スペクトラム障害と重度の知的障害をもっていること、母親と姉の3人で自宅生活をしていることが示されています。
また、生活介護事業所を利用していることも説明されています。

02 問題行動の様子
後半では、事業所では比較的落ち着いている一方で、自宅では母親に対するかみつきや頭突き、自傷行為が見られることが述べられています。

PART1全体を通して、Fさんの家庭内での行動が深刻な課題となっていることが理解できます。



事例27PART2の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 家族の介護の限界
前半では、母親に代わって姉が長年Fさんの食事や排泄の介護を担ってきたことが示されています。
しかし、Fさんの身体が大きくなり力も強くなったことで、母親と姉が協力しても行動を止めることが難しくなってきた様子が述べられています。

02 施設入所の決定
後半では、家族で今後の生活について話し合った結果、Fさんが障害者支援施設に入所することになった経緯が示されています。

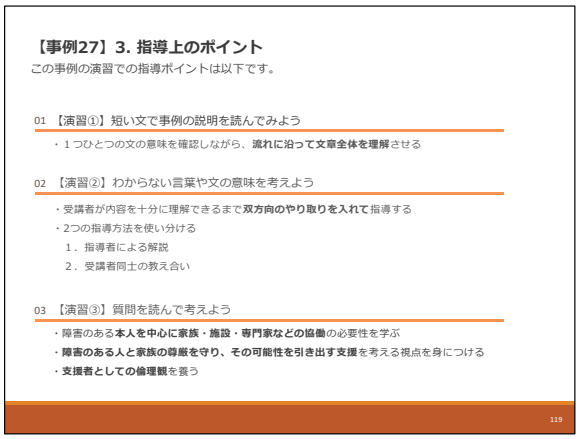
PART2全体を通して、在宅での介護が限界に達した家族の現実と、苦渋の決断に至るまでの背景が理解できる内容となっています。



事例27PART3の事例説明は、大きく二つの要素で構成されています。

01 施設入所1年後
最初にFさんが施設に入所してから1年が経過したことが示されています。
施設での生活を続ける中で、これまでの支援を振り返る時期にきていることがわかります。

02 支援の振り返りと修正
支援の振り返りと修正について、Fさん本人だけでなく、母親と姉も含めて話し合いが行われている点が重要です。
当面の目標を「施設で安定した生活を送ること」とし、そのために支援内容を検討していることが示されています。
施設職員と家族が協働しながら、これまでの生活や支援内容を共有している様子が読み取れます。



事例27の演習での指導ポイントは以下のとおりです。

01【演習①】短い文で事例の説明を読んでみよう
演習①では、短い文で書かれた事例説明を使って、内容の理解を確認します。
一つひとつの文の意味を確認しながら、事例全体の流れに沿って理解できるように指導します。
文ごとの理解にとどまらず、文と文のつながりを意識させることがポイントです。

02【演習②】わからない言葉や文の意味を考えよう
演習②では、受講者が意味の分からない言葉や文を自分で見つけます。
受講者が内容を十分に理解できるまで、説明や質問など双方向のやり取りを取り入れて指導します。

指導方法は、大きく次の二つに分けられます。

1. 指導者による解説
受講者が分からないと答えた言葉や箇所について、指導者が意味を説明します。
回答が少ない場合や、多くの受講者に共通する内容の場合に有効です。日常ではあまり使われない言葉や、日本の文化や習慣に関係する言葉が例に挙げられます。

2. 受講者同士の教え合い
受講者同士で話し合い、分からない部分を教え合います。
一グループは三〜四人程度を目安とします。

全員が参加できるよう配慮しつつ、誤った理解が生じないよう、必要に応じて指導者が介入します。話し合いの結果を発表してもらい、指導者が補足する方法も効果的です。

03【演習③】質問を読んで考えよう
演習③では、Fさんの強度行動障害と家族の状況を、事例の記述をもとに整理して理解することを目的とします。
PART1では、自宅で見られる自傷・他害行為に着目し、それが強度行動障害に該当することを理解できるようにします。
PART2では、家族の介護の限界と施設入所に至るまでの経過を整理します。
特に、姉が長年担ってきた役割や、成長に伴い対応が困難になった現実を丁寧に読み取り、家族支援の重要性を理解できるようにします。
PART3では、施設入所後の支援の見直しに着目します。
本人・母親・姉とともに振り返りを行い、計画相談支援を活用して支援内容を修正していく流れを理解します。
演習③全体を通して、強度行動障害のある人を支えるには、本人を中心に家族・施設・相談支援専門員などが協働することが不可欠であることを学びます。
また、姉の「申し訳ない」という思いに寄り添いながら、施設入所が決して「見捨てること」ではなく、本人の安定と家族の負担軽減を図るための選択であることを考察します。
本事例を通して、障害のある人と家族の尊厳を守り、その可能性を引き出す支援とは何かを考える視点と、支援者としての倫理観を養うことを目指します。

7．CBT 介護・日本語教育　文章読解演習テキスト

テキスト教材

No.	出典事例	問題文	選択肢①	選択肢②	選択肢③	選択肢④	選択肢⑤	正答	正答解説
1	【事例1】膝の痛みと生活変化に不安を感じる一人暮らしの女性	Aさんはどのようなサービスを利用していますか。	① 週3回の訪問介護を利用している。	② 週1回の介護予防通所リハビリテーションを利用している。	③ 月2回の短期入所生活介護を利用している。	④ 毎日デイサービス（通所介護）を利用している。	⑤ わからない	②	Aさんは、今どのようなサービスを使っていますか、という問題です。スライドには、Aさんは週に1回、介護予防通所リハビリテーションを使っていると書いてあります。
2	【事例1】膝の痛みと生活変化に不安を感じる一人暮らしの女性	Aさんの普段の生活の楽しみは何ですか。	① 庭でのガーデニングを趣味にしている。	② 自宅で読書をすることを楽しみにしている。	③ 孫と一緒に散歩に行くことを楽しみにしている。	④ 近所の友人たちとの麻雀を楽しみにしている。	⑤ わからない	④	Aさんが毎日楽しみにしていることは何か、という問題です。Aさんは、近所の友達と一緒に麻雀をすることを、とても楽しみにしていま
3	【事例1】膝の痛みと生活変化に不安を感じる一人暮らしの女性	Aさんに最近起きた変化は何ですか。	① 膝に痛みを感じ、変形性膝関節症と診断された。また、同時期に友人が入院し、楽しみにしていた麻雀ができなくなった。	② 腰に痛みを感じ、骨折と診断された。また、よく行っていた近所のスーパーが閉店してしまった。	③ 視力が低下し、白内障と診断された。また、近所の友人が引っ越しをして、会えなくなった。	④ 物忘れがひどくなり、認知症と診断された。また、家族と同居することになり、生活環境が変わった。	⑤ わからない	①	Aさんの生活に起きた変化についての問題です。1つは、膝が痛くなって変形性膝関節症だとわかったことです。もう1つは、友達が入院して麻雀ができなくなったことです。
4	【事例1】膝の痛みと生活変化に不安を感じる一人暮らしの女性	Aさんが介護福祉職に話した内容から、どのような気持ちが読み取れますか。	① 自宅で一人は寂しいので、早く施設に入所して安心したい。	② 膝の痛みを治して、また以前のように友達と旅行に行きたい。	③ 自宅での生活を続けたいという希望を持ちつつも、それが実現できるかどうかに不安を感じている。	④ ケアマネジャーに今の不満をすべて解決してほしいと期待している。	⑤ わからない	③	Aさんの今の気持ちを考える問題です。Aさんは、「自分の家で生活を続けたい」という希望を持っていますが、「本当にそれができるかどうか不安だ」とも思っています。
5	【事例1】膝の痛みと生活変化に不安を感じる一人暮らしの女性	Aさんに対する介護福祉職の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。	① 要介護認定の申請を勧める。	② 友人のお見舞いを勧める。	③ 膝の精密検査を勧める。	④ 別の趣味活動の希望を聞く。	⑤ 生活に対する思いを聞く。	⑤	Aさんは、体の動きが悪くなり、生活の環境も変わったため、これからの生活に不安を感じています。この段階では、まずAさんの気持ちに寄りそい、生活についてどう思っているかを、しっかり聞くことが大切です。不安や希望がよく分からないまま、何かをすすめることは、よい対応とは言えません。
6	【事例2】聴力低下のある施設入所高齢者とのコミュニケーション	Bさんの基本情報について、事例から読み取れることは何ですか。	① 80歳の女性で要介護1。自宅で生活している。	② 90歳の女性で要介護3。介護老人福祉施設に入所している。	③ 90歳の男性で要介護3。介護老人保健施設に入所している。	④ 85歳の女性で要介護2。通所介護を利用している。	⑤ わからない	②	Bさんは90歳の女性です。介護のレベルは3で、今は老人ホーム（施設）に入っています。
7	【事例2】聴力低下のある施設入所高齢者とのコミュニケーション	介護福祉職は何を伝えようとしましたか。	① 今日が洗濯の日であること、および着替えの準備が必要なこと。	② 今日が診察の日であること、および時間が午前11時からであること。	③ 今日が入浴日であること、および入浴時間が午後3時からであること。	④ 今日がリハビリの日であること、および開始が午後1時からであること。	⑤ わからない	③	介護職の人は、Bさんにお風呂の日であることを教えようとしました。時間は午後の3時からです。
8	【事例2】聴力低下のある施設入所高齢者とのコミュニケーション	Bさんの反応から、Bさんはどのような様子で、どのような気持ちだと考えられますか。	① 耳が聞こえにくくなっており、介護福祉職の言葉が聞き取れていない。また、その状況に困っている様子である。	② 認知症が進行しており、自分の名前がわからなくなって怖がっている。	③ 介護職の対応に怒っており、わざと無視をして一人になりたいと思っている。	④ 視力が低下しており、介護職の顔が見えないので不安に思っている。	⑤ わからない	①	Bさんは耳が少し遠くなっています。そのため、介護職の人が何を言っているかわからなくて、困っています。
9	【事例2】聴力低下のある施設入所高齢者とのコミュニケーション	介護福祉職の準言語を活用した対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。	① 強い口調で伝えた。	② 抑揚をつけずに伝えた。	③ 大きな声でゆっくり伝えた。	④ 急かすように伝えた。	⑤ 早口で伝えた。	③	Bさんは耳が聞こえにくいので、大きな声ではっきりと、ゆっくり話すことが大切です。そうすると、話の内容が伝わりやすくなります。
10	【事例3】認知症の父の消費者トラブルに対する娘からの相談への対応	Dさんはどのような状態で生活していますか。	① 身体障害があり、施設で生活している。	② 認知症があり、要介護2の状態。訪問介護を利用しながら一人暮らしをしている。	③ 認知症があり、家族と同居しながら生活している。	④ 軽度の認知症があるが、サービスを使わずに一人で暮らしている。	⑤ わからない	②	Dさんは、どんな病気があって、どんな生活をしていますか、という問題です。Dさんは認知症があって、一人で暮らしています。ヘルパーさんに助けてもらいながら生活しています。
11	【事例3】認知症の父の消費者トラブルに対する娘からの相談への対応	長女の相談内容は具体的に何ですか。	① 父親の物忘れがひどくなり、火の不始末が増えたことへの心配。	② 父親が知らない間に自宅を売る契約をしてしまったことへの心配。	③ 父親が高額な投資信託の電話勧誘を受けており、契約を悩んでいることへの心配。	④ 父親の預金が、何者かによって勝手に引き出されてしまったことへの心配。	⑤ わからない	③	Dさんの娘さんは何を心配していますか、という問題です。Dさんは、知らない人から高いお金の契約の電話がかかってきて、どうしようか迷っています。娘さんは、お父さんがだまされないか心配しています。
12	【事例3】認知症の父の消費者トラブルに対する娘からの相談への対応	この事例ではどのような問題が考えられますか。	① 認知症のある高齢者が、判断能力が十分でない状態で、高額な金融商品の契約を結んでしまう可能性がある。	② 認知症のある高齢者が、一人で外出して道に迷ってしまう可能性がある。これは行方不明につながる恐れがある。	③ 認知症のある高齢者が、薬の飲み方を間違えて、体調を崩してしまう可能性がある。	④ 認知症のある高齢者が、一人で料理をして火の不始末をしてしまい、火事になる可能性がある。	⑤ わからない	①	このままにすると、どんな悪いことが起きますか、という問題です。Dさんは認知症があるので、自分でお金のことを正しく決めるのが難しいです。そのため、高いお金を払わされて損をする心配があります。
13	【事例3】認知症の父の消費者トラブルに対する娘からの相談への対応	訪問介護員（ホームヘルパー）が長女に助言する相談先として、最も適切なものを1つ選びなさい。	① 公正取引委員会	② 都道府県障害者権利擁護センター	③ 運営適正化委員会	④ 消費生活センター	⑤ 市町村保健センター	④	お金や契約のトラブルについて相談するところはどこですか、という問題です。消費生活センターは、お金のトラブルを助けてくれる専門の場所です。ここに相談するのが一番良いです。
14	【事例4】生活困窮状態にある引きこもりの姉に対する支援の相談	Eさんはどのような状態で生活していましたか。	① 会社員として働いており、自分の給料で父親を養いながら暮らしていた。	② 弟の家族と一緒に生活しており、家事全般を手伝いながら暮らしていた。	③ ひきこもりの状態で就労しておらず、父親の年金で父親とアパートで暮らしていた。	④ 施設に入所しており、専門スタッフの介助を受けながら生活していた。	⑤ わからない	③	Eさんは仕事をしておらず、家からあまり出ない生活でした。お父さんと二人で、お父さんの年金を使ってアパートで暮らしていました。
15	【事例4】生活困窮状態にある引きこもりの姉に対する支援の相談	Eさんの状況はどのように変化しましたか。	① 父親が亡くなり一人暮らしとなった。その後、家賃を滞納するなど生活に困窮している。	② 父親が入院して一人暮らしとなった。その後、新しい仕事が見つかり自立した生活を送っている。	③ 弟と同居することになった。その後、兄弟で協力して家計を助け合いながら生活している。	④ 父親が亡くなり、アパートを引き払って路上で生活するようになった。	⑤ わからない	①	お父さんが亡くなってから、Eさんは一人で暮らすことになりました。しかし、お金が足りなくなって、部屋の代金（家賃）も払えなくなって困っています。
16	【事例4】生活困窮状態にある引きこもりの姉に対する支援の相談	弟はどのようにしてEさんの状況を知りましたか。	① Eさん本人から、生活費が足りなくて助けてほしいと直接電話があった。	② 弟が久しぶりにアパートを訪問したとき、部屋がひどく汚れているのを見て驚いた。	③ 近所の人から、Eさんが最近買い物にも出てこないという相談を弟が受けた。	④ 家主から、姉が家賃を滞納していて生活に困っているようだと連絡を受けた。	⑤ わからない	④	Eさんは自分から連絡をしませんでした。アパートの大家さん（家主）が、家賃が払われていないことに気づいて、弟さんに連絡をしました。
17	【事例4】生活困窮状態にある引きこもりの姉に対する支援の相談	心配した弟が相談する機関として、最も適切なものを1つ選びなさい。	① 地域包括支援センター	② 福祉事務所	③ 精神保健福祉センター	④ 公共職業安定所（ハローワーク）	⑤ 年金事務所	②	お金がなくて生活ができないときや、仕事がなくて困っているときは、福祉事務所に相談します。生活保護などの制度について教えてくれます。

No.	出典事例	問題文	選択肢①	選択肢②	選択肢③	選択肢④	選択肢⑤	正答	正答解説
18	【事例5】骨粗鬆症の高齢女性への支援	Fさんは骨粗鬆症と診断され、どのような治療が開始されましたか。	① 内服治療が開始されました。	② 外科的な手術が行われました。	③ 毎日、点滴治療が行われています。	④ 安静にするために、特別なギプスをつけました。	⑤ わからない	①	Fさんは、骨が弱くなる骨粗鬆症という病気です。この病気を治すために、薬を飲む治療（内服治療）が始まりました。
19	【事例5】骨粗鬆症の高齢女性への支援	Fさんの歩行状態はどのようですか。	① 常に車いすを使い、全介助での移動が必要です。	② 杖を使えば、一人で長い距離を走ることができます。	③ 時々ふらつきますが、ゆっくりと自立歩行することができます。	④ 壁をつたわなければ、一歩も歩くことができません。	⑤ わからない	③	Fさんは自分で歩くことができますが、時々ふらふらすることがあります。ですから、ゆっくり気をつけて歩いています。
20	【事例5】骨粗鬆症の高齢女性への支援	Fさんは昼間どのように過ごしていますか。	① デイルームで他の利用者と、楽しくテレビを見ています。	② 自室にこもり、ベッドで横になっていることが多いです。	③ 庭に出て、趣味の園芸を毎日楽しんでいます。	④ 友達の部屋へ行き、おしゃべりをして過ごしています。	⑤ わからない	②	Fさんはあまり部屋から出ません。昼間は自分の部屋で、ベッドに横になって休んでいることが多いです。
21	【事例5】骨粗鬆症の高齢女性への支援	Fさんのリハビリテーションの内容と頻度を答えてください。	① 水泳のトレーニングを、週に5日行っています。	② 上半身を鍛える訓練を、週に1日行っています。	③ 部屋の中で、毎日ストレッチを行っています。	④ 歩行訓練を週3日行っています。	⑤ わからない	④	Fさんは歩く練習（歩行訓練）をしています。回数は、1週間に3回です。
22	【事例5】骨粗鬆症の高齢女性への支援	Fさんの骨粗鬆症（osteoporosis）の進行を予防するための支援として、最も適切なものを1つ選びなさい。	① リハビリテーションを週1日に変更する。	② 繊維質の多い食事を勧める。	③ 日光浴を日課に取り入れる。	④ 車いすでの移動に変更する。	⑤ ビタミンA（vitamin A）の摂取を勧める。	③	太陽の光を浴びる（日光浴）と、体の中でビタミンDが作られます。ビタミンDはカルシウムが体に吸収されるのを助けて、骨を強くします。
23	【事例6】介護老人保健施設入所中の高齢男性の食事中のトラブル	Gさんはどこに入所していますか。	① 介護老人福祉施設に入所しています。	② 介護老人保健施設に入所しています。	③ グループホームに入居しています。	④ 養護老人ホームに入所しています。	⑤ わからない	②	Gさんが今どこで生活しているか、という問題です。スライドには、介護老人保健施設に入っていると書いてあります。
24	【事例6】介護老人保健施設入所中の高齢男性の食事中のトラブル	Gさんの食べ方はどのような様子ですか。	① 普段から食べ物をかきこむように食べる様子がみられます。	② 普段から一口ずつゆっくりよく噛んで食べる様子がみられます。	③ 普段から食が細く、少しずつ残しながら食べる様子がみられます。	④ 普段からおしゃべりを楽しみながら食べる様子がみられます。	⑤ わからない	①	Gさんの食べ方のクセについての問題です。スライドには、食べ物を急いで口に入れる「かきこむ」様子があると書いてあります。
25	【事例6】介護老人保健施設入所中の高齢男性の食事中のトラブル	最近、Gさんの食事中に起こるようになったことは何ですか。	① 食べ物を口からこぼすことが多くなりました。	② 食欲が全くなくなりました。	③ むせることが多くなりました。	④ 食後にすぐ寝てしまうことが多くなりました。	⑤ わからない	③	Gさんの食事のときの様子についての問題です。最近は、食べたときに「むせる（喉がつまる）」ことが増えています。
26	【事例6】介護老人保健施設入所中の高齢男性の食事中のトラブル	Gさんは義歯を使用していますか。	① 上下とも総義歯を使用しています。	② 部分義歯を使用しています。	③ 食事の時だけ義歯を外しています。	④ 義歯は使用していません。	⑤ わからない	④	Gさんの歯の状態についての問題です。Gさんは、入れ歯（義歯）を使っていません。
27	【事例6】介護老人保健施設入所中の高齢男性の食事中のトラブル	ある日の昼食時、唐揚げを口に入れた後のGさんの様子はどうでしたか。	① 美味しそうに何度も頷き、笑顔になりました。	② 喉をつかむようなしぐさをし、苦しそうな表情になりました。	③ 急に眠り込んでしまい、椅子から崩れ落ちそうになりました。	④ 激しく咳き込み、食べたものをすべて吐き出しました。	⑤ わからない	②	唐揚げを食べた後の変化についての問題です。Gさんは喉を押さえて、とても苦しそうな顔をしました。
28	【事例6】介護老人保健施設入所中の高齢男性の食事中のトラブル	Gさんに起きていることとして、最も適切なものを1つ選びなさい。	① 心筋梗塞（myocardial infarction）	② 蕁麻疹（urticaria）	③ 誤嚥性肺炎（aspiration pneumonia）	④ 食中毒（foodborne disease）	⑤ 窒息（choking）	⑤	Gさんの身に何が起きたかを考える問題です。食べ物が喉に詰まって息ができなくなることを「窒息」と言います。喉をつかむ動きは、窒息のときによく見られるサインです。
29	【事例7】肥満の男性の入浴時の感覚	Hさんの身長と体重を答えてください。	① 身長160cm、体重60kg。	② 身長170cm、体重120kg。	③ 身長175cm、体重80kg。	④ 身長180cm、体重100kg。	⑤ わからない	②	Hさんの体の大きさについての問題です。スライドには、身長が170センチ、体重が120キロと書いてあります。
30	【事例7】肥満の男性の入浴時の感覚	Hさんがお風呂に入ったときの感覚はどのようなものですか。	① お風呂に入ると、お湯の重さで胸が苦しくなる。	② お風呂に入ると、体が重くなって動くのが大変になる。	③ お風呂に入っても、特に何も変わらない。	④ お風呂につかると、からだが軽く感じて楽になる。	⑤ わからない	④	Hさんがお風呂に入ったときの気持ちについての問題です。お風呂に入ると、自分の体が軽く感じて、とても楽になります。
31	【事例7】肥満の男性の入浴時の感覚	Hさんに他の体調の訴えはありますか。	① 最近、足の痛みがひどいと言っている。	② 毎日、強いめまいがすると言っている。	③ 胸が苦しいなど、ほかの訴えはない。	④ 夜にあまり眠れないと言っている。	⑤ わからない	③	Hさんの今の体の調子についての問題です。Hさんはお風呂に入ったときに楽だと感じていて、胸が苦しいなどの悪いところはありません。
32	【事例7】肥満の男性の入浴時の感覚	Hさんが話している内容に関連する入浴の作用として、最も適切なものを1つ選びなさい。	① 静水圧作用	② 温熱作用	③ 清潔作用	④ 浮力作用	⑤ 代謝作用	④	水の中では、体が浮く力（浮力）が働きます。体重が重い人でも、水の中では体が軽く感じます。この力のことを「浮力作用」と言います。
33	【事例8】砂場遊びが好きな広汎性発達障害の幼稚園児の対応	Jさんの障害名は何ですか。	① 注意欠陥多動性障害	② 学習障害	③ 広汎性発達障害（pervasive developmental disorder）	④ 知的障害	⑤ わからない	③	Jさんは、「広汎性発達障害」という障害を持っています。この障害があると、いつもと同じであることを好む特徴があります。
34	【事例8】砂場遊びが好きな広汎性発達障害の幼稚園児の対応	Jさんはいつも砂場で何をして遊んでいますか。	① 砂場で砂だんごを作り、きれいに並べることが好きで、毎日、一人で砂だんごを作り続けています。	② 砂場で砂のお城を作るのが好きで、毎日、先生と一緒に遊んでいます。	③ 砂場で穴を掘ってトンネルを作るのが好きで、毎日、友達と一緒に遊んでいます。	④ 砂場にあるブランコで遊ぶのが好きで、毎日、順番を待って遊んでいます。	⑤ わからない	①	Jさんは砂遊びが大好きです。特に、砂だんごを作って並べるのが好きで、いつも一人で集中して遊んでいます。
35	【事例8】砂場遊びが好きな広汎性発達障害の幼稚園児の対応	園児が帰宅した後、担任は砂場にどのような準備をしましたか。	① 次の日に使うおもちゃを、砂場にきれいに並べておきました。	② 砂場をきれいにするために、新しい砂をたくさん入れておきました。	③ 猫が入らないように、砂場の周りに高い柵を立てておきました。	④ 台風に備えて砂場に青いシートをかけておきました。	⑤ わからない	④	次の日に台風が来る予定だったので、砂が飛ばないように、先生が青いシートをかけて準備をしました。
36	【事例8】砂場遊びが好きな広汎性発達障害の幼稚園児の対応	翌朝、Jさんが砂場に行ったとき、どのような状況でしたか。	① 砂場が水浸しになっていました。	② 青いシートがかかっていました。	③ 砂場におもちゃが散らかっていました。	④ 砂場がきれいになくなっていました。	⑤ わからない	②	朝、Jさんが砂場に行くと、いつもと違って青いシートがかかっていました。砂だんごを作る砂が見えない状態でした。
37	【事例8】砂場遊びが好きな広汎性発達障害の幼稚園児の対応	その時、Jさんはどのような反応を示しましたか。	① 喜びながら、青いシートの上を走り回りました。	② 自分で青いシートを片付けて、だんご作りを始めました。	③ パニックになり、その場で泣き続け、なかなか落ち着くことができませんでした。	④ 担任のところへ行って、シートを外してほしいとはっきり伝えました。	⑤ わからない	③	Jさんは「いつもと同じ状態」が大好きです。砂場がシートで隠れていて、いつもと違ったので、とても驚いてパニックになってしまいました。
38	【事例8】砂場遊びが好きな広汎性発達障害の幼稚園児の対応	担任は、Jさんにどのように対応すればよかったのか、最も適切なものを1つ選びなさい。	① 前日に、「あしたは、台風が来るよ」と伝える。	② 前日に、「あしたは、台風が来るので砂場は使えないよ」と伝える。	③ 前日に、「あしたは、おだんご屋さんは閉店です」と伝える。	④ その場で、「今日は、砂場は使えないよ」と伝える。	⑤ その場で、「今日は、おだんご屋さんは閉店です」と伝える。	②	Jさんは急な変化に弱いです。ですから、前の日に「明日は使えない」とはっきり教えることで、心の準備ができるようにすることが大切です。
39	【事例9】高齢男性の激しい胸痛	Kさんが40歳頃から指摘されていた病気は何ですか。	① 糖尿病と高尿酸血症	② 高血圧と高コレステロール血症	③ 喘息とアトピー性皮膚炎	④ 貧血と低血圧	⑤ わからない	②	Kさんは、40歳のときから血圧が高いことと、血の中に脂が多いことを病院で言われていました。
40	【事例9】高齢男性の激しい胸痛	最近、Kさんはどのようなときに胸の痛みを感じていましたか。	① 重い荷物を持ったとき	② 寝返りを打ったとき	③ 階段を上るとき	④ 食事をした直後	⑤ わからない	③	Kさんは、最近階段を上るときに胸が痛くなっていました。
41	【事例9】高齢男性の激しい胸痛	胸の痛みはどのように変化していましたか。	① しばらく休むと軽快していた。	② 水を飲むと痛みが消えていた。	③ ずっと痛みが続いていた。	④ 薬を塗ると治っていた。	⑤ わからない	①	階段を上って胸が痛くなっても、少しの間休むと、痛みはなくなっていました。

No.	出典事例	問題文	選択肢①	選択肢②	選択肢③	選択肢④	選択肢⑤	正答	正答解説
42	【事例9】高齢男性の激しい胸痛	Kさんに喉の違和感や嚥下痛はありましたか。	① とても強い痛みがあった。	② 少し違和感があった。	③ 食べるときだけ痛かった。	④ ない。	⑤ わからない	④	Kさんは、喉が変な感じがしたり、食べ物を飲み込むときに痛かったりすることはありませんでした。
43	【事例9】高齢男性の激しい胸痛	今朝、どのような症状が現れましたか。	① 朝起きたら急に熱が出ていた。	② 朝食後から冷や汗を伴う激しい胸痛が起こった。	③ 朝食中にむせて苦しくなった。	④ 散歩をしているときに足がつった。	⑤ わからない	②	今朝はいつもと違いました。朝ご飯を食べた後、冷や汗が出て、胸がとても激しく痛くなりました。
44	【事例9】高齢男性の激しい胸痛	症状はその後どのように変化しましたか。	① 30分しても軽快しなかった。	② 10分休んだら治った。	③ 深呼吸をしたら痛みが消えた。	④ 横になったらすぐ楽になった。	⑤ わからない	①	いつもは休むと治っていましたが、今朝は30分休んでも、痛みは消えませんでした。
45	【事例9】高齢男性の激しい胸痛	Ｋさんに考えられる状況として、最も適切なものを1つ選びなさい。	① 喘息	② 肺炎	③ 脳梗塞	④ 心筋梗塞	⑤ 逆流性食道炎	④	安静にしていても強い胸の痛みが30分以上続くときは、心臓の病気である心筋梗塞の可能性が非常に高いです。
46	【事例10】アルツハイマー型認知症の女性の夫への妄想	Lさんはいつアルツハイマー型認知症と診断されましたか。	① 1年前	② 3年前	③ 5年前	④ 半年前	⑤ わからない	②	Lさんがいつから病気になったかを聞いています。スライドには、3年前にアルツハイマー型認知症と診断されたと書いてあります。
47	【事例10】アルツハイマー型認知症の女性の夫への妄想	Lさんが利用しているサービスは何ですか。	① 訪問介護	② 通所介護（デイサービス）	③ 短期入所生活介護（ショートステイ）	④ 訪問入浴介護	⑤ わからない	①	Lさんが今使っているサービスについての問題です。Lさんは、ヘルパーさんに家に来てもらう「訪問介護」を利用しています。
48	【事例10】アルツハイマー型認知症の女性の夫への妄想	Lさんは誰から介護を受けていますか。	① 長男	② 長女	③ 隣に住む親戚	④ 夫	⑤ わからない	④	誰がLさんの生活を助けているかという問題です。Lさんは、夫と一緒に暮らしていて、夫から介護を受けています。
49	【事例10】アルツハイマー型認知症の女性の夫への妄想	夫が訪問介護員に相談した内容を説明してください。	① 夜中に何度も起きて部屋の中を歩き回るので、夫が眠れなくて困っている。	② 食事をしたことをすぐに忘れてしまい、何度も「ご飯はまだか」と怒るので困っている。	③ 用事で外出しようとすると『外で女性に会っている』と言って興奮することが増えて困っている。	④ 最近、夫の顔を見て「あなたは誰ですか」と聞くことが増えて、夫がショックを受けている。	⑤ わからない	③	夫がヘルパーさんに相談した内容についての問題です。夫が外に出ようとすると、Lさんは「別の女の人に会いに行く」と言って怒ります。夫はこれに困っています。
50	【事例10】アルツハイマー型認知症の女性の夫への妄想	Ｌさんの症状に該当するものとして、最も適切なものを1つ選びなさい。	① 誤認	② 観念失行	③ 嫉妬妄想	④ 視覚失認	⑤ 幻視	③	Lさんの症状に名前をつける問題です。事実ではないのに、「相手が浮気をしている」と強く信じて疑わないことを「嫉妬妄想」と言います。
51	【事例11】アルツハイマー型認知症の女性の認知症高齢者グループホーム入居後の様子	Mさんの病名は何ですか。	① 血管性認知症	② レビー小体型認知症	③ アルツハイマー型認知症	④ 前頭側頭型認知症	⑤ わからない	③	Mさんの病気についての問題です。スライドには、Mさんはアルツハイマー型認知症だと書いてあります。
52	【事例11】アルツハイマー型認知症の女性の認知症高齢者グループホーム入居後の様子	Mさんがグループホームに入居したのはいつですか。	① 昨日	② 1週間前	③ 3日前	④ 1ヶ月前	⑤ わからない	③	Mさんがいつホームに来たかを聞いています。スライドの正解は「3日前」です。
53	【事例11】アルツハイマー型認知症の女性の認知症高齢者グループホーム入居後の様子	Mさんに処方されている薬は何ですか。	① 睡眠薬	② 降圧薬	③ 向精神薬	④ 胃薬	⑤ わからない	③	Mさんが病院からもらって飲んでいる薬についての問題です。正解は「向精神薬」です。
54	【事例11】アルツハイマー型認知症の女性の認知症高齢者グループホーム入居後の様子	Mさんは居室でどのように過ごしていましたか。	① 穏やかに過ごしていた。	② 落ち着かず歩き回っていた。	③ 部屋に鍵をかけて閉じこもっていた。	④ 他の利用者と大声で話していた。	⑤ わからない	①	部屋の中での様子についての問題です。Mさんは部屋では静かに（穏やかに）過ごしていました。
55	【事例11】アルツハイマー型認知症の女性の認知症高齢者グループホーム入居後の様子	Ｍさんの介護を検討するときに優先することとして、最も適切なものを1つ選びなさい。	① Mさんの日中の過ごし方	② ほかの利用者が落ち着かなくなったこと	③ Mさんが訴えている内容	④ 対応に困ったこと	⑤ 薬が効かなかったこと	③	Mさんは「家に帰りたい」と強い不安を感じています。ですから、スタッフの都合や他の利用者のことではなく、まずはMさんが言っていること（訴え）をしっかり受け止めることが一番大切です。
56	【事例12】療育手帳を所持する女性の金銭管理への支援	Dさんはどのような生活をしていますか。	① 家族と同居しながら、自宅で家事をして過ごしている。	② 介護施設に入所し、専門スタッフのサポートを受けている。	③ 一人暮らしをしながら地域の作業所に通っている。	④ 入院生活を送っており、リハビリテーションに励んでいる。	⑤ わからない	③	Dさんの今の生活についての問題です。スライドには、一人で暮らしていて、地域の作業所に通っていると書いてあります。
57	【事例12】療育手帳を所持する女性の金銭管理への支援	Dさんにはどのような困難がありましたか。	① 身体の麻痺があり、一人で着替えをすることが難しかった。	② 漢字の読み書きや、新しい言葉を覚えることが苦手だった。	③ お金の計算、特に計画的にお金を使うのが苦手だった。	④ 自分の気持ちを言葉にして他人に伝えることが苦手だった。	⑤ わからない	③	Dさんが困っていたことは何かという問題です。Dさんはお金の計算が難しく、計画的に使うことが苦手でした。
58	【事例12】療育手帳を所持する女性の金銭管理への支援	Dさんはどのような支援を受けましたか。	① 家族がすべての通帳を預かり、毎日決まった額を渡されるようになった。	② 銀行の窓口で、自動的に公共料金が引き落とされる手続きをした。	③ ヘルパーが買い物に同行し、代わりに支払いを行うようになった。	④ 社会福祉協議会の生活支援員と一緒に銀行へ行って、1週間ごとにお金をおろして生活するようになった。	⑤ わからない	④	どのような助け（支援）を受けたかという問題です。社会福祉協議会の人と一緒に銀行へ行き、1週間分のお金をおろして使うようになりました。
59	【事例12】療育手帳を所持する女性の金銭管理への支援	Dさんはどのようなアドバイスを受けましたか。	① 毎日、使ったレシートをすべて封筒に保管するように言われた。	② 小遣い帳に記録をするようにアドバイスを受けた。	③ クレジットカードを使わないようにアドバイスを受けた。	④ 買い物に行くときは、必ず誰かと一緒に行くように言われた。	⑤ わからない	②	どのようなアドバイスをもらったかという問題です。使ったお金を忘れないように「小遣い帳」に書くことを勧められました。
60	【事例12】療育手帳を所持する女性の金銭管理への支援	支援の結果、Dさんはどのように変化しましたか。	① 自分の給料だけで、将来のために大きな貯金ができるようになった。	② お金の計算が得意になり、一人で銀行の複雑な手続きもできるようになった。	③ お金を計画的に使うことができるようになった。	④ 買い物に興味がなくなり、全くお金を使わないようになった。	⑤ わからない	③	助けてもらった後、Dさんがどうなったかという問題です。お金を計画的に（ルールを決めて）使えるようになりました。
61	【事例12】療育手帳を所持する女性の金銭管理への支援	次のうち、Dさんが活用した支援を実施する事業として、最も適切なものを1つ選びなさい。	① 障害者相談支援事業	② 自立生活援助事業	③ 日常生活自立支援事業	④ 成年後見制度利用支援事業	⑤ 日常生活用具給付等事業	③	Dさんが使った支援の名前は何ですかという問題です。お金の管理などを手伝って、自立した生活を支えるのは「日常生活自立支援事業」です。
62	【事例13】胃ろうによる経管栄養中の女性の腹部膨満感	Eさんはどのような施設に入所していますか。	① 介護老人保健施設	② 介護老人福祉施設	③ 救急病院の一般病棟	④ 障害者支援施設	⑤ わからない	②	Eさんがどこで生活しているかという問題です。スライドには、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）に入っていると書いてあります。
63	【事例13】胃ろうによる経管栄養中の女性の腹部膨満感	Eさんにはどのような後遺症がありますか。	① パーキンソン病の後遺症	② 骨折による歩行障害	③ 脳梗塞の後遺症	④ 認知症による記憶障害	⑤ わからない	③	Eさんの病気のあとに残った症状についての問題です。脳梗塞になったあとの「後遺症」があります。

No.	出典事例	問題文	選択肢①	選択肢②	選択肢③	選択肢④	選択肢⑤	正答	正答解説
64	【事例13】胃ろうによる経管栄養中の女性の腹部膨満感	Eさんはどのような方法で栄養を摂取していますか。	① 鼻からチューブを入れる経鼻経管栄養	② 点滴による中心静脈栄養	③ 口から食べる経口摂取	④ 胃ろうによる経管栄養	⑤ わからない	④	Eさんがどうやって栄養をとっているかという問題です。お腹に小さな穴を開けて栄養を入れる「胃ろう」を使っています。
65	【事例13】胃ろうによる経管栄養中の女性の腹部膨満感	ある日の経管栄養中、Eさんの体位はどのようにしていましたか。	① 真っ直ぐに寝ている仰臥位	② 横を向いて寝ている側臥位	③ 上半身を少し起こした半座位	④ 椅子に座った座位	⑤ わからない	③	栄養を入れているときの体の向きについての問題です。上半身を少し起こした「半座位（はんざいい）」の状態でした。
66	【事例13】胃ろうによる経管栄養中の女性の腹部膨満感	栄養剤を半分程度注入したとき、Eさんはどのように訴えましたか。	①「急にお腹が痛くなった」	②「少しお腹が張ってきたような気がする」	③「喉がつまって苦しい」	④「少し吐き気がしてきた」	⑤ わからない	②	栄養を入れている途中で、Eさんが言ったことについての問題です。「お腹が張ってきた（パンパンになった）」と言いました。
67	【事例13】胃ろうによる経管栄養中の女性の腹部膨満感	そのとき、Eさんの意識レベルと顔色はどうでしたか。	① 意識がぼんやりしており、顔が赤かった。	② 急に眠り込んでしまい、顔色が悪かった。	③ 意識ははっきりしているが、冷や汗をかいていた。	④ 意識レベルや顔色に変化はない。	⑤ わからない	④	そのときのEさんの様子についての問題です。意識もしっかりしていて、顔の色もいつもと同じでした。
68	【事例13】胃ろうによる経管栄養中の女性の腹部膨満感	そのとき、Eさんに腹痛や嘔気はありましたか。	① 激しい吐き気があった。	② 腹部全体に強い痛みがあった。	③ 腹痛や嘔気はない。	④ 少しだけ胃に痛みを感じていた。	⑤ わからない	③	Eさんの体の調子についての問題です。お腹が張った感じはありましたが、痛みや吐き気（気持ち悪さ）はありませんでした。
69	【事例13】胃ろうによる経管栄養中の女性の腹部膨満感	次のうち、介護福祉士が看護職員に相談する前に行う対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。	① 嘔吐していないので、そのまま様子をみる。	② 仰臥位（背臥位）にする。	③ 腹部が圧迫されていないかを確認する。	④ 注入速度を速める。	⑤ 栄養剤の注入を終了する。	③	看護師さんに相談する前に、自分でするべきことについての問題です。まず、衣服やベルトなどで自分のお腹が苦しくなっていないかを確認することが一番大切です。
70	【事例14】若年性認知症の母親を持つ高校生の娘の悩み	Aさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。	① 55歳、女性、要介護2	② 40歳、男性、要介護1	③ 48歳、女性、要介護1	④ 60歳、女性、要介護3	⑤ わからない	③	Aさんは48歳の女性です。介護が必要なレベルは1です。まだ若いうちに病気になりました。
71	【事例14】若年性認知症の母親を持つ高校生の娘の悩み	Aさんの病名は何ですか。	① アルツハイマー型認知症	② 若年性認知症	③ 血管性認知症	④ 前頭側頭型認知症	⑤ わからない	②	Aさんの病気についての問題です。65歳より前に認知症になることを「若年性認知症」と言います。
72	【事例14】若年性認知症の母親を持つ高校生の娘の悩み	Aさんはどのようなサービスを利用し始めましたか。	① デイサービスに毎日通い始めた。	② 訪問介護を週に3回利用し始めた。	③ 老人ホームに短期入所し始めた。	④ 小規模多機能型居宅介護で通いを中心に利用を始めた。	⑤ わからない	④	Aさんが使い始めたサービスについての問題です。「小規模多機能型居宅介護」という、通いや泊まりができるサービスを使い始めました。
73	【事例14】若年性認知症の母親を持つ高校生の娘の悩み	Aさんの長女は学校が終わるとどのような行動をとっていましたか。	① 友達と図書館で勉強してから帰宅していた。	② 部活動を諦めて学校が終わるとすぐに帰宅していた。	③ アルバイトをして家計を助けていた。	④ 塾に通い、夜遅くに帰宅していた	⑤ わからない	②	Aさんの娘さんについての問題です。お母さんのことが心配で、部活をやめて、学校が終わったらすぐに家に帰っていました。
74	【事例14】若年性認知症の母親を持つ高校生の娘の悩み	ある日、夫は介護福祉職にどのような相談をしましたか。	①「最近、Aさんが怒りっぽくなり、長女と喧嘩をすることが増えて困っている」と相談した。	②「長女が母親の病気を受け入れられず、家を飛び出してしまった」と相談した。	③「長女が、学校の先生たちにも相談しているが、今の状況をわかってくれる人がいないと涙を流すことがある」と相談した。	④「長女が学校でいじめに遭っているのではないかと心配だ」と相談した。	⑤ わからない	③	Aさんの夫が相談した内容についての問題です。娘さんが「自分の気持ちをわかってくれる人がいない」と泣いていることを心配して、相談しました。
75	【事例14】若年性認知症の母親を持つ高校生の娘の悩み	夫の話を聞いた介護福祉職の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。	① 長女に、掃除や洗濯の方法を教える。	② 家族でもっと頑張るように、夫を励ます。	③ 同じような体験をしている人と交流できる場について情報を提供する。	④ 介護老人福祉施設への入所の申込みを勧める。	⑤ 介護支援専門員（ケアマネジャー）に介護サービスの変更を提案する。	③	家族だけで悩んでいると、とても辛くなります。同じ悩みを持っている人と話せる場所（家族会など）を知ると、気持ちが楽になることがあります。
76	【事例15】入浴動作に困難を感じ始めた脳梗塞後遺症の男性への支援	Bさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。	① 58歳、女性、要介護2	② 70歳、男性、要介護1	③ 61歳、男性、要介護3	④ 65歳、男性、要介護5	⑤ わからない	③	Bさんの基本情報についての問題です。Bさんは61歳の男性で、介護が必要なレベルは3です。
77	【事例15】入浴動作に困難を感じ始めた脳梗塞後遺症の男性への支援	Bさんにはどのような後遺症がありますか。	① 脳梗塞による右片麻痺	② 脳梗塞による左片麻痺	③ 認知症による記憶障害	④ 骨折による歩行困難	⑤ わからない	②	Bさんの病気のあとに残った症状についての問題です。脳梗塞になってから、体の左側が動かしにくい「左片麻痺」があります。
78	【事例15】入浴動作に困難を感じ始めた脳梗塞後遺症の男性への支援	Bさんはどのようなサービスを利用していますか。	① 週に3回、デイサービスを利用している。	② 毎日、訪問入浴サービスを利用している。	③ 月に1回、ショートステイを利用している。	④ 週2回訪問介護を利用している。	⑤ わからない	④	Bさんが今使っているサービスについての問題です。週に2回、ヘルパーさんに家に来てもらう「訪問介護」を使っています。
79	【事例15】入浴動作に困難を感じ始めた脳梗塞後遺症の男性への支援	Bさんと誰が同居していますか。	① 息子夫婦と一緒に暮らしている。	② 妻（58歳）と二人暮らし	③ 一人暮らしをしている。	④ 娘と二人で暮らしている。	⑤ わからない	②	誰と一緒に住んでいるかという問題です。58歳の奥さんと二人で生活しています。
80	【事例15】入浴動作に困難を感じ始めた脳梗塞後遺症の男性への支援	Bさんの入浴の様子はどのように説明されていますか。	① お風呂に入るのが嫌いで、週に1回しか入らない。	② 自宅の風呂は使わず、いつもデイサービスで入浴している。	③ 自宅での入浴が好きで、妻の介助を受けながら、毎日入浴している。	④ ひとりで安全に入浴できており、介助は必要ない。	⑤ わからない	③	お風呂の様子についての問題です。Bさんは家のお風呂が大好きで、奥さんに手伝ってもらいながら、毎日入っています。
81	【事例15】入浴動作に困難を感じ始めた脳梗塞後遺症の男性への支援	Bさんはサービス提供責任者にどのような相談をしましたか。	①「妻が疲れているので、入浴回数を減らしたい」と相談した。	②「浴室が狭くて車いすが入らないので困っている」と相談した。	③「浴槽から立ち上がるのがつらくなってきた。何かいい方法はないですか」と相談があった。	④「お湯の温度調節ができなくて困っている」と相談した。	⑤ わからない	③	Bさんが困っていることについての問題です。お風呂の浴槽から立ち上がることが大変になって、何か良い方法がないか相談しました。
82	【事例15】入浴動作に困難を感じ始めた脳梗塞後遺症の男性への支援	Ｂさんへのサービス提供責任者の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。	① Ｂさんがひとりで入浴できるように、自立生活援助の利用を勧める。	② 浴室を広くするために、居宅介護住宅改修費を利用した改築を勧める。	③ 妻の入浴介助の負担が軽くなるように、行動援護の利用を勧める。	④ 入浴補助用具で本人の力を生かせるように、特定福祉用具販売の利用を勧める。	⑤ Ｂさんが入浴を継続できるように、通所介護の利用を勧める。	④	Bさんは家でお風呂に入りたいと思っています。立ち上がるのを助ける「入浴補助用具」を使えば、今の生活を続けながら、自分の力を使って安全に入浴できます。
83	【事例16】難聴のある高齢女性利用者とのコミュニケーション	Cさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。	① 75歳、男性、要介護1	② 80歳、女性、要介護2	③ 85歳、女性、要介護3	④ 90歳、女性、要介護5	⑤ わからない	③	Cさんの基本情報についての問題です。Cさんは85歳の女性で、介護のレベルは3です。
84	【事例16】難聴のある高齢女性利用者とのコミュニケーション	Cさんはどのような施設に入所していますか。	① 介護老人福祉施設	② グループホーム	③ 養護老人ホーム	④ 介護老人保健施設	⑤ わからない	④	Cさんがどこで生活しているかという問題です。Cさんは「介護老人保健施設」に入っています。
85	【事例16】難聴のある高齢女性利用者とのコミュニケーション	Cさんにはどのような聴覚の問題がありますか。	① 軽度の難聴がある。	② 全く聞こえない重度の難聴がある。	③ 高い音だけが聞こえにくい。	④ 視覚障害はあるが、聴覚に問題はない。	⑤ わからない	①	Cさんの耳の状態についての問題です。Cさんは耳が少し遠くなっています（難聴）が、全く聞こえないわけではありません。

No.	出典事例	問題文	選択肢①	選択肢②	選択肢③	選択肢④	選択肢⑤	正答	正答解説
86	【事例16】難聴のある高齢女性利用者とのコミュニケーション	職員が感染症対策としてとった行動は何ですか。	① 全員がフェイスシールドを着用することになった。	② 日常的にマスクを着用して勤務することになった。	③ 居室の訪問を一切禁止することになった。	④ 大声で話すことを禁止された。	⑤ わからない	②	スタッフが病気の予防（感染症対策）のために何をしたかという問題です。毎日マスクをつけて仕事をすることになりました。
87	【事例16】難聴のある高齢女性利用者とのコミュニケーション	ある日、D介護福祉職がCさんの居室を訪問したとき、Cさんはどのようなことを話しましたか。	①「足が痛くて歩けないの」と困った顔で訴えた。	②「孫が絵を描いて送ってくれたの」と笑いながら絵を見せてくれた。	③「食欲がないから、ご飯はいらない」と静かに話した。	④「部屋が寒くて眠れない」と怒りながら話した。	⑤ わからない	②	Cさんがスタッフに話した内容についての問題です。お孫さんからもらった絵がとても嬉しくて、スタッフに見せてくれました。
88	【事例16】難聴のある高齢女性利用者とのコミュニケーション	D介護福祉職はCさんの言動に対してどのように対応しましたか。	① 本人の言葉を聞き流して、すぐに次の仕事に移った。	② 言葉が聞こえにくいので、筆談（文字を書くこと）のみで対応した。	③ 共感的理解を示すために、意図的に非言語コミュニケーションを用いて対応した。	④ 家族に連絡して、今の様子をすぐ報告した。	⑤ わからない	③	スタッフがどう反応したかという問題です。Cさんの嬉しい気持ちを大切にするために、言葉だけでなく顔の表情や動きを使って返事をしました。
89	【事例16】難聴のある高齢女性利用者とのコミュニケーション	このときのD介護福祉職のCさんへの対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。	①「よかったですね」と紙に書いて渡した。	② 目元を意識した笑顔を作り、大きくうなずいた。	③「お孫さんの絵が届いて、うれしかったですね」と耳元で話した。	④「私もうれしいです」と、ゆっくり話した。	⑤「えがとてもじょうずです」と五十音表を用いて伝えた。	②	マスクをしていると口元が見えません。耳が遠い人には、目元で笑ったり、大きくうなずいたりすることで、「あなたの話を聞いていますよ、嬉しいですね」という気持ちを伝えることができます。
90	【事例17】失語症のある女性利用者への入浴予定の伝え方	Eさんの年齢と性別を答えてください。	① 65歳、男性	② 70歳、女性	③ 75歳、女性	④ 70歳、男性	⑤ わからない	②	Eさんの基本情報についての問題です。Eさんは70歳の女性です。
91	【事例17】失語症のある女性利用者への入浴予定の伝え方	Eさんにはどのような原因で言語障害がありますか。	① 認知症の進行によるもの	② 加齢による聴力の低下	③ 脳梗塞の後遺症	④ 生まれつきの障害	⑤ わからない	③	どうして言葉が不自由になったかという問題です。脳梗塞という病気になったあとに、言葉の障害が残りました。
92	【事例17】失語症のある女性利用者への入浴予定の伝え方	Eさんの発語の特徴はどのようなものですか。	① 全く声が出せず、身振りだけで伝える。	② 非常に早口で、次々と話し続ける。	③ 同じ言葉を何度も無意識に繰り返す。	④ 発語はできるが、話したいことをうまく言葉に言い表せない。	⑤ わからない	④	言葉を出すときの特徴についての問題です。声は出せますが、自分の言いたいことを言葉にするのが難しい状態です。
93	【事例17】失語症のある女性利用者への入浴予定の伝え方	Eさんの聴覚機能に問題はありますか。	① 強い難聴があり、補聴器を使っている。	② 高い音だけが聞こえにくい。	③ 聴覚機能に問題はない。	④ 右の耳だけ聞こえにくい。	⑤ わからない	③	耳が聞こえるかどうかの問題です。Eさんの耳（聴覚）に悪いところはありません。よく聞こえています。
94	【事例17】失語症のある女性利用者への入浴予定の伝え方	Eさんは日常会話でどの程度言葉を理解できますか。	① 単語も長い文章も、すべて完璧に理解できる。	② 単語はわからないが、長い文章なら理解できる。	③ 日常会話で使用する単語はだいたい理解できるが、単語がつながる文章になるとうまく理解できない。	④ 文字で書かれた文章なら理解できる。	⑤ わからない	③	言葉をどのくらいわかっているかという問題です。短い言葉（単語）ならわかりますが、長い文章になるとわからなくなってしまいます。
95	【事例17】失語症のある女性利用者への入浴予定の伝え方	ある日、介護福祉職はEさんに何と伝えましたか。	①「お風呂に入りますか」	②「お風呂は、今日とあしたのどちらがいいですか」	③「お風呂はもう終わりましたよ」	④「お風呂は、今日ではなくあしたですよ」	⑤ わからない	④	介護職の人が何と言ったかという問題です。「お風呂は今日じゃなくて明日です」と文章で伝えました。
96	【事例17】失語症のある女性利用者への入浴予定の伝え方	介護福祉職の言葉を聞いたEさんはどのような反応を示しましたか。	① すぐに「わかりました」と笑顔で答えた。	② 怒り出して、自分の部屋へ戻ってしまった。	③ Eさんはしばらく黙って考え、理解できない様子だった。	④ 嬉しそうに頷いて、お風呂の準備を始めた。	⑤ わからない	③	言われたあとのEさんの様子についての問題です。文章が長くて難しかったので、意味がわからず黙ってしまいました。
97	【事例17】失語症のある女性利用者への入浴予定の伝え方	このとき、Eさんへの介護福祉職の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。	①「何がわからないのか教えてください」と質問する。	②「お風呂、あした」と短い言葉で伝える。	③「今日、お風呂に入りたいのですね」と確かめる。	④「あしたがお風呂の日で、今日は違いますよ」と言い換える。	⑤「お・ふ・ろ・は・あ・し・た」と1音ずつ言葉を区切って伝える。	②	文章を理解するのが難しい人には、大切な言葉（単語）だけを短く言うのが一番良いです。そうすると、相手はすぐに理解できます。
98	【事例18】夜盲のある女性利用者との夕方の出会い	Gさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。	① 75歳、女性、要介護2	② 70歳、男性、要介護1	③ 70歳、女性、要介護1	④ 65歳、女性、要支援2	⑤ わからない	③	Gさんの基本情報についての問題です。Gさんは70歳の女性で、介護のレベルは1です。
99	【事例18】夜盲のある女性利用者との夕方の出会い	Gさんはどのような施設に入居していますか。	① 介護老人福祉施設	② グループホーム	③ 有料老人ホーム	④ 養護老人ホーム	⑤ わからない	③	Gさんがどこで生活しているかという問題です。Gさんは「有料老人ホーム」に入っています。
100	【事例18】夜盲のある女性利用者との夕方の出会い	Gさんにはどのような視覚障害がありますか。	① 緑内障による視野欠損	② 網膜色素変性症による夜盲	③ 白内障による視力低下	④ 糖尿病網膜症による視力障害	⑤ わからない	②	Gさんの目の病気についての問題です。「網膜色素変性症（もうまくしきそへんせいしょう）」という病気で、暗いところで見えにくくなる「夜盲（やもう）」の症状があります。
101	【事例18】夜盲のある女性利用者との夕方の出会い	ある日の夕方、Gさんはどこを歩いていましたか。	① 自分の部屋の入り口	② 明るい食堂の近く	③ うす暗い廊下	④ 庭の散歩道	⑤ わからない	③	Gさんが歩いていた場所についての問題です。夕方の「うす暗い廊下」を歩いていました。
102	【事例18】夜盲のある女性利用者との夕方の出会い	Gさんを発見したH介護福祉職はどのように声をかけましたか。	①「誰ですか？危ないですよ」	②「Hです。大丈夫ですか」	③「部屋に帰りましょう」	④「電気が消えていますね」	⑤ わからない	②	スタッフのHさんが、どのように声をかけたかという問題です。自分の名前を言ってから、「大丈夫ですか」と優しく声をかけました。
103	【事例18】夜盲のある女性利用者との夕方の出会い	H介護福祉職の声かけに対して、Gさんはどのように返事をしましたか。	①「道に迷ってしまって、困っていました」と笑顔で答えた。	②「一人で大丈夫ですから、放っておいてください」と怒った。	③「電気が暗くて、足元が怖いです」と不安そうに答えた。	④「びっくりした。見えにくくて、わからなかった…」と暗い表情で返事をした。	⑤ わからない	④	Gさんの反応についての問題です。急に声をかけられて驚いたことと、目が見えにくくて困っていることを、暗い顔で話しました。
104	【事例18】夜盲のある女性利用者との夕方の出会い	このときのGさんに対するH介護福祉職の受容的な対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。	①「驚かせてしまいましたね。一緒に歩きましょうか」	②「明るいところを歩きましょう。電気をつけたほうがいいですよ」	③「見えにくくなってきたのですね。一緒に点字の練習を始めましょう」	④「白杖があるかを確認しておきます。白杖を使うようにしましょう」	⑤「暗い顔をしないでください。頑張りましょう」	①	Gさんは暗いところで目が見えなくて、とても驚きました。ですから、まずは「驚かせてしまいましたね」とGさんの気持ちを優しく受け止める（受容する）ことが大切です。そのあとで、一緒に歩くことを提案するのが一番良い助け方です。
105	【事例19】夜盲のある女性利用者との夕方の出会い	Jさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。	① 86歳、男性、要支援1	② 84歳、女性、要介護1	③ 84才、女性、要介護3	④ 80歳、女性、要介護5	⑤ わからない	③	Jさんは84歳の女性です。介護が必要なレベルは3です。
106	【事例19】夜盲のある女性利用者との夕方の出会い	Jさんにはどのような疾患がありますか。	① 認知症	② 脳梗塞の後遺症	③ 骨粗鬆症	④ 網膜色素変性症	⑤ わからない	①	Jさんの病気についての問題です。Jさんは「認知症」があります。
107	【事例19】夜盲のある女性利用者との夕方の出会い	Jさんと誰が同居していますか。	① 一人暮らしをしていた。	② 夫（86歳、要支援1）と二人暮らし	③ 息子夫婦と一緒に暮らしていた。	④ 介護老人福祉施設に入所していた。	⑤ わからない	②	誰と一緒に住んでいたかという問題です。86歳の旦那さんと二人で住んでいました。旦那さんも「要支援1」で、助けが必要です。
108	【事例19】夜盲のある女性利用者との夕方の出会い	Jさんに尿意はありますか。	① 尿意は全くない。	② 尿意はあるが、自分では伝えることができない。	③ 夜間だけ尿意がある。	④ 尿意はある。	⑤ わからない	④	Jさんは、おしっこに行きたいという感じ（尿意）が自分でわかります。

No.	出典事例	問題文	選択肢①	選択肢②	選択肢③	選択肢④	選択肢⑤	正答	正答解説
109	【事例19】夜盲のある女性利用者との夕方の出会い	Jさんが終日おむつを使用しているのはなぜですか。	① 夫の介護負担を軽減するため	② Jさん本人が強く希望したため	③ 医師からおむつを使うように指示があったため	④ トイレが壊れて使えなかったため	⑤ わからない	①	どうしておむつをずっと使っていたかという問題です。旦那さんが介護をするのは大変なので、少しでも楽になるようにおむつを使っていました。
110	【事例19】夜盲のある女性利用者との夕方の出会い	Jさんはどのような症状を繰り返していましたか。	① 肺炎	② 床ずれ（褥瘡）	③ 尿路感染症	④ 便秘	⑤ わからない	③	Jさんは「尿路感染症（おしっこの通り道の病気）」に何度もなっていました。
111	【事例19】夜盲のある女性利用者との夕方の出会い	Jさんが介護老人福祉施設に入所したのはなぜですか	① Jさんの認知症の症状が急に悪くなったから。	② 夫が体調不良になったから。	③ 自宅の家賃が払えなくなったから。	④ 近くに住む子供たちに勧められたから。	⑤ わからない	②	どうして施設に入ることになったかという問題です。一緒に住んでいた旦那さんの体の調子が悪くなったためです。
112	【事例19】夜盲のある女性利用者との夕方の出会い	Ｊさんの尿路感染症を予防する介護として、最も適切なものを1つ選びなさい。	① 尿の性状を観察する。	② 体温の変化を観察する。	③ 陰部洗浄の回数を検討する。	④ おむつを使わないで、トイレに誘導する。	⑤ 膀胱留置カテーテルの使用を提案する。	④	Jさんは尿意があるので、トイレでおしっこができます。おむつをずっとつけていると病気になりやすいので、できるだけトイレに行くのが一番の予防になります。
113	【事例20】テレビショッピングの健康食品購入に困る高齢女性への対応	Kさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。	① 80歳、女性、要介護1	② 77歳、男性、要支援2	③ 77歳、女性、要支援2	④ 70歳、女性、要支援1	⑤ わからない	③	Kさんの基本情報についての問題です。Kさんは77歳の女性で、介護が必要な手前の「要支援2」という状態です。
114	【事例20】テレビショッピングの健康食品購入に困る高齢女性への対応	Kさんにはどのような症状が見られ始めていますか。	① 足腰の痛みが強くなり、歩くのが難しくなっている。	② 目が見えにくくなり、夜歩くのが怖くなっている。	③ 食べ物を飲み込む力が弱くなり、よくむせている。	④ もの忘れが目立ちはじめている。	⑤ わからない	④	Kさんの最近の様子についての問題です。少しずつ、いろいろなことを忘れてしまう「もの忘れ」が増えてきました。
115	【事例20】テレビショッピングの健康食品購入に困る高齢女性への対応	Kさんはどのようなサービスを利用していますか。	① 訪問介護	② デイサービス（通所介護）	③ ショートステイ（短期入所）	④ 福祉用具レンタル	⑤ わからない	①	Kさんが使っているサービスについての問題です。ヘルパーさんに家に来てもらう「訪問介護」を使っています。
116	【事例20】テレビショッピングの健康食品購入に困る高齢女性への対応	Kさんと誰が同居していますか。	① 一人暮らしをしている。	② 夫と二人で生活している。	③ 息子夫婦と一緒に暮らしている。	④ 娘と二人で暮らしている。	⑤ わからない	②	誰と一緒に住んでいるかという問題です。旦那さんと二人で生活しています。
117	【事例20】テレビショッピングの健康食品購入に困る高齢女性への対応	Kさん夫婦から訪問介護員にどのような相談がありましたか。	①「最近、近所の人と喧嘩が増えて困っている」と相談した。	②「足の力が弱くなって、階段が上れなくなった」と相談した。	③「Kさんがテレビショッピングで購入した健康食品が毎月届いてしまい、高額の支払いが発生して困っている」	④「夜中に何度も起きてしまい、寝不足で辛い」と相談した。	⑤ わからない	③	Kさん夫婦が困っていることについての問題です。テレビを見て健康食品をたくさん買ってしまい、お金の支払いが大変になって困っています。
118	【事例20】テレビショッピングの健康食品購入に困る高齢女性への対応	Ｋさん夫婦に対する訪問介護員の発言として、最も適切なものを1つ選びなさい。	① 健康食品は処分しましょう	② クーリング・オフをしましょう	③ 買い物は夫がするようにしましょう	④ 契約内容を一緒に確認しましょう	⑤ テレビショッピングでの買い物はやめましょう	④	何かトラブルがあったときは、まず「何が起きているか」を正しく知ることが大切です。ですから、まずは契約の紙などを一緒に見て、内容を確かめることから始めます。
119	【事例21】睡眠中のいびきと日中の眠気がある男性施設利用者への対応	Lさんの年齢、性別、要介護度を答えてください。	① 70歳、男性、要介護1	② 85歳、女性、要介護3	③ 79歳、男性、要介護2	④ 79歳、男性、要支援2	⑤ わからない	③	Lさんは79歳の男性です。介護が必要なレベル（要介護度）は2です。
120	【事例21】睡眠中のいびきと日中の眠気がある男性施設利用者への対応	Lさんが介護老人保健施設に入所してどのくらいの期間が経過していますか。	① 1週間	② 1か月	③ 3か月	④ 1年	⑤ わからない	②	Lさんが施設に入ってから、ちょうど1か月が経ちました。
121	【事例21】睡眠中のいびきと日中の眠気がある男性施設利用者への対応	Lさんの睡眠中の様子はどのようなものですか。	① 静かに眠っているが、時々はっきりとした寝言を言う。	② 大きないびきをかいていることが多い。いびきの音が途切れることもある。	③ 夜中に何度も起き上がって、部屋の中を歩き回る。	④ 深い眠りに入っており、朝まで全く動くことがない。	⑤ わからない	②	Lさんは寝ているときに、とても大きないびきをかきます。時々、いびきが止まる（息が止まっているような状態）こともあります。
122	【事例21】睡眠中のいびきと日中の眠気がある男性施設利用者への対応	Lさんには夜間にどのようなことが見られていますか。	① 夜間に大声を出すことがしばしば見られている。	② 夜間に激しい咳き込みが見られている。	③ 夜間にひどい寝汗をかいているのが見られている。	④ 夜間に目を覚ましていることもしばしば見られている。	⑤ わからない	④	Lさんは夜、ぐっすり眠り続けることができず、途中で目が覚めてしまうことがよくあります。
123	【事例21】睡眠中のいびきと日中の眠気がある男性施設利用者への対応	Lさんには起床時にどのようなことが見られていますか。	① 起床時に非常にスッキリした顔をしている。	② 起床時にだるそうにしている様子もしばしば見られている。	③ 起床時に強い空腹感を訴える。	④ 起床時にめまいを訴えて立ち上がれない。	⑤ わからない	②	朝起きたとき、あまりよく眠れていないので、体が重くて「だるい」と感じている様子が見られます。
124	【事例21】睡眠中のいびきと日中の眠気がある男性施設利用者への対応	介護福祉職がLさんについて収集すべき情報として、最も優先度の高いものを1つ選びなさい。	① 枕の高さ	② マットレスの硬さ	③ 掛け布団の重さ	④ 睡眠中の足の動き	⑤ 睡眠中の呼吸状態	⑤	Lさんは、いびきが途切れたり、朝だるかったりします。これは寝ている間にうまく呼吸ができていない可能性があるため、まずは「呼吸の状態」をしっかり調べることが一番大切です。
125	【事例22】認知症の高齢女性の大正琴を通じた支援（Part 1）	Aさんの施設入所前の生活状況について説明してください。	① 80歳の女性。家族と同居し、家事全般をこなしていた。	② Aさんは75歳の女性で、一人暮らしをしていました。身体機能には問題はなく、70歳までは地域の子どもたちに大正琴を教えるなど、充実した生活を送っていた。	③ 75歳の女性。一人暮らしで、毎日ボランティアで掃除をしていた。	④ 70歳の女性。夫と二人暮らしで、趣味は特になかった。	⑤ わからない	②	Aさんの背景についての問題です。75歳の女性で、70歳まで子どもたちに大正琴を教えていたという経験が、今の彼女を理解するための大切なポイントです。
126	【事例22】認知症の高齢女性の大正琴を通じた支援（Part 1）	Aさんが施設入所することになった経緯を説明してください。	① 足腰が弱くなって転倒し、入院が必要になったため。	② 家賃が払えなくなり、アパートを退去することになったため。	③ Aさんに認知症の進行が疑われるようになり、それを心配した友人が地域包括 支援センターに相談しました。	④ 家族からこれ以上の介護は無理だと言われたため。	⑤ わからない	③	どうして施設に入ったかという問題です。認知症が進んだことを友達が心配して、相談したことがきっかけでした。

No.	出典事例	問題文	選択肢①	選択肢②	選択肢③	選択肢④	選択肢⑤	正答	正答解説
127	【事例22】認知症の高齢女性の大正琴を通じた支援（Part１）	入所後の短期目標とその達成状況について説明してください。	①「歩行能力の向上」が目標だったが、あまり進んでいなかった。	②「他の利用者と友達になる」ことが目標で、少しずつ話せるようになっていた。	③「施設に慣れ、安心して生活する」という3か月間の短期目標が設定され、その計画は順調に進んでいました。	④「一人で食事ができる」ことが目標で、すでに達成されていた。	⑤わからない	③	最初の目標についての問題です。大好きな大正琴のクラブに参加することで、新しい生活に少しずつ慣れていきました。
128	【事例22】認知症の高齢女性の大正琴を通じた支援（Part１）	クラブ活動終了後のAさんの様子はどのようでしたか。	①満足した様子で部屋に戻り、「また来週もやりたい」と話した。	②疲れた様子でソファーに座り、「もう教えるのは嫌だ」と怒鳴った。	③部屋の場所を忘れてしまい、泣きながらスタッフを呼んだ。	④Aさんは部屋に戻らず、エレベーターの前で立ち止まっていました。介護職員が声をかけると「あの子たちが待っているの」と強い口調で話しました。	⑤わからない	④	クラブのあとの出来事です。「あの子たちが待っている」という言葉から、昔の思い出と今の状況が混ざっている（見当識障害）ことがわかります。
129	【事例22】認知症の高齢女性の大正琴を通じた支援（Part１）	大正琴クラブが終わった後のＡさんの行動を解釈するために必要な情報として、最も優先すべきものを選びなさい。	①介護職員の声かけのタイミング	②Ａさんが演奏した時間	③「あの子たちが待っているの」という発言	④クラブに参加した利用者の人数	⑤居室とエレベーターの位置関係	③	Aさんのこの発言は、Aさんの言動を理解し、適切な支援をするための大切な手がかりです。 発言は地域の子どもたちに大正琴を教えていた過去の生活と関係していると考えられます。 認知症が進むと、見当識障害が現れ、今の状況と過去の記憶が混ざることがあります。
130	【事例22】認知症の高齢女性の大正琴を通じた支援（Part２）	これまでの支援計画はどのように進んでいましたか。	①他の利用者と話す機会を増やす計画が、少しずつ達成されていた。	②入所後に設定された「施設に慣れ、安心して生活する（3か月）」という短期目標は順調に進んでいました。	③毎日散歩をする計画だったが、本人が嫌がって進んでいなかった。	④自分で服を着替える計画が、ほぼ完了していた。	⑤わからない	②	施設に入ってからの3か月間、Aさんは順調に新しい環境に慣れてきていました。
131	【事例22】認知症の高齢女性の大正琴を通じた支援（Part２）	大正琴クラブでのAさんの様子から、どのような特徴が見られましたか。	①楽器を触るのを嫌がり、端の方で座って見ているだけだった。	②他の人の演奏を邪魔してしまい、スタッフに注意されていた。	③Aさんは大正琴クラブに自ら進んで参加するだけでなく、他の利用者に対して大正琴を教える場面も見られ、そうした活動の中で笑顔を見せていた。	④演奏の仕方を忘れてしまい、落ち込んでいる様子だった。	⑤わからない	③	クラブでの様子についての問題です。ただ参加するだけでなく、「教える」という役割を見つけて笑顔になっていました。
132	【事例22】認知症の高齢女性の大正琴を通じた支援（Part２）	支援を見直す必要が生じた理由として、最も適切なものを1つ選びなさい。	①Aさんの膝の痛みが急に悪化し、歩行が困難になったため。	②クラブ終了後にAさんが「あの子たちが待っているの」と発言したエピソードから、過去の経験と現在の状況が混在している様子が見られため。	③他の利用者との人間関係でトラブルが発生したため。	④大正琴の楽器が壊れてしまい、活動ができなくなったため。	⑤わからない	②	Aさんの発言から、彼女の認知機能の状態（記憶の混ざり）をより深く理解して、助け方を見直す必要が出てきました。
133	【事例22】認知症の高齢女性の大正琴を通じた支援（Part２）	Aさんの状況から支援を見直すことになりました。新たな支援の方向性として、最も適切なものを選びなさい。	①介護職員との関係を改善する。	②身体機能を改善する。	③演奏できる自信を取り戻す。	④エレベーターの前に座れる環境を整える。	⑤大正琴を教える役割をもつ。	⑤	新しい支援についての問題です。Aさんの「教える経験」という強みを活かして、施設の中で役割を持ってもらうことが、生きがいにつながります。
134	【事例23】就労継続支援B型事業所を利用する左片麻痺の男性（Part１）	Bさんの障害に関する次の記述のうち、最も適切なものを1つ選びなさい。	①右片麻痺で高次脳機能障害がある。	②左片麻痺で高次脳機能障害がある。	③右片麻痺で失語症がある。	④左片麻痺で失語症がある。	⑤右片麻痺で構音障害がある。	②	Bさんは体の左側が動かしにくい左片麻痺があり、さらに脳の働きに障害がある高次脳機能障害を持っています。
135	【事例23】就労継続支援B型事業所を利用する左片麻痺の男性（Part１）	Bさんが就労継続支援B型事業所で行っていた作業はどのようなものですか。	①パソコンを使ったデータ入力作業	②野菜を育てる農作業	③製品を箱に入れる単純作業	④食事を作る調理補助作業	⑤わからない	③	事業所での仕事についての問題です。Bさんは**製品を箱に入れるという、わかりやすくて簡単な仕事（単純作業）**を任されていました。
136	【事例23】就労継続支援B型事業所を利用する左片麻痺の男性（Part１）	Bさんは生活支援員に将来の希望をどのように話していましたか。	①早く仕事を辞めて、家でゆっくり休みたい。	②病院に戻って、もっとリハビリを続けたい。	③将来は手先を使う仕事に就きたい。	④事務職として会社で働きたい。	⑤わからない	③	Bさんの将来の夢についての問題です。**「将来は自分の手を使って何かを作るような仕事がしたい」**という希望を持っています。
137	【事例23】就労継続支援B型事業所を利用する左片麻痺の男性（Part１）	Ｂさんに対するカンファレンスが開催され、短期目標を達成するための具体的な支援について見直すことになった。次の記述のうち、見直した支援内容として、最も適切なものを1つ選びなさい。	①完成品の不備を出すことへの反省を促す。	②左側に部品を置いて作業するように促す。	③完成までの手順を理解しやすいように示す。	④生活支援員が横に座り続けて作業内容を指示する。	⑤製品を箱に入れる単純作業も同時に行うように調整する。	③	高次脳機能障害があると、作業の順番を覚えたり理解したりするのが難しくなります。ですから、絵や図で手順をわかりやすく見せることで、Bさんの自立を助けるのが一番良い方法です。
138	【事例23】就労継続支援B型事業所を利用する左片麻痺の男性（Part２）	「しかし、途中で何度も手が止まった。」「完成品に不備が見られた。」という記述から 読み取れるBさんの作業状況について、適切なものを選びなさい。	①最初から最後まで一度も休まずに、完璧に作業を終えた。	②作業が簡単すぎて、すぐに終わってしまった。	③製品の組み立て作業を始めたが、途中で何度も手が止まり、完成品に不備が見られた。	④他の利用者と協力して、楽しそうに作業を行った。	⑤わからない	③	Bさんの作業の様子についての問題です。作業を始めても、手が止まってしまったり、間違い（不備）があったりしたことが読み取れます。
139	【事例23】就労継続支援B型事業所を利用する左片麻痺の男性（Part２）	Bさんが「こんなの、できない」と言った理由として考えられることは何ですか。	①作業台が低すぎて、腰が痛くなってしまったから。	②お腹が空いて、作業に集中できなくなったから。	③他の利用者が自分の作業を邪魔したことに怒ったから。	④製品の組み立て作業が思うようにできず、うまくいかなかったことへのいらだちや自信喪失の可能性があるから。	⑤わからない	④	Bさんの気持ちについての問題です。やりたい作業がうまくできないときのイライラ（いらだち）や、自信をなくした悲しい気持ちが「できない」という言葉になっています。

No.	出典事例	問題文	選択肢①	選択肢②	選択肢③	選択肢④	選択肢⑤	正答	正答解説
140	【事例23】就労継続支援B型事業所を利用する左片麻痺の男性（Part 2）	生活支援員の声かけに対し、Ｂさんが大声を出した理由を解釈する視点として、最も適切なものを1つ選びなさい。	① ほかの利用者との人間関係	② 生活支援員に話した将来の希望	③ 製品を箱に入れる毎日の作業量	④ 製品の組立て作業の状況	⑤ 左片麻痺に合わせた作業台	④	どうして大きな声を出したのかを考える問題です。その理由は、人間関係や将来のことではなく、今やっている「組み立て作業」がうまく進まないことにあります。
141	【事例24】前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part 1）	CさんとCさんの妻の生活状況について述べた次の文として、適切なものを1つ選びなさい。	① Cさんは一人暮らしをしている。	② Cさんは施設に入所している。	③ Cさんは妻と二人暮らしをしている。	④ Cさんは子供と同居している。	⑤ Cさんは病院に入院している。	③	Cさんの生活環境についての問題です。Cさんは現在、奥さんと二人だけで生活しています。
142	【事例24】前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part 1）	事例に示されたCさんの職業は何ですか。	① 会社員	② 専業農家	③ 公務員	④ 商店の店主	⑤ わからない	②	Cさんの以前の仕事についての問題です。Cさんはずっと**農業を専門（専業）**にして働いてきました。
143	【事例24】前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part 1）	妻が八百屋から連絡を受けた内容は何ですか。	① 商品の配達を忘れているという連絡。	② 奥さんが財布を忘れているという連絡。	③ Cさんが代金を支払わずに商品を持っていったこと（2回目）と、支払いに来てほしいという連絡。	④ Cさんが道に迷って店で休んでいるという連絡。	⑤ わからない	③	八百屋からの電話の内容です。Cさんがお金を払わずに野菜などを持っていってしまったことへの困りごとの相談でした。
144	【事例24】前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part 1）	妻がCさんに確認したところ、Cさんはどのような反応でしたか。	①「ごめんなさい」とすぐに謝った。	②「お金は後で払うつもりだった」と言い訳した。	③ 悪いことをしたという認識がありませんでした。	④ 自分が八百屋に行ったこと自体を忘れていた。	⑤ わからない	③	注意されたときのCさんの様子です。自分がいけないことをしたという自覚（認識）が全くありませんでした。
145	【事例24】前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part 1）	Ｃさんが八百屋でとった行動から考えられる状態として、最も適切なものを1つ選びなさい。	① 脱抑制	② 記憶障害	③ 感情失禁	④ 見当識障害	⑤ 遂行機能障害	①	病気の症状についての問題です。善悪の判断が難しくなり、自分の**行動をコントロールできなくなることを「脱抑制（だつよくせい）」**と言います。
146	【事例24】前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part 2）	Cさんの診断名は何ですか。	① アルツハイマー型認知症	② 前頭側頭型認知症（frontotemporal dementia）	③ レビー小体型認知症	④ 若年性認知症	⑤ わからない	②	Cさんの病気についての問題です。脳の前と横の部分が変化する「前頭側頭型認知症」という診断を受けています。
147	【事例24】前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part 2）	妻はCさんの行動をどのように管理しましたか。	① 自由に外出させ、近所の人に見守りをお願いした。	② 部屋に鍵をかけて、一人で出られないようにした。	③ Ｃさんの行動を常に見守り、外出を制限しました。	④ GPSを付けて、どこにいるか常に確認していた。	⑤ わからない	③	奥さんがどのように対応していたかという問題です。ずっと目を離さずに見守り、外に出るのを我慢させていました。
148	【事例24】前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part 2）	妻が地域包括支援センターに相談した理由は何ですか。	① Cさんの病気が急に悪くなって、入院が必要になったから。	② 経済的に困って、生活保護の相談をしたかったから。	③ Cさんの行動管理による疲労がたまり、今後の生活に不安を感じたからです。	④ ケアマネジャーを変えたいと思ったから。	⑤ わからない	③	どうして相談に行ったかという問題です。ずっと見守り続けることで、奥さんの疲れが限界になり、将来が心配になったためです。
149	【事例24】前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part 2）	妻が地域包括支援センターに相談した結果、どのようなサービスを利用することになりましたか。	① デイサービス（通所介護）を週3回利用することになった。	② 要介護認定の申請を行い、訪問介護（ホームヘルプサービス）を利用することになりました。	③ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）への入所が決まった。	④ 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）に入居した。	⑤ わからない	②	相談したあとの変化についての問題です。介護保険の申請をして、ヘルパーさんに来てもらう「訪問介護」を使い始めました。
150	【事例24】前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part 2）	Ｃさんの介護保険制度の利用に関する次の記述のうち、適切なものを1つ選びなさい。	① 介護保険サービスの利用者負担割合は1割である。	② 介護保険料は特別徴収によってのみ納付する。	③ 要介護認定の結果が出る前に介護保険サービスを利用することはできない。	④ 介護保険サービスの利用者負担割合は一律2割である。	⑤ 介護保険サービスの費用はサービスの利用回数に関わらず定額である。	①	介護保険のルールについての問題です。サービスを使ったときに自分で払うお金（利用者負担）は、原則として1割です。
151	【事例24】前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part 3）	Cさんが不穏になったのはなぜですか。	① 八百屋で野菜を買えなかったから。	② お腹が空いてイライラしたから。	③ 妻に外出を制限されたから。	④ 自分の部屋の場所がわからなくなったから。	⑤ わからない	③	Cさんの様子についての問題です。奥さんがCさんの行動を心配して外に出るのを止めた（外出を制限した）ため、Cさんの気持ちが落ち着かなくなって（不穏になって）しまいました。
152	【事例24】前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part 3）	訪問介護員（ホームヘルパー）のアドバイスの内容を説明してください。	① 警察に相談して、見守りをお願いすること。	② Cさんにお金の使い方を教え直すこと。	③ 家の鍵を閉めて、Cさんを一人で外出させないこと。	④ 八百屋に事情を話して事前にお金を渡し、Cさんが品物を持ち去ったときは、渡したお金から商品代金を支払うようにお願いすること。	⑤ わからない	④	スタッフのアドバイス内容についての問題です。Cさんの行動を無理に止めるのではなく、八百屋という「周りの環境」を工夫することで、トラブルを防ぐ方法を提案しました。
153	【事例24】前頭側頭型認知症の男性への訪問介護支援（Part 3）	訪問介護員（ホームヘルパー）が意図したＣさんへの関わりをＩＣＦ（国際生活機能分類）に当てはめた記述として、最も適切なものを1つ選びなさい。	① 個人因子への影響を意図して、健康状態に働きかける。	② 健康状態への影響を意図して、心身機能に働きかける。	③ 活動への影響を意図して、身体構造に働きかける。	④ 参加への影響を意図して、環境因子に働きかける。	⑤ 環境因子への影響を意図して、個人因子に働きかける	④	ICFの考え方についての問題です。八百屋さんに事情を話して環境を整えることは、「環境因子」への働きかけです。そうすることで、Cさんが地域での生活（買い物など）を続けられるよう（社会参加）支えています。
154	【事例25】車の事故により脊髄損傷となった男性（Part 1）	Dさんの生活状況について述べた次の文として、適切なものを1つ選びなさい。	① Dさんは家族と同居している。	② Dさんは一人暮らしをしている。	③ Dさんは妻と二人暮らしをしている。	④ Dさんは施設に入所している。	⑤ Dさんは病院に入院している	③	Dさんの生活環境についての問題です。Dさんは奥さんと二人で生活しています。
155	【事例25】車の事故により脊髄損傷となった男性（Part 1）	事故に遭う前のDさんの生活を支えていた収入は何ですか。	① 働いて得た給料	② 預金の切り崩し	③ 年金収入	④ 子供からの仕送り	⑤ わからない	③	事故が起きる前、どのようにお金を得ていたかという問題です。国から定期的にもらえる「年金収入」で生活していました。
156	【事例25】車の事故により脊髄損傷となった男性（Part 1）	事故後、Dさんはどのように治療を受けましたか。	① 自宅で安静にしていた。	② 近くのクリニックへ自分で歩いて行った。	③ Cさん救急搬送され、入院治療を受けました。	④ 1週間だけ通院して治療した。	⑤ わからない	③	事故が起きたあとの対応についての問題です。救急車で運ばれて、病院に入院して治療を受けました。（※ソースの表記通り「Cさん」となっています）
157	【事例25】車の事故により脊髄損傷となった男性（Part 1）	入院中にDさんが受けた認定は何ですか。またその際の認定結果はどうでしたか。	① 身体障害者手帳の認定を受け、1級と判定されました。	② 介護保険の要支援認定を受け、要支援2と判定されました。	③ 精神障害者保健福祉手帳の認定を受け、2級と判定されました。	④ Dさんは入院中に介護保険の要介護認定を受け、要介護3と判定されました。	⑤ わからない	④	入院中に行った手続きについての問題です。介護のサービスを受けるための審査を受け、「要介護3」という結果になりました。
158	【事例25】車の事故により脊髄損傷となった男性（Part 2）	DさんとDさんの妻の退院後の希望について述べた次の文として、適切なものを1つ選びなさい。	① Dさんは自宅での生活を望んだが、妻は施設入所を望んだ。	② Dさんは施設入所を望んだが、妻は自宅での生活を望んだ。	③ Dさんも妻も自宅での生活を望んだ。	④ Dさんも妻も施設入所を望んだ。	⑤ Dさんと妻の希望は事例から読み取れない。	③	Dさんも奥さんも、病院を出たあとは自分の家で一緒に生活したいと考えていました。

No.	出典事例	問題文	選択肢①	選択肢②	選択肢③	選択肢④	選択肢⑤	正答	正答解説
159	【事例25】車の事故により脊髄損傷となった男性（Part２）	介護支援専門員が退院後の生活についてDさんに提案した内容は何ですか。	①すぐに自宅に戻り、家族だけで介護することを提案しました。	②ずっと施設に入所し、そこで生活し続けることを提案しました。	③在宅復帰を目的に、一定の期間、リハビリテーション専門職がいる施設で生活することを提案しました。	④病院を転院して、さらに半年間入院することを提案しました。	⑤わからない	③	ケアマネジャーさんは、家に帰る準備のために、少しの間リハビリの施設で過ごすことを提案しました。
160	【事例25】車の事故により脊髄損傷となった男性（Part２）	Dさんと妻が話し合った結果、退院後どのような生活をすることになりましたか。	①住宅改修はせず、そのまま自宅に戻ることになりました。	②一定期間施設に入所し、その間に自宅の住宅改修を行うことになりました。	③夫婦で老人ホームに入居することになりました。	④妻の実家に引っ越して生活することになりました。	⑤わからない	②	話し合いの結果、施設にいる間に家をリフォームして、車椅子などで過ごしやすくすることになりました。
161	【事例25】車の事故により脊髄損傷となった男性（Part２）	次のうち、Ｄさんが提案を受けた施設として、最も適切なものを1つ選びなさい。	①養護老人ホーム	②軽費老人ホーム	③介護老人福祉施設	④介護老人保健施設	⑤介護医療院	④	在宅復帰（家に帰ること）を目標にリハビリを行う施設は、介護老人保健施設（老健）です。
162	【事例25】車の事故により脊髄損傷となった男性（Part２）	次の記述のうち、介護支援専門員（ケアマネジャー）がDさんに説明する居宅介護住宅改修費の支給限度基準額として、適切なものを1つ選びなさい。	①10 万円	②15 万円	③20 万円	④25 万円	⑤30 万円	③	手すりをつけたり段差をなくしたりする住宅改修の費用は、20万円が基準の金額（限度額）です。
163	【事例25】車の事故により脊髄損傷となった男性（Part３）	Dさんはいつ頃自宅に戻ることになりましたか。	①施設に入所してすぐに戻った。	②施設入所から3か月後に、住宅改修を終えた自宅に戻ることになりました。	③施設入所から1か月後に戻った。	④施設入所から1年後に戻った。	⑤わからない	②	住宅改修（リフォーム）が終わった3か月後に、ようやく自分の家に帰ることができました。
164	【事例25】車の事故により脊髄損傷となった男性（Part３）	自宅に戻ることになったDさんの気持ちはどのようなものでしたか。	①全く不安はなく、楽しみな気持ちだけだった。	②家に帰りたくないという、強い不満を感じていた。	③自分の家よりも施設で暮らしたいと思っていた。	④自宅での生活を楽しみにしている一方で、不安も抱えていました。	⑤わからない	④	自分の家に帰れるのが嬉しいという楽しみな気持ちと、家でうまく生活できるかという心配な気持ちの両方を持っていました。
165	【事例25】車の事故により脊髄損傷となった男性（Part３）	担当の介護福祉士はどのような対応をしましたか。	①理学療法士と作業療法士に相談し、Dさんの生活上の留意点を記載した冊子を作成して手渡しました。	②家族に全て任せて、自分は何もしなかった。	③Dさんに一人で頑張るように励ました。	④再び入院するように勧めた。	⑤わからない	①	リハビリの専門家（PT・OT）に相談して、生活のアドバイスを書いた本（冊子）を作って渡しました。
166	【事例25】車の事故により脊髄損傷となった男性（Part３）	次の記述のうち、冊子の内容として、最も適切なものを1つ選びなさい。	①食事では、スプーンを自助具で手に固定する。	②移動には、リクライニング式車いすを使用する。	③寝具は、エアーマットを使用する。	④更衣は、ボタンエイドを使用する。	⑤外出するときには、事前に多機能トイレの場所を確認する。	⑤	第4胸髄節までの脊髄損傷では、排泄の管理が課題になります。多機能トイレをあらかじめ確認しておくことは、安心して外出するために大切です。
167	【事例26】アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援（Part１）	Eさんの障害の特徴について、事例からわかることは何ですか。	①脳梗塞の後遺症による右片麻痺がある。	②アテトーゼ型の脳性麻痺で、不随意運動があり、特に首を振る動作が見られます。	③アルツハイマー型認知症で、記憶障害がある。	④脊髄損傷により、両下肢の麻痺がある。	⑤わからない	②	Eさんの体の特徴についての問題です。自分の意思とは関係なく体が動いてしまう「不随意運動」があり、特に首を振る動きが目立ちます。
168	【事例26】アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援（Part１）	Eさんは食事の際、どのように対応していますか。	①介護職員に全て介助してもらって食べている。	②自分でスプーンを持って、休み休み食べている。	③首の動きに合わせて自助具を使って食べています。	④チューブを使って栄養を摂っている。	⑤わからない	③	食事の工夫についての問題です。首が不自然に動いてしまうため、それに合わせた特別な道具（自助具）を使って食事をしています。
169	【事例26】アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援（Part１）	食事中のEさんの状態はどのようですか。	①不随意運動が強くなり、食事後に「首が痛い、しびれる」と言ってベッドに横になることがあります。	②食事中に眠ってしまうことがよくある。	③食欲が旺盛で、いつも完食している。	④むせることが多く、食事に時間がかかる。	⑤わからない	①	食事のあとの様子についての問題です。食事をするときに首をたくさん動かすため、終わったあとに痛みやしびれが出て、休まなければならないことがあります。
170	【事例26】アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援（Part１）	Ｅさんの食事の様子から、今後、引き起こされる可能性が高いと考えられる二次障害として、最も適切なものを1つ選びなさい。	①変形性股関節症（coxarthrosis）	②廃用症候群（disuse syndrome）	③起立性低血圧（orthostatic hypotension）	④脊柱側弯症（scoliosis）	⑤頚椎症性脊髄症（cervical spondylotic myelopathy）	⑤	体への負担についての問題です。不随意運動で首に強い負担がかかり続けると、首の骨の中にある神経を傷つける「頚椎症性脊髄症」になる可能性が高くなります。
171	【事例26】アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援（Part２）	Eさんはお茶を飲むとき、どのような工夫をしていますか。	①ストローを常に使う	②誰かに持ってもらう	③取っ手つきのコップを使用しています。	④吸い飲みを使う	⑤わからない	③	Eさんは、自分でコップを持ちやすいように、取っ手がついているものを選んで使っています。
172	【事例26】アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援（Part２）	最近、どのような困難が生じていますか。	①お茶を飲むのを忘れてしまう。	②コップを口元に運ぶまでにお茶がこぼれるようになってきています。	③コップを落として割ってしまう。	④お茶の味がわからなくなっている。	⑤わからない	②	体が勝手に動いてしまう症状（不随意運動）のために、コップを口まで持っていく途中で、お茶がこぼれてしまうことが悩みです。
173	【事例26】アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援（Part２）	Eさんの生活に対する考え方はどのようなものですか。	①自分のことは自分でやりたいと考えています。	②全てスタッフに任せたい。	③施設を出て一人暮らしをしたい。	④毎日リハビリを頑張りたい。	⑤わからない	①	Eさんは障害があっても、できるだけ誰かに頼らずに、自分の力で生活したいという強い気持ち（自立心）を持っています。
174	【事例26】アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援（Part２）	Ｅさんがお茶を飲むときの介護福祉職の対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。	①吸い飲みに変更する。	②ストローつきコップに変更する。	③重いコップに変更する。	④コップを両手で持つように伝える。	⑤全介助を行う。	②	全部手伝ってしまうのではなく、ストローつきのコップを使うことで、本人が自分の力で安全にお茶を飲めるように支えることが大切です。
175	【事例26】アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援（Part３）	Eさんはどのような趣味活動を楽しんでいますか。	①毎日近くの公園を散歩することを楽しんでいます。	②生活介護事業所で油絵を描くことを楽しんでいます。	③地域のボランティア活動に参加することを楽しんでいます。	④施設の中で読書をすることを楽しんでいます。	⑤わからない	②	Eさんの趣味についての問題です。生活介護事業所という場所で、油絵を描く時間をとても大切にしています。
176	【事例26】アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援（Part３）	Eさんは今後どのようなことをしたいと考えていますか。	①自分の描いた絵をインターネットで販売したいと考えています。	②施設を出て、都会で一人暮らしをしたいと考えています。	③料理の勉強をして、家族に振る舞いたいと考えています。	④隣町の油絵教室に通い、技術を高めたいと考えています。	⑤わからない	④	これからの希望についての問題です。もっと上手に絵が描けるようになるために、隣町の教室に通いたいという意欲を持っています。

No.	出典事例	問題文	選択肢①	選択肢②	選択肢③	選択肢④	選択肢⑤	正答	正答解説
177	【事例26】アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援（Part３）	Eさんは介護福祉職に何を相談しましたか。	①自宅から油絵教室に通うときの介助をお願いする方法について相談しました。	②貯金をするための具体的な方法について相談しました。	③部屋の掃除を毎日してほしいと相談しました。	④新しい車椅子の購入費用について相談しました。	⑤わからない	①	相談内容についての問題です。自分の力だけで教室に行くのは大変なので、どうやって助けてもらえばいいか（介助の方法）を相談しました。
178	【事例26】アテトーゼ型脳性麻痺のある女性の生活介護と外出支援（Part３）	介護福祉職は、Ｅさんが隣町の油絵教室に通うことができるようにサービスを提案したいと考えている。次のうち、Ｅさんが利用するサービスとして、最も適切なものを1つ選びなさ	①自立生活援助	②療養介護	③移動支援	④自立訓練	⑤同行援護	③	利用するサービスについての問題です。「移動支援」は、障害のある人が趣味や余暇を楽しむために外出するのを助けてくれるサービスで、Ｅさんの希望にぴったりです。
179	【事例27】自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援（Part１）	Fさんにはどのような障害がありますか。	①自閉症スペクトラム障害と重度の知的障害があります。	②肢体不自由と視覚障害があります。	③アルツハイマー型認知症があります。	④聴覚障害と構音障害があります。	⑤わからない	①	Fさんの障害についての問題です。自閉症の傾向（スペクトラム）と、重い知的障害をあわせて持っています。
180	【事例27】自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援（Part１）	Fさんは誰と暮らしていますか。	①一人で暮らしています。	②父親と母親と3人で暮らしています。	③母親（50歳）と姉（25歳）と3人で暮らしています。	④おじいさんとおばあさんと暮らしています。	⑤わからない	③	家族についての問題です。50歳のお母さんと、25歳のお姉さんと一緒に3人で生活しています。
181	【事例27】自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援（Part１）	事業所と自宅でのFさんの様子はどのように違いますか。	①どちらの場所でも、いつも元気に挨拶をして落ち着いて過ごしています。	②事業所では比較的落ち着いていますが、自宅では母親に対してかみつきや頭突きをすることがある。また、自分で頭をたたくなどの自傷行為も見られる。	③自宅では落ち着いていますが、事業所に行くと大きな声を出して暴れることがあります。	④事業所でも自宅でも、一日中誰とも話さずに座り続けています。	⑤わからない	②	場所による様子の違いについての問題です。事業所では静かですが、家ではお母さんを叩いたり、自分を傷つけたり（自傷行為）することがあります。
182	【事例27】自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援（Part１）	次のうち、Ｆさんが自宅に帰ってきたときの状態に該当するものとして、最も適切な ものを1つ選びなさい。	①学習障害	②注意欠陥多動性障害	③高次脳機能障害	④強度行動障害	⑤気分障害	④	状態の名前についての問題です。自分や他人を傷つけるような激しい行動によって、日常生活がとても大変になる状態を強度行動障害と呼びます。
183	【事例27】自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援（Part２）	これまでFさんの介護は誰が中心になって行ってきましたか。	①父親が中心となり、週末だけ姉が手伝っていました。	②母親がずっと専業主婦として、一人で全ての介護を行ってきました。	③母親が仕事をしているため、小さい頃から姉が食事や排泄の介護を行ってきました。	④専門のヘルパーが毎日自宅に来て、全ての介護を代行していました。	⑤わからない	③	Fさんのお姉さんは、お母さんが仕事で忙しかったため、子供の頃からずっとFさんの生活を支えてきました。
184	【事例27】自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援（Part２）	なぜFさんの行動を止めることが難しくなったのですか。	①Fさんの身体が大きくなり力も強くなったため、母親と姉が協力しても制止することが困難になってきたからです。	②母親と姉が病気になり、介護をする体力が完全になくなってしまったからです。	③Fさんが家の中の物を壊すようになり、修理費用が払えなくなったからです。	④近所の人から苦情が来るようになり、家にいられなくなったからです。	⑤わからない	①	Fさんが大人になり、成長して力が強くなったことで、家族の力だけでは激しい行動を安全に止めることが難しくなってしまいました。
185	【事例27】自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援（Part２）	家族はどのような決断をしましたか。	①お姉さんの家にFさんを引き取ってもらうことにしました。	②母親が仕事を辞めて、24時間体制で自宅介護を続けることにしました。	③病院に長期入院させて、治療を続けることにしました。	④家族で今後のことを話し合った結果、Fさんを障害者支援施設に入所させることを決めました。	⑤わからない	④	家族みんなの安全とFさんのこれからの生活を守るために、専門の施設に入るという大きな決断をしました。
186	【事例27】自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援（Part２）	介護福祉職の姉への対応として、最も適切なものを1つ選びなさい。	①「これからもＦさんのお世話をしっかり行ってください」	②「Ｆさんは落ち着いていて、自傷他害行為があるようには見えませんね」	③「お姉さんは、小さい頃からお母さんの代わりをしてきたのですね」	④「訪問回数を減らしてはどうですか」	⑤「施設入所を後悔しているのですね。もう一度在宅ケアを考えましょう」	③	お姉さんは長年、自分の遊びたい時間を我慢して介護をしてきました。まずはその献身的な努力を認め、心に寄り添い共感することが最も大切です。
187	【事例27】自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援（Part３）	施設入所から現在までどのくらいの期間が経過していますか。	①半年	②1年	③2年	④5年	⑤わからない	②	施設に入ってからちょうど1年が経ちました。今はこれまでの支援を振り返り、新しく見直す大切な時期です。
188	【事例27】自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援（Part３）	介護福祉職は誰と共に支援内容を検討していますか。	①Ｆさん本人と母親	②施設の職員だけ	③母親と姉だけ	④Fさん本人、母親、姉と共に検討しています。	⑤わからない	④	支援の内容を決めるときは、本人だけでなく家族（お母さんやお姉さん）の意見も聞きながら、みんなで一緒に考えることが大切です。
189	【事例27】自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援（Part３）	現在の支援の目標は何ですか。	①当面、施設で安定した生活が送れるようにすることです。	②すぐに自宅に戻る準備をすること	③一人で外出できるようになること	④仕事を見つけること	⑤わからない	①	今の目標は、Fさんが施設での生活に慣れて、毎日を安心して穏やかに過ごせるようになることです。
190	【事例27】自閉症スペクトラム障害と知的障害のある男性の施設入所支援（Part３）	次のうち、Ｆさんの支援を修正するときに利用するサービスとして、正しいものを1 つ選びなさい。	①地域定着支援	②計画相談支援	③地域移行支援	④基幹相談支援	⑤基本相談支援	②	サービス等利用計画を作ったり、今の状況に合わせて内容を見直したりする制度を「計画相談支援」と言います。今のFさんの支援を修正するために最適なサービスです。